
2023年度 授業概要【全学教養科目】

科目コード:10028

科目ナンバリング:

主な使用言語:日本語

授業名(英文): 体育実技A ネット型個人スポーツa(Physical Education A individual sports a)

担当者: 佐久間 彩

基本情報

年次:1

単位数:1

授業形式:実技

曜時:火曜5限

履修可能学科・専攻: E Pe Pc C W F N M

関連資格:教職 保育

AL要素: 03. 実験・実技・体験

授業の概要: 様々な運動・スポーツの継続的な実践を通して種目固有のスキルの習得や戦術の理解, 体力の維持・増進を図り, 生涯にわたって運動・スポーツに親しむことのできる人材の育成を目指す。

キーワード: ネット型 個人スポーツ テニス バドミントン 卓球

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標: 1. 各種目のルールを理解し, 技術を向上させることができる。
2. 様々な運動・スポーツに積極的に取り組み, それらの持つ価値を理解できる。

評価方法: コメントペーパー, 期末レポート

評価割合: 40%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標: 「知識・技能」とあわせて評価する

評価方法: 「知識・技能」とあわせて評価する

評価割合: 「知識・技能」とあわせて評価する

▼ 学修に主体的に取り組む態度

実技であることを踏まえ、積極的な授業参加が認められない場合には減点の対象とする。

評価割合: 30%

▼ 実践的ボランティア

直接的な評価対象としない。ただしボランティア活動等の実践により深められた知見等がレポートの記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合: 0%

▼ 公正性

スポーツマンシップやフェアプレーの精神に反する行為があった場合は、減点の対象とする。

評価割合: 30%

▼ その他

特になし

評価割合: 特になし

授業計画:

1. 授業概要の説明
2. コミュニケーションゲーム アイスプレーキングゲーム
3. ミニテニス(1)
4. ミニテニス(2)
5. ミニテニス(3)
6. ミニテニス(4)
7. 卓球(1)
8. 卓球(2)
9. 卓球(3)
10. バドミントン(1)

11. バドミントン(2)
12. バドミントン(3)
13. バドミントン(4)
14. バドミントン(5)
15. バドミントン(6)

使用テキスト: 適宜資料を配布します

予習・復習のポイントと ・授業で扱うスポーツのルールやエクササイズの方法について理解を深めてください。

参考文献・資料等: ・実技に積極的に参加できるように、日頃から体調を整えるようにしてください。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください

授業時間外の連絡手段: 学務部に連絡してください

留意事項: 運動に適した服装、体育館シューズを準備すること

科目コード: 10028 **科目ナンバリング:** **主な使用言語:** 日本語
授業名(英文): 体育実技A エクササイズ(ヨガ・ピラティス) (Physical Education A Exercise YogaPilates)
担当者: 木村 元子

基本情報

年次: 1

単位数: 1

授業形式: 実技

曜時: 水曜2限

履修可能学科・専攻: E Pe Pc C W F N M

関連資格: 教職 保育

AL要素: 03. 実験・実技・体験

授業の概要: 様々な運動・スポーツの継続的な実践を通して種目固有のスキルの習得や戦術の理解、体力の維持・増進を図り、生涯にわたって運動・スポーツに親しむことのできる人材の育成を目指す。

キーワード: コンディショニング, スポーツ, コミュニケーション, ストレッチ, 呼吸法, ヨガ, ピラティス, 骨盤調整, 体幹トレーニング

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標: 自分の心と体の健康状態に関心を持ち、日頃から把握・理解することができるようになる。

心身の健康の維持・促進に有意義な基本的な理論や手法についての知識と技能を身に付けることができる。

評価方法: 各回の授業学修シート

評価割合: 40%

期末課題

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標: 自分の健康状態を向上させるために、自分に合ったコンディショニング手法を選択して構築することができる。

身体のコンディショニング法や軽い身体活動を自分の生活の中に取り入れることができ

るかを考え、実際に取り組むことことができる。

評価方法:「知識・技能」とあわせて評価する

評価割合:「知識・技能」とあわせて評価する

▼学修に主体的に取り組む態度

実技であることを踏まえ、積極的な授業参加が認められない場合には減点の対象とする。

評価割合:30%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象としない。ただしボランティア活動等の実践により深められた知見等がレポートの記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合:0%

▼公正性

スポーツマンシップやフェアプレーの精神に反する行為があった場合は、減点の対象とする。

評価割合:30%

▼その他

特になし

評価割合:特になし

- 授業計画:**
1. 授業概要の説明
 2. 動きを伴うアイスブレイキング(コミュニケーションゲームなど)
 3. 身体のコンドショニング(呼吸筋ほぐし, 呼吸法, ストレッチポール①)
軽スポーツ(ソフトfrisbee)
 4. 身体のコンドショニング(足裏マッサージ, ふくらはぎマッサージ)
軽スポーツ(アルティメットゲーム)
 5. 身体のコンドショニング(柔軟体操, ストレッチ)
軽スポーツ(ソフトバレーボール①)
 6. 身体のコンドショニング(骨盤体操)
 7. 身体のコンドショニング(ピラティス)
 8. 身体のコンドショニング(体幹トレーニング)
 9. 身体のコンドショニング(自重を用いたエクササイズ①)
軽スポーツ(バスケットボール)
 10. 身体のコンドショニング(自重を用いたエクササイズ②)
軽スポーツ(グラウンドホッケー)
 11. 身体のコンドショニング(ヨガ①)
軽スポーツ(バドミントン①)
 12. 身体のコンドショニング(ヨガ②)
軽スポーツ(バドミントン②)
 13. 身体のコンドショニング(ヨガ③)
 14. 身体のコンドショニング(ヨガ④)
 15. 身体のコンドショニング(まとめ)
軽スポーツ(選択種目)

使用テキスト: 適宜資料を配布します

予習・復習のポイントと 予習・復習のポイント(各回30分程度)

参考文献・資料等:

自分自身の健康状態に関心を持って、生活習慣を振り返る機会を持つ。

授業で学修したコンディショニング手法を復習し、自宅で行う。

自分でも、興味と関心のあるコンディショニング手法に関する情報を収集する。

授業で用いる資料等は配布します。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください

授業時間外の連絡手段: 学務部に連絡してください。

留意事項： 運動に適した服装・室内履きを着用して参加すること。
汗ふきタオル、水分を準備すること。
自分や他の人を傷付けないためにも、アクセサリー類ははずして参加すること。

科目コード：10028b 科目ナンバリング： 主な使用言語：日本語

授業名(英文)：体育実技A 水泳a(Physical Education A Swimming a)

担当者：高橋 和将、斉藤 まゆみ、椿本 昇三、川合 真与

基本情報

年次：1 単位数：1 授業形式：実技
曜時：前期(集中講義)、後期(集中講義) 履修可能学科・専攻：Pe
関連資格：教職 AL要素：03 実験・実技・体験
08 協同学習

授業の概要： 水泳の段階的指導法を学習するとともに、自己の泳能力を伸ばし、正しい泳法を身に付けたり、より長く泳ぎ続けるための呼吸法・ターンを身に付けたりすることを目的とした授業です。

キーワード： エレメンタリーストローク、呼吸法

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： ・4泳法(バタフライ・平泳ぎ・背泳ぎ・クロール)を正しい泳法で泳ぐことができる。
・より長く泳ぎ続けるための技術を身に付けている。

評価方法： 実技 **評価割合：** 60%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： ・水泳の段階的指導法を理解し、その内容を文字化できる。
・安全に水泳授業を展開する方法を理解し、実習内において安全判断ができる。

評価方法： 授業ノート **評価割合：** 30%
レポート

▼学修に主体的に取り組む態度

実技であることを踏まえ、積極的な授業参加が認められない場合には減点の対象とする。

評価割合： 10%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象としない。ただしボランティア活動等の実践により深められた知見等がレポートの記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合： 0%

▼公正性

直接的な評価対象としない。ただし、授業中の発言やノートの記述などにおいて、また、実習におけるルール・マナーを逸脱する行為があった場合は、「学修に主体的に取り組む態度」の減点対象とする。

評価割合： 0%

▼その他

特になし

評価割合： 特になし

授業計画： 実習オリエンテーション(7月)

夏季集中(9月;5日間 かみね市民プール・屋外プール)

1. 水泳授業における安全確認・安全確保
2. 水慣れのためのプログラム

3. 技能レベルの確認とグループ編成
4. エレメンタリーストローク(バタフライ)
5. エレメンタリーストローク(背泳ぎ)
6. エレメンタリーストローク(平泳ぎ)
7. エレメンタリーストローク(クロール)
8. グループ別練習
9. ターンを用いた持続泳
10. 10分泳の測定(1)

グループ別練習(10月～1月で計4回)

冬季集中(2月;3日間 かみね市民プール・屋内プール)

11. 水の抵抗と効率的な泳ぎ方
12. 50m泳の測定
13. ストロークコレクションの確認
14. 10分泳の測定(2)
15. まとめ

使用テキスト: 授業で使用する資料は、すべてTeamsで配布します

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: インターネットなどを用いて動画でも泳法を確認すること。
ノートに記載してある「泳法の確認項目」を参考に、グループ別練習で相互に泳法を確認すること。

【参考資料】

学校体育実技指導資料 第4集「水泳指導の手引(三訂版)」文部科学省

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください

授業時間外の連絡手段: オフィスアワーに対応します(高橋)

留意事項: 指定水着,もしくはそれに準じた水着で参加してください。
キャップは指定のものを購入してください。

日本赤十字社や消防署で開催される救急蘇生法講習の受講を推奨します

アレルギーなどのため、実技への参加が難しい場合は、履修登録時に相談してください

科目コード: 10029

科目ナンバリング:

主な使用言語: 日本語

授業名(英文): 健康科学 a(Health Science a)

担当者: 苦瓜 一斉

基本情報

年次: 1

単位数: 2

授業形式: 講義

曜時: 木曜2限

履修可能学科・専攻: E Pe Pc C W F N M

関連資格:

AL要素: 07、11

授業の概要:

近年では、インターネットの普及にも助長され、健康に関連する情報が氾濫している。本講義ではその情報を活用できるようにするために、健康増進の手段のひとつである運動とその効果に関する基礎的な知識を身につける。また、それらの情報がどのような科学的根拠に基づくかを判断するための、情報リテラシーに関する基礎的な知識を身につける。

キーワード: 健康、運動、体力、ダイエット、コミュニケーション

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標: 健康と運動に関連する基礎知識を身につけ、概ね80%の事項を理解し、解答することができる。

評価方法: 学期末
筆記試験

評価割合: 65%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標: 健康情報と科学とのつながりを理解し、情報を取捨選択することができる。また、それを踏まえ考察し、論理的かつ簡潔に自分の意見を表現することができる。

評価方法: 学期末
筆記試験
授業態度

評価割合: 25%

▼ 学修に主体的に取り組む態度

授業中の態度を評価対象とする。特に、上記の「思考力・判断力・表現力」について評価をする。評価方法は、発言の回数、発言の正答率で評価をする。

評価割合: 10%

▼ 実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただし、ボランティア活動等の実践により深められた知見等が学期末試験の記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の対象とすることがある。

評価割合: 0%

▼ 公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし、授業中の発言や筆記試験の記述等において人権侵害や差別的発言など著しく公正性を欠く言動やカンニング等の不正行為があった場合は、減点や厳重注意の対象とする。

評価割合: 0%

▼ その他

特になし

評価割合: 特になし

授業計画:

- 第1回 ガイダンスー健康とは？科学とは？ー
- 第2回 健康と体力
- 第3回 自分の体型を知る
- 第4回 減量・ダイエット
- 第5回 運動とエネルギー
- 第6回 トレーニング
- 第7回 健康になるための運動基準
- 第8回 前半総復習&ディスカッション
- 第9回 生活習慣病
- 第10回 こどもの運動と健康
- 第11回 運動と脳
- 第12回 健康と心
- 第13回 コミュニケーション
- 第14回 健康と情報
- 第15回 後半総復習&ディスカッション

定期試験

使用テキスト: 授業で使用する資料はすべて配布する。

予習・復習のポイントと ・授業前には、その回のテーマについて一通り調べる。

参考文献・資料等: ・授業後、配付資料を復習するとともに、自主学習を通じて知見を深めることが望ましい。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応します。
まずは、学務へ相談してください。

授業時間外の連絡手段: メールにて対応します。
まずは、学務に連絡してください。

留意事項: 特になし

科目コード: 10029 **科目ナンバリング:** **主な使用言語:** 日本語

授業名(英文): 健康科学 b(Health Science b)

担当者: 苦瓜 一斉

基本情報

年次: 1

単位数: 2

授業形式: 講義

曜時: 木曜3限

履修可能学科・専攻: E Pe Pc C W F N M

関連資格:

AL要素: 07、11

授業の概要:

近年では、インターネットの普及にも助長され、健康に関連する情報が氾濫している。本講義ではその情報を活用できるようにするために、健康増進の手段のひとつである運動とその効果に関する基礎的な知識を身につける。また、それらの情報がどのような科学的根拠に基づくかを判断するための、情報リテラシーに関する基礎的な知識を身につける。

キーワード: 健康、運動、体力、ダイエット、コミュニケーション

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標: 健康と運動に関連する基礎知識を身につけ、概ね80%の事項を理解し、解答することができる。

評価方法: 学期末
筆記試験

評価割合: 65%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標: 健康情報と科学とのつながりを理解し、情報を取捨選択することができる。また、それを踏まえ考察し、論理的かつ簡潔に自分の意見を表現することができる。

評価方法: 学期末
筆記試験
授業態度

評価割合: 25%

▼ 学修に主体的に取り組む態度

授業中の態度を評価対象とする。特に、上記の「思考力・判断力・表現力」について評価をする。評価方法は、発言の回数、発言の正答率で評価をする。

評価割合: 10%

▼ 実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただし、ボランティア活動等の実践により深められた知見等が学期末試験の記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の対象とすることがある。

評価割合: 0%

▼ 公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし、授業中の発言や筆記試験の記述等において人権侵害や差別的発言など著しく公正性を欠く言動やカンニング等の不正行為があった場合は、減点や厳重注意の対象とする。

評価割合: 0%

▼その他

特になし

評価割合：特になし

授業計画： 第1回 ガイダンスー健康とは？科学とは？ー
第2回 健康と体力
第3回 自分の体型を知る
第4回 減量・ダイエット
第5回 運動とエネルギー
第6回 トレーニング
第7回 健康になるための運動基準
第8回 前半総復習&ディスカッション
第9回 生活習慣病
第10回 こどもの運動と健康
第11回 運動と脳
第12回 健康と心
第13回 コミュニケーション
第14回 健康と情報
第15回 後半総復習&ディスカッション
定期試験

使用テキスト： 授業で使用する資料はすべて配布する。

予習・復習のポイントと ・授業前には、その回のテーマについて一通り調べる。

参考文献・資料等： ・授業後、配付資料を復習するとともに、自主学習を通じて知見を深めることが望ましい。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応します。
まずは、学務へ相談してください。

授業時間外の連絡手段： メールにて対応します。
まずは、学務に連絡してください。

留意事項： 特になし

科目コード：10030 科目ナンバリング： 主な使用言語：日本語

授業名(英文)：運動と健康 a(Health and Fitness a)

担当者：吉村 悠成

基本情報

年次：1

単位数：2

授業形式：講義

曜時：木曜3限

履修可能学科・専攻：E Pe Pc C W F N M

関連資格：教職 保育

AL要素：16. 振り返り用紙と応答

授業の概要： 「運動」が「身心の健康」に与える影響を多角的な視点から捉え、解説する。
また、運動および健康と関わりの深い「体力」の概念、トレーニング方法および評価方法等を解説し、
運動を通して身心の健康を実現するためのノウハウを学ぶ。

キーワード： 運動、身心の健康、体力

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 授業で扱った運動および健康に関する基礎的な知識について、概ね80%の事項を暗記し、解答することができる。

評価方法：学期末筆記試験

評価割合：60%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標：授業で扱った内容について、自主学修によって得た知見や経験、自身の専門性等をふまえて考察し、論理的かつ簡潔に自らの所見を表現することができる。

評価方法：各授業時ミニレポート

評価割合：40%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし自主的な学修によって自身の知見に追加された成果等が授業時ミニレポートの記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

他の学生の学修に支障をきたすような迷惑な行為がみられた場合には、嚴重注意の対象とする。

評価割合：0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象としない。ただしボランティア活動等の実践により深められた知見等が授業時ミニレポートの記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし授業中の発言や筆記試験の記述等において人権侵害・差別的発言など著しく公平性を欠く言動やカンニング等の不正行為があった場合は、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。

評価割合：0%

▼その他

特になし。

評価割合：特になし。

- 授業計画：**
1. 授業概要の説明
 2. これからの日本のスポーツ
 3. 情報の活用
 4. トレーニングのいろは
 5. 減量・ダイエット
 6. 運動と生活習慣病
 7. 運動とストレス
 8. 運動と身体不活動
 9. 体力学
 10. 体力トレーニング
 11. 体力評価法
 12. 運動とエネルギー供給機構
 13. 運動と栄養
 14. 運動と脳機能
 15. まとめ
- 定期試験

使用テキスト： 授業で使用する資料は、IC-UNIPA上に配信する。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 授業前には、その回のテーマの資料に目を通し、そのテーマの内容に関する不明な点や疑問点を見つけておくことが望ましい(60分)。
授業後は、配付資料について復習するとともに、資料にない関連事項について自主学修を通じ知見を深めることが望ましい(90分)。
参考資料・文献については、必要に応じて授業内で紹介する。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください。

授業時間外の連絡手段： 学務部に連絡してください。

留意事項： PC等の端末の持参を推奨します。

科目コード：10030 **科目ナンバリング：** **主な使用言語：日本語**

授業名(英文)：運動と健康 b(Health and Fitness b)

担当者：吉村 悠成

基本情報

年次：1

単位数：2

授業形式：講義

曜時：木曜4限

履修可能学科・専攻：E Pe Pc C W F N M

関連資格：教職 保育

AL要素：16. 振り返り用紙と応答

授業の概要： 「運動」が「身心の健康」に与える影響を多角的な視点から捉え、解説する。
また、運動および健康と関わりの深い「体力」の概念、トレーニング方法および評価方法等を解説し、
運動を通して身心の健康を実現するためのノウハウを学ぶ。

キーワード： 運動、身心の健康、体力

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 授業で扱った運動および健康に関する基礎的な知識について、概ね80%の事項を暗記し、解答することができる。

評価方法： 学期末筆記試験

評価割合：60%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 授業で扱った内容について、自主学修によって得た知見や経験、自身の専門性等をふまえて考察し、論理的かつ簡潔に自らの所見を表現することができる。

評価方法： 各授業時ミニレポート

評価割合：40%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし自主的な学修によって自身の知見に追加された成果等が授業時ミニレポートの記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

他の学生の学修に支障をきたすような迷惑な行為がみられた場合には、嚴重注意の対象とする。

評価割合：0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象としない。ただしボランティア活動等の実践により深められた知見等が授業時ミニレポートの記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし授業中の発言や筆記試験の記述等において人権侵害・差別的発言など著しく公平性を欠く言動やカンニング等の不正行為があった場合は、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。

評価割合：0%

▼その他

特になし。

評価割合：特になし。

授業計画： 1. 授業概要の説明

2. これからの日本のスポーツ
 3. 情報の活用
 4. トレーニングのいろは
 5. 減量・ダイエット
 6. 運動と生活習慣病
 7. 運動とストレス
 8. 運動と身体不活動
 9. 体力学
 10. 体力トレーニング
 11. 体力評価法
 12. 運動とエネルギー供給機構
 13. 運動と栄養
 14. 運動と脳機能
 15. まとめ
- 定期試験

使用テキスト： 授業で使用する資料は、IC-UNIPA上に配信する。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 授業前には、その回のテーマの資料に目を通し、そのテーマの内容に関する不明な点や疑問点を見つけておくことが望ましい(60分)。
授業後は、配付資料について復習するとともに、資料にない関連事項について自主学修を通じ知見を深めることが望ましい(90分)。
参考資料・文献については、必要に応じて授業内で紹介する。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください。

授業時間外の連絡手段： 学務部に連絡してください。

留意事項： PC等の端末の持参を推奨します。

科目コード：10030

科目ナンバリング：

主な使用言語：日本語

授業名(英文)：運動と健康 c(Health and Fitness c)

担当者：吉村 悠成

基本情報

年次：1

単位数：2

授業形式：講義

曜時：木曜5限

履修可能学科・専攻：E Pe Pc C W F N M

関連資格：教職 保育

AL要素：16. 振り返り用紙と応答

授業の概要：「運動」が「身心の健康」に与える影響を多角的な視点から捉え、解説する。
また、運動および健康と関わりの深い「体力」の概念、トレーニング方法および評価方法等を解説し、
運動を通して身心の健康を実現するためのノウハウを学ぶ。

キーワード：運動、身心の健康、体力

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標： 授業で扱った運動および健康に関する基礎的な知識について、概ね80%の事項を暗記し、解答することができる。

評価方法： 学期末筆記試験

評価割合：60%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標： 授業で扱った内容について、自主学修によって得た知見や経験、自身の専門性等をふまえて考察し、論理的かつ簡潔に自らの所見を表現することができる。

評価方法: 各授業時ミニレポート

評価割合: 40%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし自主的な学修によって自身の知見に追加された成果等が授業時ミニレポートの記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

他の学生の学修に支障をきたすような迷惑な行為がみられた場合には、嚴重注意の対象とする。

評価割合: 0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象としない。ただしボランティア活動等の実践により深められた知見等が授業時ミニレポートの記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合: 0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし授業中の発言や筆記試験の記述等において人権侵害・差別的発言など著しく公平性を欠く言動やカンニング等の不正行為があった場合は、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。

評価割合: 0%

▼その他

特になし。

評価割合: 特になし。

- 授業計画:**
1. 授業概要の説明
 2. これからの日本のスポーツ
 3. 情報の活用
 4. トレーニングのいろは
 5. 減量・ダイエット
 6. 運動と生活習慣病
 7. 運動とストレス
 8. 運動と身体不活動
 9. 体力学
 10. 体カトレーニング
 11. 体力評価法
 12. 運動とエネルギー供給機構
 13. 運動と栄養
 14. 運動と脳機能
 15. まとめ
- 定期試験

使用テキスト: 授業で使用する資料は、IC-UNIPA上に配信する。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 授業前には、その回のテーマの資料に目を通し、そのテーマの内容に関する不明な点や疑問点を見つけておくことが望ましい(60分)。
授業後は、配付資料について復習するとともに、資料にない関連事項について自主学修を通じ知見を深めることが望ましい(90分)。
参考資料・文献については、必要に応じて授業内で紹介する。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください。

授業時間外の連絡手段: 学務部に連絡してください。

留意事項: PC等の端末の持参を推奨します。

科目コード: 10030

科目ナンバリング:

主な使用言語: 日本語

授業名(英文): 運動と健康 d(Health and Fitness d)

担当者: 佐久間 彩

基本情報

年次: 1

単位数: 2

授業形式: 講義

曜時: 火曜5限

履修可能学科・専攻: E Pe Pc C W F N M

関連資格: 教職 保育

AL要素: 振り返り用紙と応答

授業の概要: 健康を維持・増進し、心身の状態を整え、健康な心身を保つための方法のひとつに運動があります。本授業では、健康を適切に維持・増進するために必要な運動に関する正しい知識を学ぶことを目標とします。

キーワード: スポーツ 筋力トレーニング 有酸素性運動 高齢者 子ども

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標: 1. 健康を維持・増進するために必要な運動に関する理論および実践方法について正しい知識を習得することができる。
2. 講義で学んだことを日常生活で生かす方法を考え、実践することができる。

評価方法: 期末テスト

評価割合: 40%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 授業の内容を踏まえて自身の健康や運動に関する行動を分析し、自分の健康状態や体力の水準を理解し、それを改善する手立てを構築できる

評価方法: 毎授業行う小レポート

評価割合: 40%

▼学修に主体的に取り組む態度

小レポートの記述状況で評価する。

評価割合: 20%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象としない。ただしボランティア活動等の実践により深められた知見等がレポートの記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合: 0%

▼公正性

直接的な評価対象としない。

評価割合: 0%

▼その他

特になし。

評価割合: 特になし。

授業計画:

1. 授業概要の説明
2. 健康に関わる運動プログラムの紹介
3. 健康と体重の関係
4. 健康と体力・運動との関係
5. 健康寿命と運動の関係
6. 栄養と運動(1)
7. 栄養と運動(2)・救急処置
8. レジスタンストレーニング(1)
9. レジスタンストレーニング(2)
10. 有酸素運動
11. 運動と疲労
12. 幼児・児童の運動

- 13. 女性の運動
- 14. 高齢者の運動
- 15. まとめ

使用テキスト: 適宜配布します。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 配布した資料について理解を深めてください。
日頃から自分の身体・健康・運動に興味を持つとともに、ニュース等で運動やスポーツに関する情報に触れるよう心がけてください。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください。

授業時間外の連絡手段: メールで連絡 (sakuma_aya@icc.ac.jp; ○を@に変えて送信してください) をするか、学務部に連絡してください。

留意事項: 特になし。

科目コード: 10036 **科目ナンバリング:** **主な使用言語:** 日本語

授業名(英文): 日本国憲法 a (Japanese Constitution a)

担当者: 古屋 等

基本情報

年次: 1 **単位数:** 2 **授業形式:** 講義
曜時: 木曜4限 **履修可能学科・専攻:** E Pe Pc C W F N M
関連資格: 教職 **AL要素:** 16. 振り返り用紙と応答

授業の概要: 国家は何のために存在するのか、憲法は何を目標にするのかを、私たちの権利や自由、すなわち人権を通じて学んでいきます。国家はそもそも、私たちの権利や自由を守るために、私たちの社会契約、すなわち憲法の制定を通じて創造された、と考えられています。しかし、私たち現代に生きる人間にとって、そのような認識は実際には希薄かもしれません。でも、自分たちの権利や自由を守るためには、憲法を守ることが大事であることはお分かりいただけるでしょう。私たちの人権も、他の人々に対して悪影響を及ぼさないように、その行使に一定の制限があることが、憲法自身によって「公共の福祉」という言葉によって宣言されています。その制約の程度は、人権の種類によって異なってきます。では、人権にはどのような種類があり、どの程度、保障されることになるのでしょうか。また、それらが他の人々や、法律などの国家権力によって不当に侵害されることになった場合には、どのように救済されるべきなのでしょうか。以上のようなことを学んでいくことが、この授業の主なテーマです。

キーワード: 憲法、統治権、基本的人権、国民主権、三権分立、法の支配、平和主義、個人の尊重、法の下での平等、公共の福祉、自由権、参政権、社会権、違憲審査

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標: 憲法と基本的人権や国家権力との関わりについて理解することができる。

評価方法: 小テスト、期末テスト **評価割合:** 50%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 基本的人権はその社会的な影響力や平等で民主的な国家の形成のために、法律による一定の制約を受けることについて、「公共の福祉」の原理と関連づけて理解することができる。

評価方法: 小テスト、期末テスト **評価割合:** 40%

▼学修に主体的に取り組む態度

社会において生じる問題について関心を持ち、その原因を追究し、法的な知識に基づいて解決する態度を身に付ける。

評価割合：5%

▼実践的ボランティア

該当なし

評価割合：0%

▼公正性

法をめぐる当事者の権利や利益を公平に尊重し、相互の主張や利害を比較考量した上で、双方が理解できる適切な解決を導くことができる。

評価割合：5%

▼その他

特になし

評価割合：特になし

- 授業計画：
- 1 ガイダンス
 - 2 近代憲法の意義
 - 3 現代憲法の特質
 - 4 国民主権の原理
 - 5 前文と平和主義
 - 6 第9条と戦争放棄
 - 7 基本的人権の観念
 - 8 基本的人権の類型
 - 9 基本的人権の限界
 - 10 精神的自由権 I
 - 11 精神的自由権 II
 - 12 経済的自由権 I
 - 13 経済的自由権 II
 - 14 受益権・社会権
 - 15 違憲審査
 - 16 定期試験

使用テキスト： 上野幸彦・古屋 等『国家と社会の基本法』[第4版] (成文堂) 2500円＋税

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 授業資料のほかに、板書に代わるレジュメを配布します。重要なポイントやキーワードは、レジュメに記入したりマークしてもらいながら説明しますので、配布物をきちんとつづっておいてください。それらをもとに小テストを実施し、小テストやレジュメのマーク部分をもとにして期末試験を実施しますので、間違ったところや理解が十分にできなかったところは、繰り返し復習をしておいてください。

障がいのある履修者への対応： 対応可

授業時間外の連絡手段： 第1回目のガイダンスで説明する電子メールにて連絡

留意事項： 座席の指定はありませんが、板書や配布の便宜のため、できるだけ前方に座ってください。私語は禁止していますので、質問以外の場合は、授業に集中してください。

科目コード：10036

科目ナンバリング：

主な使用言語：日本語

授業名(英文)：日本国憲法 b (Japanese Constitution b)

担当者：古屋 等

基本情報

年次：1

単位数：2

授業形式：講義

曜時：月曜1限

履修可能学科・専攻： E Pe Pc C W F N M

関連資格：教職

AL要素：16. 振り返り用紙と応答

授業の概要： 国家は何のために存在するのか、憲法は何を目標にするのかを、私たちの権利や自由、す

なわち人権を通じて学んでいきます。国家はそもそも、私たちの権利や自由を守るために、私たちの社会契約、すなわち憲法の制定を通じて創造された、と考えられています。しかし、私たち現代に生きる人間にとって、そのような認識は実際には希薄かもしれません。でも、自分たちの権利や自由を守るためには、憲法を守ることが大事であることはお分かりいただけるでしょう。私たちの人権も、他の人々に対して悪影響を及ぼさないように、その行使に一定の制限があることが、憲法自身によって「公共の福祉」という言葉によって宣言されています。その制約の程度は、人権の種類によって異なってきます。では、人権にはどのような種類があり、どの程度、保障されることになるのでしょうか。また、それらが他の人々や、法律などの国家権力によって不当に侵害されることになった場合には、どのように救済されるべきなのでしょう。以上のようなことを学んでいくことが、この授業の主なテーマです。

キーワード： 憲法、統治権、基本的人権、国民主権、三権分立、法の支配、平和主義、個人の尊重、法の下での平等、公共の福祉、自由権、参政権、社会権、違憲審査

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標： 憲法と基本的人権や国家権力との関わりについて理解することができる。

評価方法： 小テスト、期末テスト

評価割合： 50%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標： 基本的人権はその社会的な影響力や平等で民主的な国家の形成のために、法律による一定の制約を受けることについて、「公共の福祉」の原理と関連づけて理解することができる。

評価方法： 小テスト、期末テスト

評価割合： 40%

▼ 学修に主体的に取り組む態度

社会において生じる問題について関心を持ち、その原因を追究し、法的な知識に基づいて解決する態度を身に付ける。

評価割合： 5%

▼ 実践的ボランティア

該当なし

評価割合： 0%

▼ 公正性

法をめぐる当事者の権利や利益を公平に尊重し、相互の主張や利害を比較考量した上で、双方が理解できる適切な解決を導くことができる。

評価割合： 5%

▼ その他

特になし

評価割合： 特になし

授業計画：

- 1 ガイダンス
- 2 近代憲法の意義
- 3 現代憲法の特質
- 4 国民主権の原理
- 5 前文と平和主義
- 6 第9条と戦争放棄
- 7 基本的人権の観念
- 8 基本的人権の種類
- 9 基本的人権の限界
- 10 精神的自由権 I
- 11 精神的自由権 II
- 12 経済的自由権 I
- 13 経済的自由権 II
- 14 受益権・社会権

15 違憲審査

16 定期試験

使用テキスト： 上野幸彦・古屋 等『国家と社会の基本法』[第4版] (成文堂)2500円＋税

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 授業資料のほかに、板書に代わるレジュメを配布します。重要なポイントやキーワードは、レジュメに記入したりマークしてもらいながら説明しますので、配布物をきちんとつづっておいてください。それらをもとに小テストを実施し、小テストやレジュメのマーク部分をもとにして期末試験を実施しますので、間違ったところや理解が十分にできなかったところは、繰り返し復習をしておいてください。

障がいのある履修者への対応： 対応可

授業時間外の連絡手段： 第1回目のガイダンスで説明する電子メールにて連絡

留意事項： 座席の指定はありませんが、板書や配布の便宜のため、できるだけ前方に座ってください。私語は禁止していますので、質問以外の場合は、授業に集中してください。

科目コード：10036 **科目ナンバリング：** **主な使用言語：**日本語

授業名(英文)：日本国憲法 c (Japanese Constitution c)

担当者： 古屋 等

基本情報

年次：1

単位数：2

授業形式：講義

曜時：木曜1限

履修可能学科・専攻： E Pe Pc C W F N M

関連資格：教職

AL要素：16. 振り返り用紙と応答

授業の概要： 国家は何のために存在するのか、憲法は何を目標にするのかを、私たちの権利や自由、すなわち人権を通じて学んでいきます。国家はそもそも、私たちの権利や自由を守るために、私たちの社会契約、すなわち憲法の制定を通じて創造された、と考えられています。しかし、私たち現代に生きる人間にとって、そのような認識は実際には希薄かもしれません。でも、自分たちの権利や自由を守るためには、憲法を守ることが大事であることはお分かりいただけるでしょう。私たちの人権も、他の人々に対して悪影響を及ぼさないように、その行使に一定の制限があることが、憲法自身によって「公共の福祉」という言葉によって宣言されています。その制約の程度は、人権の種類によって異なってきます。では、人権にはどのような種類があり、どの程度、保障されることになるのでしょうか。また、それらが他の人々や、法律などの国家権力によって不当に侵害されることになった場合には、どのように救済されるべきなのでしょうか。以上のようなことを学んでいくことが、この授業の主なテーマです。

キーワード： 憲法、統治権、基本的人権、国民主権、三権分立、法の支配、平和主義、個人の尊重、法の下での平等、公共の福祉、自由権、参政権、社会権、違憲審査

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標： 憲法と基本的人権や国家権力との関わりについて理解することができる。

評価方法： 小テスト、期末テスト

評価割合：50%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標： 基本的人権はその社会的な影響力や平等で民主的な国家の形成のために、法律による一定の制約を受けることについて、「公共の福祉」の原理と関連づけて理解することができる。

評価方法： 小テスト、期末テスト

評価割合：40%

▼ 学修に主体的に取り組む態度

社会において生じる問題について関心を持ち、その原因を追究し、法的な知識に基づいて解決する態度を身に付ける。

評価割合：5%

▼実践的ボランティア

該当なし

評価割合：0%

▼公正性

法をめぐる当事者の権利や利益を公平に尊重し、相互の主張や利害を比較考量した上で、双方が理解できる適切な解決を導くことができる。

評価割合：5%

▼その他

特になし

評価割合：特になし

- 授業計画：
- 1 ガイダンス
 - 2 近代憲法の意義
 - 3 現代憲法の特質
 - 4 国民主権の原理
 - 5 前文と平和主義
 - 6 第9条と戦争放棄
 - 7 基本的人権の観念
 - 8 基本的人権の種類
 - 9 基本的人権の限界
 - 10 精神的自由権 I
 - 11 精神的自由権 II
 - 12 経済的自由権 I
 - 13 経済的自由権 II
 - 14 受益権・社会権
 - 15 違憲審査
 - 16 定期試験

使用テキスト： 上野幸彦・古屋 等『国家と社会の基本法』[第4版] (成文堂) 2500円＋税

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 授業資料のほかに、板書に代わるレジュメを配布します。重要なポイントやキーワードは、レジュメに記入したりマークしてもらいながら説明しますので、配布物をきちんとつづっておいてください。それらをもとに小テストを実施し、小テストやレジュメのマーク部分をもとにして期末試験を実施しますので、間違ったところや理解が十分にできなかったところは、繰り返し復習をしておいてください。

障がいのある履修者への対応： 対応可

授業時間外の連絡手段： 第1回目のガイダンスで説明する電子メールにて連絡

留意事項： 座席の指定はありませんが、板書や配布の便宜のため、できるだけ前方に座ってください。私語は禁止していますので、質問以外の場合は、授業に集中してください。

科目コード：10036

科目ナンバリング：

主な使用言語：日本語

授業名(英文)：日本国憲法 d (Japanese Constitution d)

担当者：古屋 等

基本情報

年次：1

単位数：2

授業形式：講義

曜時：木曜2限

履修可能学科・専攻： E Pe Pc C W F N M

関連資格：教職

AL要素：16. 振り返り用紙と応答

授業の概要： 国家は何のために存在するのか、憲法は何を目標にするのかを、私たちの権利や自由、す

なわち人権を通じて学んでいきます。国家はそもそも、私たちの権利や自由を守るために、私たちの社会契約、すなわち憲法の制定を通じて創造された、と考えられています。しかし、私たち現代に生きる人間にとって、そのような認識は実際には希薄かもしれません。でも、自分たちの権利や自由を守るためには、憲法を守ることが大事であることはお分かりいただけるでしょう。私たちの人権も、他の人々に対して悪影響を及ぼさないように、その行使に一定の制限があることが、憲法自身によって「公共の福祉」という言葉によって宣言されています。その制約の程度は、人権の種類によって異なってきます。では、人権にはどのような種類があり、どの程度、保障されることになるのでしょうか。また、それらが他の人々や、法律などの国家権力によって不当に侵害されることになった場合には、どのように救済されるべきなのでしょう。以上のようなことを学んでいくことが、この授業の主なテーマです。

キーワード： 憲法、統治権、基本的人権、国民主権、三権分立、法の支配、平和主義、個人の尊重、法の下での平等、公共の福祉、自由権、参政権、社会権、違憲審査

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標： 憲法と基本的人権や国家権力との関わりについて理解することができる。

評価方法： 小テスト、期末テスト

評価割合： 50%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標： 基本的人権はその社会的な影響力や平等で民主的な国家の形成のために、法律による一定の制約を受けることについて、「公共の福祉」の原理と関連づけて理解することができる。

評価方法： 小テスト、期末テスト

評価割合： 40%

▼ 学修に主体的に取り組む態度

社会において生じる問題について関心を持ち、その原因を追究し、法的な知識に基づいて解決する態度を身に付ける。

評価割合： 5%

▼ 実践的ボランティア

該当なし

評価割合： 0%

▼ 公正性

法をめぐる当事者の権利や利益を公平に尊重し、相互の主張や利害を比較考量した上で、双方が理解できる適切な解決を導くことができる。

評価割合： 5%

▼ その他

特になし

評価割合： 特になし

授業計画：

- 1 ガイダンス
- 2 近代憲法の意義
- 3 現代憲法の特質
- 4 国民主権の原理
- 5 前文と平和主義
- 6 第9条と戦争放棄
- 7 基本的人権の観念
- 8 基本的人権の類型
- 9 基本的人権の限界
- 10 精神的自由権 I
- 11 精神的自由権 II
- 12 経済的自由権 I
- 13 経済的自由権 II
- 14 受益権・社会権

15 違憲審査

16 定期試験

使用テキスト: 上野幸彦・古屋 等『国家と社会の基本法』[第4版] (成文堂)2500円＋税

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 授業資料のほかに、板書に代わるレジュメを配布します。重要なポイントやキーワードは、レジュメに記入したりマークしてもらいながら説明しますので、配布物をきちんとつづっておいてください。それらをもとに小テストを実施し、小テストやレジュメのマーク部分をもとにして期末試験を実施しますので、間違ったところや理解が十分にできなかったところは、繰り返し復習をしておいてください。

障がいのある履修者への対応: 対応可

授業時間外の連絡手段: 第1回目のガイダンスで説明する電子メールにて連絡

留意事項: 座席の指定はありませんが、板書や配布の便宜のため、できるだけ前方に座ってください。私語は禁止していますので、質問以外の場合は、授業に集中してください。

科目コード: 10036 **科目ナンバリング:** **主な使用言語:** 日本語

授業名(英文): 日本国憲法 e (Japanese Constitution e)

担当者: 古屋 等

基本情報

年次: 1

単位数: 2

授業形式: 講義

曜時: 木曜3限

履修可能学科・専攻: E Pe Pc C W F N M

関連資格: 教職

AL要素: 16. 振り返り用紙と応答

授業の概要: 国家は何のために存在するのか、憲法は何を目標にするのかを、私たちの権利や自由、すなわち人権を通じて学んでいきます。国家はそもそも、私たちの権利や自由を守るために、私たちの社会契約、すなわち憲法の制定を通じて創造された、と考えられています。しかし、私たち現代に生きる人間にとって、そのような認識は実際には希薄かもしれません。でも、自分たちの権利や自由を守るためには、憲法を守ることが大事であることはお分かりいただけるでしょう。私たちの人権も、他の人々に対して悪影響を及ぼさないように、その行使に一定の制限があることが、憲法自身によって「公共の福祉」という言葉によって宣言されています。その制約の程度は、人権の種類によって異なってきます。では、人権にはどのような種類があり、どの程度、保障されることになるのでしょうか。また、それらが他の人々や、法律などの国家権力によって不当に侵害されることになった場合には、どのように救済されるべきなのでしょうか。以上のようなことを学んでいくことが、この授業の主なテーマです。

キーワード: 憲法、統治権、基本的人権、国民主権、三権分立、法の支配、平和主義、個人の尊重、法の下での平等、公共の福祉、自由権、参政権、社会権、違憲審査

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標: 憲法と基本的人権や国家権力との関わりについて理解することができる。

評価方法: 小テスト、期末テスト

評価割合: 50%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標: 基本的人権はその社会的な影響力や平等で民主的な国家の形成のために、法律による一定の制約を受けることについて、「公共の福祉」の原理と関連づけて理解することができる。

評価方法: 小テスト、期末テスト

評価割合: 40%

▼ 学修に主体的に取り組む態度

社会において生じる問題について関心を持ち、その原因を追究し、法的な知識に基づいて解決する態度を身に付ける。

評価割合：5%

▼実践的ボランティア

該当なし

評価割合：0%

▼公正性

法をめぐる当事者の権利や利益を公平に尊重し、相互の主張や利害を比較考量した上で、双方が理解できる適切な解決を導くことができる。

評価割合：5%

▼その他

特になし

評価割合：特になし

- 授業計画：
- 1 ガイダンス
 - 2 近代憲法の意義
 - 3 現代憲法の特質
 - 4 国民主権の原理
 - 5 前文と平和主義
 - 6 第9条と戦争放棄
 - 7 基本的人権の観念
 - 8 基本的人権の種類
 - 9 基本的人権の限界
 - 10 精神的自由権 I
 - 11 精神的自由権 II
 - 12 経済的自由権 I
 - 13 経済的自由権 II
 - 14 受益権・社会権
 - 15 違憲審査
 - 16 定期試験

使用テキスト： 上野幸彦・古屋 等『国家と社会の基本法』〔第4版〕(成文堂)2500円＋税

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 授業資料のほかに、板書に代わるレジュメを配布します。重要なポイントやキーワードは、レジュメに記入したりマークしてもらいながら説明しますので、配布物をきちんとつづっておいてください。それらをもとに小テストを実施し、小テストやレジュメのマーク部分をもとにして期末試験を実施しますので、間違ったところや理解が十分にできなかったところは、繰り返し復習をしておいてください。

障がいのある履修者への対応： 対応可

授業時間外の連絡手段： 第1回目のガイダンスで説明する電子メールにて連絡

留意事項： 座席の指定はありませんが、板書や配布の便宜のため、できるだけ前方に座ってください。私語は禁止していますので、質問以外の場合は、授業に集中してください。

科目コード：10044

科目ナンバリング：LA11B11E

主な使用言語：日本語

授業名(英文)：コンピュータ基礎I a(Basics of Computers I a)

担当者：有澤 正樹

基本情報

年次：1

単位数：2

授業形式：演習

曜時：月曜5限

履修可能学科・専攻：E Pe Pc C W F N M

関連資格：教職 保育

AL要素：03.実験・実技・体験

授業の概要： 現代社会においてコンピュータはもはや必需品といえるまでになった。ビジネスの場ではもち

ろん、学校や一般家庭の中にも広く普及し、コンピュータの操作能力、特に、インターネットの活用、Word による文書作成、Excel による表計算は、情報社会に生きる人々にとっては必要不可欠な基本的能力といえるだろう。

ここでは、「パソコン初心者」を前提に、Windows パソコンの基本的な操作方法(ファイル、フォルダの作成・コピー・移動、日本語入力、タッチタイピング等)や WWW の検索・e-mail の基本から始め、Word による文書作成を中心に、各種レポート作成にインターネットや Word を十分活用できるようになることを目指す。そのためには、単なる Word のスキル習得を目的と考えるのではなく、たとえ印刷を目的とした文書作りであっても、再利用可能なデジタルデータを作成することの意義を理解し、それが全てのコンピューティングに共通する重要な考え方であることを理解することが重要である。また、PowerPoint の基本操作とプレゼンテーション用スライド・資料の作成についても取り扱う。

キーワード： 文書作成、プレゼンテーション、インターネット、情報倫理、Word、PowerPoint、Windows、LAN、PC

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標： LAN 環境にある Windows PC を利用し、基本的な PC 操作、Internet の利用、Word による文書作成、および PowerPoint によるプレゼンテーション資料の作成ができる。

評価方法： 課題

評価割合： 80%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標： 授業で扱える内容には限りがあるところを、扱った内容のみにとどまらず、その周辺知識や技能についても積極的な試行錯誤等(思考力・判断力)により習得し、より表現力のある文書やプレゼンテーション資料の作成ができる。

評価方法： 課題

評価割合： 20%

▼ 学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしないが、その結果が上記「思考力・判断力・表現力」に反映されるものとして扱う。

評価割合： 0%

▼ 実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしないが、PC の学習(広義で生産性を向上させるためにあらゆる場面で積極的に PC を利用できるようになること)では、他者に教え、他者から教わるのが有効である。

評価割合： 0%

▼ 公正性

直接的な評価対象とはしないが、課題作成において不正行為があった場合は、減点や失格の対象となるので注意すること。

評価割合： 0%

▼ その他

特になし

評価割合： 特になし

授業計画： - Windows & Internet -

【第01回】Windows PC の基本操作と文字入力の基礎

【第02回】WWW の検索と E-mail の基本、情報倫理

- Word -

【第03回】文字を入力して文書を作成する

【第04回】見栄えのする文書を作成する

【第05回】入力した文書を修正する

【第06回】表を使った文書を作成する

【第07回】フリーレイアウトの文書を作成する

【第08回】データベースを利用した差し込み印刷をする

【第09回】さらに詳細な文書のレイアウトを整える

- 【第10回】もっと Word を使いこなす
- 【第11回】レポート作成に必要な図表番号や参考文献の管理機能を使う1
- 【第12回】レポート作成に必要な図表番号や参考文献の管理機能を使う2
- PowerPoint -
- 【第13回】プレゼンテーションと PowerPoint の基本
- 【第14回】アニメーションの設定、スライドショーを実行する
- 課題 -
- 【第15回】Word 課題
課題提出

使用テキスト: 田中亘&できるシリーズ編集部『できるWord 2021 Office2021 & Microsoft 365両対応』株式会社インプレス、2022年

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 特別な予習や復習は必要ないが、レポート作成等の文書作成時には、積極的に修得した新しいスキルを使っていくことが求められる。以下は演習終盤で扱う PowerPoint に関する参考文献として例示する。
井上香緒里&できるシリーズ編集部『できるPowerPoint 2021 Office 2021& Microsoft 365 両対応』株式会社インプレス、2022年

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください。

授業時間外の連絡手段: Teams の当該科目チーム内(投稿)、またはメール(maa@icc.ac.jp)、もしくはオフィスパワーに研究室で対応します。曜日・時限等については UNIPA で確認してください。

留意事項: 学内ネットワーク(LAN)環境下にある PC を取り扱い(共有フォルダー、ネットワークプリンター、UNIPA による課題出など)ますので、1年生にとっては重要です。また、表計算ソフト Excel は社会人にとっては必須となりますので、コンピュータ基礎Iだけでなくコンピュータ基礎IIも併せて履修することをお勧めします。

科目コード: 10044 **科目ナンバリング:** LA11B11E **主な使用言語:** 日本語

授業名(英文): コンピュータ基礎I b(Basics of Computers I b)

担当者: 有澤 正樹

基本情報

年次: 1

単位数: 2

授業形式: 演習

曜時: 金曜5限

履修可能学科・専攻: E Pe Pc C W F N M

関連資格: 教職 保育

AL要素: 03.実験・実技・体験

授業の概要: 現代社会においてコンピュータはもはや必需品といえるまでになった。ビジネスの場ではもちろん、学校や一般家庭の中にも広く普及し、コンピュータの操作能力、特に、インターネットの活用、Word による文書作成、Excel による表計算は、情報社会に生きる人々にとっては必要不可欠な基本的能力といえるだろう。

ここでは、「パソコン初心者」を前提に、Windows パソコンの基本的な操作方法(ファイル、フォルダの作成・コピー・移動、日本語入力、タッチタイピング等)や WWW の検索・e-mail の基本から始め、Word による文書作成を中心に、各種レポート作成にインターネットや Word を十分活用できるようになることを目指す。そのためには、単なる Word のスキル習得を目的と考えるのではなく、たとえ印刷を目的とした文書作りであっても、再利用可能なデジタルデータを作成することの意義を理解し、それが全てのコンピューティングに共通する重要な考え方であることを理解することが重要である。また、PowerPoint の基本操作とプレゼンテーション用スライド・資料の作成についても取り扱う。

キーワード: 文書作成、プレゼンテーション、インターネット、情報倫理、Word、PowerPoint、Windows、LAN、PC

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標: LAN 環境にある Windows PC を利用し、基本的な PC 操作、Internet の利用、Word による文書作成、および PowerPoint によるプレゼンテーション資料の作成ができる。

評価方法: 課題

評価割合: 80%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 授業で扱える内容には限りがあるところを、扱った内容のみにとどまらず、その周辺知識や技能についても積極的な試行錯誤等(思考力・判断力)により習得し、より表現力のある文書やプレゼンテーション資料の作成ができる。

評価方法: 課題

評価割合: 20%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしないが、その結果が上記「思考力・判断力・表現力」に反映されるものとして扱う。

評価割合: 0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしないが、PC の学習(広義で生産性を向上させるためにあらゆる場面で積極的に PC を利用できるようになること)では、他者に教え、他者から教わるのが有効である。

評価割合: 0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしないが、課題作成において不正行為があった場合は、減点や失格の対象となるので注意すること。

評価割合: 0%

▼その他

特になし

評価割合: 特になし

授業計画: - Windows & Internet -

【第01回】Windows PC の基本操作と文字入力的基础

【第02回】WWW の検索と E-mail の基本、情報倫理

- Word -

【第03回】文字を入力して文書を作成する

【第04回】見栄えのする文書を作成する

【第05回】入力した文書を修正する

【第06回】表を使った文書を作成する

【第07回】フリーレイアウトの文書を作成する

【第08回】データベースを利用した差し込み印刷をする

【第09回】さらに詳細な文書のレイアウトを整える

【第10回】もっと Word を使いこなす

【第11回】レポート作成に必要な図表番号や参考文献の管理機能を使う1

【第12回】レポート作成に必要な図表番号や参考文献の管理機能を使う2

- PowerPoint -

【第13回】プレゼンテーションと PowerPoint の基本

【第14回】アニメーションの設定、スライドショーを実行する

- 課題 -

【第15回】Word 課題

課題提出

使用テキスト: 田中亘&できるシリーズ編集部『できるWord 2021 Office2021 & Microsoft 365両対応』株式会社インプレス、2022年

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 特別な予習や復習は必要ないが、レポート作成等の文書作成時には、積極的に修得した新しいスキルを使っていくことが求められる。以下は演習終盤で扱う PowerPoint に関する参考文献として例示する。

井上香緒里&できるシリーズ編集部『できるPowerPoint 2021 Office 2021& Microsoft 365 両対応』株式会社インプレス、2022年

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください。

授業時間外の連絡手段: Teams の当該科目チーム内(投稿)、またはメール(maa@icc.ac.jp)、もしくはオフィスアワーに研究室で対応します。曜日・時限等については UNIPA で確認してください。

留意事項: 学内ネットワーク(LAN)環境下にある PC を取り扱い(共有フォルダー、ネットワークプリンター、UNIPA による課題出など)ますので、1年生にとっては重要です。また、表計算ソフト Excel は社会人にとっては必須となりますので、コンピュータ基礎Iだけでなくコンピュータ基礎IIも併せて履修することをお勧めします。

科目コード:10044 **科目ナンバリング:LA11B11E** **主な使用言語:日本語**

授業名(英文): コンピュータ基礎I c(Basics of Computers I c)

担当者: 有澤 正樹

基本情報

年次:1

単位数:2

授業形式:演習

曜時:木曜5限

履修可能学科・専攻: E Pe Pc C W F N M

関連資格:教職 保育

AL要素: 03.実験・実技・体験

授業の概要: 現代社会においてコンピュータはもはや必需品といえるまでになった。ビジネスの場ではもちろん、学校や一般家庭の中にも広く普及し、コンピュータの操作能力、特に、インターネットの活用、Word による文書作成、Excel による表計算は、情報社会に生きる人々にとっては必要不可欠な基本的能力といえるだろう。

ここでは、「パソコン初心者」を前提に、Windows パソコンの基本的な操作方法(ファイル、フォルダの作成・コピー・移動、日本語入力、タッチタイピング等)や WWW の検索・e-mail の基本から始め、Word による文書作成を中心に、各種レポート作成にインターネットや Word を十分活用できるようになることを目指す。そのためには、単なる Word のスキル習得を目的と考えるのではなく、たとえ印刷を目的とした文書作りであっても、再利用可能なデジタルデータを作成することの意義を理解し、それが全てのコンピューティングに共通する重要な考え方であることを理解することが重要である。また、PowerPoint の基本操作とプレゼンテーション用スライド・資料の作成についても取り扱う。

キーワード: 文書作成、プレゼンテーション、インターネット、情報倫理、Word、PowerPoint、Windows、LAN、PC

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標: LAN 環境にある Windows PC を利用し、基本的な PC 操作、Internet の利用、Word による文書作成、および PowerPoint によるプレゼンテーション資料の作成ができる。

評価方法: 課題

評価割合:80%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 授業で扱える内容には限りがあるところを、扱った内容のみにとどまらず、その周辺知識や技能についても積極的な試行錯誤等(思考力・判断力)により習得し、より表現力のある文書やプレゼンテーション資料の作成ができる。

評価方法: 課題

評価割合:20%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしないが、その結果が上記「思考力・判断力・表現力」に反映されるものとして扱う。

評価割合:0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしないが、PC の学習(広義で生産性を向上させるためにあらゆる場面で積極的に

PC を利用できるようになること)では、他者に教え、他者から教わるのが有効である。

評価割合:0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしないが、課題作成において不正行為があった場合は、減点や失格の対象となるので注意すること。

評価割合:0%

▼その他

特になし

評価割合:特になし

授業計画: - Windows & Internet -

【第01回】Windows PC の基本操作と文字入力の基礎

【第02回】WWW の検索と E-mail の基本、情報倫理

- Word -

【第03回】文字を入力して文書を作成する

【第04回】見栄えのする文書を作成する

【第05回】入力した文書を修正する

【第06回】表を使った文書を作成する

【第07回】フリーレイアウトの文書を作成する

【第08回】データベースを利用した差し込み印刷をする

【第09回】さらに詳細な文書のレイアウトを整える

【第10回】もっと Word を使いこなす

【第11回】レポート作成に必要な図表番号や参考文献の管理機能を使う1

【第12回】レポート作成に必要な図表番号や参考文献の管理機能を使う2

- PowerPoint -

【第13回】プレゼンテーションと PowerPoint の基本

【第14回】アニメーションの設定、スライドショーを実行する

- 課題 -

【第15回】Word 課題

課題提出

使用テキスト: 田中亘&できるシリーズ編集部『できるWord 2021 Office2021 & Microsoft 365両対応』株式会社インプレス、2022年

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 特別な予習や復習は必要ないが、レポート作成等の文書作成時には、積極的に修得した新しいスキルを使っていくことが求められる。以下は演習終盤で扱う PowerPoint に関する参考文献として例示する。

井上香緒里&できるシリーズ編集部『できるPowerPoint 2021 Office 2021& Microsoft 365両対応』株式会社インプレス、2022年

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください。

授業時間外の連絡手段: Teams の当該科目チーム内(投稿)、またはメール(maa@icc.ac.jp)、もしくはオフィスアワーに研究室で対応します。曜日・時限等については UNIPA で確認してください。

留意事項: 学内ネットワーク(LAN)環境下にある PC を取り扱い(共有フォルダー、ネットワークプリンター、UNIPA による課題出など)ますので、1年生にとっては重要です。また、表計算ソフト Excel は社会人にとっては必須となりますので、コンピュータ基礎Iだけでなくコンピュータ基礎IIも併せて履修することをお勧めします。

科目コード:10044

科目ナンバリング:LA11B11E

主な使用言語:日本語

授業名(英文):コンピュータ基礎I d(Basics of Computers I d)

担当者:有澤 正樹

基本情報

年次：1

単位数：2

授業形式：演習

曜時：金曜2限

履修可能学科・専攻：E Pe Pc C W F N M

関連資格：教職 保育

AL要素：03.実験・実技・体験

授業の概要： 現代社会においてコンピュータはもはや必需品といえるまでになった。ビジネスの場ではもちろん、学校や一般家庭の中にも広く普及し、コンピュータの操作能力、特に、インターネットの活用、Word による文書作成、Excel による表計算は、情報社会に生きる人々にとっては必要不可欠な基本的能力といえるだろう。

ここでは、「パソコン初心者」を前提に、Windows パソコンの基本的な操作方法(ファイル、フォルダの作成・コピー・移動、日本語入力、タッチタイピング等)や WWW の検索・e-mail の基本から始め、Word による文書作成を中心に、各種レポート作成にインターネットや Word を十分活用できるようになることを目指す。そのためには、単なる Word のスキル習得を目的と考えるのではなく、たとえ印刷を目的とした文書作りであっても、再利用可能なデジタルデータを作成することの意義を理解し、それが全てのコンピューティングに共通する重要な考え方であることを理解することが重要である。また、PowerPoint の基本操作とプレゼンテーション用スライド・資料の作成についても取り扱う。

キーワード： 文書作成、プレゼンテーション、インターネット、情報倫理、Word、PowerPoint、Windows、LAN、PC

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標： LAN 環境にある Windows PC を利用し、基本的な PC 操作、Internet の利用、Word による文書作成、および PowerPoint によるプレゼンテーション資料の作成ができる。

評価方法： 課題

評価割合： 80%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標： 授業で扱える内容には限りがあるところを、扱った内容のみにとどまらず、その周辺知識や技能についても積極的な試行錯誤等(思考力・判断力)により習得し、より表現力のある文書やプレゼンテーション資料の作成ができる。

評価方法： 課題

評価割合： 20%

▼ 学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしないが、その結果が上記「思考力・判断力・表現力」に反映されるものとして扱う。

評価割合： 0%

▼ 実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしないが、PC の学習(広義で生産性を向上させるためにあらゆる場面で積極的に PC を利用できるようになること)では、他者に教え、他者から教わるのが有効である。

評価割合： 0%

▼ 公正性

直接的な評価対象とはしないが、課題作成において不正行為があった場合は、減点や失格の対象となるので注意すること。

評価割合： 0%

▼ その他

特になし

評価割合： 特になし

授業計画： - Windows & Internet -

【第01回】Windows PC の基本操作と文字入力の基礎

【第02回】WWW の検索と E-mail の基本、情報倫理

- Word -

【第03回】文字を入力して文書を作成する

- 【第04回】見栄えのする文書を作成する
- 【第05回】入力した文書を修正する
- 【第06回】表を使った文書を作成する
- 【第07回】フリーレイアウトの文書を作成する
- 【第08回】データベースを利用した差し込み印刷をする
- 【第09回】さらに詳細な文書のレイアウトを整える
- 【第10回】もっと Word を使いこなす
- 【第11回】レポート作成に必要な図表番号や参考文献の管理機能を使う1
- 【第12回】レポート作成に必要な図表番号や参考文献の管理機能を使う2
- PowerPoint -
- 【第13回】プレゼンテーションと PowerPoint の基本
- 【第14回】アニメーションの設定、スライドショーを実行する
- 課題 -
- 【第15回】Word 課題
- 課題提出

使用テキスト: 田中亘&できるシリーズ編集部『できるWord 2021 Office2021 & Microsoft 365両対応』株式会社インプレス、2022年

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 特別な予習や復習は必要ないが、レポート作成等の文書作成時には、積極的に修得した新しいスキルを使っていくことが求められる。以下は演習終盤で扱う PowerPoint に関する参考文献として例示する。
井上香緒里&できるシリーズ編集部『できるPowerPoint 2021 Office 2021& Microsoft 365両対応』株式会社インプレス、2022年

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください。

授業時間外の連絡手段: Teams の当該科目チーム内(投稿)、またはメール(maa@icc.ac.jp)、もしくはオフィスアワーに研究室で対応します。曜日・時限等については UNIPA で確認してください。

留意事項: 学内ネットワーク(LAN)環境下にある PC を取り扱い(共有フォルダー、ネットワークプリンター、UNIPA による課題出など)ますので、1年生にとっては重要です。また、表計算ソフト Excel は社会人にとっては必須となりますので、コンピュータ基礎Iだけでなくコンピュータ基礎IIも併せて履修することをお勧めします。

科目コード: 10044 **科目ナンバリング:** LA11B11E **主な使用言語:** 日本語

授業名(英文): コンピュータ基礎I e(Basics of Computers I e)

担当者: 小貫 哲平

基本情報

年次: 1

単位数: 2

授業形式: 演習

曜時: 木曜1限

履修可能学科・専攻: E Pe Pc C W F N M

関連資格: 教職 保育

AL要素: 02 模擬実践, 03 実技, 04 課題解決, 07 発表

授業の概要: 自分の意見を伝える手段としてパソコンやインターネットを媒体とすることは社会人として必須となっています。その理由は、書類の生産効率に優れていること、および好印象を与える表現を簡単に実現する補助機能に優れていることでしょう。本講義では、実習形式で Microsoft社 Word(文章作成ソフト)とPowerPoint(プレゼン用ソフト)の応用法を学習していきます。各ソフトの基本操作から、様々な機能を活用した効率的な学術的論文の作成や、見栄えの良いスライド作成などのための応用操作の習得を行っていきます。

?注意?

キャンパス入構制限の場合、遠隔授業を行います。

キーワード: Microsoft Office, Word, PowerPoint, 情報リテラシー

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標: パソコンやインターネット環境を身近なツールとして使い、様々な業務のための文書やプレゼン資料をスムーズに作成することができる。

評価方法: 課題提出物

評価割合: 60%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標: 場面に応じた体裁の整った資料(紙面、スライド)を準備できる。

評価方法: 最終発表会

評価割合: 25%

▼ 学修に主体的に取り組む態度

授業への出席、質問などの発言、グループワークでの貢献度を評価する。

評価割合: 15%

▼ 実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただし困っている周囲の受講生へのアドバイスなどについて、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価の対象とすることがある。

評価割合: 0%

▼ 公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし授業中の発言や記述等において人権侵害・差別的発言など公平性を欠く言動や不正行為があった場合は減点対象とするので注意すること。

評価割合: 0%

▼ その他

特になし

評価割合: 特になし

授業計画:

【授業形態ガイドライン・レベルⅢ】同時双方向型 遠隔授業

【授業形態ガイドライン・レベルⅡ】対面授業と遠隔授業のハイフレックス授業

【第01講】 ガイダンス・情報リテラシー

【第02講】 パソコン・インターネット環境の操作実習 【第1章】

【第03講】 Word実習: 基本操作 文書作成・編集 【第2章3章】

【第04講】 Word実習: フォーマル文書作成 【第4章】

【第05講】 Word実習: グラフィカル文書作成 【第5章】

【第06講】 Word実習: プロフェッショナル文書作成 【第5章】

【第07講】 Word実習: アカデミック文書作成(1) 【第7章】

【第08講】 Word実習: アカデミック文書作成(2) 【第7章】

【第09講】 PowerPoint実習: 基本操作・プレゼンテーション心得

【第10講】 PowerPoint実習: プロフェッショナルスライド作成

【第11講】 PowerPoint実習: グラフィカルスライド作成

【第12講】 PowerPoint実習: インプレッシブスライド作成

【第13講】 Word/PowerPoint例題演習: 共同作成・編集 (Office機能紹介)

【第14講】 Word/PowerPoint例題演習: 共同作成・編集 (Office機能紹介)

【第15講】 Word/PowerPoint例題演習: 共同作成・編集 (Office機能紹介) 最終課題提出

期末 模擬プレゼンテーション発表会: レジюмеとスライドを用いたプレゼンテーション

使用テキスト: 実教出版編集部 『30時間でマスター Word2019』 実教出版 2020年 ¥950+税

予習・復習のポイントと 毎回受講前に教科書を読んでおくこと。

参考文献・資料等: 参考書:

●杉本くみ子、大澤栄子 『30時間でマスター パーフェクト演習 Word2013』 実教出版
2015年 ¥950+税

障がいのある履修者への対応: 学務係の職員と相談してください。

授業時間外の連絡手段: 授業時間の前後の時間に話をしてください。

留意事項: Microsoft Office がインストールされたパソコンを所有していることが望ましい。

注意

遠隔授業の場合もあるため、自宅にネットワーク環境を持っていない、且つMicrosoft Office がインストールされたパソコンを所有していない学生の履修を制限します(履修を認めません)

科目コード:10044 科目ナンバリング:LA11B11E 主な使用言語:日本語

授業名(英文): コンピュータ基礎I f(Basics of Computers I f)

担当者: 小貫 哲平

基本情報

年次:1

単位数:2

授業形式:演習

曜時:木曜2限

履修可能学科・専攻: E Pe Pc C W F N M

関連資格:教職 保育

AL要素: 02 模擬実践, 03 実技, 04 課題解決, 07 発表

授業の概要: 自分の意見を伝える手段としてパソコンやインターネットを媒体とすることは社会人として必須となっています。その理由は、書類の生産効率に優れていること、および好印象を与える表現を簡単に実現する補助機能に優れていることでしょう。本講義では、実習形式でMicrosoft社 Word(文章作成ソフト)とPowerPoint(プレゼン用ソフト)の応用法を学習していきます。各ソフトの基本操作から、様々な機能を活用した効率的な学術的論文の作成や、見栄えの良いスライド作成などのための応用操作の習得を行っていきます。

?注意?

キャンパス入構制限の場合、遠隔授業を行います。

キーワード: Microsoft Office, Word, PowerPoint, 情報リテラシー

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標: パソコンやインターネット環境を身近なツールとして使い、様々な業務のための文書やプレゼン資料をスムーズに作成することができる。

評価方法: 課題提出物

評価割合: 60%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 場面に応じた体裁の整った資料(紙面、スライド)を準備できる。

評価方法: 最終発表会

評価割合: 25%

▼学修に主体的に取り組む態度

授業への出席、質問などの発言、グループワークでの貢献度を評価する。

評価割合: 15%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただし困っている周囲の受講生へのアドバイスなどについて、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価の対象とすることがある。

評価割合: 0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし授業中の発言や記述等において人権侵害・差別的発言など公平性

を欠く言動や不正行為があった場合は減点対象とするので注意すること。

評価割合:0%

▼その他

特になし

評価割合:特になし

授業計画: 【第01講】 ガイダンス・情報リテラシー
【第02講】 パソコン・インターネット環境の操作実習 【第1章】
【第03講】 Word実習: 基本操作 文書作成・編集 【第2章3章】
【第04講】 Word実習: フォーマル文書作成 【第4章】
【第05講】 Word実習: グラフィカル文書作成 【第5章】
【第06講】 Word実習: プロフェッショナル文書作成 【第5章】
【第07講】 Word実習: アカデミック文書作成(1) 【第7章】
【第08講】 Word実習: アカデミック文書作成(2) 【第7章】
【第09講】 PowerPoint実習: 基本操作・プレゼンテーション心得
【第10講】 PowerPoint実習: プロフェッショナルスライド作成
【第11講】 PowerPoint実習: グラフィカルスライド作成
【第12講】 PowerPoint実習: インプレッシブスライド作成
【第13講】 Word/PowerPoint例題演習: 共同作成・編集(Office機能紹介)
【第14講】 Word/PowerPoint例題演習: 共同作成・編集(Office機能紹介)
【第15講】 Word/PowerPoint例題演習: 共同作成・編集(Office機能紹介) 最終課題提出
期末 模擬プレゼンテーション発表会: レジюмеとスライドを用いたプレゼンテーション

使用テキスト: 実教出版編修部 『30時間でマスター Word2019』 実教出版 2020年 ¥950+税

予習・復習のポイント 毎回受講前に教科書を読んでおくこと。

参考文献・資料等:

参考書:

●杉本くみ子、大澤栄子 『30時間でマスター パーフェクト演習 Word2013』 実教出版 2015年 ¥950+税

●実教出版編修部 『30時間でマスター プレゼンテーション+PowerPoint2019』 実教出版 2020年 ¥950+税

障がいのある 学務係の職員と相談してください。

履修者への対応:

授業時間外の連絡手段: 授業時間の前後の時間に話をしてください。

留意事項: Microsoft Office がインストールされたパソコンを所有していることが望ましい。

注意

遠隔授業の場合もあるため、自宅にネットワーク環境を持っていない、且つMicrosoft Office がインストールされたパソコンを所有していない学生の履修を制限します(履修を認めません)

科目コード:10044

科目ナンバリング:LA11B11E

主な使用言語:日本語

授業名(英文): コンピュータ基礎I g(Basics of Computers I g)

担当者: 有澤 正樹

基本情報

年次:1

単位数:2

授業形式:演習

曜時:金曜4限

履修可能学科・専攻: E Pe Pc C W F N M

関連資格:教職 保育

AL要素: 03.実験・実技・体験

授業の概要: 現代社会においてコンピュータはもはや必需品といえるまでになった。ビジネスの場ではもちろん、学校や一般家庭の中にも広く普及し、コンピュータの操作能力、特に、インターネットの活用、Word による文書作成、Excel による表計算は、情報社会に生きる人々にとっては必要不可欠な基本的能力といえるだろう。

ここでは、「パソコン初心者」を前提に、Windows パソコンの基本的な操作方法(ファイル、フォルダの作成・コピー・移動、日本語入力、タッチタイピング等)や WWW の検索・e-mail の基本から始め、Word による文書作成を中心に、各種レポート作成にインターネットや Word を十分活用できるようになることを目指す。そのためには、単なる Word のスキル習得を目的と考えるのではなく、たとえ印刷を目的とした文書作りであっても、再利用可能なデジタルデータを作成することの意義を理解し、それが全てのコンピューティングに共通する重要な考え方であることを理解することが重要である。また、PowerPoint の基本操作とプレゼンテーション用スライド・資料の作成についても取り扱う。

キーワード： 文書作成、プレゼンテーション、インターネット、情報倫理、Word、PowerPoint、Windows、LAN、PC

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標： LAN 環境にある Windows PC を利用し、基本的な PC 操作、Internet の利用、Word による文書作成、および PowerPoint によるプレゼンテーション資料の作成ができる。

評価方法： 課題

評価割合： 80%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標： 授業で扱える内容には限りがあるところを、扱った内容のみにとどまらず、その周辺知識や技能についても積極的な試行錯誤等(思考力・判断力)により習得し、より表現力のある文書やプレゼンテーション資料の作成ができる。

評価方法： 課題

評価割合： 20%

▼ 学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしないが、その結果が上記「思考力・判断力・表現力」に反映されるものとして扱う。

評価割合： 0%

▼ 実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしないが、PC の学習(広義で生産性を向上させるためにあらゆる場面で積極的に PC を利用できるようになること)では、他者に教え、他者から教わるのが有効である。

評価割合： 0%

▼ 公正性

直接的な評価対象とはしないが、課題作成において不正行為があった場合は、減点や失格の対象となるので注意すること。

評価割合： 0%

▼ その他

特になし

評価割合： 特になし

授業計画： - Windows & Internet -

【第01回】 Windows PC の基本操作と文字入力の基礎

【第02回】 WWW の検索と E-mail の基本、情報倫理

- Word -

【第03回】 文字を入力して文書を作成する

【第04回】 見栄えのする文書を作成する

【第05回】 入力した文書を修正する

【第06回】 表を使った文書を作成する

【第07回】 フリーレイアウトの文書を作成する

【第08回】 データベースを利用した差し込み印刷をする

【第09回】 さらに詳細な文書のレイアウトを整える

【第10回】 もっと Word を使いこなす

【第11回】 レポート作成に必要な図表番号や参考文献の管理機能を使う1

【第12回】 レポート作成に必要な図表番号や参考文献の管理機能を使う2

- PowerPoint -

【第13回】プレゼンテーションと PowerPoint の基本

【第14回】アニメーションの設定、スライドショーを実行する

- 課題 -

【第15回】Word 課題

課題提出

使用テキスト: 田中亘&できるシリーズ編集部『できるWord 2021 Office2021 & Microsoft 365両対応』株式会社インプレス、2022年

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 特別な予習や復習は必要ないが、レポート作成等の文書作成時には、積極的に修得した新しいスキルを使っていくことが求められる。以下は演習終盤で扱う PowerPoint に関する参考文献として例示する。

井上香緒里&できるシリーズ編集部『できるPowerPoint 2021 Office 2021& Microsoft 365両対応』株式会社インプレス、2022年

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください。

授業時間外の連絡手段: Teams の当該科目チーム内(投稿)、またはメール(maa@icc.ac.jp)、もしくはオフィスアワーに研究室で対応します。曜日・時限等については UNIPA で確認してください。

留意事項: 学内ネットワーク(LAN)環境下にある PC を取り扱い(共有フォルダー、ネットワークプリンター、UNIPA による課題出など)ますので、1年生にとっては重要です。また、表計算ソフト Excel は社会人にとっては必須となりますので、コンピュータ基礎Iだけでなくコンピュータ基礎IIも併せて履修することをお勧めします。

科目コード:10044 科目ナンバリング:LA11B11E 主な使用言語:日本語

授業名(英文): コンピュータ基礎I h(Basics of Computers I h)

担当者: 松井 進

基本情報

年次:1

単位数:2

授業形式:演習

曜時:水曜2限

履修可能学科・専攻: E Pe Pc C W F N M

関連資格:教職 保育

AL要素: 03.実験・実技・体験

授業の概要: 学校や家庭、職場など様々なところでパソコンは広く普及し、パソコンを操作して情報を収集したり整理したり、また情報を伝達するための資料を作成したりする能力は日常生活を営む上で必要不可欠である。この授業では、パソコンの初心者を前提にして、Microsoft社の文書作成ソフトであるWordおよびプレゼンテーション用ソフトであるPowerPointの基本的な操作方法を学びます。また大学ネットワークのIC-UNIPAを利用する方法や情報を取り扱う際のリテラシーについても学びます。

【通常の授業形態】

面接授業です。

【在宅受講時の授業形態】

同時双方向型の遠隔授業を予定しています。その場合は、インターネット環境が整っていて、Microsoft

Officeがインストールされたパソコンを持っていることが必要です。

キーワード: Windows, Word, PowerPoint, 文書作成, プレゼンテーション, IC-UNIPA, 情報リテラシー

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標: WordやPowerPointソフトを使用して、情報を伝達するための資料を作成することができる。

評価方法: 学期末の実技試験

評価割合: 80%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 他者を意識して体裁や内容などを工夫し、情報が伝わりやすい資料を作成することができる。

評価方法: 学期末の実技試験

評価割合: 20%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象にはしませんが、学修への主体的な態度は実技試験で作成する資料に反映されると考えています。また講義内容とは関係のない私語や作業、居眠りなどの望ましくない授業態度は減点の対象になります。

評価割合: 0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象にはしませんが、パソコン操作の苦手な学生を支援する行為は評価対象にすることができます。

評価割合: 0%

▼公正性

直接的な評価対象にはしませんが、人権侵害・差別的発言など著しく公平性を欠く言動や不正行為があった場合は、嚴重注意や減点の対象になります。

評価割合: 0%

▼その他

特にないです。

評価割合: 特にないです。

- 授業計画:**
- 【01回】 ガイダンス, IC-UNIPAの利用方法
 - 【02回】 Windowsの基本操作, 電子メールの利用方法
 - 【03回】 情報リテラシー
 - 【04回】 Word: 文字入力と文書作成
 - 【05回】 Word: 文書の装飾
 - 【06回】 Word: 文書の修正
 - 【07回】 Word: 書式設定
 - 【08回】 Word: 表の作成
 - 【09回】 Word: 図の作成
 - 【10回】 Word: 便利な諸機能
 - 【11回】 Word: 公的文書の作成
 - 【12回】 PowerPoint: 基本操作
 - 【13回】 PowerPoint: 図表の挿入とアニメーションの設定
 - 【14回】 PowerPoint: プレゼンテーション資料の作成
 - 【15回】 まとめ
 - 【16回】 定期試験

使用テキスト: 実教出版企画開発部(編)『30時間でマスター Word 2021』実教出版

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 予習としては、次回の授業内容をシラバスで確認し、教科書の該当箇所を目を通しておいてください。またPowerPointについては、教科書の購入を求めませんが、Microsoft社のPowerPointに関する書籍を目を通して基本操作を学んでおくことが望ましいです。復習としては、当該授業での配布資料を再読したり、授業では扱わなかった例題や演習問題で授業内容を再確認したりしてください。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応しますので、まずは学務部などにご連絡・ご相談してください。

授業時間外の連絡手段: 授業時間の前後の時間帯に使用教室で対応いたします。

留意事項: 学内のパソコンを利用する際には、大学から発行されたIDとパスワードが必要です。また授業内容は、後期のコンピュータ基礎Ⅱに引き継がれることになるので、連続して履修することが望ましいです。

科目コード:10044

科目ナンバリング:LA11B11E

主な使用言語:日本語

授業名(英文): コンピュータ基礎I i(Basics of Computers I i)

担当者: 三ツ堀 裕太

基本情報

年次:1

単位数:2

授業形式:演習

曜時:金曜3限

履修可能学科・専攻: E Pe Pc C W F N M

関連資格:教職 保育

AL要素:03. 実験・実技・体験

授業の概要: 現代社会においては、目的に応じてコンピュータを使いこなす能力が求められています。とりわけWordとExcel、PowerPointについては、大学でのレポート提出や企業での日々の業務で欠かすことが出来ない存在となっています。

本講義では、学内コンピュータの使用方法や一般的なマナーに加え、WordとPowerPointの基本的な操作方法を学習します。

キーワード: Word PowerPoint 使い方 プレゼン 資料 作り方 デザイン SNS メール マナー

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標: 1. 学生生活に必要な情報リテラシーを習得する。
2. 目的に応じて、WordおよびPowerPointを使いこなすことができる。

評価方法: 演習課題

評価割合: 100%

期末レポート

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 1. テキストで与えられた演習課題の趣旨を理解し、自身でアレンジを加えることができる。

評価方法: 演習課題

評価割合: 0%

期末レポート

※直接的な評価は行わず、知識・技能の評価において総合的に判断します。

▼学修に主体的に取り組む態度

講義時間中に与えられた演習課題をきちんとこなすこと以外は、特に求めません。

評価割合: 0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしません。

評価割合: 0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしません。

評価割合: 0%

▼その他

特になし

評価割合: 特になし

授業計画: <情報リテラシー>

第1回 学内PCの使用方法

第2回 学内ネットワークの仕組みとIC-UNIPA

第3回 インターネット(WEBサイトと電子メール)の仕組み

第4回 電子メール利用時のマナー

第5回 インターネット活用のための情報倫理

<Word>

- 第6回 Wordの基本について
- 第7回 文字を入力して文書を作成する
- 第8回 見栄えのする文書を作成する
- 第9回 表を使った文書を作成する
- 第10回 年賀状を素早く作成する
- 第11回 文書のレイアウトを整える

<PowerPoint>

- 第12回 PowerPointの基本について
- 第13回 文字やグラフを用いた資料を作成する
- 第14回 研究発表やプレゼン資料作成の基本テクニック
- 第15回 課題

使用テキスト: 田中 亘 著『できる Word 2021 Office 2021/Office365両対応』(インプレスジャパン 出版)

※本講義では電子書籍版の利用を推奨します。
※類似の書籍を購入してしまう学生が毎年必ずいます。間違えることの無いよう、注意してください。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: コンピュータの活用スキルは本講義時間中だけで習得できるものではありません。本講義で学んだ内容を日常生活の中で積極的に実践・活用していくことが最も効果的な復習といえます。

障がいのある履修者への対応: 自力でパソコンを操作できることを条件に受け入れます。詳細は学務部等にご確認下さい。

授業時間外の連絡手段: 電子メールおよびSNSでの連絡手段を提供します。

留意事項: 特になし

科目コード:10044 科目ナンバリング:LA11B11E 主な使用言語:日本語

授業名(英文): コンピュータ基礎I j(Basics of Computers I j)

担当者: 有澤 正樹

基本情報

年次:1

単位数:2

授業形式:演習

曜時:月曜2限

履修可能学科・専攻: E Pe Pc C W F N M

関連資格: 教職 保育

AL要素: 03.実験・実技・体験

授業の概要: 現代社会においてコンピュータはもはや必需品といえるまでになった。ビジネスの場ではもちろん、学校や一般家庭の中にも広く普及し、コンピュータの操作能力、特に、インターネットの活用、Word による文書作成、Excel による表計算は、情報社会に生きる人々にとっては必要不可欠な基本的能力といえるだろう。

ここでは、「パソコン初心者」を前提に、Windows パソコンの基本的な操作方法(ファイル、フォルダの作成・コピー・移動、日本語入力、タッチタイピング等)や WWW の検索・e-mail の基本から始め、Word による文書作成を中心に、各種レポート作成にインターネットや Word を十分活用できるようになることを目指す。そのためには、単なる Word のスキル習得を目的と考えるのではなく、たとえ印刷を目的とした文書作りであっても、再利用可能なデジタルデータを作成することの意義を理解し、それが全てのコンピューティングに共通する重要な考え方であることを理解することが重要である。また、PowerPoint の基本操作とプレゼンテーション用スライド・資料の作成についても取り扱う。

キーワード: 文書作成、プレゼンテーション、インターネット、情報倫

理、Word、PowerPoint、Windows、LAN、PC

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標: LAN 環境にある Windows PC を利用し、基本的な PC 操作、Internet の利用、Word による文書作成、および PowerPoint によるプレゼンテーション資料の作成ができる。

評価方法: 課題

評価割合: 80%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 授業で扱える内容には限りがあるところを、扱った内容のみにとどまらず、その周辺知識や技能についても積極的な試行錯誤等(思考力・判断力)により習得し、より表現力のある文書やプレゼンテーション資料の作成ができる。

評価方法: 課題

評価割合: 20%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしないが、その結果が上記「思考力・判断力・表現力」に反映されるものとして扱う。

評価割合: 0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしないが、PC の学習(広義で生産性を向上させるためにあらゆる場面で積極的に PC を利用できるようになること)では、他者に教え、他者から教わるのが有効である。

評価割合: 0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしないが、課題作成において不正行為があった場合は、減点や失格の対象となるので注意すること。

評価割合: 0%

▼その他

特になし

評価割合: 特になし

授業計画: - Windows & Internet -

【第01回】Windows PC の基本操作と文字入力の基本

【第02回】WWW の検索と E-mail の基本、情報倫理

- Word -

【第03回】文字を入力して文書を作成する

【第04回】見栄えのする文書を作成する

【第05回】入力した文書を修正する

【第06回】表を使った文書を作成する

【第07回】フリーレイアウトの文書を作成する

【第08回】データベースを利用した差し込み印刷をする

【第09回】さらに詳細な文書のレイアウトを整える

【第10回】もっと Word を使いこなす

【第11回】レポート作成に必要な図表番号や参考文献の管理機能を使う1

【第12回】レポート作成に必要な図表番号や参考文献の管理機能を使う2

- PowerPoint -

【第13回】プレゼンテーションと PowerPoint の基本

【第14回】アニメーションの設定、スライドショーを実行する

- 課題 -

【第15回】Word 課題

課題提出

使用テキスト: 田中亘&できるシリーズ編集部『できるWord 2021 Office2021 & Microsoft 365両対応』株式会社インプレス、2022年

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 特別な予習や復習は必要ないが、レポート作成等の文書作成時には、積極的に修得した新しいスキルを使っていくことが求められる。以下は演習終盤で扱う PowerPoint に関する参考文献として例示する。
井上香緒里&できるシリーズ編集部『できるPowerPoint 2021 Office 2021& Microsoft 365 両対応』株式会社インプレス、2022年

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください。

授業時間外の連絡手段： Teams の当該科目チーム内(投稿)、またはメール(maa@icc.ac.jp)、もしくはオフィスアワーに研究室で対応します。曜日・時限等については UNIPA で確認してください。

留意事項： 学内ネットワーク(LAN)環境下にある PC を取り扱い(共有フォルダー、ネットワークプリンター、UNIPA による課題出など)ますので、1年生にとっては重要です。また、表計算ソフト Excel は社会人にとっては必須となりますので、コンピュータ基礎Iだけでなくコンピュータ基礎IIも併せて履修することをお勧めします。

科目コード:10044 科目ナンバリング:LA11B11E 主な使用言語:日本語

授業名(英文): コンピュータ基礎I k(Basics of Computers I k)

担当者: 松井 進

基本情報

年次:1

単位数:2

授業形式:演習

曜時:水曜3限

履修可能学科・専攻: E Pe Pc C W F N M

関連資格:教職 保育

AL要素: 03.実験・実技・体験

授業の概要： 学校や家庭、職場など様々なところでパソコンは広く普及し、パソコンを操作して情報を収集したり整理したり、また情報を伝達するための資料を作成したりする能力は日常生活を営む上で必要不可欠である。この授業では、パソコンの初心者を中心に、Microsoft社の文書作成ソフトであるWordおよびプレゼンテーション用ソフトであるPowerPointの基本的な操作方法を学びます。また大学ネットワークのIC-UNIPAを利用する方法や情報を取り扱う際のリテラシーについても学びます。

【通常の授業形態】

面接授業です。

【在宅受講時の授業形態】

同時双方向型の遠隔授業を予定しています。その場合は、インターネット環境が整っていて、Microsoft Officeがインストールされたパソコンを持っていることが必要です。

キーワード： Windows, Word, PowerPoint, 文書作成, プレゼンテーション, IC-UNIPA, 情報リテラシー

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標： WordやPowerPointソフトを使用して、情報を伝達するための資料を作成することができる。

評価方法： 学期末の実技試験

評価割合： 80%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標： 他者を意識して体裁や内容などを工夫し、情報が伝わりやすい資料を作成することができる。

評価方法： 学期末の実技試験

評価割合： 20%

▼ 学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象にはしませんが、学修への主体的な態度は実技試験で作成する資料に反映されると考えています。また講義内容とは関係のない私語や作業、居眠りなどの望ましくない授業態度は減点の対象となります。

象になります。

評価割合：0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象にはしませんが、パソコン操作の苦手な学生を支援する行為は評価対象にすることがあります。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象にはしませんが、人権侵害・差別的発言など著しく公平性を欠く言動や不正行為があった場合は、厳重注意や減点の対象になります。

評価割合：0%

▼その他

特にないです。

評価割合：特にないです。

- 授業計画： 【01回】 ガイダンス、IC-UNIPAの利用方法
【02回】 Windowsの基本操作、電子メールの利用方法
【03回】 情報リテラシー
【04回】 Word: 文字入力と文書作成
【05回】 Word: 文書の装飾
【06回】 Word: 文書の修正
【07回】 Word: 書式設定
【08回】 Word: 表の作成
【09回】 Word: 図の作成
【10回】 Word: 便利な諸機能
【11回】 Word: 公的文書の作成
【12回】 PowerPoint: 基本操作
【13回】 PowerPoint: 図表の挿入とアニメーションの設定
【14回】 PowerPoint: プレゼンテーション資料の作成
【15回】 まとめ
【16回】 定期試験

使用テキスト： 実教出版企画開発部(編)『30時間でマスター Word 2021』実教出版

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 予習としては、次回の授業内容をシラバスで確認し、教科書の該当箇所に通しておいてください。またPowerPointについては、教科書の購入を求めませんが、Microsoft社のPowerPointに関する書籍に通して基本操作を学んでおくことが望ましいです。復習としては、当該授業での配布資料を再読したり、授業では扱わなかった例題や演習問題で授業内容を再確認したりしてください。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応しますので、まずは学務部などにご連絡・ご相談してください。

授業時間外の連絡手段： 授業時間の前後の時間帯に使用教室で対応いたします。

留意事項： 学内のパソコンを利用するには、大学から発行されたIDとパスワードが必要です。また授業内容は、後期のコンピュータ基礎Ⅱに引き継がれることになるので、連続して履修することが望ましいです。

科目コード：10044

科目ナンバリング：LA11B11E

主な使用言語：日本語

授業名(英文)：コンピュータ基礎Ⅰ(Basics of Computers Ⅰ)

担当者：松井 進

基本情報

年次：1

単位数：2

授業形式：演習

曜時：水曜4限

履修可能学科・専攻：E Pe Pc C W F N M

授業の概要： 学校や家庭、職場など様々なところでパソコンは広く普及し、パソコンを操作して情報を収集したり整理したり、また情報を伝達するための資料を作成したりする能力は日常生活を営む上で必要不可欠である。この授業では、パソコンの初心者を前提にして、Microsoft社の文書作成ソフトであるWordおよびプレゼンテーション用ソフトであるPowerPointの基本的な操作方法を学びます。また大学ネットワークのIC-UNIPAを利用する方法や情報を取り扱う際のリテラシーについても学びます。

【通常の授業形態】

面接授業です。

【在宅受講時の授業形態】

同時双方向型の遠隔授業を予定しています。その場合は、インターネット環境が整っていて、Microsoft

Officeがインストールされたパソコンを持っていることが必要です。

キーワード： Windows, Word, PowerPoint, 文書作成, プレゼンテーション, IC-UNIPA, 情報リテラシー

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： WordやPowerPointソフトを使用して、情報を伝達するための資料を作成することができる。

評価方法： 学期末の実技試験

評価割合： 80%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 他者を意識して体裁や内容などを工夫し、情報が伝わりやすい資料を作成することができる。

評価方法： 学期末の実技試験

評価割合： 20%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象にはしませんが、学修への主体的な態度は実技試験で作成する資料に反映されると考えています。また講義内容とは関係のない私語や作業、居眠りなどの望ましくない授業態度は減点の対象になります。

評価割合： 0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象にはしませんが、パソコン操作の苦手な学生を支援する行為は評価対象にすることがあります。

評価割合： 0%

▼公正性

直接的な評価対象にはしませんが、人権侵害・差別的発言など著しく公平性を欠く言動や不正行為があった場合は、厳重注意や減点の対象になります。

評価割合： 0%

▼その他

特にないです。

評価割合： 特にないです。

授業計画： 【01回】 ガイダンス, IC-UNIPAの利用方法
【02回】 Windowsの基本操作, 電子メールの利用方法
【03回】 情報リテラシー
【04回】 Word: 文字入力と文書作成
【05回】 Word: 文書の装飾
【06回】 Word: 文書の修正
【07回】 Word: 書式設定
【08回】 Word: 表の作成

- 【09回】 Word:図の作成
- 【10回】 Word:便利な諸機能
- 【11回】 Word:公的文書の作成
- 【12回】 PowerPoint:基本操作
- 【13回】 PowerPoint:図表の挿入とアニメーションの設定
- 【14回】 PowerPoint:プレゼンテーション資料の作成
- 【15回】 まとめ
- 【16回】 定期試験

使用テキスト: 実教出版企画開発部(編)『30時間でマスター Word 2021』実教出版

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 予習としては、次回の授業内容をシラバスで確認し、教科書の該当箇所を目を通しておいてください。またPowerPointについては、教科書の購入を求めませんが、Microsoft社のPowerPointに関する書籍を目を通して基本操作を学んでおくことが望ましいです。復習としては、当該授業での配布資料を再読したり、授業では扱わなかった例題や演習問題で授業内容を再確認したりしてください。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応しますので、まずは学務部などにご連絡・ご相談してください。

授業時間外の連絡手段: 授業時間の前後の時間帯に使用教室で対応いたします。

留意事項: 学内のパソコンを利用する際には、大学から発行されたIDとパスワードが必要です。また授業内容は、後期のコンピュータ基礎Ⅱに引き継がれることになるので、連続して履修することが望ましいです。

科目コード: 10044 **科目ナンバリング:** LA11B11E **主な使用言語:** 日本語

授業名(英文): コンピュータ基礎I m (Basics of Computers I m)

担当者: 横田 浩久

基本情報

年次: 1

単位数: 2

授業形式: 演習

曜時: 月曜1限

履修可能学科・専攻: E Pe Pc C W F N M

関連資格: 教職 保育

AL要素: 03 実技

授業の概要: コンピュータはビジネスだけでなく日常生活でも必要不可欠なものとなっています。コンピュータや情報技術が身近になった結果、トラブルに巻き込まれないための知識も必要になってきています。
本授業では、はじめにパーソナルコンピュータの基本的な使い方と大学生活で必要となるコンピュータ環境の使用方法を習得します。インターネットや電子メールの使い方を習得するとともに、これらを用いる際に必要となる情報倫理についても学ぶ。
文書作成ソフトウェアMicrosoft WordとプレゼンテーションソフトウェアMicrosoft PowerPointの基本的な使い方を実習形式で習得し、他の授業や実生活で必要となる資料を作成できるようにすることを目指します。

キーワード: パーソナルコンピュータ、ウェブ検索、電子メール、情報倫理、文書作成、プレゼンテーション

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

- 到達目標:**
- (1) Windowsの基本操作を理解してパーソナルコンピュータを使うことができ、インターネットや電子メールの使い方を理解している。
 - (2) 文書作成ソフトウェアMicrosoft Wordの基本的な機能と操作方法を理解している。
 - (3) プレゼンテーションソフトウェアMicrosoft PowerPointの基本的な機能と操作方法を理解している。

評価方法: 課題

評価割合: 90%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: (1) 電子メールの文章作成および送受信を正しく行うことができる。
(2) Microsoft Wordを用いて簡単な文書を作成できる。
(3) Microsoft PowerPointを用いて簡単なプレゼンテーション資料を作成できる。

評価方法: 課題

評価割合: 10%

▼学修に主体的に取り組む態度

「教えてもらう」という態度ではなく、自ら調べて考えるようにして授業や課題に取り組むこと。

評価割合: 0%

▼実践的ボランティア

評価対象としない。

評価割合: 0%

▼公正性

評価対象としない。ただし、提出ファイルに不正と思われる箇所が見受けられた場合は成績に影響することもあるので注意すること。

評価割合: 0%

▼その他

なし

評価割合: なし

授業計画: 第1週 ガイダンス、Windowsの基本操作
第2週 ウェブ検索方法、電子メールの使い方
第3週 情報倫理
第4週 Word1 (日本語入力、簡単な文書作成)
第5週 Word2 (文書の体裁を整える)
第6週 Word3 (箇条書き・段落番号)
第7週 Word4 (段組み)
第8週 Word5 (罫線を用いた表の作成)
第9週 Word6 (タブを用いた表の作成)
第10週 Word7 (画像挿入、テキストボックス)
第11週 Word8 (図形描画)
第12週 Word9 (総合問題)
第13週 PowerPoint1 (基本操作、スライド作成の基礎)
第14週 PowerPoint2 (画像挿入、図形描画、アニメーション)
第15週 PowerPoint3 (総合問題)

使用テキスト: なし

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 授業で学んだ内容を次週までにもう一度パーソナルコンピュータを用いて復習すること。他の授業のレポート作成や日常生活で必要となる資料作成などに授業で学んだことを活用してみる。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応しますので、まずは学務部へ相談して下さい。

授業時間外の連絡手段: 電子メールにて対応します。

留意事項: これまでパーソナルコンピュータを使ったことがない学生も履修することを想定した授業内容となっています。コンピュータ基礎Iだけでなく、コンピュータ基礎IIも続けて履修することをお勧めします。

科目コード: 10044

科目ナンバリング: LA11B11E

主な使用言語: 日本語

授業名(英文): コンピュータ基礎I n (Basics of Computers I n)

担当者: 横田 浩久

基本情報

年次：1

単位数：2

授業形式：演習

曜時：月曜2限

履修可能学科・専攻：E Pe Pc C W F N M

関連資格：教職 保育

AL要素：03 実技

授業の概要： コンピュータはビジネスだけでなく日常生活でも必要不可欠なものとなっています。コンピュータや情報技術が身近になった結果、トラブルに巻き込まれないための知識も必要になってきています。
本授業では、はじめにパーソナルコンピュータの基本的な使い方と大学生活で必要となるコンピュータ環境の使用方法を習得します。インターネットや電子メールの使い方を習得するとともに、これらを用いる際に必要となる情報倫理についても学ぶ。
文書作成ソフトウェアMicrosoft WordとプレゼンテーションソフトウェアMicrosoft PowerPointの基本的な使い方を実習形式で習得し、他の授業や実生活で必要となる資料を作成できるようにすることを目指します。

キーワード： パーソナルコンピュータ、ウェブ検索、電子メール、情報倫理、文書作成、プレゼンテーション

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標： (1) Windowsの基本操作を理解してパーソナルコンピュータを使うことができ、インターネットや電子メールの使い方を理解している。
(2) 文書作成ソフトウェアMicrosoft Wordの基本的な機能と操作方法を理解している。
(3) プレゼンテーションソフトウェアMicrosoft PowerPointの基本的な機能と操作方法を理解している。

評価方法： 課題

評価割合： 90%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標： (1) 電子メールの文章作成および送受信を正しく行うことができる。
(2) Microsoft Wordを用いて簡単な文書を作成できる。
(3) Microsoft PowerPointを用いて簡単なプレゼンテーション資料を作成できる。

評価方法： 課題

評価割合： 10%

▼ 学修に主体的に取り組む態度

「教えてもらう」という態度ではなく、自ら調べて考えるようにして授業や課題に取り組むこと。

評価割合： 0%

▼ 実践的ボランティア

評価対象としない。

評価割合： 0%

▼ 公正性

評価対象としない。ただし、提出ファイルに不正と思われる箇所が見受けられた場合は成績に影響することもあるので注意すること。

評価割合： 0%

▼ その他

なし

評価割合： なし

授業計画： 第1週 ガイダンス、Windowsの基本操作
第2週 ウェブ検索方法、電子メールの使い方
第3週 情報倫理
第4週 Word1 (日本語入力、簡単な文書作成)
第5週 Word2 (文書の体裁を整える)
第6週 Word3 (箇条書き・段落番号)

- 第7週 Word4(段組み)
- 第8週 Word5(罫線を用いた表の作成)
- 第9週 Word6(タブを用いた表の作成)
- 第10週 Word7(画像挿入、テキストボックス)
- 第11週 Word8(図形描画)
- 第12週 Word9(総合問題)
- 第13週 PowerPoint1(基本操作、スライド作成の基礎)
- 第14週 PowerPoint2(画像挿入、図形描画、アニメーション)
- 第15週 PowerPoint3(総合問題)

使用テキスト: なし

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 授業で学んだ内容を次週までにもう一度パーソナルコンピュータを用いて復習すること。他の授業のレポート作成や日常生活で必要となる資料作成などに授業で学んだことを活用して試みる。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応しますので、まずは学務部へ相談して下さい。

授業時間外の連絡手段: 電子メールにて対応します。

留意事項: これまでパーソナルコンピュータを使ったことがない学生も履修することを想定した授業内容となっています。コンピュータ基礎Iだけでなく、コンピュータ基礎IIも続けて履修することをお勧めします。

科目コード: 10044 **科目ナンバリング:** LA11B11E **主な使用言語:** 日本語

授業名(英文): コンピュータ基礎I o (Basics of Computers I o)

担当者: 三ツ堀 裕太

基本情報

年次: 1

単位数: 2

授業形式: 演習

曜時: 金曜4限

履修可能学科・専攻: E Pe Pc C W F N M

関連資格: 教職 保育

AL要素: 03. 実験・実技・体験

授業の概要: 現代社会においては、目的に応じてコンピュータを使いこなす能力が求められています。とりわけWordとExcel、PowerPointについては、大学でのレポート提出や企業での日々の業務で欠かすことが出来ない存在となっています。

本講義では、学内コンピュータの使用方法や一般的なマナーに加え、WordとPowerPointの基本的な操作方法を学習します。

キーワード: Word PowerPoint 使い方 プレゼン 資料 作り方 デザイン SNS メール マナー

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

- 到達目標:**
1. 学生生活に必要な情報リテラシーを習得する。
 2. 目的に応じて、WordおよびPowerPointを使いこなすことができる。

評価方法: 演習課題
期末レポート

評価割合: 100%

▼ 思考力・判断力・表現力

- 到達目標:**
1. テキストで与えられた演習課題の趣旨を理解し、自身でアレンジを加えることができる。

評価方法: 演習課題
期末レポート

評価割合: 0%

※直接的な評価は行わず、知識・技能の評

価において総合的に判断します。

▼学修に主体的に取り組む態度

講義時間中に与えられた演習課題をきちんとこなすこと以外は、特に求めません。

評価割合：0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしません。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしません。

評価割合：0%

▼その他

特になし

評価割合：特になし

授業計画： <情報リテラシー>

- 第1回 学内PCの使用方法
- 第2回 学内ネットワークの仕組みとIC-UNIPA
- 第3回 インターネット(WEBサイトと電子メール)の仕組み
- 第4回 電子メール利用時のマナー
- 第5回 インターネット活用のための情報倫理

<Word>

- 第6回 Wordの基本について
- 第7回 文字を入力して文書を作成する
- 第8回 見栄えのする文書を作成する
- 第9回 表を使った文書を作成する
- 第10回 年賀状を素早く作成する
- 第11回 文書のレイアウトを整える

<PowerPoint>

- 第12回 PowerPointの基本について
- 第13回 文字やグラフを用いた資料を作成する
- 第14回 研究発表やプレゼン資料作成の基本テクニック
- 第15回 課題

使用テキスト： 田中 亘 著『できる Word 2021 Office 2021/Office365両対応』(インプレスジャパン 出版)

※本講義では電子書籍版の利用を推奨します。

※類似の書籍を購入してしまう学生が毎年必ずいます。間違えることの無いよう、注意してください。

予習・復習のポイントと コンピュータの活用スキルは本講義時間中だけで習得できるものではありません。

参考文献・資料等： 本講義で学んだ内容を日常生活の中で積極的に実践・活用していくことが最も効果的な復習といえます。

障がいのある履修者への対応： 自力でパソコンを操作できることを条件に受け入れます。詳細は学務部等にご確認下さい。

授業時間外の連絡手段： 電子メールおよびSNSでの連絡手段を提供します。

留意事項： 特になし

科目コード：10044

科目ナンバリング：LA11B11E

主な使用言語：日本語

授業名(英文)：コンピュータ基礎I p(Basics of Computers I p)

担当者：山内 智

基本情報

年次：1

単位数：2

授業形式：演習

曜時：金曜1限

履修可能学科・専攻：E Pe Pc C W F N M

関連資格：教職 保育

AL要素：(18)その他

授業の概要：最近、だれもが身近に感じるようになったパソコンを道具に、情報処理の初歩を頭と手を使って学びます。この授業を通して「パソコンで何ができるか」を具体的に理解すると同時に各自が自分なりのパソコンの使い方を見いだすことを期待します。

基礎Ⅰではパソコンに「馴れる」ことを重点目標にします。パソコンの簡単な仕組みと始動・終了法からキーボードやマウスの使い方、Windowの操作や日本語入力などパソコンのGUI環境を使用する上での基礎を学習します。次に、日本語ワードプロセッサ(Word)の基本的な使用法である文書作成、編集機能、文書保存や図形描画およびインターネット上のWWW情報をWordに取り込む方法などを例題を通して学習します。また、パワーポイント(Power Point)を使用したプレゼンテーション資料作成の基礎を例題を通して学習します。さらに、高度情報化社会の重要なインフラとなったインターネットを利用した電子メールの正しい知識と使い方も学習します。

この科目に続くコンピュータ基礎Ⅱが終了した頃には、パソコン1台で情報の作成や変換を自由に使い、今後のレポート作成、データ整理やプレゼンテーション資料作成等に活用できる基礎知識が身に付くはずで

キーワード：パソコン、インターネット、電子メール、MSワード、パワーポイント

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標：(1) Windowsの基本操作を理解してパソコン操作ができると同時に文書作成ソフトウェアWordの基本的な機能と操作法を理解している。
(2) Power Pointの基本的な機能と操作法を理解している。
(3) 電子メールを正しく利用するための基礎を理解している。

評価方法：毎回の課題とレポートをもとに総合的に成績をつけます。 **評価割合：90%**

なお、課題が授業中に終わらなかつたりやり直した場合は次の週までに再提出することも可能です。

▼思考力・判断力・表現力

到達目標：(1) Wordを用いて簡単な文章を作成できる。
(2) Power Pointを用いて簡単なプレゼンテーション資料の作成ができる。
(3) 電子メールでの文章作成および送受信が正しくできる。

評価方法：毎回の課題とレポートをもとに総合的に成績をつけます。 **評価割合：10%**

なお、課題が授業中に終わらなかつたりやり直した場合は次の週までに再提出することも可能です。

▼学修に主体的に取り組む態度

「教えてもらう」という受身の姿勢ではなく自ら積極的に取り組むことを期待します。

評価割合：0%

▼実践的ボランティア

本講義では対象としません。

評価割合：0%

▼公正性

授業に出席せずに課題を提出した場合には、その回の提出物は評価に加えません。

評価割合：0%

▼その他

特になし。

評価割合：特になし。

授業計画： 標準的には以下を予定していますが、進度等により内容や順序等を変更する場合があります。

- 【第01回】ガイダンス, PCの基礎知識
- 【第02回】電子メールの基礎知識と実習
- 【第03回】Windows(1) 日本語入力
- 【第04回】Windows(2) ファイルとフォルダー
- 【第05回】Word(1) 文字列操作
- 【第06回】Word(2) メニューと書式設定
- 【第07回】Word(3) その他のメニュー
- 【第08回】Wordの実習(1) 文書作成実習
- 【第09回】Wordの実習(2) 作成文書の印刷など
- 【第10回】Word(4) 図形描画
- 【第11回】Wordの実習(3) 地図の作成
- 【第12回】Wordの実習(4) 文書への図の貼り付けなど
- 【第13回】WWW情報の検索実習
- 【第14回】Power Point(1)Power Pointの基礎と文字入力
- 【第15回】Power Point(2)図、表の挿入

使用テキスト： なし。講義時に資料を配布します。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 予習は求めませんが、毎回の講義で学んだ機能と操作法を次週までにもう一度パソコンを使って復習しておくこと。
授業時間内に課題が終わらない場合は、次回の授業までに完成させて再提出してもらいます。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応しますので、まずは学務部に連絡してください。

授業時間外の連絡手段： 学務部にご連絡ください。

留意事項： この科目は次の受講者を想定します。

- (1) これまでにパソコンを使った経験がない人、
- (2) レポート作成など知的作業にパソコンを活用したことのない人。

そのため特別な事前準備学習は必要ありませんが後期のコンピュータ基礎IIと連続で履修することを想定しています。

科目コード：10044 科目ナンバリング：LA11B11E 主な使用言語：日本語

授業名(英文)：コンピュータ基礎I q(Basics of Computers I q)

担当者：山内 智

基本情報

年次：1

単位数：2

授業形式：演習

曜時：金曜2限

履修可能学科・専攻：E Pe Pc C W F N M

関連資格：教職 保育

AL要素：(18)その他

授業の概要： 最近、だれもが身近に感じるようになったパソコンを道具に、情報処理の初歩を頭と手を使って学びます。この授業を通して「パソコンで何ができるか」を具体的に理解すると同時に各自が自分なりのパソコンの使い方を見いだすことを期待します。

基礎 I ではパソコンに「馴れる」ことを重点目標にします。パソコンの簡単な仕組みと始動・終了法からキーボードやマウスの使い方、Windowの操作や日本語入力などパソコンのGUI

環境を使用する上での基礎を学習します。次に、日本語ワードプロセッサ(Word)の基本的な使用法である文書作成、編集機能、文書保存や図形描画およびインターネット上のWWW情報をWordに取り込む方法などを例題を通して学習します。また、パワーポイント(Power Point)を使用したプレゼンテーション資料作成の基礎を例題を通して学習します。さらに、高度情報化社会の重要なインフラとなったインターネットを利用した電子メールの正しい知識と使い方も学習します。

この科目に続くコンピュータ基礎Ⅱが終了した頃には、パソコン1台で情報の作成や変換を自由に使い、今後のレポート作成、データ整理やプレゼンテーション資料作成等に活用できる基礎知識が身に付くはずで

キーワード: パソコン、インターネット、電子メール、MSワード、パワーポイント

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標: (1) Windowsの基本操作を理解してパソコン操作ができると同時に文書作成ソフトウェアWordの基本的な機能と操作法を理解している。
(2) Power Pointの基本的な機能と操作法を理解している。
(3) 電子メールを正しく利用するための基礎を理解している。

評価方法: 毎回の課題とレポートをもとに総合的に成績をつけます。 **評価割合: 90%**
なお、課題が授業中に終わらなかったりやり直した場合は次の週までに再提出することも可能です。

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標: (1) Wordを用いて簡単な文章を作成できる。
(2) Power Pointを用いて簡単なプレゼンテーション資料の作成ができる。
(3) 電子メールでの文章作成および送受信が正しくできる。

評価方法: 毎回の課題とレポートをもとに総合的に成績をつけます。 **評価割合: 10%**
なお、課題が授業中に終わらなかったりやり直した場合は次の週までに再提出することも可能です。

▼ 学修に主体的に取り組む態度

「教えてもらう」という受身の姿勢ではなく自ら積極的に取り組むことを期待します。

評価割合: 0%

▼ 実践的ボランティア

本講義では対象としません。

評価割合: 0%

▼ 公正性

授業に出席せずに課題を提出した場合には、その回の提出物は評価に加えません。

評価割合: 0%

▼ その他

特になし。

評価割合: 特になし。

授業計画: 標準的には以下を予定していますが、進度等により内容や順序等を変更する場合があります。

【第01回】ガイダンス、PCの基礎知識

【第02回】電子メールの基礎知識と実習

【第03回】Windows(1) 日本語入力

【第04回】Windows(2) ファイルとフォルダー

- 【第05回】Word(1) 文字列操作
- 【第06回】Word(2) メニューと書式設定
- 【第07回】Word(3) その他のメニュー
- 【第08回】Wordの実習(1) 文書作成実習
- 【第09回】Wordの実習(2) 作成文書の印刷など
- 【第10回】Word(4) 図形描画
- 【第11回】Wordの実習(3) 地図の作成
- 【第12回】Wordの実習(4) 文書への図の貼り付けなど
- 【第13回】WWW情報の検索実習
- 【第14回】Power Point(1)Power Pointの基礎と文字入力
- 【第15回】Power Point(2)図、表の挿入

使用テキスト: なし。講義時に資料を配布します。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 予習は求めませんが、毎回の講義で学んだ機能と操作法を次週までにもう一度パソコンを使って復習しておくこと。
授業時間内に課題が終わらない場合は、次回の授業までに完成させて再提出してもらいます。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応しますので、まずは学務部に連絡してください。

授業時間外の連絡手段: 学務部にご連絡ください。

留意事項: この科目は次の受講者を想定します。
(1) これまでにパソコンを使った経験がない人、
(2) レポート作成など知的作業にパソコンを活用したことのない人。
そのため特別な事前準備学習は必要ありませんが後期のコンピュータ基礎IIと連続で履修することを想定しています。

科目コード: 10044 **科目ナンバリング:** LA11B11E **主な使用言語:** 日本語

授業名(英文): コンピュータ基礎I r(Basics of Computers I r)

担当者: 長谷川 博康

基本情報

年次: 1

単位数: 2

授業形式: 演習

曜時: 水曜5限

履修可能学科・専攻: E Pe Pc C W F N M

関連資格: 教職 保育

AL要素: 03 実験・実技・体験

授業の概要: 大学生活では、PCの使用が欠かせなくなってきました。その中で、MicrosoftのOfficeを使用して、課題や演習、レポートの提出、プレゼンテーションなどで使用します。その基礎的な操作を学ぶため、この講義では、基本的なPCの使用から、Microsoft Wordとプレゼンテーション用のMicrosoft PowerPointの基本的な使い方を実習形式で習得します。

キーワード: PCの基礎、PCの基本操作、Microsoft Word、Microsoft PowerPoint

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標: Windowsの基本操作を理解する。
Microsoft Wordの基本的な機能と操作方法を学ぶ、理解する。
Microsoft PowerPointの基本的な機能と操作方法を学ぶ、理解する。

評価方法: 課題

評価割合: 60%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標: Windowsの基本操作を行うことができる。

Microsoft Wordを用いて文書作成ができる。

Microsoft PowerPointを用いてプレゼンテーション資料を作成することができる。

評価方法: 課題

評価割合: 30%

▼学修に主体的に取り組む態度

実際に使用して、操作を学んでください。また、わからない点は自分で調べるようにして、そしてその上で疑問点などがあれば質問してください。

評価割合: 10%

▼実践的ボランティア

まわりでわからない人がいれば、教えあつて、互いに教えあうようにしてください。

評価割合: 0%

▼公正性

評価対象としない。提出ファイルに不正と思われる箇所が見受けられた場合は成績に影響することもあるので注意すること。

評価割合: 0%

▼その他

特になし

評価割合: 特になし

- 授業計画:**
- 第01回: 授業の概要
 - 第02回: Windowsの基礎
 - 第03回: Word入門
 - 第04回: Wordの基礎
 - 第05回: Wordの活用
 - 第06回: Wordの応用
 - 第07回: Wordとインターネット
 - 第08回: DTP機能の活用
 - 第09回: Wordのまとめ
 - 第10回: プレゼンテーションとは
 - 第11回: プレゼンテーションのテクニック
 - 第12回: PowerPointを使ったプレゼンテーション資料の作成
 - 第13回: プレゼンテーションの実施と反省
 - 第14回: PowerPointのまとめ
 - 第15回: 課題の提出について

使用テキスト: 『30時間でマスター Word2021』実教出版

『30時間でマスター プレゼンテーション+PowerPoint2021』実教出版

予習・復習のポイントと 各回の授業で実施した内容を確認、復習してください。

参考文献・資料等:

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応するので、まずは学務部等に連絡してください。

授業時間外の連絡手段: オフィスアワーに研究室で対応します。
メールでも対応しますので、連絡先は学務部に確認して下さい。

留意事項: 特になし

科目コード: 10045

科目ナンバリング: LA12B11E

主な使用言語: 日本語

授業名(英文): コンピュータ基礎II b(Basics of Computers II b)

担当者: 有澤 正樹

基本情報

年次: 1

単位数: 2

授業形式: 演習

曜時：金曜5限

履修可能学科・専攻： E Pe Pc C W F N M

関連資格：教職 保育

AL要素：03.実験・実技・体験

授業の概要： 現代社会においてコンピュータはもはや必需品といえるまでになった。ビジネスの場ではもちろん、学校や一般家庭の中にも広く普及し、コンピュータの操作能力、特に、インターネットの活用、Word による文書作成、Excel による表計算は、情報社会に生きる人々にとっては必要不可欠な基本的能力といえるだろう。また将来、どのような職業に就こうとも、PC を使う場面においては Word で長文を書くような場面よりも、Excel で日々のデータ管理や処理(商品の在庫管理、財務管理、売上集計、生徒学生の成績処理など様々な数値データの取り扱い)を行う場面が多いものである。

ここでは、様々な種類のデータ処理と分析(統計処理やグラフ化)に用いられる Excel による表計算を中心に、今後の卒業研究論文の作成やビジネス現場でのパソコン活用能力の習得を目指す。そのためには Excel のスキルを習得することはもちろんであるが、それ以上に、そもそもその表(計算)が何を目的作成され、その目的のために何をどのように計算する必要があるのかを人が理解し、自ら計算式を入力しなければならないことを理解する必要がある。

キーワード： 表計算、グラフ、統計、Excel、Windows、PC

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： Excel による基本的な表計算ができる。

評価方法： 課題

評価割合： 80%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 個々のデータの性質や特徴に合わせた統計処理を選択し、それに必要となる Excel 関数の利用、複合参照等を正しく効率的に利用することができる。

評価方法： 課題

評価割合： 20%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしないが、その結果が上記「思考力・判断力・表現力」に反映されるものとして扱う。

評価割合： 0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしないが、PC の学習(広義で生産性を向上させるためにあらゆる場面で積極的に PC を利用できるようになること)では、他者に教え、他者から教わるのが有効である。

評価割合： 0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしないが、課題作成において不正行為があった場合は、減点や失格の対象となるので注意すること。

評価割合： 0%

▼その他

特になし

評価割合： 特になし

授業計画： 【第01回】データ入力の基本操作を覚える
【第02回】セルの操作を覚える
【第03回】数式や関数を使って計算する
【第04回】表の見栄えを整える
【第05回】用途に合わせて印刷する
【第06回】グラフを作成と図形の扱い方を覚える
【第07回】ブックとシートの使い方を覚える
【第08回】数式と参照を理解する

- 【第09回】 必須の関数を覚える1
 - 【第10回】 必須の関数を覚える2
 - 【第11回】 データの集計方法を学ぶ
 - 【第12回】 ピボットテーブルの使い方を学ぶ
 - 【第13回】 まとめ + α
 - 【第14回】 課題 1
 - 【第15回】 課題 2
- 課題提出

使用テキスト: 羽毛田睦土&できるシリーズ編集部『できるExcel 2021 Office 2021 & Microsoft 365両対応』株式会社インプレス、2022年

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 授業概要でも述べたように、そもそも表計算自体が理解できない、すなわち、どのように計算すればよいかわからないようでは、Excel どころか電卓さえも無意味となる。経験上、割り算、分数、比率(いずれも本質的に同じもの)などの理解が不十分な学生が多いようなので、心当たりのある学生は自己学習に努めること。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください。

授業時間外の連絡手段: Teams の当該科目チーム内(投稿)、またはメール(maa@icc.ac.jp)、もしくはオフィスパワーに研究室で対応します。曜日・時限等については UNIPA で確認してください。

留意事項: Windows と Word の基本操作(コンピュータ基礎I)ができること。
Excel が使えないと、社会に出てから大変困ります。

科目コード: 10045 **科目ナンバリング:** LA12B11E **主な使用言語:** 日本語

授業名(英文): コンピュータ基礎II c(Basics of Computers II c)

担当者: 有澤 正樹

基本情報

年次: 1

単位数: 2

授業形式: 演習

曜時: 木曜5限

履修可能学科・専攻: E Pe Pc C W F N M

関連資格: 教職 保育

AL要素: 03.実験・実技・体験

授業の概要: 現代社会においてコンピュータはもはや必需品といえるまでになった。ビジネスの場ではもちろん、学校や一般家庭の中にも広く普及し、コンピュータの操作能力、特に、インターネットの活用、Word による文書作成、Excel による表計算は、情報社会に生きる人々にとっては必要不可欠な基本的能力といえるだろう。また将来、どのような職業に就こうとも、PC を使う場面においては Word で長文を書くような場面よりも、Excel で日々のデータ管理や処理(商品の在庫管理、財務管理、売上集計、生徒学生の成績処理など様々な数値データの取り扱い)を行う場面が多いものである。

ここでは、様々な種類のデータ処理と分析(統計処理やグラフ化)に用いられる Excel による表計算を中心に、今後の卒業研究論文の作成やビジネス現場でのパソコン活用能力の習得を目指す。そのためには Excel のスキルを習得することはもちろんであるが、それ以上に、そもそもその表(計算)が何を目的作成され、その目的のために何をどのように計算する必要があるのかを人が理解し、自ら計算式を入力しなければならないことを理解する必要がある。

キーワード: 表計算、グラフ、統計、Excel、Windows、PC

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標: Excel による基本的な表計算ができる。

評価方法: 課題

評価割合: 80%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標: 個々のデータの性質や特徴に合わせた統計処理を選択し、それに必要となる Excel 関数の利用、複合参照等を正しく効率的に利用することができる。

評価方法: 課題

評価割合: 20%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしないが、その結果が上記「思考力・判断力・表現力」に反映されるものとして扱う。

評価割合: 0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしないが、PC の学習(広義で生産性を向上させるためにあらゆる場面で積極的に PC を利用できるようになること)では、他者に教え、他者から教わるのが有効である。

評価割合: 0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしないが、課題作成において不正行為があった場合は、減点や失格の対象となるので注意すること。

評価割合: 0%

▼その他

特になし

評価割合: 特になし

- 授業計画:**
- 【第01回】データ入力の基本操作を覚える
 - 【第02回】セルの操作を覚える
 - 【第03回】数式や関数を使って計算する
 - 【第04回】表の見栄えを整える
 - 【第05回】用途に合わせて印刷する
 - 【第06回】グラフを作成と図形の扱い方を覚える
 - 【第07回】ブックとシートの使い方を覚える
 - 【第08回】数式と参照を理解する
 - 【第09回】必須の関数を覚える1
 - 【第10回】必須の関数を覚える2
 - 【第11回】データの集計方法を学ぶ
 - 【第12回】ピボットテーブルの使い方を学ぶ
 - 【第13回】まとめ + α
 - 【第14回】課題 1
 - 【第15回】課題 2
- 課題提出

使用テキスト: 羽毛田睦土 & できるシリーズ編集部『できるExcel 2021 Office 2021 & Microsoft 365両対応』株式会社インプレス、2022年

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 授業概要でも述べたように、そもそも表計算自体が理解できない、すなわち、どのように計算すればよいのかわからないようでは、Excel どころか電卓さえも無意味となる。経験上、割り算、分数、比率(いずれも本質的に同じもの)などの理解が不十分な学生が多いようなので、心当たりのある学生は自己学習に努めること。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください。

授業時間外の連絡手段: Teams の当該科目チーム内(投稿)、またはメール(maa@icc.ac.jp)、もしくはオフィスアワーに研究室で対応します。曜日・時限等については UNIPA で確認してください。

留意事項: Windows と Word の基本操作(コンピュータ基礎I)ができること。
Excel が使えないと、社会に出てから大変困ります。

科目コード: 10045

科目ナンバリング: LA12B11E

主な使用言語: 日本語

授業名(英文): コンピュータ基礎II d(Basics of Computers II d)

担当者: 有澤 正樹

基本情報

年次: 1

単位数: 2

授業形式: 演習

曜時: 金曜2限

履修可能学科・専攻: E Pe Pc C W F N M

関連資格: 教職 保育

AL要素: 03.実験・実技・体験

授業の概要: 現代社会においてコンピュータはもはや必需品といえるまでになった。ビジネスの場ではもちろん、学校や一般家庭の中にも広く普及し、コンピュータの操作能力、特に、インターネットの活用、Word による文書作成、Excel による表計算は、情報社会に生きる人々にとっては必要不可欠な基本的能力といえるだろう。また将来、どのような職業に就こうとも、PC を使う場面においては Word で長文を書くような場面よりも、Excel で日々のデータ管理や処理(商品の在庫管理、財務管理、売上集計、生徒学生の成績処理など様々な数値データの取り扱い)を行う場面が多いものである。

ここでは、様々な種類のデータ処理と分析(統計処理やグラフ化)に用いられる Excel による表計算を中心に、今後の卒業研究論文の作成やビジネス現場でのパソコン活用能力の習得を目指す。そのためには Excel のスキルを習得することはもちろんであるが、それ以上に、そもそもその表(計算)が何を目的作成され、その目的のために何をどのように計算する必要があるのかを人が理解し、自ら計算式を入力しなければならないことを理解する必要がある。

キーワード: 表計算、グラフ、統計、Excel、Windows、PC

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標: Excel による基本的な表計算ができる。

評価方法: 課題

評価割合: 80%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 個々のデータの性質や特徴に合わせた統計処理を選択し、それに必要となる Excel 関数の利用、複合参照等を正しく効率的に利用することができる。

評価方法: 課題

評価割合: 20%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしないが、その結果が上記「思考力・判断力・表現力」に反映されるものとして扱う。

評価割合: 0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしないが、PC の学習(広義で生産性を向上させるためにあらゆる場面で積極的に PC を利用できるようになること)では、他者に教え、他者から教わるのが有効である。

評価割合: 0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしないが、課題作成において不正行為があった場合は、減点や失格の対象となるので注意すること。

評価割合: 0%

▼その他

特になし

評価割合: 特になし

授業計画: 【第01回】データ入力の基本操作を覚える
【第02回】セルの操作を覚える

- 【第03回】数式や関数を使って計算する
 - 【第04回】表の見栄えを整える
 - 【第05回】用途に合わせて印刷する
 - 【第06回】グラフを作成と図形の扱い方を覚える
 - 【第07回】ブックとシートの使い方を覚える
 - 【第08回】数式と参照を理解する
 - 【第09回】必須の関数を覚える1
 - 【第10回】必須の関数を覚える2
 - 【第11回】データの集計方法を学ぶ
 - 【第12回】ピボットテーブルの使い方を学ぶ
 - 【第13回】まとめ + α
 - 【第14回】課題 1
 - 【第15回】課題 2
- 課題提出

使用テキスト: 羽毛田睦士 & できるシリーズ編集部『できるExcel 2021 Office 2021 & Microsoft 365両対応』株式会社インプレス、2022年

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 授業概要でも述べたように、そもそも表計算自体が理解できない、すなわち、どのように計算すればよいのかわからないようでは、Excel どころか電卓さえも無意味となる。経験上、割り算、分数、比率(いずれも本質的に同じもの)などの理解が不十分な学生が多いようなので、心当たりのある学生は自己学習に努めること。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください。

授業時間外の連絡手段: Teams の当該科目チーム内(投稿)、またはメール(maa@icc.ac.jp)、もしくはオフィスアワーに研究室で対応します。曜日・時限等については UNIPA で確認してください。

留意事項: Windows と Word の基本操作(コンピュータ基礎I)ができること。
Excel が使えないと、社会に出てから大変困ります。

科目コード: 10045 **科目ナンバリング:** LA12B11E **主な使用言語:** 日本語

授業名(英文): コンピュータ基礎II e(Basics of Computers II e)

担当者: 小貫 哲平

基本情報

年次: 1

単位数: 2

授業形式: 演習

曜時: 木曜1限

履修可能学科・専攻: E Pe Pc C W F N M

関連資格: 教職 保育

AL要素: 02 模擬実践, 03 実技, 04 課題解決

授業の概要: 様々な情報の収集および分析の手段としてパソコンやインターネットを媒介することは社会人として必須となっています。その理由は、膨大なデータの迅速な集計処理性能とデータ保存再利用性に優れていること、およびデータ分析結果の判断するための補助機能に優れていることでしょう。本講義では、実習形式でMicrosoft Excel(表計算ソフト)の使用法を学習していきます。ソフトの基本操作から、様々な機能を活用した効率的なデータベース分析や、見栄えの良い表作成やグラフ作成などのための応用操作の習得を行っていきます。

キーワード: Microsoft Office, Excel, 情報リテラシー

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標: パソコンやインターネット環境を身近なツールとして使い、様々な業務のためのデータ集計やデータ分析をスムーズに行えるようになる。

評価方法: 課題提出物

評価割合: 5% × 14回 = 70%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標: 場面に応じたデータ処理、体裁の整った資料(Excelシート、表・グラフ)を準備できる。

評価方法: 期末試験

評価割合: 20%

▼学修に主体的に取り組む態度

授業への出席、質問などの発言を評価する。

評価割合: 10%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただし困っている周囲の受講生へのアドバイスなどについて、上記の項目「思考力・判断力・表現力」および「学修に主体的に取り組む態度」の評価の対象とすることがある。

評価割合: 0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし授業中の発言や記述等において人権侵害・差別的発言など公平性を欠く言動や不正行為があった場合は減点対象とするので注意すること。

評価割合: 0%

▼その他

特になし

評価割合: 特になし

授業計画: 【授業形態ガイドライン・レベルⅢ】 同時双方向型 遠隔授業
【授業形態ガイドライン・レベルⅡ】 対面授業と遠隔授業のハイフレックス授業

- 【第01講】 ガイダンス
 - 【第02講】 情報リテラシー・情報倫理・Society5.0・クラウドサービス活用
 - 【第03講】 Excel実習: 基本操作・入力・表の作成 【第1章】
 - 【第04講】 Excel実習: 基本操作・ワークシート操作 【第2章】
 - 【第05講】 Excel演習: 絶対参照と相対参照・基本的な関数 【第3章】
 - 【第06講】 Excel演習: 基本的な関数・IF関数による分岐表現 【第4章】
 - 【第07講】 Excel演習: グラフ作成(円グラフ・折れ線グラフ・棒グラフ) 【第6章】
 - 【第08講】 Excel演習: グラフ作成(散布図・近似線・レーダチャート)
 - 【第09講】 Excel実習: グラフ作成(複合グラフ・スパークライン・ヒストグラム)
 - 【第10講】 Excel実習: 入力規則・条件付き書式 【第5章】
 - 【第11講】 Excel演習: シート分析・データベース 【第7章】
 - 【第12講】 Excel実習: データベース(ピボットテーブル・アウトライン)
 - 【第13講】 Excel実習: 関数の活用(データベース、リスト) 【第8章】
 - 【第14講】 Excel実習: 関数の活用(文字列操作・フラッシュフィル)【第8章】
 - 【第15講】 Excel実習: 関数の活用(集計統計・マクロ) 【第8章】
- 期末試験

使用テキスト: 実教出版編集部 『30時間でマスター Excel2019』 実教出版 2020年 ¥950+税

予習・復習のポイントと 毎回受講前に教科書を読んでおくこと。

参考文献・資料等: 参考書:

- 杉本くみ子、大澤栄子 『30時間でマスター パーフェクト演習 Excel2013』 実教出版 2015年 ¥950+税

障がいのある履修者への対応: 学務係の職員と相談してください。

授業時間外の連絡手段: 授業時間の前後の時間に話をしてください。

留意事項: Microsoft Office がインストールされたパソコンを所有していることが望ましい。

注意

遠隔授業の場合もあるため、自宅にネットワーク環境を持っていない、且つMicrosoft Office がインストールされたパソコンを所有していない学生の履修を制限します(履修を認めません)

科目コード:10045 科目ナンバリング:LA12B11E 主な使用言語:日本語

授業名(英文): コンピュータ基礎II f(Basics of Computers II f)

担当者: 小貫 哲平

基本情報

年次:1

単位数:2

授業形式:演習

曜時:木曜2限

履修可能学科・専攻: E Pe Pc C W F N M

関連資格:教職 保育

AL要素: 02 模擬実践, 03 実技, 04 課題解決

授業の概要: 様々な情報の収集および分析の手段としてパソコンやインターネットを媒介することは社会人として必須となっています。その理由は、膨大なデータの迅速な集計処理性能とデータ保存再利用性に優れていること、およびデータ分析結果の判断するための補助機能に優れていることでしょう。本講義では、実習形式でMicrosoft Excel(表計算ソフト)の使用法を学習していきます。ソフトの基本操作から、様々な機能を活用した効率的なデータベース分析や、見栄えの良い表作成やグラフ作成などのための応用操作の習得を行っていきます。

キーワード: Microsoft Office, Excel, 情報リテラシー

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標: パソコンやインターネット環境を身近なツールとして使い、様々な業務のためのデータ集計やデータ分析をスムーズに行えるようになる。

評価方法: 課題提出物

評価割合: 5%×14回=70%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 場面に応じたデータ処理、体裁の整った資料(Excelシート、表・グラフ)を準備できる。

評価方法: 期末試験

評価割合: 20%

▼学修に主体的に取り組む態度

授業への出席、質問などの発言を評価する。

評価割合: 10%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただし困っている周囲の受講生へのアドバイスなどについて、上記の項目「思考力・判断力・表現力」および「学修に主体的に取り組む態度」の評価の対象とすることがある。

評価割合: 0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし授業中の発言や記述等において人権侵害・差別的発言など公平性を欠く言動や不正行為があった場合は減点対象とするので注意すること。

評価割合: 0%

▼その他

特になし

評価割合: 特になし

授業計画: 【授業形態ガイドライン・レベルⅢ】 同時双方向型 遠隔授業

【授業形態ガイドライン・レベルⅡ】 対面授業と遠隔授業のハイフレックス授業

【第01講】 ガイダンス

【第02講】 情報リテラシー・情報倫理・Society5.0・クラウドサービス活用

【第03講】 Excel実習: 基本操作・入力・表の作成 【第1章】

【第04講】 Excel実習: 基本操作・ワークシート操作 【第2章】

【第05講】 Excel演習: 絶対参照と相対参照・基本的な関数 【第3章】

【第06講】 Excel演習: 基本的な関数・IF関数による分岐表現 【第4章】

- 【第07講】 Excel演習： グラフ作成(円グラフ・折れ線グラフ・棒グラフ) 【第6章】
 - 【第08講】 Excel演習： グラフ作成(散布図・近似線・レーダチャート)
 - 【第09講】 Excel実習： グラフ作成(複合グラフ・スパークライン・ヒストグラム)
 - 【第10講】 Excel実習： 入力規則・条件付き書式 【第5章】
 - 【第11講】 Excel演習： シート分析・データベース 【第7章】
 - 【第12講】 Excel実習： データベース(ピボットテーブル・アウトライン)
 - 【第13講】 Excel実習： 関数の活用(データベース、リスト) 【第8章】
 - 【第14講】 Excel実習： 関数の活用(文字列操作・フラッシュフィル)【第8章】
 - 【第15講】 Excel実習： 関数の活用(集計統計・マクロ) 【第8章】
- 期末試験

使用テキスト： 実教出版編修部 『30時間でマスター Excel2019』 実教出版 2020年 ¥950+税

予習・復習のポイントと 毎回受講前に教科書を読んでおくこと。

参考文献・資料等： 参考書：

- 杉本くみ子、大澤栄子 『30時間でマスター パーフェクト演習 Excel2013』 実教出版 2015年 ¥950+税

障がいのある 学務係の職員と相談してください。
履修者への対応：

授業時間外の連絡手段： 授業時間の前後の時間に話をしてください。

留意事項： Microsoft Office がインストールされたパソコンを所有していることが望ましい。

注意

遠隔授業の場合もあるため、自宅にネットワーク環境を持っていない、且つMicrosoft Office がインストールされたパソコンを所有していない学生の履修を制限します(履修を認めません)

科目コード：10045

科目ナンバリング：LA12B11E

主な使用言語：日本語

授業名(英文)：コンピュータ基礎II h(Basics of Computers II h)

担当者：松井 進

基本情報

年次：1

単位数：2

授業形式：演習

曜時：水曜2限

履修可能学科・専攻：E Pe Pc C W F N M

関連資格：教職 保育

AL要素：03.実験・実技・体験

授業の概要： 学校や家庭、職場など様々なところでパソコンは広く普及し、パソコンを操作して情報を収集したり整理したり、また情報を伝達するための資料を作成したりする能力は日常生活を営む上で必要不可欠である。この授業では、パソコンの初心者を前提にして、Microsoft社のExcelの基本的な操作方法を学びます。Excelは、収集した情報を図表で整理したり、関数機能やデータベース機能によって情報を処理したりすることができる便利なソフトです。したがってExcel操作の習得は、在学中にレポート課題や卒業論文を作成するだけでなく、職場において商品の売上額や在庫数などに関する情報を取り扱う際にも役立てることが出来ます。

【通常の授業形態】

面接授業です。

【在宅受講時の授業形態】

同時双方向型の遠隔授業を予定しています。その場合は、インターネット環境が整っていて、Microsoft

Officeがインストールされたパソコンを持っていることが必要です。

キーワード： Excel, 図表の作成, 表計算, 関数, データベース

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標: Excelソフトを使用して、情報を整理するための図表を作成することができる。また関数やデータベースの諸機能を活用して情報の処理を行うことができる。

評価方法: 学期末の実技試験

評価割合: 80%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標: 他者を意識して体裁やデザインなどを工夫し、情報が伝わりやすい図表を作成することができる。また目的に応じた情報の処理を行うことができる。

評価方法: 学期末の実技試験

評価割合: 20%

▼ 学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象にはしませんが、学修への主体的な態度は実技試験で作成する資料に反映されると考えています。また講義内容とは関係のない私語や作業、居眠りなどの望ましくない授業態度は減点の対象になります。

評価割合: 0%

▼ 実践的ボランティア

直接的な評価対象にはしませんが、パソコン操作の苦手な学生を支援する行為は評価対象にすることができます。

評価割合: 0%

▼ 公正性

直接的な評価対象にはしませんが、人権侵害・差別的発言など著しく公平性を欠く言動や不正行為があった場合は、嚴重注意や減点の対象になります。

評価割合: 0%

▼ その他

特にないです。

評価割合: 特にないです。

- 授業計画:**
- 【01回】 ガイダンス、IC-UNIPAの利用方法とWindowsの基本操作の復習
 - 【02回】 Excel:基礎知識とデータ入力
 - 【03回】 Excel:簡単な表の作成
 - 【04回】 Excel:表計算
 - 【05回】 Excel:見やすい表の作成
 - 【06回】 Excel:計算式の複写
 - 【07回】 Excel:基本的な関数による処理
 - 【08回】 Excel:グラフの作成1(棒グラフ・折れ線グラフ・円グラフ)
 - 【09回】 Excel:グラフの作成2(複合グラフ・レーダー・散布図)
 - 【10回】 Excel:データベースの作成
 - 【11回】 Excel:データの並べ替えと抽出
 - 【12回】 Excel:データの集計
 - 【13回】 Excel:高度な関数による処理1(順位づけ・検索)
 - 【14回】 Excel:高度な関数による処理2(文字列の操作・条件付き集計)
 - 【15回】 まとめ
 - 【16回】 定期試験

使用テキスト: 実教出版企画開発部(編)『30時間でマスター Excel 2021』実教出版

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 予習としては、次回の授業内容をシラバスで確認し、教科書の該当箇所を目を通しておいてください。復習としては、当該授業での配布資料を再読したり、授業では扱わなかった例題や実習問題でExcelの操作方法を再確認したりしてください。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応しますので、まずは学務部などにご連絡・ご相談してください。

授業時間外の連絡手段: 授業時間の前後の時間帯に使用教室で対応いたします。

留意事項: 学内のパソコンを利用するには、大学から発行されたIDとパスワードが必要です。また前期のコンピュータ基礎 I を履修し、WindowsとWordの基本操作ができることが望ましいです。

科目コード:10045 科目ナンバリング:LA12B11E 主な使用言語:日本語

授業名(英文): コンピュータ基礎II i(Basics of Computers II i)

担当者: 三ツ堀 裕太

基本情報

年次:1

単位数:2

授業形式:演習

曜時:金曜3限

履修可能学科・専攻: E Pe Pc C W F N M

関連資格:教職 保育

AL要素: 03. 実験・実技・体験

授業の概要: 現代社会においては、目的に応じてコンピュータを使いこなす能力が求められています。とりわけWordとExcel,PowerPointについては、大学でのレポート提出や企業での日々の業務で欠かすことが出来ない存在となっています。

本講義では、Excelの基本的な操作方法を学習します。

キーワード: Excel 使い方 関数 マクロ 資料 作り方

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標: 目的に応じて、Excelを使いこなすことができる。

評価方法: 演習課題

評価割合: 100%

期末レポート

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 1. テキストで与えられた演習課題の趣旨を理解し、自身でアレンジを加えることができる。

評価方法: 演習課題

評価割合: 0%

期末レポート

※直接的な評価は行わず、知識・技能の評価において総合的に判断します。

▼学修に主体的に取り組む態度

講義時間中に与えられた演習課題をきちんとこなすこと以外は、特に求めません。

評価割合: 0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしません。

評価割合: 0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしません。

評価割合: 0%

▼その他

特になし

評価割合: 特になし

授業計画: 第1回 ガイダンス
第2回 関数の利用
第3回 表作成の活用

- 第4回 グラフの活用
- 第5回 グラフィックの利用
- 第6回 データベースの活用
- 第7回 ピボットテーブルとピボットグラフの作成
- 第8回 マクロの作成
- 第9回 便利な機能
- 第10回 総合問題1、2
- 第11回 総合問題3、4
- 第12回 総合問題5、6
- 第13回 総合問題7、8
- 第14回 総合問題9、10
- 第15回 期末レポートに向けて

使用テキスト： 富士通エフ・オー・エム株式会社 著『よくわかる Microsoft Excel 2021 応用』(富士通エフ・オー・エム出版)

※類似の書籍を購入してしまう学生が毎年必ずいます。間違えることの無いよう、注意してください。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： コンピュータの活用スキルは本講義時間中だけで習得できるものではありません。本講義で学んだ内容を日常生活の中で積極的に実践・活用していくことが最も効果的な復習といえます。

障がいのある履修者への対応： 自力でパソコンを操作できることを条件に受け入れます。詳細は学務部等にご確認下さい。

授業時間外の連絡手段： 電子メールおよびSNSでの連絡手段を提供します。

留意事項： 特になし

科目コード：10045 **科目ナンバリング：**LA12B11E **主な使用言語：**日本語

授業名(英文)：コンピュータ基礎II j(Basics of Computers II j)

担当者：有澤 正樹

基本情報

年次：1

単位数：2

授業形式：演習

曜時：月曜2限

履修可能学科・専攻：E Pe Pc C W F N M

関連資格：教職 保育

AL要素：03.実験・実技・体験

授業の概要： 現代社会においてコンピュータはもはや必需品といえるまでになった。ビジネスの場ではもちろん、学校や一般家庭の中にも広く普及し、コンピュータの操作能力、特に、インターネットの活用、Word による文書作成、Excel による表計算は、情報社会に生きる人々にとっては必要不可欠な基本的能力といえるだろう。また将来、どのような職業に就こうとも、PC を使う場面においては Word で長文を書くような場面よりも、Excel で日々のデータ管理や処理(商品の在庫管理、財務管理、売上集計、生徒学生の成績処理など様々な数値データの取り扱い)を行う場面が多いものである。

ここでは、様々な種類のデータ処理と分析(統計処理やグラフ化)に用いられる Excel による表計算を中心に、今後の卒業研究論文の作成やビジネス現場でのパソコン活用能力の習得を目指す。そのためには Excel のスキルを習得することはもちろんであるが、それ以上に、そもそもその表(計算)が何を目的作成され、その目的のために何をどのように計算する必要があるのかを人が理解し、自ら計算式を入力しなければならないことを理解する必要がある。

キーワード： 表計算、グラフ、統計、Excel、Windows、PC

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標: Excel による基本的な表計算ができる。

評価方法: 課題

評価割合: 80%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 個々のデータの性質や特徴に合わせた統計処理を選択し、それに必要となる Excel 関数の利用、複合参照等を正しく効率的に利用することができる。

評価方法: 課題

評価割合: 20%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしないが、その結果が上記「思考力・判断力・表現力」に反映されるものとして扱う。

評価割合: 0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしないが、PC の学習 (広義で生産性を向上させるためにあらゆる場面で積極的に PC を利用できるようになること) では、他者に教え、他者から教わるのが有効である。

評価割合: 0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしないが、課題作成において不正行為があった場合は、減点や失格の対象となるので注意すること。

評価割合: 0%

▼その他

特になし

評価割合: 特になし

授業計画: 【第01回】データ入力の基本操作を覚える
【第02回】セルの操作を覚える
【第03回】数式や関数を使って計算する
【第04回】表の見栄えを整える
【第05回】用途に合わせて印刷する
【第06回】グラフを作成と図形の扱い方を覚える
【第07回】ブックとシートの使い方を覚える
【第08回】数式と参照を理解する
【第09回】必須の関数を覚える1
【第10回】必須の関数を覚える2
【第11回】データの集計方法を学ぶ
【第12回】ピボットテーブルの使い方を学ぶ
【第13回】まとめ + α
【第14回】課題 1
【第15回】課題 2
課題提出

使用テキスト: 羽毛田睦土 & できるシリーズ編集部『できるExcel 2021 Office 2021 & Microsoft 365両対応』株式会社インプレス、2022年

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 授業概要でも述べたように、そもそも表計算自体が理解できない、すなわち、どのように計算すればよいかわからないようでは、Excel どころか電卓さえも無意味となる。経験上、割り算、分数、比率(いずれも本質的に同じもの)などの理解が不十分な学生が多いようなので、心当たりのある学生は自己学習に努めること。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください。

授業時間外の連絡手段: Teams の当該科目チーム内(投稿)、またはメール(maa@icc.ac.jp)、もしくはオフィスアワーに研究室で対応します。曜日・時限等については UNIPA で確認してください。

留意事項： Windows と Word の基本操作(コンピュータ基礎I)ができること。
Excel が使えないと、社会に出てから大変困ります。

科目コード：10045 科目ナンバリング：LA12B11E 主な使用言語：日本語

授業名(英文)：コンピュータ基礎II k(Basics of Computers II k)

担当者：松井 進

基本情報

年次：1

単位数：2

授業形式：演習

曜時：水曜3限

履修可能学科・専攻： E Pe Pc C W F N M

関連資格：教職 保育

AL要素：03.実験・実技・体験

授業の概要： 学校や家庭、職場など様々なところでパソコンは広く普及し、パソコンを操作して情報を収集したり整理したり、また情報を伝達するための資料を作成したりする能力は日常生活を営む上で必要不可欠である。この授業では、パソコンの初心者を前提にして、Microsoft社のExcelの基本的な操作方法を学びます。Excelは、収集した情報を図表で整理したり、関数機能やデータベース機能によって情報を処理したりすることができる便利なソフトです。したがってExcel操作の習得は、在学中にレポート課題や卒業論文を作成するだけでなく、職場において商品の売上額や在庫数などに関する情報を取り扱う際にも役立てることができま

【通常の授業形態】

面接授業です。

【在宅受講時の授業形態】

同時双方向型の遠隔授業を予定しています。その場合は、インターネット環境が整っていて、Microsoft

Officeがインストールされたパソコンを持っていることが必要です。

キーワード： Excel, 図表の作成, 表計算, 関数, データベース

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標： Excelソフトを使用して、情報を整理するための図表を作成することができる。また関数やデータベースの諸機能を活用して情報の処理を行うことができる。

評価方法： 学期末の実技試験

評価割合： 80%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標： 他者を意識して体裁やデザインなどを工夫し、情報が伝わりやすい図表を作成することができる。また目的に応じた情報の処理を行うことができる。

評価方法： 学期末の実技試験

評価割合： 20%

▼ 学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象にはしませんが、学修への主体的な態度は実技試験で作成する資料に反映されると考えています。また講義内容とは関係のない私語や作業、居眠りなどの望ましくない授業態度は減点の対象になります。

評価割合： 0%

▼ 実践的ボランティア

直接的な評価対象にはしませんが、パソコン操作の苦手な学生を支援する行為は評価対象にすることができます。

評価割合： 0%

▼ 公正性

直接的な評価対象にはしませんが、人権侵害・差別的発言など著しく公平性を欠く言動や不正行為があった場合は、嚴重注意や減点の対象になります。

評価割合：0%

▼その他

特にないです。

評価割合：特にないです。

授業計画：【01回】 ガイダンス, IC-UNIPAの利用方法とWindowsの基本操作の復習
【02回】 Excel:基礎知識とデータ入力
【03回】 Excel:簡単な表の作成
【04回】 Excel:表計算
【05回】 Excel:見やすい表の作成
【06回】 Excel:計算式の複写
【07回】 Excel:基本的な関数による処理
【08回】 Excel:グラフの作成1(棒グラフ・折れ線グラフ・円グラフ)
【09回】 Excel:グラフの作成2(複合グラフ・レーダー・散布図)
【10回】 Excel:データベースの作成
【11回】 Excel:データの並べ替えと抽出
【12回】 Excel:データの集計
【13回】 Excel:高度な関数による処理1(順位づけ・検索)
【14回】 Excel:高度な関数による処理2(文字列の操作・条件付き集計)
【15回】 まとめ
【16回】 定期試験

使用テキスト： 実教出版企画開発部(編)『30時間でマスター Excel 2021』実教出版

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 予習としては、次回の授業内容をシラバスで確認し、教科書の該当箇所を目を通しておいてください。復習としては、当該授業での配布資料を再読したり、授業では扱わなかった例題や実習問題でExcelの操作方法を再確認したりしてください。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応しますので、まずは学務部などにご連絡・ご相談してください。

授業時間外の連絡手段： 授業時間の前後の時間帯に使用教室で対応いたします。

留意事項： 学内のパソコンを利用するには、大学から発行されたIDとパスワードが必要です。また前期のコンピュータ基礎 I を履修し、WindowsとWordの基本操作ができることが望ましいです。

科目コード：10045

科目ナンバリング：LA12B11E

主な使用言語：日本語

授業名(英文)：コンピュータ基礎II(Basics of Computers II I)

担当者：松井 進

基本情報

年次：1

単位数：2

授業形式：演習

曜時：水曜4限

履修可能学科・専攻：E Pe Pc C W F N M

関連資格：教職 保育

AL要素：03.実験・実技・体験

授業の概要： 学校や家庭、職場など様々なところでパソコンは広く普及し、パソコンを操作して情報を収集したり整理したり、また情報を伝達するための資料を作成したりする能力は日常生活を営む上で必要不可欠である。この授業では、パソコンの初心者を中心に、Microsoft社のExcelの基本的な操作方法を学びます。Excelは、収集した情報を図表で整理したり、関数機能やデータベース機能によって情報を処理したりすることができる便利なソフトです。したがってExcel操作の習得は、在学中にレポート課題や卒業論文を作成するだけでなく、職場において商品の売上額や在庫数などに関する情報を取り扱う際にも役立てることができま

【通常の授業形態】

面接授業です。

【在宅受講時の授業形態】

同時双方向型の遠隔授業を予定しています。その場合は、インターネット環境が整っていて、Microsoft Officeがインストールされたパソコンを持っている必要があります。

キーワード： Excel, 図表の作成, 表計算, 関数, データベース

学位授与方針との関係

▼ **知識・技能**

到達目標： Excelソフトを使用して、情報を整理するための図表を作成することができる。また関数やデータベースの諸機能を活用して情報の処理を行うことができる。

評価方法： 学期末の実技試験

評価割合： 80%

▼ **思考力・判断力・表現力**

到達目標： 他者を意識して体裁やデザインなどを工夫し、情報が伝わりやすい図表を作成することができる。また目的に応じた情報の処理を行うことができる。

評価方法： 学期末の実技試験

評価割合： 20%

▼ **学修に主体的に取り組む態度**

直接的な評価対象にははしませんが、学修への主体的な態度は実技試験で作成する資料に反映されると考えています。また講義内容とは関係のない私語や作業、居眠りなどの望ましくない授業態度は減点の対象になります。

評価割合： 0%

▼ **実践的ボランティア**

直接的な評価対象にははしませんが、パソコン操作の苦手な学生を支援する行為は評価対象にすることができます。

評価割合： 0%

▼ **公正性**

直接的な評価対象にははしませんが、人権侵害・差別的発言など著しく公平性を欠く言動や不正行為があった場合は、嚴重注意や減点の対象になります。

評価割合： 0%

▼ **その他**

特にないです。

評価割合： 特にないです。

授業計画： 【01回】 ガイダンス, IC-UNIPAの利用方法とWindowsの基本操作の復習

【02回】 Excel: 基礎知識とデータ入力

【03回】 Excel: 簡単な表の作成

【04回】 Excel: 表計算

【05回】 Excel: 見やすい表の作成

【06回】 Excel: 計算式の複写

【07回】 Excel: 基本的な関数による処理

【08回】 Excel: グラフの作成1 (棒グラフ・折れ線グラフ・円グラフ)

【09回】 Excel: グラフの作成2 (複合グラフ・レーダー・散布図)

【10回】 Excel: データベースの作成

【11回】 Excel: データの並べ替えと抽出

【12回】 Excel: データの集計

【13回】 Excel: 高度な関数による処理1 (順位づけ・検索)

【14回】 Excel: 高度な関数による処理2 (文字列の操作・条件付き集計)

- 【15回】 まとめ
- 【16回】 定期試験

使用テキスト： 実教出版企画開発部(編)『30時間でマスター Excel 2021』実教出版

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 予習としては、次回の授業内容をシラバスで確認し、教科書の該当箇所に通しておいてください。復習としては、当該授業での配布資料を再読したり、授業では扱わなかった例題や実習問題でExcelの操作方法を再確認したりしてください。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応しますので、まずは学務部などにご連絡・ご相談してください。

授業時間外の連絡手段： 授業時間の前後の時間帯に使用教室で対応いたします。

留意事項： 学内のパソコンを利用する際には、大学から発行されたIDとパスワードが必要です。また前期のコンピュータ基礎 I を履修し、WindowsとWordの基本操作ができることが望ましいです。

科目コード：10045 科目ナンバリング：LA12B11E 主な使用言語：日本語

授業名(英文)：コンピュータ基礎II m (Basics of Computers II m)

担当者：横田 浩久

基本情報

年次：1

単位数：2

授業形式：演習

曜時：月曜1限

履修可能学科・専攻： E Pe Pc C W F N M

関連資格：教職 保育

AL要素：03 実技

授業の概要： コンピュータはビジネスだけでなく日常生活でも必要不可欠なものとなっています。本授業では、表計算ソフトウェアであるMicrosoft Excelの基本的な使い方を習得します。表計算・グラフ作成・データベースの基礎を実習形式で学習し、他の授業や実生活で必要となる資料の作成にMicrosoft Excelを活用できるようにすることを目指します。

キーワード： 表計算、Excel、関数、グラフ、データベース

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 表計算ソフトウェアMicrosoft Excelの基本的な機能と操作方法を理解し、種々の計算、表をもとにしたグラフ作成、データベースの取り扱い方法を理解している。

評価方法： 課題

評価割合：90%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： Microsoft Excelを用いた種々の計算ができる。表をもとにしたグラフを作成できる。データベースの取り扱いができる。

評価方法： 課題

評価割合：10%

▼学修に主体的に取り組む態度

「教えてもらう」という態度ではなく、自ら調べて考えるようにして授業や課題に取り組むこと。教科書を指定しているので、各自教科書を読んで自主的に理解するよう努めること。教科書で説明された内容をそのまま読んで実行するのではなく、内容を理解しながら行うよう心がけること。

評価割合：0%

▼実践的ボランティア

評価対象としない。

評価割合：0%

▼公正性

評価対象としない。ただし、提出ファイルに不正と思われる箇所が見受けられた場合は成績に影響すること

もあるので注意すること。

評価割合:0%

▼その他

なし

評価割合:なし

授業計画: 第1週 ガイダンス、表計算の基礎と簡単な計算
第2週 関数を用いた計算1(合計・平均・データ件数を求める)
第3週 関数を用いた計算2(最大・最小を求める、データ判定)
第4週 関数を用いた計算3(四捨五入・切り上げ・切り捨て・整数化)
第5週 見やすい表への変更
第6週 グラフの作成1(棒グラフの作成)
第7週 グラフの作成2(円グラフの作成)
第8週 グラフの作成3(折れ線グラフ・複合グラフの作成)
第9週 複数の条件による判断
第10週 データ参照1(相対参照と絶対参照、データの件数・順位を求める)
第11週 データ参照2(データ参照関数)
第12週 データベース1(データベースの作成、データの並べ替え)
第13週 データベース2(データベースの抽出・集計、データベース関数)
第14週 総合問題1
第15週 総合問題2

使用テキスト: 例題30+演習問題70でしっかり学ぶExcel標準テキスト Windows11/Office2021対応版、稲葉久男著、2022年、技術評論社

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 授業で学んだ内容を次週までにもう一度パーソナルコンピュータを用いて復習すること。他の授業のレポート作成や日常生活で必要となる資料作成などに授業で学んだことを活用してみることに。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応しますので、まずは学務部へ相談して下さい。

授業時間外の連絡手段: 電子メールにて対応します。

留意事項: 前期開講のコンピュータ基礎Iを履修した学生が続けて履修することを想定しています。パーソナルコンピュータやWindowsの基本操作は習得済みであることが前提です。資料の配布やレポート提出にはIC-UNIPAを用いるので、使用方法を確認しておくこと。

科目コード:10045 科目ナンバリング:LA12B11E 主な使用言語:日本語

授業名(英文): コンピュータ基礎II n(Basics of Computers II n)

担当者: 横田 浩久

基本情報

年次:1

単位数:2

授業形式:演習

曜時:月曜2限

履修可能学科・専攻: E Pe Pc C W F N M

関連資格:教職 保育

AL要素:03 実技

授業の概要: コンピュータはビジネスだけでなく日常生活でも必要不可欠なものとなっています。本授業では、表計算ソフトウェアであるMicrosoft Excelの基本的な使い方を習得します。表計算・グラフ作成・データベースの基礎を実習形式で学習し、他の授業や実生活で必要となる資料の作成にMicrosoft Excelを活用できるようにすることを目指します。

キーワード: 表計算、Excel、関数、グラフ、データベース

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標: 表計算ソフトウェアMicrosoft Excelの基本的な機能と操作方法を理解し、種々の計算、表をもと

にしたグラフ作成、データベースの取り扱い方法を理解している。

評価方法: 課題

評価割合: 90%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: Microsoft Excelを用いた種々の計算ができる。表をもとにしたグラフを作成できる。データベースの取り扱いができる。

評価方法: 課題

評価割合: 10%

▼学修に主体的に取り組む態度

「教えてもらう」という態度ではなく、自ら調べて考えるようにして授業や課題に取り組むこと。教科書を指定しているので、各自教科書を読んで自主的に理解するよう努めること。教科書で説明された内容をそのまま読んで実行するのではなく、内容を理解しながら行うよう心がけること。

評価割合: 0%

▼実践的ボランティア

評価対象としない。

評価割合: 0%

▼公正性

評価対象としない。ただし、提出ファイルに不正と思われる箇所が見受けられた場合は成績に影響することもあるので注意すること。

評価割合: 0%

▼その他

なし

評価割合: なし

授業計画:

- 第1週 ガイダンス、表計算の基礎と簡単な計算
- 第2週 関数を用いた計算1(合計・平均・データ件数を求める)
- 第3週 関数を用いた計算2(最大・最小を求める、データ判定)
- 第4週 関数を用いた計算3(四捨五入・切り上げ・切り捨て・整数化)
- 第5週 見やすい表への変更
- 第6週 グラフの作成1(棒グラフの作成)
- 第7週 グラフの作成2(円グラフの作成)
- 第8週 グラフの作成3(折れ線グラフ・複合グラフの作成)
- 第9週 複数の条件による判断
- 第10週 データ参照1(相対参照と絶対参照、データの件数・順位を求める)
- 第11週 データ参照2(データ参照関数)
- 第12週 データベース1(データベースの作成、データの並べ替え)
- 第13週 データベース2(データベースの抽出・集計、データベース関数)
- 第14週 総合問題1
- 第15週 総合問題2

使用テキスト: 例題30+演習問題70でしっかり学ぶExcel標準テキスト Windows11/Office2021対応版、稲葉久男著、2022年、技術評論社

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 授業で学んだ内容を次週までもう一度パーソナルコンピュータを用いて復習すること。他の授業のレポート作成や日常生活で必要となる資料作成などに授業で学んだことを活用して試みる。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応しますので、まずは学務部へ相談して下さい。

授業時間外の連絡手段: 電子メールにて対応します。

留意事項: 前期開講のコンピュータ基礎Iを履修した学生が続けて履修することを想定しています。パーソナルコンピュータやWindowsの基本操作は習得済みであることが前提です。資料の配布やレポート提出にはIC-UNIPAを用いるので、使用方法を確認しておくこと。

科目コード:10045

科目ナンバリング:LA12B11E

主な使用言語:日本語

授業名(英文): コンピュータ基礎II o(Basics of Computers II o)

担当者: 三ツ堀 裕太

基本情報

年次:1

単位数:2

授業形式:演習

曜時:金曜4限

履修可能学科・専攻: E Pe Pc C W F N M

関連資格:教職 保育

AL要素:03. 実験・実技・体験

授業の概要: 現代社会においては、目的に応じてコンピュータを使いこなす能力が求められています。とりわけWordとExcel,PowerPointについては、大学でのレポート提出や企業での日々の業務で欠かすことが出来ない存在となっています。

本講義では、Excelの基本的な操作方法を学習します。

キーワード: Excel 使い方 関数 マクロ 資料 作り方

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標: 目的に応じて、Excelを使いこなすことができる。

評価方法: 演習課題

評価割合:100%

期末レポート

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 1. テキストで与えられた演習課題の趣旨を理解し、自身でアレンジを加えることができる。

評価方法: 演習課題

評価割合:0%

期末レポート

※直接的な評価は行わず、知識・技能の評価において総合的に判断します。

▼学修に主体的に取り組む態度

講義時間中に与えられた演習課題をきちんとこなすこと以外は、特に求めません。

評価割合:0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしません。

評価割合:0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしません。

評価割合:0%

▼その他

特になし

評価割合:特になし

授業計画: 第1回 ガイダンス
第2回 関数の利用
第3回 表作成の活用
第4回 グラフの活用
第5回 グラフィックの利用
第6回 データベースの活用
第7回 ピボットテーブルとピボットグラフの作成

- 第8回 マクロの作成
- 第9回 便利な機能
- 第10回 総合問題1、2
- 第11回 総合問題3、4
- 第12回 総合問題5、6
- 第13回 総合問題7、8
- 第14回 総合問題9、10
- 第15回 期末レポートに向けて

使用テキスト: 富士通エフ・オー・エム株式会社 著『よくわかる Microsoft Excel 2021 応用』(富士通エフ・オー・エム出版)

※類似の書籍を購入してしまう学生が毎年必ずいます。間違えることの無いよう、注意してください。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: コンピュータの活用スキルは本講義時間中だけで習得できるものではありません。本講義で学んだ内容を日常生活の中で積極的に実践・活用していくことが最も効果的な復習といえます。

障がいのある履修者への対応: 自力でパソコンを操作できることを条件に受け入れます。詳細は学務部等にご確認下さい。

授業時間外の連絡手段: 電子メールおよびSNSでの連絡手段を提供します。

留意事項: 特になし

科目コード: 10045 **科目ナンバリング:** LA12B11E **主な使用言語:** 日本語

授業名(英文): コンピュータ基礎II p(Basics of Computers II p)

担当者: 山内 智

基本情報

年次: 1

単位数: 2

授業形式: 演習

曜時: 金曜1限

履修可能学科・専攻: E Pe Pc C W F N M

関連資格: 教職 保育

AL要素: (18)その他

授業の概要: 本授業では表計算ソフト(Excel)を中心に学習します。表計算ソフトで簡単なデータ処理やグラフの作成法を学習します。また、WWW情報をExcelに取り込んだり、作成した表やグラフをWord文書やPower Pointに貼り付ける方法などアプリケーション間での情報の連携方法も学習します。

前期の基礎Iで学習したWordと今回のExcelとPower Pointの基本的な使い方がわかれば電脳文房具としてのパソコンの基礎は十分と見てよいでしょう。基礎IIを終了した頃には、パソコン1台で情報の作成や変換を自由に行い、今後のレポート作成やデータ整理等に活用するための基礎知識が身に付いているはずです。また、今回の学習を通して情報化社会の光と影について考えるきっかけになることも期待します。

キーワード: パソコン, 表計算ソフト-エクセル, 表計算, グラフ作成, データ処理

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標: 表計算ソフトウェアの基本的な機能と操作法を理解し、簡単なデータ処理、集計、グラフ作成などに利用できる。

評価方法: 毎回の課題とレポートをもとに総合的に成績をつけます。 **評価割合:** 90%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標: Excelへの情報の取り込み、WordやPower Pointなどへの張り込みを行い資料の作成ができる。

評価方法: 毎回の課題とレポートをもとに総合的に成績をつけます。 **評価割合:** 10%

▼学修に主体的に取り組む態度

「教えてもらう」という受身の姿勢ではなく自ら積極的に取り組むことを期待します。

評価割合: 0%

▼実践的ボランティア

本講義では対象としません。

評価割合: 0%

▼公正性

授業に出席せずに課題を提出した場合には、その回の提出物は評価に加えません。

評価割合: 0%

▼その他

特になし。

評価割合: 特になし。

授業計画: 標準的には以下を予定していますが、進度等により内容や順序等を変更する場合があります。

- 【第01回】 ガイダンス、ネチケットの確認
- 【第02回】 Excel(1) Excelの基礎
- 【第03回】 Excel(2) 四則計算
- 【第04回】 Excel(3) セルの参照
- 【第05回】 Excel(4) まとめの問題(1)
- 【第06回】 Excel(5) 表の集計
- 【第07回】 Excel(6) グラフの作成
- 【第08回】 Excel(7) まとめの問題(2)
- 【第09回】 Excel(8) 関数の演習(1)
- 【第10回】 Excel(9) 関数の演習(2)
- 【第11回】 Excel(10) 関数の演習(3)
- 【第12回】 Excel(11) Excelへのデータの読み込み
- 【第13回】 Excel(12) データのソーティング
- 【第14回】 Excel(13) Word文書、PowerPointへの貼り込み
- 【第15回】 Excel(14) 総合問題

使用テキスト: なし。講義時に資料を配布します。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 予習は求めませんが、毎回の講義で学んだ関数や機能と操作法を次週までにもう一度パソコンを使って復習しておくこと。
授業時間内に課題が終わらない場合は、次回の授業までに完成させて再提出してもらいます。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応しますので、まずは学務部に連絡してください。

授業時間外の連絡手段: 学務部にご連絡ください。

留意事項: 前期コンピュータ基礎Iの受講者の連続受講を想定しています。したがって、WindowsやWordの基本操作は学習済みであることが前提です。また、資料の配布や課題の提出にはIC-UNIPAを使用するので、使用法を確認しておくこと。

科目コード: 10045

科目ナンバリング: LA12B11E

主な使用言語: 日本語

授業名(英文): コンピュータ基礎II q(Basics of Computers II q)

担当者: 山内 智

基本情報

年次：1

単位数：2

授業形式：演習

曜時：金曜2限

履修可能学科・専攻：E Pe Pc C W F N M

関連資格：教職 保育

AL要素：(18)その他

授業の概要： 本授業では表計算ソフト(Excel)を中心に学習します。表計算ソフトで簡単なデータ処理やグラフの作成法を学習します。また、WWW情報をExcelに取り込んだり、作成した表やグラフをWord文書やPower Pointに貼り付ける方法などアプリケーション間での情報の連携方法も学習します。

前期の基礎Iで学習したWordと今回のExcelとPower Pointの基本的な使い方がわかればパソコンの基礎は十分と思ってよいでしょう。基礎IIを終了した頃には、パソコン1台で情報の作成や変換を自由に行い、今後のレポート作成やデータ整理等に活用するための基礎知識が身に付いているはずです。また、今回の学習を通して情報化社会の光と影について考えるきっかけになることも期待します。

キーワード： パソコン, 表計算ソフト-エクセル, 表計算, グラフ作成, データ処理

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標： 表計算ソフトウェアの基本的な機能と操作法を理解し、簡単なデータ処理、集計、グラフ作成などに利用できる。

評価方法： 毎回の課題とレポートをもとに総合的に成績をつけます。 **評価割合：90%**

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標： Excelへの情報の取り込み、WordやPower Pointなどへの張り込みを行い資料の作成ができる。

評価方法： 毎回の課題とレポートをもとに総合的に成績をつけます。 **評価割合：10%**

▼ 学修に主体的に取り組む態度

「教えてもらう」という受身の姿勢ではなく自ら積極的に取り組むことを期待します。

評価割合：0%

▼ 実践的ボランティア

本講義では対象としません。

評価割合：0%

▼ 公正性

授業に出席せずに課題を提出した場合には、その回の提出物は評価に加えません。

評価割合：0%

▼ その他

特になし。

評価割合：特になし。

授業計画： 標準的には以下を予定していますが、進度等により内容や順序等を変更する場合があります。

【第01回】 ガイダンス, ネチケットの確認

【第02回】 Excel(1) Excelの基礎

【第03回】 Excel(2) 四則計算

【第04回】 Excel(3) セルの参照

【第05回】 Excel(4) まとめの問題(1)

【第06回】 Excel(5) 表の集計

【第07回】 Excel(6) グラフの作成

【第08回】 Excel(7) まとめの問題(2)

- 【第09回】 Excel(8) 関数の演習(1)
- 【第10回】 Excel(9) 関数の演習(2)
- 【第11回】 Excel(10) 関数の演習(3)
- 【第12回】 Excel(11) Excelへのデータの読み込み
- 【第13回】 Excel(12) データのソーティング
- 【第14回】 Excel(13) Word文書、PowerPointへの貼り込み
- 【第15回】 Excel(14) 総合問題

使用テキスト: なし。講義時に資料を配布します。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 予習は求めませんが、毎回の講義で学んだ関数や機能と操作法を次週までにもう一度パソコンを使って復習しておくこと。
授業時間内に課題が終わらない場合は、次回の授業までに完成させて再提出してもらいます。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応しますので、まずは学務部に連絡してください。

授業時間外の連絡手段: 学務部にご連絡ください。

留意事項: 前期コンピュータ基礎Iの受講者の連続受講を想定しています。したがって、WindowsやWordの基本操作は学習済みであることが前提です。また、資料の配布や課題の提出にはIC-UNIPAを使用するので使用法を確認しておくこと。

科目コード: 10045 **科目ナンバリング:** LA12B11E **主な使用言語:** 日本語

授業名(英文): コンピュータ基礎II r(Basics of Computers II r)

担当者: 長谷川 博康

基本情報

年次: 1

単位数: 2

授業形式: 演習

曜時: 水曜5限

履修可能学科・専攻: E Pe Pc C W F N M

関連資格: 教職 保育

AL要素: 03 実験・実技・体験

授業の概要: 大学生活では、PCの使用が欠かせなくなってきました。その中で、MicrosoftのOfficeを使用して、課題や演習、レポートの提出、プレゼンテーションなどで使用します。その基礎的な操作を学ぶため、この講義では、基本的なPCの使用から、Microsoft Excelの基本的な使い方を実習形式で習得します。

キーワード: PCの基礎、PCの基本操作、Microsoft Excel

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標: Windowsの基本操作を理解する。

Microsoft Excelの基本的な機能と操作方法を学ぶ、理解する。

表計算ソフトを使用して、テーブルを作成することができる。

表計算ソフトを使用して、グラフを作成することができる。

表計算ソフトを使用して、計算を行うことができる。

評価方法: 課題

評価割合: 80%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標: Windowsの基本操作を行うことができる。

Microsoft Excelを用いて、テーブルを作成することができる。テーブルからグラフの作成を行うことができる。

Excelの計算機能を使って、集計結果を出すことができる。

評価方法: 課題

評価割合: 20%

▼学修に主体的に取り組む態度

実際に使用して、操作を学んでください。また、わからない点は自分で調べるようにして、そしてその上で疑問点などがあれば質問してください。

評価割合: 0%

▼実践的ボランティア

まわりでわからない人がいれば、教えあつて、互いに教えあうようにしてください。

評価割合: 0%

▼公正性

評価対象としない。提出ファイルに不正と思われる箇所が見受けられた場合は成績に影響することもあるので注意すること。

評価割合: 0%

▼その他

特になし

評価割合: 特になし

授業計画: 第01回: 授業の概要
第02回: 基礎知識
第03回: Excel入門
第04回: ワークシートの編集
第05回: ワークシートの活用1
第06回: ワークシートの活用2
第07回: グラフの作成1
第08回: グラフの作成2
第09回: グラフの作成3
第10回: グラフの作成4
第11回: データベース1
第12回: データベース2
第13回: Excelの応用1
第14回: Excelの応用2
第15回: まとめ

使用テキスト: 実教出版企画開発部(編)『30時間でマスター Excel2021』実教出版

予習・復習のポイントと 各回の授業で実施した内容を確認、復習してください。

参考文献・資料等:

障がいのある 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください。
履修者への対応:

授業時間外の連絡手段: メールもしくはオフィスマナーに研究室で対応します。

留意事項: 特になし

科目コード: 10046

科目ナンバリング:

主な使用言語: 日本語

授業名(英文): コンピュータ実習(Computer Practice)

担当者: 有澤 正樹

基本情報

年次: 2

単位数: 2

授業形式: 演習

曜時: 木曜3限

履修可能学科・専攻: E Pe Pc C W F N M

関連資格: 教職 保育

AL要素: 03.実験・実技・体験

授業の概要: アンケートや調査などによって得られたデータは、眺めているだけでは何の役にも立たない。

データは要約し、分析されてはじめて意味のある(役に立つ)情報となる。

表計算ソフトは、いくら“使い方”を学んでも、それを用いてデータをどのように分析(処理、計算)するかを知らなくては使いようがない。この実習では、前述のような様々な問題の分析の基礎となる、表計算ソフト Microsoft Excel を用いた統計処理やオペレーションズ・リサーチ(OR; 作戦研究)の基礎を実習する。

なお、この実習では、“数字が苦手”であっても理解できるよう、グラフ化により視覚的に理解しやすい分析手法ばかりを取り上げているので、PCの基本操作ができる方には**気楽に受講してもらいたい**。演習方法は、まず例題を教員の説明および指導にもとづいて一緒に作成し、その後、異なるデータを用いて例題同様の処理・分析を行う(課題)こととなります。この実習を受講すれば、実際の問題解決のための表計算や、複雑なグラフの描画とその解釈など、本当の意味での Excel が使える人(Excel で仕事ができる人)になれるでしょう。

キーワード: 表計算、グラフ、統計学、オペレーションズ・リサーチ(OR)、Excel、Windows、PC

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標: 表計算ソフトを利用して基本的な統計処理やオペレーションズ・リサーチ(OR)手法によるデータ処理が行える。

評価方法: 課題

評価割合: 80%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標: 統計処理やシミュレーションで得られた結果をもとに、原因の推論や考察ができる。

評価方法: 課題

評価割合: 20%

▼ 学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしないが、その結果が上記「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」に反映されるものとして扱う。

評価割合: 0%

▼ 実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。

評価割合: 0%

▼ 公正性

直接的な評価対象とはしないが、課題作成において不正行為があった場合は、減点や失格の対象となるので注意すること。

評価割合: 0%

▼ その他

特になし

評価割合: 特になし

授業計画:

- 【第01回】データの特徴を見る(度数分布表、ヒストグラム)
- 【第02回】復習および課題 1
- 【第03回】データの特徴を読む(平均値、中央値、最頻値、分散、標準偏差、歪度、尖度)
- 【第04回】復習および課題 2
- 【第05回】対応しているデータの関係を知る(散布図、相関係数)
- 【第06回】復習および課題 3
- 【第07回】対応しているデータから予測する 1(回帰分析、決定係数)
- 【第08回】復習および課題 4
- 【第09回】対応しているデータから予測する 2(多項式回帰)
- 【第10回】復習および課題 5?
- 【第11回】時系列データから規則性を知る(時系列分析、移動平均法、最小二乗法)
- 【第12回】復習および課題 6
- 【第13回】データが属するグループを判別する(判別分析、散布図、層別散布図)
- 【第14回】復習および課題 7

【第15回】待ち行列を分析する(確率モデルによるシミュレーション)

使用テキスト: <http://maa.u.iccc.ac.jp/cp/>(学内アクセスのみ)

予習・復習のポイントと 特に予習は必要としませんが、実習で使用する Excel(コンピュータ基礎II)の基本操作につ
参考文献・資料等: いては、各自の技量に応じて適宜予習や復習を行ってください。

障がいのある 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください。
履修者への対応:

授業時間外の連絡手段: Teams の当該科目チーム内(投稿)、またはメール(maa@iccc.ac.jp)、もしくはオフィスア
ワーに研究室で対応します。曜日・時限等については UNIPA で確認してください。

留意事項: PC 教室での授業のため個人デバイスは必携ではありません。
教養課程の「はじめての統計学」を併せて履修(後でも先でも)するとより理解が深まります。なお、課題
については Teams の課題機能を用いてコメントを付与します。

科目コード:10049 科目ナンバリング: 主な使用言語:日本語

授業名(英文): 留学生のための日本学基礎(Basic Japanology for Exchange Students)

担当者: 宮崎 晶子

基本情報

年次:1

単位数:2

授業形式:講義

曜時:金曜4限

履修可能学科・専攻: E Pe Pc C W F N M

関連資格:

AL要素: 07.発表
08.協同学修
17. 発問と回答

授業の概要: 本講義は、日本で留学生が生活していくうえで必要な日本の知識および慣習などを紹介す
るとともに、これから海外に留学しようとしている日本人学生に対して海外でよく聞かれる質問
に答えられるよう、日本に関するさまざまな情報を提供するものである。
90分授業のうち前半で概要を講義する。後半では留学生と日本人学生の間で各国の違いを
話し合い意見交換する。最後にグループごとに話し合いの成果をまとめて発表する。

キーワード: 日本、文化、歴史、社会

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標: 日本文化を理解するとともに、異文化と比較し文化の多様性を知る。

評価方法: 発表と期末レポート

評価割合: 40%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 授業で扱った内容について、自主学修によって得た知見や経験を踏まえて考察し、簡潔に自
らの考えを伝えられる。

評価方法: 発表と期末レポート

評価割合: 40%

▼学修に主体的に取り組む態度

グループ発表の際の留学生と協力して取り組む姿勢を評価する。

評価割合: 10%

▼実践的ボランティア

日本語が不自由な留学生のサポートをする学生を評価する。

評価割合: 10%

▼公正性

直接の評価対象としない。

評価割合：0%

▼その他

特になし

評価割合：特になし

- 授業計画：
1. 日本の風土と年中行事
 2. 政治体制
 3. 歴史
 4. 経済と産業
 5. 社会と制度
 6. 家庭と結婚
 7. 日本の技術力
 8. 文学とマンガ
 9. 伝統演劇
 10. 伝統芸術と工芸
 - 11-15. グループ発表

使用テキスト： 授業で使用する資料は印刷・配布する。

予習・復習のポイントと
参考文献・資料等： 留学生は復習をきちんとすること。日本人学生は留学生の出身国に関心を持ち情報収集すること。

障がいのある
履修者への対応： 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください。

授業時間外の連絡手段： オフィスアワーに研究室で対応します。

留意事項： 特になし

科目コード：10050 科目ナンバリング： 主な使用言語：日本語

授業名(英文)：キリスト教の精神と文化I a (Introduction to Christianity I a)

担当者：佐々木 徹、結城 敏也、小幡 幸和、野口 良哉、館野 真

基本情報

年次：1

単位数：2

授業形式：講義

曜時：金曜2限

履修可能学科・専攻： E Pe Pc C W F N M

関連資格：保育

AL要素： 16. 振り返り用紙と応答
18. その他

授業の概要： 5人の先生方によるオムニバス形式の授業。全授業回数は15回で、先生1人当たり3回の授業を行う。キリスト教に関する先生方の専門分野も、立場もそれぞれ異なるので、受講者は様々な考え方に接することになる。講義内容は、旧約聖書、新約聖書、神学、哲学、宗教学、キリスト教倫理、キリスト教史、現代社会の諸問題など多岐にわたる。キリスト教の深さと広さを知ってもらう。受講者から、講義内容に関する質問を募ることがある。

キーワード： 神、キリスト、信仰(信頼)、自由と愛、希望、正義と平和、教会と社会、キリスト教と諸宗教

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 講義で取り上げられた、建学の精神であるキリスト教に関する学問的知識を暗記し、それを自ら自主的にキリスト教について考察する基礎とすることができる。

評価方法： 学期末筆記試験。

評価割合：80%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 授業内容を自らのものとし、自らの思考と判断をもってキリスト教の問題群に分け入り、自らの考察を論理的に表現するため、知識の系統的整理ができる。

評価方法: 学期末筆記試験。

評価割合: 20%

▼学修に主体的に取り組む態度

評価対象とはしない。ただし、受講者には手書きノートの作成が推奨されるので、授業の理解を深め記述力を身に着けるための訓練を主体的にすることになる。

評価割合: 0%

▼実践的ボランティア

評価対象とはしない。しかし、講義内容はどれも直接間接に人生の諸問題や社会の諸問題にかかわることなので、取り組み方によっては、受講者各自がそれぞれの生活の中で、生涯、授業で学んだことを生かすことができる。

評価割合: 0%

▼公正性

直接的な評価対象とすることはない。ただし、授業時の発言などで、深刻な人権侵害、差別容認発言など、キリスト教の精神にも著しく反する不公正な言動がある場合は減点や嚴重注意の対象となる。カンニングなどの不正行為は『履修要覧』の規定に基づいて対処する。

評価割合: 0%

▼その他

この授業の成績に関することと、本学チャペルとのかかわりはない。

評価割合: この授業の成績に関することと、本

授業計画: 担当者の名前に続く()内には、教科書、参考文献などが示されている。

・佐々木徹(プリント配付)

第01回 キリスト教科目の意義

第02回 旧約聖書と新約聖書(神学的観点から)

第03回 苦しみの意味と喜びについて

・野口良哉(『聖書』無料配布、レジュメ配布、パワーポイント活用)

第04回 永遠のベストセラー『聖書』。その全体像(構成、原語、成立、主題等)を概観する。

第05回 キリスト教二千年の歴史を俯瞰し、その多様性(三大教派等)について学ぶ。

第06回 本学(園)創立の経緯を知り、創立者たちの祈りに思いを馳せる。

・結城敏也(講義資料unipa掲示に添付、参考書:中村圭志「教養としての宗教入門—基礎から学べる信仰と文化」中公新書)

第07回 宗教とは何か? 宗教学的見地から宗教現象について概観してみよう。

第08回 キリスト教とは何か? 世界に存在するさまざまな宗教とキリスト教との比較

第09回 宗教における諸要素 超越性、敬虔、畏敬、社会性、現世利益

・館野 真(プリント配付、パワーポイント)

第10回 神の愛(天地創造が証言する、あなたを愛しておられる神)

第11回 人の罪(人の「罪」の正体:あなたの善悪の知識と神への恐怖)

第12回 救い(キリストの十字架と復活による、あなたの新しい創造)

・小幡幸和(レジュメ配布、パワーポイント使用)

第13回 共に生きる(1. 聖書の概要、キリスト教精神の現代的意義)

第14回 共に生きる(2. 非西洋社会にみるキリスト教精神の展開)

第15回 共に生きる(3. 多様性を受け入れるためのキリスト教的基礎)

定期試験

使用テキスト: 適宜プリントを配布する。又、授業計画を参照せよ。

予習・復習のポイントと
参考文献・資料等: 常日頃から、キリスト教あるいは宗教の問題について関心を持ち、それを書物などで調べ深

めておくと効率的な予習となろう。各授業ごとにノートや配布されたプリントを使って復習し、自分で調べ考察し、疑問点などがあれば教員に直接尋ねて学ぶことを勧める。参考文献などは、適宜提示する。

障がいのある履修者への対応： 真摯な対応を心掛けたいが、まずは学務部等に連絡してください。

授業時間外の連絡手段： IC-UNIPAの掲示やメールを用いたり、オフィスアワーなどで、教員が研究室やチャペルで直接対応したりします。

留意事項： 全員必修の科目である。キリスト教主義大学成立の根幹にかかわる授業なので、各自まじめに取り組むこと。

科目コード：10050 科目ナンバリング： 主な使用言語：日本語

授業名(英文)：キリスト教の精神と文化I b (Introduction to Christianity I b)

担当者：野口 良哉、佐々木 徹、結城 敏也、小幡 幸和、館野 真

基本情報

年次：1

単位数：2

授業形式：講義

曜時：金曜2限

履修可能学科・専攻：E Pe Pc C W F N M

関連資格：保育

AL要素：16. 振り返り用紙と応答
18. その他

授業の概要： 5人の先生方によるオムニバス形式の授業。全授業回数は15回で、先生1人当たり3回の授業を行う。キリスト教に関する先生方の専門分野も、立場もそれぞれ異なるので、受講者は様々な考え方に接することになる。講義内容は、旧約聖書、新約聖書、神学、哲学、宗教学、キリスト教倫理、キリスト教史、現代社会の諸問題など多岐にわたる。キリスト教の深さと広さを知ってもらう。受講者から、講義内容に関する質問を募ることがある。

キーワード： 神、キリスト、信仰(信頼)、自由と愛、希望、正義と平和、教会と社会、キリスト教と諸宗教

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 講義で取り上げられた、建学の精神であるキリスト教に関する学問的知識を暗記し、それを自ら自主的にキリスト教について考察する基礎とすることができる。

評価方法： 学期末筆記試験

評価割合： 80%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 授業内容を自らのものとし、自らの思考と判断をもってキリスト教の問題群に分け入り、自らの考察を論理的に表現するため、知識の系統的整理ができる。

評価方法： 学期末筆記試験

評価割合： 20%

▼学修に主体的に取り組む態度

評価対象とはしない。ただし、受講者には手書きノートの作成が推奨されるので、授業の理解を深め記述力を身に着けるための訓練を主体的にすることになる。

評価割合： 0%

▼実践的ボランティア

評価対象とはしない。しかし、講義内容はどれも直接間接に人生の諸問題や社会の諸問題にかかわることなので、取り組み方によっては、受講者各自がそれぞれの生活の中で、生涯、授業で学んだことを生かすことができる。

評価割合： 0%

▼公正性

直接的な評価対象とすることはない。ただし、授業時の発言などで、深刻な人権侵害、差別容認発言など、キリスト教の精神にも著しく反する不公正な言動がある場合は減点や嚴重注意の対象となる。カンニングなどの不正行為は『履修要覧』の規定に基づいて対処する。

評価割合：0%

▼その他

この授業の成績に関することと、本学チャペルとのかかわりはない。

評価割合：この授業の成績に関することと、本

授業計画： 担当者の名前に続く()内には、教科書、参考文献などが示されている。

・野口良哉(『聖書』無料配布、レジュメ配布、パワーポイント活用)

第01回 永遠のベストセラー『聖書』。その全体像(構成、原語、成立、主題等)を概観する。

第02回 キリスト教二千年の歴史を俯瞰し、その多様性(三大教派等)について学ぶ。

第03回 本学(園)創立の経緯を知り、創立者たちの祈りに思いを馳せる。

・結城敏也(講義資料unipa掲示に添付、参考書:中村圭志「教養としての宗教入門—基礎から学べる信仰と文化」中公新書)

第04回 宗教とは何か?宗教学的見地から宗教現象について概観してみよう。

第05回 キリスト教とは何か?世界に存在するさまざまな宗教とキリスト教との比較

第06回 宗教における諸要素 超越性、敬虔、畏敬、社会性、現世利益

・館野 真(プリント配付、パワーポイント)

第07回 神の愛(天地創造が証言する、あなたを愛しておられる神)

第08回 人の罪(人の「罪」の正体:あなたの善悪の知識と神への恐怖)

第09回 救い(キリストの十字架と復活による、あなたの新しい創造)

・小幡幸和(レジュメ配布、パワーポイント使用)

第10回 共に生きる(1. 聖書の概要、キリスト教精神の現代的意義)

第11回 共に生きる(2. 非西洋社会にみるキリスト教精神の展開)

第12回 共に生きる(3. 多様性を受け入れるためのキリスト教的基礎)

・佐々木徹(プリント配付)

第13回 キリスト教科目の意義

第14回 旧約聖書と新約聖書(神学的観点から)

第15回 苦しみの意味と喜びについて

定期試験

使用テキスト： 適宜プリントを配布する。又、授業計画を参照せよ。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 常日頃から、キリスト教あるいは宗教の問題について関心を持ち、それを書物などで調べ深めておくと効率的な予習となる。各授業ごとにノートや配布されたプリントを使って復習し、自分で調べ考察し、疑問点などがあれば教員に直接尋ねて学ぶことを勧める。参考文献などは、適宜提示する。

障がいのある履修者への対応： 真摯な対応を心掛けたいが、まずは学務部等に連絡してください。

授業時間外の連絡手段： IC-UNIPAの掲示やメールを用いたり、オフィスアワーなどで、教員が研究室やチャペルで直接対応したりします。

留意事項： 全員必修の科目である。キリスト教主義大学成立の根幹にかかわる授業なので、各自まじめに取り組むこと。

科目コード:10050 科目ナンバリング: 主な使用言語:日本語

授業名(英文):キリスト教の精神と文化I c(Introduction to Christianity I c)

担当者:結城 敏也、佐々木 徹、小幡 幸和、野口 良哉、館野 真

基本情報

年次:1

単位数:2

授業形式:講義

曜時:金曜2限

履修可能学科・専攻: E Pe Pc C W F N M

関連資格:保育

AL要素: 16. 振り返り用紙と応答
18. その他

授業の概要:

5人の先生方によるオムニバス形式の授業。全授業回数は15回で、先生1人当たり3回の授業を行う。キリスト教に関する先生方の専門分野も、立場もそれぞれ異なるので、受講者は様々な考え方に接することになる。講義内容は、旧約聖書、新約聖書、神学、哲学、宗教学、キリスト教倫理、キリスト教史、現代社会の諸問題など多岐にわたる。キリスト教の深さと広さを知ってもらう。受講者から、講義内容に関する質問を募ることがある。

キーワード: 神、キリスト、信仰(信頼)、自由と愛、希望、正義と平和、教会と社会、キリスト教と諸宗教

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標: 講義で取り上げられた、建学の精神であるキリスト教に関する学問的知識を暗記し、それを自ら自主的にキリスト教について考察する基礎とすることができる。

評価方法: 学期末筆記試験

評価割合: 80%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 授業内容を自らのものとし、自らの思考と判断をもってキリスト教の問題群に分け入り、自らの考察を論理的に表現するため、知識の系統的整理ができる。

評価方法: 学期末筆記試験

評価割合: 20%

▼学修に主体的に取り組む態度

評価対象とはしない。ただし、受講者には手書きノートの作成が推奨されるので、授業の理解を深め記述力を身に着けるための訓練を主体的にすることになる。

評価割合: 0%

▼実践的ボランティア

評価対象とはしない。しかし、講義内容はどれも直接間接に人生の諸問題や社会の諸問題にかかわることなので、取り組み方によっては、受講者各自がそれぞれの生活の中で、生涯、授業で学んだことを生かすことができる。

評価割合: 0%

▼公正性

直接的な評価対象とすることはない。ただし、授業時の発言などで、深刻な人権侵害、差別容認発言など、キリスト教の精神にも著しく反する不公正な言動がある場合は減点や厳重注意の対象となる。カンニングなどの不正行為は『履修要覧』の規定に基づいて対処する。

評価割合: 0%

▼その他

この授業の成績に関することと、本学チャペルとのかかわりはない。

評価割合: この授業の成績に関することと、本

授業計画: 担当者の名前に続く()内には、教科書、参考文献などが示されている。

・結城敏也(講義資料unipa掲示に添付、参考書:中村圭志「教養としての宗教入門-基礎

から学べる信仰と文化」中公新書)

- 第01回 宗教とは何か？宗教学的見地から宗教現象について概観してみよう。
- 第02回 キリスト教とは何か？世界に存在するさまざまな宗教とキリスト教との比較
- 第03回 宗教における諸要素 超越性、敬虔、畏敬、社会性、現世利益

・ 館野 真 (プリント配付、パワーポイント)

- 第04回 神の愛(天地創造が証言する、あなたを愛しておられる神)
- 第05回 人の罪(人の「罪」の正体:あなたの善悪の知識と神への恐怖)
- 第06回 救い (キリストの十字架と復活による、あなたの新しい創造)

・ 小幡幸和 (レジュメ配布、パワーポイント使用)

- 第07回 共に生きる (1. 聖書の概要、キリスト教精神の現代的意義)
- 第08回 共に生きる (2. 非西洋社会にみるキリスト教精神の展開)
- 第09回 共に生きる (3. 多様性を受け入れるためのキリスト教的基礎)

・ 佐々木徹(プリント配付)

- 第10回 キリスト教科目の意義
- 第11回 旧約聖書と新約聖書(神学的観点から)
- 第12回 苦しみの意味と喜びについて

・ 野口良哉 (『聖書』無料配布、レジュメ配布、パワーポイント活用)

- 第13回 永遠のベストセラー『聖書』。その全体像(構成、原語、成立、主題等)を概観する。
- 第14回 キリスト教二千年の歴史を俯瞰し、その多様性(三大教派等)について学ぶ。
- 第15回 本学(園)創立の経緯を知り、創立者たちの祈りに思いを馳せる。

定期試験

使用テキスト: 適宜プリントを配布する。又、授業計画を参照せよ。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 常日頃から、キリスト教あるいは宗教の問題について関心を持ち、それを書物などで調べ深めておくと効率的な予習となろう。各授業ごとにノートや配布されたプリントを使って復習し、自分で調べ考察し、疑問点などがあれば教員に直接尋ねて学ぶことを勧める。参考文献などは、適宜提示する。

障がいのある履修者への対応: 真摯な対応を心掛けたいが、まずは学務部等に連絡してください。

授業時間外の連絡手段: IC-UNIPAの掲示やメールを用いたり、オフィスアワーなどで、教員が研究室やチャペルで直接対応したりします。

留意事項: 全員必修の科目である。キリスト教主義大学成立の根幹にかかわる授業なので、各自まじめに取り組むこと。

科目コード:10050

科目ナンバリング:

主な使用言語:日本語

授業名(英文):キリスト教の精神と文化I d(Introduction to Christianity I d)

担当者:館野 真、佐々木 徹、結城 敏也、小幡 幸和、野口 良哉

基本情報

年次:1

単位数:2

授業形式:講義

曜時:金曜2限

履修可能学科・専攻: E Pe Pc C W F N M

関連資格:保育

AL要素: 16. 振り返り用紙と応答
18. その他

授業の概要:

5人の先生方によるオムニバス形式の授業。全授業回数は15回で、先生1人当たり3回の授

業を行う。キリスト教に関する先生方の専門分野も、立場もそれぞれ異なるので、受講者は様々な考え方に接することになる。講義内容は、旧約聖書、新約聖書、神学、哲学、宗教学、キリスト教倫理、キリスト教史、現代社会の諸問題など多岐にわたる。キリスト教の深さと広さを知ってもらう。受講者から、講義内容に関する質問を募ることがある。

キーワード： 神、キリスト、信仰(信頼)、自由と愛、希望、正義と平和、教会と社会、キリスト教と諸宗教

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 講義で取り上げられた、建学の精神であるキリスト教に関する学問的知識を暗記し、それを自ら自主的にキリスト教について考察する基礎とすることができる。

評価方法： 学期末筆記試験。

評価割合： 80%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 授業内容を自らのものとし、自らの思考と判断をもってキリスト教の問題群に分け入り、自らの考察を論理的に表現するため、知識の系統的整理ができる。

評価方法： 学期末筆記試験

評価割合： 20%

▼学修に主体的に取り組む態度

評価対象とはしない。ただし、受講者には手書きノートの作成が推奨されるので、授業の理解を深め記述力を身に着けるための訓練を主体的にすることになる。

評価割合： 0%

▼実践的ボランティア

評価対象とはしない。しかし、講義内容はどれも直接間接に人生の諸問題や社会の諸問題にかかわることなので、取り組み方によっては、受講者各自がそれぞれの生活の中で、生涯、授業で学んだことを生かすことができる。

評価割合： 0%

▼公正性

直接的な評価対象とすることはない。ただし、授業時の発言などで、深刻な人権侵害、差別容認発言など、キリスト教の精神にも著しく反する不公正な言動がある場合は減点や嚴重注意の対象となる。カンニングなどの不正行為は『履修要覧』の規定に基づいて対処する。

評価割合： 0%

▼その他

この授業の成績に関することと、本学チャペルとのかかわりはない。

評価割合： この授業の成績に関することと、本

授業計画： 担当者の名前に続く()内には、教科書、参考文献などが示されている。

・ 館野 真 (プリント配付、パワーポイント)

第01回 神の愛(天地創造が証言する、あなたを愛しておられる神)

第02回 人の罪(人の「罪」の正体:あなたの善悪の知識と神への恐怖)

第03回 救い (キリストの十字架と復活による、あなたの新しい創造)

・ 小幡幸和 (レジメ配布、パワーポイント使用)

第04回 共に生きる (1. 聖書の概要、キリスト教精神の現代的意義)

第05回 共に生きる (2. 非西洋社会にみるキリスト教精神の展開)

第06回 共に生きる (3. 多様性を受け入れるためのキリスト教的基礎)

・ 佐々木徹(プリント配付)

第07回 キリスト教科目の意義

第08回 旧約聖書と新約聖書(神学的観点から)

第09回 苦しみの意味と喜びについて

- ・野口良哉 (『聖書』無料配布、レジュメ配布、パワーポイント活用)
- 第10回 永遠のベストセラー『聖書』。その全体像(構成、原語、成立、主題等)を概観する。
- 第11回 キリスト教二千年の歴史を俯瞰し、その多様性(三大教派等)について学ぶ。
- 第12回 本学(園)創立の経緯を知り、創立者たちの祈りに思いを馳せる。

- ・結城敏也 (講義資料unipa掲示に添付、参考書:中村圭志「教養としての宗教入門―基礎から学べる信仰と文化」中公新書)
- 第13回 宗教とは何か?宗教学的見地から宗教現象について概観してみよう。
- 第14回 キリスト教とは何か?世界に存在するさまざまな宗教とキリスト教との比較
- 第15回 宗教における諸要素 超越性、敬虔、畏敬、社会性、現世利益

定期試験

使用テキスト: 適宜プリントを配布する。又、授業計画を参照せよ。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 常日頃から、キリスト教あるいは宗教の問題について関心を持ち、それを書物などで調べ深めておくこと効率的な予習となる。各授業ごとにノートや配布されたプリントを使って復習し、自分で調べ考察し、疑問点などがあれば教員に直接尋ねて学ぶことを勧める。参考文献などは、適宜提示する。

障がいのある履修者への対応: 真摯な対応を心掛けたいが、まずは学務部等に連絡してください。

授業時間外の連絡手段: IC-UNIPAの掲示やメールを用いたり、オフィスアワーなどで、教員が研究室やチャペルで直接対応したりします。

留意事項: 全員必修の科目である。キリスト教主義大学成立の根幹にかかわる授業なので、各自まじめに取り組むこと。

科目コード:10050 科目ナンバリング: 主な使用言語:日本語

授業名(英文):キリスト教の精神と文化I e (Introduction to Christianity I e)

担当者:小幡 幸和、佐々木 徹、結城 敏也、野口 良哉、館野 真

基本情報

年次:1

単位数:2

授業形式:講義

曜時:金曜2限

履修可能学科・専攻: E Pe Pc C W F N M

関連資格:保育

AL要素: 16. 振り返り用紙と応答
18. その他

授業の概要: 5人の先生方によるオムニバス形式の授業。全授業回数は15回で、先生1人当たり3回の授業を行う。キリスト教に関する先生方の専門分野も、立場もそれぞれ異なるので、受講者は様々な考え方に接することになる。講義内容は、旧約聖書、新約聖書、神学、哲学、宗教学、キリスト教倫理、キリスト教史、現代社会の諸問題など多岐にわたる。キリスト教の深さと広さを知ってもらう。受講者から、講義内容に関する質問を募ることがある。

キーワード: 神、キリスト、信仰(信頼)、自由と愛、希望、正義と平和、教会と社会、キリスト教と諸宗教

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標: 講義で取り上げられた、建学の精神であるキリスト教に関する学問的知識を暗記し、それを自ら自主的にキリスト教について考察する基礎とすることができる。

評価方法: 学期末筆記試験

評価割合: 80%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 授業内容を自らのものとし、自らの思考と判断をもってキリスト教の問題群に分け入り、自らの考察を論理的に表現するため、知識の系統的整理ができる。

評価方法: 学期末筆記試験

評価割合: 20%

▼学修に主体的に取り組む態度

評価対象とはしない。ただし、受講者には手書きノートの作成が推奨されるので、授業の理解を深め記述力を身に着けるための訓練を主体的にすることになる。

評価割合: 0%

▼実践的ボランティア

評価対象とはしない。しかし、講義内容はどれも直接間接に人生の諸問題や社会の諸問題にかかわることなので、取り組み方によっては、受講者各自がそれぞれの生活の中で、生涯、授業で学んだことを生かすことができる。

評価割合: 0%

▼公正性

直接的な評価対象とすることはない。ただし、授業時の発言などで、深刻な人権侵害、差別容認発言など、キリスト教の精神にも著しく反する不公正な言動がある場合は減点や嚴重注意の対象となる。カンニングなどの不正行為は『履修要覧』の規定に基づいて対処する。

評価割合: 0%

▼その他

この授業の成績に関することと、本学チャペルとのかかわりはない。

評価割合: この授業の成績に関することと、本

授業計画: 担当者の名前に続く()内には、教科書、参考文献などが示されている。

・小幡幸和 (レジメ配布、パワーポイント使用)

第01回 共に生きる (1. 聖書の概要、キリスト教精神の現代的意義)

第02回 共に生きる (2. 非西洋社会にみるキリスト教精神の展開)

第03回 共に生きる (3. 多様性を受け入れるためのキリスト教的基礎)

・佐々木徹(プリント配付)

第04回 キリスト教科目の意義

第05回 旧約聖書と新約聖書(神学的観点から)

第06回 苦しみの意味と喜びについて

・野口良哉 (『聖書』無料配布、レジメ配布、パワーポイント活用)

第07回 永遠のベストセラー『聖書』。その全体像(構成、原語、成立、主題等)を概観する。

第08回 キリスト教二千年の歴史を俯瞰し、その多様性(三大教派等)について学ぶ。

第09回 本学(園)創立の経緯を知り、創立者たちの祈りに思いを馳せる。

・結城敏也(講義資料unipa掲示に添付、参考書: 中村圭志「教養としての宗教入門—基礎から学べる信仰と文化」中公新書)

第10回 宗教とは何か? 宗教学的見地から宗教現象について概観してみよう。

第11回 キリスト教とは何か? 世界に存在するさまざまな宗教とキリスト教との比較

第12回 宗教における諸要素 超越性、敬虔、畏敬、社会性、現世利益

・舘野 真 (プリント配付、パワーポイント)

第13回 神の愛(天地創造が証言する、あなたを愛しておられる神)

第14回 人の罪(人の「罪」の正体:あなたの善悪の知識と神への恐怖)

第15回 救い(キリストの十字架と復活による、あなたの新しい創造)

定期試験

使用テキスト: 適宜プリントを配布する。又、授業計画を参照せよ。

予習・復習のポイントと
参考文献・資料等: 常日頃から、キリスト教あるいは宗教の問題について関心を持ち、それを書物などで調べ深

めておくと効率的な予習となろう。各授業ごとにノートや配布されたプリントを使って復習し、自分で調べ考察し、疑問点などがあれば教員に直接尋ねて学ぶことを勧める。参考文献などは、適宜提示する。

障がいのある履修者への対応： 真摯な対応を心掛けたいが、まずは学務部等に連絡してください。

授業時間外の連絡手段： IC-UNIPAの掲示やメールを用いたり、オフィスアワーなどで、教員が研究室やチャペルで直接対応したりします。

留意事項： 全員必修の科目である。キリスト教主義大学成立の根幹にかかわる授業なので、各自まじめに取り組むこと。

科目コード：10050 科目ナンバリング： 主な使用言語：日本語

授業名(英文)：キリスト教の精神と文化I f(Introduction to Christianity I f)

担当者：佐々木 徹、小幡 幸和、野口 良哉、舘野 真、鈴木 光

基本情報

年次：1

単位数：2

授業形式：講義

曜時：金曜4限

履修可能学科・専攻：E Pe Pc C W F N M

関連資格：保育

AL要素：16. 振り返り用紙と応答

18. その他

授業の概要： 5人の先生方によるオムニバス形式の授業。全授業回数は15回で、先生1人当たり3回の授業を行う。キリスト教に関する先生方の専門分野も、立場もそれぞれ異なるので、受講者は様々な考え方に接することになる。講義内容は、旧約聖書、新約聖書、神学、哲学、宗教学、キリスト教倫理、キリスト教史、現代社会の諸問題など多岐にわたる。キリスト教の深さと広さを知ってもらう。受講者から、講義内容に関する質問を募ることがある。

キーワード： 神、キリスト、信仰(信頼)、自由と愛、希望、正義と平和、教会と社会、キリスト教と諸宗教

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 講義で取り上げられた、建学の精神であるキリスト教に関する学問的知識を暗記し、それを自ら自主的にキリスト教について考察する基礎とすることができる。

評価方法： 学期末筆記試験

評価割合： 80%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 授業内容を自らのものとし、自らの思考と判断をもってキリスト教の問題群に分け入り、自らの考察を論理的に表現するため、知識の系統的整理ができる。

評価方法： 学期末筆記試験

評価割合： 20%

▼学修に主体的に取り組む態度

評価対象とはしない。ただし、受講者には手書きノートの作成が推奨されるので、授業の理解を深め記述力を身に着けるための訓練を主体的にすることになる。

評価割合： 0%

▼実践的ボランティア

評価対象とはしない。しかし、講義内容はどれも直接間接に人生の諸問題や社会の諸問題にかかわることなので、取り組み方によっては、受講者各自がそれぞれの生活の中で、生涯、授業で学んだことを生かすことができる。

評価割合： 0%

▼公正性

直接的な評価対象とすることはない。ただし、授業時の発言などで、深刻な人権侵害、差別容認発言など、

キリスト教の精神にも著しく反する不公正な言動がある場合は減点や厳重注意の対象となる。カンニングなどの不正行為は『履修要覧』の規定に基づいて対処する。

評価割合：0%

▼その他

この授業の成績に関することと、本学チャペルとのかかわりはない。

評価割合：この授業の成績に関することと、本

授業計画： 担当者の名前に続く()内には、教科書、参考文献などが示されている。

・佐々木徹(プリント配付)

第01回 キリスト教科目の意義

第02回 旧約聖書と新約聖書(神学的観点から)

第03回 苦しみの意味と喜びについて

・野口良哉(『聖書』無料配布、レジュメ配布、パワーポイント活用)

第04回 永遠のベストセラー『聖書』。その全体像(構成、原語、成立、主題等)を概観する。

第05回 キリスト教二千年の歴史を俯瞰し、その多様性(三大教派等)について学ぶ。

第06回 本学(園)創立の経緯を知り、創立者たちの祈りに思いを馳せる。

・鈴木光(『聖書』、プリント配布、PPT)

第07回 神様の名前を呼ぶ(聖書の神様について、祈りについて)

第08回 私たちの姿 (人間は善いものか、悪いものか)

第09回 二つの命 (生きること、死ぬこと、さらに生きること)

・館野 真(プリント配付、パワーポイント)

第10回 神の愛(天地創造が証言する、あなたを愛しておられる神)

第11回 人の罪(人の「罪」の正体:あなたの善悪の知識と神への恐怖)

第12回 救い(キリストの十字架と復活による、あなたの新しい創造)

・小幡幸和(レジュメ配布、パワーポイント使用)

第13回 共に生きる(1. 聖書の概要、キリスト教精神の現代的意義)

第14回 共に生きる(2. 非西洋社会にみるキリスト教精神の展開)

第15回 共に生きる(3. 多様性を受け入れるためのキリスト教的基礎)

定期試験

使用テキスト： 適宜プリントを配布する。又、授業計画を参照せよ。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 常日頃から、キリスト教あるいは宗教の問題について関心を持ち、それを書物などで調べ深めておくと効率的な予習となる。各授業ごとにノートや配布されたプリントを使って復習し、自分で調べ考察し、疑問点などがあれば教員に直接尋ねて学ぶことを勧める。参考文献などは、適宜提示する。

障がいのある履修者への対応： 真摯な対応を心掛けたいが、まずは学務部等に連絡してください。

授業時間外の連絡手段： IC-UNIPAの掲示やメールを用いたり、オフィスアワーなどで、教員が研究室やチャペルで直接対応したりします。

留意事項： 全員必修の科目である。キリスト教主義大学成立の根幹にかかわる授業なので、各自まじめに取り組むこと。

科目コード:10050

科目ナンバリング:

主な使用言語:日本語

授業名(英文):キリスト教の精神と文化I g(Introduction to Christianity I g)

担当者:野口 良哉、佐々木 徹、小幡 幸和、館野 真、鈴木 光

基本情報

年次:1

単位数:2

授業形式:講義

曜時:金曜4限

履修可能学科・専攻: E Pe Pc C W F N M

関連資格:保育

AL要素: 16. 振り返り用紙と応答
18. その他

授業の概要: 5人の先生方によるオムニバス形式の授業。全授業回数は15回で、先生1人当たり3回の授業を行う。キリスト教に関する先生方の専門分野も、立場もそれぞれ異なるので、受講者は様々な考え方に接することになる。講義内容は、旧約聖書、新約聖書、神学、哲学、宗教学、キリスト教倫理、キリスト教史、現代社会の諸問題など多岐にわたる。キリスト教の深さと広さを知ってもらう。受講者から、講義内容に関する質問を募ることがある。

キーワード: 神、キリスト、信仰(信頼)、自由と愛、希望、正義と平和、教会と社会、キリスト教と諸宗教

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標: 講義で取り上げられた、建学の精神であるキリスト教に関する学問的知識を暗記し、それを自ら自主的にキリスト教について考察する基礎とすることができる。

評価方法: 学期末筆記試験

評価割合: 80%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 授業内容を自らのものとし、自らの思考と判断をもってキリスト教の問題群に分け入り、自らの考察を論理的に表現するため、知識の系統的整理ができる。

評価方法: 学期末筆記試験

評価割合: 20%

▼学修に主体的に取り組む態度

評価対象とはしない。ただし、受講者には手書きノートの作成が推奨されるので、授業の理解を深め記述力を身に着けるための訓練を主体的にすることになる。

評価割合: 0%

▼実践的ボランティア

評価対象とはしない。しかし、講義内容はどれも直接間接に人生の諸問題や社会の諸問題にかかわることなので、取り組み方によっては、受講者各自がそれぞれの生活の中で、生涯、授業で学んだことを生かすことができる。

評価割合: 0%

▼公正性

直接的な評価対象とすることはない。ただし、授業時の発言などで、深刻な人権侵害、差別容認発言など、キリスト教の精神にも著しく反する不公正な言動がある場合は減点や厳重注意の対象となる。カンニングなどの不正行為は『履修要覧』の規定に基づいて対処する。

評価割合: 0%

▼その他

この授業の成績に関することと、本学チャペルとのかかわりはない。

評価割合: この授業の成績に関することと、本

授業計画: 担当者の名前に続く()内には、教科書、参考文献などが示されている。

・野口良哉(『聖書』無料配布、レジュメ配布、パワーポイント活用)

第01回 永遠のベストセラー『聖書』。その全体像(構成、原語、成立、主題等)を概観する。

第02回 キリスト教二千年の歴史を俯瞰し、その多様性(三大教派等)について学ぶ。

第03回 本学(園)創立の経緯を知り、創立者たちの祈りに思いを馳せる。

・鈴木光 (『聖書』、プリント配布、PPT)

第04回 神様の名前を呼ぶ(聖書の神様について、祈りについて)

第05回 私たちの姿 (人間は善いものか、悪いものか)

第06回 二つの命 (生きること、死ぬこと、さらに生きること)

・館野 真 (プリント配布、パワーポイント)

第07回 神の愛(天地創造が証言する、あなたを愛しておられる神)

第08回 人の罪(人の「罪」の正体:あなたの善悪の知識と神への恐怖)

第09回 救い (キリストの十字架と復活による、あなたの新しい創造)

・小幡幸和 (レジメ配布、パワーポイント使用)

第10回 共に生きる (1. 聖書の概要、キリスト教精神の現代的意義)

第11回 共に生きる (2. 非西洋社会にみるキリスト教精神の展開)

第12回 共に生きる (3. 多様性を受け入れるためのキリスト教的基礎)

・佐々木徹(プリント配布)

第13回 キリスト教科目の意義

第14回 旧約聖書と新約聖書(神学的観点から)

第15回 苦しみの意味と喜びについて

定期試験

使用テキスト: 適宜プリントを配布する。又、授業計画を参照せよ。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 常日頃から、キリスト教あるいは宗教の問題について関心を持ち、それを書物などで調べ深めておくこと効率的な予習となる。各授業ごとにノートや配布されたプリントを使って復習し、自分で調べ考察し、疑問点などがあれば教員に直接尋ねて学ぶことを勧める。参考文献などは、適宜提示する。

障がいのある履修者への対応: 真摯な対応を心掛けたいが、まずは学務部等に連絡してください。

授業時間外の連絡手段: IC-UNIPAの掲示やメールを用いたり、オフィスアワーなどで、教員が研究室やチャペルで直接対応したりします。

留意事項: 全員必修の科目である。キリスト教主義大学成立の根幹にかかわる授業なので、各自まじめに取り組むこと。

科目コード:10050 科目ナンバリング: 主な使用言語:日本語

授業名(英文):キリスト教の精神と文化I h(Introduction to Christianity I h)

担当者:鈴木 光、佐々木 徹、小幡 幸和、野口 良哉、館野 真

基本情報

年次:1

単位数:2

授業形式:講義

曜時:金曜4限

履修可能学科・専攻: E Pe Pc C W F N M

関連資格:保育

AL要素: 16. 振り返り用紙と応答
18. その他

授業の概要: 5人の先生方によるオムニバス形式の授業。全授業回数は15回で、先生1人当たり3回の授業を行う。キリスト教に関する先生方の専門分野も、立場もそれぞれ異なるので、受講者は様々な考え方に接することになる。講義内容は、旧約聖書、新約聖書、神学、哲学、宗教学、キリスト教倫理、キリスト教史、現代社会の諸問題など多岐にわたる。キリスト教の深さと広さを知ってもらおう。受講者から、講義内容に関する質問を募ることがある。

キーワード： 神、キリスト、信仰(信頼)、自由と愛、希望、正義と平和、教会と社会、キリスト教と諸宗教

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 講義で取り上げられた、建学の精神であるキリスト教に関する学問的知識を暗記し、それを自ら自主的にキリスト教について考察する基礎とすることができる。

評価方法： 学期末筆記試験

評価割合： 80%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 授業内容を自らのものとし、自らの思考と判断をもってキリスト教の問題群に分け入り、自らの考察を論理的に表現するため、知識の系統的整理ができる。

評価方法： 学期末筆記試験

評価割合： 20%

▼学修に主体的に取り組む態度

評価対象とはしない。ただし、受講者には手書きノートの作成が推奨されるので、授業の理解を深め記述力を身に着けるための訓練を主体的にすることになる。

評価割合： 0%

▼実践的ボランティア

評価対象とはしない。しかし、講義内容はどれも直接間接に人生の諸問題や社会の諸問題にかかわることなので、取り組み方によっては、受講者各自がそれぞれの生活の中で、生涯、授業で学んだことを生かすことができる。

評価割合： 0%

▼公正性

直接的な評価対象とすることはない。ただし、授業時の発言などで、深刻な人権侵害、差別容認発言など、キリスト教の精神にも著しく反する不公正な言動がある場合は減点や嚴重注意の対象となる。カンニングなどの不正行為は『履修要覧』の規定に基づいて対処する。

評価割合： 0%

▼その他

この授業の成績に関することと、本学チャペルとのかかわりはない。

評価割合： この授業の成績に関することと、本

授業計画： 担当者の名前に続く()内には、教科書、参考文献などが示されている。

・ 鈴木光 (『聖書』、プリント配布、PPT)

第01回 神様の名前を呼ぶ(聖書の神様について、祈りについて)

第02回 私たちの姿 (人間は善いものか、悪いものか)

第03回 二つの命 (生きること、死ぬこと、さらに生きること)

・ 館野 真 (プリント配布、パワーポイント)

第04回 神の愛(天地創造が証言する、あなたを愛しておられる神)

第05回 人の罪(人の「罪」の正体:あなたの善悪の知識と神への恐怖)

第06回 救い(キリストの十字架と復活による、あなたの新しい創造)

・ 小幡幸和 (レジメ配布、パワーポイント使用)

第07回 共に生きる(1. 聖書の概要、キリスト教精神の現代的意義)

第08回 共に生きる(2. 非西洋社会にみるキリスト教精神の展開)

第09回 共に生きる(3. 多様性を受け入れるためのキリスト教的基礎)

・ 佐々木徹(プリント配布)

第10回 キリスト教科目の意義

第11回 旧約聖書と新約聖書(神学的観点から)

第12回 苦しみの意味と喜びについて

- ・野口良哉(『聖書』無料配布、レジュメ配布、パワーポイント活用)
- 第13回 永遠のベストセラー『聖書』。その全体像(構成、原語、成立、主題等)を概観する。
- 第14回 キリスト教二千年の歴史を俯瞰し、その多様性(三大教派等)について学ぶ。
- 第15回 本学(園)創立の経緯を知り、創立者たちの祈りに思いを馳せる。

定期試験

使用テキスト: 適宜プリントを配布する。又、授業計画を参照せよ。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 常日頃から、キリスト教あるいは宗教の問題について関心を持ち、それを書物などで調べ深めておくこと効率的な予習となる。各授業ごとにノートや配布されたプリントを使って復習し、自分で調べ考察し、疑問点などがあれば教員に直接尋ねて学ぶことを勧める。参考文献などは、適宜提示する。

障がいのある履修者への対応: 真摯な対応を心掛けたいが、まずは学務部等に連絡してください。

授業時間外の連絡手段: IC-UNIPAの掲示やメールを用いたり、オフィスアワーなどで、教員が研究室やチャペルで直接対応したりします。

留意事項: 全員必修の科目である。キリスト教主義大学成立の根幹にかかわる授業なので、各自まじめに取り組むこと。

科目コード: 10050 **科目ナンバリング:** **主な使用言語:** 日本語

授業名(英文): キリスト教の精神と文化I i (Introduction to Christianity I i)

担当者: 館野 真、佐々木 徹、小幡 幸和、野口 良哉、鈴木 光

基本情報

年次: 1

単位数: 2

授業形式: 講義

曜時: 金曜4限

履修可能学科・専攻: E Pe Pc C W F N M

関連資格: 保育

AL要素: 16. 振り返り用紙と応答
18. その他

授業の概要:

5人の先生方によるオムニバス形式の授業。全授業回数は15回で、先生1人当たり3回の授業を行う。キリスト教に関する先生方の専門分野も、立場もそれぞれ異なるので、受講者は様々な考え方に接することになる。講義内容は、旧約聖書、新約聖書、神学、哲学、宗教学、キリスト教倫理、キリスト教史、現代社会の諸問題など多岐にわたる。キリスト教の深さと広さを知ってもらう。受講者から、講義内容に関する質問を募ることがある。

キーワード: 神、キリスト、信仰(信頼)、自由と愛、希望、正義と平和、教会と社会、キリスト教と諸宗教

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標: 講義で取り上げられた、建学の精神であるキリスト教に関する学問的知識を暗記し、それを自ら自主的にキリスト教について考察する基礎とすることができる。

評価方法: 学期末筆記試験

評価割合: 80%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 授業内容を自らのものとし、自らの思考と判断をもってキリスト教の問題群に分け入り、自らの考察を論理的に表現するため、知識の系統的整理ができる。

評価方法: 学期末筆記試験

評価割合: 20%

▼学修に主体的に取り組む態度

評価対象とはしない。ただし、受講者には手書きノートの作成が推奨されるので、授業の理解を深め記述力を身に着けるための訓練を主体的にすることになる。

評価割合：0%

▼実践的ボランティア

評価対象とはしない。しかし、講義内容はどれも直接間接に人生の諸問題や社会の諸問題にかかわることなので、取り組み方によっては、受講者各自がそれぞれの生活の中で、生涯、授業で学んだことを生かすことができる。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象とすることはない。ただし、授業時の発言などで、深刻な人権侵害、差別容認発言など、キリスト教の精神にも著しく反する不公正な言動がある場合は減点や厳重注意の対象となる。カンニングなどの不正行為は『履修要覧』の規定に基づいて対処する。

評価割合：0%

▼その他

この授業の成績に関することと、本学チャペルとのかかわりはない。

評価割合：この授業の成績に関することと、本

授業計画： 担当者の名前に続く()内には、教科書、参考文献などが示されている。

・ 舘野 真 (プリント配付、パワーポイント)

第01回 神の愛(天地創造が証言する、あなたを愛しておられる神)

第02回 人の罪(人の「罪」の正体:あなたの善悪の知識と神への恐怖)

第03回 救い (キリストの十字架と復活による、あなたの新しい創造)

・小幡幸和 (レジュメ配布、パワーポイント使用)

第04回 共に生きる (1. 聖書の概要、キリスト教精神の現代的意義)

第05回 共に生きる (2. 非西洋社会にみるキリスト教精神の展開)

第06回 共に生きる (3. 多様性を受け入れるためのキリスト教的基礎)

・佐々木徹(プリント配付)

第07回 キリスト教科目の意義

第08回 旧約聖書と新約聖書(神学的観点から)

第09回 苦しみの意味と喜びについて

・野口良哉 (『聖書』無料配布、レジュメ配布、パワーポイント活用)

第10回 永遠のベストセラー『聖書』。その全体像(構成、原語、成立、主題等)を概観する。

第11回 キリスト教二千年の歴史を俯瞰し、その多様性(三大教派等)について学ぶ。

第12回 本学(園)創立の経緯を知り、創立者たちの祈りに思いを馳せる。

・ 鈴木光 (『聖書』、プリント配布、PPT)

第13回 神様の名前を呼ぶ(聖書の神様について、祈りについて)

第14回 私たちの姿 (人間は善いものか、悪いものか)

第15回 二つの命 (生きること、死ぬこと、さらに生きること)

定期試験

使用テキスト： 適宜プリントを配布する。又、授業計画を参照せよ。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 常日頃から、キリスト教あるいは宗教の問題について関心を持ち、それを書物などで調べ深めておくこと効率的な予習となる。各授業ごとにノートや配布されたプリントを使って復習し、自分で調べ考察し、疑問点などがあれば教員に直接尋ねて学ぶことを勧める。参考文献などは、適宜提示する。

障がいのある履修者への対応： 真摯な対応を心掛けたいが、まずは学務部等に連絡してください。

授業時間外の連絡手段： IC-UNIPAの掲示やメールを用いたり、オフィスアワーなどで、教員が研究室やチャペルで直接対応したりします。

留意事項： 全員必修の科目である。キリスト教主義大学成立の根幹にかかわる授業なので、各自まじめに取り組むこと。

科目コード：10050 **科目ナンバリング：** **主な使用言語：日本語**

授業名(英文)：キリスト教の精神と文化I j(Introduction to Christianity I j)

担当者：小幡 幸和、佐々木 徹、野口 良哉、館野 真、鈴木 光

基本情報

年次：1 **単位数：2** **授業形式：講義**
曜時：金曜4限 **履修可能学科・専攻：E Pe Pc C W F N M**
関連資格：保育 **AL要素：16. 振り返り用紙と応答**
18. その他

授業の概要： 5人の先生方によるオムニバス形式の授業。全授業回数は15回で、先生1人当たり3回の授業を行う。キリスト教に関する先生方の専門分野も、立場もそれぞれ異なるので、受講者は様々な考え方に接することになる。講義内容は、旧約聖書、新約聖書、神学、哲学、宗教学、キリスト教倫理、キリスト教史、現代社会の諸問題など多岐にわたる。キリスト教の深さと広さを知ってもらう。受講者から、講義内容に関する質問を募ることがある。

キーワード： 神、キリスト、信仰(信頼)、自由と愛、希望、正義と平和、教会と社会、キリスト教と諸宗教

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 講義で取り上げられた、建学の精神であるキリスト教に関する学問的知識を暗記し、それを自ら自主的にキリスト教について考察する基礎とすることができる。

評価方法： 学期末筆記試験 **評価割合：80%**

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 授業内容を自らのものとし、自らの思考と判断をもってキリスト教の問題群に分け入り、自らの考察を論理的に表現するため、知識の系統的整理ができる。

評価方法： 学期末筆記試験 **評価割合：20%**

▼学修に主体的に取り組む態度

評価対象とはしない。ただし、受講者には手書きノートの作成が推奨されるので、授業の理解を深め記述力を身に着けるための訓練を主体的にすることになる。

評価割合：0%

▼実践的ボランティア

評価対象とはしない。しかし、講義内容はどれも直接間接に人生の諸問題や社会の諸問題にかかわることなので、取り組み方によっては、受講者各自がそれぞれの生活の中で、生涯、授業で学んだことを生かすことができる。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象とすることはない。ただし、授業時の発言などで、深刻な人権侵害、差別容認発言など、キリスト教の精神にも著しく反する不公正な言動がある場合は減点や厳重注意の対象となる。カンニングなどの不正行為は『履修要覧』の規定に基づいて対処する。

評価割合：0%

▼その他

この授業の成績に関することと、本学チャペルとのかかわりはない。

評価割合: この授業の成績に関することと、本

授業計画: 担当者の名前に続く()内には、教科書、参考文献などが示されている。

・小幡幸和 (レジュメ配布、パワーポイント使用)

第01回 共に生きる (1. 聖書の概要、キリスト教精神の現代的意義)

第02回 共に生きる (2. 非西洋社会にみるキリスト教精神の展開)

第03回 共に生きる (3. 多様性を受け入れるためのキリスト教的基礎)

・佐々木徹 (プリント配付)

第04回 キリスト教科目の意義

第05回 旧約聖書と新約聖書 (神学的観点から)

第06回 苦しみの意味と喜びについて

・野口良哉 (『聖書』無料配布、レジュメ配布、パワーポイント活用)

第07回 永遠のベストセラー『聖書』。その全体像(構成、原語、成立、主題等)を概観する。

第08回 キリスト教二千年の歴史を俯瞰し、その多様性(三大教派等)について学ぶ。

第09回 本学(園)創立の経緯を知り、創立者たちの祈りに思いを馳せる。

・鈴木光 (『聖書』、プリント配布、PPT)

第10回 神様の名前を呼ぶ (聖書の神様について、祈りについて)

第11回 私たちの姿 (人間は善いものか、悪いものか)

第12回 二つの命 (生きること、死ぬこと、さらに生きること)

・舘野 真 (プリント配付、パワーポイント)

第13回 神の愛 (天地創造が証言する、あなたを愛しておられる神)

第14回 人の罪 (人の「罪」の正体: あなたの善悪の知識と神への恐怖)

第15回 救い (キリストの十字架と復活による、あなたの新しい創造)

定期試験

使用テキスト: 適宜プリントを配布する。又、授業計画を参照せよ。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 常日頃から、キリスト教あるいは宗教の問題について関心を持ち、それを書物などで調べ深めておくと効率的な予習となる。各授業ごとにノートや配布されたプリントを使って復習し、自分で調べ考察し、疑問点などがあれば教員に直接尋ねて学ぶことを勧める。参考文献などは、適宜提示する。

障がいのある履修者への対応: 真摯な対応を心掛けたいが、まずは学務部等に連絡してください。

授業時間外の連絡手段: IC-UNIPAの掲示やメールを用いたり、オフィスアワーなどで、教員が研究室やチャペルで直接対応したりします。

留意事項: 全員必修の科目である。キリスト教主義大学成立の根幹にかかわる授業なので、各自まじめに取り組むこと。

科目コード: 10050

科目ナンバリング:

主な使用言語: 日本語

授業名(英文): キリスト教の精神と文化I k (Introduction to Christianity I k)

担当者: 佐々木 徹、結城 敏也、野口 良哉、舘野 真、鈴木 光

基本情報

年次: 1

単位数: 2

授業形式: 講義

曜時: 金曜5限

履修可能学科・専攻: E Pe Pc C W F N M

関連資格: 保育

AL要素: 16. 振り返り用紙と応答

授業の概要： 5人の先生方によるオムニバス形式の授業。全授業回数は15回で、先生1人当たり3回の授業を行う。キリスト教に関する先生方の専門分野も、立場もそれぞれ異なるので、受講者は様々な考え方に接することになる。講義内容は、旧約聖書、新約聖書、神学、哲学、宗教学、キリスト教倫理、キリスト教史、現代社会の諸問題など多岐にわたる。キリスト教の深さと広さを知ってもらう。受講者から、講義内容に関する質問を募ることがある。

キーワード： 神、キリスト、信仰(信頼)、自由と愛、希望、正義と平和、教会と社会、キリスト教と諸宗教

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標： 講義で取り上げられた、建学の精神であるキリスト教に関する学問的知識を暗記し、それを自ら自主的にキリスト教について考察する基礎とすることができる。

評価方法： 学期末筆記試験

評価割合： 80%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標： 授業内容を自らのものとし、自らの思考と判断をもってキリスト教の問題群に分け入り、自らの考察を論理的に表現するため、知識の系統的整理ができる。

評価方法： 学期末筆記試験

評価割合： 20%

▼ 学修に主体的に取り組む態度

評価対象とはしない。ただし、受講者には手書きノートの作成が推奨されるので、授業の理解を深め記述力を身に着けるための訓練を主体的にすることになる。

評価割合： 0%

▼ 実践的ボランティア

評価対象とはしない。しかし、講義内容はどれも直接間接に人生の諸問題や社会の諸問題にかかわることなので、取り組み方によっては、受講者各自がそれぞれの生活の中で、生涯、授業で学んだことを生かすことができる。

評価割合： 0%

▼ 公正性

直接的な評価対象とすることはない。ただし、授業時の発言などで、深刻な人権侵害、差別容認発言など、キリスト教の精神にも著しく反する不公正な言動がある場合は減点や厳重注意の対象となる。カンニングなどの不正行為は『履修要覧』の規定に基づいて対処する。

評価割合： 0%

▼ その他

この授業の成績に関することと、本学チャペルとのかかわりはない。

評価割合： この授業の成績に関することと、本

授業計画： 担当者の名前に続く()内には、教科書、参考文献などが示されている。

・佐々木徹(プリント配付)

第01回 キリスト教科目の意義

第02回 旧約聖書と新約聖書(神学的観点から)

第03回 苦しみの意味と喜びについて

・結城敏也(講義資料unipa掲示に添付、参考書:中村圭志「教養としての宗教入門—基礎から学べる信仰と文化」中公新書)

第04回 宗教とは何か? 宗教学的見地から宗教現象について概観してみよう。

第05回 キリスト教とは何か? 世界に存在するさまざまな宗教とキリスト教との比較

第06回 宗教における諸要素 超越性、敬虔、畏敬、社会性、現世利益

・野口良哉(『聖書』無料配布、レジュメ配布、パワーポイント活用)

- 第07回 永遠のベストセラー『聖書』。その全体像(構成、原語、成立、主題等)を概観する。
 第08回 キリスト教二千年の歴史を俯瞰し、その多様性(三大教派等)について学ぶ。
 第09回 本学(園)創立の経緯を知り、創立者たちの祈りに思いを馳せる。

・ 館野 真 (プリント配付、パワーポイント)

- 第10回 神の愛(天地創造が証言する、あなたを愛しておられる神)
 第11回 人の罪(人の「罪」の正体:あなたの善悪の知識と神への恐怖)
 第12回 救い (キリストの十字架と復活による、あなたの新しい創造)

・ 鈴木光 (『聖書』、プリント配布、PPT)

- 第13回 神様の名前を呼ぶ(聖書の神様について、祈りについて)
 第14回 私たちの姿 (人間は善いものか、悪いものか)
 第15回 二つの命 (生きること、死ぬこと、さらに生きること)

定期試験

使用テキスト: 適宜プリントを配布する。又、授業計画を参照せよ。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 常日頃から、キリスト教あるいは宗教の問題について関心を持ち、それを書物などで調べ深めておくと効率的な予習となる。各授業ごとにノートや配布されたプリントを使って復習し、自分で調べ考察し、疑問点などがあれば教員に直接尋ねて学ぶことを勧める。参考文献などは、適宜提示する。

障がいのある履修者への対応: 真摯な対応を心掛けたいが、まずは学務部等に連絡してください。

授業時間外の連絡手段: IC-UNIPAの掲示やメールを用いたり、オフィスアワーなどで、教員が研究室やチャペルで直接対応したりします。

留意事項: 全員必修の科目である。キリスト教主義大学成立の根幹にかかわる授業なので、各自まじめに取り組むこと。

科目コード:10050 科目ナンバリング: 主な使用言語:日本語

授業名(英文):キリスト教の精神と文化II(Introduction to Christianity II)

担当者:野口 良哉、佐々木 徹、結城 敏也、館野 真、鈴木 光

基本情報

年次:1

単位数:2

授業形式:講義

曜時:金曜5限

履修可能学科・専攻: E Pe Pc C W F N M

関連資格:保育

AL要素: 16. 振り返り用紙と応答
18. その他

授業の概要: 5人の先生方によるオムニバス形式の授業。全授業回数は15回で、先生1人当たり3回の授業を行う。キリスト教に関する先生方の専門分野も、立場もそれぞれ異なるので、受講者は様々な考え方に接することになる。講義内容は、旧約聖書、新約聖書、神学、哲学、宗教学、キリスト教倫理、キリスト教史、現代社会の諸問題など多岐にわたる。キリスト教の深さと広さを知ってもらう。受講者から、講義内容に関する質問を募ることがある。

キーワード: 神、キリスト、信仰(信頼)、自由と愛、希望、正義と平和、教会と社会、キリスト教と諸宗教

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標: 講義で取り上げられた、建学の精神であるキリスト教に関する学問的知識を暗記し、それを自ら自主的にキリスト教について考察する基礎とすることができる。

評価方法: 学期末筆記試験

評価割合: 80%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 授業内容を自らのものとし、自らの思考と判断をもってキリスト教の問題群に分け入り、自らの考察を論理的に表現するため、知識の系統的整理ができる。

評価方法: 学期末筆記試験

評価割合: 20%

▼学修に主体的に取り組む態度

評価対象とはしない。ただし、受講者には手書きノートの作成が推奨されるので、授業の理解を深め記述力を身に着けるための訓練を主体的にすることになる。

評価割合: 0%

▼実践的ボランティア

評価対象とはしない。しかし、講義内容はどれも直接間接に人生の諸問題や社会の諸問題にかかわることなので、取り組み方によっては、受講者各自がそれぞれの生活の中で、生涯、授業で学んだことを生かすことができる。

評価割合: 0%

▼公正性

直接的な評価対象とすることはない。ただし、授業時の発言などで、深刻な人権侵害、差別容認発言など、キリスト教の精神にも著しく反する不公正な言動がある場合は減点や厳重注意の対象となる。カンニングなどの不正行為は『履修要覧』の規定に基づいて対処する。

評価割合: 0%

▼その他

この授業の成績に関することと、本学チャペルとのかかわりはない。

評価割合: この授業の成績に関することと、本

授業計画: 担当者の名前に続く()内には、教科書、参考文献などが示されている。

- ・野口良哉 (『聖書』無料配布、レジュメ配布、パワーポイント活用)
 - 第01回 永遠のベストセラー『聖書』。その全体像(構成、原語、成立、主題等)を概観する。
 - 第02回 キリスト教二千年の歴史を俯瞰し、その多様性(三大教派等)について学ぶ。
 - 第03回 本学(園)創立の経緯を知り、創立者たちの祈りに思いを馳せる。
- ・館野 真 (プリント配付、パワーポイント)
 - 第04回 神の愛(天地創造が証言する、あなたを愛しておられる神)
 - 第05回 人の罪(人の「罪」の正体:あなたの善悪の知識と神への恐怖)
 - 第06回 救い (キリストの十字架と復活による、あなたの新しい創造)
- ・鈴木光 (『聖書』、プリント配布、PPT)
 - 第07回 神様の名前を呼ぶ(聖書の神様について、祈りについて)
 - 第08回 私たちの姿 (人間は善いものか、悪いものか)
 - 第09回 二つの命 (生きること、死ぬこと、さらに生きること)
- ・佐々木徹(プリント配付)
 - 第10回 キリスト教科目の意義
 - 第11回 旧約聖書と新約聖書(神学的観点から)
 - 第12回 苦しみの意味と喜びについて
- ・結城敏也(講義資料unipa掲示に添付、参考書:中村圭志「教養としての宗教入門—基礎から学べる信仰と文化」中公新書)
 - 第13回 宗教とは何か?宗教学的見地から宗教現象について概観してみよう。

第14回 キリスト教とは何か？世界に存在するさまざまな宗教とキリスト教との比較

第15回 宗教における諸要素 超越性、敬虔、畏敬、社会性、現世利益

定期試験

使用テキスト： 適宜プリントを配布する。又、授業計画を参照せよ。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 常日頃から、キリスト教あるいは宗教の問題について関心を持ち、それを書物などで調べ深めておくこと効率的な予習となる。各授業ごとにノートや配布されたプリントを使って復習し、自分で調べ考察し、疑問点などがあれば教員に直接尋ねて学ぶことを勧める。参考文献などは、適宜提示する。

障がいのある履修者への対応： 真摯な対応を心掛けたいが、まずは学務部等に連絡してください。

授業時間外の連絡手段： IC-UNIPAの掲示やメールを用いたり、オフィスアワーなどで、教員が研究室やチャペルで直接対応したりします。

留意事項： 全員必修の科目である。キリスト教主義大学成立の根幹にかかわる授業なので、各自まじめに取り組むこと。

科目コード：10050

科目ナンバリング：

主な使用言語：日本語

授業名(英文)：キリスト教の精神と文化I m (Introduction to Christianity I m)

担当者：結城 敏也、佐々木 徹、野口 良哉、館野 真、鈴木 光

基本情報

年次：1

単位数：2

授業形式：講義

曜時：金曜5限

履修可能学科・専攻：E Pe Pc C W F N M

関連資格：保育

AL要素：16. 振り返り用紙と応答
18. その他

授業の概要：

5人の先生方によるオムニバス形式の授業。全授業回数は15回で、先生1人当たり3回の授業を行う。キリスト教に関する先生方の専門分野も、立場もそれぞれ異なるので、受講者は様々な考え方に接することになる。講義内容は、旧約聖書、新約聖書、神学、哲学、宗教学、キリスト教倫理、キリスト教史、現代社会の諸問題など多岐にわたる。キリスト教の深さと広さを知ってもらふ。受講者から、講義内容に関する質問を募ることがある。

キーワード： 神、キリスト、信仰(信頼)、自由と愛、希望、正義と平和、教会と社会、キリスト教と諸宗教

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 講義で取り上げられた、建学の精神であるキリスト教に関する学問的知識を暗記し、それを自ら自主的にキリスト教について考察する基礎とすることができる。

評価方法： 学期末筆記試験

評価割合： 80%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 授業内容を自らのものとし、自らの思考と判断をもってキリスト教の問題群に分け入り、自らの考察を論理的に表現するため、知識の系統的整理ができる。

評価方法： 学期末筆記試験

評価割合： 20%

▼学修に主体的に取り組む態度

評価対象とはしない。ただし、受講者には手書きノートの作成が推奨されるので、授業の理解を深め記述力を身に着けるための訓練を主体的にすることになる。

評価割合：0%

▼実践的ボランティア

評価対象とはしない。しかし、講義内容はどれも直接間接に人生の諸問題や社会の諸問題にかかわることなので、取り組み方によっては、受講者各自がそれぞれの生活の中で、生涯、授業で学んだことを生かすことができる。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象とすることはない。ただし、授業時の発言などで、深刻な人権侵害、差別容認発言など、キリスト教の精神にも著しく反する不公正な言動がある場合は減点や厳重注意の対象となる。カンニングなどの不正行為は『履修要覧』の規定に基づいて対処する。

評価割合：0%

▼その他

この授業の成績に関することと、本学チャペルとのかかわりはない。

評価割合：この授業の成績に関することと、本

授業計画： 担当者の名前に続く()内には、教科書、参考文献などが示されている。

・結城敏也(講義資料unipa掲示に添付、参考書：中村圭志「教養としての宗教入門—基礎から学べる信仰と文化」中公新書)

第01回 宗教とは何か？宗教学的見地から宗教現象について概観してみよう。

第02回 キリスト教とは何か？世界に存在するさまざまな宗教とキリスト教との比較

第03回 宗教における諸要素 超越性、敬虔、畏敬、社会性、現世利益

・野口良哉(『聖書』無料配布、レジュメ配布、パワーポイント活用)

第04回 永遠のベストセラー『聖書』。その全体像(構成、原語、成立、主題等)を概観する。

第05回 キリスト教二千年の歴史を俯瞰し、その多様性(三大教派等)について学ぶ。

第06回 本学(園)創立の経緯を知り、創立者たちの祈りに思いを馳せる。

・館野 真(プリント配付、パワーポイント)

第07回 神の愛(天地創造が証言する、あなたを愛しておられる神)

第08回 人の罪(人の「罪」の正体：あなたの善悪の知識と神への恐怖)

第09回 救い(キリストの十字架と復活による、あなたの新しい創造)

・鈴木光(『聖書』、プリント配布、PPT)

第10回 神様の名前を呼ぶ(聖書の神様について、祈りについて)

第11回 私たちの姿 (人間は善いものか、悪いものか)

第12回 二つの命 (生きること、死ぬこと、さらに生きること)

・佐々木徹(プリント配付)

第13回 キリスト教科目の意義

第14回 旧約聖書と新約聖書(神学的観点から)

第15回 苦しみの意味と喜びについて

定期試験

使用テキスト： 適宜プリントを配布する。又、授業計画を参照せよ。

予習・復習のポイントと
参考文献・資料等： 常日頃から、キリスト教あるいは宗教の問題について関心を持ち、それを書物などで調べ深めておくと効率的な予習となろう。各授業ごとにノートや配布されたプリントを使って復習し、自分で調べ考察し、疑問点などがあれば教員に直接尋ねて学ぶことを勧める。参考文献などは、適宜提示する。

障がいのある履修者への対応： 真摯な対応を心掛けたいが、まずは学務部等に連絡してください。

授業時間外の連絡手段： IC-UNIPAの掲示やメールを用いたり、オフィスアワーなどで、教員が研究室やチャペルで直接対応したりします。

留意事項： 全員必修の科目である。キリスト教主義大学成立の根幹にかかわる授業なので、各自まじめに取り組むこと。

科目コード：10050 科目ナンバリング： 主な使用言語：日本語

授業名(英文)：キリスト教の精神と文化I n(Introduction to Christianity I n)

担当者： 館野 真、佐々木 徹、結城 敏也、野口 良哉、鈴木 光

基本情報

年次：1

単位数：2

授業形式：講義

曜時：金曜5限

履修可能学科・専攻： E Pe Pc C W F N M

関連資格：保育

AL要素： 16. 振り返り用紙と応答
18. その他

授業の概要：

5人の先生方によるオムニバス形式の授業。全授業回数は15回で、先生1人当たり3回の授業を行う。キリスト教に関する先生方の専門分野も、立場もそれぞれ異なるので、受講者は様々な考え方に接することになる。講義内容は、旧約聖書、新約聖書、神学、哲学、宗教学、キリスト教倫理、キリスト教史、現代社会の諸問題など多岐にわたる。キリスト教の深さと広さを知ってもらう。受講者から、講義内容に関する質問を募ることがある。

キーワード： 神、キリスト、信仰(信頼)、自由と愛、希望、正義と平和、教会と社会、キリスト教と諸宗教

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 講義で取り上げられた、建学の精神であるキリスト教に関する学問的知識を暗記し、それを自ら自主的にキリスト教について考察する基礎とすることができる。

評価方法： 学期末筆記試験

評価割合： 80%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 授業内容を自らのものとし、自らの思考と判断をもってキリスト教の問題群に分け入り、自らの考察を論理的に表現するため、知識の系統的整理ができる。

評価方法： 学期末筆記試験

評価割合： 20%

▼学修に主体的に取り組む態度

評価対象とはしない。ただし、受講者には手書きノートの作成が推奨されるので、授業の理解を深め記述力を身に着けるための訓練を主体的にすることになる。

評価割合： 0%

▼実践的ボランティア

評価対象とはしない。しかし、講義内容はどれも直接間接に人生の諸問題や社会の諸問題にかかわることなので、取り組み方によっては、受講者各自がそれぞれの生活の中で、生涯、授業で学んだことを生かすことができる。

評価割合： 0%

▼公正性

直接的な評価対象とすることはない。ただし、授業時の発言などで、深刻な人権侵害、差別容認発言など、キリスト教の精神にも著しく反する不公正な言動がある場合は減点や厳重注意の対象となる。カンニングなどの不正行為は『履修要覧』の規定に基づいて対処する。

評価割合：0%

▼その他

この授業の成績に関することと、本学チャペルとのかかわりはない。

評価割合：この授業の成績に関することと、本

授業計画： 担当者の名前に続く()内には、教科書、参考文献などが示されている。

・ 館野 真 (プリント配付、パワーポイント)

第01回 神の愛(天地創造が証言する、あなたを愛しておられる神)

第02回 人の罪(人の「罪」の正体:あなたの善悪の知識と神への恐怖)

第03回 救い (キリストの十字架と復活による、あなたの新しい創造)

・ 鈴木光 (『聖書』、プリント配布、PPT)

第04回 神様の名前を呼ぶ(聖書の神様について、祈りについて)

第05回 私たちの姿 (人間は善いものか、悪いものか)

第06回 二つの命 (生きること、死ぬこと、さらに生きること)

・ 佐々木徹(プリント配付)

第07回 キリスト教科目の意義

第08回 旧約聖書と新約聖書(神学的観点から)

第09回 苦しみの意味と喜びについて

・ 結城敏也(講義資料unipa掲示に添付、参考書:中村圭志「教養としての宗教入門—基礎から学べる信仰と文化」中公新書)

第10回 宗教とは何か?宗教学的見地から宗教現象について概観してみよう。

第11回 キリスト教とは何か?世界に存在するさまざまな宗教とキリスト教との比較

第12回 宗教における諸要素 超越性、敬虔、畏敬、社会性、現世利益

・ 野口良哉(『聖書』無料配布、レジュメ配布、パワーポイント活用)

第13回 永遠のベストセラー『聖書』。その全体像(構成、成立、主題等)を概観する。

第14回 キリスト教二千年の歴史を俯瞰し、その多様性(三大教派)について学ぶ。

第15回 本学(園)創立の経緯を知り、創立者たちの祈りに思いを馳せる。

定期試験

使用テキスト： 適宜プリントを配布する。又、授業計画を参照せよ。

予習・復習のポイントと
参考文献・資料等： 常日頃から、キリスト教あるいは宗教の問題について関心を持ち、それを書物などで調べ深めておくと効率的な予習となる。各授業ごとにノートや配布されたプリントを使って復習し、自分で調べ考察し、疑問点などがあれば教員に直接尋ねて学ぶことを勧める。
参考文献などは、適宜提示する。

障がいのある
履修者への対応： 真摯な対応を心掛けたいが、まずは学務部等に連絡してください。

授業時間外の連絡手段： IC-UNIPAの掲示やメールを用いたり、オフィスアワーなどで、教員が研究室やチャペルで直接対応したりします。

留意事項： 全員必修の科目である。キリスト教主義大学成立の根幹にかかわる授業なので、各自まじめに取り組むこと。

科目コード：10050

科目ナンバリング：

主な使用言語：日本語

授業名(英文)：キリスト教の精神と文化I o(Introduction to Christianity I o)

担当者：鈴木 光、佐々木 徹、結城 敏也、野口 良哉、館野 真

基本情報

年次：1

単位数：2

授業形式：講義

曜時：金曜5限

履修可能学科・専攻：E Pe Pc C W F N M

関連資格：保育

AL要素：16. 振り返り用紙と応答
18. その他

授業の概要：

5人の先生方によるオムニバス形式の授業。全授業回数は15回で、先生1人当たり3回の授業を行う。キリスト教に関する先生方の専門分野も、立場もそれぞれ異なるので、受講者は様々な考え方に接することになる。講義内容は、旧約聖書、新約聖書、神学、哲学、宗教学、キリスト教倫理、キリスト教史、現代社会の諸問題など多岐にわたる。キリスト教の深さと広さを知ってもらう。受講者から、講義内容に関する質問を募ることがある。

キーワード：神、キリスト、信仰(信頼)、自由と愛、希望、正義と平和、教会と社会、キリスト教と諸宗教

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標：講義で取り上げられた、建学の精神であるキリスト教に関する学問的知識を暗記し、それを自ら自主的にキリスト教について考察する基礎とすることができる。

評価方法：学期末筆記試験

評価割合：80%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標：授業内容を自らのものとし、自らの思考と判断をもってキリスト教の問題群に分け入り、自らの考察を論理的に表現するため、知識の系統的整理ができる。

評価方法：学期末筆記試験

評価割合：20%

▼学修に主体的に取り組む態度

評価対象とはしない。ただし、受講者には手書きノートの作成が推奨されるので、授業の理解を深め記述力を身に着けるための訓練を主体的にすることになる。

評価割合：0%

▼実践的ボランティア

評価対象とはしない。しかし、講義内容はどれも直接間接に人生の諸問題や社会の諸問題にかかわることなので、取り組み方によっては、受講者各自がそれぞれの生活の中で、生涯、授業で学んだことを生かすことができる。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象とすることはない。ただし、授業時の発言などで、深刻な人権侵害、差別容認発言など、キリスト教の精神にも著しく反する不公正な言動がある場合は減点や厳重注意の対象となる。カンニングなどの不正行為は『履修要覧』の規定に基づいて対処する。

評価割合：0%

▼その他

この授業の成績に関することと、本学チャペルとのかかわりはない。

評価割合：この授業の成績に関することと、本

授業計画：担当者の名前に続く()内には、教科書、参考文献などが示されている。

- ・鈴木光 (『聖書』、プリント配布、PPT)
第01回 神様の名前を呼ぶ(聖書の神様について、祈りについて)
- 第02回 私たちの姿 (人間は善いものか、悪いものか)
- 第03回 二つの命 (生きること、死ぬこと、さらに生きること)

- ・佐々木徹(プリント配付)
第04回 キリスト教科目の意義

第05回 旧約聖書と新約聖書(神学的観点から)

第06回 苦しみの意味と喜びについて

・結城敏也(講義資料unipa掲示に添付、参考書:中村圭志「教養としての宗教入門—基礎から学べる信仰と文化」中公新書)

第07回 宗教とは何か?宗教学的見地から宗教現象について概観してみよう。

第08回 キリスト教とは何か?世界に存在するさまざまな宗教とキリスト教との比較

第09回 宗教における諸要素 超越性、敬虔、畏敬、社会性、現世利益

・野口良哉(『聖書』無料配布、レジュメ配布、パワーポイント活用)

第10回 永遠のベストセラー『聖書』。その全体像(構成、原語、成立、主題等)を概観する。

第11回 キリスト教二千年の歴史を俯瞰し、その多様性(三大教派等)について学ぶ。

第12回 本学(園)創立の経緯を知り、創立者たちの祈りに思いを馳せる。

・館野 真 (プリント配付、パワーポイント)

第13回 神の愛(天地創造が証言する、あなたを愛しておられる神)

第14回 人の罪(人の「罪」の正体:あなたの善悪の知識と神への恐怖)

第15回 救い (キリストの十字架と復活による、あなたの新しい創造)

定期試験

使用テキスト: 適宜プリントを配布する。又、授業計画を参照せよ。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 常日頃から、キリスト教あるいは宗教の問題について関心を持ち、それを書物などで調べ深めておくこと効率的な予習となる。各授業ごとにノートや配布されたプリントを使って復習し、自分で調べ考察し、疑問点などがあれば教員に直接尋ねて学ぶことを勧める。参考文献などは、適宜提示する。

障がいのある履修者への対応: 真摯な対応を心掛けたいが、まずは学務部等に連絡してください。

授業時間外の連絡手段: IC-UNIPAの掲示やメールを用いたり、オフィスアワーなどで、教員が研究室やチャペルで直接対応したりします。

留意事項: 全員必修の科目である。キリスト教主義大学成立の根幹にかかわる授業なので、各自まじめに取り組むこと。

科目コード:10051

科目ナンバリング:

主な使用言語:日本語

授業名(英文):キリスト教の精神と文化II a(Introduction to Christianity II a)

担当者:佐々木 徹

基本情報

年次:1

単位数:2

授業形式:講義

曜時:金曜2限

履修可能学科・専攻: E Pe Pc C W F N M

関連資格:

AL要素: 18.その他

授業の概要: キリスト教の基本を学びながら、キリスト教についての理解を広げ、深めることを目標とする講義です。人間にはなぜ宗教が必要なのか、人間とその世界にキリスト教はどのようなことを語り示すことができるのか、イエス・キリストと出会い生きるとはどのようなことなのか。以上のような問題意識を深めながら、主に『聖書』から考察の題材をとり講義を進める。『聖書』を通してキリスト教倫理の初歩にも説き及ぶ。又、歴史上現れた時代の問題へのキリスト教のかかわりを紹介し、私たちの魂の救いが、私たちの日々の生き方や社会にどのような指針を示すことになるのかということについても考える。キリスト教をめぐる現代の諸問題についても考える。講義内容に関して、時折受講者の質問を募る。

キーワード: 解釈、神、イエス・キリスト、罪、救い、キリスト教と社会

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標: キリスト教の基本を知り暗記し、聖書を学問的な見解を踏まえて理解できる。

評価方法: 学期末定期筆記試験

評価割合: 25%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標: キリスト教について、自ら理解したことを、筋を通して考察し論理的に表現できる。

評価方法: 学期末定期筆記試験

評価割合: 75%

▼ 学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしないが、偏見にとらわれず、キリスト教や宗教の問題に積極的かつ主体的に対峙し、深い考察をしている場合は評価の対象となることがある。

評価割合: 0%

▼ 実践的ボランティア

評価対象とはしない。しかしこの授業で学ぶことは、自らの生き方を考える上で資するところがあるに違いない。

評価割合: 0%

▼ 公正性

直接的な評価対象とはしないが、授業時や試験などで、キリスト教の精神にも反する著しい人権侵害や差別の主張がある場合は減点や嚴重注意の対象となる。カンニングなどの不正行為は『履修要覧』の規定に基づいて対処する。

評価割合: 0%

▼ その他

特になし

評価割合: 特になし

授業計画: 第1回: 導入。聖書の読み方。
〔 旧約聖書における神と人間 〕
第2回: 神の像としての人間
第3回: 族長物語(1)
第4回: 族長物語(2)
第5回: モーセ
第6回: 預言者の思想(1)
第7回: 預言者の思想(2)
〔 新約聖書における神と人間 〕
第8回: イエス・キリスト(1)
第9回: イエス・キリスト(2)
第10回: イエス・キリスト(3)
第11回: イエス・キリスト(4. 山上の説教(a))
第12回: イエス・キリスト(5. 山上の説教(b))
第13回: パウロの宣教活動と思想(1. 信仰義認と倫理(a))
第14回: パウロの宣教活動と思想(2. 信仰義認と倫理(b))
第15回: パウロの宣教活動と思想(3. 永遠の命と神秘主義)
定期試験

使用テキスト: 適宜プリントを配布する。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 平素より『聖書』に親しんでおくこと。又、キリスト教やそのほかの諸宗教に関心を持ち、見聞を広めておくこと。以上のことを心がけていると、理解が深まり、学ぶ喜びが増すと思われる。参考文献などは、適宜提示する。

障がいのある履修者への対応： 真摯な対応を心掛けたいが、まずは学務部などに相談してください。

授業時間外の連絡手段： オフィスアワーなどで担当者が直接対応したり、IC-UNIPAのメールや掲示で連絡したりする。

留意事項： 誠実な態度で授業に臨むこと。

科目コード：10051 科目ナンバリング： 主な使用言語：日本語

授業名(英文)：キリスト教の精神と文化II b(Introduction to Christianity II b)

担当者：野口 良哉

基本情報

年次：1

単位数：2

授業形式：講義

曜時：金曜2限

履修可能学科・専攻：E Pe Pc C W F N M

関連資格：

AL要素：基本的に17.発問と回答だが、部分的に09.実地調査(フィールドワーク)を含む

授業の概要：【授業形態ガイドライン・レベルⅢおよびⅡ】課題研究型

前半(8回)は、言わば聖書概説と聖書味読で、一般教養として最低限知っておくべき聖書に関する基礎知識を修得しつつ、実際に、旧新約聖書から主な箇所を読み解き、実生活に適用する。後半(6回)は、言わば教会史概観とキリスト教概論で、最初に教会史(キリスト教史)を概観し、続いて、現代社会に少なからず影響を与えたキリスト者の生き様を通して、そこに具現化された聖書思想、生きたキリスト教精神を学ぶ。

※なお、前半と後半の間に1回、キャンパス内にある学園記念館で、学園の歴史展示を見学し、創立の経緯について学ぶ時を持つ。

キーワード： 一般教養としての聖書、生き方としてのキリスト教、スクールモットー「Peace, Truth, LOVE」、差別と人権、愛と奉仕、いのちと賜物、苦難と犠牲、正義とゆるし、人生と共生、世界とアジア

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 授業で取り上げた内容を的確に理解し、それに関する基本的な知識を問う設問に解答することができる。※評価Aの基準で書く。

評価方法： 学期末筆記試験

評価割合： 80%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 授業で取り上げた内容について、自主学修を通して自ら考察し、それを論理的に表現することができる。※評価Aの基準で書く。

評価方法： 学期末筆記試験

評価割合： 20%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしないが、学修に主体的に取り組む姿勢がフィールドワークでのレポートや学期末筆記試験の論述部分などに顕著に認められる場合、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることができる。

評価割合： 0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしないが、ボランティア活動などによる経験的知見がフィールドワークでのレポートや学期末筆記試験の論述部分などに顕著に認められる場合、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることができる。

評価割合： 0%

▼公正性

授業中の言動や筆記試験の記述等において、人権侵害や差別的発言など著しく公正性を欠く姿勢やカンニング行為などがあった場合は、減点や嚴重注意などの処分の対象になることがあり得るので注意すること。

評価割合：0%

▼その他

聖書やキリスト教に関する知見を深めるという観点により、大学チャペルへの出席を大いに推奨したい。ただし、チャペルへの欠席がマイナス評価につながることはない。

評価割合：聖書やキリスト教に関する知見を深

授業計画： 前半(8回)：聖書概説および聖書味読

- 1 聖書の構成／聖書の原語
- 2 聖書の年代／聖書の主題
- 3 旧約聖書と新約聖書の関係／聖書の区分(ジャンル)
- 4 聖書の歴史的流れ(History & Story)
- 5 聖書味読1：旧約聖書①原初史物語(天地創造～バベルの塔)と“十戒”
- 6 聖書味読2：旧約聖書②諸書(「ヨブ記」～「雅歌」)
- 7 聖書味読3：新約聖書①イエスのたとえ話(タラントン、良きサマリヤ人、放蕩息子など)
- 8 聖書味読4：新約聖書②イエスと出会った人々(ザアカイ、カナンの女、貧しいやもめ等)

※ 9 学園記念館訪問(学園の歴史展示見学など)

後半(6回)：教会史概観およびキリスト教概論

- 10 教会史概観1(キリスト教史：アウグスチヌス、ルター、バルト、リック・ウォレンなど)
- 11 教会史概観2(三大教派：カトリック教会、東方正教会、プロテスタント諸教会など)
- 12 キング牧師[差別と人権]、マザー・テレサ[愛と奉仕] ※[]内はテーマ
- 13 田原米子[いのち]、水野源三[苦難]、星野富弘[賜物]
- 14 コルベ神父[犠牲]、杉原千畝[正義]、ダミアン神父[共生]
- 15 レーナ・マリア[人生]、新垣勉[ゆるし]、藤崎るつ記[アジア]

定期試験

<授業パターン>

基本的に、毎回の授業は下記のクラス・パターンで行なわれる。

- 1 讃美歌・・・毎回一曲、歌の解説に続いて、讃美歌やゴスペルを歌う
- 2 黙想・・・授業への備えとして、自分を見詰め直すべく静かなひとときを過ごす
- 3 今週の一節・・・短い時間だが、聖書の名言(およびその解説)に聴く
- 4 授業・・・まずは講義を聴き、主体的・積極的に授業へ参加する

使用テキスト： 『聖書』を使用。※何訳でもかまわないが、旧新約聖書が望ましい。最低でも新入生に無料配布されるギデオン聖書(新約聖書)を持ってきてほしい。
・授業で使用するレジュメや資料は全てこちらで印刷・配布する。また、毎回の授業は主にパワーポイント(PPT)を使用し、授業後にUNIPA上でも閲覧できるようにする。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： シラバスを参考に、事前にその授業のテーマについて下調べをし、その回の授業に出席することが望ましい。また、配布されたレジュメや資料および自分のノートを用いて復習し、理解を深めてほしい。願わくば、さらなる自主学修を通して、得た学びを深化・発展させ、自分の人生に活かしていただきたい。

推奨参考文献・・・詳細は授業で指示

『ゼロからの聖書』大島力(幻冬舎)

『一番わかりやすいキリスト教入門』月本昭男監修(東洋経済新報社) など

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応するので、まずは学務部等に連絡をしていただきたい。安心できる良き学びの場となるように！

授業時間外の連絡手段: 基本的に、キアラ館のチャプレン室にいるので、対面では大学チャペル前後などの訪問を歓迎する。その他、メール(ng448@icc.ac.jp)でも対応可。

留意事項: 『キリスト教の精神と文化Ⅱ』(後期)各時限5クラスのうち、どのクラスの履修を希望するか、『キリスト教の精神と文化Ⅰ』(前期)の授業内(7月頃)で希望調査を行なう予定。但し、各クラスに定員があるため、希望するクラスに入れない場合もあるので、あらかじめ了承いただきたい。

科目コード:10051 科目ナンバリング: 主な使用言語:日本語

授業名(英文):キリスト教の精神と文化Ⅱc(Introduction to Christianity II c)

担当者:結城 敏也

基本情報

年次:1

単位数:2

授業形式:講義

曜時:金曜2限

履修可能学科・専攻: E Pe Pc C W F N M

関連資格:

AL要素:

11 討論

16 振り返り

授業の概要:

宗教としての「キリスト教」は、西ヨーロッパ文明を介して、現在の世界の在り方に大きな影響を与えています。「キリスト教」(あるいは「キリスト教」文明と他の文明の軋轢を)理解することは、世界の現状を読み解くためには欠かせない鍵となっています。

ここでは、宗教としてのキリスト教を、他宗教と比較しながら、現代文明を読み解くための一助となる知識を獲得することを目的とします。

「宗教」としての「キリスト教」が歴史の流れの中でどのような機能を果たしてきたのかを概観する。

「キリスト教」が及ぼした影響をを外側から規定しようとするもの、別な言い方をすれば高度な組織体としてのキリスト教会・キリスト教を基盤とする文明が歴史に及ぼした影響を考察する。政治の流れの中で、宗教家たちは様々な扱いを受け、利用され、旗頭に挙げられ、あるいは自分が持つごく狭い常識の中ではぐくまれた「正しさ」に拘泥し、他者に対する悪影響を及ぼすこともある。

この講義では、宗教と文明とのかかわりを考察する。

キーワード: 宗教 キリスト教 ユダヤ教 イスラム 世界理解 現代世界の源泉

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標: キリスト教がどのように今の姿になったか。キリスト教をベースとすると西ヨーロッパ文明がどのように形成されたかを把握する。

評価方法: 学期末レポート

評価割合: 50%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 授業内容を自らのものとし、自らの思考と判断をもって教育の問題群に分け入り、自らの考察を論理的に表現するため、知識の系統的整理ができる。

評価方法: レポート

評価割合: 50%

▼学修に主体的に取り組む態度

評価対象とはしない。ただし、受講者は単に講義資料をファイルするだけでなく、授業をもとに講義内容をまとめたノートを作成し、知識を各自に適合して方法で系統的に整理することを推奨する。

評価割合: 0%

▼実践的ボランティア

評価対象とはしない。しかしながら、現代世界の状況を把握するためには重要な事項でもあるので、受講者各自がそれぞれの生活の中で、生涯、授業で学んだことを生かすことができる。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象とすることはない。ただし、授業時の発言などで、深刻な人権侵害、差別容認発言など、不公正な言動がある場合、また、カンニングなどの不正行為は減点や嚴重注意の対象となる。

評価割合：0%

▼その他

特になし

評価割合：特になし

- 授業計画：
1. 「宗教」と「文明」
 2. ユダヤ教とその発展
 3. キリスト教発生前後の宗教的状況
 4. キリスト教の成立
 5. ローマ帝国の国教として 1
 6. ローマ帝国の国教として
 7. 教会と修道院
 8. 教会と修道院2
 9. 十字軍
 10. 教会分裂
 11. 宗教改革
 12. プロテスタント宗教改革と近代的教育制度
 13. キリスト教と植民地支配 あるいは「宣教」
 14. 宗教と政治の問題
 15. まとめ

使用テキスト： 資料などはICUNIPAの掲示にファイルとして添付する。

予習・復習のポイントと

参考文献・資料等：

予習のポイント(30分～90分)

icunipaの資料に目を通し、わからない単語など調べておく。

講義の対象となる時代背景などを高校の世界史教科書とか通史などを通読して把握しておく。

復習のポイント(30分～90分)

講義内容をもとに、自分なりにノートをまとめてみる。ノートの提出は求めない。

参考文献

(ごく一般的な教科書的なもの)

「キリスト教の歴史 増補新版」斎藤正彦 新教出版社 2011

(ヨーロッパと日本のキリスト教についてより詳しく知りたいならば)

「キリスト教史」藤代泰三 講談社学術文庫 2017

(西欧のキリスト教の歴史について詳しく知りたい場合には)

キリスト教の2000年史 ポール ジョンソン 共同通信社 1999

タミム・アンサーリー 「イスラームから見た『世界史』」 紀伊國屋書店

飯山陽 著「イスラーム教の論理」新潮新書

ウィリアム・H・マクニール 「世界史」 上・下 中公文庫

浅野 典夫 ものがたり宗教史 (ちくまプリマー新書)

キリスト教の2000年史は入手困難かもしれないが、通読をお勧めする。

障がいのある履修者への対応： 真摯な対応を心掛けたいが、まずは学務部等に連絡してください

授業時間外の連絡手段： メール

留意事項： 呼吸器系の疾患を抱えているために、コロナウィルスのまんえん状況によってはオンライン授業になる可能性があります。

科目コード：10051 **科目ナンバリング：** **主な使用言語：日本語**

授業名(英文)：キリスト教の精神と文化II d(Introduction to Christianity II d)

担当者：館野 真

基本情報

年次：1

単位数：2

授業形式：講義

曜時：金曜2限

履修可能学科・専攻： E Pe Pc C W F N M

関連資格：

AL要素： 11. ディスカッション
16. 振り返り用紙と応答
18. その他

授業の概要：【授業形態ガイドライン・レベルⅢ、レベルⅡ】遠隔授業(同時双方向型)

本講義は、聖書の読解、キリストご自身のことば(教え)への傾聴、および、聖書に関連する学問や歴史の学びを通して、キリスト教を根本的に理解することを目標とします。又、キリスト教が私たちの実生活においてどのように適用されるのか;キリスト教の正統性とは何か;カルト化の原因や様相はいかなるものであるのか、等のテーマも扱いつつ、キリスト教と現代に生きる私たちとの関わりを考察します。

キーワード： 神、主イエス・キリスト、キリスト教、信仰、聖書、神の愛、宗教の健全性

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 講義で取り上げられた、建学の精神であるキリスト教に関する学問的知識を暗記、および適宜照会し、それを自ら自主的にキリスト教について考察する基礎とすることができる。

評価方法： 1.学期末筆記試験

評価割合：80%

2.小テスト(毎週)

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 授業内容を自らのものとし、自らの思考と判断をもってキリスト教の問題群に分け入り、自らの考察を論理的に表現するため、知識の系統的整理ができる。

評価方法： 1.学期末筆記試験

評価割合：20%

2.グループディスカッション

▼学修に主体的に取り組む態度

評価対象とはしない。ただし、受講者には手書きノートの作成が推奨されるので、授業の理解を深め記述力を身に着けるための訓練を主体的にすることになる。

評価割合：0%

▼実践的ボランティア

評価対象とはしない。しかし、講義内容はどれも直接間接に人生の諸問題や社会の諸問題にかかわることなので、取り組み方によっては、受講者各自がそれぞれの生活の中で、生涯、授業で学んだことを生かすことができる。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象とすることはない。ただし、授業時の発言などで、深刻な人権侵害、差別容認発言など、キリスト教の精神にも著しく反する不公正な言動がある場合は減点や嚴重注意の対象となる。カンニングな

どの不正行為は厳禁。

評価割合：0%

▼その他

この授業の成績に関することと、本学チャペルとのかかわりはない。

評価割合：この授業の成績に関することと、本

授業計画： 第一部

- 第01回 オリエンテーション・キリスト教の神とは
- 第02回 民イスラエルの歴史と、メシア(キリスト) 待望の背景
- 第03回 キリストの誕生・キリストの受難
- 第04回 キリスト教における「救い」とは
- 第05回 現代の教会の教え(カトリックとプロテスタントの対比)

第二部

- 第06回 キリストによる教え(1) 山上の垂訓
- 第07回 キリストによる教え(2) 十字架の上のことば
- 第08回 キリストによる教え(3) 姦淫の女と主イエス
- 第09回 キリストによる教え(4) カイザルのものはカイザルへ
- 第10回 キリストによる教え(5) 善きサマリア人のたとえ話

第三部

- 第11回 新約聖書の成り立ち(本文批判、翻訳 etc.)と位置付け
- 第12回 信仰義認(使徒パウロ/マルティン・ルター)
- 第13回 聖霊の力(ペテロに起こった人生の変革)
- 第14回 キリストがあなたを生きてくださる生涯
- 第15回 総括:キリスト教とは

定期試験

使用テキスト： テキスト:聖書(新約と旧約、両方が読めるもの)デジタル媒体可
授業資料:基本、パワーポイントのスライドを毎回使用する。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 基本として、毎週の講義時に次週に向けた予習課題をIC-UNIPA上で配布する。この予習課題の内容について次回の講義で小テスト(FORMSを使った5分程度の選択問題形式のテスト)を行う。小テストは成績の半分程度を占めるので注意し、予習を怠らないこと。なお、講義で使用するパワーポイントスライドもIC-UNIPAで事前に配布する。疑問点などがあれば積極的に教員に質問して欲しい。

障がいのある履修者への対応： 真摯な対応を心掛けたいが、まずは学務部等に連絡してください。

授業時間外の連絡手段： IC-UNIPA上への掲示、メールによる通信を用います。あるいは学部部、教務部に仲介してもらい対応します。

留意事項： 全員必修の科目である。キリスト教主義大学成立の根幹にかかわる授業なので、各自まじめに取り組むこと。

講義中に行う小テストにはFORMSを使用する予定です。スマートフォンやパソコン等の準備が難しい場合は、相談してください。

科目コード：10051 科目ナンバリング： 主な使用言語：日本語

授業名(英文)：キリスト教の精神と文化II e(Introduction to Christianity II e)

担当者：小幡 幸和

基本情報

年次：1

単位数：2

授業形式：講義

曜時：金曜2限

履修可能学科・専攻： E Pe Pc C W F N M

関連資格：

AL要素： 11. 討論

16. 振り返り課題と応答

授業の概要：・聖書を引用した世界の様々な著名人の言葉や生き様について記したテキストを通して、現代世界において必要とされるグローバル・リテラシー（世界と那些人々を知るために知っておくべき基本的教養）の一つとしての聖書やキリスト教精神について学びます。なお、テキストには英語部分がありますが、この授業では原則として英語の能力を評価の対象とはしません。英語部分については、必要に応じて教員が授業の中で和訳・解説をします。
・また、テキストから発展して、キリスト教の観点から現代世界の諸問題（暴力と平和、差別・抑圧や苦しみ、等）を考察し、混迷する現代にあって他者と共に生きる意味を考察していきます。
・キリスト教の祝祭（クリスマス、イースター）の本来の意味を学びます。
・テーマによっては、授業中にグループでの話し合いの時間を持つことがあります。また、授業に関連した考察や話し合いの記録等を振り返り課題として毎回の授業後に書いてもらいます。

キーワード：世界の著名人による聖書引用、世界のキリスト教文化、暴力と平和、差別、キリスト教の祝祭

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標：授業で解説を受けたキリスト教精神・文化や付随する社会問題について、概ね80%の事項を暗記し、解答することができる。

評価方法：定期試験、振り返り課題

評価割合：60%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標：授業で扱った内容について、自主学修によって得た知見や経験をふまえて考察し、論理的かつ簡潔に自らの所見を表現することができる。

評価方法：定期試験、振り返り課題

評価割合：40%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし、自主的な学修によって自身の知見に追加された成果等がリアクション・シートや学期末試験等の記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合：0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただしボランティア活動等の実践により深められた知見等がリアクション・シートや学期末試験等の記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし、授業中のグループディスカッションや発表、筆記試験等において、深刻な人権侵害や差別的発言など著しく公正性を欠く言動が見られる場合には、厳重注意のうえ減点の対象とするので注意すること。

評価割合：0%

▼その他

特になし

評価割合：特になし

授業計画：【第01回】オリエンテーション・序論：聖書の言葉と世界の著名人
テキスト：Ch.1 ジャスティン・ビーバー

【第02回】いのちの大切さ

テキスト：Ch.12 J.K.ローリング（「ハリー・ポッター」作者）

- 【第03回】 聖書の言葉とaltruism(利他主義)の精神
 テキスト:Ch.2 ビル・ゲイツ (参考:Ch.23 テッド・ターナー)
- 【第04回】 聖書の言葉を引用するスポーツ選手
 テキスト:Ch.3 ウサイン・ボルト、Ch.11 ネイマール
 (参考: Ch.6マニー・パツキヤオ)
- 【第05回】 キリスト教と医療
 テキスト:Ch.26 日野原重明、Ch.16 ケント・ブラントリー
- 【第06回】 アメリカ合衆国の人種差別問題から考える
 テキスト:Ch.13 チャドウィック・ボーズマン、Ch.5 ジェレミー・リン
- 【第07回】 アフリカ精神とキリスト教
 テキスト:Ch.27 タボ・ムベキ、Ch.25 ワンガリ・マータイ
- 【第08回】 聖書にみる休息の意味
 テキスト:Ch.14 星野富弘、Ch.28デイビッド・スーシェ
- 【第09回】 キリスト教と宗教間対話
 テキスト:Ch.21 ダライ・ラマ
- 【第10回】 キリスト教と時間概念
 テキスト:Ch.24 エディ・レッドメイン、Ch.8リッチ・フローニンク
- 【第11回】 キリスト教の視点から考える暴力と平和1:暴力の多様な理解
 テキスト:Ch.10 マライア・キャリー
- 【第12回】 キリスト教の視点から考える暴力と平和2:平和の多様な理解
 テキスト:Ch.4 緒方貞子、Ch.20 マハトマ・ガンディー
- 【第13回】 聖書にみる苦しみの意味
 テキスト:Ch.9 池江璃花子、Ch.22 ヴィクトール・フランクル
- 【第14回】 クリスマスの様々な意味
- 【第15回】 イースターの意味、キリスト教と愛の精神、授業全体の振り返り
 テキスト:Ch.19 英国ウィリアム王子

定期試験

使用テキスト: 【テキスト】Harris G. Ives、上野尚美、村上美保子、小幡幸和『聖書を引用する世界の著名人: TOEFL iBT 形式で学ぶ英語とグローバルリテラシー』開拓社、2021年。

- ・この他に授業で使うレジメやその他の資料はオンライン(PDF)、または紙媒体で配布します。
- ・教員の説明補助としてパワーポイントを使用します。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等:

- ・予習として、各授業回の下に記されているテキスト該当章の日本語部分を読んでください。テキストの英語部分の予習は任意ですが、読んでおくことで授業理解の助けになります。また、分からない用語等を調べてください(60分)。
- ・授業後、テキストや授業の解説を振り返りながら課題に取り組むと共に、テキストにない関連事項について自主学修を通じ知見を深めるてください(60分)。
- ・参考文献としては『聖書』(新共同訳)をお薦めするほか、授業の中で適宜紹介します。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡して下さい。

授業時間外の連絡手段: オフィスアワーに研究室で対応します。曜日・時限等については初回にお知らせします。

留意事項:

- ・振り返り課題については翌週の授業でコメントし、内容の一部を匿名で紹介することがあります。
- ・デバイスの持参を推奨します。

科目コード:10051

科目ナンバリング:

主な使用言語:日本語

授業名(英文):キリスト教の精神と文化II f(Introduction to Christianity II f)

担当者:佐々木 徹

基本情報

年次:1

単位数:2

授業形式:講義

曜時:金曜4限

履修可能学科・専攻: E Pe Pc C W F N M

関連資格：

AL要素：18. その他

授業の概要： キリスト教の基本を学びながら、キリスト教についての理解を広げ、深めることを目標とする講義です。人間にはなぜ宗教が必要なのか、人間とその世界にキリスト教はどのようなことを語り示すことができるのか、イエス・キリストと出会い生きるとはどのようなことなのか。以上のような問題意識を深めながら、主に『聖書』から考察の題材をとり講義を進める。『聖書』を通してキリスト教倫理の初歩にも説き及ぶ。又、歴史上現れた時代の問題へのキリスト教のかかわりを紹介し、私たちの魂の救いが、私たちの日々の生き方や社会にどのような指針を示すことになるのかということについても考える。キリスト教をめぐる現代の諸問題についても考える。講義内容に関して、時折受講者の質問を募る。

キーワード： 解釈、神、イエス・キリスト、罪、救い、キリスト教と社会

学位授与方針との関係**▼ 知識・技能**

到達目標： キリスト教の基本を知り暗記し、聖書を学問的な見解を踏まえて理解できる。

評価方法： 学期末定期筆記試験

評価割合： 25%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標： キリスト教について、自ら理解したことを、筋を通して考察し論理的に表現できる。

評価方法： 学期末定期筆記試験

評価割合： 75%

▼ 学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしないが、偏見にとらわれず、キリスト教や宗教の問題に積極的かつ主体的に対峙し、深い考察をしている場合は評価の対象となることがある。

評価割合： 0%

▼ 実践的ボランティア

評価対象とはしない。しかしこの授業で学ぶことは、自らの生き方を考える上で資するところがあるに違いない。

評価割合： 0%

▼ 公正性

直接的な評価対象とはしないが、授業時や試験などで、キリスト教の精神にも反する著しい人権侵害や差別の主張がある場合は減点や嚴重注意の対象となる。カンニングなどの不正行為は『履修要覧』の規定に基づいて対処する。

評価割合： 0%

▼ その他

特になし

評価割合： 特になし

授業計画： 第1回： 導入。聖書の読み方。
〔 旧約聖書における神と人間 〕
第2回： 神の像としての人間
第3回： 族長物語(1)
第4回： 族長物語(2)
第5回： モーセ
第6回： 預言者の思想(1)
第7回： 預言者の思想(2)
〔 新約聖書における神と人間 〕
第8回： イエス・キリスト(1)
第9回： イエス・キリスト(2)
第10回： イエス・キリスト(3)
第11回： イエス・キリスト(4. 山上の説教(a))

- 第12回: イエス・キリスト(5. 山上の説教(b))
 第13回: パウロの宣教活動と思想(1. 信仰義認と倫理(a))
 第14回: パウロの宣教活動と思想(2. 信仰義認と倫理(b))
 第15回: パウロの宣教活動と思想(3. 永遠の命と神秘主義)
 定期試験

使用テキスト: 適宜プリントを配布する。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 平素より『聖書』に親しんでおくこと。又、キリスト教やそのほかの諸宗教に関心を持ち、見聞を広めておくこと。以上のことを心がけていると、理解が深まり、学ぶ喜びが増すと思われる。参考文献などは、適宜提示する。

障がいのある履修者への対応: 真摯な対応を心掛けたいが、まずは学務部などに相談してください。

授業時間外の連絡手段: オフィスアワーなどで担当者が直接対応したり、IC-UNIPAのメールや掲示で連絡したりする。

留意事項: 誠実な態度で授業に臨むこと。

科目コード: 10051 **科目ナンバリング:** **主な使用言語:** 日本語

授業名(英文): キリスト教の精神と文化II g(Introduction to Christianity II g)

担当者: 野口 良哉

基本情報

年次: 1

単位数: 2

授業形式: 講義

曜時: 金曜4限

履修可能学科・専攻: E Pe Pc C W F N M

関連資格:

AL要素: 基本的に17.発問と回答だが、部分的に09.実地調査(フィールドワーク)を含む

授業の概要: 【授業形態ガイドライン・レベルⅢおよびⅡ】課題研究型

前半(8回)は、言わば聖書概説と聖書味読で、一般教養として最低限知っておくべき聖書に関する基礎知識を修得しつつ、実際に、旧新約聖書から主な箇所を読み解き、実生活に適用する。後半(6回)は、言わば教会史概観とキリスト教概論で、最初に教会史(キリスト教史)を概観し、続いて、現代社会に少なからず影響を与えたキリスト者の生き様を通して、そこに具現化された聖書思想、生きたキリスト教精神を学ぶ。

※なお、前半と後半の間に1回、キャンパス内にある学園記念館で、学園の歴史展示を見学し、創立の経緯について学ぶ時を持つ。

キーワード: 一般教養としての聖書、生き方としてのキリスト教、スクールモットー「Peace, Truth, LOVE」、差別と人権、愛と奉仕、いのちと賜物、苦難と犠牲、正義とゆるし、人生と共生、世界とアジア

学位授与方針との関係

▼ **知識・技能**

到達目標: 授業で取り上げた内容を的確に理解し、それに関する基本的な知識を問う設問に解答することができる。※評価Aの基準で書く。

評価方法: 学期末筆記試験

評価割合: 80%

▼ **思考力・判断力・表現力**

到達目標: 授業で取り上げた内容について、自主学修を通して自ら考察し、それを論理的に表現することができる。※評価Aの基準で書く。

評価方法: 学期末筆記試験

評価割合: 20%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしないが、学修に主体的に取り組む姿勢がフィールドワークでのレポートや学期末筆記試験の論述部分などに顕著に認められる場合、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合：0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしないが、ボランティア活動などによる経験的知見がフィールドワークでのレポートや学期末筆記試験の論述部分などに顕著に認められる場合、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合：0%

▼公正性

授業中の言動や筆記試験の記述等において、人権侵害や差別的発言など著しく公正性を欠く姿勢やキャンピング行為などがあつた場合は、減点や嚴重注意などの処分の対象になることがあり得るので注意すること。

評価割合：0%

▼その他

聖書やキリスト教に関する知見を深めるという観点により、大学チャペルへの出席を大いに推奨したい。ただし、チャペルへの欠席がマイナス評価につながることはない。

評価割合：聖書やキリスト教に関する知見を深

授業計画： 前半(8回)：聖書概説および聖書味読

- 1 聖書の構成／聖書の原語
- 2 聖書の年代／聖書の主題
- 3 旧約聖書と新約聖書の関係／聖書の区分(ジャンル)
- 4 聖書の歴史的流れ(History&Story)
- 5 聖書味読1：旧約聖書①原初史物語(天地創造～バベルの塔)と“十戒”
- 6 聖書味読2：旧約聖書②諸書(「ヨブ記」～「雅歌」)
- 7 聖書味読3：新約聖書①イエスのたとえ話(タラントン、良きサマリヤ人、放蕩息子など)
- 8 聖書味読4：新約聖書②イエスと出会った人々(ザアカイ、カナンの女、貧しいやもめ等)

※ 9 学園記念館訪問(学園の歴史展示見学など)

後半(6回)：教会史概観およびキリスト教概論

- 10 教会史概観1(キリスト教史：アウグスチヌス、ルター、バルト、リック・ウォレンなど)
- 11 教会史概観2(三大教派：カトリック教会、東方正教会、プロテスタント諸教会など)
- 12 キング牧師[差別と人権]、マザー・テレサ[愛と奉仕] ※[]内はテーマ
- 13 田原米子[いのち]、水野源三[苦難]、星野富弘[賜物]
- 14 コルベ神父[犠牲]、杉原千畝[正義]、ダミアン神父[共生]
- 15 レーナ・マリア[人生]、新垣勉[ゆるし]、藤崎るつ記[アジア]

定期試験

<授業パターン>

基本的に、毎回の授業は下記のクラス・パターンで行なわれる。

- 1 讃美歌・・・毎回一曲、歌の解説に続いて、讃美歌やゴスペルを歌う
- 2 黙想・・・授業への備えとして、自分を見詰め直すべく静かなひとときを過ごす
- 3 今週の一節・・・短い時間だが、聖書の名言(およびその解説)に聴く
- 4 授業・・・まずは講義を聴き、主体的・積極的に授業へ参加する

使用テキスト： ・『聖書』を使用。※何訳でもかまわないが、旧新約聖書が望ましい。最低でも新入生に無料配布されるギデオン聖書(新約聖書)を持ってきてほしい。
・授業で使用するレジュメや資料は全てこちらで印刷・配布する。また、毎回の授業は主にパワーポイ

ント(PPT)を使用し、授業後にUNIPA上でも閲覧できるようにする。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： シラバスを参考に、事前にその授業のテーマについて下調べをし、その回の授業に出席することが望ましい。また、配布されたレジュメや資料および自分のノートを用いて復習し、理解を深めてほしい。願わくば、さらなる自主学修を通して、得た学びを深化・発展させ、自分の人生に活かしていただきたい。

推奨参考文献・・・詳細は授業で指示
『ゼロからの聖書』大島力(幻冬舎)
『一番わかりやすいキリスト教入門』月本昭男監修(東洋経済新報社) など

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応するので、まずは学務部等に連絡をしていただきたい。安心できる良き学びの場となるように！

授業時間外の連絡手段： 基本的に、キアラ館のチャプレン室にいるので、対面では大学チャペル前後などの訪問を歓迎する。その他、メール(ng448@icc.ac.jp)でも対応可。

留意事項： 『キリスト教の精神と文化Ⅱ』(後期)各時限5クラスのうち、どのクラスの履修を希望するか、『キリスト教の精神と文化Ⅰ』(前期)の授業内(7月頃)で希望調査を行なう予定。但し、各クラスに定員があるため、希望するクラスに入れない場合もあるので、あらかじめ了承いただきたい。

科目コード：10051 **科目ナンバリング：** **主な使用言語：日本語**

授業名(英文)： キリスト教の精神と文化Ⅱ h(Introduction to Christianity II h)

担当者： 鈴木 光

基本情報

年次： 1

単位数： 2

授業形式： 講義

曜時： 金曜4限

履修可能学科・専攻： E Pe Pc C W F N M

関連資格：

AL要素： 09. 実地調査
16. 振り返り用紙と応答
ほか

授業の概要： キリスト教の基本となる聖書の内容を中心に学びます。
入門的な知識を身につけ、またそれが各自の人生や社会を生きる中でどのように実際的な意味を持つのか、考えを深めていきたいと思えます。
*講師は実務経験として地域教会の牧師(2006～現在)と保育園長(2011～2022年)があります。その経験を生かして、単なる知識にとどまらない聖書の実際的な適用についても触れていきます。
*AL「09. 実地調査」として、一度キャンパス内にある学園記念館で、学園の歴史展示を見学し、創立の経緯について学ぶ時を持ちます。

キーワード： 聖書、キリストの教え、信仰生活

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 授業で学んだ入門的な知識を身につけ、解答できる。

*おもに各授業の終わりにごく簡単な小テストを兼ねたリアクションペーパーの提出をもって成績判定する。

評価方法： リアクションペーパーほか

評価割合： 50%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 授業で学んだことをもとに各自の考えを深め、アウトプットできる。

*いくつか提示するテーマの内から選んで学期末までに提出するレポートをもって成績判定する。

評価方法： 学期末レポート

評価割合： 50%

▼学修に主体的に取り組む態度

原則、評価対象にはしません。ただし、著しく態度が悪い場合は総合的な評価からの減点対象にはなりません。

評価割合：0%

▼実践的ボランティア

評価対象にはしません。

評価割合：0%

▼公正性

評価対象にはませんが、人権侵害、不当な差別、不正行為等が認められた場合は減点や厳重注意の対象となりえます。

評価割合：0%

▼その他

特になし

評価割合：特になし

- 授業計画：**
- 第1回 オリエンテーションと学びの土台
 - 第2回 旧約聖書のエッセンス
 - 第3回 イエス・キリストと出会った人々
 - 第4回 イエス・キリストの「たとえ話」
 - 第5回 人間は何からできているか
 - 第6回 イエス・キリストの奇跡
 - 第7回 エリエリレマサバクタニ
 - 第8回 信仰とは？
 - 第9回 フィールドワーク 学園記念館訪問
 - 第10回 クリスマスと礼拝
 - 第11回 聖書から考える「戦争と平和」
 - 第12回 聖書から考える「家族」「結婚」
 - 第13回 聖書から考える「働くこと」「福祉」「教育」
 - 第14回 神の国と天の国
 - 第15回 まとめ

- 使用テキスト：**
1. 『聖書』
 - *旧約、新約の両方が入っているもの。(新共同訳の続編付きでも構わない)
 - *新共同訳、聖書協会共同訳、口語訳、新改訳、新改訳2017のいずれかを推奨。
 2. レジюмеや資料は各授業で適宜配布します。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 配布プリントや授業内でのアナウンスを参考に、取り扱う聖書箇所を前もって読んでおいたり(予習)、印象に残ったところは考えを深めておく(復習)よいでしょう。参考文献などは授業内で適宜紹介します。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応しますので、まずは学務部等にご連絡ください。

授業時間外の連絡手段： 授業前後で声をかけてもらうか、IC-UNIPAを用いてコメント、メールなどご連絡ください。

留意事項： 特になし

科目コード：10051 科目ナンバリング： 主な使用言語：日本語

授業名(英文)：キリスト教の精神と文化II i(Introduction to Christianity II i)

担当者：館野 真

基本情報

年次：1

単位数：2

授業形式：講義

曜時：金曜4限

履修可能学科・専攻： E Pe Pc C W F N M

関連資格：

AL要素： 11. ディスカッション
16. 振り返り用紙と応答
18. その他

授業の概要：【授業形態ガイドライン・レベルⅢ、レベルⅡ】遠隔授業(同時双方向型)

本講義は、聖書の読解、キリストご自身のことば(教え)への傾聴、および、聖書に関連する学問や歴史の学びを通して、キリスト教を根本的に理解することを目標とします。又、キリスト教が私たちの実生活においてどのように適用されるのか;キリスト教の正統性とは何か;カルト化の原因や様相はいかなるものであるのか、等のテーマも扱いつつ、キリスト教と現代に生きる私たちとの関わりを考察します。

キーワード： 神、主イエス・キリスト、キリスト教、信仰、聖書、神の愛、宗教の健全性

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標：講義で取り上げられた、建学の精神であるキリスト教に関する学問的知識を暗記、および適宜照会し、それを自ら自主的にキリスト教について考察する基礎とすることができる。

評価方法： 1.学期末筆記試験

評価割合：80%

2.小テスト(毎週)

▼思考力・判断力・表現力

到達目標：授業内容を自らのものとし、自らの思考と判断をもってキリスト教の問題群に分け入り、自らの考察を論理的に表現するため、知識の系統的整理ができる。

評価方法： 1.学期末筆記試験

評価割合：20%

2.グループディスカッション

▼学修に主体的に取り組む態度

評価対象とはしない。ただし、受講者には手書きノートの作成が推奨されるので、授業の理解を深め記述力を身に着けるための訓練を主体的にすることになる。

評価割合：0%

▼実践的ボランティア

評価対象とはしない。しかし、講義内容はどれも直接間接に人生の諸問題や社会の諸問題にかかわることなので、取り組み方によっては、受講者各自がそれぞれの生活の中で、生涯、授業で学んだことを生かすことができる。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象とすることはない。ただし、授業時の発言などで、深刻な人権侵害、差別容認発言など、キリスト教の精神にも著しく反する不公正な言動がある場合は減点や厳重注意の対象となる。カンニングなどの不正行為は厳禁。

評価割合：0%

▼その他

この授業の成績に関することと、本学チャペルとのかかわりはない。

評価割合：この授業の成績に関することと、本

授業計画： 第一部

第01回 オリエンテーション・キリスト教の神とは

第02回 民イスラエルの歴史と、メシア(キリスト)待望の背景

第03回 キリストの誕生・キリストの受難

第04回 キリスト教における「救い」とは

第05回 現代の教会の教え(カトリックとプロテスタントの対比)

第二部

- 第06回 キリストによる教え(1)山上の垂訓
第07回 キリストによる教え(2)十字架の上のことば
第08回 キリストによる教え(3)姦淫の女と主イエス
第09回 キリストによる教え(4)カイザルのものはカイザルへ
第10回 キリストによる教え(5)善きサマリア人のたとえ話

第三部

- 第11回 新約聖書の成り立ち(本文批判、翻訳 etc.)と位置付け
第12回 信仰義認(使徒パウロ/マルティン・ルター)
第13回 聖霊の力(ペテロに起こった人生の変革)
第14回 キリストがあなたを生きてくださる生涯
第15回 総括:キリスト教とは

定期試験

使用テキスト: テキスト:聖書(新約と旧約、両方が読めるもの)デジタル媒体可
授業資料:基本、パワーポイントのスライドを毎回使用する。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 基本として、毎週の講義時に次週に向けた予習課題をIC-UNIPA上で配布する。この予習課題の内容について次回の講義で小テスト(FORMSを使った5分程度の選択問題形式のテスト)を行う。小テストは成績の半分程度を占めるので注意し、予習を怠らないこと。なお、講義で使用するパワーポイントスライドもIC-UNIPAで事前に配布する。疑問点などがあれば積極的に教員に質問して欲しい。

障がいのある履修者への対応: 真摯な対応を心掛けたいが、まずは学務部等に連絡してください。

授業時間外の連絡手段: IC-UNIPA上への掲示、メールによる通信を用います。あるいは学部部、教務部に仲介してもらい対応します。

留意事項: 全員必修の科目である。キリスト教主義大学成立の根幹にかかわる授業なので、各自まじめに取り組むこと。

講義中に行う小テストにはFORMSを使用する予定です。スマートフォンやパソコン等の準備が難しい場合は、相談してください。

科目コード:10051 科目ナンバリング: 主な使用言語:日本語

授業名(英文):キリスト教の精神と文化II j(Introduction to Christianity II j)

担当者:小幡 幸和

基本情報

年次:1

単位数:2

授業形式:講義

曜時:金曜4限

履修可能学科・専攻: E Pe Pc C W F N M

関連資格:

AL要素: 11. 討論

16. 振り返り課題と応答

授業の概要: ・聖書を引用した世界の様々な著名人の言葉や生き様について記したテキストを通して、現代世界において必要とされるグローバル・リテラシー(世界とその人々を知るために知っておくべき基本的教養)の一つとしての聖書やキリスト教精神について学びます。なお、テキストには英語部分がありますが、この授業では原則として英語の能力を評価の対象とはしません。英語部分については、必要に応じて教員が授業の中で和訳・解説をします。
・また、テキストから発展して、キリスト教の観点から現代世界の諸問題(暴力と平和、差別・抑圧や苦しみ、等)を考察し、混迷する現代にあって他者と共に生きる意味を考察していきます

- す。
- ・キリスト教の祝祭(クリスマス、イースター)の本来の意味を学びます。
- ・テーマによっては、授業中にグループでの話し合いの時を持つことがあります。また、授業に関連した考察や話し合いの記録等を振り返り課題として毎回の授業後に書いてもらいます。

キーワード: 世界の著名人による聖書引用、世界のキリスト教文化、暴力と平和、差別、キリスト教の祝祭

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標: 授業で解説を受けたキリスト教精神・文化や付随する社会問題について、概ね80%の事項を暗記し、解答することができる。

評価方法: 定期試験、振り返り課題

評価割合: 60%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 授業で扱った内容について、自主学修によって得た知見や経験をふまえて考察し、論理的かつ簡潔に自らの所見を表現することができる。

評価方法: 定期試験、振り返り課題

評価割合: 40%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし、自主的な学修によって自身の知見に追加された成果等がリアクション・シートや学期末試験等の記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合: 0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただしボランティア活動等の実践により深められた知見等がリアクション・シートや学期末試験等の記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合: 0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし、授業中のグループディスカッションや発表、筆記試験等において、深刻な人権侵害や差別的発言など著しく公正性を欠く言動が見られる場合には、厳重注意のうえ減点の対象とするので注意すること。

評価割合: 0%

▼その他

特になし

評価割合: 特になし

授業計画: 【第01回】 オリエンテーション・序論: 聖書の言葉と世界の著名人

テキスト: Ch.1 ジャスティン・ビーバー

【第02回】 いのちの大切さ

テキスト: Ch.12 J.K.ローリング(「ハリー・ポッター」作者)

【第03回】 聖書の言葉とaltruism(利他主義)の精神

テキスト: Ch.2 ビル・ゲイツ (参考: Ch.23 テッド・ターナー)

【第04回】 聖書の言葉を引用するスポーツ選手

テキスト: Ch.3 ウサイン・ボルト、Ch.11 ネイマール

(参考: Ch.6 マニー・パッキャオ)

【第05回】 キリスト教と医療

テキスト: Ch.26 日野原重明、Ch.16 ケント・ブラントリー

【第06回】 アメリカ合衆国の人種差別問題から考える

テキスト: Ch.13 チャドウィック・ボーズマン、Ch.5 ジェレミー・リン

ン

【第07回】 アフリカ精神とキリスト教

- テキスト: Ch.27 タボ・ムベキ、Ch.25 ワンガリ・マータイ
- 【第08回】 聖書にみる休息の意味
 テキスト: Ch.14 星野富弘、Ch.28 デイビッド・スーシェ
- 【第09回】 キリスト教と宗教間対話
 テキスト: Ch.21 ダライ・ラマ
- 【第10回】 キリスト教と時間概念
 テキスト: Ch.24 エディ・レッドメイン、Ch.8 リッチ・フローニング
- 【第11回】 キリスト教の視点から考える暴力と平和1: 暴力の多様な理解
 テキスト: Ch.10 マライア・キャリー
- 【第12回】 キリスト教の視点から考える暴力と平和2: 平和の多様な理解
 テキスト: Ch.4 緒方貞子、Ch.20 マハトマ・ガンディー
- 【第13回】 聖書にみる苦しみの意味
 テキスト: Ch.9 池江璃花子、Ch.22 ヴィクトール・フランクル
- 【第14回】 クリスマスの様々な意味
- 【第15回】 イースターの意味、キリスト教と愛の精神、授業全体の振り返り
 テキスト: Ch.19 英国ウィリアム王子

定期試験

使用テキスト: 【テキスト】Harris G. Ives、上野尚美、村上美保子、小幡幸和『聖書を引用する世界の著名人: TOEFL iBT 形式で学ぶ英語とグローバルリテラシー』開拓社、2021年。

- ・この他に授業で使うレジメやその他の資料はオンライン(PDF)、または紙媒体で配布します。
- ・教員の説明補助としてパワーポイントを使用します。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等:

- ・予習として、各授業回の下に記されているテキスト該当章の日本語部分を読んでください。テキストの英語部分の予習は任意ですが、読んでおくと授業理解の助けになります。また、分からない用語等を調べてください(60分)。
- ・授業後、テキストや授業の解説を振り返りながら課題に取り組むと共に、テキストにない関連事項について自主学修を通じ知見を深めるてください(60分)。
- ・参考文献としては『聖書』(新共同訳)をお薦めするほか、授業の中で適宜紹介します。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡して下さい。

授業時間外の連絡手段: オフィスアワーに研究室で対応します。曜日・時限等については初回にお知らせします。

留意事項:

- ・振り返り課題については翌週の授業でコメントし、内容の一部を匿名で紹介することがあります。
- ・デバイスの持参を推奨します。

科目コード: 10051 科目ナンバリング: 主な使用言語: 日本語

授業名(英文): キリスト教の精神と文化II k(Introduction to Christianity II k)

担当者: 佐々木 徹

基本情報

年次: 1

単位数: 2

授業形式: 講義

曜時: 金曜5限

履修可能学科・専攻: E Pe Pc C W F N M

関連資格:

AL要素: 18, その他

授業の概要: キリスト教の基本を学びながら、キリスト教についての理解を広げ、深めることを目標とする講義です。人間にはなぜ宗教が必要なのか、人間とその世界にキリスト教はどのようなことを語り示すことができるのか、イエス・キリストと出会い生きるとはどのようなことなのか。以上のような問題意識を深めながら、主に『聖書』から考察の題材をとり講義を進める。『聖書』を通してキリスト教倫理の初歩にも説き及ぶ。又、歴史上現れた時代の問題へのキリスト教のかかわりを紹介し、私たちの魂の救いが、私たちの日々の生き方や社会にどのような指針を示すことになるのかということについても考える。キリスト教をめぐる現代の諸問題についても考える。講義内容に関して、時折受講者の質問を募る。

キーワード: 解釈、神、イエス・キリスト、罪、救い、キリスト教と社会

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標: キリスト教の基本を知り暗記し、聖書を学問的な見解を踏まえて理解できる。

評価方法: 学期末定期筆記試験

評価割合: 25%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: キリスト教について、自ら理解したことを、筋を通して考察し論理的に表現できる。

評価方法: 学期末定期筆記試験

評価割合: 75%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしないが、偏見にとらわれず、キリスト教や宗教の問題に積極的かつ主体的に対峙し、深い考察をしている場合は評価の対象となることがある。

評価割合: 0%

▼実践的ボランティア

評価対象とはしない。しかしこの授業で学ぶことは、自らの生き方を考える上で資するところがあるに違いない。

評価割合: 0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしないが、授業時や試験などで、キリスト教の精神にも反する著しい人権侵害や差別の主張がある場合は減点や嚴重注意の対象となる。カンニングなどの不正行為は『履修要覧』の規定に基づいて対処する。

評価割合: 0%

▼その他

特になし

評価割合: 特になし

授業計画: 第1回: 導入。聖書の読み方。
〔旧約聖書における神と人間〕
第2回: 神の像としての人間
第3回: 族長物語(1)
第4回: 族長物語(2)
第5回: モーセ
第6回: 預言者の思想(1)
第7回: 預言者の思想(2)
〔新約聖書における神と人間〕
第8回: イエス・キリスト(1)
第9回: イエス・キリスト(2)
第10回: イエス・キリスト(3)
第11回: イエス・キリスト(4. 山上の説教(a))
第12回: イエス・キリスト(5. 山上の説教(b))
第13回: パウロの宣教活動と思想(1. 信仰義認と倫理(a))
第14回: パウロの宣教活動と思想(2. 信仰義認と倫理(b))
第15回: パウロの宣教活動と思想(3. 永遠の命と神秘主義)
定期試験

使用テキスト: 適宜プリントを配布する。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 平素より『聖書』に親しんでおくこと。又、キリスト教やそのほかの諸宗教に関心を持ち、見聞を広めておくこと。以上のことを心がけていると、理解が深まり、学ぶ喜びが増すと思われる。参考文献などは、適宜提示する。

障がいのある履修者への対応： 真摯な対応を心掛けたいが、まずは学務部などに相談してください。

授業時間外の連絡手段： オフィスアワーなどで担当者が直接対応したり、IC-UNIPAのメールや掲示で連絡したりする。

留意事項： 誠実な態度で授業に臨むこと。

科目コード：10051 科目ナンバリング： 主な使用言語：日本語

授業名(英文)：キリスト教の精神と文化II I(Introduction to Christianity II I)

担当者：野口 良哉

基本情報

年次：1

単位数：2

授業形式：講義

曜時：金曜5限

履修可能学科・専攻：E Pe Pc C W F N M

関連資格：

AL要素：基本的に17.発問と回答だが、部分的に09.実地調査(フィールドワーク)を含む

授業の概要：【授業形態ガイドライン・レベルⅢおよびⅡ】課題研究型

前半(8回)は、言わば聖書概説と聖書味読で、一般教養として最低限知っておくべき聖書に関する基礎知識を修得しつつ、実際に、旧新約聖書から主な箇所を読み解き、実生活に適用する。後半(6回)は、言わば教会史概観とキリスト教概論で、最初に教会史(キリスト教史)を概観し、続いて、現代社会に少なからず影響を与えたキリスト者の生き様を通して、そこに具現化された聖書思想、生きたキリスト教精神を学ぶ。

※なお、前半と後半の間に1回、キャンパス内にある学園記念館で、学園の歴史展示を見学し、創立の経緯について学ぶ時を持つ。

キーワード： 一般教養としての聖書、生き方としてのキリスト教、スクールモットー「Peace, Truth, LOVE」、差別と人権、愛と奉仕、いのちと賜物、苦難と犠牲、正義とゆるし、人生と共生、世界とアジア

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 授業で取り上げた内容を的確に理解し、それに関する基本的な知識を問う設問に解答することができる。※評価Aの基準で書く。

評価方法： 学期末筆記試験

評価割合： 80%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 授業で取り上げた内容について、自主学修を通して自ら考察し、それを論理的に表現することができる。※評価Aの基準で書く。

評価方法： 学期末筆記試験

評価割合： 20%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしないが、学修に主体的に取り組む姿勢がフィールドワークでのレポートや学期末筆記試験の論述部分などに顕著に認められる場合、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることができる。

評価割合： 0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしないが、ボランティア活動などによる経験的知見がフィールドワークでのレポートや学期末筆記試験の論述部分などに顕著に認められる場合、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることができる。

評価割合： 0%

▼公正性

授業中の言動や筆記試験の記述等において、人権侵害や差別的発言など著しく公正性を欠く姿勢やカンニング行為などがあった場合は、減点や嚴重注意などの処分の対象になることがあり得るので注意すること。

評価割合：0%

▼その他

聖書やキリスト教に関する知見を深めるという観点により、大学チャペルへの出席を大いに推奨したい。ただし、チャペルへの欠席がマイナス評価につながることはない。

評価割合：聖書やキリスト教に関する知見を深

授業計画： 前半(8回)：聖書概説および聖書味読

- 1 聖書の構成／聖書の原語
- 2 聖書の年代／聖書の主題
- 3 旧約聖書と新約聖書の関係／聖書の区分(ジャンル)
- 4 聖書の歴史的流れ(History & Story)
- 5 聖書味読1：旧約聖書①原初史物語(天地創造～バベルの塔)と“十戒”
- 6 聖書味読2：旧約聖書②諸書(「ヨブ記」～「雅歌」)
- 7 聖書味読3：新約聖書①イエスのたとえ話(タラントン、良きサマリヤ人、放蕩息子など)
- 8 聖書味読4：新約聖書②イエスと出会った人々(ザアカイ、カナンの女、貧しいやもめ等)

※ 9 学園記念館訪問(学園の歴史展示見学など)

後半(6回)：教会史概観およびキリスト教概論

- 10 教会史概観1(キリスト教史：アウグスチヌス、ルター、バルト、リック・ウォレンなど)
- 11 教会史概観2(三大教派：カトリック教会、東方正教会、プロテスタント諸教会など)
- 12 キング牧師[差別と人権]、マザー・テレサ[愛と奉仕] ※[]内はテーマ
- 13 田原米子[いのち]、水野源三[苦難]、星野富弘[賜物]
- 14 コルベ神父[犠牲]、杉原千畝[正義]、ダミアン神父[共生]
- 15 レーナ・マリア[人生]、新垣勉[ゆるし]、藤崎るつ記[アジア]

定期試験

<授業パターン>

基本的に、毎回の授業は下記のクラス・パターンで行なわれる。

- 1 讃美歌・・・毎回一曲、歌の解説に続いて、讃美歌やゴスペルを歌う
- 2 黙想・・・授業への備えとして、自分を見詰め直すべく静かなひとときを過ごす
- 3 今週の一節・・・短い時間だが、聖書の名言(およびその解説)に聴く
- 4 授業・・・まずは講義を聴き、主体的・積極的に授業へ参加する

使用テキスト： 『聖書』を使用。※何訳でもかまわないが、旧新約聖書が望ましい。最低でも新入生に無料配布されるギデオン聖書(新約聖書)を持ってきてほしい。
・授業で使用するレジュメや資料は全てこちらで印刷・配布する。また、毎回の授業は主にパワーポイント(PPT)を使用し、授業後にUNIPA上でも閲覧できるようにする。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： シラバスを参考に、事前にその授業のテーマについて下調べをし、その回の授業に出席することが望ましい。また、配布されたレジュメや資料および自分のノートを用いて復習し、理解を深めてほしい。願わくば、さらなる自主学修を通して、得た学びを深化・発展させ、自分の人生に活かしていただきたい。

推奨参考文献・・・詳細は授業で指示

『ゼロからの聖書』大島力(幻冬舎)

『一番わかりやすいキリスト教入門』月本昭男監修(東洋経済新報社) など

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応するので、まずは学務部等に連絡をしていただきたい。安心できる良き学びの場となるように！

授業時間外の連絡手段: 基本的に、キアラ館のチャプレン室にいるので、対面では大学チャペル前後などの訪問を歓迎する。その他、メール(ng448@icc.ac.jp)でも対応可。

留意事項: 『キリスト教の精神と文化Ⅱ』(後期)各時限5クラスのうち、どのクラスの履修を希望するか、『キリスト教の精神と文化Ⅰ』(前期)の授業内(7月頃)で希望調査を行なう予定。但し、各クラスに定員があるため、希望するクラスに入れない場合もあるので、あらかじめ了承いただきたい。

科目コード:10051 科目ナンバリング: 主な使用言語:日本語

授業名(英文):キリスト教の精神と文化Ⅱ m(Introduction to Christianity II m)

担当者:結城 敏也

基本情報

年次:1

単位数:2

授業形式:講義

曜時:金曜5限

履修可能学科・専攻: E Pe Pc C W F N M

関連資格:

AL要素:

11 討論

16 振り返り

授業の概要:

宗教としての「キリスト教」は、西ヨーロッパ文明を介して、現在の世界の在り方に大きな影響を与えています。「キリスト教」(あるいは「キリスト教」文明と他の文明の軋轢を)理解することは、世界の現状を読み解くためには欠かせない鍵となっています。

ここでは、宗教としてのキリスト教を、他宗教と比較しながら、現代文明を読み解くための一助となる知識を獲得することを目的とします。

「宗教」としての「キリスト教」が歴史の流れの中でどのような機能を果たしてきたのかを概観する。

「キリスト教」が及ぼした影響をを外側から規定しようとするもの、別な言い方をすれば高度な組織体としてのキリスト教会・キリスト教を基盤とする文明が歴史に及ぼした影響を考察する。政治の流れの中で、宗教家たちは様々な扱いを受け、利用され、旗頭に挙げられ、あるいは自分が持つごく狭い常識の中ではぐくまれた「正しさ」に拘泥し、他者に対する悪影響を及ぼすこともある。

この講義では、宗教と文明とのかかわりを考察する。

キーワード: 宗教 キリスト教 ユダヤ教 イスラム 世界理解 現代世界の源泉

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標: キリスト教がどのように今の姿になったか。キリスト教をベースとすると西ヨーロッパ文明がどのように形成されたかを把握する。

評価方法: 学期末レポート

評価割合: 50%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 授業内容を自らのものとし、自らの思考と判断をもって教育の問題群に分け入り、自らの考察を論理的に表現するため、知識の系統的整理ができる。

評価方法: レポート

評価割合: 50%

▼学修に主体的に取り組む態度

評価対象とはしない。ただし、受講者は単に講義資料をファイルするだけでなく、授業をもとに講義内容をまとめたノートを作成し、知識を各自に適合して方法で系統的に整理することを推奨する。

評価割合：0%

▼実践的ボランティア

評価対象とはしない。しかしながら、現代世界の状況を把握するためには重要な事項でもあるので、受講者各自がそれぞれの生活の中で、生涯、授業で学んだことを生かすことができる。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象とすることはない。ただし、授業時の発言などで、深刻な人権侵害、差別容認発言など、不公正な言動がある場合、また、カンニングなどの不正行為は減点や嚴重注意の対象となる。

評価割合：0%

▼その他

特になし

評価割合：特になし

- 授業計画：
1. 「宗教」と「文明」
 2. ユダヤ教とその発展
 3. キリスト教発生前後の宗教的状況
 4. キリスト教の成立
 5. ローマ帝国の国教として 1
 6. ローマ帝国の国教として
 7. 教会と修道院
 8. 教会と修道院2
 9. 十字軍
 10. 教会分裂
 11. 宗教改革
 12. プロテスタント宗教改革と近代的教育制度
 13. キリスト教と植民地支配 あるいは「宣教」
 14. 宗教と政治の問題
 15. まとめ

使用テキスト： 資料などはICUNIPAの掲示にファイルとして添付する。

予習・復習のポイントと 予習のポイント(30分～90分)

参考文献・資料等： icunipaの資料に目を通し、わからない単語など調べておく。
講義の対象となる時代背景などを高校の世界史教科書とか通史などを通読して把握しておく。

復習のポイント(30分～90分)

講義内容をもとに、自分なりにノートをまとめてみる。ノートの提出は求めない。

参考文献

(ごく一般的な教科書的なもの)

「キリスト教の歴史 増補新版」斎藤正彦 新教出版社 2011

(ヨーロッパと日本のキリスト教についてより詳しく知りたいならば)

「キリスト教史」藤代泰三 講談社学術文庫 2017

(西欧のキリスト教の歴史について詳しく知りたい場合には)

キリスト教の2000年史 ポール ジョンソン 共同通信社 1999

タミム・アンサーリー 「イスラームから見た『世界史』」 紀伊國屋書店

飯山陽 著「イスラーム教の論理」新潮新書

ウィリアム・H・マクニール 「世界史」 上・下 中公文庫

浅野 典夫 ものがたり宗教史 (ちくまプリマー新書)

キリスト教の2000年史は入手困難かもしれないが、通読をお勧めする。

障がいのある 真摯な対応を心掛けたいが、まずは学務部等に連絡してください
履修者への対応：

授業時間外の連絡手段： メール

留意事項： 呼吸器系の疾患を抱えているために、コロナウィルスのまんえん状況によってはオンライン授業になる可能性があります。

科目コード：10051 科目ナンバリング： 主な使用言語：日本語

授業名(英文)：キリスト教の精神と文化Ⅱn(Introduction to Christianity II n)

担当者： 館野 真

基本情報

年次：1

単位数：2

授業形式：講義

曜時：金曜5限

履修可能学科・専攻： E Pe Pc C W F N M

関連資格：

AL要素： 11. ディスカッション
16. 振り返り用紙と応答
18. その他

授業の概要：【授業形態ガイドライン・レベルⅢ、レベルⅡ】遠隔授業(同時双方向型)

本講義は、聖書の読解、キリストご自身のことば(教え)への傾聴、および、聖書に関連する学問や歴史の学びを通して、キリスト教を根本的に理解することを目標とします。又、キリスト教が私たちの実生活においてどのように適用されるのか;キリスト教の正統性とは何か;カルト化の原因や様相はいかなるものであるのか、等のテーマも扱いつつ、キリスト教と現代に生きる私たちとの関わりを考察します。

キーワード： 神、主イエス・キリスト、キリスト教、信仰、聖書、神の愛、宗教の健全性

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標：講義で取り上げられた、建学の精神であるキリスト教に関する学問的知識を暗記、および適宜照会し、それを自ら自主的にキリスト教について考察する基礎とすることができる。

評価方法： 1.学期末筆記試験

評価割合：80%

2.小テスト(毎週)

▼思考力・判断力・表現力

到達目標：授業内容を自らのものとし、自らの思考と判断をもってキリスト教の問題群に分け入り、自らの考察を論理的に表現するため、知識の系統的整理ができる。

評価方法： 1.学期末筆記試験

評価割合：20%

2.グループディスカッション

▼学修に主体的に取り組む態度

評価対象とはしない。ただし、受講者には手書きノートの作成が推奨されるので、授業の理解を深め記述力を身に着けるための訓練を主体的にすることになる。

評価割合：0%

▼実践的ボランティア

評価対象とはしない。しかし、講義内容はどれも直接間接に人生の諸問題や社会の諸問題にかかわることなので、取り組み方によっては、受講者各自がそれぞれの生活の中で、生涯、授業で学んだことを生かすことができる。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象とすることはない。ただし、授業時の発言などで、深刻な人権侵害、差別容認発言など、

キリスト教の精神にも著しく反する不公正な言動がある場合は減点や厳重注意の対象となる。カンニングなどの不正行為は厳禁。

評価割合：0%

▼その他

この授業の成績に関することと、本学チャペルとのかかわりはない。

評価割合：この授業の成績に関することと、本

授業計画： 第一部

- 第01回 オリエンテーション・キリスト教の神とは
- 第02回 民イスラエルの歴史と、メシア(キリスト)待望の背景
- 第03回 キリストの誕生・キリストの受難
- 第04回 キリスト教における「救い」とは
- 第05回 現代の教会の教え(カトリックとプロテスタントの対比)

第二部

- 第06回 キリストによる教え(1)山上の垂訓
- 第07回 キリストによる教え(2)十字架の上のことば
- 第08回 キリストによる教え(3)姦淫の女と主イエス
- 第09回 キリストによる教え(4)カイザルのものはカイザルへ
- 第10回 キリストによる教え(5)善きサマリア人のたとえ話

第三部

- 第11回 新約聖書の成り立ち(本文批判、翻訳 etc.)と位置付け
- 第12回 信仰義認(使徒パウロ/マルティン・ルター)
- 第13回 聖霊の力(ペテロに起こった人生の変革)
- 第14回 キリストがあなたを生きてくださる生涯
- 第15回 総括:キリスト教とは

定期試験

使用テキスト： テキスト:聖書(新約と旧約、両方が読めるもの)デジタル媒体可
授業資料:基本、パワーポイントのスライドを毎回使用する。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 基本として、毎週の講義時に次週に向けた予習課題をIC-UNIPA上で配布する。この予習課題の内容について次回の講義で小テスト(FORMSを使った5分程度の選択問題形式のテスト)を行う。小テストは成績の20%~30%程度を占めるので注意し、予習を怠らないこと。なお、講義で使用するパワーポイントスライドもIC-UNIPAで事前に配布する。疑問点などがあれば積極的に教員に質問して欲しい。

障がいのある履修者への対応： 真摯な対応を心掛けたいが、まずは学務部等に連絡してください。

授業時間外の連絡手段： IC-UNIPA上への掲示、メールによる通信を用います。あるいは学部部、教務部に仲介してもらい対応します。

留意事項： 全員必修の科目である。キリスト教主義大学成立の根幹にかかわる授業なので、各自まじめに取り組むこと。

講義中に行う小テストにはFORMSを使用する予定です。スマートフォンやパソコン等の準備が難しい場合は、相談してください。

科目コード:10051

科目ナンバリング:

主な使用言語:日本語

授業名(英文):キリスト教の精神と文化II o(Introduction to Christianity II o)

担当者:鈴木 光

基本情報

年次:1

単位数:2

授業形式:講義

曜時：金曜5限

履修可能学科・専攻： E Pe Pc C W F N M

関連資格：

AL要素： 09. 実地調査
16. 振り返り用紙と応答
ほか

授業の概要： キリスト教の基本となる聖書の内容を中心に学びます。
入門的な知識を身につけ、またそれが各自の人生や社会を生きる中でどのように実際的な意味を持つのか、考えを深めていきたいと思えます。
*講師は実務経験として地域教会の牧師(2006～現在)と保育園長(2011～2022年)があります。その経験を生かして、単なる知識にとどまらない聖書の実際的な適用についても触れていきます。
*AL「09. 実地調査」として、一度キャンパス内にある学園記念館で、学園の歴史展示を見学し、創立の経緯について学ぶ時を持ちます。

キーワード： 聖書、キリストの教え、信仰生活

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 授業で学んだ入門的な知識を身につけ、解答できる。
*おもに各授業の終わりにごく簡単な小テストを兼ねたリアクションペーパーの提出をもって成績判定する。

評価方法： リアクションペーパーほか **評価割合：50%**

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 授業で学んだことをもとに各自の考えを深め、アウトプットできる。
*いくつか提示するテーマの内から選んで学期末までに提出するレポートをもって成績判定する。

評価方法： 学期末レポート **評価割合：50%**

▼学修に主体的に取り組む態度

原則、評価対象にはしません。ただし、著しく態度が悪い場合は総合的な評価からの減点対象にはなりません。

評価割合：0%

▼実践的ボランティア

評価対象にはしません。

評価割合：0%

▼公正性

評価対象にはませんが、人権侵害、不当な差別、不正行為等が認められた場合は減点や厳重注意の対象となります。

評価割合：0%

▼その他

特になし

評価割合：特になし

授業計画： 第1回 オリエンテーションと学びの土台
第2回 旧約聖書のエッセンス
第3回 イエス・キリストと出会った人々
第4回 イエス・キリストの「たとえ話」
第5回 人間は何からできているか
第6回 イエス・キリストの奇跡
第7回 エリエリレマサバクタニ
第8回 信仰とは？
第9回 フィールドワーク 学園記念館訪問

- 第10回 クリスマスと礼拝
- 第11回 聖書から考える「戦争と平和」
- 第12回 聖書から考える「家族」「結婚」
- 第13回 聖書から考える「働くこと」「福祉」「教育」
- 第14回 神の国と天の国
- 第15回 まとめ

- 使用テキスト:**
1. 『聖書』
 - *旧約、新約の両方が入っているもの。(新共同訳の続編付きでも構わない)
 - *新共同訳、聖書協会共同訳、口語訳、新改訳、新改訳2017のいずれかを推奨。
 2. レジュメや資料は各授業で適宜配布します。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 配布プリントや授業内でのアナウンスを参考に、取り扱う聖書箇所を前もって読んでおいたり(予習)、印象に残ったところは考えを深めておく(復習)よいでしょう。参考文献などは授業内で適宜紹介します。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応しますので、まずは学務部等にご連絡ください。

授業時間外の連絡手段: 授業前後で声をかけてもらうか、IC-UNIPAを用いてコメント、メールなどでご連絡ください。

留意事項: 特になし

科目コード: 10052 **科目ナンバリング:** **主な使用言語:** 日本語

授業名(英文): キリスト教の精神と文化III a(Introduction to Christianity III a)

担当者: 佐々木 徹

基本情報

年次: 3

単位数: 2

授業形式: 講義

曜時: 木曜1限

履修可能学科・専攻: E Pe Pc C W F N M

関連資格: 保育

AL要素: 18. その他

授業の概要: 20世紀という時代は二つの世界大戦が起こった激動の時代であり、キリスト教もその自己理解や将来への展望が問われることになった時代であると言える。講義では、このような20世紀を振り返りつつ、カール・バルトの神学を中心にして、ヨーロッパなどにおけるキリスト教思想の流れをたどる。カール・バルトはスイス人であり、未完の大著『教会教義学』、反ナチズム闘争などで知られる現代の重要なプロテスタント神学者である。バルトの神学と実践は、現代のキリスト教の良心を代表するもののひとつである。キリスト教と社会主義の共闘、ナチズムに対する抵抗と闘争について考察し、キリスト教のよって立つ根拠を尋ねて、人間はいかに生きるべきかを考える。しばしば授業時に、受講者からの質問を募る。

キーワード: 神学、キリスト教倫理、戦争と平和、人間の尊厳

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標: カール・バルトの神学を展望しつつ、現代のキリスト教に関する重要事項をめぐる知識を習得する。

評価方法: 定期筆記試験。

評価割合: 25%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 授業で得た知識をめぐって考察し、自ら主体的に考察して、それを論理的に表現する。

評価方法: 定期筆記試験。

評価割合: 75%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。しかし、学期末試験の論述問題の内容において、主体的、積極的な深い取り組みの跡が認められる場合は、評価する場合もありえる。

評価割合：0%

▼実践的ボランティア

評価の対象とはしない。キリスト教信仰の有無にかかわらず、普遍的な人間の問題について考えることになるので、受講者の将来の歩みに資することもあり得る。

評価割合：0%

▼公正性

直接評価の対象とはしないが、授業時や試験において、キリスト教の精神にも反する著しい人権侵害や差別の主張がある場合は減点、嚴重注意の対象となる。カンニングなどの不正行為は、『履修要覧』の規定に基づいて対処する。

評価割合：0%

▼その他

特になし

評価割合：特になし

授業計画： 第1回： 導入
第2回： 神学者カール・バルトの誕生
第3回： カール・バルトと弁証法神学(1)
第4回： カール・バルトと弁証法神学(2)
第5回： バルト神学の展開(1)
第6回： バルト神学の展開(2)
第7回： ナチズムに対する抵抗と対決(1)
第8回： ナチズムに対する抵抗と対決(2)
第9回： フリードリヒ・ゴールテンとの対決
第10回： エミール・ブルンナーとの自然神学論争
第11回： バルト神学と平和の問題(教会と国家の関係など)
第12回： ブルトマン神学との相違
第13回： カール・バルトとカトリックの神学者たち
第14回： バルト神学に対する批判とその問題点
第15回： 20世紀のキリスト教と日本
定期試験

使用テキスト： 授業時にプリントを配布する

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： キリスト教が、社会や政治の問題とどのように取り組んできたかということに関心を持つと、理解は深まるであろう。参考文献等は適宜指示する。

障がいのある履修者への対応： 真摯な対応を心掛けたいが、まずは学務部などで相談してください。

授業時間外の連絡手段： オフィスアワーなどで、担当者が直接対応する。又、IC-UNIPAの掲示やメールで担当者から受講者への連絡がある。

留意事項： 誠実な態度で授業に臨むこと。

科目コード：10052

科目ナンバリング：

主な使用言語：日本語

授業名(英文)：キリスト教の精神と文化III b(Introduction to Christianity III b)

担当者：佐々木 徹

基本情報

年次：3

単位数：2

授業形式：講義

曜時：水曜2限

履修可能学科・専攻：E Pe Pc C W F N M

関連資格：保育

AL要素：18. その他

授業の概要： 聖書の教え、あるいは福音は、その歴史的展開において、もともとはキリスト教とは異なる文化的、宗教的伝統を培ってきた土壌に種まかれ、そこで根を張り育つことによってキリスト教の伝統を形成していくことになる。それは、出会いと寛容の歴史であり、あるいは対決の歴史でもある。このことはヨーロッパにおいても同様であり、講義ではおもにヨーロッパの事例を参考にしながら、キリスト教と文化の関連について考察する。又、このようにキリスト教と文化について考察することは、私たち日本に住む者にとっても興味深い問題提起をなすことになる。なぜなら、キリスト教がいかにして日本の文化、日本人の生活に根付くのかということ考察することによって、キリスト教との対比における日本文化や日本人の宗教性の特質が明確化する場合もあるからである。
講義時に、しばしば受講者から質問を募る。

キーワード： 西洋と東洋の宗教理解、キリスト教と日本人、宗教間対話

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標：「キリスト教と文化」の問題に関して講義で得た知識を概ね理解し、覚えている。

評価方法：学期末筆記試験

評価割合：25%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標：講義で得た知識を自ら深め、キリスト教と文化あるいは宗教と文化の関連について考察したことを、論理的に表現できる。

評価方法：学期末筆記試験

評価割合：75%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接の評価対象とはしない。しかし、定期試験の論述問題で、積極的、主体的で深く意欲的な論考が展開されておれば、評価の対象となりえる。

評価割合：0%

▼実践的ボランティア

評価の対象とはしない。しかし、授業との取り組み方によっては、受講者の将来の歩みに資することにはなるであろう。

評価割合：0%

▼公正性

直接の評価対象とはしない。しかし授業時や試験等において、キリスト教精神にも反する著しい人権侵害や差別などが主張されたりする場合は、減点、嚴重注意の対象となる。カンニングなどの不正行為は『履修要覧』の規定に基づいて対処する。

評価割合：0%

▼その他

特になし

評価割合：特になし

授業計画： A.導入

第1回：宗教と文化(1. 宗教と人間の根源的な問いとしての文化)

第2回：宗教と文化(2)

第3回：宗教と文化(3)

B.ヨーロッパにおけるキリスト教徒伝統思想

第4回：殉教者ユスティノスの人生と哲学

第5回：アウグスティヌスの人生と新プラトン主義の哲学(1)

- 第6回: アウグスティヌスの人生と新プラトン主義の哲学(2)
- 第7回: アウグスティヌスの人生と新プラトン主義の哲学(3)
- 第8回: アウグスティヌスの人生と新プラトン主義の哲学(4)
- 第9回: トマス・アキナスの人生とアリストテレスの哲学(1)
- 第10回: トマス・アキナスの人生とアリストテレスの哲学(2)

C.ヨーロッパのキリスト教が抱える問題

第11回: キリスト教と近代文化

第12回: 真の信仰とは何か・・・キルケゴールの問題提起

D.キリスト教と芸術

第13回: K・バルトとモーツァルト、マティアス・グリュネヴァルトの絵画、ジョルジュ・ルオーの絵画

E.キリスト教と日本の宗教

第14回: キリスト教と仏教(浄土宗、浄土真宗など)

第15回: キリスト教信仰と日本人の宗教性

定期試験

使用テキスト: 授業時にプリントを配布する

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 宗教、思想、芸術などに広く関心を持ち、平素より人生の意味についてよく考えておくこと。参考文献などは、適宜指示する。

障がいのある履修者への対応: 真摯な対応を心掛けたいが、まずは学務部などに相談してください。

授業時間外の連絡手段: IC-UNIPAの掲示やメールで連絡したり、オフィスアワーなどで担当者が直接対応したりする。

留意事項: 誠実な態度で授業に臨むこと。

科目コード: 10052

科目ナンバリング:

主な使用言語: 日本語

授業名(英文): キリスト教の精神と文化III c(Introduction to Christianity III c)

担当者: 佐々木 徹

基本情報

年次: 3

単位数: 2

授業形式: 講義

曜時: 木曜2限

履修可能学科・専攻: E Pe Pc C W F N M

関連資格: 保育

AL要素: 18. その他

授業の概要: 20世紀という時代は二つの世界大戦が起こった激動の時代であり、キリスト教もその自己理解や将来への展望が問われることになった時代であると言える。講義では、このような20世紀を振り返りつつ、カール・バルトの神学を中心にして、ヨーロッパなどにおけるキリスト教思想の流れをたどる。カール・バルトはスイス人であり、未完の大著『教会教義学』、反ナチズム闘争などで知られる現代の重要なプロテスタント神学者である。バルトの神学と実践は、現代のキリスト教の良心を代表するもののひとつである。キリスト教と社会主義の共闘、ナチズムに対する抵抗と闘争について考察し、キリスト教のよって立つ根拠を尋ねて、人間はいかに生きるべきかを考える。しばしば授業時に、受講者からの質問を募る。

キーワード: 神学、キリスト教倫理、戦争と平和、人間の尊厳

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標: カール・バルトの神学を展望しつつ、現代のキリスト教に関する重要事項をめぐる知識を習得す

る。

評価方法： 定期筆記試験。

評価割合： 25%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 授業で得た知見をめぐって考察し、自ら主体的に考察して、それを論理的に表現する。

評価方法： 定期筆記試験。

評価割合： 75%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。しかし、学期末試験の論述問題の内容において、主体的、積極的な深い取り組みの跡が認められる場合は、評価する場合もありえる。

評価割合： 0%

▼実践的ボランティア

評価の対象とはしない。キリスト教信仰の有無にかかわらず、普遍的な人間の問題について考えることになるので、受講者の将来の歩みに資することもあり得る。

評価割合： 0%

▼公正性

直接評価の対象とはしないが、授業時や試験において、キリスト教の精神にも反する著しい人権侵害や差別の主張がある場合は、減点、嚴重注意の対象となる。カンニングなどの不正行は、『履修要覧』の規定に基づいて対処する。

評価割合： 0%

▼その他

特になし

評価割合： 特になし

授業計画： 第1回: 導入
第2回: 神学者カール・バルトの誕生
第3回: カール・バルトと弁証法神学(1)
第4回: カール・バルトと弁証法神学(2)
第5回: バルト神学の展開(1)
第6回: バルト神学の展開(2)
第7回: ナチズムに対する抵抗と対決(1)
第8回: ナチズムに対する抵抗と対決(2)
第9回: フリードリヒ・ゴールテンとの対決
第10回: エミール・ブルンナーとの自然神学論争
第11回: バルト神学と平和の問題(教会と国家の関係など)
第12回: ブルトマン神学との相違
第13回: カール・バルトとカトリックの神学者たち
第14回: バルト神学に対する批判とその問題点
第15回: 20世紀のキリスト教と日本
定期試験

使用テキスト： 授業時にプリントを配布する

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： キリスト教が、社会や政治の問題とどのように取り組んできたかということに関心を持つと、理解は深まるであろう。
参考文献等は適宜指示する。

障がいのある履修者への対応： 真摯な対応を心掛けたいが、まずは学務部などで相談してください。

授業時間外の連絡手段： オフィスアワーなどで、担当者が直接対応する。又、IC-UNIPAの掲示やメールで担当者から受講者への連絡がある。

留意事項： 誠実な態度で授業に臨むこと。

科目コード:10052 科目ナンバリング: 主な使用言語:日本語

授業名(英文):キリスト教の精神と文化III d(Introduction to Christianity III d)

担当者:佐々木 徹

基本情報

年次:3

単位数:2

授業形式:講義

曜時:木曜3限

履修可能学科・専攻: E Pe Pc C W F N M

関連資格:保育

AL要素:18.その他

授業の概要: キリスト教神学の基本を解説する。そして、キリスト教神学において探求される主要な事柄について考察し、理解を深めるよう努める。講義では、聖書あるいは古代、中世、近代以降のヨーロッパなどにおけるキリスト教の神学思想のいくつかについて言及し、そこで問題となっている事柄を我々も共に考え、我々の人生の深みにも触れる考察をしようと思う。キリスト教に対決的な一般思想にも説き及び、そのような思想からの提言に対してキリスト教神学の立場でいかなる答えをなすのかといったことについても考える。こうしてキリスト教の真理を探究する我々の現在において、キリスト教の過去が新鮮さをもって語り始め、キリスト教の将来への何らかの展望が開かれてくるのではないかと考える。しばしば授業時に、受講者の質問を募る。

キーワード: 神論(三位一体論)、創造論、キリスト論、マリア論、教会論、終末論
キリスト教神学と哲学および一般の諸学問・諸科学

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標: 講義で得た知識を概ね理解しつつ覚えている。

評価方法: 学期末筆記試験

評価割合: 25%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 講義で述べられたことについて、自ら考察し、それを論理的に表現できる。

評価方法: 学期末筆記試験

評価割合: 75%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接の評価対象とはしないが、定期試験の論述問題の解答において、積極的、主体的にして深く意欲的な取り組みがなされている場合は評価の対象となりえる。

評価割合: 0%

▼実践的ボランティア

評価の対象とはしない。しかし、授業で得たことは受講者の将来の歩みに資することもある。

評価割合: 0%

▼公正性

直接の評価対象ではないが、キリスト教の精神にも反する著しい人権侵害や差別などの主張が、授業時や試験の答案にある場合は、減点や嚴重注意の対象となる。カンニングなどの不正行為は『履修要覧』の規定に基づいて対処する。

評価割合: 0%

▼その他

特になし

評価割合: 特になし

授業計画: 第1回: 導入(1)

- 第2回: 導入(2)
- 第3回: 神の存在(1. 神の存在をめぐる現代の議論)
- 第4回: 神の存在(2. 神の存在の論証)
- 第5回: 神の本質と諸完全性
- 第6回: 三位一体の神(1)
- 第7回: 三位一体の神(2)
- 第8回: 創造主なる神と人間
- 第9回: イエス・キリスト(1、伝統的キリスト論)
- 第10回: イエス・キリスト(2. イエス・キリストと現代(a))
- 第11回: イエス・キリスト(3. イエス・キリストと現代(b))
- 第12回: 聖母マリア
- 第13回: 聖霊
- 第14回: 世にある教会
- 第15回: 私たちの希望
- 定期試験

使用テキスト: 授業時にプリントを配布する。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: キリスト教はもとより、キリスト教以外の思想、あるいはキリスト教に対して対決的な思想にも胸襟を開き、さまざまな面からキリスト教について考えることに慣れておくと、興味深い考察に接近できる。参考文献などは適宜指示する。

障がいのある履修者への対応: 真摯な対応を心掛けたいが、まずは学務部などで相談してください。

授業時間外の連絡手段: IC-UNIPAの掲示やメールで連絡したり、オフィスアワーなどで担当者が直接対応したりする。

留意事項: 誠実な態度で授業に臨むこと。

科目コード: 10052 **科目ナンバリング:** **主な使用言語:** 日本語

授業名(英文): キリスト教の精神と文化III e(Introduction to Christianity III e)

担当者: 佐藤 希久雄

基本情報

年次: 3

単位数: 2

授業形式: 講義

曜時: 月曜2限

履修可能学科・専攻: E Pe Pc C W F N M

関連資格: 保育

AL要素: 16 振り返り用紙と応答

授業の概要: 本学の見学理念であるキリスト教精神について、ヨーロッパの文化、とくに音楽の面から解説する。礼拝における音楽の重要性に気づき、音楽化された聖書の言葉や様々なテキストの解説からキリスト教の精神について理解を深めて行く。

キーワード: キリスト教 聖書 宗教音楽 礼拝 讃美歌

学位授与方針との関係

▼ **知識・技能**

到達目標: 授業において解説された音楽作品内容の宗教的位置づけについて理解し、その用語をもって記憶すること(例:「受難曲」「黒人霊歌」等)。概ね80%の記憶を評価Aの基準とする。

評価方法: 学期末にレポートを課す

評価割合: 80%

▼ **思考力・判断力・表現力**

到達目標: 毎時間、「授業シート」の記述を求める。的確に授業の概要をまとめ、感想や疑問に思ったこと

が表現できる。

評価方法: 毎時間の「授業シート」

評価割合: 20%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし学期末試験において記述式問題の回答の中に主体的に学習に取り組んだ事柄が読み取れる場合、評価の対象として加えることがある。

評価割合: 0%

▼実践的ボランティア

チャペルや行事の聖歌隊への参加等、本授業に関連付けられる実践的活動があれば、レポートの提出によって評価の対象に加える。

評価割合: 0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし授業中の発言や筆記試験の記述等において著しく公正性に欠ける言動があった場合、減点や注意の対象となり得る。

評価割合: 0%

▼その他

特になし

評価割合: 特になし

- 授業計画:**
- 第1回 教会音楽の始まり～グレゴリオ聖歌
 - 第2回 ヘンデル作曲「メサイア」を聞きながら(1)「降誕」とは
 - 第3回 ヘンデル作曲「メサイア」を聞きながら(2)「受難」とは
 - 第4回 ヘンデル作曲「メサイア」を聞きながら(3)「復活」とは
 - 第5回 「聖母マリア」をめぐって～「アヴェ・マリア」「マニフィカト」「スターバト・マーテル」
 - 第6回 バッハの音楽を聴く(1)カンタータ
 - 第7回 バッハの音楽を聴く(2)オルガン曲
 - 第8回 アドヴェントとクリスマスの音楽
 - 第9回 モーツァルトを聴く～ミサ曲と「アヴェ・ヴェルム・コルプス」他
 - 第10回 「レクイエム」
 - 第11回 黒人霊歌を聴く
 - 第12回 詩編と音楽
 - 第13回 バッハの音楽を聴く(3)「ヨハネ受難曲」(1)捕縛からペテロの否認まで
 - 第14回 バッハの音楽を聴く(4)「ヨハネ受難曲」(2)審問から埋葬まで
 - 第15回 日本史の中のキリスト教音楽

使用テキスト: 毎回レジュメと「授業シート」を配布する。また、讃美歌等を歌うが、楽譜は用意するので讃美歌集を持参する必要はない。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 参考文献:長谷川朝雄他編「よくわかる キリスト教の音楽」(キリスト教新聞社)
横坂康彦著「キリスト教音楽入門 教会音楽史と讃美歌学」(日本基督教団出版局)
予めその回の音楽について聞いたり調べたりしておくことが望ましい。また授業後、取り上げられた音楽を聞き直したり、さらに情報を得たりして理解を深めることが望ましい。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応する。とくに聴力や視力等に問題があれば申し出て欲しい。

授業時間外の連絡手段: オフィスアワーに音楽研究室で対応する。

留意事項: 音楽鑑賞の場ではとくに静謐を要する。私語等によって他の学生の学習権を侵害するような場合、厳しく対処する。

科目コード:10052

科目ナンバリング:

主な使用言語:日本語

授業名(英文):キリスト教の精神と文化III f(Introduction to Christianity III f)

担当者：佐藤 希久雄

基本情報

年次：3

単位数：2

授業形式：講義

曜時：水曜3限

履修可能学科・専攻：E Pe Pc C W F N M

関連資格：保育

AL要素：16 振り返り用紙と応答

授業の概要： 本学の見学理念であるキリスト教精神について、ヨーロッパの文化、とくに音楽の面から解説する。礼拝における音楽の重要性に気づき、音楽化された聖書の言葉や様々なテキストの解説からキリスト教の精神について理解を深めて行く。

キーワード： キリスト教 聖書 宗教音楽 礼拝 讃美歌

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 授業において解説された音楽作品内容の宗教的位置づけについて理解し、その用語をもって記憶すること(例:「受難曲」「黒人霊歌」等)。概ね80%の記憶を評価Aの基準とする。

評価方法： 学期末にレポートを課す

評価割合： 80%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 毎時間、「授業シート」の記述を求める。的確に授業の概要をまとめ、感想や疑問に思ったことが表現できる。

評価方法： 毎時間の「授業シート」

評価割合： 20%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし学期末試験において記述式問題の回答の中に主体的に学習に取り組んだ事柄が読み取れる場合、評価の対象として加えることがある。

評価割合： 0%

▼実践的ボランティア

チャペルや行事の聖歌隊への参加等、本授業に関連付けられる実践的活動があれば、レポートの提出によって評価の対象に加える。

評価割合： 0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし授業中の発言や筆記試験の記述等において著しく公正性に欠ける言動があった場合、減点や注意の対象となり得る。

評価割合： 0%

▼その他

特になし

評価割合： 特になし

授業計画：

- 第1回 教会音楽の始まり～グレゴリオ聖歌
- 第2回 ヘンデル作曲「メサイア」を聞きながら(1)「降誕」とは
- 第3回 ヘンデル作曲「メサイア」を聞きながら(2)「受難」とは
- 第4回 ヘンデル作曲「メサイア」を聞きながら(3)「復活」とは
- 第5回 「聖母マリア」をめぐって～「アヴェ・マリア」「マニフィカト」「スターバト・マーテル」
- 第6回 バッハの音楽を聴く(1)カンタータ
- 第7回 バッハの音楽を聴く(2)オルガン曲
- 第8回 アドヴェントとクリスマスの音楽
- 第9回 モーツァルトを聴く～ミサ曲と「アヴェ・ヴェルム・コルプス」他
- 第10回 「レクイエム」
- 第11回 黒人霊歌を聴く

- 第12回 詩編と音楽
 第13回 バッハの音楽を聴く(3)「ヨハネ受難曲」(1) 捕縛からペテロの否認まで
 第14回 バッハの音楽を聴く(4)「ヨハネ受難曲」(2) 審問から埋葬まで
 第15回 日本史の中のキリスト教音楽

使用テキスト: 毎回レジュメと「授業シート」を配布する。また、讃美歌等を歌うが、楽譜は用意するので讃美歌集を持参する必要はない。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 参考文献:長谷川朝雄他編「よくわかる キリスト教の音楽」(キリスト教新聞社)
 横坂康彦著「キリスト教音楽入門 教会音楽史と賛美歌学」(日本基督教団出版局)
 予めその回の音楽について聞いたり調べたりしておくことが望ましい。また授業後、取り上げられた音楽を聞き直したり、さらに情報を得たりして理解を深めることが望ましい。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応する。とくに聴力や視力等に問題があれば申し出て欲しい。

授業時間外の連絡手段: オフィスアワーに音楽研究室で対応する。

留意事項: 音楽鑑賞の場ではとくに静謐を要する。私語等によって他の学生の学習権を侵害するような場合、厳しく対処する。

科目コード: 10052 **科目ナンバリング:** **主な使用言語:** 日本語

授業名(英文): キリスト教の精神と文化III g(Introduction to Christianity III g)

担当者: 小幡 幸和

基本情報

年次: 3

単位数: 2

授業形式: 講義

曜時: 水曜3限

履修可能学科・専攻: E Pe Pc C W F N M

関連資格: 保育

AL要素: 08. 協同学修

11. 討論

16. 振り返り課題と応答

授業の概要: 隣人愛や他者の受容、いのちの大切さ、個の尊重、利他主義、平和主義といった基本的キリスト教精神について聖書の記述から概説するとともに、教育などを通して社会で広くキリスト教精神を実践した人物の生涯について映像資料を交えて学びます。また、キリスト教精神をわかりやすく伝える手段としてキリスト教系の幼児教育で用いられている「聖話」の実際を紹介するほか、感謝祭、クリスマス、イースターなどの代表的キリスト教祝祭(行事)についてそのキリスト教的意味合いを解説します。

キーワード: キリスト教精神、隣人愛、他者受容、いのちの大切さ、利他主義、平和主義、キリスト教教育、感謝祭、クリスマス、イースター

学位授与方針との関係

▼ **知識・技能**

到達目標: 授業で解説を受けたキリスト教精神の概要を理解し、それらを社会で適用させてきた先人の例を知識として身につけ、それらの知識を教育・保育・その他社会生活一般の中で適用する方法を考察できる。

評価方法: レポート

評価割合: 50%

振り返り課題

▼ **思考力・判断力・表現力**

到達目標: 授業で扱った内容について、自主学修によって得た知見や経験をふまえて考察し、論理的かつ簡潔に自らの所見を表現することができる。

評価方法: レポート

評価割合: 50%

振り返り課題

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし、自主的な学修によって自身の知見に追加された成果等が振り返り課題やレポート等の記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合：0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただしボランティア活動等の実践により深められた知見等が振り返り課題やレポート等の記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし、授業中のグループディスカッションやレポート等において、深刻な人権侵害や差別的発言など著しく公正性を欠く言動が見られる場合には、厳重注意のうえ減点の対象とするので注意すること。

評価割合：0%

▼その他

特になし

評価割合：特になし

授業計画： 第01回 ガイダンス、序論：キリスト教精神の概要
第02回キリスト教精神から教育への展開（「聖話」を例に）：1. 旧約聖書
第03回キリスト教精神から教育への展開（「聖話」を例に）：2. 新約聖書（イエス・キリストの生涯）
第04回キリスト教精神から教育への展開（「聖話」を例に）：3. 新約聖書（イエス・キリストのたとえ話）
第05回隣人愛の精神と児童養護（石井十次）
第06回隣人愛の精神と子どもの支援（石井筆子）
第07回国境を越えるキリスト教精神1（田内千鶴子）
第08回国境を越えるキリスト教精神2（茨城キリスト教学園と宣教師たちの歩み）
第09回キリスト教の「祈り」と感謝祭
第10回クリスマスの意味：1. イエスの誕生（マリアとヨセフ）
第11回クリスマスの意味：2. イエスの誕生（羊飼いと博士たち）
第12回クリスマスの意味：3. 共にいる神
第13回キリストの教えと平和主義
第14回キリストの十字架と利他主義
第15回イースターの意味と希望の精神
レポート提出

使用テキスト： ・授業で使うレジメやその他の資料はオンライン（PDF）、または紙媒体で配布します。
・教員の説明補助としてパワーポイントを使用します。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： ・授業前には、その回のテーマの分からない用語、人物像等を調べる（60分）。
・授業後、振り返り課題を通して授業内容についての自分の考えをまとめるとともに、関連事項について自主学修を通じ知見を深めることが望ましい（60分）。
・日頃から、キリスト教に関する新聞記事等に関心を持つようにすること。授業全般に関する参考文献は、『聖書』（新共同訳）の他、授業の中で適宜紹介する。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡して下さい。

授業時間外の連絡手段： オフィスアワーに研究室で対応します。曜日・時限等については初回にお知らせします。

留意事項： ・振り返り課題については翌週の授業でコメントし、内容の一部を匿名で紹介することがあります。

・デバイスの持参を推奨します。

科目コード:10052 科目ナンバリング: 主な使用言語:授業は日本語を使
授業名(英文):キリスト教の精神と文化III h(Introduction to Christianity III h)
担当者:高橋 教雄

基本情報

年次:3 単位数:2 授業形式:講義
曜時:木曜2限 履修可能学科・専攻: E Pe Pc C W F N M
関連資格:保育 AL要素:資料調査課題

授業の概要:【授業形態ガイドライン・レベルⅢ・レベルⅡ】課題研究型

<聖書－人間－社会－文化－言語>

西洋社会・西洋文化を知る上で、キリスト教に関する情報は不可欠のものです。これは外国語(英語・ドイツ語・フランス語など)を学ぶ際にも当てはまります。

この授業では、日常の言語表現や、日本人にもよく知られるようになった様々な西洋の慣習や行事を取り上げ、そこに見られる聖書の影響を考察していきます。また、キリスト教以前のヨーロッパ社会の慣習や文化がそのような形でその名残をとどめているのかについても言及します。

キーワード: 聖書、人間、社会、文化、言語

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標: (1)日本でもよく知られるようになった欧米の文化や慣習が、キリスト教・聖書とどのように関わっているのかを理解できるようになる。
(2)英語において日常的に使われている表現の多くがキリスト教・聖書に由来するものであることに気づき、その意味を理解することができるようになる。
(3)外国語、とりわけ欧米の言語を学習する際に役立つ情報を理解できるようになる。

評価方法: 授業時に提示される課題の評価と、期末試験の結果を合わせて評価します。 評価割合:100%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標:「何故?」と問い直すことによって、問題意識を持って問題解決に向かうことができるようになる。

評価方法:上記の「知識・技能」の問題と合わせた期末試験 評価割合:(100%)

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的評価の対象とはしませんが、期末試験の解答に反映される部分は加味します。

評価割合:0%

▼実践的ボランティア

直接的には評価対象とはしません。

評価割合:0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしません。ただし、信仰に関わる問題が取り上げられますので、公正な態度で授業に臨むことが求められます。

評価割合:0%

▼その他

特になし。

評価割合:特になし。

授業計画： 第01回 インTRODクシヨN:聖書の構成
第02回 カレンダーと宗教
第03回 god-gods-goddess-goddesses-God
第04回 聖書に見られる言語への言及(1)
第05回 聖書見見られる言語への言及(2)
第06回 聖書に見られる言語への言及(3)
第07回 欧米の行事とキリスト教(1):Halloween
第08回 欧米の行事とキリスト教(2):Thanksgiving Day
第09回 欧米の行事とキリスト教(3):Christmas (i)
第10回 欧米の行事とキリスト教(4):Christmas (ii)
第11回 欧米の行事とキリスト教(5):St. Valentine's Day
第12回 欧米の行事とキリスト教(6):Carnival
第13回 欧米の行事とキリスト教(7):Last Supper
第14回 欧米の行事とキリスト教(8):Easter
第15回 まとめ
定期試験

使用テキスト： 特定の教科書は使用せず、担当者作成のプリント教材(主として英語)を配布します。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 旧約聖書と新約聖書の両方が収録されている日本語訳聖書(および英語訳聖書)を参照できる体制を整えておいてください。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応しますが、事前に学務部および担当者に相談してください。

授業時間外の連絡手段： 出講日の休み時間に兼任講師室(11号館2階)で、あるいはメールで対応します。

留意事項： 特になし。

科目コード：10053 **科目ナンバリング：LA10A01E** **主な使用言語：日本語**

授業名(英文)：大学基礎演習(Basic University Seminar)

担当者：山川 誠司

基本情報

年次：1

単位数：2

授業形式：演習

曜時：火曜1限

履修可能学科・専攻：W

関連資格：

AL要素： 07:発表
08:協同学習
11:討論
15:レポート指導

授業の概要： IC生としての基本的知識の修得を目指す基礎演習 I に続き、本講座では、生活科学部心理福祉学科の学生として、踏まえておくべき基礎的な知識と技術の修得を目指す。論述型レポート作成のトレーニングを中心に、本学科で学べる心理学および福祉学の理解、メールマナーの習得、プレゼンテーション資料の作成および発表など、専門科目履修の事前指導として、必要十分な知識の修得にも取り組む。

キーワード： トップダウン&ボトムアップ、メールマナー、レポート作成のコツ、プレゼンテーション

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標： テーマに基づき、疑問や問題を提議し、客観的事実や論理的な推論による議論を進め、最後に適切な解答や結論に導くことができる。またそれを妥当な手段で報告することができる。

評価方法： レポート

評価割合：50%

プレゼンテーション

小課題

*レポートは提出までに、担当教員により複数回の添削を行う。

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 授業で取り組んだテーマを基に自らの取り組みを振り返り、考察・課題などを適切に表現することができる。

評価方法: 同上。

評価割合: 50%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象としない。ただし授業への参加、他者の尊重、報告・連絡・相談の姿勢、他者とのコミュニケーションの程度に著しく問題があると判断された場合は、減点や嚴重注意の対象となる。

評価割合: 0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象としない。

評価割合: 0%

▼公正性

直接的な評価対象としない。ただし授業中の発言やレポート内の記述において人権侵害・差別的発言など著しく公平性を欠く言動があった場合、問題があると判断された場合は、減点や嚴重注意の対象となる。

評価割合: 0%

▼その他

特になし。

評価割合: 特になし。

授業計画:

- 【第01回】オリエンテーション
- 【第02回】心理学&福祉学概論
- 【第03回】メールの書き方
- 【第04回】レポートの書き方① -レポートとは?-
- 【第05回】レポートの書き方② -主題の決定-
- 【第06回】レポートの書き方③ -関連調査-
- 【第07回】レポートの書き方④ -調査報告-
- 【第08回】レポートの書き方⑤ -構成を考える-
- 【第09回】レポートの書き方⑥ -序論を書く-
- 【第10回】レポートの書き方⑦ -本論構成-
- 【第11回】レポートの書き方⑧ -結論-
- 【第12回】プレゼンテーション作成①
- 【第13回】プレゼンテーション作成②
- 【第14回】プレゼンテーション
- 【第15回】授業振り返り

使用テキスト: 特に指定しない。講義で用いる資料は随時配布する。

予習・復習のポイントと 【予習・復習】

参考文献・資料等: 必要な情報は授業中に過不足なく伝えるので予習の必要はない。しかし、本講座で伝える内容は、W科生にとって基礎的であるが必須の知識である。次学年では「習得済みであるもの」として扱うため、必ず授業の振り返りを行うこと。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応しますので、まずは学務部と担当教員に相談してください。

授業時間外の連絡手段: UNIPAによる。

留意事項: 演習はグループで行うことが多く、他者の尊重、報告・連絡・相談の姿勢、他者とのコミュニケーションを大切に授業に臨むこと。
特例期間中の授業形態は遠隔授業(同時双方向型)および課題研究型です。週によって異なるので

科目コード:10054 科目ナンバリング: 主な使用言語:英語/日本語

授業名(英文): 英語コミュニケーションI a (Conversing in English I a)

担当者: Asperheim, Daniel R.

基本情報

年次:1

単位数:1

授業形式:講義

曜時:水曜2限

履修可能学科・専攻: Pe Pc C W F N M

関連資格:教職 保育

AL要素: 13.役割演技と疑似体験、11.討論

授業の概要: Students will learn English for everyday situations. For example, self-introduction, comparing sports, talking about work, etc.

キーワード: English, conversation, discussion, 英会話

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標: Students will learn English vocabulary and phrases related to certain real-life situations. They must speak the English they practice in class well enough to achieve simple, smooth, and understandable conversations.

評価方法: Students' grades are largely based on the amount of effort and time they put into class activities. Participation is very important, so students who do not frequently cooperate or who are frequently absent will not receive an A or an AA. **評価割合:** 85%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: Students will learn strategies that will prepare them for situations that require English communication. These strategies will help students respond more quickly and confidently in English.

評価方法: The instructor will observe the students' abilities to speak English and evaluate their abilities during student/teacher oral exams. **評価割合:** 15%

▼学修に主体的に取り組む態度

Students must help create a functional educational environment by quietly listening to lesson explanations and by cooperating during group activities.

評価割合: 0%

▼実践的ボランティア

Students will cultivate the ability to practice their English with interns and English-speaking teachers outside of class.

評価割合: 0%

▼公正性

Any racial or sexual discrimination will not be tolerated according to the university harassment policy. Likewise, cheating in classwork and plagiarism will not be tolerated.

評価割合: 0%

▼その他

None.

評価割合 : None.

授業計画 : [第01回] Introduction.
[第02回] Asking about names.
[第03回] Name Conversation. Prepare for Talkopoly.
[第04回] Talkopoly: Play and listen.
[第05回] Listening. "Find someone who . . ."
[第06回] Comparative forms (比較級). Trivia quiz.
[第07回] Review comparative. Listening. Comparing Things.
[第08回] Comparing People and Sports.
[第09回] Comparing Sports (cont.).
[第10回] Listening. Superlatives (最上級).
[第11回] Talking about Work.
[第12回] Describing personality.
[第13回] Qualities for Work and Work interview.
[第14回] Review for test.
[第15回] Start conversation test.

使用テキスト : Talk a Lot: Book 2 (Second Edition) by David Martin (Okegawa City: EFL Press, 2003).
EFL Press: Tel/Fax (048) 772-7724
<http://www.EFLPRESS.com>

予習・復習のポイントと参考文献・資料等 : With the provided schedule, students should look over the content of each lesson in the textbook before class. Also, students are strongly encouraged to practice outside of class and to get as much English input as they can (by watching English movies, reading English books, listening to English music, etc.)

障がいのある履修者への対応 : I will try to accommodate any special needs students. Please contact the Student Affairs office or talk with me personally to tell me what needs you have with regard to this class.

授業時間外の連絡手段 : Please e-mail me for questions.

留意事項 : Please expect to use mostly English in class.

科目コード : 10054 科目ナンバリング : 主な使用言語 : English

授業名 (英文) : 英語コミュニケーションI b (Conversing in English I b)

担当者 : Fidalgo, Gina

基本情報

年次 : 1

単位数 : 1

授業形式 : 講義

曜時 : 火曜5限

履修可能学科・専攻 : Pe Pc C W F N M

関連資格 : 教職 保育

AL要素 :

presentations, group work, discussion, debate, role-playing, correction guidance, question and answer

授業の概要 :

This course provides English communication practice using everyday topics. The main emphasis is communicating in English in order to build self-confidence. Class materials will also focus on strengthening other skills such as listening, reading, vocabulary knowledge, and writing. The course aims to make students feel learning a foreign language is fun if you can freely communicate what you think and feel with a partner, in a group, or in front of an audience. Active participation is important in this class.

キーワード: English conversation, English discussion, role-playing, daily topics, English presentations, English writing

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標: Students should be able to combine skills and knowledge they have learned in the past, in addition to new vocabulary and grammatical styles learned in class, in order to effectively communicate and answer test or assignment questions.

評価方法: In-class and homework assignments (30%); **評価割合:** 60%
final exam (30%)

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: Students should be able to express their opinion, feelings, and experiences about a given topic or situation.

評価方法: active participation in group discussion, **評価割合:** 40%
question and answer sessions, role-playing,
and debate (20%); presentation (20%)

▼学修に主体的に取り組む態度

Although effort is not directly evaluated in this class, the time and effort that you put into your work shows, so you should always try your best. Students who try hard usually get good results.

評価割合: 0%

▼実践的ボランティア

Volunteering is not directly evaluated in this class. However, it can provide you with essential skills and new knowledge that you can use both inside and outside the classroom.

評価割合: 0%

▼公正性

Fairness is not directly evaluated in this class. However, it is very important to show respect and fairness to everyone around you. Not being fair or respectful may negatively impact your grade, result in a warning, or additional homework.

評価割合: 0%

▼その他

(1) Please come to class in time for the lesson. Students entering the class after attendance is taken and the lesson has started will be considered late. By being late, you will miss important information and disrupt the class if the teacher has to repeat information again. Please note that students entering the class more than 45 minutes late will be considered absent.

(2) Late assignment will not be accepted. All assignments must be submitted on the due date.

評価割合: (1) Please come to class in time for

授業計画: SEMESTER ONE

- Lesson 1 - Welcome Class - Syllabus outline and get to know your teacher
- Lesson 2 - Think about your learning; activity to get to know your peers
- Lesson 3 - Competition - Talk about sports
- Lesson 4 - Competition - Which sport is best for you?
- Lesson 5 - Competition - Positive and negative aspects of competition
- Lesson 6 - A unique sport - Talking about Capoeira
- Lesson 7 - School subjects - Talking about what you study
- Lesson 8 - School subjects - The best class I ever took
- Lesson 9 - A busy semester - Things students do at school
- Lesson 10 - A busy semester - How do reduce test anxiety
- Lesson 11 - A busy semester - How to succeed in University

- Lesson 12 - Names - history and interesting facts about names
- Lesson 13 - Names - what is the meaning of your name?
- Lesson 14 - Presentations - day 1
- Lesson 15 - Presentations - day 2

Final exam for semester one

使用テキスト: There is no textbook for this class. The teacher will provide digital handouts and activity worksheets for each of the topics. Students will be responsible for printing the handouts or downloading the handouts. All students should bring a dictionary to class.

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: It is important to review the contents from each lesson and complete the homework assignments, which offer extra practice of the language learned in class. This will also help in retaining information for the exam.

障がいのある履修者への対応: All students are welcome in this class. Please consult with the student office.

授業時間外の連絡手段: The teacher has no set office hours. Please speak to the teacher after class in order to set up a convenient time and date to meet.

留意事項: This class will be taught solely in English. Class topics on this syllabus may change as determined by the instructor. Changes will depend on the level of difficulty, student needs, and student progress. Please note that about 30 students is the maximum size for this class. If more than 30 students apply, DCE students will be given priority for registering.

Bring Your Own Device (BYOD). A notebook PC or tablet will be required from the first day of class.

科目コード: 10054 **科目ナンバリング:** **主な使用言語: English**

授業名(英文): 英語コミュニケーションI c (Conversing in English I c)

担当者: Fidalgo, Gina

基本情報

年次: 1

単位数: 1

授業形式: 講義

曜時: 火曜6限

履修可能学科・専攻: Pe Pc C W F N M

関連資格: 教職 保育

AL要素:

presentations, group work, discussion, debate, role-playing, correction guidance, question and answer

授業の概要:

This course provides English communication practice using everyday topics. The main emphasis is communicating in English in order to build self-confidence. Class materials will also focus on strengthening other skills such as listening, reading, vocabulary knowledge, and writing. The course aims to make students feel learning a foreign language is fun if you can freely communicate what you think and feel with a partner, in a group, or in front of an audience. Active participation is important in this class.

キーワード: English conversation, English discussion, role-playing, daily topics, English presentations, English writing

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標: Students should be able to combine skills and knowledge they have learned in the past, in addition to new vocabulary and grammatical styles learned in class, in order to effectively communicate and answer test or assignment questions.

評価方法: In-class and homework assignments (30%); **評価割合: 60%**

final exam (30%)

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: Students should be able to express their opinion, feelings, and experiences about a given topic or situation.

評価方法: active participation in group discussion, question and answer sessions, role-playing, and debate (20%); presentation (20%)

評価割合: 40%

▼学修に主体的に取り組む態度

Although effort is not directly evaluated in this class, the time and effort that students put into their work shows, so it is recommended to always try your best. Students who try hard usually get good results.

評価割合: 0%

▼実践的ボランティア

Volunteering is not directly evaluated in this class. However, it can provide you with essential skills and new knowledge that you can use both inside and outside the classroom.

評価割合: 0%

▼公正性

Fairness is not directly evaluated in this class. However, it is very important to show respect and fairness to everyone around you. Not being fair or respectful may negatively impact your grade, result in a warning, or additional homework.

評価割合: 0%

▼その他

(1) Please come to class in time for the lesson. Students entering the class after attendance is taken and the lesson has started will be considered late. By being late, you will miss important information and disrupt the class if the teacher has to repeat information again. Please note that students entering the class more than 45 minutes late will be considered absent.

(2) Late assignment are not accepted in this class. All assignments must be submitted by the due date.

評価割合: (1) Please come to class in time for

授業計画: SEMESTER ONE

- Lesson 1 - Welcome Class - Syllabus outline and get to know your teacher
- Lesson 2 - Think about your learning; activity to get to know your peers
- Lesson 3 - Competition - Talk about sports
- Lesson 4 - Competition - Which sport is best for you?
- Lesson 5 - Competition - Positive and negative aspects of competition
- Lesson 6 - A unique sport - Talking about Capoeira
- Lesson 7 - School subjects - Talking about what you study
- Lesson 8 - School subjects - The best class I ever took
- Lesson 9 - A busy semester - Things students do at school
- Lesson 10 - A busy semester - How do reduce test anxiety
- Lesson 11 - A busy semester - How to succeed in University
- Lesson 12 - Names - history and interesting facts about names
- Lesson 13 - Names - what is the meaning of your name?
- Lesson 14 - Presentations - day 1
- Lesson 15 - Presentations - day 2

Final exam for semester one

使用テキスト: There is no textbook for this class. The teacher will provide digital handouts and activity worksheets for each of the topics. Students will be responsible for printing the handouts or downloading the

handouts. All students should bring a dictionary to class.

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: It is important to review the contents from each lesson and complete the homework assignments, which offer extra practice of the language learned in class. This will also help in retaining information for the exam.

障がいのある履修者への対応: All students are welcome in this class. Please consult with the student office.

授業時間外の連絡手段: The teacher has no set office hours. Please speak to the teacher after class in order to set up a convenient time and date to meet.

留意事項: This class will be taught solely in English. Class topics on the syllabus may change as determined by the instructor. Changes will depend on student needs, the level of difficulty, and student progress.

Please note that 30 students is the maximum size for this class. If more than 30 students apply, DCE students will be given priority for registering.

Bring Your Own Device (BYOD). A notebook PC or tablet will be required from the first day of class.

科目コード:10054 **科目ナンバリング:** **主な使用言語:英語/日本語**

授業名(英文): 英語コミュニケーションI d(Conversing in English I d)

担当者: Asperheim, Daniel R.

基本情報

年次:1

単位数:1

授業形式:講義

曜時:金曜2限

履修可能学科・専攻: Pe Pc C W F N M

関連資格:教職 保育

AL要素: 13.役割演技と疑似体験、11.討論

授業の概要: Students will learn English for everyday situations. For example, self-introduction, comparing sports, talking about work, etc.

キーワード: English, conversation, discussion, 英会話

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標: Students will learn English vocabulary and phrases related to certain real-life situations. They must speak the English they practice in class well enough to achieve simple, smooth, and understandable conversations.

評価方法: Students' grades are largely based on the amount of effort and time they put into class activities. Participation is very important, so students who do not frequently cooperate or who are frequently absent will not receive an A or an AA. **評価割合:85%**

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: Students will learn strategies that will prepare them for situations that require English communication. These strategies will help students respond more quickly and confidently in English.

評価方法: The instructor will observe the students' abilities to speak English and evaluate their abilities during student/teacher oral exams. **評価割合:15%**

▼学修に主体的に取り組む態度

Students must help create a functional educational environment by quietly listening to lesson explanations and by cooperating during group activities.

評価割合：0%

▼実践的ボランティア

Students will cultivate the ability to practice their English with interns and English-speaking teachers outside of class.

評価割合：0%

▼公正性

Any racial or sexual discrimination will not be tolerated according to the university harassment policy. Likewise, cheating in classwork and plagiarism will not be tolerated.

評価割合：0%

▼その他

None.

評価割合：None.

授業計画： [第01回] Introduction.
[第02回] Asking about names.
[第03回] Name Conversation. Prepare for Talkopoly.
[第04回] Talkopoly: Play and listen.
[第05回] Listening. "Find someone who . . ."
[第06回] Comparative forms (比較級). Trivia quiz.
[第07回] Review comparative. Listening. Comparing Things.
[第08回] Comparing People and Sports.
[第09回] Comparing Sports (cont.).
[第10回] Listening. Superlatives (最上級).
[第11回] Talking about Work.
[第12回] Describing personality.
[第13回] Qualities for Work and Work interview.
[第14回] Review for test.
[第15回] Start conversation test.

使用テキスト： Talk a Lot: Book 2 (Second Edition) by David Martin (Okegawa City: EFL Press, 2003).
EFL Press: Tel/Fax (048) 772-7724
<http://www.EFLPRESS.com>

予習・復習のポイントと
参考文献・資料等： With the provided schedule, students should look over the content of each lesson in the textbook before class. Also, students are strongly encouraged to practice outside of class and to get as much English input as they can (by watching English movies, reading English books, listening to English music, etc.).

障がいのある
履修者への対応： I will try to accommodate any special needs students. Please contact the Student Affairs office or talk with me personally to tell me what needs you have with regard to this class.

授業時間外の連絡手段： Please e-mail me for questions.

留意事項： Please expect to use mostly English in class.

科目コード：10054

科目ナンバリング：

主な使用言語：英語・日本語

授業名(英文)：英語コミュニケーション1 e(Conversing in English I e)

担当者： Larry W. Weatherford

基本情報

年次 : 1

単位数 : 1

授業形式 : 講義

曜時 : 木曜2限

履修可能学科・専攻 : Pe Pc C W F N M

関連資格 : 教職 保育

AL要素 : Using English in various everyday situations

授業の概要 : Students will study how and when to use English in the correct situation.

キーワード : Communication and Discussion

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標 : Students will be expected to communicate in English to the best of their ability.

評価方法 : Oral Tests

評価割合 : 20%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標 : Students will be asked to discuss topics from the text with classmates and the teacher

評価方法 : Final Test

評価割合 : 70%

▼ 学修に主体的に取り組む態度

Students will be expected to communicate in English with others in the class to the best of their ability

評価割合 : 0%

▼ 実践的ボランティア

Students should seek out chances to use their English wherever and whenever they can

評価割合 : 0%

▼ 公正性

Students will include all members in the group activities and discussions during class. Good manners of expected at all times.

評価割合 : 10%

▼ その他

特になし

評価割合 : 特になし

授業計画 : Class 1: Orientation and introduction

2. Unit 1 A
- 3 Unit 1 B
4. Unit 2 A
5. Unit 2 B
6. Unit 3 A
7. Unit 3 B
8. Unit 4 A
9. Unit 4 B
10. Unit 5 A
11. Unit 5 B
12. Unit 6A
13. Unit 6 B
14. Review
15. Final test Prep.
16. Final test

使用テキスト : Nice Talking With You Level 1

予習・復習のポイントと参考文献・資料等 : Always have your class materials (textbook, prints, etc.)

障がいのある履修者への対応: If you have any needs or requests, contact me directly

授業時間外の連絡手段: I will be available between classes on Thursday.

留意事項: The class will be taught in English.

科目コード:10054 科目ナンバリング: 主な使用言語:英語・日本語

授業名(英文): 英語コミュニケーションI f(Conversing in English I f)

担当者: Larry W. Weatherford

基本情報

年次:1

単位数:1

授業形式:講義

曜時:木曜3限

履修可能学科・専攻: Pe Pc C W F N M

関連資格: 教職 保育

AL要素: Using English in various everyday situations

授業の概要: Students will study how and when to use English in the correct situation.

キーワード: Communication and Discussion

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標: Students will be expected to communicate in English to the best of their ability.

評価方法: Oral Tests

評価割合: 20%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: Students will be asked to discuss topics from the text with classmates and the teacher

評価方法: Final Test

評価割合: 70%

▼学修に主体的に取り組む態度

Students will be expected to communicate in English with others in the class to the best of their ability

評価割合: 0%

▼実践的ボランティア

Students should seek out chances to use their English wherever and whenever they can

評価割合: 0%

▼公正性

Students will include all members in the group activities and discussions during class. Good manners of expected at all times.

評価割合: 10%

▼その他

特になし

評価割合: 特になし

授業計画: Class 1: Unit 7 A
2. Unit 7 B
3. Passport Presentation
4. Unit 8 A
5. Unit 8 B
6. Unit 9 A
7. Unit 9 B
8. Unit 10 A
9. Unit 10 B

- 10. Unit 11 A
- 11. Unit 11 B
- 12. Unit 12 A
- 13. Unit 12B
- 14. Review/Christmas Movie
- 15. Final test Prep.
- 16. Final Test

使用テキスト: Nice Talking With You Level 1

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: Always have your class materials (textbook, prints, etc.)

障がいのある履修者への対応: If you have any needs or requests, contact me directly

授業時間外の連絡手段: I will be available between classes on Thursday.

留意事項: The class will be taught in English.

科目コード: 10054 **科目ナンバリング:** **主な使用言語:** 英語

授業名(英文): 英語コミュニケーションI g (Conversing in English I g)

担当者: Martin Allen Campbell

基本情報

年次: 1

単位数: 1

授業形式: 講義

曜時: 水曜3限

履修可能学科・専攻: Pe Pc C W F N M

関連資格: 教職 保育

AL要素: 4: 課題解消

7: 発表

8: 協同学習

11: 討論

13: 役割演技と疑似体験

17: 発問と回答

授業の概要: The goal of this course is to prepare students to communicate with other English speakers in a university setting and in daily situations. Students will learn necessary communication strategies, academic English, and non-academic English to form a basic foundation to succeed in studying abroad, traveling abroad, and building relationships with international people. Classroom activities will be based on the textbook and include various exercises done in pairs and groups. All students will practice their English communication ability through output activities such as free talk, skits, role plays, short presentations, and short writing.

キーワード: Communication, Conversation, English as a Foreign Language, Academic English, Task-based Learning

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標: Students will learn and practice vocabulary and grammar that they will encounter in daily life and at university in an English speaking country.

評価方法: 定期クイズ
定期試験

評価割合: 35%(Quiz 10%Final Exam 25%)

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標: Students will learn how to express themselves in English by participating in class discussion activities.

評価方法: Participation

評価割合: 15%

▼学修に主体的に取り組む態度

There will be some graded presentations, skits, or roleplays done in pairs or small groups where students will learn how to use and express their ideas in front of peers.

評価割合: 40%

▼実践的ボランティア

Students are encouraged to participate in activities outside of class according to the university's "Attitudes Towards Learning" policy. The student may positively affect their grades if (1) proof of attendance is given and (2) a short essay is written reflecting about the event or activity.

評価割合: 0%

▼公正性

Acts of plagiarism or cheating will not be tolerated and will be handled according to university policy.

評価割合: 0%

▼その他

Students will learn how to express their ideas in writing through short essays that are assigned throughout the course.

評価割合: Students will learn how to express

授業計画: Week 1: Course Introduction, Syllabus, Speaking Assessment Activity
Week 2: Unit 1A Short-Essay
Week 3: Unit 1B
Week 4: Unit 1C Presentation
Week 5: Unit 2A Quiz
Week 6: Unit 2B
Week 7: Unit 2C Presentation
Week 8: Unit 3A Quiz
Week 9: Unit 3B
Week 10: Unit 3C Presentation
Week 11: Unit 4A Quiz
Week 12: Unit 4B
Week 13: Unit 4C
Week 14: Final Presentation and Quiz
Week 15: Test Review and Practice
定期試験 (Final Exam for Units 1-4)

使用テキスト: Richards, J. C., Bohlke, D. (2023) Four Corners 2 (Second Edition). Cambridge University Press. ISBN 978-1-009-28633-6

予習・復習のポイントと
参考文献・資料等: Before each class, students should complete the assigned homework and review for quizzes. In some cases, it will be necessary to practice outside of class to prepare for pair or small group presentations.

障がいのある
履修者への対応: Please consult with the teacher and the Academic Affairs office, and accommodations will be provided for students with special needs or disabilities.

授業時間外の連絡手段: You can contact me through the university e-mail system at the following e-mail (campbell_m@icc.ac.jp). Also, I will be available in the Global Exchange Center to meet during office hours.

留意事項: This course will be taught mostly in English. Sometimes direction may be given in Japanese.

科目コード: 10054

科目ナンバリング:

主な使用言語: 英語

授業名(英文): 英語コミュニケーションI h (Conversing in English I h)

担当者： Martin Allen Campbell

基本情報

年次：1

単位数：1

授業形式：講義

曜時：水曜4限

履修可能学科・専攻： Pe Pc C W F N M

関連資格：教職 保育

AL要素：4: 課題解消

7: 発表

8: 協同学習

11: 討論

13: 役割演技と疑似体験

17: 発問と回答

授業の概要： The goal of this course is to prepare students to communicate with other English speakers in a university setting and in daily situations. Students will learn necessary communication strategies, academic English, and non-academic English to form a basic foundation to succeed in studying abroad, traveling abroad, and building relationships with international people. Classroom activities will be based on the textbook and include various exercises done in pairs and groups. All students will practice their English communication ability through output activities such as free talk, skits, role plays, short presentations, and short writing.

キーワード： Communication, Conversation, English as a Foreign Language, Academic English, Task-based Learning

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標： Students will learn and practice vocabulary and grammar that they will encounter in daily life and at university in an English speaking country.

評価方法： 定期クイズ
定期試験

評価割合： 35%(Quiz 10%Final Exam 25%)

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標： Students will learn how to express themselves in English by participating in class discussion activities.

評価方法： Participation

評価割合： 15%

▼ 学修に主体的に取り組む態度

There will be some graded presentations, skits, or roleplays done in pairs or small groups where students will learn how to use and express their ideas in front of peers.

評価割合： 40%

▼ 実践的ボランティア

Students are encouraged to participate in activities outside of class according to the university's "Attitudes Towards Learning" policy. The student may positively affect their grades if (1) proof of attendance is given and (2) a short essay is written reflecting about the event or activity.

評価割合： 0%

▼ 公正性

Acts of plagiarism or cheating will not be tolerated and will be handled according to university policy.

評価割合： 0%

▼ その他

Students will learn how to express their ideas in writing through short essays that are assigned throughout the course.

評価割合： Students will learn how to express

授業計画： Week 1: Course Introduction, Syllabus, Speaking Assessment Activity
Week 2: Unit 1A Short-Essay
Week 3: Unit 1B
Week 4: Unit 1C Presentation
Week 5: Unit 2A Quiz
Week 6: Unit 2B
Week 7: Unit 2C Presentation
Week 8: Unit 3A Quiz
Week 9: Unit 3B
Week 10: Unit 3C Presentation
Week 11: Unit 4A Quiz
Week 12: Unit 4B
Week 13: Unit 4C
Week 14: Final Presentation and Quiz
Week 15: Test Review and Practice
定期試験 (Final Exam for Units 1-4)

使用テキスト： Richards, J. C., Bohlke, D. (2023) Four Corners 2 (Second Edition). Cambridge University Press.
ISBN 978-1-009-28633-6

**予習・復習のポイントと
参考文献・資料等：** Before each class, students should complete the assigned homework and review for quizzes.
In some cases, it will be necessary to practice outside of class to prepare for pair or small group presentations.

**障がいのある
履修者への対応：** Please consult with the teacher and the Academic Affairs office, and accommodations will be provided for students with special needs or disabilities.

授業時間外の連絡手段： You can contact me through the university e-mail system at the following e-mail (campbell_m@icc.ac.jp). Also, I will be available in the Global Exchange Center to meet during office hours.

留意事項： This course will be taught mostly in English. Sometimes direction may be given in Japanese.

科目コード： 10054	科目ナンバリング：	主な使用言語： 英語/日本語
授業名(英文)： 英語コミュニケーションI (Conversing in English I)		
担当者： McLain, Michael D.		
基本情報		
年次： 1	単位数： 1	授業形式： 講義
曜時： 月曜1限	履修可能学科・専攻： Pe Pc C W F N M	
関連資格： 教職 保育	AL要素： 04 Problem-based learning, 08 Group work, 11 Discussion, 17 Questioning and answers	

授業の概要： Students will learn a combination of vocabulary and conversation strategies based on the theme of each unit. Every other class, students will have lengthy conversation sessions with multiple partners to reinforce memory of new material and conversational English. Also, listening is an integral aspect of this course.

キーワード： Conversation skills, Communication, Discussion, English as a Foreign Language

学位授与方針との関係

▼ **知識・技能**

到達目標： Students will understand and learn to use vocabulary and conversational strategies.

評価方法： Conversation Tests 1,2

評価割合： 30%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: Students will be challenged to think globally about different issues which are raised in the text, such as consumerism, social, and environmental problems.

評価方法: Final Conversation Test

評価割合: 30

▼学修に主体的に取り組む態度

Students will participate actively in every lesson, speaking English with the teacher and other students. Students should be prepared for each lesson.

評価割合: 40%

▼実践的ボランティア

Students will actively practice their English with interns and the teacher outside the class. (Evaluation in this section will be reflected in the grade for the section above.)

評価割合: 0%

▼公正性

Any race or sexual discrimination will not be tolerated according to the university harassment policy. Likewise, cheating in classwork and plagiarism will not be tolerated. (Evaluation in this section will be reflected in the grade for the section above.)

評価割合: 0%

▼その他

None

評価割合: None

授業計画:

1. Introductions, Orientation, Ice Breaker
2. Unit 1 Introductions
3. Unit 1 Introductions 2
4. Unit 2 Family
5. Unit 2 Family 2
6. Unit 3 Shopping
7. Unit 3 Shopping 2
8. Conversation Test 1
9. Unit 4 Food Conversation Test 1
10. Unit 4 Food 2
11. Unit 5 Music
12. Unit 5 Music 2
13. Conversation Test 2
14. Final Conversation Test Prep
15. Final Conversation Test

使用テキスト: Kenny and Woo (2011) Nice Talking With You 1. Singapore: Cambridge University Press. ISBN: 978-0-521-1808-1 Please buy a NEW book, or a book which has not been written in.

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: With the provided schedule, students should look over the content of each lesson in the textbook before class.

障がいのある履修者への対応: I will try to accommodate any special needs of students. Please contact the Student Affairs office or talk with me personally to tell me what needs you have with regard to this class.

授業時間外の連絡手段: Please email me for questions.

留意事項: This class will be taught mostly in English.

この授業は英語のみで行われる。

科目コード:10055 科目ナンバリング: 主な使用言語:英語/日本語

授業名(英文): 英語コミュニケーションII a(Conversing in English II a)

担当者: Asperheim, Daniel R.

基本情報

年次:1

単位数:1

授業形式:演習

曜時:水曜2限

履修可能学科・専攻: Pe Pc C W F N M

関連資格:教職 保育

AL要素: 13.役割演技と疑似体験、11.討論

授業の概要: Students will learn English for everyday situations. For example, giving directions, checking in at hotels, sharing past experiences, etc.

キーワード: English, conversation, discussion, 英会話

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標: Students will learn English vocabulary and phrases related to certain real-life situations. They must speak the English they practice in class well enough to achieve simple, smooth, and understandable conversations.

評価方法: Students' grades are largely based on the amount of effort and time they put into class activities. Participation is very important, so students who do not frequently cooperate or who are frequently absent will not receive an A or an AA. **評価割合:** 85%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: Students will learn strategies that will prepare them for situations that require English communication. These strategies will help students respond more quickly and confidently in English.

評価方法: The instructor will observe the students' abilities to speak English and evaluate their abilities during student/teacher oral exams. **評価割合:** 15%

▼学修に主体的に取り組む態度

Students must help create a functional educational environment by quietly listening to lesson explanations and by cooperating during group activities.

評価割合: 0%

▼実践的ボランティア

Students will cultivate the ability to practice their English with interns and English-speaking teachers outside of class.

評価割合: 0%

▼公正性

Any racial or sexual discrimination will not be tolerated according to the university harassment policy. Likewise, cheating in classwork and plagiarism will not be tolerated.

評価割合: 0%

▼その他

None.

評価割合 : None.

授業計画 : [第1回] Class introduction. Review and start Giving Directions.
[第2回] Prepositions (前置詞). Asking about a location.
[第3回] Listening. Your neighborhood.
[第4回] Travel English: Listening. Hotel reservations.
[第5回] Checking into a hotel.
[第6回] Subway Directions. Invitation to dinner.
[第7回] Experiences: present perfect (現在完了).
[第8回] Ask teacher, "I've never . . . ", and Survey.
[第9回] Listening. Most recent experience. "Find someone . . ."
[第10回] "Have you . . . recently?" and story-telling.
[第11回] Story-telling continued.
[第12回] "See vs Meet" & Past tense.
[第13回] Christmas trivia.
[第14回] Review for test.
[第16回] Start conversation test.

使用テキスト : Talk a Lot: Book 2 (Second Edition) by David Martin (Okegawa City: EFL Press, 2003).
EFL Press: Tel/Fax (048) 772-7724
<http://www.EFLPRESS.com>

予習・復習のポイントと参考文献・資料等 : With the provided schedule, students should look over the content of each lesson in the textbook before class. Also, students are strongly encouraged to practice outside of class and to get as much English input as they can (by watching English movies, reading English books, listening to English music, etc.).

障がいのある履修者への対応 : I will try to accommodate any special needs students. Please contact the Student Affairs office or talk with me personally to tell me what needs you have with regard to this class.

授業時間外の連絡手段 : Please e-mail me for questions.

留意事項 : Please expect to use mostly English in class.

科目コード : 10055 科目ナンバリング : 主な使用言語 : English

授業名 (英文) : 英語コミュニケーションII b (Conversing in English II b)

担当者 : Fidalgo, Gina

基本情報

年次 : 1

単位数 : 1

授業形式 : 演習

曜時 : 火曜5限

履修可能学科・専攻 : Pe Pc C W F N M

関連資格 : 教職 保育

AL要素 :

presentations, group work, discussion, debate, role-playing, correction guidance, question and answer

授業の概要 :

This focus of this class is on communication using daily topics. The class is designed to improve both oral and aural skills by communicating with a partner and / or in small groups. You can improve your writing skills, increase your vocabulary knowledge, and your self-confidence discussing topics of interest. Participation is important in this class.

キーワード : Speaking in English; English conversation; English presentations; English writing; role-playing

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標: Students should be able to combine skills and knowledge they have learned in the past, in addition to new vocabulary and grammatical styles taught in class.

評価方法: In-class and homework assignments (30%); **評価割合:** 60%
final exam (30%)

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標: Students should be able to express their opinion, feelings, and experiences about a given topic or situation.

評価方法: active participation in group discussion, **評価割合:** 40%
question and answer sessions, role-playing,
and debate (20%); presentation (20%)

▼ 学修に主体的に取り組む態度

Although effort is not directly evaluated in this class, the time and effort that students put into their work shows, so it is recommended to always try your best. Students who try hard usually get good results.

評価割合: 0%

▼ 実践的ボランティア

Volunteering is not directly evaluated in this class. However, it can provide you with essential skills and new knowledge that you can use inside and outside the classroom.

評価割合: 0%

▼ 公正性

Fairness is not directly evaluated in this class. However, it is very important to show respect and fairness to those around you. Showing a lack of fairness or respect may negatively impact your grade or result in a warning.

評価割合: 0%

▼ その他

(1) Please come to class in time for the lesson. Students entering the class after attendance is taken and the lesson has started will be considered late. By being late, you will miss important information and disrupt the class if the teacher has to repeat information again. Please note that students entering the class more than 45 minutes late will be considered absent.

(2) Late assignments are not accepted in this class. All assignments must be submitted on the due date.

評価割合: (1) Please come to class in time for

授業計画: SEMESTER TWO

- Lesson 1 - Welcome Class - syllabus outline and talk about your summer
- Lesson 2 - Food - At the supermarket...
- Lesson 3 - Food - Tips for healthy eating
- Lesson 4 - Food - Describe regional foods and favourite foods
- Lesson 5 - Food - Discussing diet trends
- Lesson 6 - Food - Explaining how to cook something
- Lesson 7 - Danger - Discuss ways to stay safe
- Lesson 8 - Danger - Talk about dangerous work
- Lesson 9 - Danger - Discuss dangerous situations and personal emergencies
- Lesson 10 - Travel - Organizing a trip
- Lesson 11 - Travel - Travel essentials and different kinds of vacations
- Lesson 12 - Travel - Use English at the airport
- Lesson 13 - Travel - Describe a cultural event
- Lesson 14 - Final Presentations - day 1

Final exam for semester two

使用テキスト: There is no textbook for this class. The teacher will provide digital handouts and activity worksheets for each of the topics. Students will be responsible for printing the handouts or downloading the handouts. All students should bring a dictionary to class.

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: It is important to review the contents from each lesson and complete the homework assignments, which offer extra practice of the language learned in class. This will also help in retaining information for the exam.

障がいのある履修者への対応: All students are welcome in this class. Please consult with the student office.

授業時間外の連絡手段: The teacher has no set office hours. Please speak to the teacher after class in order to set up a convenient time and date to meet.

留意事項: Bring Your Own Device (BYOD). A notebook PC or tablet will be required from the first day of class.

This class will be taught solely in English. Class topics on the syllabus may change as determined by the instructor. Changes will depend on student needs, the level of difficulty, and student progress.

Please note that 30 students is the maximum size for this class. If more than 30 students apply, DCE students will be given priority for registering.

科目コード:10055 **科目ナンバリング:** **主な使用言語: English**

授業名(英文): 英語コミュニケーションII c(Conversing in English II c)

担当者: Fidalgo, Gina

基本情報

年次:1

単位数:1

授業形式: 演習

曜時: 火曜6限

履修可能学科・専攻: Pe Pc C W F N M

関連資格: 教職 保育

AL要素:

presentations, group work, discussion, debate, role-playing, correction guidance, question and answer

授業の概要:

This focus of this class is on communication using daily topics. The class is designed to improve both oral and aural skills by communicating with a partner and / or in small groups. You can improve your writing skills, increase your vocabulary knowledge, and your self-confidence discussing topics of interest. Participation is important in this class.

キーワード: Speaking in English; English conversation; English presentations; English writing; role-playing

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標: Students should be able to combine skills and knowledge they have learned in the past, in addition to new vocabulary and grammatical styles taught in class.

評価方法: In-class and homework assignments (30%); **評価割合: 60%**
final exam (30%)

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: Students should be able to express their opinion, feelings, and experiences about a given topic or situation.

評価方法: active participation in group discussion, question and answer sessions, role-playing, and debate (20%); presentation (20%)

評価割合: 40%

▼学修に主体的に取り組む態度

Although effort is not directly evaluated in this class, the time and effort that students put into their work shows, so it is recommended to always try your best. Students who try hard usually get good results.

評価割合: 0%

▼実践的ボランティア

Volunteering is not directly evaluated in this class. However, it can provide you with essential skills and new knowledge that you can use inside and outside the classroom.

評価割合: 0%

▼公正性

Fairness is not directly evaluated in this class. However, it is very important to show respect and fairness to those around you. Showing a lack of fairness or respect may negatively impact your grade or result in a warning.

評価割合: 0%

▼その他

Please come to class in time for the lesson. Students entering the class after attendance is taken and the lesson has started will be considered late. By being late, you will miss important information and disrupt the class if the teacher has to repeat information again. Please note that students entering the class more than 45 minutes late will be considered absent.

評価割合: Please come to class in time for th

授業計画: SEMESTER TWO

- Lesson 1 - Welcome Class - syllabus outline and talk about your summer
- Lesson 2 - Food - At the supermarket...
- Lesson 3 - Food - Tips for healthy eating
- Lesson 4 - Food - Describe regional foods and favourite foods
- Lesson 5 - Food - Discussing diet trends
- Lesson 6 - Food - Explaining how to cook something
- Lesson 7 - Danger - Discuss ways to stay safe
- Lesson 8 - Danger - Talk about dangerous work
- Lesson 9 - Danger - Discuss dangerous situations and personal emergencies
- Lesson 10 - Travel - Organizing a trip
- Lesson 11 - Travel - Travel essentials and different kinds of vacations
- Lesson 12 - Travel - Use English at the airport
- Lesson 13 - Travel - Describe a cultural event
- Lesson 14 - Final Presentations - day 1
- Lesson 15 - Final Presentations - day 2

Final exam for semester two

使用テキスト: There is no textbook for this class. The teacher will provide digital handouts and activity worksheets for each of the topics. Students will be responsible for printing the handouts or downloading the handouts. All students should bring a dictionary to class.

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: It is important to review the contents from each lesson and complete the homework assignments, which offer extra practice of the language learned in class. This will also help

in retaining information for the exam.

障がいのある履修者への対応: All students are welcome in this class. Please consult with the student office.

授業時間外の連絡手段: The teacher has no set office hours. Please speak to the teacher after class in order to set up a convenient time and date to meet.

留意事項: Bring Your Own Device (BYOD). A notebook PC or tablet will be required from the first day of class.

This class will be taught solely in English. Class topics on the syllabus may change as determined by the instructor. Changes will depend on student needs, the level of difficulty, and student progress.

Please note that 30 students is the maximum size for this class. If more than 30 students apply, DCE students will be given priority for registering.

科目コード:10055 **科目ナンバリング:** **主な使用言語:英語/日本語**

授業名(英文): 英語コミュニケーションII d(Conversing in English II d)

担当者: Asperheim, Daniel R.

基本情報

年次:1

単位数:1

授業形式:演習

曜時:金曜2限

履修可能学科・専攻: Pe Pc C W F N M

関連資格:教職 保育

AL要素: 13.役割演技と疑似体験、11.討論

授業の概要: Students will learn English for everyday situations. For example, giving directions, checking in at hotels, sharing past experiences, etc.

キーワード: English, conversation, discussion, 英会話

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標: Students will learn English vocabulary and phrases related to certain real-life situations. They must speak the English they practice in class well enough to achieve simple, smooth, and understandable conversations.

評価方法: Students' grades are largely based on the amount of effort and time they put into class activities. Participation is very important, so students who do not frequently cooperate or who are frequently absent will not receive an A or an AA. **評価割合:85%**

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: Students will learn strategies that will prepare them for situations that require English communication. These strategies will help students respond more quickly and confidently in English.

評価方法: The instructor will observe the students' abilities to speak English and evaluate their abilities during student/teacher oral exams. **評価割合:15%**

▼学修に主体的に取り組む態度

Students must help create a functional educational environment by quietly listening to lesson explanations and by cooperating during group activities.

評価割合:0%

▼実践的ボランティア

Students will cultivate the ability to practice their English with interns and English-speaking teachers outside of class.

評価割合：0%

▼公正性

Any racial or sexual discrimination will not be tolerated according to the university harassment policy. Likewise, cheating in classwork and plagiarism will not be tolerated.

評価割合：0%

▼その他

None.

評価割合：None.

授業計画： [第1回] Class introduction. Review and start Giving Directions.
[第2回] Prepositions (前置詞). Asking about a location.
[第3回] Listening. Your neighborhood.
[第4回] Travel English: Listening. Hotel reservations.
[第5回] Checking into a hotel.
[第6回] Subway Directions. Invitation to dinner.
[第7回] Experiences: present perfect (現在完了).
[第8回] Ask teacher, "I've never . . .", and Survey.
[第9回] Listening. Most recent experience. "Find someone . . ."
[第10回] "Have you . . . recently?" and story-telling.
[第11回] Story-telling continued.
[第12回] "See vs Meet"& Past tense.
[第13回] Christmas trivia.
[第14回] Review for test.
[第16回] Start conversation test.

使用テキスト： Talk a Lot: Book 2 (Second Edition) by David Martin (Okegawa City: EFL Press, 2003).
EFL Press: Tel/Fax (048) 772-7724
<http://www.EFLPRESS.com>

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： With the provided schedule, students should look over the content of each lesson in the textbook before class. Also, students are strongly encouraged to practice outside of class and to get as much English input as they can (by watching English movies, reading English books, listening to English music, etc.).

障がいのある履修者への対応： I will try to accommodate any special needs students. Please contact the Student Affairs office or talk with me personally to tell me what needs you have with regard to this class.

授業時間外の連絡手段： Please e-mail me for questions.

留意事項： Please expect to use mostly English in class.

科目コード：10055

科目ナンバリング：

主な使用言語：英語・日本語

授業名(英文)：英語コミュニケーションII e(Conversing in English II e)

担当者：Larry W. Weatherford

基本情報

年次：1

単位数：1

授業形式：演習

曜時：木曜2限

履修可能学科・専攻：Pe Pc C W F N M

関連資格：教職 保育

AL要素：Using English in various everyday situations

授業の概要: Students will study how and when to use English in the correct situation.

キーワード: Communication and Discussion

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標: Students will be expected to communicate in English to the best of their ability.

評価方法: Oral Tests

評価割合: 20%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: Students will be asked to discuss topics from the text with classmates and the teacher

評価方法: Final Test

評価割合: 70%

▼学修に主体的に取り組む態度

Students will be expected to communicate in English with others in the class to the best of their ability

評価割合: 0%

▼実践的ボランティア

Students should seek out chances to use their English wherever and whenever they can

評価割合: 0%

▼公正性

Students will include all members in the group activities and discussions during class. Good manners of expected at all times.

Do not read or text on SNS during class.

評価割合: 10%

▼その他

特になし

評価割合: 特になし

授業計画: Class 1: Orientation and introduction

2. Unit 1 A
- 3 Unit 1 B
4. Unit 2 A
5. Unit 2 B
6. Unit 3 A
7. Unit 3 B
8. Unit 4 A
9. Unit 4 B
10. Unit 5 A
11. Unit 5 B
12. Unit 6A
13. Unit 6 B
14. Review
15. Final test Prep.
16. Final test

使用テキスト: Nice Talking With You Level 1
Notebook

**予習・復習のポイントと
参考文献・資料等:** Always have your class materials (textbook, prints, etc.)

**障がいのある
履修者への対応:** If you have any needs or requests, contact me directly

授業時間外の連絡手段: I will be available between classes on Thursday.

留意事項： The class will be taught in English.

科目コード：10055 科目ナンバリング： 主な使用言語：英語・日本語
授業名(英文)： 英語コミュニケーションII f(Conversing in English II f)
担当者： Larry W. Weatherford

基本情報

年次：1 単位数：1 授業形式：演習
曜時：木曜3限 履修可能学科・専攻： Pe Pc C W F N M
関連資格：教職 保育 AL要素： Using English in various everyday situations

授業の概要： Students will study how and when to use English in the correct situation.

キーワード： Communication and Discussion

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： Students will be expected to communicate in English to the best of their ability.

評価方法： Oral Tests

評価割合：20%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： Students will be asked to discuss topics from the text with classmates and the teacher

評価方法： Final Test

評価割合：70%

▼学修に主体的に取り組む態度

Students will be expected to communicate in English with others in the class to the best of their ability

評価割合：0%

▼実践的ボランティア

Students should seek out chances to use their English wherever and whenever they can

評価割合：0%

▼公正性

Students will include all members in the group activities and discussions during class. Good manners of expected at all times.

Do not read or text on SNS during class.

評価割合：10%

▼その他

特になし

評価割合：特になし

授業計画： Class 1: Unit 7 A
2. Unit 7 B
3. Passport Presentation
4. Unit 8 A
5. Unit 8 B
6. Unit 9 A
7. Unit 9 B
8. Unit 10 A
9. Unit 10 B
10. Unit 11 A
11. Unit 11 B

- 12. Unit 12 A
- 13. Unit 12B
- 14. Review/Christmas Movie
- 15. Final test Prep.
- 16. Final Test 1

使用テキスト: Nice Talking With You Level 1
Notebook

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: Always have your class materials (textbook, prints, etc.)

障がいのある履修者への対応: If you have any needs or requests, contact me directly

授業時間外の連絡手段: I will be available between classes on Thursday.

留意事項: The class will be taught in English.

科目コード: 10055 **科目ナンバリング:** **主な使用言語:** 英語

授業名(英文): 英語コミュニケーションII g (Conversing in English II g)

担当者: Martin Allen Campbell

基本情報

年次: 1

単位数: 1

授業形式: 演習

曜時: 水曜3限

履修可能学科・専攻: Pe Pc C W F N M

関連資格: 教職 保育

AL要素: 4: 課題解消

7: 発表

8: 協同学習

11: 討論

13: 役割演技と疑似体験

17: 発問と回答

授業の概要: The goal of this course is to prepare students to communicate with other English speakers in a university setting and in daily situations. Students will learn necessary communication strategies, academic English, and non-academic English to form a basic foundation to succeed in studying abroad, traveling abroad, and building relationships with international people. Classroom activities will be based on the textbook and include various exercises done in pairs and groups. All students will practice their English communication ability through output activities such as free talk, skits, role plays, short presentations, and short writing.

キーワード: Communication, Conversation, English as a Foreign Language, Academic English, Task-based Learning

学位授与方針との関係

▼ **知識・技能**

到達目標: Students will learn and practice vocabulary and grammar that they will encounter in daily life and at university in an English speaking country.

評価方法: 定期クイズ
定期試験

評価割合: 35%(Quiz 10%Final Exam 25%)

▼ **思考力・判断力・表現力**

到達目標: Students will learn how to express themselves in English by participating in class discussion activities.

評価方法: Participation

評価割合: 15%

▼学修に主体的に取り組む態度

There will be some graded presentations, skits, or roleplays done in pairs or small groups where students will learn how to use and express their ideas in front of peers.

評価割合: 40%

▼実践的ボランティア

Students are encouraged to participate in activities outside of class according to the university's "Attitudes Towards Learning" policy. The student may positively affect their grades if (1) proof of attendance is given and (2) a short essay is written reflecting about the event or activity.

評価割合: 0%

▼公正性

Acts of plagiarism or cheating will not be tolerated and will be handled according to university policy.

評価割合: 0%

▼その他

Students will learn how to express their ideas in writing through short essays that are assigned throughout the course.

評価割合: Students will learn how to express

授業計画: Week 1: Course Introduction, Syllabus, Speaking Assessment Activity
Week 2: Unit 5A Short-Essay
Week 3: Unit 5B
Week 4: Unit 5C Presentation
Week 5: Unit 7A Quiz
Week 6: Unit 7B
Week 7: Unit 7C Presentation
Week 8: Unit 8A Quiz
Week 9: Unit 8B
Week 10: Unit 8C Presentation
Week 11: Unit 10A Quiz
Week 12: Unit 10B
Week 13: Unit 10C
Week 14: Final Presentation and Quiz
Week 15: Test Review and Practice
定期試験 (Final Exam for Units 5, 7, 8, and 10)

使用テキスト: Richards, J. C., Bohlke, D. (2023) Four Corners 2 (Second Edition). Cambridge University Press. ISBN 978-1-009-28633-6

予習・復習のポイントと
参考文献・資料等: Before each class, students should complete the assigned homework and review for quizzes. In some cases, it will be necessary to practice outside of class to prepare for pair or small group presentations.

障がいのある
履修者への対応: Please consult with the teacher and the Academic Affairs office, and accommodations will be provided for students with special needs or disabilities.

授業時間外の連絡手段: You can contact me through the university e-mail system at the following e-mail (campbell_m@icc.ac.jp). Also, I will be available in the Global Exchange Center to meet during office hours.

留意事項: This course will be taught mostly in English. Sometimes direction may be given in Japanese.

科目コード: 10055

科目ナンバリング:

主な使用言語: 英語

授業名(英文): 英語コミュニケーションII h (Conversing in English II h)

担当者: Martin Allen Campbell

基本情報

年次：1

単位数：1

授業形式：演習

曜時：水曜4限

履修可能学科・専攻：Pe Pc C W F N M

関連資格：教職 保育

AL要素：4: 課題解消

7: 発表

8: 協同学習

11: 討論

13: 役割演技と疑似体験

17: 発問と回答

授業の概要： The goal of this course is to prepare students to communicate with other English speakers in a university setting and in daily situations. Students will learn necessary communication strategies, academic English, and non-academic English to form a basic foundation to succeed in studying abroad, traveling abroad, and building relationships with international people. Classroom activities will be based on the textbook and include various exercises done in pairs and groups. All students will practice their English communication ability through output activities such as free talk, skits, role plays, short presentations, and short writing.

キーワード： Communication, Conversation, English as a Foreign Language, Academic English, Task-based Learning

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標： Students will learn and practice vocabulary and grammar that they will encounter in daily life and at university in an English speaking country.

評価方法： 定期クイズ
定期試験

評価割合： 35%(Quiz 10%Final Exam 25%)

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標： Students will learn how to express themselves in English by participating in class discussion activities.

評価方法： Participation

評価割合： 15%

▼ 学修に主体的に取り組む態度

There will be some graded presentations, skits, or roleplays done in pairs or small groups where students will learn how to use and express their ideas in front of peers.

評価割合： 40%

▼ 実践的ボランティア

Students are encouraged to participate in activities outside of class according to the university's "Attitudes Towards Learning" policy. The student may positively affect their grades if (1) proof of attendance is given and (2) a short essay is written reflecting about the event or activity.

評価割合： 0%

▼ 公正性

Acts of plagiarism or cheating will not be tolerated and will be handled according to university policy.

評価割合： 0%

▼ その他

Students will learn how to express their ideas in writing through short essays that are assigned throughout the course.

評価割合： Students will learn how to express

授業計画： Week 1: Course Introduction, Syllabus, Speaking Assessment Activity

Week 2: Unit 5A Short-Essay
Week 3: Unit 5B
Week 4: Unit 5C Presentation
Week 5: Unit 7A Quiz
Week 6: Unit 7B
Week 7: Unit 7C Presentation
Week 8: Unit 8A Quiz
Week 9: Unit 8B
Week 10: Unit 8C Presentation
Week 11: Unit 10A Quiz
Week 12: Unit 10B
Week 13: Unit 10C
Week 14: Final Presentation and Quiz
Week 15: Test Review and Practice
定期試験 (Final Exam for Units 5, 7, 8, and 10)

使用テキスト: Richards, J. C., Bohlke, D. (2023) Four Corners 2 (Second Edition). Cambridge University Press. ISBN 978-1-009-28633-6

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: Before each class, students should complete the assigned homework and review for quizzes. In some cases, it will be necessary to practice outside of class to prepare for pair or small group presentations.

障がいのある履修者への対応: Please consult with the teacher and the Academic Affairs office, and accommodations will be provided for students with special needs or disabilities.

授業時間外の連絡手段: You can contact me through the university e-mail system at the following e-mail (campbell_m@icc.ac.jp). Also, I will be available in the Global Exchange Center to meet during office hours.

留意事項: This course will be taught mostly in English. Sometimes direction may be given in Japanese.

科目コード: 10055 **科目ナンバリング:** **主な使用言語: 英語/日本語**

授業名(英文): 英語コミュニケーションII i (Conversing in English II i)

担当者: McLain, Michael D.

基本情報

年次: 1

単位数: 1

授業形式: 演習

曜時: 月曜1限

履修可能学科・専攻: Pe Pc C W F N M

関連資格: 教職 保育

AL要素: 04 Problem-based learning, 08 Group work, 11 Discussion, 17 Questioning and answers

授業の概要: 「遠隔授業」(同時双方向型)

Students will learn a combination of vocabulary and conversation strategies based on the theme of each unit. Every other class, students will have lengthy conversation sessions with multiple partners to reinforce memory of new material and conversational English. Also, listening is an integral aspect of this course.

キーワード: Conversation skills, Communication, Discussion, English as a Foreign Language

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標: Students will understand and learn to use vocabulary and conversational strategies.

評価方法: Conversation Tests 1,2

評価割合: 30%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: Students will be challenged to think globally about different issues which are raised in the text, such as consumerism, social, and environmental problems.

評価方法: Final Conversation Test

評価割合: 30

▼学修に主体的に取り組む態度

Students will participate actively in every lesson, speaking English with the teacher and other students. Students should be prepared for each lesson.

評価割合: 40%

▼実践的ボランティア

Students will actively practice their English with interns and the teacher outside the class. (Evaluation in this section will be reflected in the grade for the section above.)

評価割合: 0%

▼公正性

Any race or sexual discrimination will not be tolerated according to the university harassment policy. Likewise, cheating in classwork and plagiarism will not be tolerated. (Evaluation in this section will be reflected in the grade for the section above.)

評価割合: 0%

▼その他

None

評価割合: None

- 授業計画:**
1. Welcome back, Conversations about Summer Vacation
 2. Unit 6 Free Time
 3. Unit 6 Free Time 2
 4. Unit 7 Travel
 5. Unit 7 Travel 2
 6. Conversation Test 3
 7. Unit 8 Sports
 8. Unit 8 Sports 2
 9. Unit 9 Friends
 10. Unit 9 Friends 2
 11. Unit 11 Movies
 12. Unit 11 Movies 2
 13. Conversation Test 4
 14. Final Conversation Test Prep
 15. Final Conversation Test

使用テキスト: Kenny and Woo (2011) Nice Talking With You 1. Singapore: Cambridge University Press. ISBN: 978-0-521-1808-1 Students must buy a NEW book or use a book that has NOT been written in.

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: With the provided schedule, students should look over the content of each lesson in the textbook before class. Also, students are STRONGLY encouraged to practice outside of class with the interns.

障がいのある履修者への対応: I will try to accommodate any special needs of students. Please contact the Student Affairs office or talk with me personally to tell me what needs you have with regard to this class.

授業時間外の連絡手段: Please email me for questions.

留意事項： This class will be taught in English.
この授業は英語のみで行われる。

科目コード：10056 **科目ナンバリング：** **主な使用言語：英語・日本語**

授業名(英文)：英語コミュニケーションⅢ a(Conversing in English III a)

担当者： Larry W. Weatherford

基本情報

年次：2

単位数：1

授業形式：演習

曜時：木曜1限

履修可能学科・専攻： Pe Pc C W F N M

関連資格：教職 保育

AL要素： Using English in various everyday situations

授業の概要： Students will study how and when to use English in the correct situation.

キーワード： Communication and Discussion

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： Students will be expected to communicate in English to the best of their ability.

評価方法： Oral Tests

評価割合：20%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： Students will be asked to discuss topics from the text with classmates and the teacher

評価方法： Final Test

評価割合：70%

▼学修に主体的に取り組む態度

Students will be expected to communicate in English with others in the class to the best of their ability

評価割合：0%

▼実践的ボランティア

Students should seek out chances to use their English wherever and whenever they can

評価割合：0%

▼公正性

Students will include all members in the group activities and discussions during class. Good manners are expected at all times.

評価割合：10%

▼その他

特になし

評価割合：特になし

授業計画： Class 1: Orientation and introduction

2. Unit 1 A
- 3 Unit 1 B
4. Unit 2 A
5. Unit 2 B
6. Unit 3 A
7. Unit 3 B
8. Unit 4 A
9. Unit 4 B
10. Unit 5 A

- 11. Unit 5 B
- 12. Unit 6 A
- 13. Unit 6 B
- 14. Review
- 15. Final test Prep.
- 16. Final Test

使用テキスト: Nice Talking With You Level 2

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: Always have your class materials (textbook, prints, etc.)

障がいのある履修者への対応: If you have any needs or requests, contact me directly

授業時間外の連絡手段: I will be available between classes on Thursday.

留意事項: The class will be taught in English.

科目コード: 10056 **科目ナンバリング:** **主な使用言語:** 英語・日本語

授業名(英文): 英語コミュニケーションⅢ b (Conversing in English III b)

担当者: Larry W. Weatherford

基本情報

年次: 2

単位数: 1

授業形式: 演習

曜時: 木曜4限

履修可能学科・専攻: Pe Pc C W F N M

関連資格: 教職 保育

AL要素: Using English in various everyday situations

授業の概要: Students will study how and when to use English in the correct situation.

キーワード: Communication and Discussion

学位授与方針との関係

▼ **知識・技能**

到達目標: Students will be expected to communicate in English to the best of their ability.

評価方法: Oral Tests

評価割合: 20%

▼ **思考力・判断力・表現力**

到達目標: Students will be asked to discuss topics from the text with classmates and the teacher

評価方法: Final Test

評価割合: 70%

▼ **学修に主体的に取り組む態度**

Students will be expected to communicate in English with others in the class to the best of their ability

評価割合: 0%

▼ **実践的ボランティア**

Students should seek out chances to use their English wherever and whenever they can

評価割合: 0%

▼ **公正性**

Students will include all members in the group activities and discussions during class. Good manners of expected at all times.

評価割合: 10%

▼ **その他**

特になし

評価割合：特になし

授業計画：

1. Unit 7 A
2. Unit 7 B
3. Unit 8 A
4. Unit 8 B
5. Unit 9 A
6. Unit 9 B
7. Unit 10 A
8. Unit 10 B
9. Unit 11 A
10. Unit 11 B
11. Unit 12 A
12. Unit 12 B
13. Review / Christmas movie
14. Christmas Movie
15. Final test Prep.
16. Final Test

使用テキスト： Nice Talking With You Level 2

予習・復習のポイントと Always have your class materials (textbook, prints, etc.)
参考文献・資料等：

障がいのある If you have any needs or requests, contact me directly
履修者への対応：

授業時間外の連絡手段： I will be available between classes on Thursday.

留意事項： The class will be taught in English.

科目コード：10056 科目ナンバリング： 主な使用言語：英語/日本語

授業名(英文)： 英語コミュニケーションIII c(Conversing in English III c)

担当者： Asperheim, Daniel R.

基本情報

年次：2

単位数：1

授業形式：演習

曜時：金曜1限

履修可能学科・専攻： Pe Pc C W F N M

関連資格：教職 保育

AL要素： 13.役割演技と疑似体験、11.討論

授業の概要： Students will learn English for everyday situations. For example, self-introduction, sharing food recipes, describing health problems, etc.

キーワード： English, conversation, discussion, 英会話

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標： Students will learn English vocabulary and phrases related to certain real-life situations. They must speak the English they practice in class well enough to achieve simple, smooth, and understandable conversations.

評価方法： Students' grades are largely based on the amount of effort and time they put into class activities. Participation is very important, so students who do not frequently cooperate or who are frequently absent will not receive an A or 評価割合：85%

an AA.

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: Students will learn strategies that will prepare them for situations that require English communication. These strategies will help students respond more quickly and confidently in English.

評価方法: The instructor will observe the students' abilities to speak English and evaluate their abilities during student/teacher oral exams. **評価割合:** 15%

▼学修に主体的に取り組む態度

Students must help create a functional educational environment by quietly listening to lesson explanations and by cooperating during group activities.

評価割合: 0%

▼実践的ボランティア

Students will cultivate the ability to practice their English with interns and English-speaking teachers outside of class.

評価割合: 0%

▼公正性

Any racial or sexual discrimination will not be tolerated according to the university harassment policy. Likewise, cheating in classwork and plagiarism will not be tolerated.

評価割合: 0%

▼その他

None.

評価割合: None.

授業計画: [第01回] Introduction.
[第02回] Asking about names. Name Conversation.
[第03回] Review Talkopoly& Units 2-7.
[第04回] Talking about Food. Vocabulary building.
[第05回] Direct& indirect articles ("the" & "a").
[第06回] "Your Recipe" and "Food you don't like".
[第07回] Crossword puzzle and listening.
[第08回] Health Problems: pronunciation practice.
[第09回] "What's the matter?" and crossword puzzle.
[第10回] "Suggesting& inviting."
[第11回] Restaurant English. Listening.
[第12回] Restaurant Role Play.
[第13回] Fast-food English.
[第14回] Review for test.
[第15回] Start conversation test.

使用テキスト: Talk a Lot: Book 2 (Second Edition) by David Martin (Okegawa City: EFL Press, 2003).
EFL Press: Tel/Fax (048) 772-7724
<http://www.EFLPRESS.com>

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: With the provided schedule, students should look over the content of each lesson in the textbook before class. Also, students are strongly encouraged to practice outside of class and to get as much English input as they can (by watching English movies, reading English books, listening to English music, etc.).

障がいのある履修者への対応: I will try to accommodate any special needs students. Please contact the Student Affairs office or talk with me personally to tell me what needs you have with regard to this class.

授業時間外の連絡手段: Please e-mail me for questions.

留意事項: Please expect to use mostly English in class.

科目コード:10056 科目ナンバリング: 主な使用言語:英語/日本語

授業名(英文): 英語コミュニケーションⅢ d(Conversing in English III d)

担当者: Asperheim, Daniel R.

基本情報

年次:2

単位数:1

授業形式:演習

曜時:水曜1限

履修可能学科・専攻: Pe Pc C W F N M

関連資格:教職 保育

AL要素: 13.役割演技と疑似体験、11.討論

授業の概要: Students will learn English for everyday situations. For example, self-introduction, sharing food recipes, describing health problems, etc.

キーワード: English, conversation, discussion, 英会話

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標: Students will learn English vocabulary and phrases related to certain real-life situations. They must speak the English they practice in class well enough to achieve simple, smooth, and understandable conversations.

評価方法: Students' grades are largely based on the amount of effort and time they put into class activities. Participation is very important, so students who do not frequently cooperate or who are frequently absent will not receive an A or an AA. 評価割合: 85%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: Students will learn strategies that will prepare them for situations that require English communication. These strategies will help students respond more quickly and confidently in English.

評価方法: The instructor will observe the students' abilities to speak English and evaluate their abilities during student/teacher oral exams. 評価割合: 15%

▼学修に主体的に取り組む態度

Students must help create a functional educational environment by quietly listening to lesson explanations and by cooperating during group activities.

評価割合: 0%

▼実践的ボランティア

Students will cultivate the ability to practice their English with interns and English-speaking teachers outside of class.

評価割合: 0%

▼公正性

Any racial or sexual discrimination will not be tolerated according to the university harassment policy. Likewise, cheating in classwork and plagiarism will not be tolerated.

評価割合: 0%

▼その他

None.

評価割合 : None.

授業計画 : [第01回] Introduction.
[第02回] Asking about names. Name Conversation.
[第03回] Review Talkopoly& Units 2-7.
[第04回] Talking about Food. Vocabulary building.
[第05回] Direct& indirect articles (“the” & “a”).
[第06回] “Your Recipe” and “Food you don’t like”.
[第07回] Crossword puzzle and listening.
[第08回] Health Problems: pronunciation practice.
[第09回] “What’s the matter?” and crossword puzzle.
[第10回] “Suggesting& inviting.”
[第11回] Restaurant English. Listening.
[第12回] Restaurant Role Play.
[第13回] Fast-food English.
[第14回] Review for test.
[第15回] Start conversation test.

使用テキスト : Talk a Lot: Book 2 (Second Edition) by David Martin (Okegawa City: EFL Press, 2003).
EFL Press: Tel/Fax (048) 772-7724
<http://www.EFLPRESS.com>

予習・復習のポイントと参考文献・資料等 : With the provided schedule, students should look over the content of each lesson in the textbook before class. Also, students are strongly encouraged to practice outside of class and to get as much English input as they can (by watching English movies, reading English books, listening to English music, etc.).

障がいのある履修者への対応 : I will try to accommodate any special needs students. Please contact the Student Affairs office or talk with me personally to tell me what needs you have with regard to this class.

授業時間外の連絡手段 : Please e-mail me for questions.

留意事項 : Please expect to use mostly English in class.

科目コード : 10056 科目ナンバリング : 主な使用言語 : English

授業名(英文) : 英語コミュニケーションⅢ e (Conversing in English III e)

担当者 : Fidalgo, Gina

基本情報

年次 : 2

単位数 : 1

授業形式 : 演習

曜時 : 水曜2限

履修可能学科・専攻 : Pe Pc C W F N M

関連資格 : 教職 保育

AL要素 : presentation; group work; discussion;
role-playing; correction guidance;
debate; question and answer

授業の概要 :

This focus of this class is on communication using daily topics. The class is designed to improve both oral and aural skills by communicating with a partner and / or in small groups. You can improve your writing skills, increase your vocabulary knowledge, and your self-confidence discussing topics of interest. Participation is important in this class.

キーワード : Speaking in English; English conversation; English presentations; English writing; role-playing

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標: Students should be able to combine skills and knowledge they have learned in the past, in addition to new vocabulary and grammatical styles taught in class.

評価方法: In-class and homework assignments (30%); **評価割合:** 60%
final exam (30%)

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標: Students should be able to express their opinion, feelings, and experiences about a given topic or situation.

評価方法: active participation in group discussion, **評価割合:** 40%
question and answer sessions, role-playing,
and debate (20%); presentation (20%)

▼ 学修に主体的に取り組む態度

Although effort is not directly evaluated in this class, the time and effort that students put into their work shows, so it is recommended to always try your best. Students who try hard usually get good results.

評価割合: 0%

▼ 実践的ボランティア

Volunteering is not directly evaluated in this class. However, it can provide you with essential skills and new knowledge that you can use inside and outside the classroom.

評価割合: 0%

▼ 公正性

Fairness is not directly evaluated in this class. However, it is very important to show respect and fairness to those around you. Showing a lack of fairness or respect may negatively impact your grade or result in a warning.

評価割合: 0%

▼ その他

(1) Please come to class in time for the lesson. Students entering the class after attendance is taken and the lesson has started will be considered late. By being late, you will miss important information and disrupt the class if the teacher has to repeat information again. Please note that students entering the class more than 45 minutes late will be considered absent.

(2) Late assignment are not accepted in this class. All assignments must be submitted by the due date.

評価割合: (1) Please come to class in time for

授業計画: SEMESTER ONE:

- Lesson 1 - Welcome Class! - Syllabus outline, get to know your teacher.
- Lesson 2 - "Talkopoly" - Get to know your peers
- Lesson 3 - Celebrations - Describe a celebration
- Lesson 4 - Celebrations - Compare holidays in different countries
- Lesson 5 - Celebrations - Express congratulations and good wishes
- Lesson 6 - Celebrations - Talk about Rituals
- Lesson 7 - Time - How many ways can you tell time?
- Lesson 8 - Time - Talking about past moments...
- Lesson 9 - Time - Talk about your routine
- Lesson 10 - Time - Imagining the future!
- Lesson 11 - Time - My Time Capsule...
- Lesson 12 - Nationalities - Famous things and people from other countries.
- Lesson 13 - Nationalities - Interesting facts & Quiz game show
- Lesson 14 - Presentations - Day 1

使用テキスト: There is no textbook for this class. The teacher will provide digital handouts and activity worksheets for each of the topics. Students will be responsible for printing the handouts or downloading the handouts. All students should bring a dictionary to class.

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: It is important to review the contents from each lesson and complete the homework assignments, which offer extra practice of the language learned in class. This will also help in retaining information for the exam.

障がいのある履修者への対応: All students are welcome in this class. Please consult with the student office.

授業時間外の連絡手段: Please speak to the teacher after class to set up a suitable time to meet if wanting to consult with the teacher.

留意事項: This class will be taught solely in English. Class topics on the syllabus may change as determined by the instructor. Changes will depend on student needs, the level of difficulty, and student progress.

Please note that 30 students is the maximum size for this class. If more than 30 students apply, DCE students will be given priority for registering.

Bring Your Own Device (BYOD). A notebook PC or tablet will be required from the first day of class.

科目コード:10057 **科目ナンバリング:** **主な使用言語:英語・日本語**

授業名(英文): 英語コミュニケーションIV a(Conversing in English IV a)

担当者: Larry W. Weatherford

基本情報

年次:2

単位数:1

授業形式:演習

曜時:木曜1限

履修可能学科・専攻: Pe Pc C W F N M

関連資格:教職 保育

AL要素: Using English in various everyday situations

授業の概要: Students will study how and when to use English in the correct situation.

キーワード: Communication and Discussion

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標: Students will be expected to communicate in English to the best of their ability.

評価方法: Oral Tests

評価割合:20%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: Students will be asked to discuss topics from the text with classmates and the teacher

評価方法: Final Test

評価割合:70%

▼学修に主体的に取り組む態度

Students will be expected to communicate in English with others in the class to the best of their ability

評価割合:0%

▼実践的ボランティア

Students should seek out chances to use their English wherever and whenever they can

評価割合:0%

▼公正性

Students will include all members in the group activities and discussions during class. Good manners of expected at all times.

Do not use SNS or be texting during class.

評価割合:10%

▼その他

特になし

評価割合:特になし

授業計画: Class 1: Orientation and introduction
2. Unit 1 A
3 Unit 1 B
4. Unit 2 A
5. Unit 2 B
6.Unit 3 A
7.Unit 3 B
8. Unit 4 A
9. Unit 4 B
10. Unit 5 A
11. Unit 5 B
12. Unit 6 A
13. Unit 6 B
14. Review
15.Final test Prep.
16. Final Test

使用テキスト: Nice Talking With You Level 2
Notebook

予習・復習のポイントと
参考文献・資料等: Always have your class materials (textbook, prints, etc.)

障がいのある
履修者への対応: If you have any needs or requests, contact me directly

授業時間外の連絡手段: I will be available between classes on Thursday.

留意事項: The class will be taught in English.

科目コード:10057 科目ナンバリング: 主な使用言語:英語・日本語

授業名(英文): 英語コミュニケーションIV b(Conversing in English IV b)

担当者: Larry W. Weatherford

基本情報

年次:2

単位数:1

授業形式:演習

曜時:木曜4限

履修可能学科・専攻: Pe Pc C W F N M

関連資格:教職 保育

AL要素: Using English in various everyday situations

授業の概要: Students will study how and when to use English in the correct situation.

キーワード: Communication and Discussion

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標: Students will be expected to communicate in English to the best of their ability.

評価方法: Oral Tests

評価割合: 20%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: Students will be asked to discuss topics from the text with classmates and the teacher

評価方法: Final Test

評価割合: 70%

▼学修に主体的に取り組む態度

Students will be expected to communicate in English with others in the class to the best of their ability

評価割合: 0%

▼実践的ボランティア

Students should seek out chances to use their English wherever and whenever they can

評価割合: 0%

▼公正性

Students will include all members in the group activities and discussions during class. Good manners of expected at all times.

Do not use SNS or be texting during class.

評価割合: 10%

▼その他

特になし

評価割合: 特になし

授業計画:

1. Unit 7 A
2. Unit 7 B
3. Unit 8 A
4. Unit 8 B
5. Unit 9 A
6. Unit 9 B
7. Unit 10 A
8. Unit 10 B
9. Unit 11 A
10. Unit 11 B
11. Unit 12 A
12. Unit 12 B
13. Review / Christmas movie
14. Christmas Movie
15. Final test Prep.
16. Final Test

使用テキスト: Nice Talking With You Level 2
Notebook

**予習・復習のポイントと
参考文献・資料等:** Always have your class materials (textbook, prints, etc.)

**障がいのある
履修者への対応:** If you have any needs or requests, contact me directly

授業時間外の連絡手段: I will be available between classes on Thursday.

留意事項: The class will be taught in English.

科目コード: 10057

科目ナンバリング:

主な使用言語: 英語/日本語

授業名(英文): 英語コミュニケーションIV c(Conversing in English IV c)

担当者：Asperheim, Daniel R.

基本情報

年次：2

単位数：1

授業形式：演習

曜時：金曜1限

履修可能学科・専攻：Pe Pc C W F N M

関連資格：教職 保育

AL要素：13.役割演技と疑似体験、11.討論

授業の概要：Students will learn English for everyday situations. For example, shopping, giving advice, talking about movies, etc.

キーワード：English, conversation, discussion, 英会話

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標：Students will learn English vocabulary and phrases related to certain real-life situations. They must speak the English they practice in class well enough to achieve simple, smooth, and understandable conversations.

評価方法：Students' grades are largely based on the amount of effort and time they put into class activities. Participation is very important, so students who do not frequently cooperate or who are frequently absent will not receive an A or an AA. **評価割合：85%**

▼思考力・判断力・表現力

到達目標：Students will learn strategies that will prepare them for situations that require English communication. These strategies will help students respond more quickly and confidently in English.

評価方法：The instructor will observe the students' abilities to speak English and evaluate their abilities during student/teacher oral exams. **評価割合：15%**

▼学修に主体的に取り組む態度

Students must help create a functional educational environment by quietly listening to lesson explanations and by cooperating during group activities.

評価割合：0%

▼実践的ボランティア

Students will cultivate the ability to practice their English with interns and English-speaking teachers outside of class.

評価割合：0%

▼公正性

Any racial or sexual discrimination will not be tolerated according to the university harassment policy. Likewise, cheating in classwork and plagiarism will not be tolerated.

評価割合：0%

▼その他

None.

評価割合：None.

授業計画： [第1回] Review & Talking about the Past.
[第2回] “Why were you . . . ?” and Grammar: 過去進行形と過去形
[第3回] Making Sentences. Your experiences.

- [第4回] Shopping English. "Guess That Price!"
- [第5回] Giving Advice: "you should" / "shouldn't"
- [第6回] Listening. Unreal Situations.
- [第7回] Listening. "How helpful are you?" Making Wishes.
- [第8回] Questions about movies and listening.
- [第9回] Describing movies.
- [第10回] Movie Trivia.
- [第11回] Preparing for Talkopoly.
- [第12回] Talkopoly and Review.
- [第13回] Christmas Trivia.
- [第14回] Review for test.
- [第15回] Start conversation test.

使用テキスト: Talk a Lot: Book 2 (Second Edition) by David Martin (Okegawa City: EFL Press, 2003).
EFL Press: Tel/Fax (048) 772-7724
<http://www.EFLPRESS.com>

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: With the provided schedule, students should look over the content of each lesson in the textbook before class. Also, students are strongly encouraged to practice outside of class and to get as much English input as they can (by watching English movies, reading English books, listening to English music, etc.).

障がいのある履修者への対応: I will try to accommodate any special needs students. Please contact the Student Affairs office or talk with me personally to tell me what needs you have with regard to this class.

授業時間外の連絡手段: Please e-mail me for questions.

留意事項: Please expect to use mostly English in class.

科目コード: 10057 **科目ナンバリング:** **主な使用言語:** 英語/日本語

授業名(英文): 英語コミュニケーションIV d (Conversing in English IV d)

担当者: Asperheim, Daniel R.

基本情報

年次: 2

単位数: 1

授業形式: 演習

曜時: 水曜1限

履修可能学科・専攻: Pe Pc C W F N M

関連資格: 教職 保育

AL要素: 13.役割演技と疑似体験、11.討論

授業の概要: Students will learn English for everyday situations. For example, shopping, giving advice, talking about movies, etc.

キーワード: English, conversation, discussion, 英会話

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標: Students will learn English vocabulary and phrases related to certain real-life situations. They must speak the English they practice in class well enough to achieve simple, smooth, and understandable conversations.

評価方法: Students' grades are largely based on the amount of effort and time they put into class activities. Participation is very important, so students who do not frequently cooperate or who are frequently absent will not receive an A or **評価割合:** 85%

an AA.

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: Students will learn strategies that will prepare them for situations that require English communication. These strategies will help students respond more quickly and confidently in English.

評価方法: The instructor will observe the students' abilities to speak English and evaluate their abilities during student/teacher oral exams. **評価割合:** 15%

▼学修に主体的に取り組む態度

Students must help create a functional educational environment by quietly listening to lesson explanations and by cooperating during group activities.

評価割合: 0%

▼実践的ボランティア

Students will cultivate the ability to practice their English with interns and English-speaking teachers outside of class.

評価割合: 0%

▼公正性

Any racial or sexual discrimination will not be tolerated according to the university harassment policy. Likewise, cheating in classwork and plagiarism will not be tolerated.

評価割合: 0%

▼その他

None.

評価割合: None.

授業計画: [第1回] Review & Talking about the Past.
[第2回] “Why were you . . . ?” and Grammar: 過去進行形と過去形
[第3回] Making Sentences. Your experiences.
[第4回] Shopping English. “Guess That Price!”
[第5回] Giving Advice: “you should” / “shouldn’t”
[第6回] Listening. Unreal Situations.
[第7回] Listening. “How helpful are you?” Making Wishes.
[第8回] Questions about movies and listening.
[第9回] Describing movies.
[第10回] Movie Trivia.
[第11回] Preparing for Talkopoly.
[第12回] Talkopoly and Review.
[第13回] Christmas Trivia.
[第14回] Review for test.
[第15回] Start conversation test.

使用テキスト: Talk a Lot: Book 2 (Second Edition) by David Martin (Okegawa City: EFL Press, 2003).
EFL Press: Tel/Fax (048) 772-7724
<http://www.EFLPRESS.com>

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: With the provided schedule, students should look over the content of each lesson in the textbook before class. Also, students are strongly encouraged to practice outside of class and to get as much English input as they can (by watching English movies, reading English books, listening to English music, etc.).

障がいのある履修者への対応: I will try to accommodate any special needs students. Please contact the Student Affairs office or talk with me personally to tell me what needs you have with regard to this class.

授業時間外の連絡手段: Please e-mail me for questions.

留意事項: Please expect to use mostly English in class.

科目コード:10057 科目ナンバリング: 主な使用言語: English

授業名(英文): 英語コミュニケーションⅣ e(Conversing in English IV e)

担当者: Fidalgo, Gina

基本情報

年次:2

単位数:1

授業形式:演習

曜時:水曜2限

履修可能学科・専攻: Pe Pc C W F N M

関連資格:教職 保育

AL要素: presentations, group work, discussion, debate, role-playing, correction guidance, question and answer

授業の概要:

This focus of this class is on communication using daily topics. The class is designed to improve both oral and aural skills by communicating with a partner and / or in small groups. You can improve your writing skills, increase your vocabulary knowledge, and your self-confidence discussing topics of interest. Participation is important in this class.

キーワード: Speaking in English; English conversation; English presentations; English writing; role-playing; discussion

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標: Students should be able to combine skills and knowledge they have learned in the past, in addition to new vocabulary and grammatical styles taught in class.

評価方法: In-class and homework assignments (30%); 評価割合: 60%
final exam (30%)

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: Students should be able to express their opinion, feelings, and experiences about a given topic or situation.

評価方法: active participation in group discussion, 評価割合: 40%
question and answer sessions, role-playing,
and debate (20%); presentation (20%)

▼学修に主体的に取り組む態度

Although effort is not directly evaluated in this class, the time and effort that students put into their work shows, so it is recommended to always try your best. Students who try hard usually get good results.

評価割合: 0%

▼実践的ボランティア

Volunteering is not directly evaluated in this class. However, it can provide you with essential skills and new knowledge that you can use inside and outside the classroom.

評価割合: 0%

▼公正性

Fairness is not directly evaluated in this class. However, it is very important to show respect and fairness to those around you. Showing a lack of fairness or respect may negatively impact your grade or result in a warning.

評価割合: 0%

▼その他

(1) Please come to class in time for the lesson. Students entering the class after attendance is taken and the lesson has started will be considered late. By being late, you will miss important information and disrupt the class if the teacher has to repeat information again. Please note that students entering the class more than 45 minutes late will be considered absent.

(2) Late assignments are not accepted in this class. All assignments must be submitted on the due date.

評価割合: (1) Please come to class in time for

授業計画: SEMESTER TWO

- Lesson 1 - Welcome back! Syllabus outline, and how was your summer vacation?
- Lesson 2 - Fashion - What are your favorite clothes?
- Lesson 3 - Fashion - Let's go shopping! Making comparisons.
- Lesson 4 - Fashion - Do you want to be a model? Explaining what someone is wearing.
- Lesson 5 - Fashion - Types of stores and clothing markets.
- Lesson 6 - Health - Discuss ways to stay healthy
- Lesson 7 - Health - How your body keeps you safe
- Lesson 8 - Health - Talk about healthy lifestyles
- Lesson 9 - Health - You be the doctor! Suggesting remedies!
- Lesson 10 - Happiness - What makes you happy?
- Lesson 11 - Happiness - Benefits of positive thinking
- Lesson 12 - Family - My family tree...
- Lesson 13 - Family - Do you have a small family or a large family?
- Lesson 14 - Final Presentations - day 1
- Lesson 15 - Final Presentations - day 2

Final exam for semester two

使用テキスト: There is no textbook for this class. The teacher will provide digital handouts and activity worksheets for each of the topics. Students will be responsible for printing the handouts or downloading the handouts. All students should bring a dictionary to class.

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: It is important to review vocabulary and materials from each lesson, as it will make it easier for you to recall the information and use it in the future. It is important to complete homework assignments to get extra practice with new language learned in class.

障がいのある履修者への対応: All students are welcome in this class. Please consult with the student office.

授業時間外の連絡手段: The teacher has no set office hours. Please speak to the teacher after class to set up a suitable time to meet if wanting a consultation.

留意事項: Bring Your Own Device (BYOD). A notebook PC or tablet will be required from the first day of class.

This class will be taught solely in English. Class topics on the syllabus may change as determined by the instructor. Changes will depend on student needs, the level of difficulty, and student progress.

Please note that 30 students is the maximum size for this class. If more than 30 students apply, DCE students will be given priority for registering.

科目コード: 10058

科目ナンバリング:

主な使用言語: 日本語・英語

授業名(英文): 総合英語I a (General English I a)

担当者：三上 司

基本情報

年次：1

単位数：1

授業形式：演習

曜時：火曜4限

履修可能学科・専攻：Pe Pc C W F N M

関連資格：教職 保育

AL要素：03,05,17

授業の概要：【特例期間中の授業形態】課題研究型
英語の基礎学力養成を目標とします。特に読み・書きに重点が置かれます

キーワード：リーディング、ライティング、リスニング、内容理解、語彙

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標：授業で説明された英語の知識に基づいて、英文を正しく理解することができる。

評価方法：授業への参加、テスト

評価割合：50%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標：授業で扱われたものに加えて、過去の英語の知識に基づいて、英語を正しく分析することができる。

評価方法：授業への参加、テスト

評価割合：50%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。

評価割合：0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。

評価割合：0%

▼その他

特になし。

評価割合：特になし。

授業計画：

- (01) 序論
- (02) リーディング(1)、語彙・内容理解問題
- (03) リーディング(2)、語彙・内容理解問題
- (04) リーディング(3)、語彙・内容理解問題
- (05) 小テスト
- (06) リーディング(4)、語彙・内容理解問題
- (07) リーディング(5)、語彙・内容理解問題
- (08) リーディング(6)、語彙・内容理解問題
- (09) リーディング(7)、語彙・内容理解問題
- (10) 小テスト
- (11) リーディング(8)、語彙・内容理解問題
- (12) リーディング(9)、語彙・内容理解問題
- (13) リーディング(10)、語彙・内容理解問題
- (14) リーディング(11)、語彙・内容理解問題
- (15) 小テスト

使用テキスト： 開講時に指定します。

予習・復習のポイントと 参考書等は、授業内で指示します。
参考文献・資料等：

障がいのある 可能な限り対応します。
履修者への対応：

授業時間外の連絡手段： 開講時に提示します。

留意事項： 特になし。

科目コード：10058	科目ナンバリング：	主な使用言語：英語、日本語
授業名(英文)：総合英語I b (General English I b)		
担当者：藤咲 多恵子		
基本情報		
年次：1	単位数：1	授業形式：演習
曜時：火曜3限	履修可能学科・専攻：Pe Pc C W F N M	
関連資格：教職 保育	AL要素：07: 発表、08: 協同学修、11: ディスカッション、13: 役割演技と疑似体験、17: 質問と回答	

授業の概要： この授業では、日本の文化・慣習や異文化理解をテーマとした教科書を中心教材にして、英語での発信力を身に付けるためのトレーニングを行います。基礎として、語彙・表現を増やすための学習や、会話・文章の内容理解のための学習をします。そして、ディスカッションやプレゼンテーション等の発展的な活動も取り入れて、英語で自分の考えを表現する力を養います。

キーワード： Japanese lifestyle and culture, Intercultural communication, English communication skills

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 日本文化や異文化理解を題材にした英語の会話を聞いたり、文章を読んで概要が理解できる。様々な事象、文化、生活様式を伝えるために使われる英単語、表現の意味を理解し、発音できる。

評価方法： 小テスト、課題、学期末試験 **評価割合：** 60%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 教科書のトピックに関連した話題で英語でディスカッションができる。自分の考えを英語で文章にまとめたり、それを口頭で発表できる。

評価方法： 口頭発表、課題、学期末試験 **評価割合：** 40%

▼学修に主体的に取り組む態度

予習、授業内での活動、復習を通して、継続的な学習習慣を身につける。この項目に直接点数評価はしないが、授業内活動や課題への取り組み方、試験などから学びの成果を見る。

評価割合： 0%

▼実践的ボランティア

教科書による学習を基として、

- 1) 学生自らが文化、生活様式、コミュニケーション等について考え、それを英語で発信できること
- 2) 学生同士でその考えを聞いたり、読んだりして学び合うことを目指す。この項目に直接的な点数評価はしないが、課題、口頭発表、試験で取り組みの成果を見る。

評価割合： 0%

▼公正性

授業中や試験時の不正行為が許されないのはもちろんである。加えてデジタル機器の使用、著作物の利用なども公正に行う姿勢を身に付ける。不正行為については厳しい処分の対象となる。

評価割合：0%

▼その他

特になし

評価割合：特になし

授業計画： 第1回 授業オリエンテーション, Introduction
第2回 Unit 1 (1) Getting to Know You (Vocabulary, Listening, Conversation)
第3回 Unit 1 (2) Getting to Know You (Speaking, Reading, Activities)
第4回 Unit 2 (1) My Hometown (Vocabulary, Listening, Conversation)
第5回 Unit 2 (2) My Hometown (Speaking, Reading, Activities)
第6回 Unit 3 (1) Japanese Food (Vocabulary, Listening, Conversation)
第7回 Unit 3 (2) Japanese Food (Speaking, Reading, Activities)
第8回 Unit 4 (1) The Traditional Japanese House (Vocabulary, Listening, Conversation)
第9回 Unit 4 (2) The Traditional Japanese House (Speaking, Reading, Activities)
第10回 Unit 5 (1) The Japanese Language (Vocabulary, Listening, Conversation)
第11回 Unit 5 (2) The Japanese Language (Speaking, Reading, Activities)
第12回 Unit 6 (1) Explaining Japanese Things (Vocabulary, Listening, Conversation)
第13回 Unit 6 (2) Explaining Japanese Things (Speaking, Reading, Activities)
第14回 Oral Presentation
第15回 Oral Presentation, Wrap-up and Reflection
定期試験

使用テキスト： Simon Capper 著、This is Japan, New Edition / Your Culture, Your life 英語で伝える日本の文化と生活、センテージラーニング、2021年

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： [予習] 教科書や資料を読み、問題に答えておきましょう。わからない単語・表現とその発音は辞書を使って調べておくこと。教科書付属のウェブサイトで音声聞いておきましょう。ディスカッション等で自分の考えを述べるのに必要な英語表現を調べておきましょう。(90分程度)
[復習] 文章の内容、英単語・表現を確認し、復習課題に取り組みましょう。(90分程度)
なお、口頭発表前には発表原稿やスライドの準備、speaking の練習が必要になります。授業には英和・和英辞典(紙のものでも電子版でも可)を持参してください。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください。

授業時間外の連絡手段： 初回授業でIC Mailアドレスを提示します。

留意事項： デバイスを必携とします。オンライン資料や学習管理システムを使った学習も行います。課題の提出や、教員からのフィードバック(評価、コメントなど)にも IC-UNIPAや学習管理システムを利用します。

科目コード：10058 科目ナンバリング： 主な使用言語：日本語

授業名(英文)：総合英語I c (General English I c)

担当者：井上 まゆみ

基本情報

年次：1

単位数：1

授業形式：演習

曜時：火曜3限

履修可能学科・専攻：Pe Pc C W F N M

関連資格：教職 保育

AL要素：17. 発問と回答

授業の概要： 仕事、スポーツ、健康といった身近なテーマについての4技能によるアクティビティを通して、そこで使われている表現や文法事項を学びます。また各課で学習した表現や文法を使ってテーマにそった身近な話題について自分の意見を書く力を養います。

キーワード： A variety of familiar topics and a wide range of activities

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標：教科書の内容を理解でき、関連する重要構文と単語を使って英文を80パーセント組み立てることができる

評価方法：定期試験

評価割合：50%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標：教科書で学習した表現を使って身近な話題について50words程度の英文を書くことができる。

評価方法：定期試験

評価割合：30%

▼ 学修に主体的に取り組む態度

e-Learning課題を期日までに行う。

評価割合：20%

▼ 実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。

評価割合：0%

▼ 公正性

直接的な評価対象とはしない。

評価割合：0%

▼ その他

特になし

評価割合：特になし

授業計画：	第1回	オリエンテーション
	第2回	Unit 1 Occupation
	第3回	Unit 1 Occupation
	第4回	Unit 2 At the Dinner Table
	第5回	Unit 2 At the Dinner Table
	第6回	Unit 3 Sports
	第7回	Unit 3 Sports
	第8回	Review
	第9回	Unit 4 Health
	第10回	Unit 4 Health
	第11回	Unit 5 What's on Your Playlist?
	第12回	Unit 5 What's on Your Playlist?
	第13回	Unit 6 At the Movies
	第14回	Unit 6 At the Movies
	第15回	Review
		定期試験

使用テキスト： Teruhiko Kadoyama, Live ABC editors. "Live Escalate Book 2:Trekking" (Seibido, 2021年)

予習・復習のポイントと 教科書付属のWeb動画を事前に視聴し、語彙を調べてくること(60分)。

参考文献・資料等： 教科書に連動したe-Learningを使って学習した内容を復習してくること(90分)。

障がいのある 可能な限り対応します
履修者への対応：

授業時間外の連絡手段： 初回の授業でお知らせします。

留意事項： なし

科目コード：10058

科目ナンバリング：

主な使用言語：英語|日本語

授業名(英文)：総合英語I d (General English I d)

担当者： 所 佐知子

基本情報

年次：1

単位数：1

授業形式：演習

曜時：水曜1限

履修可能学科・専攻： Pe Pc C W F N M

関連資格：教職 保育

AL要素：08 共同学修

10 資料調査課題

13 役割演技と疑似体験

17 初問と回答

授業の概要：【特別期間中の授業形態】遠隔授業 オンデマンド型、同時双方型 併用

英語文法の基礎を再確認し、自分自身のこと、身の回りのことを簡単な英文構造で人に伝える自信を持てるようにペアワークやグループワークで演習を行います。

キーワード： The simple present vs. the present continuous / The comparative form of adjectives/ MY LIFE/ LET'S EAT/ Introducing a person to someone else and responding introductions

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標：各unitのテーマとなる文法事項やフレーズをすらすらと口述、筆記することができる。
リスニングマテリアルの重要部分を聞き取り、大意を理解することができる。
リーディングマテリアルの概要(大意)を素早く捉えることができる。

評価方法：Unit 1

評価割合：60%

Review

test=15% Unit 2&3

Review

test =25% Speaking

10% Presentation10 %

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標：英文法や単語の間違いを恐れず、英語で発話し、コミュニケーションを積極的に図ることができる。

評価方法：各Unitのスキット実演、プリント等の提出物
から 40%

評価割合：40%

▼ 学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしません。ただし、英会話のロールプレイなど、ペアワーク/グループワーク等では積極的に練習する態度が求められます。練習の成果をユニットの課題として披露してもらうこともあるので、しっかり取り組みましょう。

評価割合：0%

▼ 実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしません。

評価割合：0%

▼ 公正性

直接的な評価対象とはしません。ただし、授業中の発言や筆記試験の記述等において人権侵害・差別発言など著しく公正性を欠く言動やカンニング等の不正行為があった場合は、減点や厳重注意の対象となるので注意してください。

評価割合：0%

▼ その他

特にありません。

評価割合：特にありません。

- 授業計画：** 第1回 Orientation /Self-introduction / Unit1 Speaking: Introducing a person to someone else
and responding introduction
第2回 Unit 1 Speaking (Review) / Warm-up Video / Vocabulary
第3回 Listening : Conversation about people's relationships / Grammar: The simple present vs.
the present continuous/ Active English: Ask questions to get to know your classmates
第4回 Vocabulary/ Reading / Information Gap Activities (Text P211)
第5回 Listening /Grammar / Active English: Talk about past school experience
第6回 Unit 1 Review test / Unit 2 Warm-up Video / Vocabulary/ Listening: Conversation
about regional dishes
第7回 Grammar :The comparative form of adjectives, The superlative form of adjectives/
Active English : Make a radio ad for a new restaurant
第8回 Grammar: Adverb of manner / Active English : Create a restaurant menu and compare
places to eat
第9回 Reading: The best food to eat / Listening: Talk about dinner times in different cultures
第10回 Unit 3 Warm-up Video / Vocabulary/ Speaking: Saying something is likely or not likely
第11回 Listening : Talk about making your own luck/ Grammar: Stative verbs
第12回 Grammar: Modals of present possibility / Reading: Mysterious Artwork
第13回 Listening: News report on changes in human behavior during a full moon/Active English:
Identify and present possible theories and explanations for mysteries
第14回 Unit 2&3 Review test
第15回 Presentation

使用テキスト： テキスト:World Link, Fourth Edition <Level 2>
出版社NATIONAL GEOGRAPHIC LEARNING (販売元:Cengage Learning K.K)
ISBN:9780357502174 Student Book, Text Only

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： Teamsに音声及びVTRを掲示しておきます。毎週前もって提示される授業プランを見て予習をしておきましょう。予習課題はテキストに沿ったテーマで出されます。

復習も大切です。音声、VTR、スクリプト、プリント等をしっかり活用してわからなかったところを見直しましょう。文法事項はなるべくパワポでポイントを説明した資料を提示しますので、参考にしてください。学習した箇所の音読も行っていきましょう。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡して下さい。

授業時間外の連絡手段： 授業の前後に対応します。また、メールでも随時受け付けます。(連絡先は第一回授業及びIC-UNIPA 掲示板上で公表します。)

留意事項： スマートフォンの辞書を使うことを許可しますが、節度を持って使用してください。PCまたはスマートフォンを使うこともあります。(PCが必要な時は前もって連絡します。) 課題提出と授業資料提示はTeams または IC-UNIPAを使用します。

科目コード:10058

科目ナンバリング:

主な使用言語:英語|日本語

授業名(英文):総合英語I e(General English I e)

担当者:所 佐知子

基本情報

年次:1

単位数:1

授業形式:演習

曜時:水曜2限

履修可能学科・専攻:Pe Pc C W F N M

関連資格:教職 保育

AL要素:08 共同学修

10 資料調査課題

13 役割演技と疑似体験

17初問と回答

授業の概要:【特別期間中の授業形態】遠隔授業 オンデマンド型、同時双方型 併用

英語文法の基礎を再確認し、自分自身のこと、身の回りのことを簡単な英文構造で人に伝える自信を持てるようにペアワークやグループワークで演習を行います。

キーワード: The simple present vs. the present continuous / The comparative form of adjectives/ MY LIFE/ LET'S EAT/ Introducing a person to someone else and responding introductions

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標: 各unitのテーマとなる文法事項やフレーズをすらすらと口述、筆記することができる。
リスニングマテリアルの重要部分を聞き取り、大意を理解することができる。
リーディングマテリアルの概要(大意)を素早く捉えることができる。

評価方法: Unit 1

評価割合:60%

Review

test=15% Unit 2&3

Review

test =25% Speaking

10% Presentation10%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 英文法や単語の間違いを恐れず、英語で発話し、コミュニケーションを積極的に図ることができる。

評価方法: 各Unitのスキット実演、プリント等の提出物
から 40%

評価割合:40%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしません。ただし、英会話のロールプレイなど、ペアワーク/グループワーク等では積極的に練習する態度が求められます。練習の成果をユニットの課題として披露してもらうこともあるので、しっかり取り組みましょう。

評価割合:0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしません。

評価割合:0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしません。ただし、授業中の発言や筆記試験の記述等において人権侵害・差別発言など著しく公正性を欠く言動やカンニング等の不正行為があった場合は、減点や厳重注意の対象となる

ので注意してください。

評価割合：0%

▼その他

特にありません。

評価割合：特にありません。

- 授業計画：** 第1回 Orientation /Self-introduction / Unit1 Speaking: Introducing a person to someone else
and responding introduction
第2回 Unit 1 Speaking (Review) / Warm-up Video / Vocabulary
第3回 Listening : Conversation about people's relationships / Grammar: The simple present vs.
the present continuous/ Active English: Ask questions to get to know your classmates
第4回 Vocabulary/ Reading / Information Gap Activities (Text P211)
第5回 Listening /Grammar / Active English: Talk about past school experience
第6回 Unit 1 Review test / Unit 2 Warm-up Video / Vocabulary/ Listening: Conversation
about regional dishes
第7回 Grammar :The comparative form of adjectives, The superlative form of adjectives/
Active English : Make a radio ad for a new restaurant
第8回 Grammar: Adverb of manner / Active English : Create a restaurant menu and compare
places to eat
第9回 Reading: The best food to eat / Listening: Talk about dinner times in different cultures
第10回 Unit 3 Warm-up Video / Vocabulary/ Speaking: Saying something is likely or not likely
第11回 Listening : Talk about making your own luck/ Grammar: Stative verbs
第12回 Grammar: Modals of present possibility / Reading: Mysterious Artwork
第13回 Listening: News report on changes in human behavior during a full moon/Active English:
Identify and present possible theories and explanations for mysteries
第14回 Unit 2&3 Review test
第15回 Presentation

使用テキスト： テキスト:World Link, Fourth Edition <Level 2>
出版社NATIONAL GEOGRAPHIC LEARNING (販売元:Cengage Learning K.K)
ISBN:9780357502174 Student Book, Text Only

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： Teamsに音声及びVTRを掲示しておきます。毎週前もって提示される授業プランを見て予習をしておきましょう。予習課題はテキストに沿ったテーマで出されます。

復習も大切です。音声、VTR、スクリプト、プリント等をしっかり活用してわからなかったところを見直しましょう。文法事項はなるべくパワポでポイントを説明した資料を提示しますので、参考にしてください。学習した箇所の音読も行っていきましょう。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡して下さい。

授業時間外の連絡手段： 授業の前後に対応します。また、メールでも随時受け付けます。(連絡先は第一回授業及びIC-UNIPA 掲示板で公表します。)

留意事項： スマートフォンの辞書を使うことを許可しますが、節度を持って使用してください。
PCまたはスマートフォンを使うこともあります。(PCが必要な時は前もって連絡します。)
課題提出と授業資料提示はTeams または IC-UNIPAを使用します。

科目コード:10058 科目ナンバリング: 主な使用言語:英語と日本語

授業名(英文): 総合英語I f(General English I f)

担当者: 小野 雄一

基本情報

年次:1

単位数:1

授業形式:演習

曜時:月曜1限

履修可能学科・専攻: Pe Pc C W F N M

関連資格:教職 保育

AL要素:発表と討論

授業の概要: 本授業では、海外のメディアが扱う英語のニュースを素材に、グローバル化した社会を背景に起こっている様々な事例(

キーワード: ニュース教材、SDGs、世界的視点、討論、発信能力

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標: グローバル化に関する英語のニュースを方法(知識・理解で切るようになる。

評価方法: テストや小テストで評価する。

評価割合: 40%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 授業で扱った内容に基づいて批判的検討を加え、自分の考えを英語で発信すること方法(思・ができるようになる。

評価方法: テストで評価する。

評価割合: 30%

▼学修に主体的に取り組む態度

授業の中での討論の参加度や授業中に課すレポートに対する取り組みにおける主体性を評価する。

評価割合: 30%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。

評価割合: 0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。試験中の不正行為や欠席超過については単位が認定されない。

評価割合: 0%

▼その他

特になし。

評価割合: 特になし。

授業計画: 第1回 Lesson 1(1)
第2回 Lesson 1(2)
第3回 Lesson 2(1)
第4回 Lesson 2(2)
第5回 Lesson 3(1)
第6回 Lesson 3(2)
第7回 Lesson 4(1)
第8回 Lesson 4(2)
第9回 Lesson 5(1)
第10回 Lesson 5(2)

- 第11回 Lesson 6(1)
- 第12回 Lesson 6(2)
- 第13回 Presentation (3)
- 第14回 Presentation (4)
- 第15回 Presentation (5)
- 定期試験

使用テキスト: AFP World News Report: Achieving Sustainable Development Goals (SDGs) 成美堂

予習・復習のポイントと参考文献・資料等:

- ・予習
未知語を調べ、予習の問題をあらかじめ解答する。解説ビデオを視聴し、大まかな内容を理解する。
- ・授業
単語の小テストを行う、教材内容の解説を行う
- ・復習
より踏み込んだ課題に取り組む

障がいのある履修者への対応: 相談の上可能な限り対応いたします。

授業時間外の連絡手段: 初回の授業時にお知らせいたします。

留意事項: 必ず予習を行っておくようにしてください。教材付属のビデオと解説ビデオを大いに参照してください。参照ビデオのリンクについては毎回UNIPAで提示します。

科目コード: 10058 **科目ナンバリング:** **主な使用言語:** 英語と日本語

授業名(英文): 総合英語I g (General English I g)

担当者: 小野 雄一

基本情報

年次: 1

単位数: 1

授業形式: 演習

曜時: 月曜2限

履修可能学科・専攻: Pe Pc C W F N M

関連資格: 教職 保育

AL要素: 発表と討論

授業の概要: 本授業では、海外のメディアが扱う英語のニュースを素材に、グローバル化した社会を背景に起こっている様々な事例(SDGs)をめぐるテーマを理解し、学習者の批判的思考を養い、自分の意見を述べ、聴解能力を高めることを目標とする。

キーワード: ニュース教材、SDGs、世界的視点、討論、発信能力

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標: グローバル化に関する英語のニュースを理解できるようになる。

評価方法: テストや小テストで評価する。

評価割合: 40%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 授業で扱った内容に基づいて批判的検討を加え、自分の考えを英語で発信することができるようになる。

評価方法: テストで評価する。

評価割合: 30%

▼学修に主体的に取り組む態度

授業の中での討論の参加度や授業中に課すレポートに対する取り組みにおける主体性を評価する。

評価割合: 30%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。試験中の不正行為や欠席超過については単位が認定されない。

評価割合：0%

▼その他

特になし。

評価割合：特になし。

授業計画： 第1回 Lesson 1(1)
第2回 Lesson 1(2)
第3回 Lesson 2(1)
第4回 Lesson 2(2)
第5回 Lesson 3(1)
第6回 Lesson 3(2)
第7回 Lesson 4(1)
第8回 Lesson 4(2)
第9回 Lesson 5(1)
第10回 Lesson 5(2)
第11回 Lesson 6(1)
第12回 Lesson 6(2)
第13回 Presentation (3)
第14回 Presentation (4)
第15回 Presentation (5)
定期試験

使用テキスト： AFP World News Report 5: Achieving the Sustainable Development Goals (SDGs) 成美堂

予習・復習のポイントと 予習

参考文献・資料等：

未知語を調べ、予習の問題をあらかじめ解答する。
解説ビデオを視聴し、大まかな内容を理解する。

授業

単語の小テストを行う
教材内容の解説を行う

復習

より踏み込んだ課題に取り組む

障がいのある 相談の上可能な限り対応いたします。
履修者への対応：

授業時間外の連絡手段： 初回の授業時にお知らせいたします。

留意事項：

必ず予習を行っておくようにしてください。教材付属のビデオと解説ビデオを大いに参照してください。
参照ビデオのリンクについては毎回UNIPAで提示します。

科目コード：10058

科目ナンバリング：

主な使用言語：英語と日本語

授業名(英文)：総合英語I h (General English I h)

担当者：小野 雄一

基本情報

年次：1

単位数：1

授業形式：演習

曜時：月曜3限

履修可能学科・専攻：Pe Pc C W F N M

関連資格：教職 保育

AL要素：発表と討論

授業の概要：本授業では、海外のメディアが扱う英語のニュースを素材に、グローバル化した社会を背景に起こっている様々な事例(SDGs)をめぐるテーマを理解し、学習者の批判的思考を養い、

自分の意見を述べ、聴解能力を高めることを目標とする。

キーワード: ニュース教材、SDGs、世界的視点、討論、発信能力

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標: グローバル化に関する英語のニュースを理解できるようになる。

評価方法: テストや小テストで評価する。

評価割合: 40%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 授業で扱った内容に基づいて批判的検討を加え、自分の考えを英語で発信することができるようになる。

評価方法: テストで評価する。

評価割合: 30%

▼学修に主体的に取り組む態度

授業の中での討論の参加度や授業中に課すレポートに対する取り組みにおける主体性を評価する。

評価割合: 30%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。

評価割合: 0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。試験中の不正行為や欠席超過については単位が認定されない。

評価割合: 0%

▼その他

特になし。

評価割合: 特になし。

授業計画: 第1回 Lesson 1(1)
第2回 Lesson 1(2)
第3回 Lesson 2(1)
第4回 Lesson 2(2)
第5回 Lesson 3(1)
第6回 Lesson 3(2)
第7回 Lesson 4(1)
第8回 Lesson 4(2)
第9回 Lesson 5(1)
第10回 Lesson 5(2)
第11回 Lesson 6(1)
第12回 Lesson 6(2)
第13回 Presentation (3)
第14回 Presentation (4)
第15回 Presentation (5)
定期試験

使用テキスト: AFP World News Report 5: Achieving the Sustainable Development Goals (SDGs) 成美堂

予習・復習のポイントと 予習

参考文献・資料等:

未知語を調べ、予習の問題をあらかじめ解答する。
解説ビデオを視聴し、大まかな内容を理解する。

授業

単語の小テストを行う
予習内容の確認を行う

復習

より踏み込んだ課題に取り組む

障がいのある履修者への対応: 相談の上可能な限り対応いたします。

授業時間外の連絡手段: 初回の授業時にお知らせいたします。

留意事項:

必ず予習を行っておくようにしてください。教材付属のビデオと解説ビデオを大いに参照してください。参照ビデオのリンクについては毎回UNIPAで提示します。

科目コード: 10058	科目ナンバリング:	主な使用言語: 英語と日本語
授業名(英文): 総合英語I i (General English I i)		
担当者: 森田 一洋		
基本情報		
年次: 1	単位数: 1	授業形式: 演習
曜時: 月曜4限	履修可能学科・専攻: Pe Pc C W F N M	
関連資格: 教職 保育	AL要素: 07: 発表、08: 協同学修、11: ディスカッション、17: 発問と回答	

授業の概要: 本授業では、日米文化の比較をテーマにした教科書を使って、英語4技能の伸展を図りながら、文化的文脈とコミュニケーションの関連性を学習する。そして、エッセイライティングやプレゼンテーション等の発展的な活動をとおして、英語で自分の考えを表現する力を養います。

キーワード: four skills (reading, listening, writing, and speaking), critical thinking, communication,

学位授与方針との関係

▼ **知識・技能**

到達目標: 教科書をとおして学んだ語彙、文法、表現法をはじめ学習内容を使って自分の意見をまとめた英文で表現できる。

評価方法: Review

評価割合: 40%

▼ **思考力・判断力・表現力**

到達目標: 教科書をとおして学んだ知識を使い、自分の考えを英語で文章にまとめ、それを口頭で発表できる。

評価方法: Presentation

評価割合: 35%

▼ **学修に主体的に取り組む態度**

毎回授業最後に学習した内容について振り返り、英語で30語以上の文章でまとめたReflection Sheetをとおして主体性を評価する。(15%)

教室外において課す、自律的な英語学習LISTENINGレポートに対する取り組みにおける主体性を評価する。(10%)

評価割合: 25%

▼ **実践的ボランティア**

直接的な評価対象とはしない。

評価割合: 0%

▼ **公正性**

直接的な評価対象とはしない。試験時の不正行為が許されないのはもちろんであり、不正行為については厳しい処分の対象となるので注意すること。また、「盗用」と判断された場合、当該作文、レポート及びスピーチ等の評価もゼロになるなどの処分を受けることになるので注意すること。

評価割合:0%

▼その他

特になし

評価割合:特になし

授業計画: 第1回 オリエンテーション
第2回 Unit 1 College Life
第3回 Unit 1 College Life
第4回 Unit 2 Family Life
第5回 Unit 2 Family Life
第6回 Unit 3 Food Culture
第7回 Unit 3 Food Culture
第8回 Review
第9回 Unit 4 Holidays
第10回 Unit 4 Holidays
第11回 Unit 5 Individualism
第12回 Unit 5 Individualism
第13回 Review
第14回 Presentation
第15回 Presentation

使用テキスト: Justin Charlebois Atushi Sakuma 著 Cultural Portraits: Japan and the US 金星堂

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 【予習】教科書を読み、付属の音声聞いて問題に答えておきましょう。わからない単語・表現とその発音は辞書を使って調べておくこと。また、ディスカッションなどで自分の考えを述べるのに必要な英語表現を調べておきましょう。

【復習】Reviewに備えて英単語・表現の意味、使い方を確認しましょう。

【その他】コース最後に実施する3分程度のPresentationに備え原稿やスライド等の準備をしてspeakingの練習もしましょう。

授業には英和・和英辞典(紙体でも電子版でも可)とパソコンまたはタブレットを持参してください。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください。

授業時間外の連絡手段: 初回の授業時にお知らせいたします。

留意事項: 必ず予習を行っておくようにしてください。
毎回の授業で使用しますので、辞書、パソコンまたはタブレットを持参して下さい。

科目コード:10058 科目ナンバリング: 主な使用言語:英語|日本語

授業名(英文): 総合英語I j (General English I j)

担当者: 所 佐知子

基本情報

年次:1

単位数:1

授業形式:演習

曜時:金曜4限

履修可能学科・専攻: Pe Pc C W F N M

関連資格: 教職 保育

AL要素: 08 共同学修

10 資料調査課題

13 役割演技と疑似体験

17初問と回答

授業の概要: 【特別期間中の授業形態】遠隔授業 オンデマンド型、同時双方型 併用

英語文法の基礎を再確認し、自分自身のこと、身の回りのことを簡単な英文構造で人に伝える自信を持てるようにペアワークやグループワークで演習を行います。

キーワード: The simple present vs. the present continuous / The comparative form of adjectives/ MY LIFE/ LET'S EAT/ Introducing a person to someone else and responding introductions

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標: 各unitのテーマとなる文法事項やフレーズをすらすらと口述、筆記することができる。
リスニングマテリアルの重要部分を聞き取り、大意を理解することができる。
リーディングマテリアルの概要(大意)を素早く捉えることができる。

評価方法: Unit 1 **評価割合: 60%**
Review
test=15% Unit 2&3
Review
test =25% Speaking
10% Presentation10 %

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標: 英文法や単語の間違いを恐れず、英語で発話し、コミュニケーションを積極的に図ることができる。

評価方法: 各Unitのスキット実演、プリント等の提出物 **評価割合: 40%**
から 40%

▼ 学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしません。ただし、英会話のロールプレイなど、ペアワーク/グループワーク等では積極的に練習する態度が求められます。練習の成果をユニットの課題として披露してもらうこともあるので、しっかり取り組みましょう。

評価割合: 0%

▼ 実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしません。

評価割合: 0%

▼ 公正性

直接的な評価対象とはしません。ただし、授業中の発言や筆記試験の記述等において人権侵害・差別発言など著しく公正性を欠く言動やカンニング等の不正行為があった場合は、減点や厳重注意の対象となるので注意してください。

評価割合: 0%

▼ その他

特にありません。

評価割合: 特にありません。

授業計画: 第1回 Orientation /Self-introduction / Unit1 Speaking: Introducing a person to someone else
and responding introduction
第2回 Unit 1 Speaking (Review) / Warm-up Video / Vocabulary
第3回 Listening : Conversation about people's relationships / Grammar: The simple present vs.
the present continuous/ Active English: Ask questions to get to know your classmates
第4回 Vocabulary/ Reading / Information Gap Activities (Text P211)
第5回 Listening /Grammar / Active English: Talk about past school experience

第6回 Unit 1 Review test / Unit 2 Warm-up Video / Vocabulary/ Listening:
Conversation
about regional dishes
第7回 Grammar :The comparative form of adjectives, The superlative form of adjectives/
Active
English : Make a radio ad for a new restaurant
第8回 Grammar: Adverb of manner / Active English : Create a restaurant menu and
compare
places to eat
第9回 Reading: The best food to eat / Listening: Talk about dinner times in different
cultures
第10回 Unit 3 Warm-up Video / Vocabulary/ Speaking: Saying something is likely or not
likely
第11回 Listening : Talk about making your own luck/ Grammar: Stative verbs
第12回 Grammar: Modals of present possibility / Reading: Mysterious Artwork
第13回 Listening: News report on changes in human behavior during a full moon/Active
English:
Identify and present possible theories and explanations for mysteries
第14回 Unit 2&3 Review test
第15回 Presentation

使用テキスト: テキスト:World Link, Fourth Edition <Level 2>
出版社NATIONAL GEOGRAPHIC LEARNING (販売元:Cengage Learning K.K)
ISBN:9780357502174 Student Book, Text Only

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: Teamsに音声及びVTRを掲示しておきます。毎週前もって提示される授業プランを見て予習をしておきましょう。予習課題はテキストに沿ったテーマで出されます。

復習も大切です。音声、VTR、スクリプト、プリント等をしっかり活用してわからなかったところを見直しましょう。文法事項はなるべくパワポでポイントを説明した資料を提示しますので、参考にしてください。学習した箇所の音読も行っていくきましょう。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡して下さい。

授業時間外の連絡手段: 授業の前後に対応します。また、メールでも随時受け付けます。(連絡先は第一回授業及びIC-UNIPA 掲示板で公表します。)

留意事項: スマートフォンの辞書を使うことを許可しますが、節度を持って使用してください。PCまたはスマートフォンを使うこともあります。(PCが必要な時は前もって連絡します。) 課題提出と授業資料提示はTeams または IC-UNIPAを使用します。

科目コード:10058 **科目ナンバリング:** **主な使用言語:英語、日本語**

授業名(英文): 総合英語I k(General English I k)

担当者: 黒澤 東

基本情報

年次:1

単位数:1

授業形式:演習

曜時:木曜2限

履修可能学科・専攻: Pe Pc C W F N M

関連資格:教職 保育

AL要素: 08 協同学習

授業の概要: 英語を機能的な面に着目して学習します。
具体的には

「対人性(どういう態度のメッセージなのか)」「写実性(何を指し示しているのか)」「組織性(どういう流れの会話なのか)」という3つの層で英語を捉え直します。実際の授業では、ビデオなどによるポイント学習、その後Speaking/Writingを中心とするアクティビティを行います。

キーワード: 英語、英語のリズム、英語のトーン、英語の機能

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標: 自分にしか言えないことを、誰にでも通じるように英語で表現できる。

評価方法: 授業内での提出物、期末試験 **評価割合:** 30%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: ある場面状況で「何を」言うべきか?をまとめ上げて表現することができる。

評価方法: 授業内での提出物、期末試験 **評価割合:** 30%

▼学修に主体的に取り組む態度

授業では、「例文」をもとにした英訳和訳はあまり扱いません。その反対に、ある場面状況で自分なら何を言うか?のような「意味」を生み出すことを要求します。授業で与えられた課題に対しての能動的な参加・関与が求められます。

評価割合: 30%

▼実践的ボランティア

自律的な英語学習者になる。

評価割合: 5%

▼公正性

グループワークにおいて協働して成果を出すことができる。

評価割合: 5%

▼その他

特になし。

評価割合: 特になし。

授業計画:

- 01 オリエンテーション
- 02 【対人性】英語のリズム
- 03 【対人性】英語と日本語のリズム
- 04 【対人性】英語の音(schwa)
- 05 【対人性】英語のトーンとその機能
- 06 【写実性】トーンと情報単位
- 07 【写実性】情報単位(CLAUSE)
- 08 【写実性】CLAUSEの構成
- 09 【写実性】CLAUSEの要素
- 10 【写実性】英語のCLAUSEと日本語の情報単位
- 11 【組織性】場面状況から意味を取り出す
- 12 【組織性】CLAUSEの情報構成
- 13 【組織性】GIVENとNEW
- 14 【組織性】英語の3層性
- 15 【まとめ】3層性で英語を理解する
期末テスト

使用テキスト: テキストは授業毎に配布します。

予習・復習のポイントと ・授業毎のアサインメント(英作文など)

参考文献・資料等: ・授業はSpeaking/Listening中心ですが、その中で触れられる表現や語彙などの復習

障がいのある履修者への対応：可能な限り対応します。

授業時間外の連絡手段：学務部に問い合わせてください。

留意事項：特になし。

科目コード：10058	科目ナンバリング：	主な使用言語：英語、日本語
授業名(英文)：総合英語I I (General English I I)		
担当者：藤咲 多恵子		
基本情報		
年次：1	単位数：1	授業形式：演習
曜時：火曜4限	履修可能学科・専攻：Pe Pc C W F N M	
関連資格：教職 保育	AL要素：07: 発表、08: 協同学修、11: ディスカッション、13: 役割演技と疑似体験、17: 質問と回答	

授業の概要： この授業では、日本の文化・慣習や異文化理解をテーマとした教科書を中心教材にして、英語での発信力を身に付けるためのトレーニングを行います。基礎として、語彙・表現を増やすための学習や、会話・文章の内容理解のための学習をします。そして、ディスカッションやプレゼンテーション等の発展的な活動も取り入れて、英語で自分の考えを表現する力を養います。

キーワード： Japanese lifestyle and culture, Intercultural communication, English communication skills

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 日本文化や異文化理解を題材にした英語の会話を聞いたり、文章を読んで概要が理解できる。様々な事象、文化、生活様式を伝えるために使われる英単語、表現の意味を理解し、発音できる。

評価方法： 小テスト、課題、学期末試験 **評価割合：** 60%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 教科書のトピックに関連した話題で英語でディスカッションができる。自分の考えを英語で文章にまとめたり、それを口頭で発表できる。

評価方法： 口頭発表、課題、学期末試験 **評価割合：** 40%

▼学修に主体的に取り組む態度

予習、授業内での活動、復習を通して、継続的な学習習慣を身につける。この項目に直接点数評価はしないが、授業内活動や課題への取り組み方、試験などから学びの成果を見る。

評価割合： 0%

▼実践的ボランティア

教科書による学習を基として、

- 1) 学生自らが文化、生活様式、コミュニケーション等について考え、それを英語で発信できること
- 2) 学生同士でその考えを聞いたり、読んだりして学び合うこと

を目指す。この項目に直接的な点数評価はしないが、課題、口頭発表、試験で取り組みの成果を見る。

評価割合： 0%

▼公正性

授業中や試験時の不正行為が許されないのはもちろんである。加えてデジタル機器の使用、著作物の利用なども公正に行う姿勢を身に付ける。不正行為については厳しい処分の対象となる。

評価割合： 0%

▼その他

特になし

評価割合：特になし

授業計画： 第1回 授業オリエンテーション, Introduction
第2回 Unit 1 (1) Getting to Know You (Vocabulary, Listening, Conversation)
第3回 Unit 1 (2) Getting to Know You (Speaking, Reading, Activities)
第4回 Unit 2 (1) My Hometown (Vocabulary, Listening, Conversation)
第5回 Unit 2 (2) My Hometown (Speaking, Reading, Activities)
第6回 Unit 3 (1) Japanese Food (Vocabulary, Listening, Conversation)
第7回 Unit 3 (2) Japanese Food (Speaking, Reading, Activities)
第8回 Unit 4 (1) The Traditional Japanese House (Vocabulary, Listening, Conversation)
第9回 Unit 4 (2) The Traditional Japanese House (Speaking, Reading, Activities)
第10回 Unit 5 (1) The Japanese Language (Vocabulary, Listening, Conversation)
第11回 Unit 5 (2) The Japanese Language (Speaking, Reading, Activities)
第12回 Unit 6 (1) Explaining Japanese Things (Vocabulary, Listening, Conversation)
第13回 Unit 6 (2) Explaining Japanese Things (Speaking, Reading, Activities)
第14回 Oral Presentation
第15回 Oral Presentation, Wrap-up and Reflection
定期試験

使用テキスト： Simon Capper 著、This is Japan, New Edition / Your Culture, Your life 英語で伝える日本の文化と生活、センテージラーニング、2021年

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： [予習] 教科書や資料を読み、問題に答えておきましょう。わからない単語・表現とその発音は辞書を使って調べておくこと。教科書付属のウェブサイトで音声聞いておきましょう。ディスカッション等で自分の考えを述べるのに必要な英語表現を調べておきましょう。(90分程度)
[復習] 文章の内容、英単語・表現を確認し、復習課題に取り組みましょう。(90分程度)
なお、口頭発表前には発表原稿やスライドの準備、speaking の練習が必要になります。授業には英和・和英辞典(紙のものでも電子版でも可)を持参してください。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください。

授業時間外の連絡手段： 初回授業でIC Mailアドレスを提示します。

留意事項： デバイスを必携とします。オンライン資料や学習管理システムを使った学習も行います。課題の提出や、教員からのフィードバック(評価、コメントなど)にも IC-UNIPAや学習管理システムを利用します。

科目コード：10058

科目ナンバリング：

主な使用言語：英語、日本語

授業名(英文)：総合英語I m (General English I m)

担当者：藤咲 多恵子

基本情報

年次：1

単位数：1

授業形式：演習

曜時：木曜3限

履修可能学科・専攻：Pe Pc C W F N M

関連資格：教職 保育

AL要素：07: 発表、08: 協同学修、11: ディスカッション、13: 役割演技と疑似体験、17: 質問と回答

授業の概要： この授業では、日本の文化・慣習や異文化理解をテーマとした教科書を中心教材にして、英語での発信力を身に付けるためのトレーニングを行います。基礎として、語彙・表現を増やすための学習や、会話・文章の内容理解のための学習をします。そして、ディスカッションやプレゼンテーション等の発展的な活動も取り入れて、英語で自分の考えを表現する力を養います。

キーワード: Japanese lifestyle and culture, Intercultural communication, English communication skills

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標: 日本文化や異文化理解を題材にした英語の会話を聞いたり、文章を読んで概要が理解できる。様々な事象、文化、生活様式を伝えるために使われる英単語、表現の意味を理解し、発音できる。

評価方法: 小テスト、課題、学期末試験

評価割合: 60%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標: 教科書のトピックに関連した話題で英語でディスカッションができる。自分の考えを英語で文章にまとめたり、それを口頭で発表できる。

評価方法: 口頭発表、課題、学期末試験

評価割合: 40%

▼ 学修に主体的に取り組む態度

予習、授業内での活動、復習を通して、継続的な学習習慣を身につける。この項目に直接点数評価はしないが、授業内活動や課題への取り組み方、試験などから学びの成果を見る。

評価割合: 0%

▼ 実践的ボランティア

教科書による学習を基として、

- 1) 学生自らが文化、生活様式、コミュニケーション等について考え、それを英語で発信できること
- 2) 学生同士でその考えを聞いたり、読んだりして学び合うこと

を目指す。この項目に直接的な点数評価はしないが、課題、口頭発表、試験で取り組みの成果を見る。

評価割合: 0%

▼ 公正性

授業中や試験時の不正行為が許されないのはもちろんである。加えてデジタル機器の使用、著作物の利用なども公正に行う姿勢を身に付ける。不正行為については厳しい処分の対象となる。

評価割合: 0%

▼ その他

特になし

評価割合: 特になし

授業計画:

- 第1回 授業オリエンテーション, Introduction
- 第2回 Unit 1 (1) Getting to Know You (Vocabulary, Listening, Conversation)
- 第3回 Unit 1 (2) Getting to Know You (Speaking, Reading, Activities)
- 第4回 Unit 2 (1) My Hometown (Vocabulary, Listening, Conversation)
- 第5回 Unit 2 (2) My Hometown (Speaking, Reading, Activities)
- 第6回 Unit 3 (1) Japanese Food (Vocabulary, Listening, Conversation)
- 第7回 Unit 3 (2) Japanese Food (Speaking, Reading, Activities)
- 第8回 Unit 4 (1) The Traditional Japanese House (Vocabulary, Listening, Conversation)
- 第9回 Unit 4 (2) The Traditional Japanese House (Speaking, Reading, Activities)
- 第10回 Unit 5 (1) The Japanese Language (Vocabulary, Listening, Conversation)
- 第11回 Unit 5 (2) The Japanese Language (Speaking, Reading, Activities)
- 第12回 Unit 6 (1) Explaining Japanese Things (Vocabulary, Listening, Conversation)
- 第13回 Unit 6 (2) Explaining Japanese Things (Speaking, Reading, Activities)
- 第14回 Oral Presentation
- 第15回 Oral Presentation, Wrap-up and Reflection

定期試験

使用テキスト: Simon Capper 著、This is Japan, New Edition / Your Culture, Your life 英語で伝える日本の文化と生活、センゲージラーニング、2021年

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： [予習] 教科書や資料を読み、問題に答えておきましょう。わからない単語・表現とその発音は辞書を使って調べておくこと。教科書付属のウェブサイトで音声聞いておきましょう。ディスカッション等で自分の考えを述べるのに必要な英語表現を調べておきましょう。(90分程度)
[復習] 文章の内容、英単語・表現を確認し、復習課題に取り組みましょう。(90分程度)
なお、口頭発表前には発表原稿やスライドの準備、speaking の練習が必要になります。授業には英和・和英辞典(紙のものでも電子版でも可)を持参してください。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください。

授業時間外の連絡手段： 初回授業でIC Mailアドレスを提示します。

留意事項： デバイスを必携とします。オンライン資料や学習管理システムを使った学習も行います。課題の提出や、教員からのフィードバック(評価、コメントなど)にも IC-UNIPAや学習管理システムを利用します。

科目コード： 10058	科目ナンバリング：	主な使用言語： 英語、日本語
授業名(英文)： 総合英語I n (General English I n)		
担当者： 藤咲 多恵子		
基本情報		
年次： 1	単位数： 1	授業形式： 演習
曜時： 木曜4限	履修可能学科・専攻： Pe Pc C W F N M	
関連資格： 教職 保育	AL要素： 07: 発表、08: 協同学修、11: ディスカッション、13: 役割演技と疑似体験、17: 質問と回答	

授業の概要： この授業では、日本の文化・慣習や異文化理解をテーマとした教科書を中心教材にして、英語での発信力を身に付けるためのトレーニングを行います。基礎として、語彙・表現を増やすための学習や、会話・文章の内容理解のための学習をします。そして、ディスカッションやプレゼンテーション等の発展的な活動も取り入れて、英語で自分の考えを表現する力を養います。

キーワード： Japanese lifestyle and culture, Intercultural communication, English communication skills

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 日本文化や異文化理解を題材にした英語の会話を聞いたり、文章を読んで概要が理解できる。様々な事象、文化、生活様式を伝えるために使われる英単語、表現の意味を理解し、発音できる。

評価方法： 小テスト、課題、学期末試験 **評価割合：**60%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 教科書のトピックに関連した話題で英語でディスカッションができる。自分の考えを英語で文章にまとめたり、それを口頭で発表できる。

評価方法： 口頭発表、課題、学期末試験 **評価割合：**40%

▼学修に主体的に取り組む態度

予習、授業内での活動、復習を通して、継続的な学習習慣を身につける。この項目に直接点数評価はしないが、授業内活動や課題への取り組み方、試験などから学びの成果を見る。

評価割合：0%

▼実践的ボランティア

教科書による学習を基として、

1) 学生自らが文化、生活様式、コミュニケーション等について考え、それを英語で発信できること

2) 学生同士でその考えを聞いたり、読んだりして学び合うことを目指す。この項目に直接的な点数評価はしないが、課題、口頭発表、試験で取り組みの成果を見る。

評価割合：0%

▼公正性

授業中や試験時の不正行為が許されないのはもちろんである。加えてデジタル機器の使用、著作物の利用なども公正に行う姿勢を身に付ける。不正行為については厳しい処分の対象となる。

評価割合：0%

▼その他

特になし

評価割合：特になし

授業計画： 第1回 授業オリエンテーション, Introduction
第2回 Unit 1 (1) Getting to Know You (Vocabulary, Listening, Conversation)
第3回 Unit 1 (2) Getting to Know You (Speaking, Reading, Activities)
第4回 Unit 2 (1) My Hometown (Vocabulary, Listening, Conversation)
第5回 Unit 2 (2) My Hometown (Speaking, Reading, Activities)
第6回 Unit 3 (1) Japanese Food (Vocabulary, Listening, Conversation)
第7回 Unit 3 (2) Japanese Food (Speaking, Reading, Activities)
第8回 Unit 4 (1) The Traditional Japanese House (Vocabulary, Listening, Conversation)
第9回 Unit 4 (2) The Traditional Japanese House (Speaking, Reading, Activities)
第10回 Unit 5 (1) The Japanese Language (Vocabulary, Listening, Conversation)
第11回 Unit 5 (2) The Japanese Language (Speaking, Reading, Activities)
第12回 Unit 6 (1) Explaining Japanese Things (Vocabulary, Listening, Conversation)
第13回 Unit 6 (2) Explaining Japanese Things (Speaking, Reading, Activities)
第14回 Oral Presentation
第15回 Oral Presentation, Wrap-up and Reflection
定期試験

使用テキスト： Simon Capper 著、This is Japan, New Edition / Your Culture, Your life 英語で伝える日本の文化と生活、センテージラーニング、2021年

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： [予習] 教科書や資料を読み、問題に答えておきましょう。わからない単語・表現とその発音は辞書を使って調べておくこと。教科書付属のウェブサイトで音声を聞いておきましょう。ディスカッション等で自分の考えを述べるのに必要な英語表現を調べておきましょう。(90分程度)
[復習] 文章の内容、英単語・表現を確認し、復習課題に取り組みましょう。(90分程度)
なお、口頭発表前には発表原稿やスライドの準備、speaking の練習が必要になります。授業には英和・和英辞典(紙のものでも電子版でも可)を持参してください。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください。

授業時間外の連絡手段： 初回授業でIC Mailアドレスを提示します。

留意事項： デバイスを必携とします。オンライン資料や学習管理システムを使った学習も行います。課題の提出や、教員からのフィードバック(評価、コメントなど)にも IC-UNIPAや学習管理システムを利用します。

科目コード：10058

科目ナンバリング：

主な使用言語：

授業名(英文)： 総合英語I(認定用)(General English I)

担当者： 教務委員会

基本情報

年次：1

単位数：1

授業形式：演習

曜時：集中講義

履修可能学科・専攻： Pe Pc C W F N M

関連資格：教職 保育

AL要素：

授業の概要：

キーワード：

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標：

評価方法：

評価割合：

▼思考力・判断力・表現力

到達目標：

評価方法：

評価割合：

▼学修に主体的に取り組む態度

評価割合：

▼実践的ボランティア

評価割合：

▼公正性

評価割合：

▼その他

評価割合：

授業計画：

使用テキスト：

予習・復習のポイントと
参考文献・資料等：

障がいのある
履修者への対応：

授業時間外の連絡手段：

留意事項：

科目コード：10059

科目ナンバリング：

主な使用言語：日本語・英語

授業名(英文)：総合英語II a (General English II a)

担当者：三上 司

基本情報

年次：1

単位数：1

授業形式：演習

曜時：火曜4限

履修可能学科・専攻：Pe Pc C W F N M

関連資格：教職 保育

AL要素：03,05,17

授業の概要：英語の基礎学力養成を目標とします。特に読み・書きに重点が置かれます。

キーワード：リーディング、ライティング、リスニング、内容理解、語彙、重要語句、重要構文

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標：授業で説明された英語の知識に基づいて、英文を正しく理解することができる。

評価方法：授業への参加、テスト

評価割合：50%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標：英語の既知の知識に加えて、授業で獲得した新知識に基づいて英文を正しく分析できる。

評価方法：授業への参加、テスト

評価割合：50%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。

評価割合：0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。

評価割合：0%

▼その他

特になし。

評価割合：特になし。

- 授業計画： (01) 序論
(02) リーディング(1)、語彙・内容理解問題
(03) リーディング(2)、語彙・内容理解問題
(04) リーディング(3)、語彙・内容理解問題
(05) 小テスト
(06) リーディング(4)、語彙・内容理解問題
(07) リーディング(5)、語彙・内容理解問題
(08) リーディング(6)、語彙・内容理解問題
(09) リーディング(7)、語彙・内容理解問題
(10) 小テスト
(11) リーディング(8)、語彙・内容理解問題
(12) リーディング(9)、語彙・内容理解問題
(13) リーディング(10)、語彙・内容理解問題
(14) リーディング(11)、語彙・内容理解問題
(15) 小テスト

使用テキスト：開講時に指定します。

予習・復習のポイントと参考書等は、授業内で指示します。
参考文献・資料等：

障がいのある履修者への対応：可能な限り対応します。

授業時間外の連絡手段：最初の授業で提示します。

留意事項：特になし。

科目コード：10059

科目ナンバリング：

主な使用言語：英語、日本語

授業名(英文)：総合英語II b(General English II b)

担当者：藤咲 多恵子

基本情報

年次：1

単位数：1

授業形式：演習

曜時：火曜3限

履修可能学科・専攻：Pe Pc C W F N M

関連資格：教職 保育

AL要素：07: 発表、08: 協同学修、11: ディスカッション、13: 役割演技と疑似体

授業の概要: この授業では、日本の文化・慣習や異文化理解をテーマとした教科書を中心教材として使用し、英語での発信力を一層高めるためのトレーニングをします。基礎として、語彙・表現を増やすための学習や、会話・文章の内容理解のための学習をします。そして、ディスカッションやプレゼンテーション等の発展的な活動も取り入れて、英語で自分の考えを表現する力を養います。

キーワード: Japanese lifestyle and culture, Intercultural communication, English communication skills

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標: 日本文化や異文化理解を題材にした英語の会話を聞いたり、文章を読んで概要が理解できる。様々な事象、文化、生活様式を伝えるために使われる英単語、表現の意味を理解し、発音できる。

評価方法: 小テスト、課題、学期末試験 **評価割合:** 60%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標: 教科書のトピックに関連した話題で英語でディスカッションができる。自分の考えを英語で文章にまとめたり、それを口頭で発表できる。

評価方法: 口頭発表、
課題、学期末試験 **評価割合:** 40%

▼ 学修に主体的に取り組む態度

予習、授業内活動、復習を通して、継続的な学習習慣を身につける。この項目に直接的な評価はしないが、学期末試験、課題や口頭発表の内容で学びの成果を見る。

評価割合: 0%

▼ 実践的ボランティア

教科書による学習を基として、

- 1) 学生自らが文化、生活様式、コミュニケーション等について考え、それを英語で発信できること
- 2) 学生同士でその考えを聞いたり、読んだりして学び合うこと

を目指す。この項目に直接的な点数評価はしないが、課題、口頭発表、試験で取り組みの成果を見る。

評価割合: 0%

▼ 公正性

授業中や試験時の不正行為が許されないのはもちろんである。加えてデジタル機器の使用、著作物の利用なども公正に行う姿勢を身に付ける。不正行為については厳しい処分の対象となるので注意すること。

評価割合: 0%

▼ その他

特になし

評価割合: 特になし

授業計画: 第1回 授業オリエンテーション
第2回 Unit 7 Good Manners, Bad Manners (1) (Vocabulary, Listening, Conversation)
第3回 Unit 7 Good Manners, Bad Manners (2) (Speaking, Reading, Activities)
第4回 Unit 8 Special Days and Events (1) (Vocabulary, Listening, Conversation)
第5回 Unit 8 Special Days and Events (2) (Speaking, Reading, Activities)
第6回 Unit 9 School and University Life (1) (Vocabulary, Listening, Conversation)
第7回 Unit 9 School and University Life (2) (Speaking, Reading, Activities)
第8回 Unit 10 Famous Japanese People and Movies (1) (Vocabulary, Listening, Conversation)
第9回 Unit 10 Famous Japanese People and Movies (2) (Speaking, Reading, Activities)
第10回 Unit 11 Visiting Temples and Shrines (1) (Vocabulary, Listening, Conversation)

- 第11回 Unit 11 Visiting Temples and Shrines (2) (Speaking, Reading, Activities)
- 第12回 Unit 12 Invisible Culture (1) (Vocabulary, Listening, Conversation)
- 第13回 Unit 12 Invisible Culture (2) (Speaking, Reading, Activities)
- 第14回 Oral Presentation
- 第15回 Oral Presentation, Wrap-up and Reflection
- 定期試験

使用テキスト: Simon Capper著、This Is Japan, New Edition / Your Culture, Your Life 英語で伝える日本の文化と生活、センゲージラーニング、2021年

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: [予習] 教科書や資料を読み、問題に答えておきましょう。わからない単語・表現とその発音は辞書を使って調べておくこと。教科書付属のウェブサイトで音声聞いておきましょう。また、ディスカッション等で自分の考えを述べるのに必要な英語表現を調べておきましょう。(90分程度)
[復習] 文章の内容、英単語・表現を確認し、復習課題に取り組みましょう。(90分程度)
なお、口頭発表前には発表原稿やスライドの準備、speaking の練習が必要になります。授業には英和・和英辞典(紙のものでも電子版でも可)を持参してください。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください。

授業時間外の連絡手段: 初回授業でIC Mailアドレスを提示します。

留意事項: デバイスを必携とします。オンライン資料や学習管理システムを使った学習も行います。課題の提出や、教員からのフィードバック(評価、コメントなど)にも IC-UNIPAや学習管理システムを利用します。

科目コード: 10059 **科目ナンバリング:** **主な使用言語:** 日本語

授業名(英文): 総合英語II c (General English II c)

担当者: 井上 まゆみ

基本情報

年次: 1

単位数: 1

授業形式: 演習

曜時: 火曜3限

履修可能学科・専攻: Pe Pc C W F N M

関連資格: 教職 保育

AL要素: 17. 発問と回答

授業の概要: テクノロジー、SNS、友人といった身近なテーマについての4技能によるアクティビティを通して、そこで使われている表現や文法事項を学びます。また各課で学習した表現や文法を使ってテーマにそった身近な話題について自分の意見を書く力を養います。

キーワード: A variety of familiar topics and a wide range of activities

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標: 教科書の内容を理解でき、関連する重要構文と単語を使って英文を80パーセント組み立てることができる

評価方法: 定期試験

評価割合: 50%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標: 教科書で学習した表現を使って身近な話題について50words程度の英文を書くことができる。

評価方法: 定期試験

評価割合: 30%

▼ 学修に主体的に取り組む態度

e-Learning課題を期日までに行う。

評価割合: 20%

▼ 実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。

評価割合：0%

▼その他

特になし

評価割合：特になし

授業計画： 第1回 オリエンテーション
第2回 Unit 7 Technology in Daily Life
第3回 Unit 7 Technology in Daily Life
第4回 Unit 8 Social Network
第5回 Unit 8 Social Network
第6回 Unit 9 Looking on the Bright Side
第7回 Unit 9 Looking on the Bright Side
第8回 Review
第9回 Unit 10 Love Affairs
第10回 Unit 10 Love Affairs
第11回 Unit 11 Storytelling
第12回 Unit 11 Storytelling
第13回 Unit 12 The Power of Words
第14回 Unit 12 The Power of Words
第15回 Review
定期試験

使用テキスト： Teruhiko Kadoyama, Live ABC editors. "Live Escalate Book 2:Trekking" (Seibido, 2021年)

予習・復習のポイントと 教科書付属のWeb動画を事前に視聴し、語彙を調べてくること(60分)。
参考文献・資料等： 教科書に連動したe-Learningを使って学習した内容を復習してくること(90分)。

障がいのある 可能な限り対応します
履修者への対応：

授業時間外の連絡手段： 初回の授業でお知らせします。

留意事項： なし

科目コード：10059 科目ナンバリング： 主な使用言語：英語|日本語

授業名(英文)： 総合英語II d (General English II d)

担当者： 所 佐知子

基本情報

年次：1

単位数：1

授業形式：演習

曜時：水曜1限

履修可能学科・専攻： Pe Pc C W F N M

関連資格：教職 保育

AL要素：08 共同学修

10 資料調査課題

13 役割演技と疑似体験

17初問と回答

授業の概要：【授業形態ガイドライン・レベルIII、レベルII】遠隔授業(同時双方向型)

テキストの各ユニットで取り上げられている基礎的な英文法を中心に展開します。ダイアログ、問いかけ、自分の意見を簡単な英語で話すこと等を、ペアやグループで練習していきます

す。また、リスニングやリーディングマテリアルを通して異文化に対する考察も行います。

キーワード: The past continuous/ The present perfect/ Asking for permission/ Used to/ Conversation about writing a story with crowdsourcing/ Talks about different jobs / Phone call and video call conversations / Lecture about bad technology predictions

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標: 各unitのテーマとなる文法事項やフレーズをすらすらと口述、筆記することができる。
リスニングマテリアルの重要部分を聞き取り、大意を理解することができる。
リーディングマテリアルの概要(大意)を素早く捉えることができる。

評価方法: Unit 8 **評価割合: 60%**
Review
test=15% Unit 9&12
Review
test =25% Speaking
10% Presentation10 %

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標: 授業中に学習した文法やフレーズを使い、衣食住に関する質問を含む基礎的な英語の会話を交わすことができる。

評価方法: 各Unitのスキット実演、プリント等の提出物 **評価割合: 40%**
から 40%

▼ 学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしません。ただし、英会話のロールプレイなど、ペアワーク/グループワーク等では積極的に練習する態度が求められます。練習の成果をユニットの課題として披露してもらうこともあるので、しっかり取り組みましょう。

評価割合: 0%

▼ 実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしません。

評価割合: 0%

▼ 公正性

直接的な評価対象とはしません。ただし、授業中の発言や筆記試験の記述等において人権侵害・差別発言など著しく公正性を欠く言動やカンニング等の不正行為があった場合は、減点や厳重注意の対象となるので注意してください。

評価割合: 0%

▼ その他

特にありません。

評価割合: 特にありません。

授業計画: 第1回 Orientation /Unit 8 Warm-up Video: Snack Attack
第2回 Vocabulary/ Listening / Reading: Conversation about writing a story with crowdsourcing
第3回 Grammar: The past continuous statements and questions, Adverbs of manner / Speaking
第4回 Speaking / Global Voices: How to tell an impactful story/ Active English: Tell stories with classmates and guess if they are true
第5回 Listening :Story about thunder and lightning /Active English :Information gap activities(text P211)

第6回 Unit 8 Review test / Speaking test(Reading aloud) start
 第7回 Unit 9 Warm-up Video / Vocabulary/ Listening : Talks about different jobs ,Interview with
 a storyboard artist
 第8回 Global voices: Corey Arnold: Two different Jobs, Two Passions/ Grammar: The present
 perfect Speaking: Interviewing for a job
 第9回 Active English: Discuss job requirements and role-play a job interview, Read a job ad and
 choose the best email response
 第10回 Unit 12 Warm-up Video: The airport that never sleeps/ Vocabulary/Listening:
 Conversation about an upcoming trip
 第11回 Global voices: Travel experiences / Modal verbs of necessity/Speaking: Saying you've
 forgotten something
 第12回 Grammar: question from review/ Reading: Going Solo is the way to go!
 第13回 Active English: Discuss customer satisfaction survey
 第14回 Presentation
 第15回 Unit 9&12 Review test

使用テキスト: World Link, Fourth Edition <Level 2>
 出版社NATIONAL GEOGRAPHIC LEARNING (販売元:Cengage Learning K.K)
 ISBN:9780357502174 Student Book, Text Only

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: Teamsに音声及びVTRを掲示しておきます。毎週前もって提示される授業プランを見て予習をしておきましょう。予習課題はテキストに沿ったテーマで出されます。

復習も大切です。音声、VTR、スクリプト、プリント等をしっかり活用してわからなかったところを見直しましょう。文法事項はなるべくパワーポでポイントを説明した資料を提示しますので、参考にしてください。学習した箇所の音読も行っていきましょう

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡して下さい。

授業時間外の連絡手段: 授業の前後に対応します。また、メールでも随時受け付けます。(連絡先は第一回授業及びIC-UNIPA 掲示板で公表します。)

留意事項: スマートフォンの辞書を使うことを許可しますが、節度を持って使用してください。PCまたはスマートフォンを使うこともあります。(PCが必要な時は前もって連絡します。) 課題提出と授業資料提示はTeams または IC-UNIPAを使用します。

科目コード: 10059 **科目ナンバリング:** **主な使用言語:** 英語|日本語

授業名(英文): 総合英語II e (General English II e)

担当者: 所 佐知子

基本情報

年次: 1

単位数: 1

授業形式: 演習

曜時: 水曜2限

履修可能学科・専攻: Pe Pc C W F N M

関連資格: 教職 保育

AL要素: 08 共同学修

10 資料調査課題

13 役割演技と疑似体験

授業の概要: 【授業形態ガイドライン・レベルIII、レベルII】遠隔授業(同時双方向型)

テキストの各ユニットで取り上げられている基礎的な英文法を中心に展開します。ダイアログ、問いかけ、自分の意見を簡単な英語で話すこと等を、ペアやグループで練習していきます。また、リスニングやリーディングマテリアルを通して異文化に対する考察も行います。

キーワード: The past continuous/ The present perfect/ Asking for permission/ Used to/ Conversation about writing a story with crowdsourcing/ Talks about different jobs / Phone call and video call conversations / Lecture about bad technology predictions

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標: 各unitのテーマとなる文法事項やフレーズをすらすらと口述、筆記することができる。
リスニングマテリアルの重要部分を聞き取り、大意を理解することができる。
リーディングマテリアルの概要(大意)を素早く捉えることができる。

評価方法: Unit 8 **評価割合: 60%**
Review
test=15% Unit 9&12
Review
test =25% Speaking
10% Presentation10 %

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標: 授業中に学習した文法やフレーズを使い、衣食住に関する質問を含む基礎的な英語の会話を交わすことができる。

評価方法: 各Unitのスキット実演、プリント等の提出物 **評価割合: 40%**
から 40%

▼ 学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしません。ただし、英会話のロールプレイなど、ペアワーク/グループワーク等では積極的に練習する態度が求められます。練習の成果をユニットの課題として披露してもらうこともあるので、しっかり取り組みましょう。

評価割合: 0%

▼ 実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしません。

評価割合: 0%

▼ 公正性

直接的な評価対象とはしません。ただし、授業中の発言や筆記試験の記述等において人権侵害・差別発言など著しく公正性を欠く言動やカンニング等の不正行為があった場合は、減点や厳重注意の対象となるので注意してください。

評価割合: 0%

▼ その他

特にありません。

評価割合: 特にありません。

授業計画: 第1回 Orientation /Unit 8 Warm-up Video: Snack Attack
第2回 Vocabulary/ Listening / Reading: Conversation about writing a story with crowdsourcing
第3回 Grammar: The past continuous statements and questions, Adverbs of manner / Speaking

第4回 Speaking / Global Voices: How to tell an impactful story/ Active English: Tell stories with classmates and guess if they are true
 第5回 Listening :Story about thunder and lightning /Active English :Information gap activities(text P211)
 第6回 Unit 8 Review test / Speaking test(Reading aloud) start
 第7回 Unit 9 Warm-up Video / Vocabulary/ Listening : Talks about different jobs ,Interview with a storyboard artist
 第8回Global voices: Corey Arnold: Two different Jobs, Two Passions/ Grammar: The present perfect Speaking: Interviewing for a job
 第9回 Active English: Discuss job requirements and role-play a job interview, Read a job ad and choose the best email response
 第10回 Unit 12 Warm-up Video: The airport that never sleeps/ Vocabulary/Listening: Conversation about an upcoming trip
 第11回 Global voices: Travel experiences / Modal verbs of necessity/Speaking: Saying you've forgotten something
 第12回 Grammar: question from review/ Reading: Going Solo is the way to go!
 第13回 Active English: Discuss customer satisfaction survey
 第14回 Presentation
 第15回 Unit 9&12 Review test

使用テキスト: World Link, Fourth Edition <Level 2>
 出版社NATIONAL GEOGRAPHIC LEARNING (販売元:Cengage Learning K.K)
 ISBN:9780357502174 Student Book, Text Only

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: Teamsに音声及びVTRを掲示しておきます。毎週前もって提示される授業プランを見て予習をしておきましょう。予習課題はテキストに沿ったテーマで出されます。

復習も大切です。音声、VTR、スクリプト、プリント等をしっかり活用してわからなかったところを見直しましょう。文法事項はなるべくパワーポでポイントを説明した資料を提示しますので、参考にしてください。学習した箇所の音読も行っていきましょう

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡して下さい。

授業時間外の連絡手段: 授業の前後に対応します。また、メールでも随時受け付けます。(連絡先は第一回授業及びIC-UNIPA 掲示板で公表します。)

留意事項: スマートフォンの辞書を使うことを許可しますが、節度を持って使用してください。PCまたはスマートフォンを使うこともあります。(PCが必要な時は前もって連絡します。)
 課題提出と授業資料提示はTeams または IC-UNIPAを使用します。

科目コード:10059 科目ナンバリング: 主な使用言語:英語と日本語

授業名(英文): 総合英語II f(General English II f)

担当者: 小野 雄一

基本情報

年次:1

単位数:1

授業形式:演習

曜時:月曜1限

履修可能学科・専攻: Pe Pc C W F N M

関連資格:教職 保育

AL要素:発表と討論

授業の概要: 本授業では、海外のメディアが扱う英語のニュースを素材に、グローバル化した社会を背景に起こっている様々な事例を理解し、学習者の批判的思考を養い、自分の意見を述べ、聴

解能力を高めることを目標とする。

キーワード： ニュース教材、世界的視点、討論、発信能力

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標： グローバル化に関する英語のニュースを理解できるようになる。

評価方法： テストや小テストで評価する。 **評価割合：40%**

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標： 授業で暑かった内容に基づいて批判的検討を加え、自分の考えを英語で発信することができるようになる。

評価方法： テストで評価する。 **評価割合：30%**

▼ 学修に主体的に取り組む態度

授業の中での討論の参加度や授業中に課すレポートに対する取り組みにおける主体性を評価する。

評価割合：30%

▼ 実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。

評価割合：0%

▼ 公正性

直接的な評価対象とはしない。試験中の不正行為や欠席超過については単位が認定されない。

評価割合：0%

▼ その他

特になし。

評価割合：特になし。

授業計画： 第1回 Lesson 7(1)
第2回 Lesson 7(2)
第3回 Lesson 8(1)
第4回 Lesson 8(2)
第5回 Lesson 9(1)
第6回 Lesson 9(2)
第7回 Lesson 10(1)
第8回 Lesson 10(2)
第9回 Lesson 11(1)
第10回 Lesson 11(2)
第11回 Lesson 12(1)
第12回 Lesson 12(2)
第13回 Presentation (3)
第14回 Presentation (4)
第15回 Presentation (5)
定期試験

使用テキスト： AFP World News Report 4 成美堂

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 予習 未知語を調べ、予習の問題をあらかじめ解答する。
解説ビデオを視聴し、大まかな内容を理解する。
授業 単語の小テストを行う
予習内容の確認を行う
復習 より踏み込んだ課題に取り組む

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応いたします。

授業時間外の連絡手段: 初回の授業時にお知らせいたします。

留意事項: 必ず予習を行っておくようにしてください。DVDを見て、解説ビデオを大いに参照してください。参照ビデオのリンクについては毎回UNIPAで提示します。

科目コード: 10059 **科目ナンバリング:** **主な使用言語:** 英語と日本語

授業名(英文): 総合英語II g (General English II g)

担当者: 小野 雄一

基本情報

年次: 1

単位数: 1

授業形式: 演習

曜時: 月曜2限

履修可能学科・専攻: Pe Pc C W F N M

関連資格: 教職 保育

AL要素: 発表と討論

授業の概要: 本授業では、海外のメディアが扱う英語のニュースを素材に、グローバル化した社会を背景に起こっている様々な事例(SDGs)をめぐるテーマを理解し、学習者の批判的思考を養い、自分の意見を述べ、聴解能力を高めることを目標とする。

キーワード: ニュース教材、SDGs、世界的視点、討論、発信能力

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標: グローバル化に関する英語のニュースを理解できるようになる。

評価方法: テストや小テストで評価する。

評価割合: 40%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 授業で扱った内容に基づいて批判的検討を加え、自分の考えを英語で発信することができるようになる。

評価方法: テストで評価する。

評価割合: 30%

▼学修に主体的に取り組む態度

授業の中での討論の参加度や授業中に課すレポートに対する取り組みにおける主体性を評価する。

評価割合: 30%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。

評価割合: 0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。試験中の不正行為や欠席超過については単位が認定されない。

評価割合: 0%

▼その他

特になし。

評価割合: 特になし。

授業計画: 第1回 Lesson 7(1)
第2回 Lesson 7(2)
第3回 Lesson 8(1)
第4回 Lesson 8(2)
第5回 Lesson 9(1)
第6回 Lesson 9(2)
第7回 Lesson 10(1)
第8回 Lesson 10(2)

第9回 Lesson 11(1)
第10回 Lesson 11(2)
第11回 Lesson 12(1)
第12回 Lesson 12(2)
第13回 Presentation (3)
第14回 Presentation (4)
第15回 Presentation (5)
定期試験

使用テキスト: AFP World News Report 5: Aciieving the Sustainable Development Goals (SDGs) 成美堂

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 予習 未知語を調べ、予習の問題をあらかじめ解答する。
解説ビデオを視聴し、大まかな内容を理解する。
授業 単語の小テストを行う
予習内容の確認を行う
復習 より踏み込んだ課題に取り組む

障がいのある履修者への対応: 相談の上可能な限り対応いたします。

授業時間外の連絡手段: 初回の授業時にお知らせいたします。

留意事項:

必ず予習を行っておくようにしてください。教材付属のビデオと解説ビデオを大いに参照してください。参照ビデオのリンクについては毎回UNIPAで提示します。

科目コード: 10059 **科目ナンバリング:** **主な使用言語:** 英語と日本語

授業名(英文): 総合英語II h (General English II h)

担当者: 小野 雄一

基本情報

年次: 1

単位数: 1

授業形式: 演習

曜時: 月曜3限

履修可能学科・専攻: Pe Pc C W F N M

関連資格: 教職 保育

AL要素: 発表と討論

授業の概要: 本授業では、海外のメディアが扱う英語のニュースを素材に、グローバル化した社会を背景に起こっている様々な事例を理解し、学習者の批判的思考を養い、自分の意見を述べ、聴解能力を高めることを目標とする。

キーワード: ニュース教材、世界的視点、討論、発信能力

学位授与方針との関係

▼ **知識・技能**

到達目標: グローバル化に関する英語のニュースを理解て切るようになる。

評価方法: テストや小テストで評価する。 **評価割合:** 40%

▼ **思考力・判断力・表現力**

到達目標: 授業で暑かった内容に基づいて批判的検討を加え、自分の考えを英語で発信することができるようになる。

評価方法: テストで評価する。 **評価割合:** 30%

▼ **学修に主体的に取り組む態度**

授業の中での討論の参加度や授業中に課すレポートに対する取り組みにおける主体性を評価する。

評価割合: 30%

▼ **実践的ボランティア**

直接な評価対象とはしない。

評価割合：0%

▼公正性

直接な評価対象とはしない。試験中の不正行為や欠席超過については単位が認定されない。

評価割合：0%

▼その他

特になし。

評価割合：特になし。

授業計画： 第1回 Lesson 7(1)
第2回 Lesson 7(2)
第3回 Lesson 8(1)
第4回 Lesson 8(2)
第5回 Lesson 9(1)
第6回 Lesson 9(2)
第7回 Lesson 10(1)
第8回 Lesson 10(2)
第9回 Lesson 11(1)
第10回 Lesson 11(2)
第11回 Lesson 12(1)
第12回 Lesson 12(2)
第13回 Presentation (3)
第14回 Presentation (4)
第15回 Presentation (5)
定期試験

使用テキスト： AFP World News Report 4 成美堂

予習・復習のポイントと
参考文献・資料等： 予習 未知語を調べ、予習の問題をあらかじめ解答する。
解説ビデオを視聴し、大まかな内容を理解する。
授業 単語の小テストを行う
予習内容の確認を行う
復習 より踏み込んだ課題に取り組む

障がいのある
履修者への対応： 可能な限り対応いたします。

授業時間外の連絡手段： 初回の授業時にお知らせいたします。

留意事項： 必ず予習を行っておくようにしてください。DVDを見て、解説ビデオを大いに参照してください。
参照ビデオのリンクについては毎回UNIPAで提示します。

科目コード：10059	科目ナンバリング：	主な使用言語：英語と日本語
授業名(英文)：総合英語II i (General English II i)		
担当者：森田 一洋		
基本情報		
年次：1	単位数：1	授業形式：演習
曜時：月曜4限	履修可能学科・専攻：Pe Pc C W F N M	
関連資格：教職 保育	AL要素：07: 発表、08: 協同学修、11: ディスカッション、17: 発問と回答	

授業の概要： 本授業では、日米文化の比較をテーマにした教科書を使って、英語4技能の伸展を図りながら、文化的文脈とコミュニケーションの関連性を学習する。そして、エッセイライティングやプレゼンテーション等の発展的な活動をとおして、英語で自分の考えを表現する力を養いま

す。

キーワード: four skills (reading, listening, writing, and speaking), critical thinking, communication,

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標: 教科書をとおして学んだ語彙、文法、表現法をはじめ学習内容を使って自分の意見をまとめた英文で表現できる。

評価方法: Review

評価割合: 40%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標: 教科書をとおして学んだ知識を使い、自分の考えを英語で文章にまとめ、それを口頭で発表できる。

評価方法: Review

評価割合: 35%

▼ 学修に主体的に取り組む態度

毎回授業最後に学習した内容について振り返り、英語で30語以上の文章でまとめたReflection Sheetをとおして主体性を評価する。(15%)

教室外において課す、自律的な英語学習LISTENINGレポートに対する取り組みにおける主体性を評価する。(10%)

評価割合: 25%

▼ 実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。

評価割合: 0%

▼ 公正性

直接的な評価対象とはしない。試験時の不正行為が許されないのはもちろんであり、不正行為については厳しい処分の対象となるので注意すること。また、「盗用」と判断された場合、当該作文、レポート及びスピーチ等の評価もゼロになるなどの処分を受けることになるので注意すること。

評価割合: 0%

▼ その他

特になし

評価割合: 特になし

授業計画:

第1回	オリエンテーション
第2回	Unit 6 Socializing at Parties
第3回	Unit 6 Socializing at Parties
第4回	Unit 7 Dating and Romance
第5回	Unit 7 Dating and Romance
第6回	Unit 8 Pluralistic Society
第7回	Unit 8 Pluralistic Society
第8回	Review
第9回	Unit 9 Degree of Formality
第10回	Unit 9 Degree of Formality
第11回	Unit 10 Volunteerism
第12回	Unit 10 Volunteerism
第13回	Review

第14回 Presentation

第15回 Presentation

使用テキスト: Justin Charlebois Atushi Sakuma 著 Cultural Portraits: Japan and the US 金星堂

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 【予習】教科書を読み、付属の音声を聞いて問題に答えておきましょう。わからない単語・表現とその発音は辞書を使って調べておくこと。また、ディスカッションなどで自分の考えを述べるのに必要な英語表現を調べておきましょう。
【復習】Reviewに備えて英単語・表現の意味、使い方を確認しましょう。
【その他】コース最後に実施する3分程度のPresentationに備え原稿やスライド等の準備をしてspeakingの練習もしましょう。
授業には英和・和英辞典(紙体でも電子版でも可)とパソコンまたはタブレットを持参してください。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください。

授業時間外の連絡手段: 初回の授業時にお知らせいたします。

留意事項: 必ず予習を行っておくようにしてください。
毎回の授業で使用しますので、辞書、パソコンまたはタブレットを持参して下さい。

科目コード:10059 科目ナンバリング: 主な使用言語:英語|日本語

授業名(英文): 総合英語II j (General English II j)

担当者: 所 佐知子

基本情報

年次:1

単位数:1

授業形式:演習

曜時:金曜4限

履修可能学科・専攻: Pe Pc C W F N M

関連資格: 教職 保育

AL要素: 08 共同学修

10 資料調査課題

13 役割演技と疑似体験

17初問と回答

授業の概要: 【授業形態ガイドライン・レベルIII、レベルII】遠隔授業(同時双方向型)

テキストの各ユニットで取り上げられている基礎的な英文法を中心に展開します。ダイアログ、問いかけ、自分の意見を簡単な英語で話すこと等を、ペアやグループで練習していきます。また、リスニングやリーディングマテリアルを通して異文化に対する考察も行います。

キーワード: The past continuous/ The present perfect/ Asking for permission/ Used to/ Conversation about writing a story with crowdsourcing/ Talks about different jobs / Phone call and video call conversations / Lecture about bad technology predictions

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標: 各unitのテーマとなる文法事項やフレーズをすらすらと口述、筆記することができる。
リスニングマテリアルの重要部分を聞き取り、大意を理解することができる。
リーディングマテリアルの概要(大意)を素早く捉えることができる。

評価方法: Unit 8

評価割合: 60%

Review

test=15% Unit 9&12

Review

test =25% Speaking
10% Presentation10 %

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 授業中に学習した文法やフレーズを使い、衣食住に関する質問を含む基礎的な英語の会話を交わすことができる。

評価方法: 各Unitのスキット実演、プリント等の提出物から 40% **評価割合:** 40%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしません。ただし、英会話のロールプレイなど、ペアワーク/グループワーク等では積極的に練習する態度が求められます。練習の成果をユニットの課題として披露してもらうこともあるので、しっかり取り組みましょう。

評価割合: 0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしません。

評価割合: 0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしません。ただし、授業中の発言や筆記試験の記述等において人権侵害・差別発言など著しく公正性を欠く言動やカンニング等の不正行為があった場合は、減点や厳重注意の対象となるので注意してください。

評価割合: 0%

▼その他

特にありません。

評価割合: 特にありません。

- 授業計画:**
- 第1回 Orientation /Unit 8 Warm-up Video: Snack Attack
 - 第2回 Vocabulary/ Listening / Reading: Conversation about writing a story with crowdsourcing
 - 第3回 Grammar: The past continuous statements and questions, Adverbs of manner / Speaking
 - 第4回 Speaking / Global Voices: How to tell an impactful story/ Active English: Tell stories with classmates and guess if they are true
 - 第5回 Listening :Story about thunder and lightning /Active English :Information gap activities(text P211)
 - 第6回 Unit 8 Review test / Speaking test(Reading aloud) start
 - 第7回 Unit 9 Warm-up Video / Vocabulary/ Listening : Talks about different jobs ,Interview with a storyboard artist
 - 第8回 Global voices: Corey Arnold: Two different Jobs, Two Passions/ Grammar: The present perfect Speaking: Interviewing for a job
 - 第9回 Active English: Discuss job requirements and role-play a job interview, Read a job ad and choose the best email response
 - 第10回 Unit 12 Warm-up Video: The airport that never sleeps/ Vocabulary/Listening: Conversation about an upcoming trip
 - 第11回 Global voices: Travel experiences / Modal verbs of necessity/Speaking: Saying you've forgotten something
 - 第12回 Grammar: question from review/ Reading: Going Solo is the way to go!
 - 第13回 Active English: Discuss customer satisfaction survey
 - 第14回 Presentation
 - 第15回 Unit 9&12 Review test

使用テキスト: World Link, Fourth Edition <Level 2>
出版社NATIONAL GEOGRAPHIC LEARNING (販売元:Cengage Learning K.K)
ISBN:9780357502174 Student Book, Text Only

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: Teamsに音声及びVTRを掲示しておきます。毎週前もって提示される授業プランを見て予習をしておきましょう。予習課題はテキストに沿ったテーマで出されます。

復習も大切です。音声、VTR、スクリプト、プリント等をしっかり活用してわからなかったところを見直しましょう。文法事項はなるべくパワポでポイントを説明した資料を提示しますので、参考にしてください。学習した箇所の音読も行っていきましょう

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡して下さい。

授業時間外の連絡手段: 授業の前後に対応します。また、メールでも随時受け付けます。(連絡先は第一回授業及びIC-UNIPA 掲示板で公表します。)

留意事項: スマートフォンの辞書を使うことを許可しますが、節度を持って使用してください。PCまたはスマートフォンを使うこともあります。(PCが必要な時は前もって連絡します。) 課題提出と授業資料提示はTeams または IC-UNIPAを使用します。

科目コード:10059 **科目ナンバリング:** **主な使用言語:英語、日本語**

授業名(英文): 総合英語II k(General English II k)

担当者: 黒澤 東

基本情報

年次:1

単位数:1

授業形式:演習

曜時:木曜2限

履修可能学科・専攻: Pe Pc C W F N M

関連資格:教職 保育

AL要素:07 発表

授業の概要: 英語を機能的な面に着目して学習します。具体的には
「対人性(どれほど確実/自信のあるメッセージか?)」
「写実性(現実的な話か? 追憶/想像などのイメージか?)」
「組織性(どういう会話の展開か?)」
という3つの層で英語を捉え直します。
実際の授業では、ビデオなどによるポイント学習、その後Speaking/Writingを中心とするアクティビティを行います。
また、コースの後半にプレゼンテーション課題があります。課題は文字のない絵本にナレーションをつけてグループで発表します。内容のまとめ方/表現/発音やリズムを評価ポイントとします。

キーワード: 英語、英語のリズム、英語のトーン、英語の機能

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標: 自分にしか言えないことを、誰にでも通じるように英語で表現できる

評価方法: 授業内での提出物、期末試験 **評価割合:30%**

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: ある場面状況で「何を」言うべきか?をまとめ上げて表現することができる。

評価方法: 授業内での提出物、期末試験 **評価割合:30%**

▼学修に主体的に取り組む態度

授業では、「例文」をもとにした英訳和訳はあまり扱いません。その反対に、ある場面状況で自分なら何を言うか?のような「意味」を生み出すことを要求します。授業で与えられた課題に対しての能動的な参加・関与が求められます。

評価割合：30%

▼実践的ボランティア

自律的な英語学習者になる。

評価割合：5%

▼公正性

グループワークにおいて協働して成果を出すことができる。

評価割合：5%

▼その他

特になし。

評価割合：特になし。

- 授業計画：
- 01 オリエンテーション / 英語の情報単位の確認
 - 02 【対人性】情報の確かさ(MOOD)
 - 03 【対人性】MOODを担う助動詞
 - 04 【写実性】動詞の活用
 - 05 【写実性】事実か想念か?(動詞時制の機能)
 - 06 【写実性】動詞の時制の練習
 - 07 【組織性】情報を積み重ねる(CLAUSE COMPLEX)
 - 08 【組織性】CLAUSE COMPLEXの練習(1)
 - 09 【組織性】CLAUSE COMPLEXの練習(2)
 - 10 総合演習: 動画の字幕翻訳(1)
 - 11 総合演習: 絵本の日本語訳(1)
 - 12 総合演習: 指示文書の読解
 - 13 総合演習: 動画の字幕翻訳(2)
 - 14 総合演習: 絵本の日本語訳(2)
 - 15 プレゼンテーション発表
- 期末テスト

使用テキスト： テキストは授業毎に配布します。

予習・復習のポイントと
参考文献・資料等： ・授業毎のアサインメント(英作文など)

・授業はSpeaking/Listening中心ですが、その中で触れられる表現や語彙などの復習
・プレゼン課題の事前練習

障がいのある
履修者への対応： 可能な限り対応します。

授業時間外の連絡手段： 学務部に問い合わせてください。

留意事項： 特になし。

科目コード：10059

科目ナンバリング：

主な使用言語：英語、日本語

授業名(英文)：総合英語II I (General English II I)

担当者：藤咲 多恵子

基本情報

年次：1

単位数：1

授業形式：演習

曜時：火曜4限

履修可能学科・専攻：Pe Pc C W F N M

関連資格：教職 保育

AL要素：07: 発表、08: 協同学修、11: ディスカッション、13: 役割演技と疑似体験、17: 発問と回答

授業の概要： この授業では、日本の文化・慣習や異文化理解をテーマとした教科書を中心教材として使用し、英語での発信力を一層高めるためのトレーニングをします。基礎として、語彙・表現を増やすための学習や、会話・文章の内容理解のための学習をします。そして、ディスカッションやプレゼンテーション等の発展的な活動も取り入れて、英語で自分の考えを表現する力を養います。

キーワード： Japanese lifestyle and culture, Intercultural communication, English communication skills

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標： 日本文化や異文化理解を題材にした英語の会話を聞いたり、文章を読んで概要が理解できる。様々な事象、文化、生活様式を伝えるために使われる英単語、表現の意味を理解し、発音できる。

評価方法： 小テスト、課題、学期末試験 **評価割合：** 60%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標： 教科書のトピックに関連した話題で英語でディスカッションができる。自分の考えを英語で文章にまとめたり、それを口頭で発表できる。

評価方法： 口頭発表、
課題、学期末試験 **評価割合：** 40%

▼ 学修に主体的に取り組む態度

予習、授業内活動、復習を通して、継続的な学習習慣を身につける。この項目に直接的な評価はしないが、学期末試験、課題や口頭発表の内容で学びの成果を見る。

評価割合： 0%

▼ 実践的ボランティア

教科書による学習を基として、

- 1) 学生自らが文化、生活様式、コミュニケーション等について考え、それを英語で発信できること
- 2) 学生同士でその考えを聞いたり、読んだりして学び合うことを目指す。この項目に直接的な点数評価はしないが、課題、口頭発表、試験で取り組みの成果を見る。

評価割合： 0%

▼ 公正性

授業中や試験時の不正行為が許されないのはもちろんである。加えてデジタル機器の使用、著作物の利用なども公正に行う姿勢を身に付ける。不正行為については厳しい処分の対象となるので注意すること。

評価割合： 0%

▼ その他

特になし

評価割合： 特になし

授業計画： 第1回 授業オリエンテーション
第2回 Unit 7 Good Manners, Bad Manners (1) (Vocabulary, Listening, Conversation)
第3回 Unit 7 Good Manners, Bad Manners (2) (Speaking, Reading, Activities)
第4回 Unit 8 Special Days and Events (1) (Vocabulary, Listening, Conversation)
第5回 Unit 8 Special Days and Events (2) (Speaking, Reading, Activities)
第6回 Unit 9 School and University Life (1) (Vocabulary, Listening, Conversation)
第7回 Unit 9 School and University Life (2) (Speaking, Reading, Activities)
第8回 Unit 10 Famous Japanese People and Movies (1) (Vocabulary, Listening, Conversation)
第9回 Unit 10 Famous Japanese People and Movies (2) (Speaking, Reading, Activities)
第10回 Unit 11 Visiting Temples and Shrines (1) (Vocabulary, Listening, Conversation)
第11回 Unit 11 Visiting Temples and Shrines (2) (Speaking, Reading, Activities)

第12回 Unit 12 Invisible Culture (1) (Vocabulary, Listening, Conversation)
第13回 Unit 12 Invisible Culture (2) (Speaking, Reading, Activities)
第14回 Oral Presentation
第15回 Oral Presentation, Wrap-up and Reflection
定期試験

使用テキスト: Simon Capper著、This Is Japan, New Edition / Your Culture, Your Life 英語で伝える日本の文化と生活、センテージラーニング、2021年

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: [予習] 教科書や資料を読み、問題に答えておきましょう。わからない単語・表現とその発音は辞書を使って調べておくこと。教科書付属のウェブサイトで音声聞いておきましょう。また、ディスカッション等で自分の考えを述べるのに必要な英語表現を調べておきましょう。(90分程度)
[復習] 文章の内容、英単語・表現を確認し、復習課題に取り組みましょう。(90分程度)
なお、口頭発表前には発表原稿やスライドの準備、speaking の練習が必要になります。授業には英和・和英辞典(紙のものでも電子版でも可)を持参してください。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください。

授業時間外の連絡手段: 初回授業でIC Mailアドレスを提示します。

留意事項: デバイスを必携とします。オンライン資料や学習管理システムを使った学習も行います。課題の提出や、教員からのフィードバック(評価、コメントなど)にも IC-UNIPAや学習管理システムを利用します。

科目コード: 10059	科目ナンバリング:	主な使用言語: 英語、日本語
授業名(英文): 総合英語II m (General English II m)		
担当者: 藤咲 多恵子		
基本情報		
年次: 1	単位数: 1	授業形式: 演習
曜時: 木曜3限	履修可能学科・専攻: Pe Pc C W F N M	
関連資格: 教職 保育	AL要素: 07: 発表、08: 協同学修、11: ディスカッション、13: 役割演技と疑似体験、17: 発問と回答	

授業の概要: この授業では、日本の文化・慣習や異文化理解をテーマとした教科書を中心教材として使用し、英語での発信力を一層高めるためのトレーニングをします。基礎として、語彙・表現を増やすための学習や、会話・文章の内容理解のための学習をします。そして、ディスカッションやプレゼンテーション等の発展的な活動も取り入れて、英語で自分の考えを表現する力を養います。

キーワード: Japanese lifestyle and culture, Intercultural communication, English communication skills

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標: 日本文化や異文化理解を題材にした英語の会話を聞いたり、文章を読んで概要が理解できる。様々な事象、文化、生活様式を伝えるために使われる英単語、表現の意味を理解し、発音できる。

評価方法: 小テスト、課題、学期末試験 **評価割合:** 60%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標: 教科書のトピックに関連した話題で英語でディスカッションができる。自分の考えを英語で文章にまとめたり、それを口頭で発表できる。

評価方法: 口頭発表, **評価割合:** 40%

課題、学期末試験

▼学修に主体的に取り組む態度

予習、授業内活動、復習を通して、継続的な学習習慣を身につける。この項目に直接的な評価はしないが、学期末試験、課題や口頭発表の内容で学びの成果を見る。

評価割合：0%

▼実践的ボランティア

教科書による学習を基として、

- 1) 学生自らが文化、生活様式、コミュニケーション等について考え、それを英語で発信できること
- 2) 学生同士でその考えを聞いたり、読んだりして学び合うこと

を目指す。この項目に直接的な点数評価はしないが、課題、口頭発表、試験で取り組みの成果を見る。

評価割合：0%

▼公正性

授業中や試験時の不正行為が許されないのはもちろんである。加えてデジタル機器の使用、著作物の利用なども公正に行う姿勢を身に付ける。不正行為については厳しい処分の対象となるので注意すること。

評価割合：0%

▼その他

特になし

評価割合：特になし

- 授業計画：**
- 第1回 授業オリエンテーション
 - 第2回 Unit 7 Good Manners, Bad Manners (1) (Vocabulary, Listening, Conversation)
 - 第3回 Unit 7 Good Manners, Bad Manners (2) (Speaking, Reading, Activities)
 - 第4回 Unit 8 Special Days and Events (1) (Vocabulary, Listening, Conversation)
 - 第5回 Unit 8 Special Days and Events (2) (Speaking, Reading, Activities)
 - 第6回 Unit 9 School and University Life (1) (Vocabulary, Listening, Conversation)
 - 第7回 Unit 9 School and University Life (2) (Speaking, Reading, Activities)
 - 第8回 Unit 10 Famous Japanese People and Movies (1) (Vocabulary, Listening, Conversation)
 - 第9回 Unit 10 Famous Japanese People and Movies (2) (Speaking, Reading, Activities)
 - 第10回 Unit 11 Visiting Temples and Shrines (1) (Vocabulary, Listening, Conversation)
 - 第11回 Unit 11 Visiting Temples and Shrines (2) (Speaking, Reading, Activities)
 - 第12回 Unit 12 Invisible Culture (1) (Vocabulary, Listening, Conversation)
 - 第13回 Unit 12 Invisible Culture (2) (Speaking, Reading, Activities)
 - 第14回 Oral Presentation
 - 第15回 Oral Presentation, Wrap-up and Reflection
- 定期試験

使用テキスト： Simon Capper著、This Is Japan, New Edition / Your Culture, Your Life 英語で伝える日本の文化と生活、センゲージラーニング、2021年

予習・復習のポイントと参考文献・資料等：

[予習] 教科書や資料を読み、問題に答えておきましょう。わからない単語・表現とその発音は辞書を使って調べておくこと。教科書付属のウェブサイトで音声聞いておきましょう。また、ディスカッション等で自分の考えを述べるのに必要な英語表現を調べておきましょう。(90分程度)

[復習] 文章の内容、英単語・表現を確認し、復習課題に取り組みましょう。(90分程度)

なお、口頭発表前には発表原稿やスライドの準備、speaking の練習が必要になります。授業には英和・和英辞典(紙のものでも電子版でも可)を持参してください。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください。

授業時間外の連絡手段： 初回授業でIC Mailアドレスを提示します。

留意事項： デバイスを必携とします。オンライン資料や学習管理システムを使った学習も行います。課題の提出や、

科目コード:10059	科目ナンバリング:	主な使用言語:英語、日本語
授業名(英文): 総合英語II n(General English II n)		
担当者: 藤咲 多恵子		
基本情報		
年次:1	単位数:1	授業形式:演習
曜時:木曜4限	履修可能学科・専攻: Pe Pc C W F N M	
関連資格:教職 保育	AL要素: 07: 発表、08: 協同学修、11: ディスカッション、13: 役割演技と疑似体 験、17: 発問と回答	

授業の概要: この授業では、日本の文化・慣習や異文化理解をテーマとした教科書を中心教材として使用し、英語での発信力を一層高めるためのトレーニングをします。基礎として、語彙・表現を増やすための学習や、会話・文章の内容理解のための学習をします。そして、ディスカッションやプレゼンテーション等の発展的な活動も取り入れて、英語で自分の考えを表現する力を養います。

キーワード: Japanese lifestyle and culture, Intercultural communication, English communication skills

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標: 日本文化や異文化理解を題材にした英語の会話を聞いたり、文章を読んで概要が理解できる。様々な事象、文化、生活様式を伝えるために使われる英単語、表現の意味を理解し、発音できる。

評価方法: 小テスト、課題、学期末試験 **評価割合:** 60%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標: 教科書のトピックに関連した話題で英語でディスカッションができる。自分の考えを英語で文章にまとめたり、それを口頭で発表できる。

評価方法: 口頭発表、
課題、学期末試験 **評価割合:** 40%

▼ 学修に主体的に取り組む態度

予習、授業内活動、復習を通して、継続的な学習習慣を身につける。この項目に直接的な評価はしないが、学期末試験、課題や口頭発表の内容で学びの成果を見る。

評価割合: 0%

▼ 実践的ボランティア

教科書による学習を基として、

1) 学生自らが文化、生活様式、コミュニケーション等について考え、それを英語で発信できること

2) 学生同士でその考えを聞いたり、読んだりして学び合うこと

を目指す。この項目に直接的な点数評価はしないが、課題、口頭発表、試験で取り組みの成果を見る。

評価割合: 0%

▼ 公正性

授業中や試験時の不正行為が許されないのはもちろんである。加えてデジタル機器の使用、著作物の利用なども公正に行う姿勢を身に付ける。不正行為については厳しい処分の対象となるので注意すること。

評価割合: 0%

▼ その他

特になし

評価割合：特になし

授業計画： 第1回 授業オリエンテーション
第2回 Unit 7 Good Manners, Bad Manners (1) (Vocabulary, Listening, Conversation)
第3回 Unit 7 Good Manners, Bad Manners (2) (Speaking, Reading, Activities)
第4回 Unit 8 Special Days and Events (1) (Vocabulary, Listening, Conversation)
第5回 Unit 8 Special Days and Events (2) (Speaking, Reading, Activities)
第6回 Unit 9 School and University Life (1) (Vocabulary, Listening, Conversation)
第7回 Unit 9 School and University Life (2) (Speaking, Reading, Activities)
第8回 Unit 10 Famous Japanese People and Movies (1) (Vocabulary, Listening, Conversation)
第9回 Unit 10 Famous Japanese People and Movies (2) (Speaking, Reading, Activities)
第10回 Unit 11 Visiting Temples and Shrines (1) (Vocabulary, Listening, Conversation)
第11回 Unit 11 Visiting Temples and Shrines (2) (Speaking, Reading, Activities)
第12回 Unit 12 Invisible Culture (1) (Vocabulary, Listening, Conversation)
第13回 Unit 12 Invisible Culture (2) (Speaking, Reading, Activities)
第14回 Oral Presentation
第15回 Oral Presentation, Wrap-up and Reflection
定期試験

使用テキスト： Simon Capper著、This Is Japan, New Edition / Your Culture, Your Life 英語で伝える日本の文化と生活、センテージラーニング、2021年

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： [予習] 教科書や資料を読み、問題に答えておきましょう。わからない単語・表現とその発音は辞書を使って調べておくこと。教科書付属のウェブサイトで音声聞いておきましょう。また、ディスカッション等で自分の考えを述べるのに必要な英語表現を調べておきましょう。(90分程度)
[復習] 文章の内容、英単語・表現を確認し、復習課題に取り組みましょう。(90分程度)
なお、口頭発表前には発表原稿やスライドの準備、speaking の練習が必要になります。授業には英和・和英辞典(紙のものでも電子版でも可)を持参してください。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください。

授業時間外の連絡手段： 初回授業でIC Mailアドレスを提示します。

留意事項： デバイスを必携とします。オンライン資料や学習管理システムを使った学習も行います。課題の提出や、教員からのフィードバック(評価、コメントなど)にも IC-UNIPAや学習管理システムを利用します。

科目コード：10059

科目ナンバリング：

主な使用言語：

授業名(英文)：総合英語II(認定用)(General English II)

担当者：教務委員会

基本情報

年次：1

単位数：1

授業形式：演習

曜時：集中講義

履修可能学科・専攻：Pe Pc C W F N M

関連資格：教職 保育

AL要素：

授業の概要：

キーワード：

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標：

評価方法：

評価割合：

▼思考力・判断力・表現力

到達目標:

評価方法:

評価割合:

▼学修に主体的に取り組む態度

評価割合:

▼実践的ボランティア

評価割合:

▼公正性

評価割合:

▼その他

評価割合:

授業計画:

使用テキスト:

予習・復習のポイントと
参考文献・資料等:

障がいのある
履修者への対応:

授業時間外の連絡手段:

留意事項:

科目コード:10060

科目ナンバリング:

主な使用言語:英語、日本語

授業名(英文):総合英語III a(General English III a)

担当者:黒澤 東

基本情報

年次:2

単位数:1

授業形式:演習

曜時:水曜1限

履修可能学科・専攻: Pe Pc C W F N M

関連資格:教職 保育

AL要素:08 協同学習

授業の概要: 英語を機能的な面に着目して学習します。具体的には

「対人性(どういう態度のメッセージなのか)」

「写実性(何を指し示しているのか)」

「組織性(どういう流れの会話なのか)」

という3つの層で英語を捉え直します。

実際の授業では、ビデオなどによるポイント学習、その後Speaking/Writingを中心とするアクティビティを行います。

キーワード: 英語、英語のリズム、英語のトーン、英語の機能

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標: 自分にしか言えないことを、誰にでも通じるように英語で表現できる。

評価方法: 授業内での提出物、期末試験

評価割合: 30%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: ある場面状況で「何を」言うべきか?をまとめ上げて表現することができる。

評価方法: 授業内での提出物、期末試験

評価割合: 30%

▼学修に主体的に取り組む態度

授業では、「例文」をもとにした英訳和訳はあまり扱いません。その反対に、ある場面状況で自分なら何を言うか?のような「意味」を生み出すことを要求します。授業で与えられた課題に対しての能動的な参加・関与が求められます。

評価割合: 30%

▼実践的ボランティア

自律的な英語学習者になる。

評価割合: 5%

▼公正性

グループワークにおいて協働して成果を出すことができる。

評価割合: 5%

▼その他

特になし。

評価割合: 特になし。

- 授業計画: 01 オリエンテーション
02 【対人性】英語のリズム
03 【対人性】英語と日本語のリズム
04 【対人性】英語の音(schwa)
05 【対人性】英語のトーンとその機能
06 【写実性】トーンと情報単位
07 【写実性】情報単位(CLAUSE)
08 【写実性】CLAUSEの構成
09 【写実性】CLAUSEの要素
10 【写実性】英語のCLAUSEと日本語の情報単位
11 【組織性】場面状況から意味を取り出す
12 【組織性】CLAUSEの情報構成
13 【組織性】GIVENとNEW
14 【組織性】英語の3層性
15 【まとめ】3層性で英語を理解する
期末テスト

使用テキスト: テキストは授業毎に配布します。

予習・復習のポイント: ・授業毎のアサインメント(英作文など)

参考文献・資料等: ・授業はSpeaking/Listening中心ですが、その中で触れられる表現や語彙などの復習

障がいのある 可能な限り対応します。

履修者への対応:

授業時間外の連絡手段: 学務部に問い合わせてください。

留意事項: 特になし。

科目コード: 10060

科目ナンバリング:

主な使用言語: 日本語

授業名(英文): 総合英語III b (General English III b)

担当者: 井上 まゆみ

基本情報

年次: 2

単位数: 1

授業形式: 演習

曜時: 月曜3限

履修可能学科・専攻: Pe Pc C W F N M

関連資格: 教職 保育

AL要素: 17. 発問と回答

授業の概要: この授業は、世界中で起こる現代社会のさまざまな問題に関する英文を読みながら、基礎的

な語彙力と文法的知識を身に着けることを目的としています。また、英文の重要情報を読み取る練習を行いながら、各課のテーマについて理解を深めていきます。

キーワード： AFP World News

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標：教科書の内容が理解でき、関連する重要構文と単語を使って英文を80パーセント組み立てることができる

評価方法：定期試験

評価割合：50%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標：現代社会で話題になっていることについて英語で考え、自分の意見を述べることができる。

評価方法：定期試験

評価割合：30%

▼ 学修に主体的に取り組む態度

e-Learning課題を期日までに行う。

評価割合：20%

▼ 実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。

評価割合：0%

▼ 公正性

直接的な評価対象とはしない。

評価割合：0%

▼ その他

特になし

評価割合：特になし

授業計画：	第1回	オリエンテーション
	第2回	Lesson 1 Natural vs artificial
	第3回	Lesson 2 Relocating vs Protecting Buildings
	第4回	Lesson 2 Relocating vs Protecting Buildings
	第5回	Lesson 3 Disease Prevention vs Economic Growth
	第6回	Lesson 3 Disease Prevention vs Economic Growth
	第7回	Lesson 4 Extracurricular Activity vs Studying Hard
	第8回	Lesson 4 Extracurricular Activity vs Studying Hard
	第9回	Lesson 5 Traditional Living vs Urbanization
	第10回	Lesson 5 Traditional Living vs Urbanization
	第11回	Lesson 6 Fair Trade vs Free Trade
	第12回	Lesson 6 Fair Trade vs Free Trade
	第13回	Lesson 7 Environmental Activism vs International Agreements
	第14回	Lesson 7 Environmental Activism vs International Agreements
	第15回	Lesson 8 Alternative vs Fossil Energy まとめ 定期試験

使用テキスト： Makoto Shishido, Kevin Murphy and Mariko Takahashi. "AFP World News Report 6"
(Seibido 2022年)

予習・復習のポイントと参考文献・資料等：教科書付属のDVDを事前に視聴し、語彙を調べてくること(60分)。
教科書に連動したe-Learningを使って学習した内容を復習してくること(90分)。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応します

授業時間外の連絡手段： 初回の授業でお知らせします。

留意事項：なし

科目コード：10060 科目ナンバリング： 主な使用言語：日本語

授業名(英文)：総合英語III c (General English III c)

担当者：井上 まゆみ

基本情報

年次：2

単位数：1

授業形式：演習

曜時：月曜4限

履修可能学科・専攻：Pe Pc C W F N M

関連資格：教職 保育

AL要素：17. 発問と回答

授業の概要： この授業は、世界中で起こる現代社会のさまざまな問題に関する英文を読みながら、基礎的な語彙力と文法的知識を身に着けることを目的としています。また、英文の重要情報を読み取る練習を行いながら、各課のテーマについて理解を深めていきます。

キーワード： AFP World News

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 教科書の内容が理解でき、関連する重要構文と単語を使って英文を80パーセント組み立てることができる

評価方法： 定期試験

評価割合： 50%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 現代社会で話題になっていることについて英語で考え、自分の意見を述べることができる。

評価方法： 定期試験

評価割合： 30%

▼学修に主体的に取り組む態度

e-Learning課題を期日までに行う。

評価割合： 20%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。

評価割合： 0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。

評価割合： 0%

▼その他

特になし

評価割合： 特になし

授業計画：

第1回	オリエンテーション
第2回	Lesson 1 Natural vs artificial
第3回	Lesson 2 Relocating vs Protecting Buildings
第4回	Lesson 2 Relocating vs Protecting Buildings
第5回	Lesson 3 Disease Prevention vs Economic Growth
第6回	Lesson 3 Disease Prevention vs Economic Growth
第7回	Lesson 4 Extracurricular Activity vs Studying Hard
第8回	Lesson 4 Extracurricular Activity vs Studying Hard
第9回	Lesson 5 Traditional Living vs Urbanization
第10回	Lesson 5 Traditional Living vs Urbanization
第11回	Lesson 6 Fair Trade vs Free Trade

- 第12回 Lesson 6 Fair Trade vs Free Trade
- 第13回 Lesson 7 Environmental Activism vs International Agreements
- 第14回 Lesson 7 Environmental Activism vs International Agreements
- 第15回 Lesson 8 Alternative vs Fossil Energy まとめ
- 定期試験

使用テキスト: Makoto Shishido, Kevin Murphy and Mariko Takahashi. "AFP World News Report 6"
(Seibido 2022年)

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 教科書付属のDVDを事前に視聴し、語彙を調べてくること(60分)。
教科書に連動したe-Learningを使って学習した内容を復習してくること(90分)。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応します

授業時間外の連絡手段: 初回の授業でお知らせします。

留意事項: なし

科目コード: 10060 **科目ナンバリング:** **主な使用言語:** 日本語

授業名(英文): 総合英語III d (General English III d)

担当者: 井上 まゆみ

基本情報

年次: 2

単位数: 1

授業形式: 演習

曜時: 火曜4限

履修可能学科・専攻: Pe Pc C W F N M

関連資格: 教職 保育

AL要素: 17. 発問と回答

授業の概要: この授業は、世界中で起こる現代社会のさまざまな問題に関する英文を読みながら、基礎的な語彙力と文法的知識を身に着けることを目的としています。また、英文の重要情報を読み取る練習を行いながら、各課のテーマについて理解を深めていきます。

キーワード: AFP World News

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標: 教科書の内容が理解でき、関連する重要構文と単語を使って英文を80パーセント組み立てることができる

評価方法: 定期試験

評価割合: 50%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標: 現代社会で話題になっていることについて英語で考え、自分の意見を述べるができる。

評価方法: 定期試験

評価割合: 30%

▼ 学修に主体的に取り組む態度

e-Learning課題を期日までに行う。

評価割合: 20%

▼ 実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。

評価割合: 0%

▼ 公正性

直接的な評価対象とはしない。

評価割合: 0%

▼ その他

特になし

評価割合：特になし

授業計画： 第1回 オリエンテーション
第2回 Lesson 1 Natural vs artificial
第3回 Lesson 2 Relocating vs Protecting Buildings
第4回 Lesson 2 Relocating vs Protecting Buildings
第5回 Lesson 3 Disease Prevention vs Economic Growth
第6回 Lesson 3 Disease Prevention vs Economic Growth
第7回 Lesson 4 Extracurricular Activity vs Studying Hard
第8回 Lesson 4 Extracurricular Activity vs Studying Hard
第9回 Lesson 5 Traditional Living vs Urbanization
第10回 Lesson 5 Traditional Living vs Urbanization
第11回 Lesson 6 Fair Trade vs Free Trade
第12回 Lesson 6 Fair Trade vs Free Trade
第13回 Lesson 7 Environmental Activism vs International Agreements
第14回 Lesson 7 Environmental Activism vs International Agreements
第15回 Lesson 8 Alternative vs Fossil Energy まとめ
定期試験

使用テキスト： Makoto Shishido, Kevin Murphy and Mariko Takahashi. "AFP World News Report 6"
(Seibido 2022年)

予習・復習のポイントと 教科書付属のDVDを事前に視聴し、語彙を調べてくること(60分)。
参考文献・資料等： 教科書に連動したe-Learningを使って学習した内容を復習してくること(90分)。

障がいのある 可能な限り対応します
履修者への対応：

授業時間外の連絡手段： 初回の授業でお知らせします。

留意事項： なし

科目コード：10060 科目ナンバリング： 主な使用言語：英語と日本語

授業名(英文)：総合英語III e (General English III e)

担当者：岩重 理香

基本情報

年次：2

単位数：1

授業形式：演習

曜時：火曜2限

履修可能学科・専攻：Pe Pc C W F N M

関連資格：教職 保育

AL要素：07. 発表

11. 討論

13. 役割演技と疑似体験

17. 発問と応答

授業の概要： テキストの各ユニットで提示されるトピックに沿って、自分自身のこと、身の回りの出来事を英語で「書く」実践的活動を行う中で、以下のことを意識して学習を進めていきます。

- ・トピックに沿ったモデル文書を読むことで、英語の語彙や基本的な文法知識を強化を図ります。
- ・トピックに沿った短いモデルパッセージの音声をよく聞いて、英語音声の特徴を意識して真似をしながら音読をすることを通して、英語音声聞き取る力、理解する力の強化を図ります。
- ・自分自身のことを相手に伝えたり、相手のことを知るためのコミュニケーションのための作文、また、その作文をもとにした相互発表の練習を行い、英語での情報発信力の強化を図ります。

キーワード: リーディング、ライティング、リスニング、リピーティング、シャドウイング

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標: ・テキストで学習した単語や英語表現に関するquizに答えることが80%できる。

・テキストで学習した単語や英語表現を用いて、与えられたトピックに沿った英作文が80%できる。

評価方法: ユニット(授業)ごとに提出する英作文、音読課題。 **評価割合: 60%**

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 学習した英語表現を用いて自分自身の事や自分の考えを表現した英作文ができる。
自身が作成した英作文を発表することができる。
クラスメイトの英作文や発表を客観的に評価できる。

評価方法: 3ユニットごとに提出するまとめの作文。 **評価割合: 20%**
自身の作文をもとにしたグループ内プレゼンテーション。

▼学修に主体的に取り組む態度

各Unitでテキストのモデルパッセージを?本の?声に合わせて?読するタスクを出題する。タスクへの取り組み態度(振り返り、各?での課題設定など)と達成度合いで評価する。

評価割合: 30%

▼実践的ボランティア

特になし。

評価割合: 0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただしテストや提出物の作成においてカンニング等の不正行為があった場合は、減点の対象となる。

評価割合: 0%

▼その他

特になし。

評価割合: 特になし。

授業計画: 受講生の英語力を考慮しながら、次の予定で進めていく。

- 1 オリエンテーション/ 学習支援アプリの使い方
- 2 Unit 1 Welcome to the party! (1)
- 3 Unit 1 Welcome to the party! (2)
- 4 Unit 2 I'm planning to study abroad (1)
- 5 Unit 2 I'm planning to study abroad (2)
- 6 Unit 3 I'm afraid that it was damaged
- 7 Unit 3 I'm afraid that it was damaged
- 8 Write your story/peer check
- 9 Unit 4 Let me introduce my self (1)
- 10 Unit 4 Let me introduce my self (2)
- 11 Unit 5 My hobby is (1)
- 12 Unit 5 My hobby is (2)

- 13 Unit 6 This is my dream (1)
- 14 Unit 6 This is my dream (2) /Write your story
- 15 Group presentation

使用テキスト: Yoji Kudo, Dean Poland (2017) "Have Fun Writing" 金星堂

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: テキストを購入したら、音声必ずダウンロードして、自宅や通学途中に聞くことのできる環境を整えること。
授業前に教科書に出てくるわからない語句等は辞書で下調べをしておくこと。
課題の提出にはオンライン学習支援システムを使用します。

授業には必ずテキストと辞書を持参する。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡して下さい。

授業時間外の連絡手段: メールにて対応します。メールアドレスは初回にお知らせします。

留意事項: 特になし。

科目コード: 10060 **科目ナンバリング:** **主な使用言語:** 英語、日本語

授業名(英文): 総合英語III f (General English III f)

担当者: 黒澤 東

基本情報

年次: 2

単位数: 1

授業形式: 演習

曜時: 水曜2限

履修可能学科・専攻: Pe Pc C W F N M

関連資格: 教職 保育

AL要素: 08 協同学習

授業の概要: 英語を機能的な面に着目して学習します。具体的には
「対人性(どういう態度のメッセージなのか)」「写実性(何を指し示しているのか)」「組織性(どういう流れの会話なのか)」という3つの層で英語を捉え直します。
実際の授業では、ビデオなどによるポイント学習、その後Speaking/Writingを中心とするアクティビティを行います。

キーワード: 英語、英語のリズム、英語のトーン、英語の機能

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標: 自分にしか言えないことを、誰にでも通じるように英語で表現できる。

評価方法: 授業内での提出物、期末試験 **評価割合:** 30%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: ある場面状況で「何を」言うべきか?をまとめ上げて表現することができる。

評価方法: 授業内での提出物、期末試験 **評価割合:** 30%

▼学修に主体的に取り組む態度

授業では、「例文」をもとにした英訳和訳はあまり扱いません。その反対に、ある場面状況で自分なら何を言うか?のような「意味」を生み出すことを要求します。授業で与えられた課題に対しての能動的な参加・関与が求められます。

評価割合: 30%

▼実践的ボランティア

自律的な英語学習者になる。

評価割合：5%

▼公正性

グループワークにおいて協働して成果を出すことができる。

評価割合：5%

▼その他

特になし。

評価割合：特になし。

- 授業計画： 01 オリエンテーション
02 【対人性】英語のリズム
03 【対人性】英語と日本語のリズム
04 【対人性】英語の音(schwa)
05 【対人性】英語のトーンとその機能
06 【写実性】トーンと情報単位
07 【写実性】情報単位(CLAUSE)
08 【写実性】CLAUSEの構成
09 【写実性】CLAUSEの要素
10 【写実性】英語のCLAUSEと日本語の情報単位
11 【組織性】場面状況から意味を取り出す
12 【組織性】CLAUSEの情報構成
13 【組織性】GIVENとNEW
14 【組織性】英語の3層性
15 【まとめ】3層性で英語を理解する
期末テスト

使用テキスト： テキストは授業毎に配布します。

予習・復習のポイント ・授業毎のアサインメント(英作文など)

参考文献・資料等： ・授業はSpeaking/Listening中心ですが、その中で触れられる表現や語彙などの復習

障がいのある 可能な限り対応します。
履修者への対応：

授業時間外の連絡手段： 学務部に問い合わせてください。

留意事項： 特になし。

科目コード：10060 科目ナンバリング： 主な使用言語：英語と日本語

授業名(英文)： 総合英語III g (General English III g)

担当者： 高木 有美

基本情報

年次：2

単位数：1

授業形式：演習

曜時：金曜2限

履修可能学科・専攻： Pe Pc C W F N M

関連資格：教職 保育

AL要素：07.発表

11.討論

16.振り返り用紙と応答

17.発問と回答

授業の概要： この授業は、身近な話題を扱いながら、「聞く」「話す」「読む」「書く」の4技能を総合的に高めることを目的とする。教科書の会話やエッセイを読み、関連するスピーチを聞いたりしながら、新しいものの見方に触れ、英語のコミュニケーションのルールについても学ぶ。またトピックに対する自らの考えを書いたり、話したりする中で自分について考え、積極的に他者と関わろうとする態度や英語使用者としての自信を養う。

キーワード： 音読、読解、語彙、英作文、コミュニケーション

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

- 到達目標:**
- ・意味のまとまりや発音、抑揚に気をつけながら音読ができる。
 - ・身近なトピックに関連する英単語や表現を理解し、正しく使うことができる。
 - ・文章の要旨を自分の言葉で説明できる。

評価方法: 復習テスト

評価割合: 30%

▼ 思考力・判断力・表現力

- 到達目標:**
- ・相手に分かりやすい内容や表現、構成を考え、自分の考えを明確に伝えられる。
 - ・状況に見合った声のトーンや表情、ジェスチャーを使うことができる。
 - ・キーワードや視覚、聴覚要素を使い、内容を分かりやすく伝えられる。

評価方法: 口頭発表

評価割合: 20%

▼ 学修に主体的に取り組む態度

- ・毎回授業の振り返りを行い、新たに発見した点、分からなかった点を明らかにする。
- ・自律的学習を通して、英語コミュニケーション能力の向上に努めると同時に、興味のあるトピック、将来のキャリアに関連する分野に関して常に新しい情報を集める。

評価割合: 50%

▼ 実践的ボランティア

トピックに関する自らの意見を発信し、互いの理解や学びにつながるよう努める。

評価割合: 0%

▼ 公正性

授業内には、公平で前向きな態度でのぞむこと。不正行為はしない。

評価割合: 0%

▼ その他

特になし

評価割合: 特になし

- 授業計画:**
- 第01回: Course introduction
 - 第02回: Unit 1: Friends (1)
 - 第03回: Unit 1: Friends (2)
 - 第04回: Unit 2: Hobbies (1)
 - 第05回: Unit 2: Hobbies (2)
 - 第06回: Review test 1& Presentation preparation
 - 第07回: Unit 4: Fashion (1)
 - 第08回: Unit 4: Fashion (2)
 - 第09回: Unit 5: Personality (1)
 - 第10回: Unit 5: Personality (2)
 - 第11回: Review test 2& Presentation preparation
 - 第12回: Presentation Rehearsal
 - 第13回: Presentation?Day 1
 - 第14回: Presentation?Day 2
 - 第15回: Presentation?Day 3, Course wrap-up

使用テキスト: Esther Waer, Uchida Masakatsu, Kameyama Hiroyuki 著、Companion to English Communication (大学生のための英語コミュニケーション入門)、Nan'un Do、2021年

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: (予習) 教科書の音声を使って、カバーするユニットの会話やエッセイを何度も聞き、発音や抑揚を真似ながら音読をする。分からない単語は辞書で調べておく。教科書の練習問題は解いておき、会話やディスカッションの設問への答えも予め考えておく。
(復習) 授業後は学んだ内容や語彙を復習し、エッセイを自分の言葉で要約しておく。授業内で紹介されたスピーチやプレゼンテーションは、最初は日本語の字幕、次に英語の字幕を使ってきくとよい。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください。

授業時間外の連絡手段: オフィスアワーに研究室で対応します。曜日・時限等については初回にお知らせします。大学のメールシステムでも連絡ができます。

留意事項: ・この授業は基本的に英語で行われますが、必要があれば日本語でも説明される。
・授業に関するお知らせ、配布物、履修者からの課題の提出や、教員からのフィードバック(評価、コメントなど)には Microsoft Teamsを使用する。
・インターネットに接続できる端末(ラップトップ・コンピューター、スマートフォン、タブレット等)を毎回できるだけ持参すること。

科目コード:10060 **科目ナンバリング:** **主な使用言語:日本語|英語**

授業名(英文): 総合英語III h(General English III h)

担当者: 君塚 淳一

基本情報

年次:2

単位数:1

授業形式:演習

曜時:月曜1限

履修可能学科・専攻: Pe Pc C W F N M

関連資格:教職 保育

**AL要素: 課題演習
プレゼン**

授業の概要: アメリカンポップカルチャー(アメリカ大衆文化)についての読みやすい英文のテキストを使い、高校までとは異なる英文の読み方で、わかりやすく内容を解説し、また文法も復習しながら読んでいく。同時に課題として、アメリカ大衆文化を扱う英文や画像も取り入れて、多面的に英語を学んでもらいます。
また総合教材を使用するので、Exerciseも各Unitの巻末にあるますので、行います。

キーワード: アメリカン・ポップ・カルチャー、英文理解、文法復習

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標: 英文の文体を理解し、専門用語が分かれば、内容が読み解ける。

評価方法: レポート

評価割合:40%

プレゼンテーション

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 読んだ英文から、自分の意見を持ち、学んだ語彙や表現を用いた英文で発信ができる。

評価方法: 期末試験

評価割合:60%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし毎回提出してもらいアクションペーパーと学期末試験の記述内容に成果が認められる場合は、上記項目の「思考力・判断力・表現力」の評価の対象にすることもある。

評価割合:0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただし毎回提出してもらいアクションペーパーと学期末試験の記述内容に成果が認められる場合は、上記項目の「思考力・判断力・表現力」の評価の対象にすることもある。

評価割合:0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし毎回提出してもらいアクションペーパーと学期末試験の記述内容に成果が認められる場合は、上記項目の「思考力・判断力・表現力」の評価の対象にすることもある。

評価割合:0%

▼その他

特になし。

評価割合：特になし。

授業計画： 第1回 The Hamburger Icon- McDonald's (1)
第2回 The Hamburger Icon- McDonald's (2)Exerciseと関係英文Reading
第3回 Southern USA Cuisine- Kentucky Fried Chicken (KFC) (1)
第4回 Southern USA Cuisine- Kentucky Fried Chicken (KFC) (2)Exerciseと関係英文Reading
第5回 Coffee Drinks for the Planet- Starbucks (1)
第6回 Coffee Drinks for the Planet- Starbucks (2)Exerciseと関係英文Reading
第7回The Quick Snack- Dunkin' Donuts (1)
第8回The Quick Snack- Dunkin' Donuts (2)Exerciseと関係英文Reading
第9回 A Modern Lifestyle- 7-Eleven Store (1)
第10回 A Modern Lifestyle- 7-Eleven Store (2)Exerciseと関係英文Reading
第11回 The Great White Way- Broadway (1)
第12回 The Great White Way- Broadway (2)Exerciseと関係英文Reading
第13回 America's Dream Factory- Hollywood (1)
第14回 America's Dream Factory- Hollywood (2)Exerciseと関係英文Reading
第15回まとめ&学生によるプレゼン
定期試験

使用テキスト： Enjoying American Pop Culture American 朝日出版 ISBN978-4-255-15478-7 1800.
必要に応じてプリント配布、後期に追加もある。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 必ず不安な語彙や表現は辞書で予習すること。また課題英文なども出すので同様に。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応しますので、学務部などに連絡ください。

授業時間外の連絡手段： 曜日、時間については初回に連絡します。

留意事項： 特になし。

科目コード：10060 科目ナンバリング： 主な使用言語：英語、日本語

授業名(英文)：総合英語III i (General English III i)

担当者：黒澤 東

基本情報

年次：2

単位数：1

授業形式：演習

曜時：木曜4限

履修可能学科・専攻：Pe Pc C W F N M

関連資格：教職 保育

AL要素：08 協同学習

授業の概要： 英語を機能的な面に着目して学習します。具体的には
「対人性(どういう態度のメッセージなのか)」「写実性(何を指し示しているのか)」「組織性(どういう流れの会話なのか)」
という3つの層で英語を捉え直します。
実際の授業では、ビデオなどによるポイント学習、その後Speaking/Writingを中心とするアクティビティを行います。

キーワード： 英語、英語のリズム、英語のトーン、英語の機能

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標： 自分にしか言えないことを、誰にでも通じるように英語で表現できる。

評価方法：授業内での提出物、期末試験

評価割合：30%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標：ある場面状況で「何を」言うべきか？をまとめ上げて表現することができる。

評価方法：授業内での提出物、期末試験

評価割合：30%

▼学修に主体的に取り組む態度

授業では、「例文」をもとにした英訳和訳はあまり扱いません。その反対に、ある場面状況で自分なら何を言うか？のような「意味」を生み出すことを要求します。授業で与えられた課題に対しての能動的な参加・関与が求められます。

評価割合：30%

▼実践的ボランティア

自律的な英語学習者になる。

評価割合：5%

▼公正性

グループワークにおいて協働して成果を出すことができる。

評価割合：5%

▼その他

特になし。

評価割合：特になし。

- 授業計画：
- 01 オリエンテーション
 - 02 【対人性】英語のリズム
 - 03 【対人性】英語と日本語のリズム
 - 04 【対人性】英語の音(schwa)
 - 05 【対人性】英語のトーンとその機能
 - 06 【写実性】トーンと情報単位
 - 07 【写実性】情報単位(CLAUSE)
 - 08 【写実性】CLAUSEの構成
 - 09 【写実性】CLAUSEの要素
 - 10 【写実性】英語のCLAUSEと日本語の情報単位
 - 11 【組織性】場面状況から意味を取り出す
 - 12 【組織性】CLAUSEの情報構成
 - 13 【組織性】GIVENとNEW
 - 14 【組織性】英語の3層性
 - 15 【まとめ】3層性で英語を理解する
- 期末テスト

使用テキスト：テキストは授業毎に配布します。

予習・復習のポイントと ・授業毎のアサインメント(英作文など)

参考文献・資料等： ・授業はSpeaking/Listening中心ですが、その中で触れられる表現や語彙などの復習

障がいのある 可能な限り対応します。
履修者への対応：

授業時間外の連絡手段： 学務部に問い合わせてください。

留意事項： 特になし。

科目コード：10060

科目ナンバリング：

主な使用言語：

授業名(英文)：総合英語Ⅲ(認定用)(General English Ⅲ)

担当者：教務委員会

基本情報

年次 : 2

単位数 : 1

授業形式 : 演習

曜時 : 集中講義

履修可能学科・専攻 : Pe Pc C W F N M

関連資格 : 教職 保育

AL要素 :

授業の概要 :

キーワード :

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標 :

評価方法 :

評価割合 :

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標 :

評価方法 :

評価割合 :

▼ 学修に主体的に取り組む態度

評価割合 :

▼ 実践的ボランティア

評価割合 :

▼ 公正性

評価割合 :

▼ その他

評価割合 :

授業計画 :

使用テキスト :

予習・復習のポイントと
参考文献・資料等 :

障がいのある
履修者への対応 :

授業時間外の連絡手段 :

留意事項 :

科目コード : 10061

科目ナンバリング :

主な使用言語 : 英語、日本語

授業名(英文) : 総合英語IV a (General English IV a)

担当者 : 黒澤 東

基本情報

年次 : 2

単位数 : 1

授業形式 : 演習

曜時 : 水曜1限

履修可能学科・専攻 : Pe Pc C W F N M

関連資格 : 教職 保育

AL要素 : 07 発表

授業の概要 : 英語を機能的な面に着目して学習します。具体的には
「対人性(どれほど確実/自信のあるメッセージか?)」
「写実性(現実的な話か? 追憶/想像などのイメージか?)」
「組織性(どういう会話の展開か?)」
という3つの層で英語を捉え直します。
実際の授業では、ビデオなどによるポイント学習、その後Speaking/Writingを中心とするアク

ティビティを行います。

また、コースの後半にプレゼンテーション課題があります。課題は文字のない絵本にナレーションをつけてグループで発表します。内容のまとめ方/表現/発音やリズムを評価ポイントとします。

キーワード: 英語、英語のリズム、英語のトーン、英語の機能

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標: 自分にしか言えないことを、誰にでも通じるように英語で表現できる

評価方法: 授業内での提出物、期末試験

評価割合: 30%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標: ある場面状況で「何を」言うべきか?をまとめて表現することができる。

評価方法: 授業内での提出物、期末試験

評価割合: 30%

▼ 学修に主体的に取り組む態度

授業では、「例文」をもとにした英訳和訳はあまり扱いません。その反対に、ある場面状況で自分なら何を言うか?のような「意味」を生み出すことを要求します。授業で与えられた課題に対しての能動的な参加・関与が求められます。

評価割合: 30%

▼ 実践的ボランティア

自律的な英語学習者になる。

評価割合: 5%

▼ 公正性

グループワークにおいて協働して成果を出すことができる。

評価割合: 5%

▼ その他

特になし。

評価割合: 特になし。

授業計画:

- 01 オリエンテーション / 英語の情報単位の確認
- 02 【対人性】情報の確かさ(MOOD)
- 03 【対人性】MOODを担う助動詞
- 04 【写実性】動詞の活用
- 05 【写実性】事実か想念か?(動詞時制の機能)
- 06 【写実性】動詞の時制の練習
- 07 【組織性】情報を積み重ねる(CLAUSE COMPLEX)
- 08 【組織性】CLAUSE COMPLEXの練習(1)
- 09 【組織性】CLAUSE COMPLEXの練習(2)
- 10 総合演習: 動画の字幕翻訳(1)
- 11 総合演習: 絵本の日本語訳(1)
- 12 総合演習: 指示文書の読解
- 13 総合演習: 動画の字幕翻訳(2)
- 14 総合演習: 絵本の日本語訳(2)
- 15 プレゼンテーション発表
期末テスト

使用テキスト: テキストは授業毎に配布します。

予習・復習のポイントと ・授業毎のアサインメント(英作文など)

参考文献・資料等: ・授業はSpeaking/Listening中心ですが、その中で触れられる表現や語彙などの復習
・プレゼン課題の事前練習

障がいのある履修者への対応：可能な限り対応します。

授業時間外の連絡手段：学務部に問い合わせてください。

留意事項：特になし。

科目コード：10061 科目ナンバリング： 主な使用言語：日本語

授業名(英文)：総合英語IV b (General English IV b)

担当者：井上 まゆみ

基本情報

年次：2

単位数：1

授業形式：演習

曜時：月曜3限

履修可能学科・専攻：Pe Pc C W F N M

関連資格：教職 保育

AL要素：17. 発問と回答

授業の概要： この授業は、世界中で起こる現代社会のさまざまな問題に関する英文を読みながら、基礎的な語彙力と文法的知識を身に着けることを目的としています。また、英文の重要情報を読み取る練習を行いながら、各課のテーマについて理解を深めていきます。

キーワード： AFP World News

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 教科書の内容が理解でき、関連する重要構文と単語を使って英文を80パーセント組み立てることができる

評価方法： 定期試験

評価割合： 50%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 現代社会で話題になっていることについて英語で考え、自分の意見を述べることができる。

評価方法： 定期試験

評価割合： 30%

▼学修に主体的に取り組む態度

e-Learning課題を期日までに行う。

評価割合： 20%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。

評価割合： 0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。

評価割合： 0%

▼その他

特になし

評価割合： 特になし

授業計画：

第1回	オリエンテーション
第2回	Lesson 9 Vegetarians vs Meat Eaters
第3回	Lesson 10 Endangered Species vs Diplomacy
第4回	Lesson 10 Endangered Species vs Diplomacy
第5回	Lesson 11 Old vs New Industries
第6回	Lesson 11 Old vs New Industries
第7回	Lesson 12 Needed vs Not Needed
第8回	Lesson 12 Needed vs Not Needed

- 第9回 Lesson 13 Traditional vs Innovative
- 第10回 Lesson 13 Traditional vs Innovative
- 第11回 Lesson 14 Climate Change vs Natural Cycle
- 第12回 Lesson 14 Climate Change vs Natural Cycle
- 第13回 Lesson 15 Natural vs Artificial
- 第14回 Lesson 15 Natural vs Artificial
- 第15回 Lesson 16 Archeology vs Treasure Hunting まとめ
- 定期試験

使用テキスト: Makoto Shishido, Kevin Murphy and Mariko Takahashi. "AFP World News Report 6"
(Seibido 2022年)

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 教科書付属のDVDを事前に視聴し、語彙を調べてくること(60分)。
教科書に連動したe-Learningを使って学習した内容を復習してくること(90分)。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応します

授業時間外の連絡手段: 初回の授業でお知らせします。

留意事項: なし

科目コード: 10061 **科目ナンバリング:** **主な使用言語:** 日本語

授業名(英文): 総合英語IV c (General English IV c)

担当者: 井上 まゆみ

基本情報

年次: 2 **単位数:** 1 **授業形式:** 演習
曜時: 月曜4限 **履修可能学科・専攻:** Pe Pc C W F N M
関連資格: 教職 保育 **AL要素:** 17. 発問と回答

授業の概要: この授業は、世界中で起こる現代社会のさまざまな問題に関する英文を読みながら、基礎的な語彙力と文法的知識を身に着けることを目的としています。また、英文の重要情報を読み取る練習を行いながら、各課のテーマについて理解を深めていきます。

キーワード: AFP World News

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標: 教科書の内容が理解でき、関連する重要構文と単語を使って英文を80パーセント組み立てることができる

評価方法: 定期試験 **評価割合:** 50%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標: 現代社会で話題になっていることについて英語で考え、自分の意見を述べるができる。

評価方法: 定期試験 **評価割合:** 30%

▼ 学修に主体的に取り組む態度

e-Learning課題を期日までに行う。

評価割合: 20%

▼ 実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。

評価割合: 0%

▼ 公正性

直接的な評価対象とはしない。

評価割合：0%

▼その他

特になし

評価割合：特になし

授業計画： 第1回 オリエンテーション
第2回 Lesson 9 Vegetarians vs Meat Eaters
第3回 Lesson 10 Endangered Species vs Diplomacy
第4回 Lesson 10 Endangered Species vs Diplomacy
第5回 Lesson 11 Old vs New Industries
第6回 Lesson 11 Old vs New Industries
第7回 Lesson 12 Needed vs Not Needed
第8回 Lesson 12 Needed vs Not Needed
第9回 Lesson 13 Traditional vs Innovative
第10回 Lesson 13 Traditional vs Innovative
第11回 Lesson 14 Climate Change vs Natural Cycle
第12回 Lesson 14 Climate Change vs Natural Cycle
第13回 Lesson 15 Natural vs Artificial
第14回 Lesson 15 Natural vs Artificial
第15回 Lesson 16 Archeology vs Treasure Hunting まとめ
定期試験

使用テキスト： Makoto Shishido, Kevin Murphy and Mariko Takahashi. "AFP World News Report 6"
(Seibido 2022年)

予習・復習のポイントと 教科書付属のDVDを事前に視聴し、語彙を調べてくること(60分)。
参考文献・資料等： 教科書に連動したe-Learningを使って学習した内容を復習してくること(90分)。

障がいのある 可能な限り対応します
履修者への対応：

授業時間外の連絡手段： 初回の授業でお知らせします。

留意事項： なし

科目コード：10061 科目ナンバリング： 主な使用言語：日本語

授業名(英文)： 総合英語IV d (General English IV d)

担当者： 井上 まゆみ

基本情報

年次：2

単位数：1

授業形式：演習

曜時：火曜4限

履修可能学科・専攻： Pe Pc C W F N M

関連資格：教職 保育

AL要素：17. 発問と回答

授業の概要： この授業は、世界中で起こる現代社会のさまざまな問題に関する英文を読みながら、基礎的な語彙力と文法的知識を身に着けることを目的としています。また、英文の重要情報を読み取る練習を行いながら、各課のテーマについて理解を深めていきます。

キーワード： AFP World News

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 教科書の内容が理解でき、関連する重要構文と単語を使って英文を80パーセント組み立てることができる

評価方法： 定期試験

評価割合：50%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 現代社会で話題になっていることについて英語で考え、自分の意見を述べることができる。

評価方法： 定期試験

評価割合： 30%

▼学修に主体的に取り組む態度

e-Learning課題を期日までに行う。

評価割合： 20%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。

評価割合： 0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。

評価割合： 0%

▼その他

特になし

評価割合： 特になし

授業計画：

第1回	オリエンテーション
第2回	Lesson 9 Vegetarians vs Meat Eaters
第3回	Lesson 10 Endangered Species vs Diplomacy
第4回	Lesson 10 Endangered Species vs Diplomacy
第5回	Lesson 11 Old vs New Industries
第6回	Lesson 11 Old vs New Industries
第7回	Lesson 12 Needed vs Not Needed
第8回	Lesson 12 Needed vs Not Needed
第9回	Lesson 13 Traditional vs Innovative
第10回	Lesson 13 Traditional vs Innovative
第11回	Lesson 14 Climate Change vs Natural Cycle
第12回	Lesson 14 Climate Change vs Natural Cycle
第13回	Lesson 15 Natural vs Artificial
第14回	Lesson 15 Natural vs Artificial
第15回	Lesson 16 Archeology vs Treasure Hunting まとめ 定期試験

使用テキスト： Makoto Shishido, Kevin Murphy and Mariko Takahashi. "AFP World News Report 6"
(Seibido 2022年)

予習・復習のポイントと 教科書付属のDVDを事前に視聴し、語彙を調べてくること(60分)。
参考文献・資料等： 教科書に連動したe-Learningを使って学習した内容を復習してくること(90分)。

障がいのある 可能な限り対応します
履修者への対応：

授業時間外の連絡手段： 初回の授業でお知らせします。

留意事項： なし

科目コード：10061 科目ナンバリング： 主な使用言語：英語と日本語

授業名(英文)： 総合英語IV e (General English IV e)

担当者： 岩重 理香

基本情報

年次：2

単位数：1

授業形式：演習

曜時：火曜2限

履修可能学科・専攻： Pe Pc C W F N M

関連資格：教職 保育

AL要素：07. 発表
11. 討論
13. 役割演技と疑似体験
17. 発問と応答

授業の概要： テキストの各ユニットで提示されるトピックに沿って、自分自身のこと、身の回りの出来事を英語で「書く」実践的活動を行う中で、以下のことを意識して学習を進めていきます。

- ・トピックに沿ったモデル文書を読むことで、英語の語彙や基本的な文法知識を強化を図ります。
- ・トピックに沿った短いモデルパッセージの音声を聞いて、英語音声の特徴を意識しながら音読練習を実施することで英語音声聞き取る力、理解する力の強化を図ります。
- ・自分自身のことを相手に伝えたり、相手のことを知るためのコミュニケーションのための作文、また、その作文をもとにした相互発表の練習を行い、英語での情報発信力の強化を図ります。

キーワード： リーディング、ライティング、リスニング、リピーティング、シャドウイング、スラッシュリーディング

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： ・テキストで学習した単語や英語表現に関するquizに答えることが80%できる。

- ・テキストで学習した単語や英語表現を用いて、与えられたトピックに沿った英作文が80%できる。

評価方法： ユニットごとの英作文、音読、英文読解(スラッシュリーディング)の課題。 **評価割合：50%**

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 学習した英語表現を用いて自分自身の事や自分の考えを表現した英作文ができる。
自身が作成した英作文を発表することができる。
クラスメイトの英作文や発表を客観的に評価できる。

評価方法： 3ユニットごとに出题されるまとめの作文。 **評価割合：25%**
作文の作成過程でのピアチェック。
自身の作文をもとにしたグループプレゼンテーション。

▼学修に主体的に取り組む態度

各Unitでテキストのモデルパッセージを?本の?声に合わせて?読するタスクを出題する。タスクへの取り組み態度(振り返り、各?での課題設定など)と達成度合いで評価する。

評価割合：25%

▼実践的ボランティア

特になし。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただしテストや提出物の作成においてカンニング等の不正行為があった場合は、減点の対象となる。

評価割合：0%

▼その他

特になし。

評価割合：特になし。

授業計画： 受講生の英語力を考慮しながら、次の予定を進めていく。

- 1 Unit 7 Isn't it exciting to go out?
- 2 Unit 7 Isn't it exciting to go out?
- 3 Unit 8 My memorial pictures
- 4 Unit 8 My memorial pictures
- 5 Unit 9 What I experienced
- 6 Unit 9 What I experienced / Write your story
- 7 Group presentation /Unit 10 How long did you sleep?
- 8 Unit 10 How long did you sleep?
- 9 Unit 11 I like tennis best
- 10 Unit 11 I like tennis best
- 11 Unit 12 In my opinion
- 12 Unit 12 In my opinion
- 13 Survey and write your story
- 14 Write your story /Class Presentation
- 15 Class Presentation

使用テキスト： Yoji Kudo, Dean Poland (2017) "Have Fun Writing" 金星堂

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： テキストを購入したら、音声を必ずダウンロードして、自宅や通学途中に聞くことのできる環境を整えること。
授業前に教科書に出てくるわからない語句等は辞書で下調べをしておくこと。
課題の提出にはオンライン学習支援システムを使用します。
授業には必ずテキストと辞書を持参する。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡して下さい。

授業時間外の連絡手段： メールにて対応します。メールアドレスは初回にお知らせします。

留意事項： 特になし。

科目コード：10061 科目ナンバリング： 主な使用言語：英語、日本語

授業名(英文)：総合英語IV f(General English IV f)

担当者：黒澤 東

基本情報

年次：2

単位数：1

授業形式：演習

曜時：水曜2限

履修可能学科・専攻：Pe Pc C W F N M

関連資格：教職 保育

AL要素：07 発表

授業の概要： 英語を機能的な面に着目して学習します。具体的には
「対人性(どれほど確実/自信のあるメッセージか?)」
「写実性(現実的な話か? 追憶/想像などのイメージか?)」
「組織性(どうい会話の展開か?)」
という3つの層で英語を捉え直します。
実際の授業では、ビデオなどによるポイント学習、その後Speaking/Writingを中心とするアクティビティを行います。
また、コースの後半にプレゼンテーション課題があります。課題は文字のない絵本にナレーションをつけてグループで発表します。内容のまとめ方/表現/発音やリズムを評価ポイントとします。

キーワード： 英語、英語のリズム、英語のトーン、英語の機能

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標: 自分にしか言えないことを、誰にでも通じるように英語で表現できる

評価方法: 授業内での提出物、期末試験 **評価割合:** 30%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標: ある場面状況で「何を」言うべきか?をまとめ上げて表現することができる。

評価方法: 授業内での提出物、期末試験 **評価割合:** 30%

▼ 学修に主体的に取り組む態度

授業では、「例文」をもとにした英訳和訳はあまり扱いません。その反対に、ある場面状況で自分なら何を言うか?のような「意味」を生み出すことを要求します。授業で与えられた課題に対しての能動的な参加・関与が求められます。

評価割合: 30%

▼ 実践的ボランティア

自律的な英語学習者になる。

評価割合: 5%

▼ 公正性

グループワークにおいて協働して成果を出すことができる。

評価割合: 5%

▼ その他

特になし。

評価割合: 特になし。

- 授業計画:**
- 01 オリエンテーション / 英語の情報単位の確認
 - 02 【対人性】情報の確かさ(MOOD)
 - 03 【対人性】MOODを担う助動詞
 - 04 【写実性】動詞の活用
 - 05 【写実性】事実か想念か?(動詞時制の機能)
 - 06 【写実性】動詞の時制の練習
 - 07 【組織性】情報を積み重ねる(CLAUSE COMPLEX)
 - 08 【組織性】CLAUSE COMPLEXの練習(1)
 - 09 【組織性】CLAUSE COMPLEXの練習(2)
 - 10 総合演習: 動画の字幕翻訳(1)
 - 11 総合演習: 絵本の日本語訳(1)
 - 12 総合演習: 指示文書の読解
 - 13 総合演習: 動画の字幕翻訳(2)
 - 14 総合演習: 絵本の日本語訳(2)
 - 15 プレゼンテーション発表
期末テスト

使用テキスト: テキストは授業毎に配布します。

予習・復習のポイント ・授業毎のアサインメント(英作文など)

参考文献・資料等: ・授業はSpeaking/Listening中心ですが、その中で触れられる表現や語彙などの復習
・プレゼン課題の事前練習

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応します。

授業時間外の連絡手段: 学務部に問い合わせてください。

留意事項: 特になし。

科目コード:10061

科目ナンバリング:

主な使用言語:英語と日本語

授業名(英文):総合英語IV g(General English IV g)

担当者:高木 有美

基本情報

年次:2

単位数:1

授業形式:演習

曜時:金曜2限

履修可能学科・専攻: Pe Pc C W F N M

関連資格:教職 保育

AL要素:07.発表

11.討論

16.振り返り用紙と応答

17.発問と回答

授業の概要: この授業は、身近な話題を扱いながら、「聞く」「話す」「読む」「書く」の4技能を総合的に高めることを目的とする。教科書の会話やエッセイを読み、関連するスピーチを聞いたりしながら、新しいものの見方に触れ、英語のコミュニケーションのルールについても学ぶ。またトピックに対する自らの考えを書いたり、話したりする中で自分について考え、積極的に他者と関わろうとする態度や英語使用者としての自信を養う。

キーワード: 音読、読解、語彙、英作文、コミュニケーション

学位授与方針との関係

▼知識・技能

- 到達目標:**
- ・意味のまとまりや発音、抑揚に気をつけながら音読ができる。
 - ・身近なトピックに関連する英単語や表現を理解し、正しく使うことができる。
 - ・文章の要旨を自分の言葉で説明できる。

評価方法: 復習テスト

評価割合: 30%

▼思考力・判断力・表現力

- 到達目標:**
- ・相手に分かりやすい内容や表現、構成を考え、自分の考えを明確に伝えられる。
 - ・状況に見合った声のトーンや表情、ジェスチャーを使うことができる。
 - ・キーワードや視覚、聴覚要素を使い、内容を分かりやすく伝えられる。

評価方法: 口頭発表

評価割合: 20%

▼学修に主体的に取り組む態度

- ・毎回授業の振り返りを行い、新たに発見した点、分からなかった点を明らかにする。
- ・自律的学習を通して、英語コミュニケーション能力の向上に努めると同時に、興味のあるトピック、将来のキャリアに関連する分野に関して常に新しい情報を集める。

評価割合: 50%

▼実践的ボランティア

トピックに関する自らの意見を発信し、互いの理解や学びにつながるよう努める。

評価割合: 0%

▼公正性

授業内には、公平で前向きな態度でのぞむこと。不正行為はしない。

評価割合: 0%

▼その他

特になし

評価割合: 特になし

授業計画: 第01回: シラバスを使った授業の説明とガイダンス

第02回: Unit 8: Diets (1)

第03回: Unit 8: Diets (2)

第04回: Unit 12: Productivity (1)

- 第05回: Unit 12: Productivity (2)
- 第06回: Review test 1& Presentation preparation
- 第07回: Unit 17: Stress (1)
- 第08回: Unit 17: Stress (2)
- 第09回: Unit 20: Gender equality (1)
- 第10回: Unit 20: Gender equality (2)
- 第11回: Review test 2& Presentation preparation
- 第12回: Presentation Rehearsal
- 第13回: Presentation?Day 1
- 第14回: Presentation?Day 2
- 第15回: Presentation?Day 3, Course wrap-up

使用テキスト: Esther Waer, Uchida Masakatsu, Kameyama Hiroyuki 著、Companion to English Communication (大学生のための英語コミュニケーション入門)、Nan'un Do, 2021年

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: (予習) 教科書の音声を使って、カバーするユニットの会話やエッセイを何度も聞き、発音や抑揚を真似ながら音読をする。分からない単語は辞書で調べておく。教科書の練習問題は解いておき、会話やディスカッションの設問への答えも予め考えておく。
(復習) 授業後は学んだ内容や語彙を復習し、エッセイを自分の言葉で要約しておく。授業内で紹介されたスピーチやプレゼンテーションは、最初は日本語の字幕、次に英語の字幕を使ってきくとよい。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください。

授業時間外の連絡手段: オフィスアワーに研究室で対応します。曜日・時限等については初回にお知らせします。大学のメールシステムでも連絡ができます。

留意事項: ・この授業は基本的に英語で行われますが、必要があれば日本語でも説明される。
・授業に関するお知らせ、配布物、履修者からの課題の提出や、教員からのフィードバック(評価、コメントなど)には Microsoft Teamsを使用する。
・インターネットに接続できる端末(ラップトップ・コンピューター、スマートフォン、タブレット等)を毎回できるだけ持参すること。

科目コード:10061 **科目ナンバリング:** **主な使用言語:日本語|英語**

授業名(英文): 総合英語IV h (General English IV h)

担当者: 君塚 淳一

基本情報

年次: 2

単位数: 1

授業形式: 演習

曜時: 月曜1限

履修可能学科・専攻: Pe Pc C W F N M

関連資格: 教職 保育

AL要素: 課題演習
プレゼン

授業の概要: アメリカンポップカルチャー(アメリカ大衆文化)についての読みやすい英文のテキストを使い、高校までとは異なる英文の読み方で、わかりやすく内容を解説し、また文法も復習しながら読んでいく。同時に課題として、アメリカ大衆文化を扱う英文や画像も取り入れて、多面的に英語を学んでもらいます。
また総合教材を使用するので、Exerciseも各Unitの巻末にあるしますので、行います。

キーワード: アメリカン・ポップ・カルチャー、英文理解、文法復習

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標: 英文の文体を理解し、専門用語 が分かれば、内容が読み解ける。

評価方法: レポート

評価割合: 40%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 読んだ英文から、自分の意見を持ち、学んだ語彙や表現を用いた英文で発信ができる。

評価方法: 期末試験

評価割合: 60%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし毎回提出してもらいうりアクションペーパーと学期末試験の記述内容に成果が認められる場合は、上記項目の「思考力・判断力・表現力」の評価の対象にすることもある。

評価割合: 0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただし毎回提出してもらいうりアクションペーパーと学期末試験の記述内容に成果が認められる場合は、上記項目の「思考力・判断力・表現力」の評価の対象にすることもある。

評価割合: 0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし毎回提出してもらいうりアクションペーパーと学期末試験の記述内容に成果が認められる場合は、上記項目の「思考力・判断力・表現力」の評価の対象にすることもある。

評価割合: 0%

▼その他

特になし。

評価割合: 特になし。

- 授業計画:**
- 第1回 Entertainment Capital of the World- Las Vegas (1)
 - 第2回 Entertainment Capital of the World- Las Vegas (2)Exerciseと関係英文Reading
 - 第3回 The Cartoon Kingdom- Disneyworld (1)
 - 第4回 The Cartoon Kingdom- Disneyworld (2)Exerciseと関係英文Reading
 - 第5回 American Cyber-Culture- Video Games (1)
 - 第6回 American Cyber-Culture- Video Games (2)Exerciseと関係英文Reading
 - 第7回 America's National Pastime- Major League Baseball (MLB) (1)
 - 第8回 America's National Pastime- Major League Baseball (MLB) (2)Exerciseと関係英文Reading
 - 第9回 America's TV Sport-The National Football League (NFL) (1)
 - 第10回 America's TV Sport- The National Football League (NFL) (2)Exerciseと関係英文Reading
 - 第11回 America's Hoop Sport- The National Basket Association (NBA) (1)
 - 第12回 America's Hoop Sport- The National Basket Association (NBA) (2)Exerciseと関係英文Reading
 - 第13回 America's Ice Sport- The National Hockey League (NHL) Exerciseと関係英文Reading
 - 第14回 An Elite Sport Is popularized- The United States Tennis Association (USTAS) Exerciseと関係英文Reading
 - 第15回まとめ&学生によるプレゼン
定期試験

使用テキスト: Enjoying American Pop Culture American 朝日出版 ISBN978-4-255-15478-7 1800.
必要に応じてプリント配布、後期に追加もある。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 必ず不安な語彙や表現は辞書で予習すること。また課題英文なども出すので同様に。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応しますので、学務部などに連絡ください。

授業時間外の連絡手段: 曜日、時間については初回に連絡します。

留意事項: 特になし。

科目コード : 10061

科目ナンバリング :

主な使用言語 : 英語、日本語

授業名(英文) : 総合英語IV i (General English IV i)

担当者 : 黒澤 東

基本情報

年次 : 2

単位数 : 1

授業形式 : 演習

曜時 : 木曜4限

履修可能学科・専攻 : Pe Pc C W F N M

関連資格 : 教職 保育

AL要素 : 07 発表

授業の概要 : 英語を機能的な面に着目して学習します。具体的には
「対人性(どれほど確実/自信のあるメッセージか?)」
「写実性(現実的な話か? 追憶/想像などのイメージか?)」
「組織性(どういう会話の展開か?)」
という3つの層で英語を捉え直します。
実際の授業では、ビデオなどによるポイント学習、その後Speaking/Writingを中心とするアクティビティを行います。
また、コースの後半にプレゼンテーション課題があります。課題は文字のない絵本にナレーションをつけてグループで発表します。内容のまとめ方/表現/発音やリズムを評価ポイントとします。

キーワード : 英語、英語のリズム、英語のトーン、英語の機能

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標 : 自分にしか言えないことを、誰にでも通じるように英語で表現できる

評価方法 : 授業内での提出物、期末試験

評価割合 : 30%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標 : ある場面状況で「何を」言うべきか? をまとめ上げて表現することができる。

評価方法 : 授業内での提出物、期末試験

評価割合 : 30%

▼ 学修に主体的に取り組む態度

授業では、「例文」をもとにした英訳和訳はあまり扱いません。その反対に、ある場面状況で自分なら何を言うか? のような「意味」を生み出すことを要求します。授業で与えられた課題に対しての能動的な参加・関与が求められます。

評価割合 : 30%

▼ 実践的ボランティア

自律的な英語学習者になる。

評価割合 : 5%

▼ 公正性

グループワークにおいて協働して成果を出すことができる。

評価割合 : 5%

▼ その他

特になし。

評価割合 : 特になし。

授業計画 : 01 オリエンテーション / 英語の情報単位の確認
02 【対人性】情報の確かさ(MOOD)
03 【対人性】MOODを担う助動詞
04 【写実性】動詞の活用

- 05 【写実性】事実か想念か?(動詞時制の機能)
- 06 【写実性】動詞の時制の練習
- 07 【組織性】情報を積み重ねる(CLAUSE COMPLEX)
- 08 【組織性】CLAUSE COMPLEXの練習(1)
- 09 【組織性】CLAUSE COMPLEXの練習(2)
- 10 総合演習: 動画の字幕翻訳(1)
- 11 総合演習: 絵本の日本語訳(1)
- 12 総合演習: 指示文書の読解
- 13 総合演習: 動画の字幕翻訳(2)
- 14 総合演習: 絵本の日本語訳(2)
- 15 プレゼンテーション発表
期末テスト

使用テキスト: テキストは授業毎に配布します。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: ・授業毎のアサインメント(英作文など)
 ・授業はSpeaking/Listening中心ですが、その中で触れられる表現や語彙などの復習
 ・プレゼン課題の事前練習

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応します。

授業時間外の連絡手段: 学務部に問い合わせてください。

留意事項: 特になし。

科目コード: 10061

科目ナンバリング:

主な使用言語:

授業名(英文): 総合英語IV (認定用)(General English IV)

担当者: 教務委員会

基本情報

年次: 2

単位数: 1

授業形式: 演習

曜時: 集中講義

履修可能学科・専攻: Pe Pc C W F N M

関連資格: 教職 保育

AL要素:

授業の概要:

キーワード:

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標:

評価方法:

評価割合:

▼思考力・判断力・表現力

到達目標:

評価方法:

評価割合:

▼学修に主体的に取り組む態度

評価割合:

▼実践的ボランティア

評価割合:

▼公正性

評価割合:

▼その他

評価割合：

授業計画：

使用テキスト：

予習・復習のポイントと
参考文献・資料等：

障がいのある
履修者への対応：

授業時間外の連絡手段：

留意事項：

科目コード：10065 科目ナンバリング：LA11B03E 主な使用言語：日本語|ドイツ語

授業名(英文)：ドイツ語IA a(German IA a)

担当者：細谷 瑞枝

基本情報

年次：1

単位数：1

授業形式：演習

曜時：月曜4限

履修可能学科・専攻： E Pe Pc C W F N M

関連資格：

AL要素：17. 発問と回答

授業の概要： 初めてドイツ語を学ぶ学生が、ドイツ語の仕組みを理解できるよう教科書に沿って、文法事項を説明します。次に読んだり、話したりして知識を定着させます。本学のドイツ語は、2年をかけて初級文法を終わめますので、授業のスピードはゆっくりです。新しい外国語を楽しみながら身につけましょう。

キーワード： ドイツ語の読み方と発音、人称代名詞、動詞の現在人称変化、名詞の性・数・格、定冠詞、不定冠詞、命令法

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： ドイツ語の人称代名詞・名詞・冠詞類・動詞の現在人称変化について理解している。

評価方法： 授業中の発問に対する回答及び小テスト **評価割合：** 60%
並びに学期末試験

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 初歩のドイツ語の文を作ることができる。また独文和訳することができる。

評価方法： 授業中の発問に対する回答および小テスト **評価割合：** 30%
並びに前期末試験

▼学修に主体的に取り組む態度

授業時の回答や宿題などの課題に取り組む姿勢を評価対象とする。

評価割合： 10%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただし異文化に触れるボランティア活動等の実践により深められた知見等

が、授業時の回答あるいは学期末試験の記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし授業中の発言や筆記試験の記述等において人権侵害・差別的発言、あるいは異文化理解に欠ける発言など著しく公正性を欠く言動があった場合は、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。カンニング等の不正行為は、学則にのっとり厳正に処罰する。

評価割合：0%

▼その他

特になし。

評価割合：特になし。

授業計画：

- 第1回 アルファベット
- 第2回 発音とあいさつ
- 第3回 Lektion1 動詞の現在人称変化(1)
- 第4回 Lektion1 動詞の現在人称変化(1)
- 第5回 Lektion1 動詞の現在人称変化(1)
- 第6回 Lektion2 名詞と冠詞の格変化
- 第7回 Lektion2 名詞と冠詞の格変化
- 第8回 Lektion2 名詞と冠詞の格変化
- 第9回 Lektion3 名詞の複数形・人称代名詞
- 第10回 Lektion3 名詞の複数形・人称代名詞
- 第11回 Lektion3 名詞の複数形・人称代名詞
- 第12回 Lektion4 動詞の現在人称変化(2)・命令法
- 第13回 Lektion4 動詞の現在人称変化(2)・命令法
- 第14回 Lektion4 動詞の現在人称変化(2)・命令法
- 第15回 前期の復習・確認

使用テキスト：『身につくドイツ文法<leicht>2 Deutsch Grammatik System und Praxis<leicht>2』 郁文堂 2600円＋税

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 予習としては、教科書の文法説明を読み、独和辞典を使って練習問題を予め自分で解いてみましょう。(1時間)
復習としては、何よりも毎回の宿題に取り組みましょう。宿題は、Teamsの課題機能を使い、次の授業までに採点して返却しますので、間違えたところを確認し、正解をもう一度考えてみましょう。新しく習った単語を少しずつ覚えていくこと、意味が分からなくても、とりあえず声に出してテキストを読んでみることもおすすめです。(1時間)
独和辞典・参考書等は、授業時に紹介します。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応しますので、担当者に直接お話しください。

授業時間外の連絡手段： オフィスアワーに対応します。曜日・時限等については初回にお知らせします。あらかじめメールなどで連絡をしてくれると、確実です。
メールやTeamsのチャットでの連絡は、随時受けつけます。

留意事項： ドイツ語 I Bを同時履修すること。
独和辞典を用意したら、毎回授業に持参すること。
「ドイツ語 I A」は、3クラスあり、小沼喜好と細谷瑞枝が担当し、同じ教科書を使い、大体同じ速度で進めます。学期末には、3クラス合同で「ドイツ語 I A共通試験」を行います。この試験は通常の授業時間とは異なる時間帯に実施しますので、注意してください。
なお、授業中にしばしばFormsを使った練習問題をやりますので、スマホでも対応はできますが、できる

限りPCを持参してください。

科目コード:10065 科目ナンバリング:LA11B03E 主な使用言語:日本語|ドイツ語

授業名(英文):ドイツ語IA b(German IA b)

担当者:細谷 瑞枝

基本情報

年次:1

単位数:1

授業形式:演習

曜時:月曜5限

履修可能学科・専攻: E Pe Pc C W F N M

関連資格:

AL要素: 17. 発問と回答

授業の概要: 初めてドイツ語を学ぶ学生が、ドイツ語の仕組みを理解できるよう教科書に沿って、文法事項を説明します。次に読んだり、話したりして知識を定着させます。本学のドイツ語は、2年をかけて初級文法を終えますので、授業のスピードはゆっくりです。新しい外国語を楽しみながら身につけましょう。

キーワード: ドイツ語の読み方と発音、人称代名詞、動詞の現在人称変化、名詞の性・数・格、定冠詞、不定冠詞、命令法

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標: ドイツ語の人称代名詞・名詞・冠詞類・動詞の現在人称変化について理解している。

評価方法: 授業中の発問に対する回答及び小テスト **評価割合:** 60%
並びに学期末試験

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 初歩のドイツ語の文を作ることができる。また独文和訳することができる。

評価方法: 授業中の発問に対する回答および小テスト **評価割合:** 30%
並びに前期末試験

▼学修に主体的に取り組む態度

授業時の回答や宿題などの課題に取り組む姿勢を評価対象とする。

評価割合: 10%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただし異文化に触れるボランティア活動等の実践により深められた知見等が、授業時の回答あるいは学期末試験の記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合: 0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし授業中の発言や筆記試験の記述等において人権侵害・差別的発言、あるいは異文化理解に欠ける発言など著しく公正性を欠く言動があった場合は、減点や厳重注意の対象となるので注意すること。カンニング等の不正行為は、学則にのっとり厳正に処罰する。

評価割合: 0%

▼その他

特になし。

評価割合：特になし。

授業計画： 第1回 アルファベット
第2回 発音とあいさつ
第3回 Lektion1 動詞の現在人称変化(1)
第4回 Lektion1 動詞の現在人称変化(1)
第5回 Lektion1 動詞の現在人称変化(1)
第6回 Lektion2 名詞と冠詞の格変化
第7回 Lektion2 名詞と冠詞の格変化
第8回 Lektion2 名詞と冠詞の格変化
第9回 Lektion3 名詞の複数形・人称代名詞
第10回 Lektion3 名詞の複数形・人称代名詞
第11回 Lektion3 名詞の複数形・人称代名詞
第12回 Lektion4 動詞の現在人称変化(2)・命令法
第13回 Lektion4 動詞の現在人称変化(2)・命令法
第14回 Lektion4 動詞の現在人称変化(2)・命令法
第15回 前期の復習・確認

使用テキスト：『身につくドイツ文法<leicht>2 Deutsch Grammatik System und Praxis<leicht>2』 郁文堂 2600円＋税

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 予習としては、教科書の文法説明を読み、独和辞典を使って練習問題を予め自分で解いてみましょう。(1時間)
復習としては、何よりも毎回の宿題に取り組みましょう。宿題は、Teamsの課題機能を使い、次の授業までに採点して返却しますので、間違えたところを確認し、正解をもう一度考えてみましょう。新しく習った単語を少しずつ覚えていくこと、意味が分からなくても、とりあえず声に出してテキストを読んでみることもおすすめです。(1時間)
独和辞典・参考書等は、授業時に紹介します。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応しますので、担当者に直接お話しください。

授業時間外の連絡手段： オフィスアワーに対応します。曜日・時限等については初回にお知らせします。あらかじめメールなどで連絡をしてくれると、確実です。
メールやTeamsのチャットでの連絡は、随時受け付けます。

留意事項： ドイツ語 I Bを同時履修すること。
独和辞典を用意したら、毎回授業に持参すること。
「ドイツ語 I A」は、3クラスあり、小沼喜好と細谷瑞枝が担当し、同じ教科書を使い、大体同じ速度で進めます。学期末には、3クラス合同で「ドイツ語 I A共通試験」を行います。この試験は通常の授業時間とは異なる時間帯に実施しますので、注意してください。
なお、授業中にしばしばFormsを使った練習問題をやりますので、スマホでも対応はできますが、できる限りPCを持参してください。

科目コード：10065 科目ナンバリング：LA11B03E 主な使用言語：日本語|ドイツ語

授業名(英文)：ドイツ語IA c(German IA c)

担当者：小沼 喜好

基本情報

年次：1

単位数：1

授業形式：演習

曜時：水曜5限

履修可能学科・専攻：E Pe Pc C W F N M

関連資格：**AL要素：** 17. 発問と回答

授業の概要： 初めてドイツ語を学ぶ学生が、ドイツ語の仕組みを理解できるよう教科書に沿って、文法事項を説明します。次に読んだり、話したりして知識を定着させます。本学のドイツ語は、2年をかけて初級文法を終えますので、授業のスピードはゆっくりです。新しい外国語を楽しみながら身につけましょう。

キーワード： ドイツ語の読み方と発音、人称代名詞、動詞の現在人称変化、名詞の性・数・格、定冠詞、不定冠詞、命令法

学位授与方針との関係**▼知識・技能**

到達目標： ドイツ語の人称代名詞・名詞・冠詞類・動詞の現在人称変化について理解している。

評価方法： 授業中の発問に対する回答及び小テスト **評価割合：** 60%
並びに学期末試験

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 初歩のドイツ語の文を作ることができる。また独文和訳することができる。

評価方法： 授業中の発問に対する回答および小テスト **評価割合：** 30%
並びに前期末試験

▼学修に主体的に取り組む態度

授業時の回答や宿題などの課題に取り組む姿勢を評価対象とする。

評価割合： 10%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただし異文化に触れるボランティア活動等の実践により深められた知見等が、授業時の回答あるいは学期末試験の記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合： 0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし授業中の発言や筆記試験の記述等において人権侵害・差別的発言、あるいは異文化理解に欠ける発言など著しく公正性を欠く言動があった場合は、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。カンニング等の不正行為は、学則にのっとり厳正に処罰する。

評価割合： 0%

▼その他

特になし。

評価割合： 特になし。

授業計画： 第1回 アルファベット
第2回 発音とあいさつ
第3回 Lektion1 動詞の現在人称変化(1)
第4回 Lektion1 動詞の現在人称変化(1)
第5回 Lektion1 動詞の現在人称変化(1)
第6回 Lektion2 名詞と冠詞の格変化
第7回 Lektion2 名詞と冠詞の格変化
第8回 Lektion2 名詞と冠詞の格変化

- 第9回 Lektion3 名詞の複数形・人称代名詞
- 第10回 Lektion3 名詞の複数形・人称代名詞
- 第11回 Lektion3 名詞の複数形・人称代名詞
- 第12回 Lektion4 動詞の現在人称変化(2)・命令法
- 第13回 Lektion4 動詞の現在人称変化(2)・命令法
- 第14回 Lektion4 動詞の現在人称変化(2)・命令法
- 第15回 前期の復習・確認

使用テキスト: 『身につくドイツ文法<leicht>2 Deutsch Grammatik System und Praxis<leicht>2』 郁文堂 2600円＋税

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 予習としては、教科書の文法説明を読み、独和辞典を使って練習問題を予め自分で解いてみましょう。(1時間)
 復習としては、授業中の答え合わせで間違ったと分かった練習問題をなぜ間違えたのか考え、また、新しく習った単語を少しずつ覚え、意味が分からなくても、とりあえず声に出してテキストを読んでみましょう。(1時間)
 独和辞典・参考書等は、授業時に紹介します。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応しますので、まずは学務部に話してください。

授業時間外の連絡手段: 授業終了後、または教員のメールへの連絡

留意事項: ドイツ語 I Bを同時履修すること。
 独和辞典を用意したら、毎回授業に持参すること。
 「ドイツ語 I A」は、3クラスあり、小沼喜好と細谷瑞枝が担当し、同じ教科書を使い、大体同じ速度で進めます。学期末には、3クラス合同で「ドイツ語 I A共通試験」を行います。この試験は通常の授業時間とは異なる時間帯に実施しますので、注意してください。
 宿題が出されたときには、授業で答え合わせをした次の授業時間に紙に手書きで清書したものを提出してください。
 またUNIPAにあげた文法の詳しい説明と、ドイツ語圏およびヨーロッパ全般の文化に関する資料を授業中に見ますので、スマホでも対応はできますが、できる限りPCを持参してください。

科目コード: 10066 **科目ナンバリング:** LA12B03E **主な使用言語:** 日本語|ドイツ語

授業名(英文): ドイツ語IIA a(German IIA a)

担当者: 細谷 瑞枝

基本情報

年次: 1

単位数: 1

授業形式: 演習

曜時: 月曜4限

履修可能学科・専攻: E Pe Pc C W F N M

関連資格:

AL要素: 17.発問と回答

授業の概要: 話法の助動詞、未来形、分離・非分離動詞などドイツ語の文構造を理解する上で基本となる文法事項について、既習の知識を定着させながら学習します。練習問題を解いたり、読んだり、話したりして、理解した知識を確実に身につけ、使えるようにしましょう。

キーワード: 定冠詞類・不定冠詞類・前置詞・話法の助動詞・未来形・非人称動詞・分離動詞・接続詞

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標: ドイツ語の冠詞類の格変化・前置詞の格支配・話法の助動詞・未来形・分離・非分離動詞・接続詞の構文について理解している。

評価方法: 授業中の発問に対する回答及び小テスト
並びに学期末試験 **評価割合: 60%**

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 初歩のドイツ語の文を作ることができる。また、独文和訳することができる。

評価方法: 授業中の発問に対する回答及び小テスト **評価割合: 30%**
並びに学期末試験

▼学修に主体的に取り組む態度

授業時の回答や宿題などの課題に取り組む姿勢を評価対象とする。

評価割合: 10%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただし異文化に触れるボランティア活動等の実践により深められた知見等が、授業時の回答あるいは学期末試験の記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合: 0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし授業中の発言や筆記試験の記述等において人権侵害・差別的発言、あるいは異文化理解に欠ける発言など著しく公正性を欠く言動があった場合は、減点や厳重注意の対象となるので注意すること。カンニング等の不正行為は、学則にのっとり厳正に処罰する。

評価割合: 0%

▼その他

特になし。

評価割合: 特になし。

授業計画: 第1回 ドイツ語 I Aの復習
第2回 Lektion5 定冠詞類・不定冠詞類
第3回 Lektion5 定冠詞類・不定冠詞類
第4回 Lektion5 定冠詞類・不定冠詞類
第5回 Lektion6 前置詞
第6回 Lektion6 前置詞
第7回 Lektion6 前置詞
第8回 Lektion7 話法の助動詞・未来形・非人称動詞
第9回 Lektion7 話法の助動詞・未来形・非人称動詞
第10回 Lektion7 話法の助動詞・未来形・非人称動詞
第11回 Lektion7 話法の助動詞・未来形・非人称動詞
第12回 Lektion8 分離動詞と非分離動詞・接続詞
第13回 Lektion8 分離動詞と非分離動詞・接続詞
第14回 Lektion8 分離動詞と非分離動詞・接続詞
第15回 後期の復習・確認

使用テキスト: 『身につくドイツ文法<leicht>2 Deutsch Grammatik System und Praxis<leicht>2』 郁文堂 2600円＋税(前期のテキストを引き続き使用します)

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 予習としては、教科書の文法説明を読み、独和辞典を使って練習問題を予め自分で解いてみましょう。(1時間)

復習としては、何といても宿題を自分で解いてみるのが大切です。新しく習った単語も少しずつ覚えていきましょう。ドイツ語の文法は、積み重ね的などところがありますので、分からなくなったら教科書の前の方を読み返したり、担当者に質問してください。意味が分からなくても、とりあえず声に出して読んでみることもおすすめです。(1時間)

障がいのある履修者への対応: 可能な限り、対応しますので、担当者に直接お話しください。

授業時間外の連絡手段: オフィスアワーに対応します。曜日・時限等については初回にお知らせします。あらかじめメールなどで連絡をしてくれると、確実です。
メールやTeamsのチャットでの連絡は、随時受け付けます。

留意事項: ドイツ語 I Aを修得済みであること。また、ドイツ語 II Bを同時履修すること。
授業には、独和辞典を持参すること。
「ドイツ語 II A」は、3クラスあり、小沼喜好と細谷瑞枝が担当し、同じ教科書を使い、大体同じ速度で進めます。「ドイツ語 I A」と異なる時間の履修も可能ですので、担当者にメールなどで連絡してください。
学期末には、3クラス合同で「ドイツ語 II A共通試験」を行います。この試験は通常の授業時間とは異なる日時で実施しますので、注意してください。
なお、授業中にしばしばFormsを使った練習問題をやりますので、スマホでも対応はできますが、できる限りPCを持参してください。

科目コード:10066 科目ナンバリング:LA12B03E 主な使用言語:日本語|ドイツ語

授業名(英文):ドイツ語IIA b(German IIA b)

担当者: 細谷 瑞枝

基本情報

年次:1

単位数:1

授業形式:演習

曜時:月曜5限

履修可能学科・専攻: E Pe Pc C W F N M

関連資格:

AL要素: 17.発問と回答

授業の概要: 話法の助動詞、未来形、分離・非分離動詞などドイツ語の文構造を理解する上で基本となる文法事項について、既習の知識を定着させながら学習します。練習問題を解いたり、読んだり、話したりして、理解した知識を確実に身につけ、使えるようにしましょう。

キーワード: 定冠詞類・不定冠詞類・前置詞・話法の助動詞・未来形・非人称動詞・分離動詞・接続詞

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標: ドイツ語の冠詞類の格変化・前置詞の格支配・話法の助動詞・未来形・分離・非分離動詞・接続詞の構文について理解している。

評価方法: 授業中の発問に対する回答及び小テスト **評価割合:** 60%
並びに学期末試験

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 初歩のドイツ語の文を作ることができる。また、独文和訳することができる。

評価方法: 授業中の発問に対する回答及び小テスト **評価割合:** 30%
並びに学期末試験

▼学修に主体的に取り組む態度

授業時の回答や宿題などの課題に取り組む姿勢を評価対象とする。

評価割合: 10%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただし異文化に触れるボランティア活動等の実践により深められた知見等が、授業時の回答あるいは学期末試験の記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし授業中の発言や筆記試験の記述等において人権侵害・差別的発言、あるいは異文化理解に欠ける発言など著しく公正性を欠く言動があった場合は、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。カンニング等の不正行為は、学則にのっとり厳正に処罰する。

評価割合：0%

▼その他

特になし。

評価割合：特になし。

授業計画： 第1回 ドイツ語 I Aの復習
第2回 Lektion5 定冠詞類・不定冠詞類
第3回 Lektion5 定冠詞類・不定冠詞類
第4回 Lektion5 定冠詞類・不定冠詞類
第5回 Lektion6 前置詞
第6回 Lektion6 前置詞
第7回 Lektion6 前置詞
第8回 Lektion7 話法の助動詞・未来形・非人称動詞
第9回 Lektion7 話法の助動詞・未来形・非人称動詞
第10回 Lektion7 話法の助動詞・未来形・非人称動詞
第11回 Lektion7 話法の助動詞・未来形・非人称動詞
第12回 Lektion8 分離動詞と非分離動詞・接続詞
第13回 Lektion8 分離動詞と非分離動詞・接続詞
第14回 Lektion8 分離動詞と非分離動詞・接続詞
第15回 後期の復習・確認

使用テキスト：『身につくドイツ文法<leicht>2 Deutsch Grammatik System und Praxis<leicht>2』郁文堂 2600円＋税(前期のテキストを引き続き使用します)

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 予習としては、教科書の文法説明を読み、独和辞典を使って練習問題を予め自分で解いてみましょう。(1時間)
復習としては、何といても宿題を自分で解いてみるのが大切です。新しく習った単語も少しずつ覚えていきましょう。ドイツ語の文法は、積み重ね的などところがありますので、分からなくなったら教科書の前の方を読み返したり、担当者に質問してください。意味が分からなくても、とりあえず声に出して読んでみることもおすすめです。(1時間)

障がいのある履修者への対応： 可能な限り、対応しますので、担当者に直接お話しください。

授業時間外の連絡手段： オフィスアワーに対応します。曜日・時限等については初回にお知らせします。あらかじめメールなどで連絡をしてくれると、確実です。
メールやTeamsのチャットでの連絡は、随時受けつけます。

留意事項： ドイツ語 I Aを修得済みであること。また、ドイツ語 II Bを同時履修すること。
授業には、独和辞典を持参すること。
「ドイツ語 II A」は、3クラスあり、小沼喜好と細谷瑞枝が担当し、同じ教科書を使い、大体同じ速度で進めます。「ドイツ語 I A」と異なる時間の履修も可能ですので、担当者にメールなどで連絡してください。
学期末には、3クラス合同で「ドイツ語 II A共通試験」を行います。この試験は通常の授業時間とは異なる日時で実施しますので、注意してください。
なお、授業中にしばしばFormsを使った練習問題をやりますので、スマホでも対応はできますが、できる限りPCを持参してください。

科目コード：10066

科目ナンバリング：LA12B03E

主な使用言語：日本語|ドイツ語

授業名(英文): ドイツ語IIA c(German IIA c)

担当者: 小沼 喜好

基本情報

年次: 1

単位数: 1

授業形式: 演習

曜時: 水曜5限

履修可能学科・専攻: E Pe Pc C W F N M

関連資格:

AL要素: 17.発問と回答

授業の概要: 話法の助動詞、未来形、分離・非分離動詞などドイツ語の文構造を理解する上で基本となる文法事項について、既習の知識を定着させながら学習します。練習問題を解いたり、読んだり、話したりして、理解した知識を確実に身につけ、使えるようにしましょう。

キーワード: 定冠詞類・不定冠詞類・前置詞・話法の助動詞・未来形・非人称動詞・分離動詞・接続詞

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標: ドイツ語の冠詞類の格変化・前置詞の格支配・話法の助動詞・未来形・分離・非分離動詞・接続詞の構文について理解している。

評価方法: 授業中の発問に対する回答及び小テスト
並びに学期末試験 **評価割合: 60%**

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 初歩のドイツ語の文を作ることができる。また、独文和訳することができる。

評価方法: 授業中の発問に対する回答及び小テスト
並びに学期末試験 **評価割合: 30%**

▼学修に主体的に取り組む態度

授業時の回答や宿題などの課題に取り組む姿勢を評価対象とする。

評価割合: 10%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただし異文化に触れるボランティア活動等の実践により深められた知見等が、授業時の回答あるいは学期末試験の記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合: 0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし授業中の発言や筆記試験の記述等において人権侵害・差別的発言、あるいは異文化理解に欠ける発言など著しく公正性を欠く言動があった場合は、減点や厳重注意の対象となるので注意すること。カンニング等の不正行為は、学則にのっとり厳正に処罰する。

評価割合: 0%

▼その他

特になし。

評価割合: 特になし。

授業計画: 第1回 ドイツ語 I A の復習
第2回 Lektion5 定冠詞類・不定冠詞類
第3回 Lektion5 定冠詞類・不定冠詞類
第4回 Lektion5 定冠詞類・不定冠詞類
第5回 Lektion6 前置詞
第6回 Lektion6 前置詞
第7回 Lektion6 前置詞

- 第8回 Lektion7 話法の助動詞・未来形・非人称動詞
- 第9回 Lektion7 話法の助動詞・未来形・非人称動詞
- 第10回 Lektion7 話法の助動詞・未来形・非人称動詞
- 第11回 Lektion7 話法の助動詞・未来形・非人称動詞
- 第12回 Lektion8 分離動詞と非分離動詞・接続詞
- 第13回 Lektion8 分離動詞と非分離動詞・接続詞
- 第14回 Lektion8 分離動詞と非分離動詞・接続詞
- 第15回 後期の復習・確認

使用テキスト：『身につくドイツ文法<leicht>2 Deutsch Grammatik System und Praxis<leicht>2』 郁文堂 2600円＋税(前期のテキストを引き続き使用します)

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 予習としては、教科書の文法説明を読み、独和辞典を使って練習問題を予め自分で解いてみましょう。(1時間)
 復習としては、授業中の答え合わせで間違ったと分かった練習問題をなぜ間違えたのかを考え、また、教科書を音読しながら新しく習った単語も少しずつ覚えていきましょう。(1時間)
 ドイツ語の文法は、積み重ね的などところがありますので、分からなくなったら教科書の前の方を読み返したり、担当教員に質問したりしてください。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応しますので、まずは学務部に話してください。

授業時間外の連絡手段： 授業終了後、または教員のメールへの連絡

留意事項： ドイツ語 I Aを修得済みであること。また、ドイツ語 II Bを同時履修すること。
 授業には、独和辞典を持参すること。
 「ドイツ語 II A」は、3クラスあり、小沼喜好と細谷瑞枝が担当し、同じ教科書を使い、大体同じ速度で進めます。「ドイツ語 I A」と異なる時間の履修も可能ですので、担当教員にメールなどで連絡してください。
 学期末には、3クラス合同で「ドイツ語 II A共通試験」を行います。この試験は通常の授業時間とは異なる日時で実施しますので、注意してください。
 宿題が出されたときには、授業で答え合わせをした次の授業時間に紙に手書きで清書したものを提出してください。
 また、UNIPAにあげた文法の詳しい説明と、ドイツ語圏およびヨーロッパ全般の文化に関する資料を授業中に見ますので、スマホでも対応はできますが、できる限りPCを持参してください

科目コード：10067 科目ナンバリング：LA11C02E 主な使用言語：日本語

授業名(英文)：ドイツ語IB a(German IB a)

担当者：渡邊 ロスピタ

基本情報

年次：1

単位数：1

授業形式：演習

曜時：火曜3限

履修可能学科・専攻： E Pe Pc C W F N M

関連資格：教職

AL要素：17.発問と回答

授業の概要：【特例期間中の授業形態】 同時双方向型を予定

ドイツ語の文法授業とタイアップして、ごく簡単な会話サンプルを教科書に従って読み、理解し、反復練習で身につけます。また、状況に応じて自分でそのパターンの表現をできるような練習をします。半年間で表現のストックが多くなるように工夫して授業します。みんなゼロから

のスタートですから間違いを恐れずどんどん話すようにしてください。そうすれば自然なドイツ語が身につきます。

キーワード: ドイツ語会話、自然な発音、自然なドイツ語、表現力、コミュニケーション、パートナー練習

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標: ドイツ語の語彙を一定程度覚えていること。初級ドイツ語(中学1, 2年の英語に相当)の簡単な質問にドイツ語で答える問題を含む筆記試験で、80%以上正しく答えること。

評価方法: 学期末筆記試験

評価割合: 40%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標: ドイツ語の表現に慣れて、正しい状況にあった正しい初歩的ドイツ語を話すことができ、話された初歩的ドイツ語を理解できること。

評価方法: 授業中の回答、宿題、学期末筆記試験

評価割合: 50%

▼ 学修に主体的に取り組む態度

ドイツ語とドイツ文化、ヨーロッパ文化への関心を備え、宿題を毎回確実にやってきて、授業参加の積極性が十分にあること。

評価割合: 10%

▼ 実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。

評価割合: 0%

▼ 公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし、カンニング等の不正行為は減点の対象となる。

評価割合: 0%

▼ その他

特になし。外国の文化に興味をもってください。

評価割合: 特になし。外国の文化に興味をもつ

授業計画:

- 第1回 この授業の到達目標と概略
- 第2回 人と知り合う1(1) 読解
- 第3回 人と知り合う1(2) 練習
- 第4回 人と知り合う2(1) 読解
- 第5回 人と知り合う2(2) 練習
- 第6回 専攻と言語(1) 読解
- 第7回 専攻と言語(2) 練習
- 第8回 まとめと復習
- 第9回 趣味(1) 読解
- 第10回 趣味(2) 練習
- 第11回 食事(1) 読解
- 第12回 食事(2) 練習
- 第13回 家族と職業(1) 読解
- 第14回 家族と職業(2) 練習
- 第15回 まとめと復習

定期試験

使用テキスト: 佐藤修子ほか『スウェーデン1 場面で学ぶドイツ語』三修社、2006年

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 予習: 前回出された宿題を必ずやってくること。
復習: 教科書の進んだ課に出てきた単語を暗記する。
辞書等の選び方と使い方については初回に説明する。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください。

授業時間外の連絡手段: メールしてください。wroswitha@hotmail.co.jp

留意事項: なし。

科目コード:10067 科目ナンバリング:LA11C02E 主な使用言語:日本語

授業名(英文):ドイツ語IB b(German IB b)

担当者: 渡邊 ロスピタ

基本情報

年次:1

単位数:1

授業形式:演習

曜時:火曜4限

履修可能学科・専攻: E Pe Pc C W F N M

関連資格:教職

AL要素: 17.発問と回答

授業の概要: 【特例期間中の授業形態】同時双方向型を予定

ドイツ語の文法授業とタイアップして、ごく簡単な会話サンプルを教科書に従って読み、理解し、反復練習で身につけます。また、状況に応じて自分でそのパターンの表現をできるような練習をします。半年間で表現のストックが多くなるように工夫して授業します。みんなゼロからのスタートですから間違いを恐れずどんどん話すようにしてください。そうすれば自然なドイツ語が身につきます。

キーワード: ドイツ語会話、自然な発音、自然なドイツ語、表現力、コミュニケーション、パートナー練習

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標: ドイツ語の語彙を一定程度覚えていること。初級ドイツ語(中学1, 2年の英語に相当)の簡単な質問にドイツ語で答える問題を含む筆記試験で、80%以上正しく答えること。

評価方法: 学期末筆記試験

評価割合: 40%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: ドイツ語の表現に慣れて、正しい状況にあった正しい初歩的ドイツ語を話すことができ、話された初歩的ドイツ語を理解できること。

評価方法: 授業中の回答、宿題、学期末筆記試験

評価割合: 50%

▼学修に主体的に取り組む態度

ドイツ語とドイツ文化、ヨーロッパ文化への関心を備え、宿題を毎回確実にやってきて、授業参加の積極性が十分にあること。

評価割合: 10%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。

評価割合: 0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし、カンニング等の不正行為は減点の対象となる。

評価割合: 0%

▼その他

特になし。外国の文化に興味をもってください。

評価割合: 特になし。外国の文化に興味をもつ

授業計画: 第1回 この授業の到達目標と概略

第2回 人と知り合う1(1)読解

第3回 人と知り合う1(2)練習

- 第4回 人と知り合う2(1)読解
- 第5回 人と知り合う2(2)練習
- 第6回 専攻と言語(1)読解
- 第7回 専攻と言語(2)練習
- 第8回 まとめと復習
- 第9回 趣味(1)読解
- 第10回 趣味(2)練習
- 第11回 食事(1)読解
- 第12回 食事(2)練習
- 第13回 家族と職業(1)読解
- 第14回 家族と職業(2)練習
- 第15回 まとめと復習
- 定期試験

使用テキスト: 佐藤修子ほか『スウェーデン1 場面で学ぶドイツ語』三修社、2006年

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 予習: 前回出された宿題を必ずやってくる。
 復習: 教科書の進んだ課に出てきた単語を暗記する。
 辞書等の選び方と使い方については初回に説明する。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください。

授業時間外の連絡手段: メールしてください。wroswitha@hotmail.co.jp

留意事項: なし。

科目コード: 10067 **科目ナンバリング:** LA11C02E **主な使用言語:** 日本語

授業名(英文): ドイツ語IB c(German IB c)

担当者: 渡邊 ロスビタ

基本情報

年次: 1

単位数: 1

授業形式: 演習

曜時: 火曜5限

履修可能学科・専攻: E Pe Pc C W F N M

関連資格: 教職

AL要素: 17.発問と回答

授業の概要: 【特例期間中の授業形態】 同時双方向型を予定
 ドイツ語の文法授業とタイアップして、ごく簡単な会話サンプルを教科書に従って読み、理解し、反復練習で身につけます。また、状況に応じて自分でそのパターンの表現をできるような練習をします。半年間で表現のストックが多くなるように工夫して授業します。みんなゼロからのスタートですから間違いを恐れずどんどん話すようにしてください。そうすれば自然なドイツ語が身につきます。

キーワード: ドイツ語会話、自然な発音、自然なドイツ語、表現力、コミュニケーション、パートナー練習

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標: ドイツ語の語彙を一定程度覚えていること。初級ドイツ語(中学1, 2年の英語に相当)の簡単な質問にドイツ語で答える問題を含む筆記試験で、80%以上正しく答えること。

評価方法: 学期末筆記試験

評価割合: 40%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標: ドイツ語の表現に慣れて、正しい状況にあった正しい初歩的ドイツ語を話すことができ、話された初歩的ドイツ語を理解できること。

評価方法: 授業中の回答、宿題、学期末筆記試験

評価割合: 50%

▼学修に主体的に取り組む態度

ドイツ語とドイツ文化、ヨーロッパ文化への関心を備え、宿題を毎回確実にやってきて、授業参加の積極性が十分にあること。

評価割合：10%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし、カンニング等の不正行為は減点の対象となる。

評価割合：0%

▼その他

特になし。外国の文化に興味をもってください。

評価割合：特になし。外国の文化に興味をもつ

授業計画： 第1回 この授業の到達目標と概略
第2回 人と知り合う1(1)読解
第3回 人と知り合う1(2)練習
第4回 人と知り合う2(1)読解
第5回 人と知り合う2(2)練習
第6回 専攻と言語(1)読解
第7回 専攻と言語(2)練習
第8回 まとめと復習
第9回 趣味(1)読解
第10回 趣味(2)練習
第11回 食事(1)読解
第12回 食事(2)練習
第13回 家族と職業(1)読解
第14回 家族と職業(2)練習
第15回 まとめと復習
定期試験

使用テキスト： 佐藤修子ほか『スツェーネン1 場面で学ぶドイツ語』三修社、2006年

予習・復習のポイントと
参考文献・資料等： 予習：前回出された宿題を必ずやってくること。
復習：教科書の進んだ課に出てきた単語を暗記する。
辞書等の選び方と使い方については初回に説明する。

障がいのある
履修者への対応： 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください。

授業時間外の連絡手段： メールしてください。wroswitha@hotmail.co.jp

留意事項： なし。

科目コード：10068

科目ナンバリング：LA12C02E

主な使用言語：日本語

授業名(英文)：ドイツ語IIB a(German IIB a)

担当者：渡邊 ロスピタ

基本情報

年次：1

単位数：1

授業形式：演習

曜時：火曜3限

履修可能学科・専攻： E Pe Pc C W F N M

関連資格：教職

AL要素：17.発問と回答

授業の概要：ドイツ語の文法授業とタイアップして、ごく簡単な会話サンプルを教科書に従って読み、理解

し、反復練習で身につけます。また、状況に応じて自分でそのパターンの表現をできるような練習をします。半年間で表現のストックが多くなるように工夫して授業します。前期の授業と同じように、間違いを恐れずどんどん話すようにしてください。そうすればますます自然なドイツ語が身につきます。

キーワード：ドイツ語会話、自然な発音、自然なドイツ語、表現力、コミュニケーション、パートナー練習

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標：ドイツ語の語彙を、身の回りの簡単な表現が言えて聞き取れる程度に覚えていること。初級ドイツ語(中学3年の英語に相当)の簡単な質問にドイツ語で答える問題を含む筆記試験で、80%以上正しく答えること。

評価方法：学期末筆記試験

評価割合：40%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標：ドイツ語の表現に慣れて、正しい状況にあった正しいドイツ語を話すことができ、話された基本的なドイツ語を理解できること。

評価方法：授業中の回答、宿題、学期末筆記試験

評価割合：50%

▼学修に主体的に取り組む態度

ドイツ語とドイツ文化、ヨーロッパ文化への関心を備え、宿題を毎回確実にやってきて、授業参加の積極性が十分にあること。

評価割合：10%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし、カンニング等の不正行為は減点の対象となる。

評価割合：0%

▼その他

特になし。外国の文化に興味をもってください。

評価割合：特になし。外国の文化に興味をもつ

授業計画：

- 第1回 この授業の到達目標と概略
- 第2回 持ち物(1)読解
- 第3回 持ち物(2)練習
- 第4回 持ち物(3)練習
- 第5回 住居(1)読解
- 第6回 住居(2)練習
- 第7回 住居(3)練習
- 第8回 まとめと復習
- 第9回 時刻と日付(1)読解
- 第10回 時刻と日付(2)練習
- 第11回 時刻と日付(3)練習
- 第12回 週末の後(1)読解
- 第13回 週末の後(2)練習
- 第14回 週末の後(3)練習
- 第15回 まとめと復習

定期試験

使用テキスト：佐藤修子ほか『スツェーネン1 場面で学ぶドイツ語』三修社、2006年

予習・復習のポイントと 予習：前回出された宿題を必ずやってくること。

参考文献・資料等： 復習：教科書の進んだ課に出てきた単語を暗記する。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください。

授業時間外の連絡手段: メールしてください。wroswitha@hotmail.co.jp

留意事項: なし。

科目コード:10068 科目ナンバリング:LA12C02E 主な使用言語:日本語

授業名(英文):ドイツ語IIB b(German IIB b)

担当者:渡邊 ロスビタ

基本情報

年次:1

単位数:1

授業形式:演習

曜時:火曜4限

履修可能学科・専攻: E Pe Pc C W F N M

関連資格:教職

AL要素: 17.発問と回答

授業の概要: ドイツ語の文法授業とタイアップして、ごく簡単な会話サンプルを教科書に従って読み、理解し、反復練習で身につけます。また、状況に応じて自分でそのパターンの表現をできるような練習をします。半年間で表現のストックが多くなるように工夫して授業します。前期の授業と同じように、間違いを恐れずどんどん話すようにしてください。そうすればますます自然なドイツ語が身につきます。

キーワード: ドイツ語会話、自然な発音、自然なドイツ語、表現力、コミュニケーション、パートナー練習

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標: ドイツ語の語彙を、身の回りの簡単な表現が言えて聞き取れる程度に覚えていること。初級ドイツ語(中学3年の英語に相当)の簡単な質問にドイツ語で答える問題を含む筆記試験で、80%以上正しく答えること。

評価方法: 学期末筆記試験

評価割合: 40%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: ドイツ語の表現に慣れて、正しい状況にあった正しいドイツ語を話すことができ、話された基本的なドイツ語を理解できること。

評価方法: 授業中の回答、宿題、学期末筆記試験

評価割合: 50%

▼学修に主体的に取り組む態度

ドイツ語とドイツ文化、ヨーロッパ文化への関心を備え、宿題を毎回確実にやってきて、授業参加の積極性が十分にあること。

評価割合: 10%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。

評価割合: 0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし、カンニング等の不正行為は減点の対象となる。

評価割合: 0%

▼その他

特になし。外国の文化に興味をもってください。

評価割合: 特になし。外国の文化に興味をもつ

授業計画: 第1回 この授業の到達目標と概略
第2回 持ち物(1)読解

- 第3回 持ち物(2)練習
- 第4回 持ち物(3)練習
- 第5回 住居(1)読解
- 第6回 住居(2)練習
- 第7回 住居(3)練習
- 第8回 まとめと復習
- 第9回 時刻と日付(1)読解
- 第10回 時刻と日付(2)練習
- 第11回 時刻と日付(3)練習
- 第12回 週末の後(1)読解
- 第13回 週末の後(2)練習
- 第14回 週末の後(3)練習
- 第15回 まとめと復習
- 定期試験

使用テキスト: 佐藤修子ほか『スウェーデン1 場面で学ぶドイツ語』三修社、2006年

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 予習:前回出された宿題を必ずやってくること。
 復習:教科書の進んだ課に出てきた単語を暗記する。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください。

授業時間外の連絡手段: メールしてください。wroswitha@hotmail.co.jp

留意事項: なし。

科目コード: 10068 **科目ナンバリング:** LA12C02E **主な使用言語:** 日本語

授業名(英文): ドイツ語IIB c(German IIB c)

担当者: 渡邊 ロスピタ

基本情報

年次: 1 **単位数:** 1 **授業形式:** 演習
曜時: 火曜5限 **履修可能学科・専攻:** E Pe Pc C W F N M
関連資格: 教職 **AL要素:** 17.発問と回答

授業の概要: ドイツ語の文法授業とタイアップして、ごく簡単な会話サンプルを教科書に従って読み、理解し、反復練習で身につけます。また、状況に応じて自分でそのパターンの表現をできるような練習をします。半年間で表現のストックが多くなるように工夫して授業します。前期の授業と同じように、間違いを恐れずどんどん話すようにしてください。そうすればますます自然なドイツ語が身につきます。

キーワード: ドイツ語会話、自然な発音、自然なドイツ語、表現力、コミュニケーション、パートナー練習

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標: ドイツ語の語彙を、身の回りの簡単な表現が言えて聞き取れる程度に覚えていること。初級ドイツ語(中学3年の英語に相当)の簡単な質問にドイツ語で答える問題を含む筆記試験で、80%以上正しく答えること。

評価方法: 学期末筆記試験 **評価割合:** 40%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標: ドイツ語の表現に慣れて、正しい状況にあった正しいドイツ語を話すことができ、話された基本的なドイツ語を理解できること。

評価方法: 授業中の回答、宿題、学期末筆記試験 **評価割合:** 50%

▼学修に主体的に取り組む態度

ドイツ語とドイツ文化、ヨーロッパ文化への関心を備え、宿題を毎回確実にやってきて、授業参加の積極性が十分にあること。

評価割合：10%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし、カンニング等の不正行為は減点の対象となる。

評価割合：0%

▼その他

特になし。外国の文化に興味をもってください。

評価割合：特になし。外国の文化に興味をもつ

授業計画： 第1回 この授業の到達目標と概略
第2回 持ち物(1)読解
第3回 持ち物(2)練習
第4回 持ち物(3)練習
第5回 住居(1)読解
第6回 住居(2)練習
第7回 住居(3)練習
第8回 まとめと復習
第9回 時刻と日付(1)読解
第10回 時刻と日付(2)練習
第11回 時刻と日付(3)練習
第12回 週末の後(1)読解
第13回 週末の後(2)練習
第14回 週末の後(3)練習
第15回 まとめと復習
定期試験

使用テキスト： 佐藤修子ほか『スツェーネン1 場面で学ぶドイツ語』三修社、2006年

予習・復習のポイントと 予習：前回出された宿題を必ずやってくること。

参考文献・資料等： 復習：教科書の進んだ課に出てきた単語を暗記する。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください。

授業時間外の連絡手段： メールしてください。wroswitha@hotmail.co.jp

留意事項： なし。

科目コード：10069

科目ナンバリング：LA23C01E

主な使用言語：日本語

授業名(英文)：ドイツ語III A (German III A)

担当者：小沼 喜好

基本情報

年次：2

単位数：1

授業形式：演習

曜時：水曜3限

履修可能学科・専攻：E Pe Pc C W F N M

関連資格：

AL要素：17. 発問と回答

授業の概要： 前年度に引き続き、付録のCDを聞き発音練習をしながら、ドイツ語の文法の習得を目指し、

文法事項を一つひとつ学んでいきます。また、言語を深く習得、理解するには文化の理解が不可欠なので、毎時間ドイツ語圏を中心にいろいろなモノ、コトを教材にし、ドイツ語圏の文化、西ヨーロッパの文化についての知識もあわせて深めます。

キーワード：ドイツ語文法、ドイツ語の音声、ドイツ語文化圏のモノ、コト

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標：ドイツ語のさまざまな文法事項を習得し、辞書を使ってドイツ語の文章が読めるようになるとともに簡単なことが実際にドイツ語で表現できることが目標です。また、適切なドイツ語の音声を作り出せるようになることも目標です。

評価方法：学期末筆記試験

評価割合：100%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標：知識・技能と合わせて評価する。

評価方法：特になし

評価割合：0%

▼学修に主体的に取り組む態度

特になし

評価割合：0%

▼実践的ボランティア

特になし

評価割合：0%

▼公正性

特になし

評価割合：0%

▼その他

毎時間一人ひとりに教科書の音読、様々な質問、課題を課しますので、大きな声ではっきり答えてください。その際、間違っても構いません。言語学習では間違うことも大切です。

評価割合：毎時間一人ひとりに教科書の音読

授業計画： 第1回 授業ガイダンス、前年度の復習
第2回 話法の助動詞(1)
第3回 話法の助動詞(2)
第4回 疑問詞・不定代名詞(1)
第5回 疑問詞・不定代名詞(2)
第6回 非人称代名詞es(1)
第7回 非人称代名詞es(2)
第8回 動詞の3基本形(1)
第9回 動詞の3基本形(2)
第10回 現在完了形(1)
第11回 現在完了形(2)
第12回 接続詞(1)
第13回 接続詞(2)
第14回 再帰代名詞・再帰動詞(1)
第15回 再帰代名詞・再帰動詞(2)
定期試験

使用テキスト： 馬場浩平『ローツェー予習・確認・復習で構成するドイツ語ー』

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 授業は、予習の答え合わせです。予習として(60分)
1. 教科書をなめらかに読めるようになるまで何度も声を出して読む
2. 必ず単語ノートを作る
3. 人称変化した動詞・助動詞がどこにあるかを必ず考える
4. 練習問題はノートに書き、解く
をしてください。
授業で答え合わせをし、間違った個所をよく復習し覚えてください(30分)。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応しますので、まずは学務部へ連絡してください。

授業時間外の連絡手段： 授業終了後、または教員のメールへの連絡

留意事項： 特になし

科目コード：10069 科目ナンバリング：LA23C01E 主な使用言語：日本語

授業名(英文)：ドイツ語III A b (German III A b)

担当者：小沼 喜好

基本情報

年次：2

単位数：1

授業形式：演習

曜時：水曜4限

履修可能学科・専攻：E Pe Pc C W F N M

関連資格：

AL要素：17. 発問と回答

授業の概要： 前年度に引き続き、付録のCDを聞き発音練習をしながら、ドイツ語の文法の習得を目指し、文法事項を一つひとつ学んでいきます。また、言語を深く習得、理解するには文化の理解が不可欠なので、毎時間ドイツ語圏を中心にいろいろなモノ、コトを教材にし、ドイツ語圏の文化、西ヨーロッパの文化についての知識もあわせて深めます。

キーワード： ドイツ語文法、ドイツ語の音声、ドイツ語文化圏のモノ、コト

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： ドイツ語のさまざまな文法事項を習得し、辞書を使ってドイツ語の文章が読めるようになるとともに簡単なことが実際にドイツ語で表現できることが目標です。また、適切なドイツ語の音声を作り出せるようになることも目標です。

評価方法： 学期末筆記試験

評価割合： 100%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 知識・技能と合わせて評価する

評価方法： 特になし

評価割合： 0%

▼学修に主体的に取り組む態度

特になし

評価割合： 0%

▼実践的ボランティア

特になし

評価割合： 0%

▼公正性

特になし

評価割合:0%

▼その他

毎時間一人ひとりに教科書の音読、様々な質問、課題を課しますので、大きな声ではっきり答えてください。その際、間違っても構いません。言語学習では間違うことも大切です。

評価割合:毎時間一人ひとりに教科書の音読

授業計画: 第1回 授業ガイダンス、前年度の復習
第2回 話法の助動詞(1)
第3回 話法の助動詞(2)
第4回 疑問詞・不定代名詞(1)
第5回 疑問詞・不定代名詞(2)
第6回 非人称代名詞es(1)
第7回 非人称代名詞es(2)
第8回 動詞の3基本形(1)
第9回 動詞の3基本形(2)
第10回 現在完了形(1)
第11回 現在完了形(2)
第12回 接続詞(1)
第13回 接続詞(2)
第14回 再帰代名詞・再帰動詞(1)
第15回 再帰代名詞・再帰動詞(2)
定期試験

使用テキスト: 馬場浩平『ローツェー予習・確認・復習で構成するドイツ語―』
朝日出版 2400円
ISBN978-4-255-25418-0

予習・復習のポイントと
参考文献・資料等: 授業は、予習の答え合わせです。予習として(60分)
1. 教科書をなめらかに読めるようになるまで何度も声を出して読む
2. 必ず単語ノートを作る
3. 人称変化した動詞・助動詞がどこにあるかを必ず考える
4. 練習問題はノートに書き、解く
をしてください。
授業で答え合わせをし、間違った個所をよく復習し覚えてください(30分)。

障がいのある
履修者への対応: 可能な限り対応しますので、まずは学務部へ連絡してください。

授業時間外の連絡手段: 授業終了後、または教員のメールへの連絡

留意事項: 特になし

科目コード:10070 科目ナンバリング:LA24C01E 主な使用言語:日本語

授業名(英文):ドイツ語IVA a(German IVA a)

担当者:小沼 喜好

基本情報

年次:2

単位数:1

授業形式:演習

曜時:水曜3限

履修可能学科・専攻: E Pe Pc C W F N M

関連資格：

AL要素： 17. 発問と回答

授業の概要： 前期に引き続き、付録のCDを聞き発音練習をしながら、ドイツ語の文法を習得を目指し、文法事項を一つひとつ学んでいきます。また、言語を深く習得、理解するには文化の理解が不可欠なので、毎時間ドイツ語圏を中心にいろいろなモノ、コトを教材にし、ドイツ語圏の文化、西ヨーロッパの文化についての知識もあわせて深めます。

キーワード： ドイツ語文法、ドイツ語の音声、ドイツ語文化圏のモノ、コト

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標： ドイツ語のさまざまな文法事項を習得し、辞書を使ってドイツ語の文章が読めるようになるとともに簡単なことが実際にドイツ語で表現できることが目標です。また、適切なドイツ語の音声を作り出せるようになることも目標です。

評価方法： 学期末筆記試験

評価割合： 100%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標： 知識・技能と合わせて評価する。

評価方法： 特になし

評価割合： 0%

▼ 学修に主体的に取り組む態度

特になし

評価割合： 0%

▼ 実践的ボランティア

特になし

評価割合： 0%

▼ 公正性

特になし

評価割合： 0%

▼ その他

毎時間一人ひとりに教科書の音読、様々な質問、課題を課しますので、大きな声ではっきり教えてください。その際に、間違っても構いません。言語学習では間違えることも大切です。

評価割合： 毎時間一人ひとりに教科書の音読

授業計画： 第1回 zu不定詞(1)
第2回 zu不定詞(2)
第3回 受動態(1)
第4回 受動態(2)
第5回 比較級(1)
第6回 比較級(2)
第7回 関係代名詞(1)
第8回 関係代名詞(2)
第9回 関係代名詞(3)
第10回 接続法(1)
第11回 接続法(2)
第12回 接続法(3)
第13回 補遺集
第14回 復習(1)
第15回 復習(2)

定期試験

使用テキスト: 馬場浩平『ローツェー予習・確認・復習で構成するドイツ語―』
朝日出版 2400円
ISBN978-4-255-25418-0

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 授業は、予習の答え合わせです。予習として(60分)
1. 教科書をなめらかに読めるようになるまで何度も声を出して読む
2. 必ず単語ノートを作る
3. 人称変化した動詞・助動詞がどこにあるかを必ず考える
4. 練習問題はノートに書き、解く
をしてください。
授業で答え合わせをし、間違った個所をよく復習し覚えてください(30分)。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応しますので、まずは学務部等へ連絡してください。

授業時間外の連絡手段: 授業終了後、または教員のメールへの連絡

留意事項: 特になし

科目コード: 10070 **科目ナンバリング:** LA24C01E **主な使用言語:** 日本語

授業名(英文): ドイツ語IVA b(German IVA b)

担当者: 小沼 喜好

基本情報

年次: 2

単位数: 1

授業形式: 演習

曜時: 水曜4限

履修可能学科・専攻: E Pe Pc C W F N M

関連資格:

AL要素: 17. 発問と回答

授業の概要: 前期に引き続き、付録のCDを聞き発音練習をしながら、ドイツ語の文法を習得を目指し、文法事項を一つひとつ学んでいきます。また、言語を深く習得、理解するには文化の理解が不可欠なので、毎時間ドイツ語圏を中心にいるいろいろなモノ、コトを教材にし、ドイツ語圏の文化、西ヨーロッパの文化についての知識もあわせて深めます。

キーワード: ドイツ語文法、ドイツ語の音声、ドイツ語文化圏のモノ、コト

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標: ドイツ語のさまざまな文法事項を習得し、辞書を使ってドイツ語の文章が読めるようになるとともに簡単なことが実際にドイツ語で表現できることが目標です。また、適切なドイツ語の音声を作り出せるようになることも目標です。

評価方法: 学期末筆記試験

評価割合: 100%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標: 知識・技能と合わせて評価する。

評価方法: 特になし

評価割合: 0%

▼ 学修に主体的に取り組む態度

特になし

評価割合：0%

▼実践的ボランティア

特になし

評価割合：0%

▼公正性

特になし

評価割合：0%

▼その他

毎時間一人ひとりに教科書の音読、様々な質問、課題を課しますので、大きな声ではっきり答えてください。その際に、間違っても構いません。言語学習では間違うことも大切です。

評価割合：毎時間一人ひとりに教科書の音読

授業計画： 第1回 zu不定詞(1)
第2回 zu不定詞(2)
第3回 受動態(1)
第4回 受動態(2)
第5回 比較級(1)
第6回 比較級(2)
第7回 関係代名詞(1)
第8回 関係代名詞(2)
第9回 関係代名詞(3)
第10回 接続法(1)
第11回 接続法(2)
第12回 接続法(3)
第13回 補遺集
第14回 復習(1)
第15回 復習(2)
定期試験

使用テキスト： 馬場浩平『ローツェー予習・確認・復習で構成するドイツ語ー』
朝日出版 2400円
ISBN978-4-255-25418-0

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 授業は、予習の答え合わせです。予習として(60分)
1. 教科書をなめらかに読めるようになるまで何度も声を出して読む
2. 必ず単語ノートを作る
3. 人称変化した動詞・助動詞がどこにあるかを必ず考える
4. 練習問題はノートに書き、解くをしてください。
授業で答え合わせをし、間違った個所をよく復習し覚えてください(30分)。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応しますので、まずは学務部等へ連絡してください。

授業時間外の連絡手段： 授業終了後、または教員のメールへの連絡

留意事項： 特になし

科目コード:10071

科目ナンバリング:LA23B04E

主な使用言語:日本語

授業名(英文):ドイツ語III(B)(German III(B))

担当者: 勝山 紘子

基本情報

年次:2

単位数:1

授業形式:演習

曜時:木曜3限

履修可能学科・専攻: E Pe Pc C W F N M

関連資格:

AL要素: 17.発問と回答

授業の概要: ドイツ語初級文法を終えて、次の段階として、「読む」「書く」「聞く」「話す」を伸ばすドイツ語クラスです。

初級文法で学んだ文法事項を確認しながら、独検5級/4級の取得を目指します。

基本的な表現を身に着け、聞く・話す練習を繰り返すことで、簡単な状況であればドイツ語で理解でき、ドイツ語で応答ができるようにします。

キーワード: コミュニケーション、ドイツ語文法、独検対策

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標: 簡単な文で自分の言いたいことを表現できる。

ドイツ語のまとまった文から、必要な情報を聴き取ることができる。

学習した文法事項を実践的に使えるようになる。

評価方法: 学期末筆記試験

評価割合: 60%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: ドイツ語で考え、表現することができる。学習した文法、会話モデルを、自分で話したいことに応用して表現できる。

評価方法: 授業内での発表、宿題

評価割合: 30%

▼学修に主体的に取り組む態度

パートナー練習等、積極的な参加を求めます。独検に挑戦するひとは合否にかかわらず成績に加味しません。

評価割合: 10%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象としない。

評価割合: 0%

▼公正性

直接的な評価対象としない。

評価割合: 0%

▼その他

特になし。

評価割合: 特になし。

授業計画:

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 数の表現、自分のことを言う、相手にたずねる
- 第3回 人間関係のことば、生活のことば
- 第4回 冠詞・動詞sein, habe, werden
- 第5回 住まい・地域のことば、交通・旅行の表現
- 第6回 身近にあるもの Sieとdu、不規則動詞
- 第7回 スポーツ・趣味の表現
- 第8回 時刻の表現、話法の助動詞

- 第9回 独検対策学習
- 第10回 教育・学校のことば
- 第11回 食べ物と飲み物、注文と支払い
- 第12回 自然(動物、植物、気象など)のことば
- 第13回 分離動詞、非分離動詞、形容詞
- 第14回 表現力アップ
- 第15回 独検対策学習

使用テキスト: 大島尚子 / 須藤温子『聞いて話そうドイツ語レッスン』(Hör- und Sprechübungen)、朝日出版社、2018年。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: テキストの他に、さまざまな対策問題のプリントを配ります。予習は必要ありませんが、復習はしっかりするようにしましょう。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応します。まずは学務部等に連絡してください。

授業時間外の連絡手段: メールまたはオフィスアワーに対応します。

留意事項: ドイツ語初級文法を習得済みであることが条件です。
 毎回、なるべく辞書を持ってきてください。
 ドイツ語をもっと好きになれるように、楽しんで取り組みましょう。

科目コード: 10072 **科目ナンバリング:** LA24B04E **主な使用言語:** 日本語

授業名(英文): ドイツ語IVB(German IVB)

担当者: 勝山 紘子

基本情報

年次: 2

単位数: 1

授業形式: 演習

曜時: 木曜3限

履修可能学科・専攻: E Pe Pc C W F N M

関連資格:

AL要素: 17.発問と回答

授業の概要: ドイツ語初級文法を終えて、次の段階として、「読む」「書く」「聞く」「話す」を伸ばすドイツ語クラスです。
 初級文法で学んだ文法事項を確認しながら、独検5級/4級の取得を目指します。
 基本的な表現を身に着け、聞く・話す練習を繰り返すことで、簡単な状況であればドイツ語で理解でき、ドイツ語で応答ができるようにします。

キーワード: ドイツ語初級～中級、コミュニケーション、ドイツ語文法、独検対策

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標: 簡単な文で自分の言いたいことを表現できる。
 ドイツ語のまとまった文から、必要な情報を聴き取ることができる。
 学習した文法事項を実践的に使えるようになる。

評価方法: 学期末筆記試験

評価割合: 60%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標: ドイツ語で考え、表現することができる。学習した文法、会話モデルを、自分で話したいことに応用して表現できる。

評価方法: 授業内での発表、宿題

評価割合: 30%

▼ 学修に主体的に取り組む態度

パートナー練習等、積極的な参加を求めます。独検に挑戦するひとは合否にかかわらず成績に加味しま

す。

評価割合：10%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象としない。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象としない。

評価割合：0%

▼その他

特になし。

評価割合：特になし。

- 授業計画：**
- 第1回 ガイダンス
 - 第2回 人称代名詞、元気ですか?、家族、命令の表現
 - 第3回 人間関係のことば、生活のことば
 - 第4回 前置詞、時間や空間の表現
 - 第5回 住まい・地域のことば、交通・旅行の表現
 - 第6回 独検対策学習
 - 第7回 表現力アップ
 - 第8回 序数、生年月日、日にちの表現、道をたずねる
 - 第9回 教育・学校・文化のことば
 - 第10回 再帰代名詞、過去のできごと(過去形)
 - 第11回 独検対策学習
 - 第12回 過去のできごと(現在完了形)、一日のながれ
 - 第13回 人体と健康、病気の表現
 - 第14回 表現力アップ
 - 第15回 独検対策学習

使用テキスト： 大島尚子 / 須藤温子『聞いて話そうドイツ語レッスン』(Hör- und Sprechübungen)、朝日出版社、2018年。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： テキストの他に、さまざまな対策問題のプリントを配ります。予習は必要ありませんが、復習はしっかりするようにしましょう。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応します。まずは学務部等に連絡してください。

授業時間外の連絡手段： メールまたはオフィスアワーに対応します。

留意事項： ドイツ語初級文法を習得済みであることが条件です。毎回、なるべく辞書を持ってきてください。ドイツ語をもっと好きになれるように、楽しんで取り組みましょう。

科目コード：10073 **科目ナンバリング：LA11B03E** **主な使用言語：日本語**

授業名(英文)：フランス語IA a(French IA a)

担当者：六川 裕子

基本情報

年次：1

単位数：1

授業形式：演習

曜時：金曜4限

履修可能学科・専攻：E Pe Pc C W F N M

関連資格：

AL要素：17. 発問と回答

授業の概要： フランス語とはどんな言葉なのか、その基本的な仕組みや表現を学び、言葉と結びついたフ

ランスの文化への理解も深めていきます。

キーワード: 外国語、フランス、初級文法、フランス文化

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標: フランス語の初歩的な表現に必要な文法などの知識を理解、記憶し、使うことができる。

評価方法: 小テスト、学期末筆記試験 **評価割合:** 50%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 新しく身につけた語学の知識をもとにして、論理的な思考力や判断力を用いた応用表現をすることができる。

評価方法: 学期末筆記試験 **評価割合:** 40%

▼学修に主体的に取り組む態度

授業への参加状況や、宿題、提出物といった課題への取り組みによって評価する。

評価割合: 10%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただしこの精神が授業中の協働活動などへの取り組みで発揮される場合は、上記の項目「学修に主体的に取り組む態度」の評価対象とすることがある。

評価割合: 0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし提出物や小テストにおいて不正行為があった場合は減点の対象となることもあるので注意すること。

評価割合: 0%

▼その他

特になし。

評価割合: 特になし。

授業計画:

- 第1回 オリエンテーション(授業概要の説明)、アルファベ
- 第2回 つづり字と発音(1)
- 第3回 つづり字と発音(2)
- 第4回 あいさつの表現
- 第5回 「それは～です」:名詞の性と数、冠詞、提示の表現
- 第6回 「～が好きです」(1):主語人称代名詞、第1群規則動詞
- 第7回 「～が好きです」(2):否定文
- 第8回 「私は～です」(1):動詞etre、国籍や職業の言い方
- 第9回 「私は～です」(2):疑問文
- 第10回 「～を持っています、～があります」(1):動詞avoir、il y aの用法
- 第11回 「～を持っています、～があります」(2):avoirを使う慣用表現
- 第12回 形容詞を使う表現(1):形容詞の位置、形容詞の性と数
- 第13回 形容詞を使う表現(2):特殊な形容詞、指示形容詞
- 第14回 いろいろな動詞を使う(1):第2群規則動詞と不規則動詞
- 第15回 いろいろな動詞を使う(2):所有形容詞、時刻の表現

定期試験

使用テキスト: 松村博史、『リエゾン1』、白水社、2023年

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 予習よりも復習を大切にして、授業の内容をきちんと消化していくようにしてください。宿題や動詞の小テストを課しますので、これも復習の一部として授業の前に余裕をもって準備して行うようにしてください。
仏和辞典は購入するようにしましょう。辞書については初回の授業で説明します。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください。

授業時間外の連絡手段: 授業の前後の時間に教室で対応します。授業のない日の緊急の連絡に限り、学務部で連絡先を問い合わせてください。

留意事項: 特になし。

科目コード:10073 科目ナンバリング:LA11B03E 主な使用言語:日本語(説明)|フラ

授業名(英文): フランス語IA b(French IA b)

担当者: 二瓶 恵

基本情報

年次:1

単位数:1

授業形式:演習

曜時:月曜4限

履修可能学科・専攻: E Pe Pc C W F N M

関連資格:

AL要素: 08. 協同学習
17. 発問と回答

授業の概要: フランス語を初めて学ぶ大学生を対象につくられたテキスト『Bonjour, La France!—ボンジュール・フランス—言語と文化で学ぶ新フランス語文法』を使って、フランス語の初歩文法を学んでいきます。授業ではみなさんがつまづかないようにゆっくり丁寧に解説していきます。10年間暮らしたパリのお話もしていきます

キーワード: フランス語初歩文法、フランスの歴史と文化、フランスの世界遺産、フランス留学

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標: フランス語の初歩文法を理解し使うことができる

評価方法: 学期末試験

評価割合: 50%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 授業を通して学習した文法事項を、自分で話したいことに置き換えて表現できる

評価方法: ミニテスト、授業での遣り取り

評価割合: 30%

▼学修に主体的に取り組む態度

初めて習う第二外国語ですから、授業をしっかりと聞くこと。分からないところがあれば、何でも質問してください。

評価割合: 10%

▼実践的ボランティア

授業内容に加えて、フランス映画やシャンソン、日本で見聞きするフランスに関するCMやちょっとしたニュースなども紹介していきます。ぜひ、日常的にフランス語に触れる機会をつくって下さい。

評価割合: 10%

▼公正性

授業中に行われるミニテストや学期末の試験において、不正があった場合は評価はゼロまたは失格とします。

評価割合: 0%

▼その他

遅刻/早退/退出は3回で1回の欠席扱いになります(オンライン授業におけるパソコン機器やWi-Fiの不具合等によるものはある程度考慮します)。

評価割合: 遅刻/早退/退出は3回で1回の欠席

授業計画: 【第01回】オリエンテーション

- 【第02回】Lecon 01 フランスのお話、アルファベ
 - 【第03回】Lecon 02 数字、名詞の性と数
 - 【第04回】Lecon 02 冠詞(不定冠詞、定冠詞)
 - 【第05回】Lecon 03 わたしは、日本人です(etre動詞)
 - 【第06回】Lecon 03 彼女は、18歳です(avoir動詞)
 - 【第07回】Lecon 03 彼は、背が高いです(形容詞)
 - 【第08回】Lecon 04 わたしは、チョコレートが好きです(第一群規則動詞)
 - 【第09回】Lecon 04 あなたは、宿題を終えました(第2群規則動詞)
 - 【第10回】Lecon 04 彼女は、学生ではありません(否定文)
 - 【第11回】Lecon 05 わたしたちは、パリへ行きます(不規則動詞aller)
 - 【第12回】Lecon 05 わたしたちは、日本からきました(不規則動詞venir)
 - 【第13回】Lecon 05 近接未来、近接過去
 - 【第14回】Lecon 05 彼女は、学生ですか?(疑問文)
 - 【第15回】Lecon 06 まとめ
- 定期試験

使用テキスト: 『Bonjour, La France !—ボンジュール・フランス—言語と文化で学ぶ新フランス語文法』、栗国孝、朝日出版、2200円

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 1年次では予習よりも習ったことをしっかり復習することが大切です。レッスンが終わるごとにミニテストを行いますので、各自復習をお願いします。参考書は、必要に応じて随時紹介していきます。

障がいのある履修者への対応: 出来る限り対応します(学務部または教員へ声を掛けてください)

授業時間外の連絡手段: 連絡が取れるメールアドレスを初回の授業でお知らせします

留意事項: 辞書の説明は、第1回目の授業で行います。1年生から最長で4年生までつかう大事なものですので、説明をよく聞いてから指定のものを購入すること

科目コード:10073 科目ナンバリング:LA11B03E 主な使用言語:日本語、フランス

授業名(英文): フランス語IA c(French IA c)

担当者: 藤原 貞朗

基本情報

年次:1

単位数:1

授業形式:演習

曜時:木曜1限

履修可能学科・専攻: E Pe Pc C W F N M

関連資格:

AL要素: 17. 発問と回答

授業の概要: 初歩的なフランス語の読解と会話ができる能力を身につけます。テキストは、フランスの漫画「ベーデー(BD)」を素材としたものを用います。漫画を通じて生きた日常会話を学び、暗記するまで何度も復唱しましょう。また、言葉だけではなく、フランスのニュース、生活習慣、文化、芸術、料理、スポーツなどフランス人の教養も知り、実践的に活用する能力を養います。

キーワード: フランス語、初級、フランス語検定試験5級、フランス文化、フランス漫画

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標: 初歩的なフランス語の読解と会話ができる。フランス語検定試験5級の能力を有する。

評価方法: 確認テスト

評価割合: 70%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 言葉とともに、フランス社会と文化の慣習と教養を理解し、その知識を応用することができる。

評価方法: 確認テスト

評価割合: 30%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしませんが、外国語の会話は主体的かつ積極的に発話しないと身につけません。授業中は失敗を恥ずかしがることなく、大きな声を出して会話の練習をしましょう。授業の事前事後は、インターネット等を利用して、ニュースから文化、音楽、料理まで、積極的にフランスの情報を収集しましょう。

評価割合：0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしませんが、フランス語を介した文化交流のボランティア活動も少なからずあります。関心のある人は積極的にチャレンジしてみてください。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしませんが、授業中の発言や試験などにおいて、差別的発言など公正性を欠く言動があった場合は厳重な注意の対象となるので注意してください。

評価割合：0%

▼その他

特になし

評価割合：特になし

- 授業計画：
- 01 ガイダンス フランス語は何のために必要か
 - 02 挨拶とフランス語の発音①
 - 03 自己紹介する
 - 04 フランス語の発音②
 - 05 ものを紹介する。特徴を説明する。
 - 06 職業を言う。フランス人が好きな職業。
 - 07 国籍を言う。色彩の表現。
 - 08 人の特徴を説明する。
 - 09 好みを言う。
 - 10 行動を説明する。
 - 11 行く場所、来た場所を言う。
 - 12 時の表現。四季と月、曜日。
 - 13 近い未来と近い過去のことについて話す。
 - 14 時の表現。フランスのバカンス
 - 15 まとめ

使用テキスト： 神田大吾・藤原貞朗・猪俣紀子『バンド・デシネでフランス語。』、私家版、2022年(2200円)。

予習・復習のポイントと
参考文献・資料等： 毎回、復習と予習となる暗唱問題と練習問題の課題を出しますので、課題を必ずこなして授業に臨んでください。参考書や辞書については第一回目のガイダンスで説明します。

障がいのある
履修者への対応： 可能な限り対応しますので、まずは学務部に連絡してください。

授業時間外の連絡手段： 電子メール等で対応します。連絡先については第一回目のガイダンスでお知らせします。

留意事項： 特になし

科目コード：10074

科目ナンバリング：LA12B03E

主な使用言語：日本語

授業名(英文)：フランス語IIA a(French IIA a)

担当者：六川 裕子

基本情報

年次：1

単位数：1

授業形式：演習

曜時：金曜4限

履修可能学科・専攻：E Pe Pc C W F N M

関連資格：

AL要素：17. 発問と回答

授業の概要: フランス語の仕組みや表現について、初歩から初級の知識を学び、フランス語検定5級レベルの能力を身につけることを目指します。言葉と結びついたフランスの文化への理解も深めていきます。

キーワード: 外国語、フランス、初級文法、フランス文化

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標: フランス語の初歩的な表現に必要な文法などの知識を理解、記憶し、使うことができる。

評価方法: 小テスト、学期末筆記試験 **評価割合:** 50%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標: 新しく身につけた語学の知識をもとにして、論理的な思考力や判断力を用いた応用表現をすることができる。

評価方法: 学期末筆記試験 **評価割合:** 40%

▼ 学修に主体的に取り組む態度

授業への参加状況や、宿題、提出物といった課題への取り組みによって評価する。

評価割合: 10%

▼ 実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただしこの精神が授業中の協働活動などへの取り組みで発揮される場合は、上記の項目「学修に主体的に取り組む態度」の評価対象とすることがある。

評価割合: 0%

▼ 公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし提出物や小テストにおいて不正行為があった場合は減点の対象となることもあるので注意すること。

評価割合: 0%

▼ その他

特になし。

評価割合: 特になし。

授業計画:

- 第1回 前期の内容の復習
- 第2回 「行く」と「来る」(1): 動詞allerとvenir、前置詞と定冠詞の縮約
- 第3回 「行く」と「来る」(2): 近接未来と近接過去、前置詞
- 第4回 疑問詞を使う(1): 命令文
- 第5回 疑問詞を使う(2): 疑問詞
- 第6回 疑問詞を使う(3): 疑問形容詞、天候の言い方
- 第7回 人称代名詞を使う(1): 直接・間接目的語代名詞
- 第8回 人称代名詞を使う(2): 強勢形の代名詞
- 第9回 代名動詞の使い方(1): 代名動詞(1)
- 第10回 代名動詞の使い方(2): 代名動詞(2)
- 第11回 比較の表現(1): 形容詞と副詞の比較級
- 第12回 比較の表現(2): 形容詞と副詞の最上級
- 第13回 過去の表現「～しました」(1): 複合過去(1)
- 第14回 過去の表現「～しました」(2): 複合過去(2)
- 第15回 過去の表現「～しました」(3): 複合過去(3)

定期試験

使用テキスト: 松村博史、『リエゾン1』、白水社、2023年

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 予習よりも復習を大切にして、授業の内容をきちんと消化していくようにしてください。宿題や動詞の小テストを課しますので、これも復習の一部として授業の前に余裕をもって準備してください。
仏和辞典は購入するようにしましょう。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください。

授業時間外の連絡手段: 授業の前後の時間に教室で対応します。授業のない日の緊急の連絡に限り、学務部で連絡先を問い合わせてください。

留意事項: 特になし。

科目コード:10074 科目ナンバリング:LA12B03E 主な使用言語:日本語(説明)|フラ

授業名(英文): フランス語IIA b(French IIA b)

担当者: 二瓶 恵

基本情報

年次:1

単位数:1

授業形式:演習

曜時:月曜4限

履修可能学科・専攻: E Pe Pc C W F N M

関連資格:

AL要素: 08.協同学習
17.発問と回答

授業の概要: フランス語を初めて学ぶ大学生を対象につくられたテキスト『Bonjour, La France!—ボンジュール・フランス—言語と文化で学ぶ新フランス語文法』を使って、フランス語の初歩文法を学んでいきます。授業ではみなさんがつまづかないようにゆっくり丁寧に解説していきます。10年間暮らしたバリのお話もしていきます

キーワード: フランス語初歩文法、フランスの歴史と文化、フランスの世界遺産、フランス留学

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標: フランス語の初歩文法を理解し使うことができる

評価方法: 学期末試験

評価割合: 50%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 授業を通して学習した文法事項を、自分で話したいことに置き換えて表現できる

評価方法: ミニテスト、授業での遣り取り

評価割合: 30%

▼学修に主体的に取り組む態度

初めて習う第二外国語ですから、授業をしっかりと聞くこと。分からないところがあれば、何でも質問してください。

評価割合: 10%

▼実践的ボランティア

授業内容に加えて、フランス映画やシャンソン、日本で見聞きするフランスに関するCMやちょっとしたニュースなども紹介していきます。ぜひ、日常的にフランス語に触れる機会をつくって下さい。

評価割合: 10%

▼公正性

授業中に行われるミニテストや学期末の試験において、不正があった場合は評価はゼロまたは失格とします。

評価割合: 0%

▼その他

遅刻/早退/退出は3回で1回の欠席扱いになります(オンライン授業におけるパソコン機器やWi-Fiの不具合等によるものはある程度考慮します)。

評価割合: 遅刻/早退/退出は3回で1回の欠席

授業計画: 【第01回】前期の試験返却、復習

- 【第02回】Lecon 06 わたしたちは、テニスをします(不規則動詞faire他)
 - 【第03回】Lecon 06 これは、あなたの車ですか?(所有形容詞)
 - 【第04回】Lecon 06 ルーヴル美術館はどこですか?(疑問副詞)
 - 【第05回】Lecon 07 コーヒーを下さい(不規則動詞vouloir他)
 - 【第06回】Lecon 07 彼女には、パリに住んでいる恋人がいます(関係代名詞)
 - 【第07回】Lecon 08 彼は、彼女を愛しています(直接目的語)
 - 【第08回】Lecon 08 彼は、彼女に電話をします(間接目的語)
 - 【第09回】Lecon 09 彼女は、宿題を終えました(複合過去1)
 - 【第10回】Lecon 09 彼女は、フランスへ到着しました(複合過去2)
 - 【第11回】Lecon 10 わたしは、7時に起きます(代名動詞)
 - 【第12回】Lecon 10 わたしも、そこへ一緒に行きます(中性代名詞)
 - 【第13回】Lecon 11 ニコラは、ピエールより背が高い(比較級)
 - 【第14回】Lecon 11 このタルトは、世界で1番おいしい(最上級)
 - 【第15回】Lecon 00 まとめ
- 定期試験

使用テキスト: 『Bonjour, La France !—ボンジュール・フランス—言語と文化で学ぶ新フランス語文法』、栗国孝、朝日出版、2200円

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 1年次では予習よりも習ったことをしっかり復習することが大切です。レッスンが終わるごとにミニテストを行いますので、各自復習をお願いします。参考書は、必要に応じて随時紹介していきます。

障がいのある履修者への対応: 出来る限り対応します(学務部または教員へ声を掛けてください)

授業時間外の連絡手段: 連絡が取れるメールアドレスを初回の授業でお知らせします

留意事項: 辞書の説明は、第1回目の授業で行います。1年生から最長で4年生までつかう大事なものですので、説明をよく聞いてから指定のものを購入すること

科目コード:10074 科目ナンバリング:LA12B03E 主な使用言語:日本語、フランス

授業名(英文): フランス語IIA c(French IIA c)

担当者: 藤原 貞朗

基本情報

年次:1

単位数:1

授業形式:演習

曜時:木曜1限

履修可能学科・専攻: E Pe Pc C W F N M

関連資格:

AL要素: 17. 発問と回答

授業の概要: 初歩的なフランス語の読解と会話ができる能力を身につけます。テキストは、フランスの漫画「ベーデー(BD)」を素材としたものを用います。漫画を通じて生きた日常会話を学び、暗記するまで何度も復唱しましょう。また、言葉だけではなく、フランスのニュース、生活習慣、文化、芸術、料理、スポーツなどフランス人の教養も知り、実践的に活用する能力を養います。

キーワード: フランス語、初級、フランス語検定試験、フランス文化、フランス漫画

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標: 初歩的なフランス語の読解と会話ができる。フランス語検定試験4~5級の能力を有する。

評価方法: 確認テスト

評価割合: 70%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 言葉とともに、フランス社会と文化の慣習と教養を理解し、その知識を応用することができる。

評価方法: 確認テスト

評価割合: 30%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしませんが、外国語の会話は主体的かつ積極的に発話しないと身につけません。授業中は失敗を恥ずかしがることなく、大きな声を出して会話の練習をしましょう。授業の事前事後は、インターネット等を利用して、ニュースから文化、音楽、料理まで、積極的にフランスの情報を収集しましょう。

評価割合：0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしませんが、フランス語を介した文化交流のボランティア活動も少なからずあります。関心のある人は積極的にチャレンジしてみてください。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしませんが、授業中の発言や試験などにおいて、差別的発言など公正性を欠く言動があった場合は厳重な注意の対象となるので注意してください。

評価割合：0%

▼その他

特になし

評価割合：特になし

- 授業計画：
- 01 ガイダンス 復習とこれから
 - 02 バカンスのことを話す。
 - 03 誰かと何かと比べて説明する。
 - 04 位置関係を表現する。
 - 05 代名詞をつかってみる。
 - 06 できること、したいことを話す。
 - 07 一日の生活を説明する。
 - 08 確認テスト。足し算と引き算、数字
 - 09 お願いをする。誘う。
 - 10 買い物をする
 - 11 過去について話す。
 - 12 天気の説明をする。
 - 13 過去の習慣について説明する。
 - 14 将来について話す。
 - 15 まとめと確認テスト

使用テキスト： 神田大吾・藤原貞朗・猪俣紀子『バンド・デシネでフランス語。』、私家版、2022年(2200円)。

予習・復習のポイントと 毎回、復習と予習となる暗唱問題と練習問題の課題を出しますので、課題を必ずこなして授
参考文献・資料等： 業に臨んでください。参考書や辞書については第一回目のガイダンスで説明します。

障がいのある 可能な限り対応しますので、まずは学務部に連絡してください。
履修者への対応：

授業時間外の連絡手段： 電子メール等で対応します。連絡先については第一回目のガイダンスでお知らせします。

留意事項： 特になし

科目コード：10075 科目ナンバリング：LA11B04E 主な使用言語：日本語 フランス

授業名(英文)：フランス語IB a(French IB a)

担当者：和泉 涼一

基本情報

年次：1

単位数：1

授業形式：演習

曜時：水曜6限

履修可能学科・専攻： E Pe Pc C W F N M

関連資格：教職

AL要素：演習

授業の概要: (特例期間中の授業形態:課題研究型)

フランスにいつか行ってみたい、フランス語がどんな言葉か少しでも知りたい～異文化へのこういう知的な好奇心こそ、若い人にはとりわけ貴重なものです。このクラスではフランス語の学びの第一歩を無理なく踏み出してもらえよう、わかりやすい授業を工夫します。さらにはフランスの歴史や文化にも関心をもってもらえることを願っています。いつかみんなでフランスに行きましょう!

キーワード: フランス語 入門 会話 街歩き シャンソン

学位授与方針との関係

▼ **知識・技能**

到達目標: 授業で学んだことが80%理解できること。

評価方法: 「まとめとチェック」(最終授業)で簡単な確認をおこないます。その点数によります。出席点はありませんが、授業での活躍や検定試験の結果等は考慮します。 **評価割合: 100%**

▼ **思考力・判断力・表現力**

到達目標: 特になし。

評価方法: 上記に準じます。 **評価割合: 0%**

▼ **学修に主体的に取り組む態度**

特になし。

評価割合: 0%

▼ **実践的ボランティア**

特になし。

評価割合: 0%

▼ **公正性**

特になし。

評価割合: 0%

▼ **その他**

特になし。

評価割合: 特になし。

授業計画: (特例期間中の授業形態:課題研究型)

- 01 ガイダンス～フランス語はどんなことば?
- 02 あなたはどこの国のひと?～フランス語に親しむ
- 03 あなたのお名前は?～つづり字と発音
- 04 デジカメもってる?～つづり字と発音その2
- 05 日本の音楽はクールだね～好き嫌いを言う
- 06 パリの街歩き(または世界遺産など)～ビデオ鑑賞
- 07 あれはだれなの?～疑問詞など
- 08 ちょっと休憩して復習しましょう
- 09 上野公園で散歩しよう
- 10 お相撲さんと西郷さん
- 11 どこに住んでるのですか?
- 12 ちょっと休憩して復習しましょう2
- 13 いま何をしているの?
- 14 パリの街歩き(または世界遺産など)～ビデオ鑑賞
- 15 まとめとチェック

使用テキスト: 藤田裕二『パスカル・オ・ジャポン』、白水社、2009年。

予習・復習のポイントと 授業中に指示します。

参考文献・資料等：

障がいのある 履修者への対応： まずは教務部窓口にご相談しましょう。

授業時間外の連絡手段： オフィスアワー

留意事項： 初めての外国語です。英語が苦手だという人も心機一転、予習復習を怠らず、少しずつ学んでいきましょう。時間に余裕があればフランス(語)の映画や歌なども楽しみましょう。

科目コード：10075 科目ナンバリング：LA11B04E 主な使用言語：日本語(説明)|フラ

授業名(英文)：フランス語IB b(French IB b)

担当者：二瓶 恵

基本情報

年次：1

単位数：1

授業形式：演習

曜時：火曜3限

履修可能学科・専攻：E Pe Pc C W F N M

関連資格：教職

AL要素：08.協同学習

17.発問と回答

授業の概要： 初めてフランス語を学ぶ大学生を対象につくられたテキスト『なびふらんせ1—パリをめぐる』を使って、フランス語の初歩会話を学んでいきます。授業ではみなさんがつまづかないようにゆっくり丁寧に導きます。10年間暮らしたパリのお話もしていきます。

キーワード： フランス語会話、ポキャブラリー、フランスの歴史と文化、フランスの世界遺産、フランス留学

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： フランス語の初歩会話を学習し使うことができる。同様に、相手の言っていることを聴き取り理解することができる

評価方法： 学期末試験

評価割合：50%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 授業を通して学習した会話モデルを、自分で話したいことに置き換えて表現できる。また、相手が言っていることも理解することができる

評価方法： 授業での遣り取り、ミニテスト

評価割合：30%

▼学修に主体的に取り組む態度

このクラスは、初めてフランス語を勉強するクラスです。ゆっくり説明していきますから、しっかり聞いて授業中にたくさん会話の練習をして下さい。

評価割合：20%

▼実践的ボランティア

授業内容に加えて、フランス映画やシャンソン、日本で見聞きするフランスに関するCMやちょっとしたニュースなども紹介していきます。ぜひ、日常的にフランス語に触れる機会をつくって下さい。

評価割合：0%

▼公正性

授業中に行われるミニテストや学期末の試験において、不正があった場合は評価はゼロまたは失格とします。

評価割合：0%

▼その他

遅刻/早退/退出は3回で1回の欠席扱いになります(オンライン授業におけるパソコン機器やWi-Fiの不具合等によるものはある程度考慮します)。

評価割合：遅刻/早退/退出は3回で1回の欠席

授業計画：【第01回】授業に関するオリエンテーション
【第02回】Lecon 0 挨拶、アルファベ
【第03回】Lecon 1 自己紹介(わたしの名前は～です)
【第04回】Lecon 1 数字(1～10)
【第05回】Lecon 2 バゲットをください
【第06回】Lecon 2 パン屋さんでの会話
【第07回】Lecon 3 わたしたちは、今パリにいます
【第08回】Lecon 3 職業、国籍を言ってみる
【第09回】Lecon 4 わたしは、エッフェル塔が好きです
【第10回】Lecon 4 好きなことを表現してみる
【第11回】Lecon 5 チーズを買います
【第12回】Lecon 5 マルシェでの会話
【第13回】Lecon 6 彼女は、可愛い
【第14回】Lecon 6 形容詞を使いこなす
【第15回】まとめとパリのお話
定期試験

使用テキスト：『なびふらんせ1—パリをめぐる』、有富智世/喜久川功他、朝日出版社、2500円

予習・復習のポイントと参考文献・資料等：1年次では予習よりも習ったことをしっかり復習することが大切です。レッスンが終わるごとにミニテストを行いますので、各自復習をお願いします。参考書は、必要に応じて随時紹介していきます。

障がいのある履修者への対応：出来る限り対応します(学務部または教員に声を掛けてください)

授業時間外の連絡手段：連絡可能なメールアドレスを初回の授業でお知らせします

留意事項：辞書の説明は、第1回目の授業で行います。1年生から最長で4年生までつかう大事なものですので、説明をよく聞いてから指定のものを購入すること

科目コード：10075 科目ナンバリング：LA11B04E 主な使用言語：日本語(説明)|フラ

授業名(英文)：フランス語IB c(French IB c)

担当者：二瓶 恵

基本情報

年次：1

単位数：1

授業形式：演習

曜時：火曜4限

履修可能学科・専攻： E Pe Pc C W F N M

関連資格：教職

**AL要素： 08. 協同学習
17. 発問と回答**

授業の概要：初めてフランス語を学ぶ大学生を対象につくられたテキスト『なびふらんせ1—パリをめぐる』を使って、フランス語の初歩会話を学んでいきます。授業ではみなさんがつまづかないようにゆっくり丁寧に導きます。10年間暮らしたパリのお話もしていきます。

キーワード：フランス語会話、ボキャブラリー、フランスの歴史と文化、フランスの世界遺産、フランス留学

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標：フランス語の初歩会話を学習し使うことができる。同様に、相手の言っていることを聴き取り理解することができる

評価方法：学期末試験

評価割合：50%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標: 授業を通して学習した会話モデルを、自分で話したいことに置き換えて表現できる。また、相手が言っていることも理解することができる

評価方法: 授業での遣り取り、ミニテスト

評価割合: 30%

▼学修に主体的に取り組む態度

このクラスは、初めてフランス語を勉強するクラスです。ゆっくり説明していきますから、しっかり聞いて授業中にたくさん会話の練習をして下さい。

評価割合: 20%

▼実践的ボランティア

授業内容に加えて、フランス映画やシャンソン、日本で見聞きするフランスに関するCMやちょっとしたニュースなども紹介していきます。ぜひ、日常的にフランス語に触れる機会をつくって下さい。

評価割合: 0%

▼公正性

授業中に行われるミニテストや学期末の試験において、不正があった場合は評価はゼロまたは失格とします。

評価割合: 0%

▼その他

遅刻/早退/退出は3回で1回の欠席扱いになります(オンライン授業におけるパソコン機器やWi-Fiの不具合等によるものはある程度考慮します)。

評価割合: 遅刻/早退/退出は3回で1回の欠席

授業計画:

- 【第01回】授業に関するオリエンテーション
- 【第02回】Lecon 0 挨拶、アルファベ
- 【第03回】Lecon 1 自己紹介(わたしの名前は～です)
- 【第04回】Lecon 1 数字(1～10)
- 【第05回】Lecon 2 バゲットをください
- 【第06回】Lecon 2 パン屋さんでの会話
- 【第07回】Lecon 3 わたしたちは、今パリにいます
- 【第08回】Lecon 3 職業、国籍を言ってみる
- 【第09回】Lecon 4 わたしは、エッフェル塔が好きです
- 【第10回】Lecon 4好きなことを表現してみる
- 【第11回】Lecon 5 チーズを買います
- 【第12回】Lecon 5 マルシェでの会話
- 【第13回】Lecon 6 彼女は、可愛い
- 【第14回】Lecon 6 形容詞を使いこなす
- 【第15回】まとめとパリのお話

定期試験

使用テキスト: 『なびふらんせ1—パリをめぐる』、有富智世/喜久川功他、朝日出版社、2500円

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 1年次では予習よりも習ったことをしっかり復習することが大切です。レッスンが終わるごとにミニテストを行いますので、各自復習をお願いします。参考書は、必要に応じて随時紹介していきます。

障がいのある履修者への対応: 出来る限り対応します(学務部または教員に声を掛けてください)

授業時間外の連絡手段: 連絡可能なメールアドレスを初回の授業でお知らせします

留意事項: 辞書の説明は、第1回目の授業で行います。1年生から最長で4年生までつから大事なものですので、説明をよく聞いてから指定のものを購入すること

科目コード:10076

科目ナンバリング:LA12B04E

主な使用言語:日本語 フランス

授業名(英文): フランス語IIB a(French IIB a)

担当者：和泉 涼一

基本情報

年次：1

単位数：1

授業形式：演習

曜時：水曜6限

履修可能学科・専攻：E Pe Pc C W F N M

関連資格：教職

AL要素：演習

授業の概要：【授業形態ガイドライン・レベルⅢ、レベルⅡ課題研究型】

フランスにいつか行ってみたい、フランス語がどんな言葉か少しでも知りたい～異文化へのこういう知的好奇心こそ、若い人にはとりわけ貴重なものです。このクラスではフランス語の学びの第一歩を無理なく踏み出してもらえよう、わかりやすい授業を工夫します。さらにはフランスの歴史や文化にも関心をもってもらえることを願っています。いつかみんなでフランスに行きましょう！

キーワード：

フランス語 入門 会話 街歩き シャンソン

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標：授業で学んだことが80%理解できること。

評価方法：「まとめとチェック」(最終授業)で簡単な確認をおこないます。その点数によります。出席点はありませんが、授業での活躍や検定試験の結果等は考慮します。

評価割合：100%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標：特になし。

評価方法：上記に準じます。

評価割合：0%

▼学修に主体的に取り組む態度

特になし。

評価割合：0%

▼実践的ボランティア

特になし。

評価割合：0%

▼公正性

特になし。

評価割合：0%

▼その他

特になし。

評価割合：特になし。

- 授業計画：
- 01 ガイダンス～いよいよ後期
 - 02 まずはおさらいから
 - 03 家族のことを語る
 - 04 年はいくつなの？～年齢の数え方
 - 05 いま何時でしょう？～時刻の表現
 - 06 うちの親を紹介するよ？
 - 07 うちみんな早起きでね～習慣をいう
 - 08 パリの街歩き(または世界遺産など)～ビデオ鑑賞
 - 09 たくさん食べなきゃね～分量を表現する
 - 10 きょうはいい天気だぞ～天候の表現

- 11 ちょっと復習&検定試験のための勉強
- 12 どっちがどっち?～比較の言い方
- 13 お台場に行ってみた～過去の言い方
- 14 また日本に来るよ～未来の言い方
- 15 まとめとチェック

使用テキスト: 藤田裕二『パスカル・オ・ジャポン』、白水社、2009年。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 授業中に指示します。

障がいのある履修者への対応: まずは教務部窓口に相談しましょう。

授業時間外の連絡手段: オフィスアワー

留意事項: 初めての外国語です。心機一転、予習復習を怠らないようにしましょう。

科目コード: 10076 **科目ナンバリング:** LA12B04E **主な使用言語:** 日本語(説明)|フラ

授業名(英文): フランス語IIB b(French IIB b)

担当者: 二瓶 恵

基本情報

年次: 1

単位数: 1

授業形式: 演習

曜時: 火曜3限

履修可能学科・専攻: E Pe Pc C W F N M

関連資格: 教職

AL要素: 08. 協同学習

17. 発問と回答

授業の概要: 初めてフランス語を学ぶ大学生を対象につくられたテキスト『なびふらんせ1—パリをめぐる』を使って、フランス語の初歩会話を学んでいきます。授業ではみなさんがつまづかないようにゆっくり丁寧に導きます。10年間暮らしたパリのお話もしていきます。

キーワード: フランス語会話、ボキャブラリー、フランスの歴史と文化、フランスの世界遺産、フランス留学

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標: フランス語の初歩会話を学習し使うことができる。同様に、相手の言っていることを聴き取り理解することができる

評価方法: 学期末試験

評価割合: 50%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標: 授業を通して学習した会話モデルを、自分で話したいことに置き換えて表現できる。また、相手が言っていることも理解することができる

評価方法: 授業での遣り取り、ミニテスト

評価割合: 30%

▼ 学修に主体的に取り組む態度

このクラスは、初めてフランス語を勉強するクラスです。ゆっくり説明していきますから、しっかり聞いて授業中にたくさん会話の練習をして下さい。

評価割合: 20%

▼ 実践的ボランティア

授業内容に加えて、フランス映画やシャンソン、日本で見聞きするフランスに関するCMやちょっとしたニュースなども紹介していきます。ぜひ、日常的にフランス語に触れる機会をつくって下さい。

評価割合: 0%

▼ 公正性

授業中に行われるミニテストや学期末の試験において、不正があった場合は評価はゼロまたは失格としま

す。

評価割合：0%

▼その他

遅刻/早退/退出は3回で1回の欠席扱いになります(オンライン授業におけるパソコン機器やWi-Fiの不具合等によるものはある程度考慮します)。

評価割合：遅刻/早退/退出は3回で1回の欠席

授業計画：【第01回】前期試験返却、復習
【第02回】Lecon 00 前期の復習(基本会話)
【第03回】Lecon 07 わたしたちは、美術館へ行きます
【第04回】Lecon 07 彼は、イギリスから来ました
【第05回】Lecon 08 テリーヌをお願いします
【第06回】Lecon 08 レストランでの会話
【第07回】Lecon 09 今、何時ですか？
【第08回】Lecon 09 時間の表現
【第09回】Lecon 09 今日は、晴れています
【第10回】Lecon 10 こちらの赤のスカートを下さい
【第11回】Lecon 10 デパートでお買い物
【第12回】Lecon 11 2つ目の道を右に行ってください
【第13回】Lecon 11 地図を読む
【第14回】Lecon 12 パリへ行きました
【第15回】Lecon 12 過去の表現
定期試験

使用テキスト：『なびふらんせ1—パリをめぐる』、有富智世/喜久川功他、朝日出版社、2500円

予習・復習のポイントと参考文献・資料等：1年次では予習よりも習ったことをしっかり復習することが大切です。レッスンが終わるごとにミニテストを行いますので、各自復習をお願いします。参考書は、必要に応じて随時紹介していきます。

障がいのある履修者への対応：出来る限り対応します(学務部または教員に声を掛けてください)

授業時間外の連絡手段：連絡可能なメールアドレスを初回の授業でお知らせします

留意事項：辞書の説明は、第1回目の授業で行います。1年生から最長で4年生までつかう大事なものですので、説明をよく聞いてから指定のものを購入すること

科目コード：10076 科目ナンバリング：LA12B04E 主な使用言語：日本語(説明)|フラ

授業名(英文)：フランス語IIB c(French IIB c)

担当者：二瓶 恵

基本情報

年次：1

単位数：1

授業形式：演習

曜時：火曜4限

履修可能学科・専攻：E Pe Pc C W F N M

関連資格：教職

AL要素：08.協同学習
17.発問と回答

授業の概要：初めてフランス語を学ぶ大学生を対象につくられたテキスト『なびふらんせ1—パリをめぐる』を使って、フランス語の初歩会話を学んでいきます。授業ではみなさんがつまづかないようにゆっくり丁寧に導きます。10年間暮らしたパリのお話もしていきます。

キーワード：フランス語会話、ボキャブラリー、フランスの歴史と文化、フランスの世界遺産、フランス留学
学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標: フランス語の初歩会話を学習し使うことができる。同様に、相手の言っていることを聴き取り理解することができる

評価方法: 学期末試験

評価割合: 50%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標: 授業を通して学習した会話モデルを、自分で話したいことに置き換えて表現できる。また、相手が言っていることも理解することができる

評価方法: 授業での遣り取り、ミニテスト

評価割合: 30%

▼ 学修に主体的に取り組む態度

このクラスは、初めてフランス語を勉強するクラスです。ゆっくり説明していきますから、しっかり聞いて授業中にたくさん会話の練習をして下さい。

評価割合: 20%

▼ 実践的ボランティア

授業内容に加えて、フランス映画やシャンソン、日本で見聞きするフランスに関するCMやちょっとしたニュースなども紹介していきます。ぜひ、日常的にフランス語に触れる機会をつくって下さい。

評価割合: 0%

▼ 公正性

授業中に行われるミニテストや学期末の試験において、不正があった場合は評価はゼロまたは失格とします。

評価割合: 0%

▼ その他

遅刻/早退/退出は3回で1回の欠席扱いになります(オンライン授業におけるパソコン機器やWi-Fiの不具合等によるものはある程度考慮します)。

評価割合: 遅刻/早退/退出は3回で1回の欠席

授業計画:

- 【第01回】前期試験返却、復習
- 【第02回】Lecon 00 前期の復習(基本会話)
- 【第03回】Lecon 07 わたしたちは、美術館へ行きます
- 【第04回】Lecon 07 彼は、イギリスから来ました
- 【第05回】Lecon 08 テリーヌをお願いします
- 【第06回】Lecon 08 レストランでの会話
- 【第07回】Lecon 09 今、何時ですか?
- 【第08回】Lecon 09 時間の表現
- 【第09回】Lecon 09 今日は、晴れています
- 【第10回】Lecon 10 こちらの赤のスカートを下さい
- 【第11回】Lecon 10 デパートでお買い物
- 【第12回】Lecon 11 2つ目の道を右に行ってください
- 【第13回】Lecon 11 地図を読む
- 【第14回】Lecon 12 パリへ行きました
- 【第15回】Lecon 12 過去の表現

定期試験

使用テキスト: 『なびふらんせ1—パリをめぐる』、有富智世/喜久川功他、朝日出版社、2500円

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 1年次では予習よりも習ったことをしっかり復習することが大切です。レッスンが終わるごとにミニテストを行いますので、各自復習をお願いします。参考書は、必要に応じて随時紹介していきます。

障がいのある履修者への対応: 出来る限り対応します(学務部または教員に声を掛けてください)

授業時間外の連絡手段: 連絡可能なメールアドレスを初回の授業でお知らせします

留意事項: 辞書の説明は、第1回目の授業で行います。1年生から最長で4年生までつかう大事なものですので、説明をよく聞いてから指定のものを購入すること

科目コード:10077 科目ナンバリング:LA23B05E 主な使用言語:日本語 フランス

授業名(英文): フランス語ⅢA a(French ⅢA a)

担当者: 和泉 涼一

基本情報

年次:2

単位数:1

授業形式:演習

曜時:月曜5限

履修可能学科・専攻: E Pe Pc C W F N M

関連資格:

AL要素: 演習

授業の概要: 【特例期間中の授業形態】課題研究型

- ・1年次に学んだことを基礎として、もう少し深く広くフランス語に親しんでみましょう。
- ・フランスの美しい絵本やディズニーでアニメになった昔話などをゆっくり読みながら、入門から初級、さらに中級レベルのフランス語を身につけます。希望があれば新聞記事など時事フランス語も扱います。
- ・仕上げとして世界の文学史に名高いサン＝テグジュペリの『星の王子さま』に挑戦します(希望しだい)。翻訳を参考にしながら進めますので、予習復習をしっかりとやりましょう。このテキストが読めるようになれば、フランス語はもう免許皆伝です。
- ・時間をみつけてはフランス映画や各地の「街歩き」のビデオを楽しみます。
- ・余裕があればシャンソンを歌ってみましょう。
- ・フランス語検定試験の勉強もします。

キーワード: フランス語 フランス語検定 絵本 童話 シャンソン 中級へ

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標: 授業で扱った内容を80%理解できることを目指します。

評価方法: 「まとめとチェック」(最終授業)で簡単な確認をおこないます。その点数によります。出席点はありますが、授業での活躍や検定試験の結果等は考慮します。 **評価割合: 100%**

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 特になし。

評価方法: 上記に準じます。 **評価割合: 0%**

▼学修に主体的に取り組む態度

特になし。

評価割合: 0%

▼実践的ボランティア

特になし。

評価割合: 0%

▼公正性

特になし。

評価割合: 0%

▼その他

特になし。

評価割合：特になし。

- 授業計画： 01 ガイダンス
02 1年次のおさらい
03 1年次のおさらい2
04 絵本を読んでみよう (リサとガスパール)
05 絵本を読んでみよう (リサとガスパール)
06 絵本を読んでみよう (リサとガスパール)
07 絵本を読んでみよう (リサとガスパール)
08 絵本を読んでみよう (リサとガスパール)
09 昔話を読んでみよう (シンデレラなど)
10 昔話を読んでみよう (シンデレラなど)
11 昔話を読んでみよう (シンデレラなど)
12 昔話を読んでみよう (美女と野獣など)
13 昔話を読んでみよう (美女と野獣など)
14 昔話を読んでみよう (美女と野獣など)
15 まとめとチェック

使用テキスト： プリントを準備します。

予習・復習のポイントと 授業中に指示します。

参考文献・資料等：

障がいのある 履修者への対応： まずは教務部窓口にご相談しましょう。

授業時間外の連絡手段： オフィスアワー。

留意事項： とりあげる作品については学生の要望しだいに変更できます。どんどんリクエストしてください。

科目コード：10077

科目ナンバリング：LA23B05E

主な使用言語：日本語

授業名(英文)：フランス語ⅢA b(French IIIA b)

担当者： 六川 裕子

基本情報

年次：2

単位数：1

授業形式：演習

曜時：火曜3限

履修可能学科・専攻： E Pe Pc C W F N M

関連資格：

AL要素：17. 発問と回答

授業の概要： フランス語の基礎をすでに学んだ人を対象として、簡単な文章を読みこなす練習をしながら、初級から中級レベルの、フランス語検定4級レベルのフランス語能力を身につけることを目指します。言葉と結びついたフランスの文化への理解も深めていきます。

キーワード： 外国語、フランス、初級文法、初級読解、中級文法、フランス文化

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： フランス語の短い文章を、辞書を使って読みこなし、内容の流れをつかむことができる。また、学んだ文法の知識を理解して使うことができる。

評価方法： 小テスト、学期末筆記試験

評価割合：50%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 学んだ文法や表現の知識をもとにして、論理的な思考力や判断力を用いた応用表現ができる。また、フランス語の文章の内容について自らの言葉で説明することができる。

評価方法： 学期末筆記試験

評価割合：40%

▼学修に主体的に取り組む態度

授業への参加状況や、予習、宿題、提出物といった課題への取り組みによって評価する。

評価割合：10%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただしこの精神が授業中の協働活動などへの取り組みで発揮される場合は、上記の項目「学修に主体的に取り組む態度」の評価対象とすることがある。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし提出物や小テストにおいて不正行為があった場合は減点の対象となることもあるので注意すること。

評価割合：0%

▼その他

特になし。

評価割合：特になし。

授業計画： 第1回 オリエンテーション、初級フランス語の確認
第2回 あいさつのやり取り:冠詞
第3回 人について話す:疑問文
第4回 人について話す:形容詞
第5回 人について話す:否定文
第6回 買い物をする:動詞の活用
第7回 買い物をする:指示形容詞、所有形容詞
第8回 タクシーでの会話:近い未来と近い過去
第9回 タクシーでの会話:天候
第10回 タクシーでの会話:命令法、時間
第11回 誕生日を祝う:目的語代名詞(1)
第12回 誕生日を祝う:目的語対名詞(2)
第13回 誕生日を祝う:比較級と最上級
第14回 スポーツの話をする:代名動詞
第15回 まとめ
定期試験

使用テキスト： 澤田直ほか、『アミカルマン<プリュス>-フランス語・フランス文化への誘い-』、駿河台出版社、2018年

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 予習する箇所を授業で指定しますので、必ず予習をしてテキストの分からない所を調べてるようにしてください。自分で辞書を引いて調べることで知識を定着させ、語彙力を伸ばしていきましょう。宿題や小テストの準備も含めて、復習をして毎回の学習内容をしっかり消化していくことも重要です。
予習に必要なため、仏和辞典は必ず準備してください。また、初級(IA・IIA)の授業で使った教科書を持参して参照することもお勧めします。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください。

授業時間外の連絡手段： 授業の前後の時間に教室で対応します。授業のない日の緊急の連絡に限り、学務部で連絡先を問い合わせてください。

留意事項： 特になし。

科目コード：10077

科目ナンバリング：LA23B05E

主な使用言語：日本語

授業名(英文)：フランス語ⅢA c(French IIIA c)

担当者：六川 裕子

基本情報

年次：2

単位数：1

授業形式：演習

曜時：金曜3限

履修可能学科・専攻： E Pe Pc C W F N M

関連資格：

AL要素： 17. 発問と回答

授業の概要： フランス語の基礎をすでに学んだ人を対象として、簡単な文章を読みこなす練習をしながら、初級から中級レベルの、フランス語検定4級レベルのフランス語能力を身につけることを目指します。言葉と結びついたフランスの文化への理解も深めていきます。

キーワード： 外国語、フランス、初級文法、初級読解、中級文法、フランス文化

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： フランス語の短い文章を、辞書を使って読みこなし、内容の流れをつかむことができる。また、学んだ文法の知識を理解して使うことができる。

評価方法： 小テスト、学期末筆記試験

評価割合：50%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 学んだ文法や表現の知識をもとにして、論理的な思考力や判断力を用いた応用表現ができる。また、フランス語の文章の内容について自らの言葉で説明することができる。

評価方法： 学期末筆記試験

評価割合：40%

▼学修に主体的に取り組む態度

授業への参加状況や、予習、宿題、提出物といった課題への取り組みによって評価する。

評価割合：10%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただしこの精神が授業中の協働活動などへの取り組みで発揮される場合は、上記の項目「学修に主体的に取り組む態度」の評価対象とすることがある。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし提出物や小テストにおいて不正行為があった場合は減点の対象となることもあるので注意すること。

評価割合：0%

▼その他

特になし。

評価割合：特になし。

授業計画：

- 第1回 オリエンテーション、初級フランス語の確認
- 第2回 あいさつ、名前や国籍を言う、年齢や家族の話をする：冠詞、否定文
- 第3回 好きなものを言う、持ち物を言う：疑問文、所有形容詞
- 第4回 友達について話す：形容詞
- 第5回 尋ねる：疑問代名詞と疑問副詞
- 第6回 近い未来、近い過去のことを語る：近接未来と近接過去
- 第7回 時間、天候を言う：非人称構文
- 第8回 数量を表す：数量の表現、中性代名詞
- 第9回 紹介する：補語人称代名詞(1)
- 第10回 紹介する：補語人称代名詞(2)
- 第12回 一日を語る：代名動詞(1)
- 第13回 一日を語る：代名動詞(2)
- 第14回 頼む・命令する：命令法
- 第15回 まとめ
定期試験

使用テキスト： 藤田裕二ほか、『新・東京・パリ、初飛行』、駿河台出版社、2017年

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 予習する箇所を授業で指定しますので、必ず予習をしてテキストの分からない所を調べてくれるようにしてください。自分で辞書を引いて調べることで知識を定着させ、語彙力を伸ばしていきましょう。宿題や小テストの準備も含めて、復習をして毎回の学習内容をしっかり消化していくことも重要です。予習に必要なため、仏和辞典は必ず準備してください。また、初級(IA・IIA)の授業で使った教科書を持参して参照することもお勧めします。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください。

授業時間外の連絡手段： 授業の前後の時間に教室で対応します。授業のない日の緊急の連絡に限り、学務部で連絡先を問い合わせてください。

留意事項： 特になし。

科目コード：10078 科目ナンバリング：LA24B03E 主な使用言語：日本語 フランス

授業名(英文)：フランス語IVA a(French IVA a)

担当者：和泉 涼一

基本情報

年次：2

単位数：1

授業形式：演習

曜時：月曜5限

履修可能学科・専攻：E Pe Pc C W F N M

関連資格：

AL要素：演習

授業の概要：【授業形態ガイドライン・レベルⅢ、レベルⅡ課題研究型】

- ・1年次に学んだことを基礎として、もう少し深く広くフランス語に親しんでみましょう。
- ・フランスの美しい絵本やディズニーでアニメになった昔話などをゆっくり読みながら、入門から初級、さらに中級レベルのフランス語を身につけます。希望があればニュースなど時事フランス語も扱います。
- ・仕上げとして世界の文学史に名高いサン＝テグジュペリの『星の王子さま』に挑戦します(希望しだい)。翻訳を参考にしながら進めますので、予習復習をしっかりとやりましょう。このテキストが読めるようになれば、フランス語はもう免許皆伝です。
- ・時間をみつけてはフランス映画や各地の「街歩き」のビデオを鑑賞します。
- ・余裕があればシャンソンを歌ってみましょう。
- ・フランス語検定試験の勉強もします。

キーワード：

フランス語 フランス語検定 絵本 童話 シャンソン 中級へ

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 授業で学んだことが80%理解できる。

評価方法： 「まとめとチェック」(最終授業)で簡単な確認をおこないます。その点数によります。出席点はありませんが、授業での活躍や検定試験の結果等は考慮します。 **評価割合：100%**

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 特になし。

評価方法： 上記に準じます。 **評価割合：0%**

▼学修に主体的に取り組む態度

特になし。

評価割合：0%

▼実践的ボランティア

特になし。

評価割合：0%

▼公正性

特になし。

評価割合：0%

▼その他

特になし。

評価割合：特になし。

- 授業計画：
- 01 ガイダンス
 - 02 前期のおさらい
 - 03 前期のおさらい2
 - 04 昔話を読んでみよう（アナと雪の女王など）
 - 05 昔話を読んでみよう（アナと雪の女王など）
 - 06 昔話を読んでみよう（アナと雪の女王など）
 - 07 昔話を読んでみよう（不思議の国のアリスなど）
 - 08 昔話を読んでみよう（不思議の国のアリスなど）
 - 09 昔話を読んでみよう（不思議の国のアリスなど）
 - 10 『星の王子さま』を読んでみよう
 - 11 『星の王子さま』を読んでみよう
 - 12 『星の王子さま』を読んでみよう
 - 13 『星の王子さま』を読んでみよう
 - 14 『星の王子さま』を読んでみよう
 - 15 まとめとチェック

使用テキスト： プリントを準備します。

予習・復習のポイントと 授業中に指示します。

参考文献・資料等：

障がいのある 履修者への対応： まずは教務部窓口にご相談しましょう。

授業時間外の連絡手段： オフィスアワー。

留意事項： とりあげる作品については学生の要望を重視します。どんどリクエストしましょう。

科目コード：10078 科目ナンバリング：LA24B03E 主な使用言語：日本語

授業名(英文)：フランス語IVA b(French IVA b)

担当者： 六川 裕子

基本情報

年次：2

単位数：1

授業形式：演習

曜時：火曜3限

履修可能学科・専攻： E Pe Pc C W F N M

関連資格：

AL要素： 17. 発問と回答

授業の概要： フランス語の基礎をすでに習得した人を対象として、中級のフランス語検定3級レベルの知識を学ぶことを目指し、さらにその知識を用いて様々な文章を読みこなす練習をしていきます。言葉と結びついたフランスの文化への理解も深めていきます。

キーワード： 外国語、フランス、中級文法、初級読解、中級読解、フランス文化

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： フランス語のまとまった長さの文章を、辞書を使って読みこなし、内容の流れをつかむことができ

る。また、学んだ文法の知識を理解して使うことができる。

評価方法：小テスト、学期末筆記試験

評価割合：50%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標：学んだ文法や表現の知識をもとにして、論理的な思考力や判断力を用いた応用表現ができる。また、フランス語の文章の内容について自らの言葉で説明することができる。

評価方法：学期末筆記試験

評価割合：40%

▼学修に主体的に取り組む態度

授業への参加状況や、予習、宿題、提出物といった課題への取り組みによって評価する。

評価割合：10%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただしこの精神が授業中の協働活動などへの取り組みで発揮される場合は、上記の項目「学修に主体的に取り組む態度」の評価対象とすることがある。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし提出物や小テストにおいて不正行為があった場合は減点の対象となることもあるので注意すること。

評価割合：0%

▼その他

特になし。

評価割合：特になし。

- 授業計画：**
- 第1回 前期の内容の復習
 - 第2回 テニスのレッスンに申し込む:疑問形容詞
 - 第3回 映画を見る:複合過去(1)
 - 第4回 映画を見る:複合過去(2)
 - 第5回 友人をバカンスに誘う:半過去
 - 第6回 友人をバカンスに誘う:関係代名詞、強調構文
 - 第7回 友人をバカンスに誘う:受動態
 - 第8回 旅行の予定を立てる:単純未来
 - 第9回 旅行の予定を立てる:現在分詞とジェロンディフ
 - 第10回 旅行の予定を立てる:中性代名詞
 - 第11回 バカンスの提案をする:大過去
 - 第12回 バカンスの提案をする:条件法現在、条件法過去
 - 第13回 バカンスの終わり:接続法現在(1)
 - 第14回 バカンスの終わり:接続法現在(2)
 - 第15回 まとめ
- 定期試験

使用テキスト：澤田直ほか、『アミカルマン<プリュス>-フランス語・フランス文化への誘い-』、駿河台出版社、2018年

予習・復習のポイントと参考文献・資料等：予習する箇所を授業で指定しますので、必ず予習をしてテキストの分からない所を調べてくださいますようにしてください。自分で辞書を引いて調べることで知識を定着させ、語彙力を伸ばしていきましょう。宿題や小テストの準備も含めて、復習をして毎回の学習内容をしっかり消化していくことも重要です。予習に必要なため、仏和辞典は必ず準備してください。また、初級(IA・IIA)の授業で使った教科書を持参して参照することもお勧めします。

障がいのある履修者への対応：可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください。

授業時間外の連絡手段：授業の前後の時間に教室で対応します。授業のない日の緊急の連絡に限り、学務部で連絡先を問い合わせてください。

留意事項： 特になし。

科目コード：10078 科目ナンバリング：LA24B03E 主な使用言語：日本語
授業名(英文)：フランス語IVA c(French IVA c)
担当者： 六川 裕子

基本情報

年次：2 単位数：1 授業形式：演習
曜時：金曜3限 履修可能学科・専攻： E Pe Pc C W F N M
関連資格： AL要素： 17. 発問と回答

授業の概要： フランス語の基礎をすでに習得した人を対象として、中級のフランス語検定3級レベルの知識を学ぶことを目指し、さらにその知識を用いて様々な文章を読みこなす練習をしていきます。言葉と結びついたフランスの文化への理解も深めていきます。

キーワード： 外国語、フランス、中級文法、初級読解、中級読解、フランス文化

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標： フランス語のまとまった長さの文章を、辞書を使って読みこなし、内容の流れをつかむことができる。また、学んだ文法の知識を理解して使うことができる。

評価方法： 小テスト、学期末筆記試験 **評価割合：** 50%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標： 学んだ文法や表現の知識をもとにして、論理的な思考力や判断力を用いた応用表現ができる。また、フランス語の文章の内容について自らの言葉で説明することができる。

評価方法： 学期末筆記試験 **評価割合：** 40%

▼ 学修に主体的に取り組む態度

授業への参加状況や、予習、宿題、提出物といった課題への取り組みによって評価する。

評価割合： 10%

▼ 実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただしこの精神が授業中の協働活動などへの取り組みで発揮される場合は、上記の項目「学修に主体的に取り組む態度」の評価対象とすることがある。

評価割合： 0%

▼ 公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし提出物や小テストにおいて不正行為があった場合は減点の対象となることもあるので注意すること。

評価割合： 0%

▼ その他

特になし。

評価割合： 特になし。

授業計画： 第1回 前期の内容の復習
第2回 未来のことを語る：直説法単純未来
第3回 過去のことを語る：複合過去(1)
第4回 過去のことを語る：複合過去(2)
第5回 過去のことを語るI：直説法半過去・大過去
第6回 人や物について語る：関係代名詞
第7回 比較する：比較級と最上級
第8回 受け身の形を使う：受動態

- 第9回 受け身の形を使う:現在分詞とジェロンディフ
- 第10回 仮定する:条件法現在
- 第11回 仮定する:条件法過去
- 第12回 感情を表現する:接続法現在(1)
- 第13回 感情を表現する:接続法現在(2)
- 第14回 感情を表現する:接続法過去
- 第15回 まとめ
- 定期試験

使用テキスト: 藤田裕二ほか、『新・東京・パリ、初飛行』、駿河台出版社、2017年

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 予習する箇所を授業で指定しますので、必ず予習をしてテキストの分からない所を調べてくださいますようお願いいたします。自分で辞書を引いて調べることで知識を定着させ、語彙力を伸ばしていきましょう。宿題や小テストの準備も含めて、復習をして毎回の学習内容をしっかり消化していくことも重要です。予習に必要なため、仏和辞典は必ず準備してください。また、初級(IA・IIA)の授業で使った教科書を持参して参照することもお勧めします。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください。

授業時間外の連絡手段: 授業の前後の時間に教室で対応します。授業のない日の緊急の連絡に限り、学務部で連絡先を問い合わせてください。

留意事項: 特になし。

科目コード: 10079 **科目ナンバリング:** **主な使用言語:** 日本語(説明)|フラ

授業名(英文): フランス語III B(French III B)

担当者: 二瓶 恵

基本情報

年次: 2

単位数: 1

授業形式: 演習

曜時: 火曜5限

履修可能学科・専攻: E Pe Pc C W F N M

関連資格:

AL要素: 08. 協同学習
17. 発問と回答

授業の概要: この授業は、1年生でフランス語の基礎を学び終えた2年生～4年生までが集まる混合クラスです。さらにフランス語の力をつけたい学生さんたちのために、さまざまな内容を用意しています。授業計画はあくまで提案で、受講する学生さんたちの希望により授業内容は毎年変わります。今年もさまざまな題材を取り上げ、楽しみながらフランス語のレベルアップと知識の向上をはかっていきます。

キーワード: フランス語初級～中級、フランスの歴史と文化、フランスの世界遺産、フランス留学、外国語奨励賞

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標: フランス語の基本知識を身に着け、自分が言いたいことを口頭や文章で表現できる。文法のみならず、フランスについてのさまざまな知識を深めることができる

評価方法: 学期末試験

評価割合: 50%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標: 授業を通して学習した文法または会話モデルを、自分で話したいことに置き換えて表現できる。また、相手が言っていることも理解することができる

評価方法: 授業での遣り取り、課題提出

評価割合: 30%

▼学修に主体的に取り組む態度

このクラスは、学生さんが主体の積極的に参加する授業です。取り上げて欲しい内容があれば、いつでも言ってください。

評価割合：20%

▼実践的ボランティア

授業に加えて、フランス映画やシャンソン、日本で視聴できるラジオやニュース番組、フランスに関連するイベントなどもたくさん紹介していきます。ぜひ、日常的にフランス語に触れる機会をつくって下さい。

評価割合：0%

▼公正性

課題や学期末の試験において、ネットなどからのコピーや不正行為があった場合は評価はゼロまたは失格とします。

評価割合：0%

▼その他

希望者は、春に「実用フランス語技能検定試験」を受験することができます。このクラスは様々なレベルに対応しますが、仏検4級に合格するとフランス語IIIA/IIIBクラスの成績評価に加味してもらうことができます(1度のみ)⇒コロナウイルスのため、春の検定試験は中止となりました

評価割合：希望者は、春に「実用フランス語技

- 授業計画：**
- 【第01回】 Lecon 0 授業に関するオリエンテーション
 - 【第02回】 Lecon 1 フランス語で自己紹介！
 - 【第03回】 Lecon 2 出身、職業を訊いてみる
 - 【第04回】 Lecon 3 友人のことを話してみる
 - 【第05回】 Lecon 4好きなことを話してみる
 - 【第06回】 Lecon 5 家族のこと話してみる
 - 【第07回】 実用フランス語技能検定試験フォロー(1)
 - 【第08回】 実用フランス語技能検定試験フォロー(2)
 - 【第09回】 フランスのお料理、お菓子のレシピを訳してみる！
 - 【第10回】 フランスの季節行事について
 - 【第11回】 フランスの絵本を読んでみる！(1)
 - 【第12回】 フランスの絵本を読んでみる！(2)
 - 【第13回】 すぐに役立つフランス語会話(ショッピング)
 - 【第14回】 すぐに役立つフランス語会話(カフェ・レストラン)
 - 【第15回】 フランスのお話(世界遺産について)
- 定期試験(オンライン)

使用テキスト：『En scene 1—場面で学ぶフランス語1』、高橋百代/Nicolas Jegonday他、三修社、2500円

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 1年生で習った基本文法はどれも大事なものです。随時復習をお願いします。参考書やフランス語の原書など、必要に応じてさまざまなものを紹介していきます。

障がいのある履修者への対応： 出来る限り対応します(学務部または教員に声を掛けてください)

授業時間外の連絡手段： 連絡可能なメールアドレスを初回の授業でお知らせします

留意事項： この授業を履修するには、フランス語IIAまたはIIBのどちらかの単位を既に取得していることが条件となります。フランス語IIIBとフランス語IVBはどちらを先に履修しても、またそれぞれ2年生から4年生まで3回正式に履修が認められる(複数回単位が認定される)クラスです。

科目コード：10080

科目ナンバリング：

主な使用言語：日本語(説明)|フラ

授業名(英文)：フランス語IVB(French IVB)

担当者：二瓶 恵

基本情報

年次：2

単位数：1

授業形式：演習

曜時：火曜5限

履修可能学科・専攻：E Pe Pc C W F N M

関連資格：

AL要素：08.協同学習
17.発問と回答

授業の概要：【授業形態ガイドライン・レベルIII、レベルII】→遠隔授業(zoomによる同時双方型)、場合によっては課題研究型

この授業は、1年生でフランス語の基礎を学び終えた2年生～4年生までが集まる混合クラスです。さらにフランス語の力をつけたい学生さんたちのために、さまざまな内容を用意しています。授業計画はあくまで提案で、受講する学生さんたちの希望により授業内容は毎年変わります。今年もさまざまな題材を取り上げ、楽しみながらフランス語のレベルアップと知識の向上をはかっていきます。

キーワード：フランス語初級～中級、フランスの歴史と文化、、フランスの世界遺産、フランス留学、外国語奨励賞

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標：フランス語の基本知識を身に付け、自分が言いたいことを口頭や文章で表現できる。文法のみならず、フランスについてのさまざまな知識を深めることができる

評価方法：学期末試験

評価割合：50%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標：授業を通して学習した文法または会話モデルを、自分で話したいことに置き換えて表現できる。また、相手が言っていることも理解することができる

評価方法：授業での遣り取り、課題提出

評価割合：30%

▼学修に主体的に取り組む態度

このクラスは、学生さんが主体の積極的に参加する授業です。取り上げて欲しい内容があれば、いつでも言ってください

評価割合：20%

▼実践的ボランティア

授業に加えて、フランス映画やシャンソン、日本で視聴できるラジオやニュース番組、フランスに関連するイベントなどもたくさん紹介していきます。ぜひ、日常的にフランス語に触れる機会をつくって下さい

評価割合：0%

▼公正性

課題や学期末の試験において、ネットなどからのコピーや不正行為があった場合は評価はゼロまたは失格とします。

評価割合：0%

▼その他

希望者は、秋に「実用フランス語技能検定試験」を受験することができます。このクラスは様々なレベルに対応しますが、仏検3級に合格するとフランス語IVA/IVBクラスの成績評価に加味してもらうことができます(1度のみ)

評価割合：希望者は、秋に「実用フランス語技

授業計画：【第01回】 Lecon 0 フランス語で話してみる！(夏休みにしたこと)

【第02回】 Lecon 6 持ち物の表現

【第03回】 Lecon 7 時間の表現、天候の表現

【第04回】 Lecon 8 過去の出来事を話してみる

【第05回】 Lecon 9 これからの予定を話してみる

- 【第06回】 実用フランス語技能検定試験フォロー(1)
 - 【第07回】 実用フランス語技能検定試験フォロー(2)
 - 【第08回】 フランスのワインとチーズ、伝統料理
 - 【第09回】 フランスの季節行事の紹介
 - 【第10回】 フランス旅行の計画を立ててみる！(1)
 - 【第11回】 フランス旅行の計画を立ててみる！(2)
 - 【第12回】 グリーティング・カードを書いてみる！(クリスマス、バースデー)
 - 【第13回】 フランスのシャンソン、映画
 - 【第14回】 フランスの美術館めぐり
 - 【第15回】 すぐに役立つフランス語会話(日常生活篇)
- 定期試験

使用テキスト: 『En scene 1—場面で学ぶフランス語1』、高橋百代/Nicolas Jegonday他、三修社、2500円

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 1年生で習った基本文法はどれも大事なものです。随時復習をお願いします。参考書やフランス語の原書など、必要に応じてさまざまなものを紹介していきます。

障がいのある履修者への対応: 出来る限り対応します(学務部または教員に声を掛けてください)

授業時間外の連絡手段: 連絡可能なメールアドレスを初回の授業でお知らせします

留意事項: この授業を履修するには、フランス語IIAまたはIIBのどちらかの単位を既に取得していることが条件となります。フランス語IIIBとフランス語IVBはどちらを先に履修しても、またそれぞれ2年生から4年生まで3回正式に履修が認められる(複数回単位が認定される)クラスです。

科目コード:10081 科目ナンバリング:LA11C05E 主な使用言語:日本語|

授業名(英文): 中国語IA a(Chinese IA a)

担当者: 井澤 耕一

基本情報

年次:1

単位数:1

授業形式:演習

曜時:金曜4限

履修可能学科・専攻: E Pe Pc C W F N M

関連資格:

AL要素: 07

授業の概要: 本授業は、まず、中国語の発音をマスターすることから始まり、その後は、教科書にそって簡単な日常会話を学んでいきます。聞くこと、発音することを何度も繰り返すことで、中国語にできるだけ触れてもらい、また実際に書いてみることで、学んだ事柄の定着をはかります。受講生の興味・関心に応じて柔軟に授業を展開し、授業中、中国の社会や生活に関する事を紹介することにより、中国文化への理解を深めてもらいます。

キーワード: 外国語、会話、リスニング力、中国文化

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標: 授業で解説を受けた発音、文法に関する知識を駆使して、それを主に口頭および文字で表現できる。

評価方法: 学期末筆記試験
不定期に実施する小テスト

評価割合: 100%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 特になし

評価方法: 特になし

評価割合: 0%

▼学修に主体的に取り組む態度

特になし

評価割合：0%

▼実践的ボランティア

特になし

評価割合：0%

▼公正性

特になし

評価割合：0%

▼その他

特になし

評価割合：特になし

授業計画： 第1回 授業の概要説明
第2回 発音編 ① 声調・単母音
第3回 発音編 ② 単母音・複合母音
第4回 発音編 ③ 子音？
第5回 発音編 ④ 子音？
第6回 発音編 ⑤ 鼻母音
第7回 発音編 ⑥ 発音のルール、挨拶
第8課 発音編 ⑦ 発音習得確認テスト
以下1課を2回に分け、語法、会話、閲読、別冊問題集の順序で実施
第9回 第1課 こんにちは？
第10回 第1課 こんにちは？
第11回 第2課 これは誰の教科書？？
第12回 第2課 これは誰の教科書？？
第13回 第3課 今日は何日？？
第14回 第3課 今日は何日？？
第15回 前学期の総復習
定期試験

使用テキスト： 中国語教育実践方法論研究会『李麗と話そう！』郁文堂、2018年

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 本授業は、特に復習に力を注ぎ、既習した事項の要点を、ノートや音声教材を使用して、再確認していただきたい。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応しますので、まずは学務に連絡してください。

授業時間外の連絡手段： まずは学務に問い合わせてください。

留意事項： 特になし

科目コード：10081 科目ナンバリング：LA11C05E 主な使用言語：日本語

授業名(英文)：中国語IA b(Chinese IA b)

担当者：趙萍

基本情報

年次：1

単位数：1

授業形式：演習

曜時：木曜2限

履修可能学科・専攻：E Pe Pc C W F N M

関連資格：

AL要素：17.発問と回答

授業の概要： 中国語入門の授業である。中国語の発音とその表記(ピンイン)をしっかりとマスターした上で、初歩の文法を理解し、中国語の簡単かつ実用的な会話表現を身につける。

キーワード： 中国語入門、ピンイン、四声

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標: 1、ピンインの発音・聞き取りができる。
2. 中国語で自己紹介ができる。
3. 中国語の文法の基礎を理解し、基本的な日常会話ができ、基礎的な短文の読み書きができる。

評価方法: 学期末筆記試験

評価割合: 60%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標: 直接的な評価対象としない。ただし、授業で扱った内容について、積極的に中国語でコミュニケーションをとることができる場合、上記の項目「知識・技能」の評価対象とすることができる。

評価方法: なし

評価割合: 0%

▼ 学修に主体的に取り組む態度

毎回授業の初めに、前回の授業で学習した内容の復習小テストを実施する。

評価割合: 40%

▼ 実践的ボランティア

直接的な評価対象としない。

評価割合: 0%

▼ 公正性

直接的な評価対象としない。ただし期末試験や小テストにおいてカンニングなどの不正行為があった場合、厳重注意の対象となるので注意すること。

評価割合: 0%

▼ その他

特になし

評価割合: 特になし

授業計画: 第1回 ガイダンス・中国語入門 (ウォーミングアップ・発音)
内容:授業の進め方・現代中国事情・発音1(声調・単母音)
第2回 発音練習(発音)
内容:発音2(複母音)
第3回 発音練習(発音)
内容:発音3(子音)・挨拶言葉
第4回 発音練習(発音)
内容:発音4(-nと-ng)・数字の言い方
第5回 発音練習(声調変化の特徴)
内容:声調変化の発音・挨拶言葉・「音節総表」
第6回 発音の復習
第7回 第1課
内容:人称代名詞・“是”の文、ma疑問文
第8回 第1課の会話とトレーニング1A
第9回 第1課の購読とトレーニング1B
第10回 自己紹介の会話を練習する
第11回 第2課
内容:指示代名詞、疑問詞疑問文、「的」
第12回 第2課 の会話とトレーニング2A
第13回 第2課の会話とトレーニング2B
第14回 ものを聞いたり答えたりすることを練習する
第15回 フィードバック
定期試験

使用テキスト: 竹島毅、趙昕著 『さあ、中国語を学ぼう！ 一会話・購読一』 (白水社)

予習・復習のポイントと参考文献・資料等：・授業後、新しい単語を覚え、会話を数回音読し暗記する(60分)。
・言葉の勉強は言葉とつきあうことである。言葉を覚えるためには、そのつきあいを続けるほかにコツがない。教科書以外、授業で使用する資料はすべて印刷・配布する。

障がいのある履修者への対応：可能な限りの対応しますので、まずは学務部などに連絡してください。

授業時間外の連絡手段： 11号館2階の講師控室で対応します。曜日・時限については初回にお知らせします。
連絡はIC-Mail: cho_hei@icc.ac.jp

留意事項： 欠席しないことは大事である。授業は発音のチェックが常時に行われるため、無断欠席は認めません。病気等で欠席する場合は、担当教員に事前、事後に必ず連絡をする。理由なく無断欠席する場合は、受講を辞退させる場合があるので注意してください。皆さんの学習意欲を引き出せるように工夫するので、興味を持って取り組んでください。

科目コード：10081 科目ナンバリング：LA11C05E 主な使用言語：日本語

授業名(英文)：中国語IA c(Chinese IA c)

担当者：中村 知子

基本情報

年次：1

単位数：1

授業形式：演習

曜時：水曜1限

履修可能学科・専攻：E Pe Pc C W F N M

関連資格：

AL要素：17.発問と回答

授業の概要： 中国語初級者を対象とし、会話を中心とした「すぐ使える中国語」を習得すること、会話を通じ基礎的な文法を習熟する。下記に記しているように、一年間の達成度として中国語検定準四級程度を目標としているため、単語等も積極的に覚える姿勢のある学生の受講を求める。

講義ではコミュニケーションに重点を置いた授業を心がけるため、実践を想定とした練習を授業内で積極的に行う。定期試験は実施しないが、そのかわりに小テストや課題などを毎週課すほか、2課終わるごとに確認テストを実施し確実に学習項目を身につけることを目的とする。そのためコンスタントに学習できる学生の受講が好ましい。

なお、教科書をベースに、教員が作成した資料なども用いて授業を展開する予定である。また、様々な語彙に触れることを目的とするため、多読(少し解らないところがあっても、その部分は飛ばしてどんどん読んでいく。何度も同じ語彙に触れることにより、語彙のイメージをつかんでいく学習方法)も取り入れるほか、語学に関連した中国の文化も学ぶ。

【特例期間中の授業形態】
遠隔授業 オンデマンド型

キーワード： 中国語、会話力

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 授業内で扱った項目に関し8割の項目を暗記し実用できることを目指す。結果的には中国語検定準4級合格を到達目標とする。

評価方法： 小テストと学課ごとの確認課題

評価割合：80%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 講義ではコミュニケーションに重点を置いた授業を心がけるため、実践を想定とした練習を授業内で積極的に行う。その際に、授業で扱った内容を用いながら中国語の表現を身につけてほしい。

評価方法: 回答時の態度や内容で評価する。

評価割合: 20%

▼学修に主体的に取り組む態度

単語テストや課題プリント提出など授業前後に行うため、主体的に学習することになる。主体的な態度は上記の「知識・技能」や「思考力・判断力・表現力」の項目に直結する。

評価割合: 0%

▼実践的ボランティア

語学科目なので特に評価対象とはしない。

評価割合: 0%

▼公正性

本講義内での小テスト、期末試験時でのカンニング等不正行為が発覚した場合、また人権侵害や差別的発言が見られた場合、受講資格を取り消す。

評価割合: 0%

▼その他

なし

評価割合: なし

- 授業計画:**
- 1 ガイダンス 中国語の基本
 - 2 発音
 - 3 数字の学習 簡単な挨拶
 - 4 自己紹介の学習
 - 5 自己紹介の練習
 - 6 前期前半のまとめ
 - 7 疑問の言い方
 - 8 疑問の練習
 - 9 買い物編: 勧める言い方、練習
 - 10 買い物編: 支払、支払う練習
 - 11 「どこにあるか」尋ねる学習
 - 12 「どこにあるか」尋ねる練習
 - 13 「何があるか」尋ねる言い方
 - 14 「何があるか」尋ねる練習
 - 15 前期後半のまとめ

なお、授業計画は上記の通りではあるが、受講者の要望なども汲み、内容は臨機応変に変える。

使用テキスト: 塚本慶一監修 『一年生のコミュニケーション中国語』(白水社)

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 授業内ででてきた単語や構文を覚えて、自分なりに表現すること。また音声教材を頻繁に聞くこと。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応しますのでまずは学務部に連絡してください。

授業時間外の連絡手段: 学校で開示するメールアドレスに連絡すること。

留意事項: なし

科目コード: 10081

科目ナンバリング: LA11C05E

主な使用言語: 日本語

授業名(英文): 中国語IA d(Chinese IA d)

担当者: 中村 知子

基本情報

年次: 1

単位数: 1

授業形式: 演習

曜時：水曜2限

履修可能学科・専攻： E Pe Pc C W F N M

関連資格：

AL要素： 17.発問と回答

授業の概要： 中国語初級者を対象とし、会話を中心とした「すぐ使える中国語」を習得すること、会話を通じ基礎的な文法を習熟する。下記に記しているように、一年間の達成度として中国語検定準四級程度を目標としているため、単語等も積極的に覚える姿勢のある学生の受講を求める。

講義ではコミュニケーションに重点を置いた授業を心がけるため、実践を想定とした練習を授業内で積極的に行う。定期試験は実施しないが、そのかわりに小テストや課題などを毎週課すほか、2課終わるごとに確認テストを実施し確実に学習項目を身につけることを目的とする。そのためコンスタントに学習できる学生の受講が好ましい。

なお、教科書をベースに、教員が作成した資料なども用いて授業を展開する予定である。また、様々な語彙に触れることを目的とするため、多読(少し解らないところがあっても、その部分は飛ばしてどんどん読んでいく。何度も同じ語彙に触れることにより、語彙のイメージをつかんでいく学習方法)も取り入れるほか、語学に関連した中国の文化も学ぶ。

【特例期間中の授業形態】
遠隔授業 オンデマンド型

キーワード： 中国語、会話力

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 授業内で扱った項目に関し8割の項目を暗記し実用できることを目指す。結果的には中国語検定準4級合格を到達目標とする。

評価方法： 小テストと学課ごとの確認課題

評価割合： 80%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 講義ではコミュニケーションに重点を置いた授業を心がけるため、実践を想定とした練習を授業内で積極的に行う。その際に、授業で扱った内容を用いながら中国語の表現を身に付けてほしい。

評価方法： 回答時の態度や内容で評価する。

評価割合： 20%

▼学修に主体的に取り組む態度

単語テストや課題プリント提出など授業前後に行うため、主体的に学習することになる。主体的な態度は上記の「知識・技能」や「思考力・判断力・表現力」の項目に直結する。

評価割合： 0%

▼実践的ボランティア

語学科目なので特に評価対象とはしない。

評価割合： 0%

▼公正性

本講義内での小テスト、期末試験時でのカンニング等不正行為が発覚した場合、また人権侵害や差別的発言が見られた場合、受講資格を取り消す。

評価割合： 0%

▼その他

なし

評価割合： なし

授業計画： 1 ガイダンス 中国語の基本
2 発音

- 3 数字の学習 簡単な挨拶
- 4 自己紹介の学習
- 5 自己紹介の練習
- 6 前期前半のまとめ
- 7 疑問の言い方
- 8 疑問の練習
- 9 買い物編:勧める言い方、練習
- 10 買い物編:支払、支払う練習
- 11 「どこにあるか」尋ねる学習
- 12 「どこにあるか」尋ねる練習
- 13 「何があるか」尋ねる言い方
- 14 「何があるか」尋ねる練習
- 15 前期後半のまとめ

なお、授業計画は上記の通りではあるが、受講者の要望なども汲み、内容は臨機応変に変える。

使用テキスト: 塚本慶一監修 『一年生のコミュニケーション中国語』(白水社)

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 授業内ででてきた単語や構文を覚えて、自分なりに表現すること。また音声教材を頻繁に聞くこと。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応しますのでまずは学務部に連絡してください。

授業時間外の連絡手段: 学校で開示するメールアドレスに連絡すること。

留意事項: なし

科目コード: 10081 **科目ナンバリング:** LA11C05E **主な使用言語:** 中国語と日本語

授業名(英文): 中国語IA e(Chinese IA e)

担当者: 高 建華

基本情報

年次: 1

単位数: 1

授業形式: 演習

曜時: 金曜2限

履修可能学科・専攻: E Pe Pc C W F N M

関連資格:

AL要素: 共同学習

発問・回答

授業の概要: この授業は正しい中国語発音、挨拶、基礎的な文法の修得をし、個々語彙の意味と用法、中国文化や中国事情を学べ、習得した文法と慣用文型を使って、簡単な中国語で文章書きと問答を行う。

遠隔授業の場合は、(同時双方向型)---リアルタイムに配信する遠隔授業

キーワード: 初級中国語、発音、基礎文法、挨拶言葉、コミュニケーション能力、中国文化、中国の世界遺産

学位授与方針との関係

▼ **知識・技能**

到達目標: 毎回の授業内容を理解し、応用して、自らの力で簡単な文章を中国語で表現や会話ができることを目指す。

評価方法: 1.出席率
2.平常点(授業への積極的参加度)
3.毎回授業中に行う小テスト
4.期末テスト
以上の4点から総合的に評価する。

評価割合: 70%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 中国語の勉強によって、一層中国文化や中国事情を理解でき、多文化共生中で、異文化に対する理解力、受容力を培い、事柄に対して客観的な考え方を持つことを期する。

評価方法: 毎回学んだ内容について問答を行い、理解する到達度を確認する

評価割合: 30%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接に評価対象としないが、著しい成果であれば、必要な時に評価を加える。

評価割合: 0%

▼実践的ボランティア

授業で行われる実践的活動は他の項目に合わせて評価する。

評価割合: 0%

▼公正性

直接的に評価対象としないが、授業妨害やカンニングなどの不正行為があった場合は減点や嚴重注意の対象となるので、注意すべく。

評価割合: 0%

▼その他

特にありません。

評価割合: 特にありません。

授業計画: 前期

- 【第1回】 オリエンテーション
 - 【第2回】 発音:声調・母音など
 - 【第3回】 発音:子音・変調・ピンインの表記上ルール
 - 【第4回】 声調の組み合わせ・簡単な挨拶言葉
 - 【第5回】 第1課 ?好
 - 【第6回】 名前の聞き方・動詞”是”・疑問詞”?”と”?”の用法・文法練習
 - 【第7回】 第2課 借?
 - 【第8回】 動詞述語文・連動文・選択疑問詞”～?是…”、助動詞”想”の用法・文法練習
 - 【第9回】 第3課 ?衣服
 - 【第10回】 形容詞述語文・反復疑問文・量詞・数と金額、年月日の言い方
 - 【第11回】 第4課 下午?
 - 【第12回】 動詞”有”、助動詞”能”、前置詞”在”の用法・動作量補語・曜日、時刻の表現
 - 【第13回】 第5課 女朋友
 - 【第14回】 過去の経験”?”、比較表現・名詞述語文・方位詞、動詞”在”の用法・上位詞
 - 【第15回】 総復習
- 定期試験:筆記試験。オンライン授業なら、Class Notebook或いはFormsで行います。

使用テキスト: 行ってみよう!
「中国語への旅」(初級)
世界遺産へようこそ

山下輝彦

黄 漢青

朝日出版

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 必ず予習、復習することです。毎回の内容は授業中で消化し、疑問があったら、その場で解決するように、問題を後回しとしないでしましょう。

Webストリーミング音声を事前に聴いて、耳を鍛えましょう。

<http://asahipress.com./free/ch/sekaiisan>

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください。

授業時間外の連絡手段： ko_chenfa@icc.ac.jp

急ぎの場合は090-1655-7896に連絡してください。

留意事項： 特にありません。

科目コード：10082 **科目ナンバリング：** **主な使用言語：日本語**

授業名(英文)：中国語IIA a(Chinese IIA a)

担当者：井澤 耕一

基本情報

年次：1

単位数：1

授業形式：演習

曜時：金曜4限

履修可能学科・専攻： E Pe Pc C W F N M

関連資格：

AL要素：07

授業の概要： 本授業は、前期学修した項目を復習したうえで、前期と同じ教科書にそって簡単な日常会話を学んでいきます。聞くこと、発音することを何度も繰り返すことで、中国語にできるだけ触れてもらい、また実際に書いてみることで、学んだ事柄の定着をはかります。また受講生の興味・関心に応じて柔軟に授業を展開し、授業中、中国の社会や生活に関する事を紹介することにより、中国文化への理解を深めてもらいます。

キーワード： 外国語、会話、リスニング力、中国文化

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 授業で解説を受けた発音、文法に関する知識を駆使して、それを主に口頭および文字で表現できる。

評価方法： 学期末筆記試験
不定期に実施する小テスト

評価割合：100%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 特になし

評価方法： 特になし

評価割合：0%

▼学修に主体的に取り組む態度

特になし

評価割合：0%

▼実践的ボランティア

特になし

評価割合：0%

▼公正性

特になし

評価割合：0%

▼その他

特になし

評価割合：特になし

授業計画： 第1回 授業の概要説明
以下1課を2回に分け、語法、会話、閲読、別冊問題集の順序で実施
第2回 第4課 どこへ行きますか？ ?
第3回 第4課 どこへ行きますか？ ?
第4回 第5課 今日の午後、天候はどうですか？ ?
第5回 第5課 今日の午後、天候はどうですか？ ?
第6回 第6課 動物園には何頭のパンダがいますか？ ?
第7回 第6課 動物園には何頭のパンダがいますか？ ?
第8回 第7課 今日は暑すぎる！ ?
第9回 第7課 今日は暑すぎる！ ?
第10回 第8課 池袋に着きました。?
第11回 第8課 池袋に着きました。?
第12回 第9課 李麗さんは家にいますか？ ?
第13回 第9課 李麗さんは家にいますか？ ?
第14回 第10課 中国に行ったことがありますか？ ?
第15回 第10課 中国に行ったことがありますか？ ? 今学期の総復習
定期試験

使用テキスト： 中国語教育実践方法論研究会編『李麗と話そう！』郁文堂、2018年

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 本授業は、特に復習に力を注ぎ、既習した事項の要点を、ノートや音声教材を使用して、再確認していただきたい。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応しますので、まずは学務に連絡してください。

授業時間外の連絡手段： まずは学務に問い合わせてください。

留意事項： 特になし

科目コード：10082 科目ナンバリング： 主な使用言語：日本語

授業名(英文)：中国語IIA b (Chinese IIA b)

担当者：趙萍

基本情報

年次：1

単位数：1

授業形式：演習

曜時：木曜2限

履修可能学科・専攻：E Pe Pc C W F N M

関連資格：

AL要素：17. 発問と回答

授業の概要： 中国語初級の授業である。この授業では、初歩の文法を理解し、中国語の簡単かつ実用的な会話表現を身につける。

キーワード： 中国語初級

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 1 中国語の文法の基礎を理解し、基本的な日常会話ができ、基礎的な短文の読み書きができる。

2 中国語検定準4級合格レベル。

評価方法: 学期末筆記試験

評価割合: 60%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 直接的な評価対象としない。ただし、授業で扱った内容について、積極的に中国語でコミュニケーションをとることができる場合、上記の項目「知識・技能」の評価対象とすることができる。

評価方法: なし

評価割合: 0%

▼学修に主体的に取り組む態度

毎回授業の初めに、前回の授業で学習した内容の復習小テストを実施する。

評価割合: 40%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象としない。

評価割合: 0%

▼公正性

直接的な評価対象としない。ただし期末試験や小テストにおいてカンニングなどの不正行為があった場合、嚴重注意の対象となるので注意すること。

評価割合: 0%

▼その他

特になし

評価割合: 特になし

授業計画: 第1回 ガイダンス
第2回 第3課
内容:新しい単語、動詞述語文、「有」構文
第2回 第3課の会話とトレーニング3A
第3回 第3課の購読とトレーニング3B
第4回 第3課まとめ
第5回 第4課
内容:新しい単語、形容詞述語文、量詞
第6回 第4課の会話とトレーニング4A
第7回 第4課の購読とトレーニング4B
第8回 第4課まとめ
第9回 第5課
内容:新しい単語、時間量、反復疑問文
第10回 第5課の会話とトレーニング5A
第11回 第5課の購読とトレーニング5B
第12回 第5課まとめ
第13回 第6課
内容:新しい単語、動詞文の「完了」、「在」構文
第14回 第6課の会話とトレーニング6A
第15回 第6課の購読とトレーニング6B
定期試験

使用テキスト: 竹島毅、趙昕著『さあ、中国語を学ぼう！－会話・購読－』（白水社）

予習・復習のポイント: ・授業後、新しい単語を覚え、会話を数回音読し暗記する(60分)。

参考文献・資料等: ・授業中に適宜紹介します。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応しますので、まず学務部などに連絡してください。

授業時間外の連絡手段: 11号館2階の講師控室で対応します。曜日・時限については初回にお知らせします。
連絡は IC-Mail: cho_hei@icc.a.jp

留意事項：言葉の勉強は言葉とつきあうことです。言葉を覚えるためには、そのつきあい続けるほかにコツがない。欠席しないことは大事です。授業は発音のチェックが常時に行われるため、無断欠席は認めません。皆さんの学習意欲を引き出せるように工夫するので、興味を持って取り組んでください。授業計画はあくまで予定ですので、みなさんの習得度合いによって変更する場合がありますことを留意しておいてください。「やる気」のある学生の参加を期待します。

科目コード：10082 **科目ナンバリング：** **主な使用言語：日本語**

授業名(英文)：中国語IIA c(Chinese IIA c)

担当者：中村 知子

基本情報

年次：1

単位数：1

授業形式：演習

曜時：水曜1限

履修可能学科・専攻： E Pe Pc C W F N M

関連資格：

AL要素：17.発問と回答

授業の概要：【授業形態ガイドライン・レベルⅢ、レベルⅡ】遠隔授業（オンデマンド型）

前期に引き続き、中国語初級者を対象とし、会話を中心とした「すぐ使える中国語」を習得すること、会話を通じ基礎的な文法を習熟する。下記に記しているように、一年間の達成度として中国語検定準四級程度を目標としているため、単語等も積極的に覚える姿勢のある学生の受講を求める。

講義ではコミュニケーションに重点を置いた授業を心がけるため、実践を想定とした練習を授業内で積極的に行う。定期試験は実施しないが、そのかわりに小テストや課題などを毎週課すほか、2課終わるごとに確認テストを実施し確実に学習項目を身につけることを目的とする。そのためコンスタントに学習できる学生の受講が好ましい。

また、様々な語彙に触れることを目的とするため、多読(少し解らないところがあっても、その部分は飛ばしてどんどん読んでいく。何度も同じ語彙に触れることにより、語彙のイメージをつかんでいく学習方法)も取り入れるほか、語学に関連した中国の文化も学ぶ。

キーワード： 中国語、会話力

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 授業内で扱った項目に関し8割の項目を暗記し実用できることを目指す。結果的には中国語検定準4級合格を到達目標とする。

評価方法： 小テストと各課の確認課題

評価割合：80%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 講義ではコミュニケーションに重点を置いた授業を心がけるため、実践を想定とした練習を授業内で積極的に行う。その際に、授業で扱った内容を用いながら中国語の表現を身に付けてほしい。

評価方法： 回答時の態度や内容で評価する。

評価割合：20%

▼学修に主体的に取り組む態度

単語テストや課題プリント提出など授業前後に行うノルマがあるため、必然的に主体的に学習せざるをえない。主体的な態度は上記の「知識・技能」や「思考力・判断力・表現力」の項目に直結する。

評価割合：0%

▼実践的ボランティア

語学科目なので特に評価対象とはしない。

評価割合：0%

▼公正性

本講義内での小テスト、期末試験時でのカンニング等不正行為が発覚した場合、また人権侵害や差別的発言が見られた場合、受講資格を取り消す。

評価割合：0%

▼その他

なし

評価割合：なし

- 授業計画：
- 1 前期の復習
 - 2 時間の言い方
 - 3 時間の言い方の練習
 - 4 完了の言い方
 - 5 完了の練習
 - 6 タクシーの乗り方
 - 7 タクシーの乗り方の練習
 - 8 後期前半のまとめ
 - 9 ～できる の言い方
 - 10 ～できる の練習
 - 11 苦情の言い方
 - 12 苦情の練習
 - 13 紛失したシチュエーションの言い方
 - 14 紛失したシチュエーションの練習
 - 15 一年の振り返り まとめ

なお、授業計画は上記の通りではあるが、受講者の要望なども汲み、内容は臨機応変に変える。

使用テキスト： 塚本慶一監修 『一年生のコミュニケーション中国語』(白水社)

予習・復習のポイントと 授業内ででてきた単語や構文を覚えて、自分なりに表現すること。また音声教材を頻繁に聞
参考文献・資料等： くこと。

障がいのある 可能な限り対応しますのでまずは学務部に連絡してください。
履修者への対応：

授業時間外の連絡手段： 学校で開示するメールアドレスに連絡すること。

留意事項： なし

科目コード：10082 科目ナンバリング： 主な使用言語：日本語

授業名(英文)：中国語IIA d (Chinese IIA d)

担当者：中村 知子

基本情報

年次：1

単位数：1

授業形式：演習

曜時：水曜2限

履修可能学科・専攻：E Pe Pc C W F N M

関連資格：

AL要素：17.発問と回答

授業の概要：【授業形態ガイドライン・レベルⅢ、レベルⅡ】遠隔授業（オンデマンド型）

前期に引き続き、中国語初級者を対象とし、会話を中心とした「すぐ使える中国語」を習得す

ること、会話を通じ基礎的な文法を習熟する。下記に記しているように、一年間の達成度として中国語検定準四級程度を目標としているため、単語等も積極的に覚える姿勢のある学生の受講を求める。

講義ではコミュニケーションに重点を置いた授業を心がけるため、実践を想定とした練習を授業内で積極的に行う。定期試験は実施しないが、そのかわりに小テストや課題などを毎週課すほか、2課終わるごとに確認テストを実施し確実に学習項目を身につけることを目的とする。そのためコンスタントに学習できる学生の受講が好ましい。

また、様々な語彙に触れることを目的とするため、多読(少し解らないところがあっても、その部分は飛ばしてどんどん読んでいく。何度も同じ語彙に触れることにより、語彙のイメージをつかんでいく学習方法)も取り入れるほか、語学に関連した中国の文化も学ぶ。

キーワード： 中国語、会話力

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標： 授業内で扱った項目に関し8割の項目を暗記し活用できることを目指す。結果的には中国語検定準4級合格を到達目標とする。

評価方法： 小テストと各課の確認課題

評価割合： 80%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標： 講義ではコミュニケーションに重点を置いた授業を心がけるため、実践を想定とした練習を授業内で積極的に行う。その際に、授業で扱った内容を用いながら中国語の表現を身に付けてほしい。

評価方法： 回答時の態度や内容で評価する。

評価割合： 20%

▼ 学修に主体的に取り組む態度

単語テストや課題プリント提出など授業前後に行うノルマがあるため、必然的に主体的に学習せざるをえない。主体的な態度は上記の「知識・技能」や「思考力・判断力・表現力」の項目に直結する。

評価割合： 0%

▼ 実践的ボランティア

語学科目なので特に評価対象とはしない。

評価割合： 0%

▼ 公正性

本講義内での小テスト、期末試験時でのカンニング等不正行為が発覚した場合、また人権侵害や差別的発言が見られた場合、受講資格を取り消す。

評価割合： 0%

▼ その他

なし

評価割合： なし

- 授業計画：**
- 1 前期の復習
 - 2 時間の言い方
 - 3 時間の言い方の練習
 - 4 完了の言い方
 - 5 完了の練習
 - 6 タクシーの乗り方
 - 7 タクシーの乗り方の練習

- 8 後期前半のまとめ
- 9 ～できる の言い方
- 10 ～できる の練習
- 11 苦情の言い方
- 12 苦情の練習
- 13 紛失したシチュエーションの言い方
- 14 紛失したシチュエーションの練習
- 15 一年の振り返り まとめ

なお、授業計画は上記の通りではあるが、受講者の要望なども汲み、内容は臨機応変に変える。

使用テキスト: 塚本慶一監修 『一年生のコミュニケーション中国語』(白水社)

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 授業内ででてきた単語や構文を覚えて、自分なりに表現すること。また音声教材を頻繁に聞くこと。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応しますのでまずは学務部に連絡してください。

授業時間外の連絡手段: 学校で開示するメールアドレスに連絡すること。

留意事項: なし

科目コード: 10082 **科目ナンバリング:** **主な使用言語:** 中国語と日本語

授業名(英文): 中国語IIA e (Chinese IIA e)

担当者: 高 建華

基本情報

年次: 1

単位数: 1

授業形式: 演習

曜時: 金曜2限

履修可能学科・専攻: E Pe Pc C W F N M

関連資格:

AL要素: 共同学習

発問・回答

授業の概要: この授業は正しい中国語発音、挨拶、基礎的な文法の修得をし、個々語彙の意味と用法、中国文化や中国事情を学べ、習得した文法と慣用文型を使って、簡単な中国語で文章書きと問答を行う。

遠隔授業の場合は、(同時双方向型)---リアルタイムに配信する遠隔授業

キーワード: 初級中国語、発音、基礎文法、挨拶言葉、コミュニケーション能力、中国文化、中国の世界遺産

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標: 毎回の授業内容を理解し、応用して、自らの力で簡単な文章を中国語で表現や会話ができることを目指す。

評価方法: 1.出席率

評価割合: 70%

2.平常点(授業への積極的参加度)

3.毎回授業中に行う小テスト

4.期末テスト

以上の4点から総合的に評価する。

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 中国語の勉強によって、一層中国文化や中国事情を理解でき、多文化共生中で、異文化に対する理解力、受容力を培い、事柄に対して客観的な考え方を持つことを期する。

評価方法: 毎回学んだ内容について問答を行い、理解する到達度を確認する **評価割合: 30%**

▼学修に主体的に取り組む態度

直接に評価対象としないが、著しい成果であれば、必要な時に評価を加える。

評価割合: 0%

▼実践的ボランティア

授業で行われる実践的活動は他の項目に合わせて評価する。

評価割合: 0%

▼公正性

直接的に評価対象としないが、授業妨害やカンニングなどの不正行為があった場合は減点や嚴重注意の対象となるので、注意すべく。

評価割合: 0%

▼その他

特にありません。

評価割合: 特にありません。

授業計画: 後期

- 【第1回】 前期の復習
第6課 ?去?了
 - 【第2回】 ”了”(1)、助動詞”会”の用法・“是…的”の構文・時間量の言い方・文法練習
 - 【第3回】 第7課 画画儿
 - 【第4回】 進行形・二重目的語・状態補語・前置詞”从～”、“到～”の用法・文法練習
 - 【第5回】 第8課 ?来了
 - 【第6回】 前置詞”?”、“?”、助動詞”可以”の用法・存現文の構文・文法練習
 - 【第7回】 第9課 ???了
 - 【第8回】 ”了”(2)、“好像”の用法・結果補語・方向補語・禁止の表現・文法練習
 - 【第9回】 第10課 ?到
 - 【第10回】 受け身・可能補語・”越来越”、“快～了”、助動詞“??”の用法・文法練習
 - 【第11回】 第11課 打八折
 - 【第12回】 主述述語文・離合動詞・使役文・”有点儿”の用法・強調表現の反語・文法練習
 - 【第13回】 第12課 我也一?
 - 【第14回】 処置文・助動詞”要”、禁止の”不要”の用法・接続詞: “只要～就…”, “不但～而且…”, “不是～而是…”の用法・文法練習
 - 【第15回】 全体の復習
- 定期試験: 筆記試験。オンライン授業の場合は、Class Notebook或いはFormsで行う。

使用テキスト: 行ってみよう!
「中国語への旅」(初級)
世界遺産へようこそ

山下輝彦
黄 漢青

朝日出版

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 必ず予習、復習することです。毎回の内容は授業中で消化し、疑問があったら、その場で解決するように、問題を後回しとしないでしましょう。

Webストリーミング音声を事前に聴いて、耳を鍛えましょう。

<http://asahipress.com./free/ch/sekaiisan>

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください。

授業時間外の連絡手段: ko_chenfa@icc.ac.jp

急ぎの場合は090-1655-7896に連絡してください。

留意事項: 特にありません。

科目コード: 10083 **科目ナンバリング:** LA11B06E **主な使用言語:** 日本語

授業名(英文): 中国語IB a(Chinese IB a)

担当者: 志賀 市子

基本情報

年次: 1

単位数: 1

授業形式: 演習

曜時: 木曜4限

履修可能学科・専攻: E Pe Pc C W F N M

関連資格: 教職

AL要素: 17. 発問と回答

授業の概要: 初めて中国語を学ぶ人を対象に、中国語の発音、基礎文法、基礎文型を学び、中国語を使った簡単なコミュニケーションができるようにします。

キーワード: 初級中国語

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標: ピンインを正しく発音することができ、授業で学んだ語彙や文法を概ね80%理解して、教員の質問に適切に答えることができる。

評価方法: 授業に対する積極的な参加態度、小テストから評価する。 **評価割合:** 30%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 授業で学んだ語彙や文法を理解して、中国語の読解や作文に応用することができる。

評価方法: 定期試験 **評価割合:** 70%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただしテレビやネット上の中国語講座を自主的に学んだり、検定試験対策に取り組んだりすることによって、課題の内容や授業中のパフォーマンスに著しい向上が認められる場合は、上記項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とする。

評価割合: 0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。

評価割合: 0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし授業中の発言や筆記試験の記述等において人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動やカンニング等の不正行為があった場合は、減点や厳重注意の対象となる。

で注意すること。

評価割合：0%

▼その他

特になし。

評価割合：特になし。

授業計画： 第1回 オリエンテーション、発音①
第2回 発音②
第3回 発音③
第4回 第1課① 自己紹介①
第5回 第1課②
第6回 第2課① 自己紹介②
第7回 第2課②
第8回 第3課① 自己紹介③
第9回 第3課②
第10回 第4課① お誘い
第11回 第4課②
第12回 第5課① レストラン
第13回 第5課②
第14回 第6課① 買い物
第15回 第6課②

使用テキスト： 沈国威監修『ライト版 中国語でコミュニケーション』朝日出版社、2022年

予習・復習のポイントと 検定試験対策に役立つ参考文献は、授業中適宜紹介する。
参考文献・資料等：

授業では毎回一人一人にあてて答えさせるので、できるだけ毎日、15分～30分程度でもよいので、単語を覚えたり、CDを聞いたり、中国語の文章を読んだりするなど、中国語に触れる時間をつくること。

障がいのある 可能な範囲で対応します。まずは学務部に相談してください。
履修者への対応：

授業時間外の連絡手段： 必要に応じてメールで個別に連絡してください。日時を確定し、オンラインまたは研究室で対応します。

留意事項： このクラスは座席指定とし、学期内に何度かの席替えを行う。

科目コード：10083 科目ナンバリング：LA11B06E 主な使用言語：日本語・中国語

授業名(英文)：中国語IB b(Chinese IB b)

担当者：北島 大悟

基本情報

年次：1

単位数：1

授業形式：演習

曜時：木曜1限

履修可能学科・専攻：E Pe Pc C W F N M

関連資格：教職

AL要素：17. 発問と回答

授業の概要： 中国語の入門者を対象とした講義です。
中国語の正確な発音と初歩的な会話の修得を目標にします。
会話文の音読を繰り返し練習することで、日常生活や旅先で使える有用な言い回しを身につけましょう。
また、中国の習慣や流行などの社会事情や、歴史・文化などを適宜紹介していきます。

キーワード： 中国語、中国現代文化

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標: 授業で学習した単語・文法について、概ね80%の事項を暗記し、解答することができる。

評価方法: 小テスト・学期末筆記試験

評価割合: 80%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 授業で学習した中国語を用いて、論理的かつ簡潔に自らの意見を表現することができる。

評価方法: 小テスト・学期末筆記試験

評価割合: 20%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし、授業の内容を理解するには、十分な予習・復習を行う必要がある。

評価割合: 0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。

評価割合: 0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし、小テスト・学期末筆記試験において、カンニング等の不正行為があった場合には、減点や厳重注意の対象となるので注意すること。

評価割合: 0%

▼その他

特になし。

評価割合: 特になし。

授業計画: 中国語の発音を数回かけて学習し、その後教科書を読み進めていきます。教科書の各課を二回に分けて学習します。まず各課の会話文の内容・単語・文法を解説し、次の回で会話練習と問題演習を行います。各課の終了後、小テストを実施します。

- 【第01回】ガイダンス・中国語の特徴の解説
 - 【第02回】発音について(韻母その1)
 - 【第03回】発音について(韻母その2)
 - 【第04回】発音について(声母その1)
 - 【第05回】発音について(声母その2)
 - 【第06回】発音について(介母)
 - 【第07回】第一課 解説(人称代名詞・「是」の用法)
 - 【第08回】第一課 問題演習
 - 【第09回】第二課 解説(指示代名詞・疑問詞疑問文)
 - 【第10回】第二課 問題演習
 - 【第11回】第三課 解説(一般的な動詞を用いた文)
 - 【第12回】第三課 問題演習
 - 【第13回】第四課 解説(形容詞を用いた文章)
 - 【第14回】第四課 問題演習
 - 【第15回】まとめ
- 定期試験

使用テキスト: 尹景春・竹島毅 著『最新2訂版 中国語はじめての一步』(白水社)

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 第一回の授業開始前に、教科書冒頭の、発音に関する項目に目を通しておくこと。
毎回の授業前には、その回で扱う新出単語をあらかじめチェックしておくこと。
各課の終了後に行われる小テストに備え、入念に復習すること。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応します。事前に、学務部等に相談してください。

授業時間外の連絡手段: 授業開始時に通知します。

留意事項: 特になし。

科目コード:10083

科目ナンバリング:LA11B06E

主な使用言語:日本語

授業名(英文):中国語IB c(Chinese IB c)

担当者:趙萍

基本情報

年次:1

単位数:1

授業形式:演習

曜時:木曜3限

履修可能学科・専攻: E Pe Pc C W F N M

関連資格:教職

AL要素:17.発問と回答

授業の概要: 中国語入門の授業である。中国語の発音とその表記(ピンイン)をしっかりとマスターした上で、初歩の文法を理解し、中国語の簡単かつ実用的な会話表現を身につける。

キーワード: 中国語入門、ピンイン、四声

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標: 1、ピンインの発音・聞き取りができる。
2. 中国語で自己紹介ができる。
3. 中国語の文法の基礎を理解し、基本的な日常会話ができ、基礎的な短文の読み書きができる。

評価方法: 学期末筆記試験

評価割合: 60%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 直接的な評価対象としない。ただし、授業で扱った内容について、積極的に中国語でコミュニケーションをとることができる場合、上記の項目「知識・技能」の評価対象とすることができる。

評価方法: なし

評価割合: 0%

▼学修に主体的に取り組む態度

毎回授業の初めに、前回の授業で学習した内容の復習小テストを実施する。

評価割合: 40%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象としない。

評価割合: 0%

▼公正性

直接的な評価対象としない。ただし期末試験や小テストにおいてカンニングなどの不正行為があった場合、厳重注意の対象となるので注意すること。

評価割合: 0%

▼その他

特になし

評価割合: 特になし

授業計画: 第1回 ガイダンス・中国語入門 (ウォーミングアップ・発音)
内容:授業の進め方・現代中国事情・発音1(声調・単母音)
第2回 発音練習(発音)
内容:発音2(複母音)
第3回 発音練習(発音)
内容:発音3(子音)・挨拶言葉
第4回 発音練習(発音)
内容:発音4(-nと-ng)・数字の言い方
第5回 発音練習(声調変化の特徴)
内容:声調変化の発音・挨拶言葉・「音節総表」

- 第6回 発音の復習
 第7回 第1課
 内容: 人称代名詞・“是”の文
 第8回 第1課の会話練習とトレーニング
 第9回 第2課
 内容: 指示代名詞(1)・疑問詞疑問文・“的”の用法(1)・副詞
 第10回 第2課の会話練習とトレーニング
 第11回 第1、2課の復習
 第12回 第3課
 内容: 動詞の文・「所有」を表す“有”・省略疑問の「?」
 第13回 第3課の会話練習とトレーニング
 第14回 中国語で会話してみよう
 第15回 前期総復習
 定期試験

使用テキスト: 尹景春・竹島毅著『中国語 はじめの一步』(白水社)

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 言葉の勉強は言葉とつきあうことである。言葉を覚えるためには、そのつきあいを続けるほかにコツがない。授業後、新しい単語を覚え、会話を数回音読し暗記する。教科書以外、授業で使用する資料はすべて印刷・配布する。

障がいのある履修者への対応: 可能な限りの対応しますので、まずは学務部などに連絡してください。

授業時間外の連絡手段: 11号館2階の講師控室で対応します。曜日・時限については初回にお知らせします。連絡は IC-Mail: cho_hei@icc.a.jp

留意事項: 欠席しないことは大事である。授業は発音のチェックが常時に行われるため、無断欠席は認めません。病気等で欠席する場合は、担当教員に事前、事後に必ず連絡をする。理由なく無断欠席する場合は、受講を辞退させる場合があるので注意してください。皆さんの学習意欲を引き出せるように工夫するので、興味を持って取り組んでください。

科目コード: 10083 **科目ナンバリング:** LA11B06E **主な使用言語:** 中国語と日本語

授業名(英文): 中国語IB d(Chinese IB d)

担当者: 高 建華

基本情報

年次: 1

単位数: 1

授業形式: 演習

曜時: 月曜4限

履修可能学科・専攻: E Pe Pc C W F N M

関連資格: 教職

AL要素: 共同学習

発問、回答及びグループで会話練習

授業の概要: この授業は正しい中国語発音、挨拶、基礎的な文法の修得をし、個々語彙の意味と用法、中国文化や中国事情を学べ、習得した文法と慣用文型を使って、簡単な中国語で文章書きと問答を行う。

遠隔授業の場合は、(同時双方向型)---リアルタイムに配信する遠隔授業

キーワード: 発音、基礎文法、挨拶言葉、会話、コミュニケーション能力、中国文化、中国事情

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標: 毎回の授業内容を理解し、応用できるように、自らの力で簡単な中国語で発言し、グループで課題場面の会話を全うすることができるのを期する。

評価方法: 1.出席率
2.平常点(授業への積極的参加度)
3.毎回授業中に行う小テスト
4.期末テスト
以上の4点から総合的に評価する。

評価割合: 70%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 中国語の勉強によって、一層中国文化や中国事情を理解し、多文化共生中で、異文化に対する理解力、受容力を培い、事柄に対して自分の考え方を持つことを期する。

評価方法: 毎回学んだ内容について問答を行うことにより、理解や到達度を確認する。
評価割合: 30%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的に評価対象としないが、著しい成果であれば、必要な時に評価を加える。

評価割合: 0%

▼実践的ボランティア

授業で行われる実践的活動は他の項目に合わせて評価する。

評価割合: 0%

▼公正性

直接的に評価対象としないが、授業妨害やカンニングなどの不正行為があった場合は減点や厳重注意の対象となるので、注意すべく。

評価割合: 0%

▼その他

特にありません。

評価割合: 特にありません。

授業計画: 前期

- 【第1回】 オリエンテーション・中国語とはどんな言葉?
 - 【第2回】 発音編:声調・母音・子音・挨拶言葉
 - 【第3回】 発音編:儿化と変調・発音の仕組み・発音の総合練習
 - 【第4回】 第1課 大家好! 肯定文・動詞述語文 “我是~”、“我喜?”、“我喝~”
 - 【第5回】 第2課 ?喜?什?? 疑問文(1)・疑問詞“什?”・助詞“?”
 - 【第6回】 発音・第1課・第2課総合復習
 - 【第7回】 第3課 学外?很有用! 否定文・形容詞述語文・動詞フレーズ
 - 【第8回】 第4課 ?什?? 疑問詞“?什?”・比較文・“如果~就~”
 - 【第9回】 第3課・第4課総合復習
 - 【第10回】 第5課 我想??水?子 助詞”的”(1)・動詞の重ね型
 - 【第11回】 第6課 ?是警察?? ”?”疑問文・指示代名詞
 - 【第12回】 第5課・第6課総合復習
 - 【第13回】 グループで「自己紹介」を作成
 - 【第14回】 グループごと「自己紹介」を発表
 - 【第15回】 総復習
- 定期試験:筆記試験。オンライン授業のばあいは、Class NotebookやFormsで行います。

使用テキスト: 未来をひらく
入門中国語

相原茂 監修
劉頌浩 町田茂 共著

朝日出版社

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 必ず予習、復習することです。毎回の内容は授業中で消化し、疑問があったら、すぐ聞き、その場で解決するように、後回しとしないでしましょう。耳を鍛えるため、音声をダウンロードしてよく聞いておきましょう。

音声はスマートフォンでQRコードで聞けますし、Webストリーミング音声もある。
<https://text.asahipress.com/free/ch/245357>

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応いたしますが、まずは学務部等に連絡してください。

授業時間外の連絡手段： ko_chenfa@icc.ac.jp

急ぎの場合は090-1655-7896に連絡してください。

留意事項： 特にありません。

科目コード：10083 **科目ナンバリング：LA11B06E** **主な使用言語：日本語**

授業名(英文)：中国語IB e(Chinese IB e)

担当者：王 偉亞

基本情報

年次：1

単位数：1

授業形式：演習

曜時：月曜5限

履修可能学科・専攻：E Pe Pc C W F N M

関連資格：教職

AL要素：発問と回答

授業の概要： 特例期間中の授業形態：課題研究型
インターネットを使って、中国の概況から中国語の特徴や中国文化など、調べていただいて、その後の通常授業の時にレポートとして、提出していただきます

外国語の勉強にとって発音は大切なことですから、CDを利用することにより、実際の中国語の発音に可能なかぎり多く触れていただくよう、講義を進めたいと思います。また、中国の歴史や文化、風俗習慣及び中国若者の最新動向についても、音楽ソフトやインターネットなどを利用し、授業の中で、学生諸君に紹介する予定です。この授業を通して、学生諸君に少しでも中国語に対する興味を持たせるよう、という狙いがあります。

キーワード： 中国語、中国文化。

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 簡単な中国語で自己紹介ができるようになってもらいたい。

評価方法： 学生諸君の授業参加及び質問などを期待します。成績は期末試験と授業への出席状況や練習問題の結果などを合わせて総合的に考慮します。 **評価割合：** 授業中の質問に対する答えや練習

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 簡単な中国語表現文を見て、意味が分かるようになってもらいたい。

評価方法： 課外宿題で評価する。 **評価割合：** 50%

▼学修に主体的に取り組む態度

特になし。

評価割合： 0%

▼実践的ボランティア

特になし。

評価割合：0%

▼公正性

特になし。

評価割合：0%

▼その他

特になし。

評価割合：特になし。

授業計画： 第16回：前期内容を総合復習
第17回：テキスト第6課の内容
第18回：練習問題
第19回：テキスト第7課の内容
第20回：練習問題
第21回：学生からの質問など
第22回：テキスト第8課の内容
第23回：練習問題
第24回：学生からの質問
第25回：文法のまとめ
第26回：総合練習
第27回：第1課から第8課までの復習
第28回：総合練習
第29回：質疑応答
第30回：まとめ
期末試験

使用テキスト： 竹島金吾監修 尹景春・竹島毅著『中国語はじめの一步』（白水社）

予習・復習のポイントと 特になし。

参考文献・資料等：

障がいのある 特になし。

履修者への対応：

授業時間外の連絡手段： メールでの連絡をお願いします。greatasia@hotmail.com

留意事項： 理由なしの授業への欠席は認められない。

科目コード：10084

科目ナンバリング：LA12B06E

主な使用言語：日本語

授業名(英文)：中国語IIB a(Chinese IIB a)

担当者：志賀 市子

基本情報

年次：1

単位数：1

授業形式：演習

曜時：木曜4限

履修可能学科・専攻：E Pe Pc C W F N M

関連資格：教職

AL要素：17. 発問と回答

授業の概要： 初めて中国語を学ぶ人を対象に、中国語の発音、基礎文法、基礎文型を学び、中国語を使った簡単なコミュニケーションができるようにします。

キーワード： 初級中国語

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： ピンインを正しく発音することができ、授業で学んだ語彙や文法を概ね80%理解して、教員の質問に適切に答えることができる。

評価方法： 授業に対する積極的な参加態度、小テスト 評価割合：30%

から評価する。

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 授業で学んだ語彙や文法を理解して、中国語の読解や作文に応用することができる。

評価方法: 定期試験

評価割合: 70%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただしテレビやネット上の中国語講座を自主的に学んだり、検定試験対策に取り組んだりすることによって、課題の内容や授業中のパフォーマンスに著しい向上が認められる場合は、上記項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とする。

評価割合: 0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。

評価割合: 0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし授業中の発言や筆記試験の記述等において人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動やカンニング等の不正行為があった場合は、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。

評価割合: 0%

▼その他

特になし。

評価割合: 特になし。

授業計画:

- 第1回 発音の復習
- 第2回 第7課① 道案内
- 第3回 第7課②
- 第4回 第8課① 趣味に関する雑談
- 第5回 第8課②
- 第6回 第9課① 旅行の計画
- 第7回 第9課②
- 第8回 第10課① 病院
- 第9回 第10課②
- 第10回 第11課① トラブル
- 第11回 第11課②
- 第12回 第12課① ホテル
- 第13回 第12課②
- 第14回 第13課① 約束する
- 第15回 第13課②

使用テキスト: 沈国威『ライト版 中国語でコミュニケーション』朝日出版社、2022年

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 検定試験対策に役立つ参考文献は、授業中適宜紹介する。

授業では毎回一人一人にあてて答えさせるので、できるだけ毎日、15分～30分程度でもよいので、単語を覚えたり、CDを聞いたり、中国語の文章を読んだりするなど、中国語に触れる時間をつくること。

障がいのある履修者への対応: 可能な範囲で対応します。まずは学務部に相談してください。

授業時間外の連絡手段: 必要に応じてメールで個別に連絡してください。日時を確定し、研究室またはオンラインで対応します。

留意事項: 中国語 I Ba(前期開講)と合わせて履修すること。

科目コード:10084

科目ナンバリング:LA12B06E

主な使用言語:日本語・中国語

授業名(英文): 中国語IIB b(Chinese IIB b)

担当者: 北島 大悟

基本情報

年次:1

単位数:1

授業形式:演習

曜時:木曜1限

履修可能学科・専攻: E Pe Pc C W F N M

関連資格:教職

AL要素: 17. 発問と回答

授業の概要: 中国語の入門者を対象とした講義です。
中国語の正確な発音と初歩的な会話の修得を目標にします。
会話文の音読を繰り返し練習することで、日常生活や旅先で使える有用な言い回しを身につけましょう。
また、中国の習慣や流行などの社会事情や、歴史・文化などを適宜紹介していきます。

キーワード: 中国語、中国現代文化

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標: 授業で学習した単語・文法について、概ね80%の事項を暗記し、解答することができる。

評価方法: 小テスト・学期末筆記試験

評価割合: 80%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 授業で学習した中国語を用いて、論理的かつ簡潔に自らの意見を表現することができる。

評価方法: 小テスト・学期末筆記試験

評価割合: 20%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし、授業の内容を理解するには、十分な予習・復習を行う必要がある。

評価割合: 0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。

評価割合: 0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし、小テスト・学期末筆記試験において、カンニング等の不正行為があった場合には、減点や厳重注意の対象となるので注意すること。

評価割合: 0%

▼その他

特になし。

評価割合: 特になし。

授業計画: 中国語IBに引き続き、教科書を読み進めていきます。
教科書の各課を二回に分けて学習します。まず各課の会話文の内容・単語・文法を解説し、次の回で会話練習と問題演習を行います。
各課の終了後、小テストを実施します。

【第01回】中国語IBで学んだ内容の復習

【第02回】第五課 解説(日付や時刻の表現)

【第03回】第五課 問題演習

【第04回】第六課 解説(完了表現・助動詞「想」)

【第05回】第六課 問題演習

【第06回】第七課 解説(前置詞)

【第07回】第七課 問題演習

- 【第08回】第八課 解説(時間量や期間の表現)
 - 【第09回】第八課 問題演習
 - 【第10回】第九課 解説(過去の経験の表現)
 - 【第11回】第九課 問題演習
 - 【第12回】第十課 解説(可能表現)
 - 【第13回】第十課 問題演習
 - 【第14回】第十一課 解説(進行表現)
 - 【第15回】第十一課 問題演習
- 定期試験

使用テキスト: 尹景春・竹島毅 著『最新2訂版 中国語はじめての一步』(白水社)

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 第一回の授業開始前に、中国語IBで学んだ内容を復習しておくこと。
毎回の授業前には、その回で扱う新出単語をあらかじめチェックしておくこと。
各課の終了後に行われる小テストに備え、入念に復習すること。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応します。事前に、学務部等に相談してください。

授業時間外の連絡手段: 授業開始時に通知します。

留意事項: 特になし。

科目コード: 10084 **科目ナンバリング:** LA12B06E **主な使用言語:** 日本語

授業名(英文): 中国語IIB c(Chinese IIB c)

担当者: 趙萍

基本情報

年次: 1

単位数: 1

授業形式: 演習

曜時: 木曜3限

履修可能学科・専攻: E Pe Pc C W F N M

関連資格: 教職

AL要素: 17. 発問と回答

授業の概要: 中国語初級の授業である。この授業では、初歩の文法を理解し、中国語の簡単かつ実用的な会話表現を身につける。

キーワード: 中国語初級

学位授与方針との関係

▼ **知識・技能**

到達目標: 1 中国語の文法の基礎を理解し、基本的な日常会話ができ、基礎的な短文の読み書きができる。
2 中国語検定準4級合格レベル。

評価方法: 学期末筆記試験

評価割合: 60%

▼ **思考力・判断力・表現力**

到達目標: 直接的な評価対象としない。ただし、授業で扱った内容について、積極的に中国語でコミュニケーションをとることができる場合、上記の項目「知識・技能」の評価対象とすることができる。

評価方法: なし

評価割合: 0%

▼ **学修に主体的に取り組む態度**

毎回授業の初めに、前回の授業で学習した内容の復習小テストを実施する。

評価割合: 40%

▼ **実践的ボランティア**

直接的な評価対象としない。

評価割合: 0%

▼公正性

直接的な評価対象としない。ただし期末試験や小テストにおいてカンニングなどの不正行為があった場合、嚴重注意の対象となるので注意すること。

評価割合：0%

▼その他

特になし

評価割合：特になし

授業計画： 第1回 ガイダンス
第2回 第4課
内容：助数詞、指示代名詞(2)、形容詞の文
第3回 第4課の会話練習
第4回 第4課練習問題
第5回 第5課
内容：日付と時刻を表す表現
第6回 第5課の会話練習
第7回 第5課練習問題
第8回 第4、5課復習
第9回 第6課
内容：「完了」を表す“了”、「所在」を表す“在”、助動詞“想”
第10回 第6課の会話練習
第11回 第6課練習問題
第12回 第7課
内容：介詞“在”“離”、存在を表す“有”、反復疑問文
第13回 第7課の会話練習
第14回 第7課練習問題
第15回 総復習
定期試験

使用テキスト： 尹景春・竹島毅著『中国語 はじめの一步』（白水社）

予習・復習のポイントと ・授業後、新しい単語を覚え、会話を数回音読し暗記する(60分)。

参考文献・資料等： ・授業中に適宜紹介します。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応しますので、まず学務部などに連絡してください。

授業時間外の連絡手段： 11号館2階の講師控室で対応します。曜日・時限については初回にお知らせします。
連絡は IC-Mail: cho_hei@icc.a.jp

留意事項： 言葉の勉強は言葉とつきあうことです。言葉を覚えるためには、そのつきあいを続けるほかにコツがない。欠席しないことは大事です。授業は発音のチェックが常時に行われるため、無断欠席は認めません。皆さんの学習意欲を引き出せるように工夫するので、興味を持って取り組んでください。授業計画はあくまで予定ですので、みなさんの習得度合いによって変更する必要があることを留意しておいてください。「やる気」のある学生の参加を期待します。

科目コード：10084

科目ナンバリング：LA12B06E

主な使用言語：中国語と日本語

授業名(英文)：中国語IIB d(Chinese IIB d)

担当者：高 建華

基本情報

年次：1

単位数：1

授業形式：演習

曜時：月曜4限

履修可能学科・専攻：E Pe Pc C W F N M

関連資格：教職

AL要素：共同学習

発問、回答及びグループで会話練習

授業の概要: この授業は正しい中国語発音、挨拶、基礎的な文法の修得をし、個々語彙の意味と用法、中国文化や中国事情を学べ、習得した文法と慣用文型を使って、簡単な中国語で文章書きと問答を行う。

遠隔授業の場合は、(同時双方向型)---リアルタイムに配信する遠隔授業

キーワード: 発音、基礎文法、挨拶言葉、会話、コミュニケーション能力、中国文化、中国事情

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標: 毎回の授業内容を理解し、応用できるように、自らの力で簡単な中国語で発言し、グループで課題場面の会話を全うすることができるのを期する。

評価方法: 1.出席率 **評価割合: 70%**
2.平常点(授業への積極的参加度)
3.毎回授業中に行う小テスト
4.期末テスト
以上の4点から総合的に評価する。

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 中国語の勉強によって、一層中国文化や中国事情を理解し、多文化共生中で、異文化に対する理解力、受容力を培い、事柄に対して自分の考え方を持つことを期する。

評価方法: 毎回学んだ内容について問答を行うことにより、理解や到達度を確認する。 **評価割合: 30%**

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的に評価対象としないが、著しい成果であれば、必要な時に評価を加える。

評価割合: 0%

▼実践的ボランティア

授業で行われる実践的活動は他の項目に合わせて評価する。

評価割合: 0%

▼公正性

直接的に評価対象としないが、授業妨害やカンニングなどの不正行為があった場合は減点や嚴重注意の対象となるので、注意すべく。

評価割合: 0%

▼その他

特にありません。

評価割合: 特にありません。

授業計画: 後期

【第1回】前期の復習

第7課 我去?店吃? 連動文・助動詞”想”

【第2回】第8課 是不是?本? 疑問文(2)・“小王子??照片”と“《小王子》?本?”・量詞

【第3回】第7課・第8課の総合復習

【第4回】第9課 一共几杯? 疑問詞“几”と“多少”・文末の語気助詞“了”

【第5回】第10課 ??怎?? 疑問詞“怎?”・様態補語・助詞“的”(2)・複数を表す“?”

【第6回】第9課・第10課の総合復習

【第7回】第11課 我家有四口人 助動詞“会”(1)・存在を表す“有”

・比較の否定を表す“没有”

【第8回】第12課 ?次能??? 助動詞“要”・助動詞“能”・助詞“?”

【第9回】第11課・第12課の総合復習

【第10回】第13課 比上次好! アスペクト助詞“了”・比較に用いる”比“

・請求、使役を表す“?”“

- 【第11回】 第14課 ?个玩笑！ 助動詞“会”(2)・疑問詞“怎??”
- 【第12回】 第13課・ 第14課の総合復習
- 【第13回】 グループで《去吃?》、《去??西》、《去参加比?》《去??》一つを作成
- 【第14回】 グループで会話を発表する
- 【第15回】 全体の復習

定期試験 筆記試験。オンライン授業の場合は、Class Notebook或いはFormsで行う。

使用テキスト: 未来をひらく
入門中国語

相原茂 監修
劉頌浩 町田茂 共著

朝日出版社

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 必ず予習、復習することです。毎回の内容は授業中で消化し、疑問があったら、すぐ聞き、その場で解決するように、後回しとしないでしましょう。耳を鍛えるため、音声をダウンロードしてよく聞いておきましょう。

音声はスマートフォンでQRコードで聞けますし、Webストリーミング音声もある。
<https://text.asahipress.com/free/ch/245357>

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応いたしますが、まずは学務部等に連絡してください。

授業時間外の連絡手段: ko_chenfa@icc.ac.jp

急ぎの場合は090-1655-7896に連絡してください。

留意事項: 特にありません。

科目コード: 10084 **科目ナンバリング:** LA12B06E **主な使用言語:** 日本語

授業名(英文): 中国語IIB e (Chinese IIB e)

担当者: 王 偉 臣

基本情報

年次: 1

単位数: 1

授業形式: 演習

曜時: 月曜5限

履修可能学科・専攻: E Pe Pc C W F N M

関連資格: 教職

AL要素: 発問と回答

授業の概要: 特例期間中の授業形態: 課題研究型
インターネットを使って、中国の概況から中国語の特徴や中国文化など、調べていただいて、その後の通常授業の時にレポートとして、提出していただきます

外国語の勉強にとって発音は大切なことですから、CDを利用することにより、実際の中国語の発音に可能なかぎり多く触れていただくよう、講義を進めたいと思います。また、中国の歴史や文化、風俗習慣及び中国若者の最新動向についても、音楽ソフトやインターネットなどを利用し、授業の中で、学生諸君に紹介する予定です。この授業を通して、学生諸君に少しでも中国語に対する興味を持たせるよう、という狙いがあります。

キーワード: 中国語、中国文化。

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標: 簡単な中国語で自己紹介ができるようになってもらいたい。

評価方法： 学生諸君の授業参加及び質問などを期待します。成績は期末試験と授業への出席状況や練習問題の結果などを合わせて総合的に考慮します。

評価割合： 授業中の質問に対する答えや練習

▼**思考力・判断力・表現力**

到達目標： 簡単な中国語表現文を見て、意味が分かるようになってもらいたい。

評価方法： 課外宿題で評価する。

評価割合： 50%

▼**学修に主体的に取り組む態度**

特になし。

評価割合： 0%

▼**実践的ボランティア**

特になし。

評価割合： 0%

▼**公正性**

特になし。

評価割合： 0%

▼**その他**

特になし。

評価割合： 特になし。

授業計画： 第16回: 前期内容を総合復習
第17回: テキスト第6課の内容
第18回: 練習問題
第19回: テキスト第7課の内容
第20回: 練習問題
第21回: 学生からの質問など
第22回: テキスト第8課の内容
第23回: 練習問題
第24回: 学生からの質問
第25回: 文法のまとめ
第26回: 総合練習
第27回: 第1課から第8課までの復習
第28回: 総合練習
第29回: 質疑応答
第30回: まとめ
期末試験

使用テキスト： 竹島金吾監修 尹景春・竹島毅著『中国語はじめの一步』(白水社)

予習・復習のポイントと 特になし。

参考文献・資料等：

障がいのある 特になし。

履修者への対応：

授業時間外の連絡手段： メールでの連絡をお願いします。greatasia@hotmail.com

留意事項： 理由なしの授業への欠席は認められない。

科目コード: 10085

科目ナンバリング: LA23B05E

主な使用言語: 日本語

授業名(英文): 中国語ⅢA a (Chinese IIIA a)

担当者: 井澤 耕一

基本情報

年次：2

単位数：1

授業形式：演習

曜時：金曜5限

履修可能学科・専攻：E Pe Pc C W F N M

関連資格：

AL要素：07

授業の概要： 本授業は、前年度履修した項目を復習しながら、教科書にそって初中級程度の中国語会話を学んでいきます。聞くこと、発音することを何度も繰り返すことで、中国語にできるだけ触れもらい、また実際に書いてみることで、学んだ事柄の定着をはかります。また受講生の興味・関心に応じて柔軟に授業を展開し、授業中、中国の社会や生活に関する事を紹介することにより、中国文化への理解を深めてもらいます。

キーワード： 外国語、会話、リスニング力、中国文化

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 授業で解説を受けた発音、文法に関する知識を駆使して、それを主に口頭および文字で表現できる。

評価方法： 学期末筆記試験
不定期に実施する小テスト

評価割合：100%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 特になし

評価方法： 特になし

評価割合：0%

▼学修に主体的に取り組む態度

特になし

評価割合：0%

▼実践的ボランティア

特になし

評価割合：0%

▼公正性

特になし

評価割合：0%

▼その他

特になし

評価割合：特になし

授業計画：

第1回	授業の概要説明
第2回	発音の復習 声調・母音
第3回	発音の復習 子音
第4回	発音の復習 鼻母音
第5回	復習事項についての面接試験

以下1課を2回に分け、文法要点&例文、本文、練習の順で進行する。

第6回	第1課 どうぞよろしく？
第7回	第1課 どうぞよろしく？
第8回	第2課 留学生は多いですか？
第9回	第2課 留学生は多いですか？
第10回	第3課 ご家族は何名ですか？
第11回	第3課 ご家族は何名ですか？
第12回	第4課 ボーイフレンドにプレゼントを送るの？
第13回	第4課 ボーイフレンドにプレゼントを送るの？

第14回 第5課 日曜日は何をするの？
第15回 第5課 日曜日は何をするの？
定期試験

使用テキスト： 上野恵司ほか『あかるい中国語:美桜の北京留学』郁文堂、2022年

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 本授業は、特に復習に力を注ぎ、既習した事項の要点を、ノートや音声教材を使用して、再確認していただきたい。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応しますので、まずは学務に連絡してください。

授業時間外の連絡手段： まずは学務に問い合わせてください。

留意事項： 特になし

科目コード：10085 **科目ナンバリング：**LA23B05E **主な使用言語：**日本語・中国語

授業名(英文)：中国語ⅢA b(Chinese ⅢA b)

担当者：北島 大悟

基本情報

年次：2

単位数：1

授業形式：演習

曜時：木曜2限

履修可能学科・専攻：E Pe Pc C W F N M

関連資格：

AL要素：17. 発問と回答

授業の概要： 中国語を一年間学習した者を対象とする講義です。
初級で学習したことを復習しながら、文法力・語彙力の更なる強化を図ります。
準中級レベルの教科書を使用します。教科書本文の音読と練習問題、作文を中心に進めていきます。
教科書の内容を着実に覚えていくことを重視します。

キーワード： 中国語、中国現代文化

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 授業で学習した単語・文法について、概ね80%の事項を暗記し、解答することができる。

評価方法： 小テスト・学期末筆記試験

評価割合：80%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 授業で学習した中国語を用いて、論理的かつ簡潔に自らの意見を表現することができる。

評価方法： 小テスト・学期末筆記試験

評価割合：20%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし、授業の内容を理解するには、十分な予習・復習を行う必要がある。

評価割合：0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし、小テスト・学期末筆記試験において、カンニング等の不正行為があった場合には、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。

評価割合：0%

▼その他

特になし。

評価割合：特になし。

授業計画： 前半は発音や初級文法の復習を重点的に行いながら、語彙力の向上を目指します。その後、教科書を読み進めていきます。各課を二回に分けて行います。まず本文・単語・文法を解説し、次の回で会話練習と問題演習を行います。各課の終了後、小テストを実施します。

- 【第01回】ガイダンス
 - 【第02回】初級の復習1(発音)
 - 【第03回】初級の復習2(代名詞・「是」の基本的用法・疑問文と否定文)
 - 【第04回】初級の復習3(形容詞・動詞・数量表現・疑問詞)
 - 【第05回】初級の復習4(場所指示代名詞・所有を表す「有」・存在を表す「在」)
 - 【第06回】初級の復習5(助動詞「要」「想」「会」「能」)
 - 【第07回】初級の復習6(介詞「給」「在」「从」「到」・完了を表す「了」)
 - 【第08回】初級の復習7(時間を表す語・時間の長さを表す語)
 - 【第09回】第一課 解説(助動詞「可以」「要」)
 - 【第10回】第一課 問題演習
 - 【第11回】第二課 解説(助詞「的」)
 - 【第12回】第二課 問題演習
 - 【第13回】第三課 解説(連動文・「是～的」構文)
 - 【第14回】第三課 問題演習
 - 【第15回】まとめ
- 定期試験

使用テキスト： 尹景春・竹島毅 著『中国語つぎへの一步』(白水社)

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 第一回の授業開始前に、中国語IやIIで学習した内容を復習しておくこと。
毎回の授業前には、その回で扱う新出単語をあらかじめチェックしておくこと。
各課の終了後に行われる小テストに備え、入念に復習すること。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応します。事前に、学務部等に相談してください。

授業時間外の連絡手段： 授業開始時に通知します。

留意事項： 特になし。

科目コード：10085 科目ナンバリング：LA23B05E 主な使用言語：中国語と日本語

授業名(英文)：中国語ⅢA c(Chinese ⅢA c)

担当者：高 建華

基本情報

年次：2

単位数：1

授業形式：演習

曜時：金曜3限

履修可能学科・専攻：E Pe Pc C W F N M

関連資格：

AL要素：共同学習

発問・回答

授業の概要： この授業は、教科書の文章を通して、中級程度の文法、文型の表現を習得し、中日間の違いを比べながら、一層深く中国文化や中国事情を理解できよう、中国語リスニング・会話と中国語で文章を書く練習も行う。

1年ブランクがあって、ピンインの読み方さえも忘れてしまったという方も大歓迎。この授業は、「とにかく続けよう」、「もう一度やりなおそう」というあなたの意志をサポートする。

遠隔授業の場合は、(同時双方向型)---リアルタイムに配信する遠隔授業

キーワード:

発音、基本文法、会話力、中国文化、中国事情、コミュニケーション能力

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標: 教科書の内容をよく理解し、問答を交わし、簡単な会話できることと学んだ知識で400字の文章が書けることを目指す。異文化への理解を深めることも目標の一つである。

評価方法: 1.毎回の小テスト **評価割合:70%**
2.授業活動に積極的に参加するかどうか。
3.出席率
4.期末テスト

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 中国語を勉強することによって、中国文化や中国事情を理解し、多文化に対する受容力を培い、客観的に自分の考え方を中国語で表現できることを期する。

評価方法: 1.授業中の質疑応答 **評価割合:30%**
2.作文の内容と完成度

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的に評価対象としないが、著しい成果(例:検定試験に合格)であれば、必要となる場合は評価を加える。

評価割合:0%

▼実践的ボランティア

授業中の実践活動は他の項目に合わせて評価します。

評価割合:0%

▼公正性

直接的に評価対象としないが、授業妨害やカンニングなどの不正行為があった場合は減点や厳重注意の対象となることを注意する必要がある。

評価割合:0%

▼その他

特にありません。

評価割合: 特にありません。

授業計画:【前期】

- 第1回 オリエンテーション・一年生の復習
・第一課 大学生活
- 第2回 動詞+“在”、“不?(是)~?是…、都”、“除了~以外…”の用法
- 第3回 第二課 大学的作息??
- 第4回 A+“比”+B+差量、“因?~所以…”、アスペクト助詞“了”の用法
- 第5回 第三課 早?
- 第6回 “不但~, 而且…”、方向補語、文末に置く“了”の用法
- 第7回 第四課 喝茶
- 第8回 “特?是~”、“以?~”、前置詞:“随着”の用法
- 第9回 第五課 ?食
- 第10回 “以~?主”、接続詞:“而且”、“越来越~”の用法
- 第11回 第六課 生活??
- 第12回 “?~都(也)…”、前置詞:“把”、アスペクト助詞“着”の用法

第13回 第七課 交通
第14回 “不是～而是…”、“比～得多”、“一?～一?…”
理解と文法力の確認、中国語で400字「私の一日」を作成
第15回 パソコンで中国語を用いて、「私の一日」を打ってみよう
定期試験：筆記試験。オンライン授業の場合はClass NotebookやFormsで行います。

使用テキスト： <一挙両得>
中級中国語

陳淑梅 / 陸薇

朝日出版社

予習・復習のポイントと 教科書の音声教材をダウンロードして、よく聞き、予習復習が欠かさないこと。
参考文献・資料等：

音声ストリーミングURL

<http://text.asahipress.com/free/ch>

障がいのある 可能な限り対応しますが、まずは学務部等に連絡してください。
履修者への対応：

授業時間外の連絡手段： ko_chenfa@icc.ac.jp

急ぎの場合は090-1655-7896に連絡してください。

留意事項： 出来れば、中日辞書を用意してください。

科目コード：10085 科目ナンバリング：LA23B05E 主な使用言語：日本語

授業名(英文)：中国語ⅢA d (Chinese ⅢA d)

担当者：趙萍

基本情報

年次：2

単位数：1

授業形式：演習

曜時：木曜4限

履修可能学科・専攻：E Pe Pc C W F N M

関連資格：

AL要素：17. 発問と回答

授業の概要： 中国語初級から中級レベルの日常会話、コミュニケーションの基礎能力を習得します。

キーワード： 中国語初級、中国語中級

学位授与方針との関係

▼知識・技能

- 到達目標：・中国語の発音を身につけ、短い文章を流暢に音読できること。
・文法の基礎を理解し、基本的な日常会話ができ、基礎的な短文の読み書きができる。
・中国語検定準4級合格レベル。

評価方法：学期末筆記試験

評価割合：60%

▼思考力・判断力・表現力

- 到達目標：直接的な評価対象としない。ただし、授業で扱った内容について、積極的に中国語でコミュニケーションをとることができる場合、上記の項目「知識・技能」の評価対象とすることができる。

評価方法：上記参照

評価割合：0%

▼学修に主体的に取り組む態度

- 毎回授業の初めに、前回の授業で学習した内容の復習小テストを実施します。

評価割合：40%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象としない。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象としない。ただし期末試験や小テストにおいてカンニングなどの不正行為があった場合、厳重注意の対象となるので注意すること。

評価割合：0%

▼その他

特になし

評価割合：特になし

授業計画： 第1回 ガイダンス
第2回 第7課
内容：新しい単語、連動文、選択疑問文
第3回 第7課の会話とトレーニング7A
第4回 第7課の購読とトレーニング7B
第5回 第7課のまとめ
第6回 第8課
内容：「経験」、存在の「有」構文
第7回 第8課の会話とトレーニング8A
第8回 第8課の購読とトレーニング8B
第9回 第8課のまとめ
第10回 第9課
内容：動作の進行、主述述語文
第11回 第9課の会話とトレーニング9A
第12回 第9課の購読とトレーニング9B
第13回 第9課のまとめ
第14回 総復習
第15回 到達度確認

使用テキスト： 竹島毅、趙昕著『さあ、中国語を学ぼう！一会話・購読一』（白水社）

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 各回の授業内容について1時間程度の準備学習・復習が必要です。毎回授業の初めに、前回の授業で学習した内容の復習小テストを実施するため、必ず復習をしてください。各回ごとに準備学習・復習を指示しているので、「授業計画」欄を参照すること。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください。

授業時間外の連絡手段： 11号館2階の講師控室で対応します。曜日・時限については初回にお知らせします。連絡は IC-Mail: cho_hei@icc.a.jpまで。

留意事項： 言葉の勉強は言葉とつきあうことであり、言葉を覚えるためには、そのつきあいを続けるほかにコツがありません。欠席しないことは大切です。皆さんの学習意欲を引き出せるように工夫するので、興味を持って取り組んでください。講義内容に関しては、みなさんの中国語の習熟度によって変わる可能性がありますので、一応の目安として考えておいてください。「やる気」のある学生の参加を期待します。

科目コード：10085

科目ナンバリング：LA23B05E

主な使用言語：中国語と日本語

授業名(英文): 中国語ⅢA e(Chinese ⅢA e)

担当者: 高 建華

基本情報

年次: 2

単位数: 1

授業形式: 演習

曜時: 月曜5限

履修可能学科・専攻: E Pe Pc C W F N M

関連資格:

AL要素: 共同学習

発問・回答

授業の概要: この授業は、教科書の文章を通して、中級程度の文法、文型の表現を習得し、中日間の違いを比べながら、一層深く中国文化や中国事情を理解できように、中国語リスニング・会話と中国語で文章を書く練習も行う。

1年ブランクがあって、ピンインの読み方さえも忘れてしまったという方も大歓迎。この授業は、「とにかく続けよう」、「もう一度やりなおそう」というあなたの意志をサポートする。

遠隔授業の場合は、(同時双方向型)---リアルタイムに配信する遠隔授業

キーワード: 発音、基本文法、会話力、中国文化、中国事情、コミュニケーション能力

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標: 教科書の内容をよく理解し、問答を交わし、簡単な会話できることと学んだ知識で400字の文章が書けることを目指す。異文化への理解を深めることも目標の一つである。

評価方法: 1.毎回の小テスト
2.授業活動に積極的に参加するかどうか。
3.出席率
4.期末テスト

評価割合: 70%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 中国語を勉強することによって、中国文化や中国事情を理解し、多文化に対する受容力を培い、客観的に自分の考え方を中国語で表現できることを期する。

評価方法: 1.授業中の質疑応答
2.作文の内容と完成度

評価割合: 30%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的に評価対象としないが、著しい成果(例:検定試験に合格)であれば、必要となる場合は評価を加える。

評価割合: 0%

▼実践的ボランティア

授業中の実践活動は他の項目に合わせて評価します。

評価割合: 0%

▼公正性

直接的に評価対象としないが、授業妨害やカンニングなどの不正行為があった場合は減点や厳重注意の対象となることを注意する必要がある。

評価割合: 0%

▼その他

特にありません。

評価割合：特にありません。

授業計画：【前期】

- 第1回 オリエンテーション・一年生の復習
・第一課 大学生活
- 第2回 動詞+“在”、“不?(是)~?是…、都”、“除了~以外…”の用法
- 第3回 第二課 大学的作息??
- 第4回 A+“比”+B+差量、“因?~所以…”、アスペクト助詞“了”の用法
- 第5回 第三課 早?
- 第6回 “不但~, 而且…”、方向補語、文末に置く“了”の用法
- 第7回 第四課 喝茶
- 第8回 “特?是~”、“以?~”、前置詞:“随着”の用法
- 第9回 第五課 ?食
- 第10回 “以~?主”、接続詞:“而且”、“越来越~”の用法
- 第11回 第六課 生活??
- 第12回 “?~都(也)…”、前置詞:“把”、アスペクト助詞“着”の用法
- 第13回 第七課 交通
- 第14回 “不是~而是…”、“比~得多”、“一?~一?…”
理解と文法力の確認、中国語で400字「私の一日」を作成
- 第15回 パソコンで中国語を用いて、「私の一日」を打ってみよう
定期試験:筆記試験。オンライン授業の場合はClass NotebookやFormsで行います。

使用テキスト： <一挙両得>
中級中国語

陳淑梅 / 陸薇

朝日出版社

予習・復習のポイントと 教科書の音声教材をダウンロードして、よく聞き、予習復習が欠かさないこと。
参考文献・資料等：

音声ストリーミングURL

<http://text.asahipress.cam/free/ch>

障がいのある 可能な限り対応しますが、まずは学務部等に連絡してください。
履修者への対応：

授業時間外の連絡手段： ko_chenfa@icc.ac.jp

急ぎの場合は090-1655-7896に連絡してください。

留意事項： 出来れば、中日辞書を用意してください。

科目コード：10086 科目ナンバリング：LA24B05E 主な使用言語：日本語

授業名(英文)：中国語IVA a(Chinese IVA a)

担当者：井澤 耕一

基本情報

年次：2

単位数：1

授業形式：演習

曜時：金曜5限

履修可能学科・専攻：E Pe Pc C W F N M

関連資格：

AL要素：07

授業の概要： 本授業は、前学期に履修した項目に拠って初中級程度の中国語会話を学んでいきます。聞くこと、発音することを何度も繰り返すことで、中国語にできるだけ触れてもらい、また実際に書いてみることで、学んだ事柄の定着をはかります。

また受講生の興味・関心に応じて柔軟に授業を展開し、授業中、中国の社会や生活に関する事を紹介することにより、中国文化への理解を深めてもらいます。

キーワード： 外国語、会話、リスニング力、中国文化

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標： 授業で解説を受けた発音、文法に関する知識を駆使して、それを主に口頭および文字で表現できる。

評価方法： 学期末筆記試験
不定期に実施する小テスト

評価割合： 100%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標： 特になし

評価方法： 特になし

評価割合： 0%

▼ 学修に主体的に取り組む態度

特になし

評価割合： 0%

▼ 実践的ボランティア

特になし

評価割合： 0%

▼ 公正性

特になし

評価割合： 0%

▼ その他

特になし

評価割合： 特になし

授業計画： 第1回 授業の概要説明
以下1課を2回に分け、文法要点&例文、本文、練習の順で行っていく。
第2回 第6課 ダンスができますか？ ?
第3回 第6課 ダンスができますか？ ?
第4回 第7課 二人は何をしているの？ ?
第5回 第7課 二人は何をしているの？ ?
第6回 第8課 北京ダックを食べたことがありますか？ ?
第7回 第8課 北京ダックを食べたことがありますか？ ?
第8回 第9課 全員来ましたか？ ?
第9回 第9課 全員来ましたか？ ?
第10回 第10課 今では中華料理が好きになりました。 ?
第11回 第10課 今では中華料理が好きになりました。 ?
第12回 第11課 美桜さんは一週間上海に旅行しに行きました。 ?
第13回 第11課 美桜さんは一週間上海に旅行しに行きました。 ?
第14回 第12課 上海語は聞いてわかりましたか？ ?
第15回 第12課 上海語は聞いてわかりましたか？ ?
定期試験

使用テキスト： 上野恵司ほか『あかるい中国語:美桜の北京留学』郁文堂、2022年

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 本授業は、特に復習に力を注ぎ、既習した事項の要点を、ノートや音声教材を使用して、再確認していただきたい。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応しますので、まずは学務に連絡してください。

授業時間外の連絡手段: まずは学務に問い合わせてください。

留意事項: 特になし

科目コード:10086 科目ナンバリング:LA24B05E 主な使用言語:日本語・中国語

授業名(英文): 中国語IVA b(Chinese IVA b)

担当者: 北島 大悟

基本情報

年次:2

単位数:1

授業形式:演習

曜時:木曜2限

履修可能学科・専攻: E Pe Pc C W F N M

関連資格:

AL要素: 17. 発問と回答

授業の概要: 中国語を一年以上学習した者を対象とする講義です。
初級の内容をしっかりと身に付けた上で、文法力・語彙力の更なる強化を図ります。
準中級レベルの教科書を使用します。教科書本文の音読と練習問題、作文を中心に進めていきます。
教科書の内容を着実に覚えていくことを重視します。

キーワード: 中国語、中国現代文化

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標: 授業で学習した単語・文法について、概ね80%の事項を暗記し、解答することができる。

評価方法: 小テスト・学期末筆記試験

評価割合: 80%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 授業で学習した中国語を用いて、論理的かつ簡潔に自らの意見を表現することができる。

評価方法: 小テスト・学期末筆記試験

評価割合: 20%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし、授業の内容を理解するには、十分な予習・復習を行う必要がある。

評価割合: 0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。

評価割合: 0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし、小テスト・学期末筆記試験において、カンニング等の不正行為があった場合には、減点や厳重注意の対象となるので注意すること。

評価割合: 0%

▼その他

特になし。

評価割合: 特になし。

授業計画: 中国語III Aに引き続き、教科書を読み進めていきます。
教科書の各課を二回に分けて学習します。まず各課の会話文の内容・単語・文法を解説し、次の回で会話練習と問題演習を行います。
各課の終了後、小テストを実施します。

【第01回】第四課 解説(助詞「了」)

- 【第02回】第四課 問題演習
 - 【第03回】第五課 解説(様態補語)
 - 【第04回】第五課 問題演習
 - 【第05回】第六課 解説(結果補語)
 - 【第06回】第六課 問題演習
 - 【第07回】第七課 解説(存現文)
 - 【第08回】第七課 問題演習
 - 【第09回】第八課 解説(助詞「着」)
 - 【第10回】第八課 問題演習
 - 【第11回】第九課 解説(方向補語)
 - 【第12回】第九課 問題演習
 - 【第13回】第十課 解説(可能補語)
 - 【第14回】第十課 問題演習
 - 【第15回】まとめ
- 定期試験

使用テキスト: 尹景春・竹島毅 著『中国語つぎへの一步』(白水社)

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 第一回の授業開始前に、中国語III Aで学習した内容を復習しておくこと。
毎回の授業前には、その回で扱う新出単語をあらかじめチェックしておくこと。
各課の終了後に行われる小テストに備え、入念に復習すること。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応します。事前に、学務部等に相談してください。

授業時間外の連絡手段: 授業開始時に通知します。

留意事項: 特になし。

科目コード: 10086 科目ナンバリング: LA24B05E 主な使用言語: 中国語と日本語

授業名(英文): 中国語IVA c(Chinese IVA c)

担当者: 高 建華

基本情報

年次: 2

単位数: 1

授業形式: 演習

曜時: 金曜3限

履修可能学科・専攻: E Pe Pc C W F N M

関連資格:

AL要素: 共同学習

発問・回答

授業の概要: この授業は、教科書の文章を通して、中級程度の文法、文型の表現を習得し、中日間の違いを比べながら、一層深く中国文化や中国事情を理解できるように、中国語リスニング・会話と中国語で文章を書く練習も行う。

1年ブランクがあつて、ピンインの読み方さえも忘れてしまったという方も大歓迎。この授業は、「とにかく続けよう」、「もう一度やりなおそう」というあなたの意志をサポートする。

遠隔授業の場合は、(同時双方向型)---リアルタイムに配信する遠隔授業

キーワード:

発音、基本文法、会話力、中国文化、中国事情、コミュニケーション能力

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標: 教科書の内容をよく理解し、問答を交わし、簡単な会話できることと学んだ知識で400字の文章

が書けることを目指す。異文化への理解を深めることも目標の一つである。

評価方法: 1.毎回の小テスト
2.授業活動に積極的に参加するかどうか。
3.出席率
4.期末テスト

評価割合: 70%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 中国語を勉強することによって、中国文化や中国事情を理解し、多文化に対する受容力を培い、客観的に自分の考え方を中国語で表現できることを期する。

評価方法: 1.授業中の質疑応答
2.作文の内容と完成度

評価割合: 30%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的に評価対象としないが、著しい成果(例:検定試験に合格)であれば、必要となる場合は評価を加える。

評価割合: 0%

▼実践的ボランティア

授業中の実践活動は他の項目に合わせて評価します。

評価割合: 0%

▼公正性

接的に評価対象としないが、授業妨害やカンニングなどの不正行為があった場合は減点や嚴重注意の対象となることを注意する必要がある。

評価割合: 0%

▼その他

特にありません。

評価割合: 特にありません。

授業計画: 【後期】

- 第1回 オリエンテーション・前期の復習
第八課 校??
- 第2回 “是～的”の構文、“在～下”、“只不?～”の用法
- 第3回 第九課 体育
- 第4回 “是～也是・・・”、受け身、助動詞:“会”の用法
- 第5回 第十課 歌舞伎和京?
- 第6回 “不像～那?・・・”、“即使～也・・・”、可能補語の用法
- 第7回 第十一課 方言
- 第8回 “好像～似的”、“只要～(就)・・・”、“?然～但(是)・・・”の用法
- 第9回 第十二課 ??上的??
- 第10回 “先～(然后)再・・・”、動詞+回数、“?～都・・・”の用法
- 第11回 第十三課 ?年
- 第12回 “据?～”、“一～就・・・”、“?怕～也・・・”、の用法
- 第13回 第十四課 年?人的婚事
- 第14回 “有”連動文、“?～来?”、副詞:“更”の用法
理解と文法力の確認、中国語で400字「中国と日本の違い」を作成
- 第15回 パソコンで中国語を用いて、「中国と日本の違い」を打ってみよう
定期試験:筆記試験。オンライン授業の場合はClass NotebookやFormsで行います。

使用テキスト: <一挙兩得>
中級中国語

陳淑梅 / 陸薇

朝日出版社

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 教科書の音声教材をダウンロードして、よく聞き、予習復習が欠かさないこと。

音声ストリーミングURL

<http://text.asahipress.cam/free/ch>

障がいのある履修者への対応： possibleの限り対応しますが、まずは学務部等に連絡してください。

授業時間外の連絡手段： ko_chenfa@icc.ac.jp

急ぎの場合は090-1655-7896に連絡してください。

留意事項： 出来れば、中日辞書を用意してください。

科目コード：10086 **科目ナンバリング：LA24B05E** **主な使用言語：日本語**

授業名(英文)：中国語IVA d(Chinese IVA d)

担当者：趙 萍

基本情報

年次：2

単位数：1

授業形式：演習

曜時：木曜4限

履修可能学科・専攻： E Pe Pc C W F N M

関連資格：

AL要素：17. 発問と回答

授業の概要： この授業では、個々の専門性や興味に応じて、さほど抵抗感なく実践的な中国語に取り組んでいきます。「聞く・話す」能力を向上することに重きを置き、日常生活に役立つ様々なコミュニケーションの場を設定し、会話の実演練習を常に取り入れ、比較的高度な中国語の表現能力を習得します。

キーワード： 中国語中級

学位授与方針との関係

▼知識・技能

- 到達目標：**
- ・中国語の発音を身につけ、短い文章を流暢に音読できること
 - ・中国語の仕組みを理解し、初歩的な文法を活用し簡単な中国語の文が作れること
 - ・中国語検定試験準四級に合格すること

評価方法： 学期末筆記試験

評価割合：60%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 直接的な評価対象としない。ただし、授業で扱った内容について、積極的に中国語でコミュニケーションをとることができる場合、上記の項目「知識・技能」の評価対象とすることができる。

評価方法： 上記参照

評価割合：0%

▼学修に主体的に取り組む態度

毎回授業の初めに、前回の授業で学習した内容の復習小テストを実施します。

評価割合：40%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象としない。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象としない。ただし期末試験や小テストにおいてカンニングなどの不正行為があった場

合、嚴重注意の対象となるので注意すること。

評価割合：0%

▼その他

特になし

評価割合：特になし

授業計画： 第1回 ガイダンス
第2回 第10課
内容：新しい単語、様態補語、動詞の重ね型
第3回 第10課の会話とトレーニング10A
第4回 第10課の購読とトレーニング10B
第5回 第10課まとめ
第6回 第11課
内容：新しい単語、比較文、持続の「着」
第7回 第11課の会話とトレーニング11A
第8回 第11課の購読とトレーニング11B
第9回 第11課まとめ
第10回 第12課
内容：新しい単語、名詞述語文、変化の「了」、「是～的」文
第11回 第12課の会話とトレーニング12A
第12回 第12課の購読とトレーニング12B
第13回 第12課まとめ
第14回 中国語検定4級問題チャレンジ
第15回 総復習
定期試験

使用テキスト： 竹島毅、趙昕著 『さあ、中国語を学ぼう！ 一会話・購読一』 (白水社)

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： ・各回の授業内容について1時間程度の準備学習・復習が必要です。毎回授業の初めに、前回の授業で学習した内容の復習小テストを実施するため、必ず復習をしてください。各回ごとに準備学習・復習を指示しているので、「授業計画」欄を参照すること。
・参考書は、授業中に適宜に紹介します。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください。

授業時間外の連絡手段： 11号館2階の講師控室で対応します。曜日・時限については初回にお知らせします。
連絡は IC-Mail: cho_hei@icc.a.jp

留意事項： 言葉の勉強は言葉とつきあうことであり、言葉を覚えるためには、そのつきあいを続けるほかにコツがありません。欠席しないことは大事です。皆さんの学習意欲を引き出せるように工夫するので、興味を持って取り組んでください。講義内容に関しては、みなさんの中国語の習熟度によって変わる可能性がありますので、一応の目安として考えておいてください。「やる気」のある学生の参加を期待します。

科目コード：10086 科目ナンバリング：LA24B05E 主な使用言語：中国語と日本語

授業名(英文)：中国語IVA e(Chinese IVA e)

担当者：高 建華

基本情報

年次：2

単位数：1

授業形式：演習

曜時：月曜5限

履修可能学科・専攻：E Pe Pc C W F N M

関連資格：

AL要素：共同学習

発問・回答

授業の概要： この授業は、教科書の文章を通して、中級程度の文法、文型の表現を習得し、中日間の違

いを比べながら、一層深く中国文化や中国事情を理解できるように、中国語リスニング・会話と中国語で文章を書く練習も行う。

1年ブランクがあって、ピンインの読み方さえも忘れてしまったという方も大歓迎。この授業は、「とにかく続けよう」、「もう一度やりなおそう」というあなたの意志をサポートする。

遠隔授業の場合は、(同時双方向型)---リアルタイムに配信する遠隔授業

キーワード:

発音、基本文法、会話力、中国文化、中国事情、コミュニケーション能力

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標: 教科書の内容をよく理解し、問答を交わし、簡単な会話できることと学んだ知識で400字の文章が書けることを目指す。異文化への理解を深めることも目標の一つである。

評価方法: 1.毎回の小テスト **評価割合: 70%**
2.授業活動に積極的に参加するかどうか。
3.出席率
4.期末テスト

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標: 中国語を勉強することによって、中国文化や中国事情を理解し、多文化に対する受容力を培い、客観的に自分の考え方を中国語で表現できることを期する。

評価方法: 1.授業中の質疑応答 **評価割合: 30%**
2.作文の内容と完成度

▼ 学修に主体的に取り組む態度

直接的に評価対象としないが、著しい成果(例:検定試験に合格)であれば、必要となる場合は評価を加える。

評価割合: 0%

▼ 実践的ボランティア

授業中の実践活動は他の項目に合わせて評価します。

評価割合: 0%

▼ 公正性

接的に評価対象としないが、授業妨害やカンニングなどの不正行為があった場合は減点や嚴重注意の対象となることを注意する必要がある。

評価割合: 0%

▼ その他

特にありません。

評価割合: 特にありません。

授業計画: 【後期】

第1回 オリエンテーション・前期の復習

第八課 校??

第2回 “是～的”の構文、“在～下”、“只不?～”の用法

第3回 第九課 体育

第4回 “是～也是・・・”、受け身、助動詞:“会”の用法

第5回 第十課 歌舞伎和京?

第6回 “不像～那?・・・”、“即使～也・・・”、可能補語の用法

第7回 第十一課 方言

第8回 “好像～似的”、“只要～(就)・・・”、“?然～但(是)・・・”の用法

第9回 第十二課 ??上的??

第10回 “先～(然后)再・・・”、動詞+回数、“?～都・・・”の用法

第11回 第十三課 ?年

第12回 “据?～”、“一～就・・・”、“?怕～也・・・”、の用法

第13回 第十四課 年?人的婚事

第14回 “有”連動文、“?～来?”、副詞:“更”の用法

理解と文法力の確認、中国語で400字「中国と日本の違い」を作成

第15回 パソコンで中国語を用いて、「中国と日本の違い」を打ってみよう

定期試験:筆記試験。オンライン授業の場合はClass NotebookやFormsで行います。

使用テキスト: <一挙兩得>
中級中国語

陳淑梅 / 陸薇

朝日出版社

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 教科書の音声教材をダウンロードして、よく聞き、予習復習が欠かさないこと。

音声ストリーミングURL

<http://text.asahipress.cam/free/ch>

障がいのある履修者への対応: possibleの限り対応しますが、まずは学務部等に連絡してください。

授業時間外の連絡手段: ko_chenfa@icc.ac.jp

急ぎの場合は090-1655-7896に連絡してください。

留意事項: 出来れば、中日辞書を用意してください。

科目コード:10087 **科目ナンバリング:** **主な使用言語:日本語**

授業名(英文): 中国語IIIB(Chinese IIIB)

担当者: 志賀 市子

基本情報

年次:2

単位数:1

授業形式:演習

曜時:水曜3限

履修可能学科・専攻: E Pe Pc C W F N M

関連資格:

AL要素: 17. 発問と回答

授業の概要: 中国語IA II AとI B、II Bを修了した人を対象に、初級文法と発音を復習しながら、さらに一歩上を目指します。

中国人と中国語を使ってコミュニケーションがとれること、中国語の文章が読めること、中国語のメールが書けること、中国語圏への旅行や留学でサバイバルできることを目指します。今後は日本を訪れる中国人旅行者がますます増えてくることから、おもてなしの中国語についても学びます。検定試験は4級、3級取得が目標です。

キーワード: 中級中国語 中国語検定4級 中国語検定3級

学位授与方針との関係

▼ **知識・技能**

到達目標: ピンインを正しく発音することができ、授業で学んだ語彙や文法を概ね80%理解して、適切に答えることができる。

評価方法: 授業に対する説教的な参加態度、毎回行 **評価割合: 60%**

う小テストから評価する。

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 授業で学んだ語彙や文法を理解して、中国語の読解、会話、作文に応用し、中国語によるコミュニケーションを円滑に行うことができる。

評価方法: 授業中に課する作文課題、授業中に行う教員や中国人留学生との会話の実践 **評価割合:** 40%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただしテレビやネット上の中国語講座を自主的に学んだり、検定試験対策に取り組んだりすることによって、課題の内容や授業中のパフォーマンスに著しい向上が認められる場合は、上記項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とする。

評価割合: 0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。

評価割合: 0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし授業中の発言や筆記試験の記述等において人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動やカンニング等の不正行為があった場合は、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。

評価割合: 0%

▼その他

特に無し

評価割合: 特に無し

授業計画:

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 ピンインの復習
- 第3回 発音の復習
- 第4回 ヒアリング力強化(1) 数の聞き取り
- 第5回 ヒアリング力強化(2) 買物のやりとり
- 第6回 ヒアリング力強化(3) 乗り物に乗る
- 第7回 ヒアリング力強化(4) 電話をかける
- 第8回 作文力強化(1) 自己紹介文を書く
- 第9回 作文力強化(2) 自分のことを知ってもらう
- 第10回 作文力強化(3) 日本人が間違いやすい文法
- 第11回 作文力強化(4) 中国語らしい表現
- 第12回 会話力強化(1) 会ったときのやりとり
- 第13回 会話力強化(2) 自分のことを話す
- 第14回 会話力強化(3) 相手のことをたずねる
- 第15回 会話力強化(4) 日常的なやりとり、ちょっとした話題

使用テキスト: 授業中に適宜プリントを配布する。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 検定試験対策に役立つ参考文献は、授業中適宜紹介する。

毎回小テストを行うので、できるだけ毎日、15分～30分程度でもよいので、単語を覚えたり、CDを聞いたり、中国語の文章を読んだりするなど、中国語に触れる時間をつくること。

障がいのある履修者への対応: 可能な範囲で対応します。まずは学務部に相談してください。

授業時間外の連絡手段: 必要に応じて個別にメールで連絡してください。日時を確定し、研究室またはオンラインで対応します。

留意事項: この科目は必修ではなく、選択科目であり、中国語力をより高めたいと希望する学生ないを対象としています。2年次まで中国語を履修しており、3年次または4年次に継続して中国語を勉強したい人を歓迎

します。中国語検定試験対策も併せて行うため、小テストや課題が課されることがあります。

中国からの留学生がボランティアで授業のアシスタントに入ります。ネイティブ・スピーカーと会話したり、作文を直してもらったりできる絶好の機会なので、ぜひこの機会を積極的に利用して、中国語の「話す」、「書く」能力を高めてください。

科目コード：10088 科目ナンバリング： 主な使用言語：日本語

授業名(英文)：中国語IVB(Chinese IVB)

担当者：志賀 市子

基本情報

年次：2

単位数：1

授業形式：演習

曜時：水曜3限

履修可能学科・専攻：E Pe Pc C W F N M

関連資格：

AL要素：発問と回答

授業の概要： 中国語IA II AとI B、II Bを修了した人を対象に、初級文法と発音を復習しながら、さらに一歩上を目指します。
中国人と中国語を使ってコミュニケーションがとれること、中国語の文章が読めること、中国語のメールが書けること、中国語圏への旅行や留学でサバイバルできることを目指します。今後は日本を訪れる中国人旅行者がますます増えてくることから、おもてなしの中国語についても学びます。検定試験は4級、3級取得が目標です。

キーワード： 中級中国語 中国語検定4級 中国語検定3級

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： ピンインを正しく発音することができ、授業で学んだ語彙や文法を概ね80%理解して、適切に答えることができる。

評価方法： 授業に対する説教的な参加態度、毎回行う小テストから評価する。 **評価割合：** 60%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 授業で学んだ語彙や文法を理解して、中国語の読解、会話、作文に応用し、中国語によるコミュニケーションを円滑に行うことができる。

評価方法： 授業中に課する作文課題、授業中に行う教員や中国人留学生との会話の実践 **評価割合：** 40%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただしテレビやネット上の中国語講座を自主的に学んだり、検定試験対策に取り組んだりすることによって、課題の内容や授業中のパフォーマンスに著しい向上が認められる場合は、上記項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とする。

評価割合： 0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。

評価割合： 0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし授業中の発言や筆記試験の記述等において人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動やカンニング等の不正行為があった場合は、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。

評価割合： 0%

▼その他

特になし。

評価割合：特になし。

授業計画： 第1回 読解力強化(1) 動詞
第2回 読解力強化(2) 形容詞
第3回 中国語検定試験の準備(1) 穴埋め
第4回 中国語検定試験の準備(2) 並べ替え
第5回 中国語検定試験の準備(3) 読解第6回 中国語検定試験の準備(4) 日文中訳
第7回 中国語検定試験の準備(5) リスニング一問一答
第8回 中国語検定試験の準備(6) リスニング内容理解
第9回 中国語検定試験の準備(7) 模擬試験
第10回 おもてなしの中国語(1) ドラッグストアにて
第11回 おもてなしの中国語(2) 駅にて
第12回 おもてなしの中国語(3) 空港にて
第13回 おもてなしの中国語(4) レストランにて
第14回 中国語でメールを書こう(1) 挨拶
第15回 中国語でメールを書こう(2) 受け答え

使用テキスト： 授業中に適宜プリントを配布する。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 検定試験対策に役立つ参考文献は、授業中適宜紹介する。

毎回小テストを行うので、できるだけ毎日、15分～30分程度でもよいので、単語を覚えたり、CDを聞いたり、中国語の文章を読んだりするなど、中国語に触れる時間をつくること。

障がいのある履修者への対応： 可能な範囲で対応します。まずは学務部に相談してください。

授業時間外の連絡手段： 必要に応じて個別にメールで連絡してください。日時を確定し、研究室またはオンラインで対応します。

留意事項： この科目は必修ではなく、選択科目であり、中国語力をより高めたいと希望する学生n人を対象としています。2年次まで中国語を履修しており、3年次または4年次に継続して中国語を勉強したい人を歓迎します。中国語検定試験対策も併せて行うため、小テストや課題が課されることがあります。

前期の中国語ⅢBと合わせて履修することが望ましい。

中国からの留学生がボランティアで授業のアシスタントに入ります。ネイティブ・スピーカーと会話したり、作文を直してもらったりできる絶好の機会なので、ぜひこの機会を積極的に利用して、中国語の「話す」、「書く」能力を高めてください。

科目コード：10089 科目ナンバリング：LA11C07E 主な使用言語：日本語

授業名(英文)：コリアンIA a(Korean IA a)

担当者：金 範洙

基本情報

年次：1

単位数：1

授業形式：演習

曜時：金曜3限

履修可能学科・専攻：E Pe Pc C W F N M

関連資格：

AL要素：17.発問と回答

授業の概要： 韓国語の文字及び音声を学習し、読み書きができるようになるとともに、基本的な日常会話ができるように授業を進めていく。

キーワード： 韓国語、韓国語会話

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標： ハングル(韓国語の文字)の書き方や読み方を習得し、未習の語彙でも自然な発音で読むことが

できる。

評価方法: 授業中に実施するクイズ

評価割合: 30%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 韓国語を使ってあいさつや日常のコミュニケーションができる。

評価方法: 学期末筆記試験

評価割合: 40%

▼学修に主体的に取り組む態度

授業で扱った内容を次回まで復習する必要がある。また、授業中に行う練習や課題に誠実に取り組むが求められる。

評価割合: 20%

▼実践的ボランティア

特になし

評価割合: 0%

▼公正性

授業中に行うクイズや課題における不正行為、私語などで周りの学習の妨げになることなどについては、減点や厳重注意の対象とする。また、授業への参加度や授業中の態度などもここに含む。

評価割合: 10%

▼その他

特になし

評価割合: 特になし

授業計画: [第1回] ガイダンス、ハングルについて、韓国語のあいさつ、文字の学習Ⅰ: 母音①「基本母音」
[第2回] 文字の学習Ⅱ: 子音①「平音」、第1課 語彙
[第3回] 文字の学習Ⅲ: 子音②「激音、濃音」、第1課 文法「～は、～ですか」
[第4回] 文字の学習Ⅳ: 母音②「合成母音」、第1課 会話
[第5回] 文字の学習Ⅴ: 子音③「バッチム」、第1課 応用練習
[第6回] 第2課 語彙、文法「～が、～ではありません(か)」
[第7回] 第2課 会話、練習
[第8回] 第3課 語彙、文法「です・ます体」
[第9回] 第3課 会話、練習
[第10回] 第4課 語彙、文法「～を、～で、～と、否定形」
[第11回] 第4課 会話、練習
[第12回] 第5課 語彙、文法「漢字語数詞、年月日、曜日」
[第13回] 第5課 会話、練習
[第14回] 第6課 語彙、文法「固有語数詞、時刻、～から～まで」
[第15回] 第6課 会話、練習
定期試験

使用テキスト: 金庚芬 / 丁仁京(2018)『チョアヘヨ! 韓国語 初級』朝日出版社 本体2,200+税

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 予習より復習に時間をかけてください。教科書の音声ファイルをUNIPAにアップロードするの
で、授業後に聞いて復習してください。書く練習もしてください。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応します。

授業時間外の連絡手段: 学務部に連絡してください。

留意事項: 特になし

科目コード: 10089

科目ナンバリング: LA11C07E

主な使用言語: 韓国語と日本語

授業名(英文): コリアンIA b(Korean IA b)

担当者：金 範洙

基本情報

年次：1

単位数：1

授業形式：演習

曜時：木曜4限

履修可能学科・専攻：E Pe Pc C W F N M

関連資格：

AL要素：17.発問と回答

授業の概要： ハングル文字を覚え、日本語の文法と比較して韓国語の文法(5単語・5段階活用)を概説します。5段階活用(現在・過去・否定・不能・過去否定・不能過去)を暗記・応用した作文や会話の暗唱練習によって韓国語の応用能力を身につけ、韓国語検定試験の実践問題を解説します。韓国の町や社会文化に関する写真・動画などを活用し韓国文化を疑似体験し、韓国語・韓国文化に慣れるようにします。

キーワード： 韓国文化オンライン体験、韓国語能力試験(TOPIK)、ハングル能力検定試験、通訳案内士試験、韓国語、韓国文化、グローバル人材

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 韓国語能力試験 I、またはハングル能力検定試験4級合格レベル

評価方法： 中間・期末テスト、学習ノート

評価割合：50%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 暗唱した文章の応用会話ができる。

評価方法： 授業時間に会話の基礎練習をし、達成度評価

評価割合：30%

▼学修に主体的に取り組む態度

授業における質疑・応答、暗唱課題への積極的な参加が望まれる。

評価割合：20%

▼実践的ボランティア

韓国語能力を生かしたSNS・活用は、期末テスト成績に加点する。

評価割合：0%

▼公正性

特になし

評価割合：0%

▼その他

欠席1回につき、期末テスト成績から10点を減点します。欠席した場合、希望の人には別途課題(2回まで)を出してそれを提出すれば加点します。

評価割合：欠席1回につき、期末テスト成績か

授業計画： 1回 授業ガイダンス、ハングル文字の学習
授業の目標、評価方法などの説明。ハングル文字についての概説。
2回 文字・発音

子音・母音を覚える
 3回 文字・発音
 子音・母音応用練習
 4回 文字・発音
 子音・母音応用練習
 5回 韓国語の文法・文章1
 基礎文法を学習・テキスト
 6回 韓国語の文法・文章2
 基礎文法を学習・テキスト
 7回 韓国語の文法・文章3
 基礎文法を学習・テキスト
 8回 韓国語の文法・会話練習1
 基礎文法・会話を学習
 9回 韓国語の文法・会話練習2
 基礎文法・会話を学習
 10回 韓国語の文法・会話練習3
 基礎文法・会話を学習
 11回 短文読解・暗唱1
 基礎文法の応用会話
 12回 短文読解・暗唱2
 基礎文法の応用会話
 13回 短文読解・暗唱3
 基礎文法の応用会話
 14回 短文購読・暗唱4
 韓国語発音・5段階活用練習
 15回 韓国語文法・応用会話まとめ
 定期試験

使用テキスト: 授業中に韓国語文法・語彙、韓国語検定関連資料のPDFテキストを配布し、それを各自印刷して表紙を付けてテキストにする。韓国の町の風景、衣食住、文化、歴史遺跡などの写真・動画を参考資料として活用する。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 毎回の授業時間に予習・復習の課題を提示するので、韓国語学習ノートに整理すること。

障がいのある履修者への対応: 個別対応します。まず学務部に連絡して下さい。

授業時間外の連絡手段: 授業時間外の連絡や韓国語学習における質問などは、Eメールのほか、遠隔オンライン学習相談(ZOOM)の時間を設けて対応します。事前予約の上、活用してください。(オンライン学習会は毎週の土曜午前)

留意事項: 授業の席は、指定席。第1回目と第2回目の授業時間に決める。(最前列の席は自由席)

科目コード:10089 科目ナンバリング:LA11C07E 主な使用言語:日本語、韓国語

授業名(英文): コリアンIA c(Korean IA c)

担当者: 崔 ギョンエ

基本情報

年次:1 単位数:1 授業形式:演習

曜時:水曜2限 履修可能学科・専攻: E Pe Pc C W F N M

関連資格: AL要素: 発問と解答

授業の概要: まず、文字を習得してから読む練習と会話訓練へと進み、易しい文章にできるだけ数多く触

れる。履修者同士で会話練習をするなどのアクティブラーニングを行う。授業の前半では「文字と発音」を、後半では基本的な文法事項を主に勉強する。

キーワード： 韓国語の読み・書き・聞き取り・会話

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標： 初級文法を理解し、挨拶をはじめ自己紹介など日常の簡単なコミュニケーションができるようにする。

評価方法： 平常点、小テスト、期末テスト

評価割合： 定期試験成績 50% (小テスト回数

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標： 『知識・技能』とあわせて評価する

評価方法： 『知識・技能』とあわせて評価する

評価割合： 『知識・技能』とあわせて評価する

▼ 学修に主体的に取り組む態度

授業への参加度を評価対象とする。
積極的な姿勢で取り組んでほしい。

評価割合： 授業中の小テスト30% (もしくは40%) 課題や授業参加度などの平常点20%

▼ 実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない

評価割合： 0%

▼ 公正性

直接的な評価対象とはしない

評価割合： 0%

▼ その他

遅刻・早退3回で欠席1回とし、欠席1回につき(平常点から)1点減点。

評価割合： 遅刻・早退3回で欠席1回とし、欠席

授業計画： 《前期》

[第01回] 授業の進み方／ハングルの誕生の背景や原理

[第02回] テキスト第1課 ハングルの仕組み／基本母音

[第03回] テキスト第2課 子音(1)

[第04回] 合成母音

[第05回] テキスト第3課 子音(2)／濃音と激音

[第06回] テキスト第4課 終声(バッチム)／連音化

[第07回] 習得した子・母音を組み合わせで単語を読む

[第08回] テキスト第5課 あいさつ文／名詞文(叙述形と疑問形)／鼻音化と濃音化

[第09回] ドリルと練習問題(作文と聞き取り)／教室で

よく使う言葉

[第10回] 総合練習問題(1)／5課会話文

[第11回] テキスト第6課 名詞文の否定形／疑問文(モノ)

[第12回] ドリルと練習問題(作文と聞き取り)／会話文

[第13回] テキスト第7課 指示詞(1)／疑問文(モノ)

[第14回] 指示詞(2)／7課ドリルと練習問題(作文と聞き取り)／会話文

[第15回] 前期の総まとめ

[第15回] 前期の総まとめ

テキストに沿って進む。

各課のドリルと作文練習問題を宿題とし、授業で一緒に解いていく。書取り問題は授業で解く。

使用テキスト： 『Start!韓国語』(改訂2版) ブックギャラリー

予習・復習のポイントと ドリルと作文練習問題は復習のためであるので、しっかり宿題をして出席すること。
参考文献・資料等：

障がいのある 可能な限り対応するので、まずは学務部などに相談してほしい。
履修者への対応：

授業時間外の連絡手段： 公開しているメールアドレスに連絡すること。

留意事項： 必ず教科書を持参して出席すること。

科目コード：10089 科目ナンバリング：LA11C07E 主な使用言語：日本語、韓国語

授業名(英文)：コリアンIA d(Korean IA d)

担当者：崔 ギョンエ

基本情報

年次：1

単位数：1

授業形式：演習

曜時：水曜3限

履修可能学科・専攻： E Pe Pc C W F N M

関連資格：

AL要素：発問と解答

授業の概要：

まず、文字を習得してから読む練習と会話訓練へと進み、易しい文章にできるだけ数多く触れる。履修者同士で会話練習をするなどのアクティブラーニングを行う。授業の前半では「文字と発音」を、後半では基本的な文法事項を主に勉強する。

キーワード： 韓国語の読み・書き・聞き取り・会話

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 初級文法を理解し、挨拶をはじめ自己紹介など日常の簡単なコミュニケーションができるようにする。

評価方法： 平常点、小テスト、期末テスト

評価割合： 定期試験成績 50% (小テスト回数

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 『知識・技能』とあわせて評価する

評価方法： 『知識・技能』とあわせて評価する

評価割合： 『知識・技能』とあわせて評価する

▼学修に主体的に取り組む態度

授業への参加度を評価対象とする。
積極的な姿勢で取り組んでほしい。

評価割合： 授業中の小テスト30% (もしくは40%) 課題や授業参加度などの平常点20%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない

評価割合： 0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない

評価割合： 0%

▼その他

遅刻・早退3回で欠席1回とし、欠席1回につき(平常点から)1点減点。

評価割合： 遅刻・早退3回で欠席1回とし、欠席

授業計画： 《前期》

[第01回] 授業の進み方／ハングルの誕生の背景や原理

[第02回] テキスト第1課 ハングルの仕組み／基本母音

[第03回] テキスト第2課 子音(1)

- [第04回] 合成母音
- [第05回] テキスト第3課 子音(2)／濃音と激音
- [第06回] テキスト第4課 終声(バッチム)／連音化
- [第07回] 習得した子・母音を組み合わせる単語を読む
- [第08回] テキスト第5課 あいさつ文／名詞文(叙述形と疑問形)／鼻音化と濃音化
- [第09回] ドリルと練習問題(作文と聞き取り)／教室でよく使う言葉
- [第10回] 総合練習問題(1)／5課会話文
- [第11回] テキスト第6課 名詞文の否定形／疑問文(モノ)
- [第12回] ドリルと練習問題(作文と聞き取り)／会話文
- [第13回] テキスト第7課 指示詞(1)／疑問文(モノ)
- [第14回] 指示詞(2)／7課ドリルと練習問題(作文と聞き取り)／会話文
- [第15回] 前期の総まとめ

テキストに沿って進む。

各課のドリルと作文練習問題を宿題とし、授業で一緒に解いていく。書取り問題は授業で解く。

使用テキスト: 『Start!韓国語』(改訂2版) ブックギャラリー

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: ドリルと作文練習問題は復習のためであるので、しっかり宿題をして出席すること。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応するので、まずは学務部などに相談してほしい。

授業時間外の連絡手段: 公開しているメールアドレスに連絡すること。

留意事項: 必ず教科書を持参して出席すること。

科目コード: 10090

科目ナンバリング:

主な使用言語: 日本語

授業名(英文): コリアンIIA a (Korean IIA a)

担当者: 金 範洙

基本情報

年次: 1

単位数: 1

授業形式: 演習

曜時: 金曜3限

履修可能学科・専攻: E Pe Pc C W F N M

関連資格:

AL要素: 17.発問と回答

授業の概要: 前期に学んだ内容を基に、初級後半の文法や表現を身に付けていく。

キーワード: 韓国語、韓国語会話

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標: 語彙や文法を増やし、より自然な発話ができるようになる。

評価方法: 授業中に実施するクイズ

評価割合: 30%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標: 相手の発話を聞き取り、自然な韓国語で応答できるようになる。

評価方法: 学期末筆記試験

評価割合: 40%

▼ 学修に主体的に取り組む態度

授業で扱った内容を次回まで復習する必要がある。また、授業中に行う練習や課題に誠実に取り組むことが求められる。

評価割合：20%

▼実践的ボランティア

特になし。

評価割合：0%

▼公正性

授業中に行うクイズや課題等における不正行為、私語などで周りの学習の妨げになることなどについては、減点や厳重注意の対象とする。また、授業への参加度や授業中の態度などもここに含む。

評価割合：10%

▼その他

特になし

評価割合：特になし

授業計画： [第1回] 前期の復習
[第2回]第7課 語彙、文法「です・ます体Ⅱ、～て、～すれば」
[第3回]第7課 会話、練習
[第4回]第8課 語彙、文法「です・ます体Ⅲ、～しながら」
[第5回]第8課 会話、練習
[第6回]第9課 語彙、文法「～です(か)Ⅱ、～なので、～している」
[第7回]第9課 会話、練習
[第8回]第10課 語彙、文法「～することができる、～が好きだ、～けど」
[第9回]第10課 会話、練習
[第10回]第11課 語彙、文法「?語幹の用言、～で、否定形Ⅱ」
[第11回]第11課 会話、練習
[第12回]第12課 語彙、文法「お～になる(敬語)、～しに」
[第13回]第12課 会話、練習
[第14回]第13課 語彙、文法「過去形、～したい」
[第15回]第13課 会話、練習
定期試験

使用テキスト： 金庚芬 / 丁仁京(2018)『チョアヘヨ！韓国語 初級』朝日出版社 本体2,200+税

予習・復習のポイントと 予習より復習に時間をかけてください。教科書の音声ファイルをUNIPAにアップロードするの
参考文献・資料等： で、授業後に聞いて復習してください。書く練習もしてください。

障がいのある 可能な限り対応します。
履修者への対応：

授業時間外の連絡手段： 学務部に連絡してください。

留意事項： 『チョアヘヨ！韓国語 初級』L1～L6または同等の内容を学習していることを前提に授業を進めます。

科目コード：10090 科目ナンバリング： 主な使用言語：韓国語と日本語

授業名(英文)：コリアンIIA b(Korean IIA b)

担当者：金 範洙

基本情報

年次：1

単位数：1

授業形式：演習

曜時：木曜4限

履修可能学科・専攻：E Pe Pc C W F N M

関連資格：

AL要素：17.発問と回答

授業の概要： 韓国語の正確な発声の練習(アクセント及びイントネーション)を基本に、韓国語の短文を丸暗記し5段階文法を応用しての会話イメージトレーニングを行います。韓国語関連検定試験の応用問題を解説し、毎回の授業で作文練習・小テストを行います。

キーワード： 韓国語能力試験(TOPIK)、ハングル能力検定試験、通訳案内士試験、韓国語、韓国文化、

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標: 韓国語能力試験 I、ハングル能力検定試4級レベル

評価方法: 学期末筆記テスト、暗唱テスト、韓国語関連検定試験 **評価割合:** 50%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 暗唱した文章の応用会話ができる。

評価方法: 授業時間に応用会話の練習をし、達成度評価 **評価割合:** 30%

▼学修に主体的に取り組む態度

韓国語関連の検定試験受験者、及び合格者は期末テスト成績に加点する。

評価割合: 20%

▼実践的ボランティア

韓国語能力を生かしたウェブ・SNS能力は、期末テスト成績に加点する。

評価割合: 0%

▼公正性

特になし

評価割合: 0%

▼その他

欠席1回につき、期末テスト成績から10点を減点します。欠席した場合、希望の人には別途課題(2回まで)を出してそれを提出すれば加点します。

評価割合: 欠席1回につき、期末テスト成績か

- 授業計画:**
- 1回 授業ガイダンス
授業の目標、評価方法、韓国語関連の資格取得について
 - 2回 韓国語の基礎1
韓国語発声・5段階文法の確認・暗唱会話
 - 3回 韓国語の基礎2
韓国語発声・5段階文法の確認・暗唱会話
 - 4回 韓国語の基礎3
韓国語発声・5段階文法の確認・暗唱会話
 - 5回 韓国語の文法・購読・応用会話1
短文読解・5段階文法の応用会話
 - 6回 韓国語の文法・購読・応用会話2
短文読解・5段階文法の応用会話
 - 7回 韓国語の文法・購読・応用会話3
短文読解・5段階文法の応用会話
 - 8回 韓国語の文法・購読・応用会話4
短文読解・5段階文法の応用会話
 - 9回 韓国語の文法・購読・応用会話5
短文読解・5段階文法の応用会話
 - 10回 韓国語の文法・購読・応用会話6
短文読解・5段階文法の応用
 - 11回 韓国語検定試験対策1
実践問題練習・暗唱会話
 - 12回 韓国語検定試験対策2
実践問題練習・暗唱会話
 - 13回 韓国語検定試験対策3

実践問題練習・暗唱会話
14回 韓国語検定試験対策4
実践問題練習・暗唱会話
15回 韓国語総括(まとめ)
定期試験

使用テキスト: 講師が制作した韓国語検定関連の実践問題・文法をまとめたテキストを配布します。その他、写真・動画などを使用した韓国社会事情について解説します。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 作文や暗唱練習の徹底。韓国語能力試験の実践問題など。

障がいのある履修者への対応: 個別対応します。まず学務部等に連絡して下さい。

授業時間外の連絡手段: 授業時間外の連絡や韓国語学習への質問などは、Eメールのほか、遠隔オンライン学習会(チームまたはZOOM)を設けるので活用してください。

留意事項: 授業の席は、指定席。第1回目と第2回目の授業時に抽選で決める。(最前列の席は自由席)

科目コード:10090 科目ナンバリング: 主な使用言語:日本語、韓国語
授業名(英文): コリアンIIA c(Korean IIA c)
担当者: 崔 ギョンエ

基本情報

年次:1

単位数:1

授業形式:演習

曜時:水曜2限

履修可能学科・専攻: E Pe Pc C W F N M

関連資格:

AL要素: 発問と回答

授業の概要: 文字のつづりと発音規則、そして簡単な文章の読解に必要な基本的な文法事項を段階的に学習し、あいさつと日常会話を重点的に勉強する。履修者同士で会話練習をするなどのアクティブラーニングを行う。

キーワード: 韓国語の読み・書き・聞き取り・会話

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標: コリアンIAcに続き、初級文法を理解し、挨拶を始め自己紹介など日常の簡単なコミュニケーションができるようにする。

評価方法: 平常点、小テスト、期末テスト

評価割合: 定期試験成績 50%(小テスト回数)

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 「知識・技能」とあわせて評価する

評価方法: 「知識・技能」とあわせて評価する

評価割合: 「知識・技能」とあわせて評価する

▼学修に主体的に取り組む態度

授業への参加度は評価対象とします。
積極的な姿勢で取り組んでほしい。

評価割合: 授業中の小テスト30%(もしくは40%)課題や授業参加度などの平常点20%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。

評価割合: 0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。

評価割合：0%

▼その他

遅刻・早退3回で欠席1回とし、欠席1回につき(平常点から)1点減点。

その他は本校の成績評価に従う。

評価割合：遅刻・早退3回で欠席1回とし、欠席

授業計画：

《後期》

[第1回] 前期試験問題を以て復習

[第2回] テキスト第8課 疑問文(場所)／位置と場所／助詞(～に)／存在詞(ある・いる)

[第3回] 存在詞のます形と否定文

[第4回] 疑問文とある・いる表現の復習／8課ドリルと練習問題(作文と聞き取り)

[第5回] テキスト第9課 動詞／8課会話文

[第6回] 動詞の「～ます形」／助詞(～で、～へ、～を)

[第7回] 動詞の活用形(～し)に行きます／動詞の進行形

[第8回] ドリルと練習問題(作文と聞き取り)／会話文

[第9回] テキスト第10課 敬語／曜日

[第10回] 形容詞／用言の否定文

[第11回] ドリルと練習問題(作文と聞き取り)

[第12回] テキスト第11課 数詞(1)

[第13回] 漢語系助数詞(単位)／疑問詞(いくら)

[第14回] 干支／自己紹介(名前・生年月日・干支・電話番号など)／会話文

[第15回] 後期の総まとめ

後期試験

テキストに沿って進む。

各課のドリルと作文練習問題を宿題とし、授業で一緒に解いていく。書取り問題は授業で解く。

使用テキスト：『Start! 韓国語』(改訂2版) ブックギャラリー

予習・復習のポイントと
参考文献・資料等： ドリルと作文練習は復習のためなので、しっかり宿題を済ませて出席する。

参考文献：必要に応じて授業中に紹介し、プリントを配布する。

障がいのある
履修者への対応： 可能な限り対応しますので、まずは学務部などに連絡して下さい。

授業時間外の連絡手段： 公開してあるメールアドレスの方に連絡すること。

留意事項： 特に無し。

科目コード：10090

科目ナンバリング：

主な使用言語：日本語、韓国語

授業名(英文)：コリアンIIA d(Korean IIA d)

担当者：崔 ギョンエ

基本情報

年次：1

単位数：1

授業形式：演習

曜時：水曜3限

履修可能学科・専攻：E Pe Pc C W F N M

関連資格：

AL要素：発問と回答

授業の概要: 文字のつづりと発音規則、そして簡単な文章の読解に必要な基本的な文法事項を段階的に学習し、あいさつと日常会話を重点的に勉強する。履修者同士で会話練習をするなどのアクティブラーニングを行う。

キーワード: 韓国語の読み・書き・聞き取り・会話

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標: コリアンIAcに続き、初級文法を理解し、挨拶を始め自己紹介など日常の簡単なコミュニケーションができるようにする。

評価方法: 平常点、小テスト、期末テスト

評価割合: 定期試験成績 50% (小テスト回数

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標: 「知識・技能」とあわせて評価する

評価方法: 「知識・技能」とあわせて評価する

評価割合: 「知識・技能」とあわせて評価する

▼ 学修に主体的に取り組む態度

授業への参加度は評価対象とします。
積極的な姿勢で取り組んでほしい。

評価割合: 授業中の小テスト30% (もしくは40%) 課題や授業参加度などの平常点20%

▼ 実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。

評価割合: 0%

▼ 公正性

直接的な評価対象とはしない。

評価割合: 0%

▼ その他

遅刻・早退3回で欠席1回とし、欠席1回につき(平常点から)1点減点。

その他は本校の成績評価に従う。

評価割合: 遅刻・早退3回で欠席1回とし、欠席

授業計画:

《後期》

[第1回] 前期試験問題を以て復習

[第2回] テキスト第8課 疑問文(場所)／位置と場所／助詞(～に)／存在詞(ある・いる)

[第3回] 存在詞のます形と否定文

[第4回] 疑問文とある・いる表現の復習／8課ドリルと練習問題(作文と聞き取り)

[第5回] テキスト第9課 動詞／8課会話文

[第6回] 動詞の「～ます形」／助詞(～で、～へ、～を)

[第7回] 動詞の活用形 (～し)に行きます／動詞の進行形

[第8回] ドリルと練習問題(作文と聞き取り)／会話文

[第9回] テキスト第10課 敬語／曜日

[第10回] 形容詞／用言の否定文

[第11回] ドリルと練習問題(作文と聞き取り)

[第12回] テキスト第11課 数詞(1)

[第13回] 漢語系助数詞(単位)／疑問詞(いくら)

[第14回] 干支／自己紹介(名前・生年月日・干支・電話番号など)／会話文

[第15回] 後期の総まとめ

後期試験

テキストに沿って進む。

各課のドリルと作文練習問題を宿題とし、授業で一緒に解いていく。書取り問題は授業で解く。

使用テキスト: 『Start! 韓国語』(改訂2版) ブックギャラリー

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: ドリルと作文練習は復習のためなので、しっかり宿題を済ませて出席する。

参考文献: 必要に応じて授業中に紹介し、プリントを配布する。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応しますので、まずは学務部などに連絡して下さい。

授業時間外の連絡手段: 公開してあるメールアドレスの方に連絡すること。

留意事項: 特に無し。

科目コード: 10091 科目ナンバリング: LA11B08E 主な使用言語: 日本語及び韓国語

授業名(英文): コリアンIB a(Korean IB a)

担当者: 李 吉魯

基本情報

年次: 1

単位数: 1

授業形式: 演習

曜時: 木曜3限

履修可能学科・専攻: E Pe Pc C W F N M

関連資格: 教職

AL要素: 17. 発問と回答

授業の概要: 韓国語は文法が日本語と似ているため、日本語を母国語とする者にとって一番学びやすい言語である。この授業では、韓国語の文字と発音、基本的な表現や文法を学習するとともに、韓国語の基本的な会話ができるようにする。また言葉だけではなく、韓国の歴史と文化についても理解を深めることを目的とする。

キーワード: 韓国語、日本語、ハングル、韓国語文法、大衆文化、韓国語能力試験

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標: 韓国の基礎知識や韓国語の全般的な理解等に必要リーディング・文法・会話の基礎力を身につけ、社会人として必要な教養を獲得することができる。

評価方法: 学期末筆記試験及び授業内小テスト

評価割合: 70%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 授業で学んだ内容について、自主学修等によって得た知見や経験を踏まえて論理的かつ合理的に理解し、日常生活の中で生かすことができる。

評価方法: 学期末筆記試験

評価割合: 20%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価の対象とはしない。ただし授業を通じて、新たな「知」の成果等が学期末試験や小テストの内容により認められた場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。そのほか、授業中に私語などにより学修に支障をきたすような言動がみられた場合には、厳重注意の対象とする。

評価割合: 10%

▼実践的ボランティア

直接的な評価の対象とはしない。ただし社会・共同体の中で積極的にボランティア活動等の実践により深められた知見等が学期末試験や小テストの内容により認められた場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合: 0%

▼公正性

直接的な評価の対象とはしない。ただし授業中の発言や試験等において人権侵害・差別的な言動など、著しく公正性を欠いた場合は、減点や嚴重注意の対象となる。

評価割合：0%

▼その他

特になし

評価割合：特になし

授業計画： 第1回：ガイダンス(ハングルの仕組みや制定に至るまでの経緯、成績評価の説明など)
第2回：文字と発音Ⅰ(基本母音)
第3回：文字と発音Ⅱ(基本子音)
第4回：文字と発音Ⅲ(複合母音)
第5回：文字と発音Ⅳ(子音と母音の組み合わせ)
第6回：文字と発音Ⅴ(パッチム)
第7回：日本語の五十音度をハングルで書いてみよう
第8回：数字の教え方(1)－漢数詞
第9回：数字の教え方(2)－固有数詞
第10回：韓国語の漢字音
第11回：否定の表現(～ではありません、～しません)
第12回：尊敬の表現(～なさいます、尊敬語)
第13回：過去の表現(パッチムの有無)
第14回：最近の韓国事情(K-POPや映画など)
第15回：授業のまとめ(これまでの授業内容を振り返る)
定期試験(学修の確認)

使用テキスト：『超入門！書いて覚える韓国語ドリル』山崎 玲美奈著、ナツメ社、2017年。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等：
・事前に授業の内容を確認するとともに、その回の分からない概念や用語を調べる(90分)。
・授業後、配布資料について復習し、理解を深めることが望ましい(90分)。
参考文献としては、以下の3点を推薦する。
『楽しく学ぼう！韓国語』朴美子・崔雅振著、朝日出版社、2021年3月。
『使いこなすための韓国語文法』永原歩・金秀美編、朝日出版社、2019年1月。
『できる韓国語初級Ⅰ』(ワークブック)李志暎・辛昭静編、DEKIRU出版、2012年2月。
その他の参考資料は、必要に応じて授業中に紹介する。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応するため、まずは学務部等に連絡して下さい。

授業時間外の連絡手段： オフィスアワー：授業の前後とする。曜日・時限等については初回にお知らせする。
メールアドレス：i.giro@icc.ac.jp(事前にメールでアポイントメントを取る)

留意事項： オンライン授業を行う場合、授業は時間割に基づいて「同時双方型」と「課題研究型」を組み合わせで行う。その際、大学の「IC-UNIPA」システムより、Microsoft Teamsのチームコードを入手して登録を済ませてください。また、授業関連の資料はMicrosoft Teamsよりダウンロードして事前に目を通してください。これらの授業方法に対応できるよう、主体的・対話的で深い学び(アクティブラーニング)の手法を取り入れ、学生の能動的な学習への参加を促す。

科目コード：10091

科目ナンバリング：LA11B08E

主な使用言語：日本語

授業名(英文)：コリアンIB b(Korean IB b)

担当者：呉 泰成

基本情報

年次：1

単位数：1

授業形式：演習

曜時：金曜2限

履修可能学科・専攻：E Pe Pc C W F N M

関連資格：教職

AL要素：17. 発問と回答

授業の概要： 韓国語の文字、発音、基本的な会話表現、文法について学びます。

ハングル文字を正しく書き、正確に読めることを目標とします。

キーワード： 韓国語、韓国社会、韓国文化

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標： 文字が読める。助詞の使い分けができる。単語や基本的な文法を覚えている。

評価方法： 小テスト(2回)、期末試験

評価割合： 70%(小テスト:30%、期末:40%)

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標： 直接的な評価対象とはしない。

評価方法： 該当なし

評価割合： 0%

▼ 学修に主体的に取り組む態度

ハングルが正確に読める(リーディング)

評価割合：リーディング:30%

▼ 実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。

評価割合： 0%

▼ 公正性

直接的な評価対象とはしない。

評価割合： 0%

▼ その他

韓国語能力試験(TOPIK)を受ける、又は合格した場合は、評価に反映する。

評価割合： 韓国語能力試験(TOPIK)を受ける

授業計画：

01. オリエンテーション、韓国語について
02. 文字と発音 1・2: 母音字[1]、母音字[2]、子音字[1]
03. 文字と発音 2・3: 子音字[2]、子音字[3]、子音字[4]
04. 文字と発音 4: 母音字[4]、文字の復習
05. 文字と発音 5: パッチム
06. 発音ルールと、かな文字のハングル表記
07. 第01課 ~です/ですか、「~は」
08. 第02課 体言の否定、「~に・へ①」
09. 第03課 漢数字、進行形、「~を」
10. 小テスト①、補足
11. 動詞とハムニダ体
12. 第04課 ハムニダ体、存在詞、「~に②」
13. 第05課 年月日、「~が」
14. 第06課 固有数詞、用言の否定①、「~より」
15. 小テスト②、補足、まとめ
16. 期末試験

使用テキスト： 金京子・喜多恵美子、2021『三訂版パランセ韓国語初級』朝日出版社

予習・復習のポイントと 参考文献・資料等：

1. 授業計画に沿って教科書を使って予習して下さい。
授業では重要な文法表現、会話、練習問題だけを取り上げます。
その他、わからない部分、教科書以外のものなどは質問してください。
2. 音声を聞きながら発音練習をして下さい。

<http://text.asahipress.com/free/korean/santeiparansesvokyu/index.html>

【参考文献】

李昌圭、2015『やさしいBasic韓国語文法』朝日出版社
前田真彦、2016『韓国語の発音変化完全マスター』HANA

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応します。

授業時間外の連絡手段： メールで対応します。初回の授業でお知らせします。

留意事項： 予習してきたことを前提に授業を行います。
6回以上の欠席の場合、期末試験を受けても単位を与えない場合がある。

科目コード：10091 科目ナンバリング：LA11B08E 主な使用言語：韓国語と日本語

授業名(英文)：コリアンIB c(Korean IB c)

担当者：金 範洙

基本情報

年次：1

単位数：1

授業形式：演習

曜時：木曜5限

履修可能学科・専攻： E Pe Pc C W F N M

関連資格：教職

AL要素：17.発問と回答

授業の概要： ハングル文字を覚え、日本語の文法と比較して韓国語の文法(5単語・5段階活用)を概説します。5段階活用(現在・過去・否定・不能・過去否定・不能過去)を暗記・応用した作文や会話の暗唱練習によって韓国語の応用能力を身につけ、韓国語検定試験の実践問題を解説します。韓国の町や社会文化に関する写真・動画などを活用し韓国文化を疑似体験し、韓国語・韓国文化に慣れるようにします。

キーワード： 韓国文化オンライン体験、韓国語能力試験(TOPIK)、ハングル能力検定試験、通訳案内士試験、韓国語、韓国文化、グローバル人材

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 韓国語能力試験 I、またはハングル能力検定試験4級合格レベル

評価方法： 中間・期末テスト、学習ノート

評価割合： 50%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 暗唱した文章の応用会話ができる。

評価方法： 授業時間に会話の基礎練習をし、達成度評価

評価割合： 30%

▼学修に主体的に取り組む態度

授業における質疑・応答、暗唱課題への積極的な参加が望まれる。

評価割合：20%

▼実践的ボランティア

韓国語能力を生かしたSNS・活用は、期末テスト成績に加点する。

評価割合：0%

▼公正性

特になし

評価割合：0%

▼その他

欠席1回につき、期末テスト成績から10点を減点します。欠席した場合、希望の人には別途課題(2回まで)を出してそれを提出すれば加点します。

評価割合：欠席1回につき、期末テスト成績か

- 授業計画：**
- 1回 授業ガイダンス、ハングル文字の学習
授業の目標、評価方法などの説明。ハングル文字についての概説。
 - 2回 文字・発音
子音・母音を覚える
 - 3回 文字・発音
子音・母音応用練習
 - 4回 文字・発音
子音・母音応用練習
 - 5回 韓国語の文法・文章1
基礎文法を学習・テキスト
 - 6回 韓国語の文法・文章2
基礎文法を学習・テキスト
 - 7回 韓国語の文法・文章3
基礎文法を学習・テキスト
 - 8回 韓国語の文法・会話練習1
基礎文法・会話を学習
 - 9回 韓国語の文法・会話練習2
基礎文法・会話を学習
 - 10回 韓国語の文法・会話練習3
基礎文法・会話を学習
 - 11回 短文読解・暗唱1
基礎文法の応用会話
 - 12回 短文読解・暗唱2
基礎文法の応用会話
 - 13回 短文読解・暗唱3
基礎文法の応用会話
 - 14回 短文購読・暗唱4
韓国語発音・5段階活用練習
 - 15回 韓国語文法・応用会話まとめ
定期試験

使用テキスト： 授業中に韓国語文法・語彙、韓国語検定関連資料のPDFテキストを配布し、それを各自印刷して表紙を付けてテキストにする。韓国の町の風景、衣食住、文化、歴史遺跡などの写真・動画を参考資料として活用する。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 毎回の授業時間に予習・復習の課題を提示するので、韓国語学習ノートに整理すること。

障がいのある履修者への対応： 個別対応します。まず学務部に連絡して下さい。

授業時間外の連絡手段： 授業時間外の連絡や韓国語学習における質問などは、Eメールのほか、遠隔オンライン学習相談(ZOOM)の時間を設けて対応します。事前予約の上、活用してください。(オン

ライン学習会は毎週の土曜午前)

留意事項:

授業の席は、指定席。第1回目と第2回目の授業時間に決める。(最前列の席は自由席)

科目コード:10091 科目ナンバリング:LA11B08E 主な使用言語:日本語

授業名(英文): コリアンIB d(Korean IB d)

担当者: 吳 泰成

基本情報

年次:1

単位数:1

授業形式:演習

曜時:金曜4限

履修可能学科・専攻: E Pe Pc C W F N M

関連資格:教職

AL要素: 17. 発問と回答

授業の概要: 韓国語の文字、発音、基本的な会話表現、文法について学びます。
ハングル文字を正しく書き、正確に読めることを目標とします。

キーワード: 韓国語、韓国社会、韓国文化

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標: 文字が読める。助詞の使い分けができる。単語や基本的な文法を覚えている。

評価方法: 小テスト(2回)、期末試験

評価割合: 70%(小テスト:30%、期末:40%)

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 直接的な評価対象とはしない。

評価方法: 該当なし

評価割合: 0%

▼学修に主体的に取り組む態度

ハングルが正確に読める(リーディング)

評価割合:リーディング:30%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。

評価割合: 0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。

評価割合: 0%

▼その他

韓国語能力試験(TOPIK)を受ける、又は合格した場合は、評価に反映する。

評価割合: 韓国語能力試験(TOPIK)を受ける

授業計画:

01. オリエンテーション、韓国語について
02. 文字と発音 1・2:母音字[1]、母音字[2]、子音字[1]
03. 文字と発音 2・3:子音字[2]、子音字[3]、子音字[4]
04. 文字と発音 4:母音字[4]、文字の復習
05. 文字と発音 5:パッチム
06. 発音ルールと、かな文字のハングル表記
07. 第01課 ~です/ですか、「~は」
08. 第02課 体言の否定、「~に・へ①」

09. 第03課 漢数字、進行形、「～を」
10. 小テスト①、補足
11. 動詞とハムニダ体
12. 第04課 ハムニダ体、存在詞、「～に②」
13. 第05課 年月日、「～が」
14. 第06課 固有数詞、用言の否定①、「～より」
15. 小テスト②、補足、まとめ
16. 期末試験

使用テキスト： 金京子・喜多恵美子、2021『三訂版パランセ韓国語初級』朝日出版社

予習・復習のポイントと参考文献・資料等：

1. 授業計画に沿って教科書を使って予習して下さい。
授業では重要な文法表現、会話、練習問題だけを取り上げます。
その他、わからない部分、教科書以外のものなどは質問してください。
2. 音声を聞きながら発音練習をして下さい。
<http://text.asahipress.com/free/korean/santeiparansesyokyu/index.html>

【参考文献】

李昌圭、2015『やさしいBasic韓国語文法』朝日出版社
前田真彦、2016『韓国語の発音変化完全マスター』HANA

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応します。

授業時間外の連絡手段： メールで対応します。初回の授業でお知らせします。

留意事項： 予習してきたことを前提に授業を行います。
6回以上の欠席の場合、期末試験を受けても単位を与えない場合がある。

科目コード：10092 **科目ナンバリング：** **主な使用言語：日本語及び韓国語**

授業名(英文)：コリアンIIB a(Korean IIB a)

担当者：李 吉魯

基本情報

年次：1

単位数：1

授業形式：演習

曜時：木曜3限

履修可能学科・専攻：E Pe Pc C W F N M

関連資格：教職

AL要素：17. 発問と回答

授業の概要： 韓国語は文法が日本語と似ているため、日本語を母国語とする者にとって一番学びやすい言語である。この授業では、韓国語の文字と発音、基本的な表現や文法を学習するとともに、韓国語の基本的な会話ができるようにする。また言葉だけではなく、韓国の歴史と文化についても幅広く理解を深めることを目的とする。

キーワード： 韓国語、日本語、ハングル、韓国語文法、大衆文化、韓国語能力試験

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 韓国の基礎知識や韓国語の全般的な理解等に必要リーディング・文法・会話の基礎力を身につけ、社会人として必要な教養を獲得することができる。

評価方法： 学期末筆記試験及び授業内小テスト

評価割合：70%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 授業で学んだ内容について、自主学修等によって得た知見や経験を踏まえて論理的かつ合理的に理解し、日常生活の中で生かすことができる。

評価方法: 学期末筆記試験

評価割合: 20%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価の対象とはしない。ただし授業を通じて、新たな「知」の成果等が学期末試験や小テストの内容により認められた場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。そのほか、授業中に私語などにより学修に支障をきたすような言動がみられた場合には、嚴重注意の対象とする。

評価割合: 10%

▼実践的ボランティア

直接的な評価の対象とはしない。ただし社会・共同体の中で積極的にボランティア活動等の実践により深められた知見等が学期末試験や小テストの内容により認められた場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合: 0%

▼公正性

直接的な評価の対象とはしない。ただし授業中の発言や試験等において人権侵害・差別的な言動など、著しく公正性を欠いた場合は、減点や嚴重注意の対象となる。

評価割合: 0%

▼その他

特になし

評価割合: 特になし

- 授業計画:**
- 第1回: ガイダンス(授業の内容や授業スケジュール、成績評価の方法など)
 - 第2回: 存在を表す表現(～があります/います)
 - 第3回: 不在を表す表現(～がありません/いません)
 - 第4回: 用言の活用(～します)
 - 第5回: 希望を伝える表現(～したいです)
 - 第6回: 好みを表す表現(～が好きです)
 - 第7回: 依頼の表現(～してください)
 - 第8回: 可能の表現(～できます)
 - 第9回: 疑問詞(1)ーものや理由などを尋ねる
 - 第10回: 疑問詞(2)ー時・場所や数・数量などを尋ねる
 - 第11回: 韓国語の中の外来語
 - 第12回: ワードでハングルを打ってみよう
(パソコンやスマートフォンでハングルを入力する方法など)
 - 第13回: 最近の韓国事情(K-POPや映画、ドラマなど)
 - 第14回: 韓国旅行に関する基本知識(入国・出国関係や道の尋ね方など)
 - 第15回: 授業のまとめ(これまでの授業内容を振り返る)
- 定期試験(学修の確認)

使用テキスト: 『超入門! 書いて覚える韓国語ドリル』山崎 玲美奈著、ナツメ社、2017年。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等:

- ・事前に授業の内容を確認するとともに、その回の分からない概念や用語を調べる(90分)。
- ・授業後、配布資料について復習し、理解を深めることが望ましい(90分)。

参考文献としては、以下の3点を推薦する。

- 『使いこなすための韓国語文法』永原歩・金秀美編、朝日出版社、2019年1月。
- 『できる韓国語初級 I』(ワークブック)、李志暎・辛昭静編、DEKIRU出版、2012年2月。
- 『読みたい韓国語～初級から中級へ～』金美仙著、朝日出版社、2021年1月。

その他の参考資料は、必要に応じて授業中に紹介する。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応するため、まずは学務部等に連絡して下さい。

授業時間外の連絡手段: オフィスアワー: 授業の前後とする。曜日・時限等については初回にお知らせする。

メールアドレス:i_giro@icc.ac.jp(事前にメールでアポイントメントを取る)

留意事項: オンライン授業を行う場合、授業は時間割に基づいて「同時双方型」と「課題研究型」を組み合わせで行う。その際、大学の「IC-UNIPA」システムより、Microsoft Teamsのチームコードを入手して登録を済ませてください。また、授業関連の資料はMicrosoft Teamsよりダウンロードして事前に目を通してください。これらの授業方法に対応できるよう、主体的・対話的で深い学び(アクティブラーニング)の手法を取り入れ、学生の能動的な学習への参加を促す。

科目コード:10092 科目ナンバリング: 主な使用言語: 日本語

授業名(英文): コリアンIIB b(Korean IIB b)

担当者: 呉 泰成

基本情報

年次:1

単位数:1

授業形式: 演習

曜時: 金曜2限

履修可能学科・専攻: E Pe Pc C W F N M

関連資格: 教職

AL要素: 17. 発問と回答

授業の概要: 韓国語の文字、発音、基本的な会話表現について学びます。
ハングル文字を正しく読め、初級レベルの文法、ハムニダ体、ヘヨ体、過去形が作れるようにします。

キーワード: 韓国語、韓国社会、韓国文化

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標: 文字が読める。基本的助詞の使い方ができる。ハムニダ体、ヘヨ体、過去形を作ることができる。

評価方法: 小テスト(3回)、期末試験

評価割合: 70%(小テスト:30%、期末40%)

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標: 直接的な評価対象とはしない。

評価方法: 該当なし

評価割合: 0%

▼ 学修に主体的に取り組む態度

ハングルが正確に読める(リーディング)

評価割合: リーディング:30%

▼ 実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。

評価割合: 0%

▼ 公正性

直接的な評価対象とはしない。

評価割合: 0%

▼ その他

ハングル能力検定試験、或いは韓国語能力試験(TOPIK)を受ける、或いは合格した場合は、評価に反映する。

評価割合: ハングル能力検定試験、或いは韓

授業計画:

01. 前期の復習(???体)、韓国語文法
02. 第7課 時間、「~しましょうか」、「~に③」
03. 第8課 用言の否定②、意志、「~から~まで」(時間)
04. 第9課 尊敬形、「~で」

05. 小テスト①、補足
06. 「へヨ体」とは
07. 第10課 へヨ体復習
08. 第11課 へヨ体(ハダ動詞)、「～したい」、「～から～まで」(場所)
09. 第12課 へヨ体(指定詞)、命令、「～で」④
10. 第13課 過去形、「～で」(手段・道具)
11. 小テスト②、補足
12. 第14課 過去形(指定詞)、「～しましょう」、「～へ／に」②
13. 第15課 へヨ体の尊敬形、「～に」
14. 第16課 「～のようだ、～みたいだ」、「～として」(資格、地位)
15. 小テスト③、補足
16. 期末試験

使用テキスト: 金京子・喜多恵美子、2021『三訂版パランセ韓国語初級』朝日出版社

予習・復習のポイントと参考文献・資料等:

1. 授業計画に沿って教科書を使って予習して下さい。
授業では重要な文法表現、会話、練習問題だけを取り上げます。
その他、わからない部分、教科書以外のものなどは質問してください。
2. 音声聞きながら発音練習をして下さい。
<http://text.asahipress.com/free/korean/santeiparansesyokyu/index.html>

【参考文献】

李昌圭、2015『やさしいBasic韓国語文法』朝日出版社

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応します。

授業時間外の連絡手段: メールで対応します。初回の授業でお知らせします。

留意事項: 予習してきたことを前提に授業を行いますので、スケジュールに沿って予習をしてください。
6回以上の欠席の場合、期末試験を受けても単位を与えない場合があります。

科目コード: 10092 **科目ナンバリング:** **主な使用言語:** 韓国語と日本語

授業名(英文): コリアンIIB c(Korean IIB c)

担当者: 金 範洙

基本情報

年次: 1

単位数: 1

授業形式: 演習

曜時: 木曜5限

履修可能学科・専攻: E Pe Pc C W F N M

関連資格: 教職

AL要素: 17.発問と回答

授業の概要: 韓国語の正確な発声の練習(アクセント及びイントネーション)を基本に、韓国語の短文を丸暗記し5段階文法を応用しての会話イメージトレーニングを行います。韓国語関連検定試験の応用問題を解説し、毎回の授業で作文練習・小テストを行います。

キーワード: 韓国語能力試験(TOPIK)、ハングル能力検定試験、通訳案内士試験、韓国語、韓国文化、グローバル人材

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標: 韓国語能力試験 I、ハングル能力検定試4級レベル

評価方法: 学期末筆記テスト、暗唱テスト、韓国語関 **評価割合:** 50%

連検定試験

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 暗唱した文章の応用会話ができる。

評価方法: 授業時間に応用会話の練習をし、達成度 **評価割合: 30%**
評価

▼学修に主体的に取り組む態度

韓国語関連の検定試験受験者、及び合格者は期末テスト成績に加点する。

評価割合: 20%

▼実践的ボランティア

韓国語能力を生かしたウェブ・SNS能力は、期末テスト成績に加点する。

評価割合: 0%

▼公正性

特になし

評価割合: 0%

▼その他

欠席1回につき、期末テスト成績から10点を減点します。欠席した場合、希望の人には別途課題(2回まで)を出してそれを提出すれば加点します。

評価割合: 欠席1回につき、期末テスト成績か

- 授業計画:**
- 1回 授業ガイダンス
授業の目標、評価方法、韓国語関連の資格取得について
 - 2回 韓国語の基礎1
韓国語発声・5段階文法の確認・暗唱会話
 - 3回 韓国語の基礎2
韓国語発声・5段階文法の確認・暗唱会話
 - 4回 韓国語の基礎3
韓国語発声・5段階文法の確認・暗唱会話
 - 5回 韓国語の文法・購読・応用会話1
短文読解・5段階文法の応用会話
 - 6回 韓国語の文法・購読・応用会話2
短文読解・5段階文法の応用会話
 - 7回 韓国語の文法・購読・応用会話3
短文読解・5段階文法の応用会話
 - 8回 韓国語の文法・購読・応用会話4
短文読解・5段階文法の応用会話
 - 9回 韓国語の文法・購読・応用会話5
短文読解・5段階文法の応用会話
 - 10回 韓国語の文法・購読・応用会話6
短文読解・5段階文法の応用
 - 11回 韓国語検定試験対策1
実践問題練習・暗唱会話
 - 12回 韓国語検定試験対策2
実践問題練習・暗唱会話
 - 13回 韓国語検定試験対策3
実践問題練習・暗唱会話
 - 14回 韓国語検定試験対策4
実践問題練習・暗唱会話
 - 15回 韓国語総括(まとめ)
定期試験

使用テキスト: 講師が制作した韓国語検定関連の実践問題・文法をまとめたテキストを配布します。その他、写真・動画などを使用した韓国社会事情について解説します。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 作文や暗唱練習の徹底。韓国語能力試験の実践問題など。

障がいのある履修者への対応: 個別対応します。まず学務部等に連絡して下さい。

授業時間外の連絡手段: 授業時間外の連絡や韓国語学習への質問などは、Eメールのほか、遠隔オンライン学習会(チームまたはZOOM)を設けるので活用してください。

留意事項: 授業の席は、指定席。第1回目と第2回目の授業時に抽選で決める。(最前列の席は自由席)

科目コード: 10092 **科目ナンバリング:** **主な使用言語:** 日本語

授業名(英文): コリアンIIB d (Korean IIB d)

担当者: 呉 泰成

基本情報

年次: 1

単位数: 1

授業形式: 演習

曜時: 金曜4限

履修可能学科・専攻: E Pe Pc C W F N M

関連資格: 教職

AL要素: 17. 発問と回答

授業の概要: 韓国語の文字、発音、基本的な会話表現について学びます。
ハングル文字を正しく読め、初級レベルの文法、ハムニダ体、ヘヨ体、過去形が作れるようにします。

キーワード: 韓国語、韓国社会、韓国文化

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標: 文字が読める。基本的助詞の使い方ができる。ハムニダ体、ヘヨ体、過去形を作ることができる。

評価方法: 小テスト(3回)、期末試験

評価割合: 70%(小テスト:30%、期末40%)

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 直接的な評価対象とはしない。

評価方法: 該当なし

評価割合: 0%

▼学修に主体的に取り組む態度

ハングルが正確に読める(リーディング)

評価割合: リーディング:30%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。

評価割合: 0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。

評価割合: 0%

▼その他

ハングル能力検定試験、或いは韓国語能力試験(TOPIK)を受ける、或いは合格した場合は、評価に反映する。

評価割合：ハンゲル能力検定試験、或いは韓

授業計画：

01. 前期の復習(???)、韓国語文法
02. 第7課 時間、「～しましょうか」、「～に③」
03. 第8課 用言の否定②、意志、「～から～まで」(時間)
04. 第9課 尊敬形、「～で」
05. 小テスト①、補足
06. 「へヨ体」とは
07. 第10課 へヨ体復習
08. 第11課 へヨ体(ハダ動詞)、「～したい」、「～から～まで」(場所)
09. 第12課 へヨ体(指定詞)、命令、「～で」④
10. 第13課 過去形、「～で」(手段・道具)
11. 小テスト②、補足
12. 第14課 過去形(指定詞)、「～しましょう」、「～へ／に」②
13. 第15課 へヨ体の尊敬形、「～に」
14. 第16課 「～のようだ、～みたいだ」、「～として」(資格、地位)
15. 小テスト③、補足
16. 期末試験

使用テキスト： 金京子・喜多恵美子、2021『三訂版パランセ韓国語初級』朝日出版社

予習・復習のポイントと参考文献・資料等：

1. 授業計画に沿って教科書を使って予習して下さい。
授業では重要な文法表現、会話、練習問題だけを取り上げます。
その他、わからない部分、教科書以外のものなどは質問してください。
2. 音声を聞きながら発音練習をして下さい。
<http://text.asahipress.com/free/korean/santeiparansesvokyu/index.html>

【参考文献】

李昌圭、2015『やさしいBasic韓国語文法』朝日出版社

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応します。

授業時間外の連絡手段： メールで対応します。初回の授業でお知らせします。

留意事項： 予習してきたことを前提に授業を行いますので、スケジュールに沿って予習をしてください。
6回以上の欠席の場合、期末試験を受けても単位を与えない場合があります。

科目コード：10093 科目ナンバリング：LA23B07E 主な使用言語：日本語及び韓国語

授業名(英文)：コリアンⅢA a(Korean ⅢA a)

担当者：李 吉魯

基本情報

年次：2

単位数：1

授業形式：演習

曜時：木曜4限

履修可能学科・専攻：E Pe Pc C W F N M

関連資格：

AL要素：17. 発問と回答

授業の概要： この授業では、韓国語の読み書きができる者を対象にして文法、語彙、文型の仕組み等について学習する。それを通して、韓国語の正確な読解力と表現力、会話運用力を幅広く身につけることを目的とする。なお、TOPIK等の資格試験を目指すための基礎固めを行う。

キーワード： 韓国語、日本語、ハンゲル、韓国語文法、大衆文化、韓国の若者、韓国語能力試験

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標: 韓国語の全般的理解や韓国語能力試験(TOPIK)等に必要リーディング・会話・文法の基礎力を身につけ、社会人として必要な教養を獲得することができる。

評価方法: 学期末筆記試験及び授業内小テスト **評価割合:** 70%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標: 授業で学んだ内容について、自主学修等によって得た知見や経験を踏まえて論理的かつ合理的に理解し、日常生活の中で生かすことができる。

評価方法: 学期末筆記試験 **評価割合:** 20%

▼ 学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価の対象とはしない。ただし授業を通じて、新たな「知」の成果等が学期末試験や小テストの内容により認められた場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。そのほか、授業中に私語などにより学修に支障をきたすような言動がみられた場合には、厳重注意の対象とする。

評価割合: 10%

▼ 実践的ボランティア

直接的な評価の対象とはしない。ただし社会・共同体の中で積極的にボランティア活動等の実践により深められた知見等が学期末試験や小テストの内容により認められた場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合: 0%

▼ 公正性

直接的な評価の対象とはしない。ただし授業中の発言や試験等において人権侵害・差別的な言動など、著しく公正性を欠いた場合は、減点や厳重注意の対象となる。

評価割合: 0%

▼ その他

特になし

評価割合: 特になし

- 授業計画:**
- 第1回: ガイダンス(自己紹介、授業の内容や進め方の説明など)
 - 第2回: 名詞の種類や丁寧な断定を表す表現(名詞と助詞の使い方など)
 - 第3回: 練習問題
 - 第4回: 丁寧な否定を表す表現(動詞や指示代名詞など)
 - 第5回: 練習問題
 - 第6回: 存在の有無を表す表現(羅列、比較、対照など)
 - 第7回: 練習問題
 - 第8回: 丁寧な叙述を表す終結語尾(動詞、形容詞など)
 - 第9回: 練習問題
 - 第10回: 漢数詞や年月日の言い方など
 - 第11回: 練習問題
 - 第12回: 尊敬形の表現(動詞、名詞、助詞)
 - 第13回: 練習問題
 - 第14回: 最近の韓国事情(K-POPや映画・ドラマなど)
 - 第15回: 授業のまとめ(これまでの授業内容を振り返る)
- 定期試験(学修の確認)

使用テキスト: 授業で使用する資料は、毎回配布する。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等:

- ・事前に授業の内容を確認するとともに、その回の分からない概念や用語を調べる(90分)。
- ・授業後、配布資料について復習し、理解を深めることが望ましい(90分)。

参考文献としては、以下の2点を推薦する。

『今知りたい、韓国を読む』朴大王著、朝日出版社、2020年1月。

『韓国語能力試験TOPIK1』(初級完全対策)、韓国語評価研究会、2017年9月。

その他の参考資料は、必要に応じて授業中に紹介する。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応するため、まずは学務部等に連絡して下さい。

授業時間外の連絡手段: オフィスアワー:授業の前後とする。曜日・時限等については初回にお知らせする。
メールアドレス:i.giro@icc.ac.jp(事前にメールでアポイントメントを取る)

留意事項: オンライン授業を行う場合、授業は時間割に基づいて「同時双方型」と「課題研究型」を組み合わせで行う。その際、大学の「IC-UNIPA」システムより、Microsoft Teamsのチームコードを入手して登録を済ませてください。また、授業関連の資料はMicrosoft Teamsよりダウンロードして事前に目を通してください。これらの授業方法に対応できるよう、主体的・対話的で深い学び(アクティブラーニング)の手法を取り入れ、学生の能動的な学習への参加を促す。

科目コード:10093 科目ナンバリング:LA23B07E 主な使用言語:日本語

授業名(英文): コリアンIII A b(Korean III A b)

担当者: 金 範洙

基本情報

年次:2

単位数:1

授業形式:演習

曜時:金曜4限

履修可能学科・専攻: E Pe Pc C W F N M

関連資格:

AL要素: 17.発問と回答

授業の概要: 初級の復習をしつつ、語彙や会話の練習を加えていく。さらに韓国語の表現力・会話力・読解力を身につけ、韓国語使用に自信が持てるようになる。

キーワード: 韓国語、韓国語会話

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標: 初級の文法を振り返りつつ、韓国語の基礎を固めていく。

評価方法: 授業中に実施するクイズ

評価割合: 30%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 日常会話はもちろん、より幅広い表現が身につくようになる。

評価方法: 学期末筆記試験

評価割合: 40%

▼学修に主体的に取り組む態度

授業で扱った内容を次回まで復習する必要がある。また、授業中に行う練習や課題に誠実に取り組むが求められる。

評価割合: 20%

▼実践的ボランティア

特になし

評価割合: 0%

▼公正性

授業中に行うクイズや課題等における不正行為、私語などで周りの学習の妨げになることなどについては、減点や厳重注意の対象とする。また、授業への参加度や授業中の態度などもここに含む。

評価割合: 10%

▼その他

特になし

評価割合: 特になし

授業計画: [第1回] ガイダンス、第1課 復習(現在形、過去形)
[第2回] 第2課 語彙、文法(～しましょうか、～でしょうか、～しましょう)

[第3回]第2課 会話、応用練習
 [第4回]第3課 語彙、文法(尊敬語の過去形、～することができない)
 [第5回]第3課 会話、応用練習
 [第6回]第4課 語彙、文法(連体形①、～するのはどうですか)
 [第7回]第4課 会話、応用練習
 [第8回]第5課 語彙、文法(連体形②、～ますが／ですが、～でしょう?)
 [第9回]第5課 会話、応用練習
 [第10回]第6課 語彙、文法(連体形③、～したことがある、～してから)
 [第11回]第6課 会話、応用練習
 [第12回]第7課 語彙、文法(連体形④、～するつもりだ、意思表示)
 [第13回]第7課 会話、応用練習
 [第14回]第8課 語彙、文法(変則②、～ようだ／～と思う)
 [第15回]第8課 会話、応用練習
 定期試験

使用テキスト: 金庚芬 / 丁仁京(2018)『チョアヘヨ! 韓国語 中級』朝日出版社 本体2,200+税

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 予習より復習に時間をかけてください。教科書の音声ファイルをUNIPAにアップロードするの
 で、授業後に聞いて復習してください。書く練習もしてください。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応します。

授業時間外の連絡手段: 学務部に連絡してください。

留意事項: 『チョアヘヨ! 韓国語 初級』または同等の内容を学習していることを前提に授業を進めます。

科目コード: 10093 **科目ナンバリング:** LA23B07E **主な使用言語:** 日本語、韓国語

授業名(英文): コリアンⅢA c(Korean ⅢA c)

担当者: 呉 泰成

基本情報

年次: 2

単位数: 1

授業形式: 演習

曜時: 金曜3限

履修可能学科・専攻: E Pe Pc C W F N M

関連資格:

AL要素: 17. 発問と回答

授業の概要: 初・中級レベルの文法表現(連結語尾、連体形、不規則など)を中心に学びます。
 韓国語で書かれた文章を正確に読み、内容が理解できるようにします。
 連結語尾、連体形を使って韓国語で文章が書けることを目指します。

キーワード: 韓国語、韓国社会、韓国文化

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標: 連結語尾、連体形、不規則活用を理解する。

評価方法: 小テスト(2回)、期末試験

評価割合: 60%(小テスト:30%、期末試験:30)

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標: 韓国語で正確に表現できる。

評価方法: 作文(表現力)

評価割合: 20%

▼ 学修に主体的に取り組む態度

ハングルが正確に読める(リーディング)

評価割合: 20%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。

評価割合：0%

▼その他

特になし。ただしハングル能力検定試験、或いは韓国語能力試験(TOPIK)を受ける、又は合格した場合、評価に反映する。

評価割合：特になし。ただしハングル能力検定

授業計画：

01. 授業概要、接続語尾と??体
02. 第01課① -?, -??
03. 第01課② -(?)??
04. 第02課① -?? / -??, ???
05. 第02課② -?? ?? / 不可能
06. 小テスト①、補足
07. 第03課① -(?)?, -(?)?
08. 第03課② -? / ? ??
09. 第05課 ① -? ??
10. 第05課② -? ??, -(?)? ???
11. 小テスト②、補足
12. 第06課 -? / ? ?? (???), -? / ? ??
13. -(?)?? ①、②(第11課、第14課)
14. 連結語尾を使った作文作成
15. 作文の見直し、総括
16. 期末試験

使用テキスト： 金京子、2018『読んでみよう韓国語 中級読解コース』白水社

予習・復習のポイントと
参考文献・資料等： 1. 授業計画に沿って教科書を使って予習して下さい。
その他、わからない部分、教科書以外のものなどは質問してください。
2. 音声を聞きながら発音練習をして下さい。
<https://www.hakusuisha.co.jp/news/n22142.html>

【参考文献】

李昌圭、2015『やさしいBasic韓国語文法』朝日出版社
李昌圭、2010『仕組みがわかる 韓国語文法レッスン』白帝社

障がいのある
履修者への対応： 可能な限り対応します。

授業時間外の連絡手段： 質問などは、授業後に対応しますが、メールでも受け付けます。初回の授業でお知らせします。

留意事項： 予習してきたことを前提に授業を行います。
6回以上の欠席の場合、期末試験を受けても単位を与えない場合がある。

科目コード：10093 科目ナンバリング：LA23B07E 主な使用言語：韓国語と日本語
授業名(英文)：コリアンⅢA d(Korean ⅢA d)
担当者：金 範洙

基本情報

年次：2

単位数：1

授業形式：演習

曜時：木曜3限

履修可能学科・専攻：E Pe Pc C W F N M

関連資格：

AL要素：17.発問と回答

授業の概要： 韓国語の基本文法を応用しての文章暗唱や作文、会話練習を行うことで韓国語の活用能力を高めます。韓国政府認定の韓国語能力試験(TOPIK)の実践問題を解説し、韓国語検定試験の中級・上級合格を目指します。韓国の町の風景や韓国文化・歴史遺跡をオンライン(写真・動画)で疑似体験し、韓国社会文化に慣れるイメージトレーニングを行います。

キーワード： 韓国語能力試験(TOPIK)、ハングル能力検定試験、通訳案内士試験、韓国語、韓国文化、グローバル人材、韓国語・韓国文化オンライン体験学習

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 韓国語能力試験(TOPIK) II、またはハングル能力検定試験3級・準2級レベル合格

評価方法： 授業時間に出される課題やレポートによる
評価割合： 50%
評価

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 課題解説及び応用練習

評価方法： 課題の達成度評価
評価割合： 30%

▼学修に主体的に取り組む態度

韓国語関連の検定試験受験者・合格者には追加点を与えます。

評価割合： 20%

▼実践的ボランティア

韓国語能力を生かした国際ボランティア活動(SNS文化観光広報など)は、期末テスト成績に加点する。

評価割合： 0%

▼公正性

特になし

評価割合： 0%

▼その他

特になし

評価割合： 特になし

授業計画：

- 1回 授業ガイダンス
授業の目標、評価方法など
- 2回 韓国語の文法・作文・会話応用1
購読・作文課題、文法を応用した会話練習
- 3回 韓国語の文法・作文・会話応用2
購読・作文課題、文法を応用した会話練習
- 4回 韓国語の文法・作文・会話応用3
購読・作文課題、文法を応用した会話練習
- 5回 韓国語の文法・作文・会話応用4
購読・作文課題、文法を応用した会話練習
- 6回 韓国語の文法・作文・会話応用5

購読・作文課題、文法を応用した会話練習
7回 韓国語の文法・作文・会話応用6
購読・作文課題、文法を応用した会話練習
8回 韓国語の文法・作文・会話応用7
購読・作文課題、文法を応用した会話練習
9回 韓国語の文法・作文・会話応用8
購読・作文課題、文法を応用した会話練習
10回 韓国語の文法・作文・会話応用9
購読・作文課題、文法を応用した会話練習
11回 韓国語の文法・作文・会話応用10
購読・作文課題、文法を応用した会話練習
12回 韓国語の文法・作文・会話応用11
購読・作文課題、文法を応用した会話練習
13回 韓国語の文法・作文・会話応用12
購読・作文課題、文法を応用した会話練習
14回
韓国語検定試験、韓国語実践応用練習
15回 総括(今後の韓国語学習についての指導)
定期試験

使用テキスト: 講師制作のPDFテキストを配布します。インターネットに公開されている韓国語能力試験(TOPIK II)過去問や実践問題を参考資料として活用します。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 韓国語検定関連の実践問題を中心に制作したテキストを配布します。受講者は各自の韓国語学習ノートを作り、課題やウェブ公開の問題を整理してください。

障がいのある履修者への対応: 個別対応します。まず学務部に連絡して下さい。

授業時間外の連絡手段: 授業時間外の連絡や韓国語学習への質問などは、Eメールのほか、遠隔オンライン学習会(チームまたはZOOM)を設けるので活用してください。(オンライン学習会は毎週の土曜午前予定)

留意事項: 授業の席は、指定席。第1回目と第2回目の授業時に抽選で決める。(最前列の席は自由席)グローバル社会で通用する高度な韓国語の応用能力や韓国語検定試験中級・上級合格を目指します。欠席1回につき、期末テスト成績から10点を減点します。欠席した場合、希望の人には別途課題(2回まで)を出してそれを提出すれば加点します。※韓国語能力試験(TOPIK)、ハングル能力検定試験受験者・合格者は期末テスト成績に加点します。

科目コード:10094 科目ナンバリング:LA24B07E 主な使用言語:日本語及び韓国語

授業名(英文): コリアンIVA a(Korean IVA a)

担当者: 李 吉魯

基本情報

年次:2

単位数:1

授業形式:演習

曜時:木曜4限

履修可能学科・専攻: E Pe Pc C W F N M

関連資格:

AL要素: 17. 発問と回答

授業の概要: この授業では、韓国語の読み書きができる者を対象にして文法、語彙、文型の仕組み等について学習する。それを通して、韓国語の正確な読解力と表現力、会話運用力を幅広く身につけることを目的とする。なお、TOPIK等の資格試験を目指すための基礎固めを行う。

キーワード: 韓国語、ハングル、韓国語文法、大衆文化、韓国の若者、韓国語能力試験

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標: 韓国語の全般的理解や韓国語能力試験(TOPIK)等に必要リーディング・会話・文法の基礎力を身につけ、社会人として必要な教養を獲得することができる。

評価方法: 学期末筆記試験及び授業内小テスト **評価割合:** 70%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標: 授業で学んだ内容について、自主学修等によって得た知見や経験を踏まえて論理的かつ合理的に理解し、日常生活の中で生かすことができる。

評価方法: 学期末筆記試験 **評価割合:** 20%

▼ 学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価の対象とはしない。ただし授業を通じて、新たな「知」の成果等が学期末試験や小テストの内容により認められた場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合: 10%

▼ 実践的ボランティア

直接的な評価の対象とはしない。ただし授業を通じて、新たな「知」の成果等が学期末試験や小テストの内容により認められた場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。そのほか、授業中に私語などにより学修に支障をきたすような言動がみられた場合には、厳重注意の対象とする。

評価割合: 0%

▼ 公正性

直接的な評価の対象とはしない。ただし授業中の発言や試験等において人権侵害・差別的な言動など、著しく公正性を欠いた場合は、減点や厳重注意の対象となる。

評価割合: 0%

▼ その他

特になし

評価割合: 特になし

授業計画: 第1回:ガイダンス(授業の内容や授業スケジュール、成績評価の方法など)
第2回:存在を表す表現(～があります/います)
第3回:不在を表す表現(～がありません/いません)
第4回:用言の活用(～します)
第5回:希望を伝える表現(～したいです)
第6回:好みを表す表現(～が好きです)
第7回:依頼の表現(～してください)
第8回:可能の表現(～できます)
第9回:疑問詞(1)ーものや理由などを尋ねる
第10回:疑問詞(2)ー時・場所や数・数量などを尋ねる
第11回:敬語の表現(動詞、名詞、助詞)
第12回:最近の韓国事情(K-POPや映画・ドラマなど)
第13回:韓国旅行に関する基本知識(入国・出国関係や道の尋ね方など)
第14回:作文練習(韓国語による自己紹介等)
第15回:授業のまとめ(これまでの授業内容を振り返る)
定期試験(学修の確認)

使用テキスト: 授業で使用する資料は、毎回配布する。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: ・事前に授業の内容を確認するとともに、その回の分からない概念や用語を調べる(90分)。
・授業後、配布資料について復習し、理解を深めることが望ましい(90分)。
参考文献としては、以下の3点を推薦する。
『読みたい韓国語～初級から中級へ～』金美仙著、朝日出版社、2021年1月。
『今知りたい、韓国を読む』朴大王著、朝日出版社、2020年1月。
『韓国語能力試験TOPIK1』(初級完全対策)、韓国語評価研究会、2017年9月。
その他の参考資料は、必要に応じて授業中に紹介する。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応するため、まずは学務部等に連絡して下さい。

授業時間外の連絡手段: オフィスアワー:授業の前後とする。曜日・時限等については初回にお知らせする。
メールアドレス:i_giro@icc.ac.jp (事前にメールでアポイントメントを取る)

留意事項: オンライン授業を行う場合、授業は時間割に基づいて「同時双方型」と「課題研究型」を組み合わせで行う。その際、大学の「IC-UNIPA」システムより、Microsoft Teamsのチームコードを入手して登録を済ませてください。また、授業関連の資料はMicrosoft Teamsよりダウンロードして事前に目を通してください。これらの授業方法に対応できるよう、主体的・対話的で深い学び(アクティブラーニング)の手法を取り入れ、学生の能動的な学習への参加を促す。

科目コード:10094 科目ナンバリング:LA24B07E 主な使用言語:日本語

授業名(英文): コリアンIVA b(Korean IVA b)

担当者: 金 範洙

基本情報

年次:2

単位数:1

授業形式:演習

曜時:金曜4限

履修可能学科・専攻: E Pe Pc C W F N M

関連資格:

AL要素: 17.発問と回答

授業の概要: 中級後半の語彙や文法を学びながら、会話の練習を加えていく。さらに韓国語の表現力・読解力を身に付けていく。

キーワード: 韓国語、韓国語会話

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標: 語彙や文法を増やし、様々なことが韓国語で表現できるようになる。

評価方法: 授業中に実施するクイズ

評価割合: 30%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 韓国語を使ってあいさつや日常のコミュニケーションができる。

評価方法: 学期末筆記試験

評価割合: 40%

▼学修に主体的に取り組む態度

授業で扱った内容を次回まで復習する必要がある。また、授業中に行う練習や課題に誠実に取り組むが求められる。

評価割合: 20%

▼実践的ボランティア

特になし。

評価割合: 0%

▼公正性

授業中に行うクイズや課題等における不正行為、私語などで周りの学習の妨げになることなどについては、減点や厳重注意の対象とする。また、授業への参加度や授業中の態度などもここに含む。

評価割合: 10%

▼その他

特になし

評価割合: 特になし

授業計画: [第1回] ガイダンス、前期の復習
[第2回] 第9課 語彙、文法(変則③)、～してみる、～したい
[第3回] 第9課 会話、応用練習

[第4回]第10課 語彙、文法(～や／か、変則④、～しますね)
 [第5回]第10課 会話、応用練習
 [第6回]第11課 語彙、文法(変則⑤、～するんですよ、～してください)
 [第7回]第11課 会話、応用練習
 [第8回]第12課 語彙、文法(変則⑥、～じゃないですか、～しようと思う)
 [第9回]第12課 会話、応用練習
 [第10回]第13課 語彙、文法(～することができる、～のか、～してください②)
 [第11回]第13課 会話、応用練習
 [第12回]第14課 語彙、文法(～しなければならない、～してはいけない、～したほうが良いと思う)
 [第13回]第14課 会話、応用練習
 [第14回]第15課 語彙、文法(～から／ので、～してもいい、～しないでください)
 [第15回]第15課 会話、応用練習
 定期試験

使用テキスト: 金庚芬 / 丁仁京(2018)『チョアヘヨ! 韓国語 中級』朝日出版社 本体2,200+税

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 予習より復習に時間をかけてください。教科書の音声ファイルをUNIPAにアップロードするの
 で、授業後に聞いて復習してください。書く練習もしてください。1課が終わるとワークブックを
 配布します。必ず解答し、復習してください。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応します。

授業時間外の連絡手段: 学務部に連絡してください。

留意事項: 『チョアヘヨ! 韓国語 初級』及び『チョアヘヨ! 韓国語 中級』のL1～L8の内容を学習していることを前提に授業を進めます。

科目コード:10094 科目ナンバリング:LA24B07E 主な使用言語:日本語、韓国語

授業名(英文): コリアンIVA c(Korean IVA c)

担当者: 呉 泰成

基本情報

年次:2

単位数:1

授業形式:演習

曜時:金曜3限

履修可能学科・専攻: E Pe Pc C W F N M

関連資格:

AL要素: 17. 発問と回答

授業の概要: 初・中級レベルの文法表現(連結語尾、連体形、不規則など)を中心に学びます。
 韓国語で書かれた文章を正確に読み、内容が理解できるようにします。
 連結語尾、連体形を使って韓国語で文章が書けることを目指します。

キーワード: 韓国語、韓国社会、韓国文化

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標: 連結語尾、連体形、不規則活用を理解する。

評価方法: 小テスト(2回)、期末試験

評価割合: 60%(小テスト:30%、期末試験:30)

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 韓国語で正確に表現できる。

評価方法: 作文(表現力)

評価割合: 20%

▼学修に主体的に取り組む態度

ハングルが正確に読める(リーディング)

評価割合：20%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。

評価割合：0%

▼その他

特になし。ただしハングル能力検定試験、或いは韓国語能力試験(TOPIK)を受ける、又は合格した場合、評価に反映する。

評価割合：特になし。ただしハングル能力検定

授業計画：

01. 授業概要、連体形と??体
02. 第08課① -? (現在)
03. 第08課② -? / ? (現在)
04. 第09課① -? / ? (過去)
05. 第02課② -? ??, -?
06. 小テスト①、補足
07. 第10課① -? / ? (未来)
08. 第10課② -?? / ??
09. 第11課① -??, ??, ??, ? / ???
10. 第12課② -???, -? ?
11. 小テスト②、補足
12. 第13課① -?/? ? ???, -? ??
13. 第13課② -? ???, ? / ? ? ??
14. 連体形を使った作文
15. 作文見直し、総括
16. 期末試験

使用テキスト： 金京子、2018『読んでみよう韓国語 中級読解コース』白水社

予習・復習のポイントと
参考文献・資料等： 1. 授業計画に沿って教科書を使って予習して下さい。
その他、わからない部分、教科書以外のものなどは質問してください。
2. 音声を聞きながら発音練習をして下さい。
<https://www.hakusuisha.co.jp/news/n22142.html>

【参考文献】

李昌圭、2015『やさしいBasic韓国語文法』朝日出版社

李昌圭、2010『仕組みがわかる 韓国語文法レッスン』白帝社

障がいのある
履修者への対応： 可能な限り対応します。

授業時間外の連絡手段： 質問などは、授業後に対応しますが、メールでも受け付けます。初回の授業でお知らせします。

留意事項： 予習してきたことを前提に授業を行います。
6回以上の欠席の場合、期末試験を受けても単位を与えない場合がある。

科目コード：10094

科目ナンバリング：LA24B07E

主な使用言語：韓国語と日本語

授業名(英文)：コリアンIVA d(Korean IVA d)

担当者：金 範洙

基本情報

年次：2

単位数：1

授業形式：演習

曜時：木曜3限

履修可能学科・専攻：E Pe Pc C W F N M

関連資格：

AL要素：17.発問と回答

授業の概要： 韓国語能力検定試験(TOPIK)Ⅱの過去問や応用問題を解きます。その日本語・韓国語の短文を同時に丸暗記してネイティブのように暗唱し、白紙のうえに全文を書く練習が韓国語練習の基本となります。日常生活やビジネスなどの場面を想定しての応用会話の暗唱練習をすることで韓国語の実践能力を高めます。韓国社会や文化に関する写真・動画などを活用して韓国社会文化のオンライン体験を行い、今の韓国社会の理解に役に立てます。

キーワード： 韓国語能力試験(TOPIK)、ハングル能力検定試験、通訳案内士試験、韓国語、韓国文化、グローバル人材、オンライン韓国文化体験

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 韓国語能力試験(TOPIK)Ⅱ、またはハングル能力検定試験準2級レベル

評価方法： 学期末筆記テスト、暗唱テスト、韓国語関連検定試験 **評価割合：50%**

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 暗唱した文章の応用会話ができる。

評価方法： 授業時間に応用会話の練習をし、達成度評価 **評価割合：30%**

▼学修に主体的に取り組む態度

韓国語関連の検定試験受験者、及び合格者は期末テスト成績に加点する。

評価割合：20%

▼実践的ボランティア

韓国語能力を生かした国際ボランティア活動(SNS日本文化観光広報など)を奨励します。

評価割合：0%

▼公正性

特になし

評価割合：0%

▼その他

特になし

評価割合：特になし

授業計画： 1回 授業ガイダンス
授業の目標、評価方法など
2回 応用会話・韓国語検定試験対策Ⅰ
会話練習・実践問題解説
3回 応用会話・韓国語検定試験対策Ⅱ
会話練習・実践問題解説
4回 応用会話・韓国語検定試験対策Ⅲ

会話練習・実践問題解説
5回 応用会話・韓国語検定試験対策Ⅳ
会話練習・実践問題解説
6回 応用会話・韓国語検定試験対策Ⅴ
会話練習・実践問題解説
7回 応用会話・韓国語検定試験対策Ⅵ
会話練習・実践問題解説
8回 実践読解・作文暗唱1
解説・個別練習
9回 実践読解・作文暗唱2
解説・個別練習
10回 実践読解・作文暗唱3
解説・個別練習
11回 実践読解・作文暗唱4
解説・個別練習
12回 実践読解・作文暗唱5
解説・個別練習
13回 実践読解・作文暗唱6
解説・個別練習
14回 韓国語検定試験対策
総合解説
15回 韓国語授業のまとめ
今後の韓国語学習についての指導
定期試験

使用テキスト： 講師が制作した韓国語検定対策のPDFテキストを配布します。各自印刷し、本にして授業時間に持参してください。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 毎回、韓国語検定試験の対策となる購読・作文暗唱の課題を出し、授業終了の際に提出します。

障がいのある履修者への対応： 個別対応します。まず学務部等に連絡して下さい。

授業時間外の連絡手段： 授業時間外の連絡や韓国語学習への質問などは、Eメールのほか、遠隔オンライン学習会(チームまたはZOOM)を設けるので活用してください。

留意事項： グローバル社会で通用する高度な韓国語の応用能力や韓国語検定試験中級・上級合格を目指します。欠席1回につき、期末テスト成績から10点を減点します。欠席した場合、希望の人には別途課題(2回まで)を出してそれを提出すれば加点します。※韓国語能力試験(TOPIK)、ハングル能力検定試験受験者・合格者は期末テスト成績に加点します。

科目コード：10095 **科目ナンバリング：** **主な使用言語：日本語・韓国語**

授業名(英文)：コリアンIII(B)(Korean III(B))

担当者：崔 ギョンエ

基本情報

年次：2

単位数：1

授業形式：演習

曜時：水曜4限

履修可能学科・専攻： E Pe Pc C W F N M

関連資格：

AL要素： 発問と回答

授業の概要:

動詞の過去形や敬語、また日本語には無い用言の連体形をしっかりと身につけ様々な文型を、文法と会話の両方で理解しやすくする。できるだけ易しい例文を基に読解力と会話力を高めていく。
受講生のレベルによって、ハングル検定試験既出問題を早めに取り上げる場合もある。

キーワード: 韓国語の会話、読解と翻訳

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標: 韓国旅行の際に街の案内文が理解でき、駅のアナウンスが聞取れ、一人旅ができること。

努力すれば、独学でも次の段階に進むことができる。「ハングル能力検定試験」4級合格を目指す。

評価方法: 平常点、小テスト、期末テスト

評価割合: 定期試験成績 50% (小テスト回数)

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標: 「知識・技能」とあわせて評価する

評価方法: 「知識・技能」とあわせて評価する

評価割合: 「知識・技能」とあわせて評価する

▼ 学修に主体的に取り組む態度

授業への参加度は評価対象とします。

配布したハングル検定試験既出問題を指示通り解いてくるなど積極的な姿勢で取り組んでほしい。

評価割合: 授業中の小テスト30% (もしくは40%) 課題や授業への参加度などの平常点 20%

▼ 実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。

評価割合: 0%

▼ 公正性

直接的な評価対象とはしない。

評価割合: 0%

▼ その他

遅刻・早退3回で欠席1回とし、欠席1回につき(平常点から)1点減点。

第59回ハングル検定試験4級合格者と受験者には特別加点する。

評価割合: 遅刻・早退3回で欠席1回とし、欠席

授業計画: 《前期》

[第01回] 授業ガイダンス/コリアン I の後期試験問題を以てレベル確認

[第02回] テキスト第10課 練習問題(作文と聞き取り) / 総合練習問題(2)

[第03回] テキスト第11課 数詞(1)と漢語系助数詞の復習(主に、自己紹介の表現を以て)

[第04回] ドリルと練習問題(作文と聞き取り) / 会話文

[第05回] テキスト第12課 数詞(2)

[第06回] 時間の表現 / 激音化

[第07回] 数詞(1・2)と助数詞の復習 / 助詞のまとめ / 勧誘表現 ~ (し) ましょう

[第08回] テキスト第13課 動詞の過去形 ??? ?

[第09回] 詞過去形の文章 / 会話文

[第10回] ドリルと練習問題(作文と聞き取り) / 会話文

[第11回] テキスト第14課 ハンバーガー屋で注文する

[第12回] 漢語系・固有語系数詞が混ざった文章

の会話練習

[第13回]

練習

[第14回] 10課～14課の文章で会話練習

[第15回] 前期総まとめ

前期試験

ドリルと練習問題(作文と聞き取り)で会話

テキストに沿って進む。

各課のドリルと作文練習問題を宿題とし、授業で一緒に解いていく。書取り問題は授業で解く。

ハングル検定試験4級既出問題を解いていく。

使用テキスト: 『Start! 韓国語』(改訂2版) ブックギャラリー

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: ドリルと作文練習は復習のためなので、宿題をしっかりと出席する。

参考文献: 必要に応じて授業中に紹介し、プリントを配布する。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応しますので、まずは学務部などに連絡して下さい。

授業時間外の連絡手段: 公開してあるメールアドレスの方に連絡すること。

留意事項: 特に無し。

科目コード: 10096 **科目ナンバリング:** **主な使用言語:** 日本語・韓国語

授業名(英文): コリアンIVB(Korean IVB)

担当者: 崔 ギョンエ

基本情報

年次: 2

単位数: 1

授業形式: 演習

曜時: 水曜4限

履修可能学科・専攻: E Pe Pc C W F N M

関連資格:

AL要素: 発問と回答

授業の概要: 日本語には無い用言の連体形をしっかりと身につけ様々な文型を、文法と会話の両方で理解しやすくする。

受講者のレベルに合わせて、韓国小学校高学年の国語教科書の文章を扱う。
並行してハングル検定試験既出問題を解いていく。

キーワード: 韓国語で書かれた物語の講読と翻訳、ハングル検定試験既出問題を解く

学位授与方針との関係

▼ **知識・技能**

到達目標: 韓国旅行の際に、市場で値段交渉ができる等、韓国一人旅を楽しめるようになること。

『ハングル能力検定試験』4級合格を目指す。

評価方法: 平常点、小テスト、期末テスト

評価割合: 定期試験成績 50%(小テスト回数

▼ **思考力・判断力・表現力**

到達目標: 「知識・技能」とあわせて評価する

評価方法: 「知識・技能」とあわせて評価する

評価割合: 「知識・技能」とあわせて評価する

▼学修に主体的に取り組む態度

授業への参加度は評価対象とします。

配布したハングル検定試験既出問題や韓国語の文章を指示通りしてくるなど積極的な姿勢で取り組んでほしい。

評価割合：授業中の小テスト30%（もしくは40%）課題や授業への参加度などの平常点 20%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。

評価割合：0%

▼その他

遅刻・早退3回で欠席1回とし、欠席1回につき(平常点から)1点減点。

第60回ハングル検定試験4級合格者と受験者には特別加点する。

評価割合：遅刻・早退3回で欠席1回とし、

授業計画：《後期》

[第01回] 前期試験を以て復習

[第02回] 用言過去形のまとめ

[第03回] テキスト第15課 動詞の連体形—現在形・過去形・回想連体形・未来形

[第04回] 連体形文章／季節と天気

[第05回] 作文(連体形文章)チェックと発表／不規則活用用言

[第06回]

ドリルと練習問題(作文と聞き取り)

[第07回] (学園祭後) 南北境界線を描いた映画の背景説明と映画の前半部

[第08回] 前回に続き、映画の後半部と映画の感想文

[第09回] 第15課の会話文／総合練習問題(3)

[第10回] 韓国小学校高学年の国語教科書から抜粋した物語を読んで翻訳していく

[第11回] 10回目の続き

[第12回] 11回目の続き

[第13回] 12回目の続き

[第14回] 13回目の続き

[第15回] 後期総まとめ

後期試験

各課のドリルと作文練習問題を宿題とし、授業で一緒に解いていく。書取り問題は授業で解く。

韓国語文章を読んで、翻訳する。ハングル検定試験4級既出問題を解いていく。

使用テキスト：

『Start！韓国語』（改訂2版）ブックギャラリー

予習・復習のポイント ドリルと作文練習などの課題は復習のためなので、しっかり済ませて出席する。
参考文献・資料等：

参考文献：必要に応じて授業中に紹介し、プリントを配布する。

障がいのある履修者への対応：可能な限り対応しますので、まずは学務部などに連絡して下さい。

授業時間外の連絡手段：公開してあるメールアドレスの方に連絡すること。

留意事項： 特になし。

科目コード：10101

科目ナンバリング：

主な使用言語：日本語

授業名(英文)： 外国語としての日本語IA(Japanese IA)

担当者： 堀口 悟

基本情報

年次：1

単位数：1

授業形式：演習

曜時：火曜1限

履修可能学科・専攻： E Pe Pc C W F N M

関連資格：

AL要素： 03体験

05即時応答

07発表

11討論

13ロールプレイ、シナリオプレイ

14輪読活動

15レポート指導

16振り返り

17発問と回答

授業の概要： 日本企業ないし日本と関連のある外国企業で就業する際に役立つ「ビジネス日本語」の習得を目指す。日本語教育能力もできる限り養成する。

キーワード： 日本語・日本文化・日本での仕事・ビジネス

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標： 日本でのビジネスの現場で通用する日本語の四技能をおおむね身につけている。

評価方法： 通常の授業(理解・発話・ビジネス文書の
解読・レポート)と期末試験(レポート)による
評価割合：40%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標： 日本でのビジネスシーンでほぼ支障のない対応ができる。

- ①日本のビジネスシーンにおける対人対応
- ②応答における配慮
- ③適切な敬語使用

評価方法： 授業中の実践とショートレポートによる
評価割合：40%

▼ 学修に主体的に取り組む態度

授業への出席・質問・発話の積極性、応答の適切性。

評価割合：20%

▼ 実践的ボランティア

評価項目として特立しないが、認定しうる事象が生じた場合は、「学修に主体的に取り組む態度」の評価に加味する。

評価割合：0%

▼ 公正性

加点項目とはしないが、公正性を欠く厚意が見られた場合は、「学修に取り組む態度」の項目から減点する。

評価割合：0%

▼ その他

特になし

評価割合：特になし

授業計画：【第01回】 授業概要
【第02回】 他己紹介
【第03回】 教材解説
【第04回】 食事の場での会話-ロールプレイ(1)
【第05回】 食事の場での会話-ロールプレイ(2)
【第06回】 敬語の練習-シナリオプレイ(1)
【第07回】 敬語の練習-シナリオプレイ(2)
【第08回】 手紙の書き方(1)
【第09回】 手紙の書き方(2)
【第10回】 手紙の書き方(3)
【第11回】 日本語の発音(1)
【第12回】 日本語の発音(2)
【第13回】 小説の読み方(1)
【第14回】 小説の読み方(2)
【第15回】 日本文化体験

使用テキスト： 授業初回に提示し、説明する。

予習・復習のポイントと 予習:テキストの次回分を、輪読に供えて音読できるようにしてくる。
参考文献・資料等： 復習:授業中に獲得した表現を、日常の生活でも極力使用するように努める。

障がいのある できる限りの対応をする。
履修者への対応：

授業時間外の連絡手段： ICメールにより、24時間受け付け、近日中に返答する。堀口のアドレスは、授業の初めに公開する。

留意事項： 受講者の人数や日本語運用能力レベルによって、上記内容を適宜変更する場合がある。

科目コード：10102 科目ナンバリング： 主な使用言語：日本語

授業名(英文)： 外国語としての日本語IIA (Japanese IIA)

担当者： 堀口 悟

基本情報

年次：1

単位数：1

授業形式：演習

曜時：火曜1限

履修可能学科・専攻： E Pe Pc C W F N M

関連資格：

AL要素： 03体験
05即時応答
07発表
11討論
13ロールプレイ、シナリオプレイ
14輪読活動
15レポート指導
16振り返り
17発問と回答

授業の概要： 日本企業ないし日本と関連のある外国企業で就業する際に役立つ「ビジネス日本語」の習得を目指す。日本語教育能力もできる限り養成する。

キーワード： 日本語・日本文化・日本での仕事・ビジネス

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標: 日本でのビジネスの現場で通用する日本語の四技能を、日本人社会に入って通用する力をおおむね身につけている。

評価方法: 通常の授業(理解・発話・ビジネス文書の解読・レポート)と期末試験(レポート)による
評価割合: 40%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 日本でのビジネスシーンで日本人の中に入って支障のない対応ができる。

- ①日本のビジネスシーンにおける対人対応
- ②応答における配慮
- ③適切な敬語使用

評価方法: 授業中の実践とショートレポートによる
評価割合: 40%

▼学修に主体的に取り組む態度

授業への出席・質問・発話の積極性、応答の適切性。

評価割合: 20%

▼実践的ボランティア

評価項目として特立しないが、認定しうる事象が生じた場合は、「学修に主体的に取り組む態度」の評価に加味する。

評価割合: 0%

▼公正性

加算項目とはしないが、公正性を欠く厚意が見られた場合は、「学修に取り組む態度」の項目から減点する。

評価割合: 0%

▼その他

特になし

評価割合: 特になし

授業計画:

- 【第01回】はじめに
- 【第02回】テキスト『敬語のケイコ』の使い方
- 【第03回】会話(かいわ)と敬語(けいご)の練習—シナリオプレイ(1)
- 【第04回】会話と敬語の練習(2)+手紙(てがみ)の書き方(1)
- 【第05回】手紙の書き方(2)
- 【第06回】手紙の書き方(3)
- 【第07回】聴解(ちょうかい)練習(1)
- 【第08回】聴解練習(2)
- 【第09回】聴解練習(3)
- 【第10回】中間(ちゅうかん)まとめ
- 【第11回】ビジネスレターの書き方(1)(社内レター)
- 【第12回】ビジネスレターの書き方(2)(社外レター)
- 【第13回】ビジネス文書の書き方(3)
- 【第14回】日本文化体験
- 【第15回】まとめ

使用テキスト: 授業初回に説明する

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 予習:テキストの次回分を、音読できるようにしておく。
復習:授業中に獲得した表現を、日常の生活でも極力使用するように努める。

障がいのある履修者への対応: できる限り対応する

授業時間外の連絡手段: ICメールにより、24時間受け付け、近日中に返答する。堀口のアドレスは、授業の初めに公開する。

留意事項： 本授業は、受講生の人数やその日本語能力によって、上記内容を変更することがある。

リモート授業等に関して

リモート授業やハイブリッド授業でのリモート受講の際、画面上の「顔出し」は必須である。特に、ハイブリッド授業では、面接授業受講者との平等をはかるためにも、「顔出し」がなければ出席とは認めない(マスク着用や背景のぼかしは認める)。

科目コード：10103 **科目ナンバリング：** **主な使用言語：日本語**

授業名(英文)：外国語としての日本語IB(Japanese IB)

担当者：三谷 絵里

基本情報

年次：1

単位数：1

授業形式：演習

曜時：金曜3限

履修可能学科・専攻： E Pe Pc C W F N M

関連資格：

**AL要素： 07.発表
11.討論**

授業の概要： 日本語学習者の中上級者が、話す、聞く、読む、書くの4技能を通して日本語能力を向上させることを目的とする。

キーワード： 日本語、話す、聞く、読む、書く

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 他人の意見やニュースなどを聞き、それに対して自分の意見を述べることができる。

評価方法： レポート・試験

評価割合：50%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 具体的な場面でどのような日本語が使用されているのかを知り、その表現を使うことができるようになる。

評価方法： レポート・試験

評価割合：50%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしないが、主体的に取り組まなければ単位の取得は困難である。

評価割合：0%

▼実践的ボランティア

直接の評価対象とはしない。

評価割合：0%

▼公正性

直接の評価対象とはしないが、不正行為があった場合は規則にのっとり厳正に対処する。

評価割合：0%

▼その他

外国からの留学生中心の授業であることに、注意すること。

評価割合：外国からの留学生中心の授業であ

授業計画： 1 授業ガイダンス
2 1課 「音楽と音の効果」①
3 1課 「音楽と音の効果」②

- 4 1課 「音楽と音の効果」③
- 5 1課 「音楽と音の効果」④
- 6 2課 「いい数字・悪い数字」①
- 7 2課 「いい数字・悪い数字」②
- 8 2課 「いい数字・悪い数字」③
- 9 2課 「いい数字・悪い数字」④
- 10 3課 「「面白い」日本」①
- 11 3課 「「面白い」日本」②
- 12 3課 「「面白い」日本」③
- 13 4課 「くしゃみ」①
- 14 4課 「くしゃみ」②
- 15 4課 「くしゃみ」③
- 16 期末テスト

使用テキスト： 中級を学ぼう
日本語の文型と表現56 中級前期

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 日本語能力の向上に関する資料を読むこと。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応するので、事前に学務部に相談してください。

授業時間外の連絡手段： 詳しくは初回に説明します。

留意事項： 外国からの留学生中心の授業であることに、注意すること。

科目コード：10104 **科目ナンバリング：** **主な使用言語：**日本語

授業名(英文)：外国語としての日本語IIB (Japanese IIB)

担当者：三谷 絵里

基本情報

年次： 1	単位数： 1	授業形式： 演習
曜時： 金曜3限		履修可能学科・専攻： E Pe Pc C W F N M
関連資格：		AL要素： 07.発表 11.討論

授業の概要： 日本語学習者の中上級者が、話す、聞く、読む、書くの4技能を通して日本語能力を向上させることを目的とする。

キーワード： 日本語、話す、聞く、読む、書く

学位授与方針との関係

▼ **知識・技能**

到達目標： 他人の意見やニュースなどを聞き、それに対して自分の意見を述べることができる。

評価方法： レポート・試験 **評価割合：** 50%

▼ **思考力・判断力・表現力**

到達目標： 具体的な場面でどのような日本語が使用されているのかを知り、その表現を使うことができるようになる。

評価方法： レポート・試験 **評価割合：** 50%

▼ **学修に主体的に取り組む態度**

直接的な評価対象とはしないが、主体的に取り組まなければ単位の取得は困難である。

評価割合： 0%

▼実践的ボランティア

直接の評価対象とはしない。

評価割合：0%

▼公正性

直接の評価対象とはしないが、不正行為があった場合は規則にのっとり厳正に対処する。

評価割合：0%

▼その他

外国からの留学生中心の授業であることに、注意すること。

評価割合：外国からの留学生中心の授業であ

授業計画： 1授業ガイダンス
2自己紹介・自文化の紹介(1)
3自己紹介・自文化の紹介(2)
4聴解・スピーチ(1)
5聴解・スピーチ(2)
6読解・作文(1)
7読解・作文(2)
8会話(1)
9会話(2)
10聴解・スピーチ(3)
11聴解・スピーチ(4)
12読解・作文(3)
13読解・作文(4)
14会話(3)
15会話(4)
定期試験

使用テキスト： 特になし

予習・復習のポイントと 日本語能力の向上に関する資料を読むこと。

参考文献・資料等：

障がいのある 可能な限り対応するので、事前に学務部に相談してください。

履修者への対応：

授業時間外の連絡手段： 詳しくは初回に説明します。

留意事項： 外国からの留学生中心の授業であることに、注意すること。

科目コード：10105

科目ナンバリング：

主な使用言語：日本語

授業名(英文)：外国語としての日本語ⅢA(Japanese ⅢA)

担当者：山田 野絵

基本情報

年次：2

単位数：1

授業形式：演習

曜時：月曜2限

履修可能学科・専攻：E Pe Pc C W F N M

関連資格：

AL要素：07発表

10資料調査課題

11討論

15レポート指導

授業の概要： JF日本語教育スタンダード(CEFR)B1レベルの日本語を身につける。

キーワード： JF日本語教育スタンダード(CEFR)B1レベル、JLPT N3、やりとり、話す、聴く、読む、書く、日本

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標: JF日本語教育スタンダード(CEFR)B1レベルの総合的な日本語能力を身につける

評価方法: 発表、課題、宿題、テスト

評価割合: 80%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標: 「知識・技能」と合わせて評価する。

評価方法: 「知識・技能」と合わせて評価する。

評価割合: 「知識・技能」と合わせて評価する。

▼ 学修に主体的に取り組む態度

授業参加態度として、授業に取り組む態度を評価に含める。主体性、協調性、責任感を持って課題に取り組むことが期待される。

評価割合: 20%

▼ 実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。状況により、「学修に主体的に取り組む態度」評価対象とすることがある。

評価割合: 0%

▼ 公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし、人権侵害、差別的発言、行為等、著しく公正性を欠く場合や不正行為があった場合は、減点や厳重注意の対象となるので注意すること。

評価割合: 0%

▼ その他

特になし

評価割合: 特になし

- 授業計画: 1) 授業の到達目標と概略・レベルチェック
2) 発表「自己紹介」・ディスカッション・ふりかえり
3) 『いろどり』A2-2 L7
4) 『いろどり』A2-2 L8
5) 『いろどり』A2-2 L9
6) 『いろどり』A2-2 L10
7) 『いろどり』A2-2 L11
8) 『いろどり』A2-2 L12
9) アクティビティ
10) 『いろどり』A2-L15
11) 『いろどり』A2-L16
12) 『いろどり』A2-2 L17
13) 『いろどり』A2-2 L18
14) 発表準備・リハーサル
15) 最終発表・ふりかえり

使用テキスト: 『いろどり』初級2 A2-2

<https://www.irodori.ipf.go.jp/elementary02/pdf.html>

予習・復習のポイントと 予習・復習: eラーニングサイトなどで予習、復習を自主的に行う。

参考文献・資料等: <IRODORI Japanese Online Course > <https://www.irodori-online.ipf.go.jp/>

障がいのある 可能な限り対応しますので、まずは学務部などに連絡してください。
履修者への対応:

授業時間外の連絡手段: 授業後の休み時間に対応します。また、授業初日に連絡先メールアドレスをお知らせします。

留意事項: 日本語教育を勉強している日本人学生が実習生として授業に参加することがあります。

科目コード:10106

科目ナンバリング:

主な使用言語:日本語

授業名(英文): 外国語としての日本語IVA(Japanese IVA)

担当者: 山田 野絵

基本情報

年次:2

単位数:1

授業形式:演習

曜時:月曜2限

履修可能学科・専攻: E Pe Pc C W F N M

関連資格:

AL要素: 07発表

10資料調査課題

11討論

15レポート指導

授業の概要: JF日本語教育スタンダード(CEFR)B1レベルの日本語を身につける。

キーワード: JF日本語教育スタンダード(CEFR)B1レベル、JLPT N3、やりとり、話す、聴く、読む、書く、日本

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標: JF日本語教育スタンダード(CEFR)B1レベルの総合的な日本語能力を身につける

評価方法: 発表、課題、宿題、テスト

評価割合: 80%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 「知識・技能」と合わせて評価する。

評価方法: 「知識・技能」と合わせて評価する。

評価割合: 「知識・技能」と合わせて評価する。

▼学修に主体的に取り組む態度

授業参加態度として、授業に取り組む態度を評価に含める。主体性、協調性、責任感を持って課題に取り組むことが期待される。

評価割合: 20%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。状況により、「学修に主体的に取り組む態度」評価対象とすることがある。

評価割合: 0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし、人権侵害、差別的発言、行為等、著しく公正性を欠く場合や不正行為があった場合は、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。

評価割合: 0%

▼その他

特になし

評価割合: 特になし

授業計画:

- 1) 授業の到達目標と概略・レベルチェック
- 2) 発表「自己紹介」・ディスカッション・ふりかえり
- 3) 『いろどり』A2-2 L1
- 4) 『いろどり』A2-2 L2
- 5) 『いろどり』A2-2 L3
- 6) 『いろどり』A2-2 L4
- 7) 『いろどり』A2-2 L5
- 8) 『いろどり』A2-2 L6
- 9) アクティビティ
- 10) 『いろどり』A2-L7
- 11) 『いろどり』A2-L8

- 12)『いろどり』A2-2 L9
- 13)『いろどり』A2-2 L10
- 14)発表準備・リハーサル
- 15)最終発表・ふりかえり

使用テキスト：『いろどり』初級2 A2-2
<https://www.irodori.ipf.go.jp/elementary02/pdf.html>

予習・復習のポイントと 予習・復習:eラーニングサイトなどで予習、復習を自主的に行う。
 参考文献・資料等： <IRODORI Japanese Online Course > <https://www.irodori-online.ipf.go.jp/>

障がいのある 可能な限り対応しますので、まずは学務部などに連絡してください。
 履修者への対応：

授業時間外の連絡手段： 授業後の休み時間に対応します。また、授業初日に連絡先メールアドレスをお知らせします。

留意事項： 日本語教育を勉強している日本人学生が実習生として授業に参加することがあります。

科目コード：10107 科目ナンバリング： 主な使用言語：日本語

授業名(英文)： 外国語としての日本語ⅢB (Japanese ⅢB)

担当者： 中山 健一

基本情報

年次：2

単位数：1

授業形式：演習

曜時：金曜4限

履修可能学科・専攻： E Pe Pc C W F N M

関連資格：

AL要素： 07発表

08協同学修

11討論

13役割演技と疑似体験

15レポート指導

17発問と回答

授業の概要： 日本語の四技能の向上させるため、様々な練習をおこなう。フォーマルな、かたい日本語を中心に扱う。特に、四技能のうち「聞く」「話す」を中心におこなう。

なお、受講生に合わせ、内容を変更することがある。

キーワード： 日本語 アカデミック日本語

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： これまで習得した日本語能力をさらに高め、大学の勉強に必要な日本語のスキルをみにつける。具体的には、四技能の向上と、アカデミック日本語のスタイルの習得を重点的に行なう。

評価方法： 日々の授業でのパフォーマンス、小課題、 評価割合：50%
 学期末発表

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： これまで習得した日本語能力をさらに高め、大学の勉強に必要な日本語のスキルをみにつける。具体的には、四技能の向上と、アカデミック日本語のスタイルの習得を重点的に行なう。

評価方法： 日々の授業でのパフォーマンス、小課題、 評価割合：50%
 学期末発表

▼学修に主体的に取り組む態度

大前提であるため、評価割合には含めない。当然ながら、学修に主体的に取り組む態度がなければ単位の取得は極めて困難である。

評価割合：0%

▼実践的ボランティア

もとめない。

評価割合：0%

▼公正性

直接の評価対象にしない。ただし学習活動において、様々な背景や考えをもった人たちを受け入れる寛容さは必須である。

評価割合：0%

▼その他

なし

評価割合：なし

- 授業計画：
1. 授業オリエンテーション
 2. 日常会話の練習(1)
 3. 日常会話の練習(2)
 4. ドキュメント番組の聴解練習(1)
 5. ドキュメント番組の聴解練習(2)
 6. 講演・講義の聴解練習(1)
 7. 講演・講義の聴解練習(2)
 8. 中間まとめ
 9. 口頭発表(1) 概要と方法説明
 10. 口頭発表(1) 練習
 11. 口頭発表(1) 本番と振り返り
 12. 口頭発表(2) 概要と方法説明
 13. 口頭発表(2) 練習
 14. 口頭発表(2) 本番と振り返り
 15. まとめ

使用テキスト： プリントを配布。

予習・復習のポイントと 授業で指示する予習・宿題を必ずすること。

参考文献・資料等：

障がいのある 申し出があれば対応する。事前に地域国際交流センター国際交流課に相談すること。
履修者への対応：

授業時間外の連絡手段： メールにて連絡すること。
nakayama[at]icc.ac.jp [at]→@

留意事項： なし

科目コード：10108

科目ナンバリング：

主な使用言語：日本語

授業名(英文)： 外国語としての日本語IVB (Japanese IVB)

担当者： 中山 健一

基本情報

年次：2

単位数：1

授業形式：演習

曜時：金曜4限

履修可能学科・専攻： E Pe Pc C W F N M

関連資格：

AL要素： 07発表 08協同学修 11討論 13役割演技と疑似体験 15レポート指導 17発問と回答

授業の概要：

日本語の四技能の向上させるため、様々な練習をおこなう。フォーマルな、かたい日本語を中心に扱う。特に、四技能のうち「聞く」「話す」を中心におこなう。

なお、受講生に合わせ、内容を変更することがある。

キーワード： 日本語 アカデミック日本語

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標： これまで習得した日本語能力をさらに高め、大学の勉強に必要な日本語のスキルをみにつける。具体的には、四技能の向上と、アカデミック日本語のスタイルの習得を重点的に行なう。

評価方法： 日々の授業でのパフォーマンス、小課題、**評価割合：50%**
学期末レポート

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標： これまで習得した日本語能力をさらに高め、大学の勉強に必要な日本語のスキルをみにつける。具体的には、四技能の向上と、アカデミック日本語のスタイルの習得を重点的に行なう。

評価方法： 日々の授業でのパフォーマンス、小課題、**評価割合：50%**
学期末レポート

▼ 学修に主体的に取り組む態度

大前提であるため、評価割合には含めない。当然ながら、学修に主体的に取り組む態度がなければ単位の取得は極めて困難である。

評価割合：0%

▼ 実践的ボランティア

もとめない。

評価割合：0%

▼ 公正性

直接の評価対象にしない。ただし学習活動において、様々な背景や考えをもった人たちを受け入れる寛容さは必須である。

評価割合：0%

▼ その他

なし

評価割合：なし

- 授業計画：**
1. 授業オリエンテーション
 2. かたい文章の読解練習 :新聞(1)
 3. かたい文章の読解練習 :新聞(2)
 4. かたい文章の読解練習 :評論(1)
 5. かたい文章の読解練習 :評論(2)
 6. かたい文章の読解演習 :論文(1)
 7. かたい文章の読解演習 :論文(2)
 8. 中間まとめ
 9. 作文(1) 概要説明、ブレインストーミング
 10. 作文(1) ドラフト完成
 11. 作文(1) 見直し
 12. 作文(2) 概要説明、ブレインストーミング
 13. 作文(2) ドラフト完成
 14. 作文(2) 見直し
 15. まとめ

使用テキスト： プリントを配布。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 授業で指示する予習・宿題を必ずすること。

障がいのある履修者への対応: 申し出があれば対応する。事前に地域国際交流センター国際交流課に相談すること。

授業時間外の連絡手段: メールにて連絡すること。
nakayama[at]jicc.ac.jp [at]→@

留意事項: なし

科目コード: 10109 **科目ナンバリング:** **主な使用言語:** 日本語

授業名(英文): 体育実技B ニュースポーツa(Physical Education B New sports a)

担当者: 佐久間 彩

基本情報

年次: 1

単位数: 1

授業形式: 実技

曜時: 火曜2限

履修可能学科・専攻: E Pe Pc C W F N M

関連資格: 教職 保育

AL要素: 03. 実験・実技・体験

授業の概要: 様々な運動・スポーツの継続的な実践を通して種目固有のスキルの習得や戦術の理解、体力の維持・増進、コミュニケーションスキルの向上を図り、生涯にわたって運動・スポーツに親しむことのできる人材の育成を目指す。

キーワード: ニュースポーツ フライングディスク インディアカ ソフトバレーボール

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標: 実技を行う上でのルールやスポーツマンシップの理解、それぞれの種目での道具の正しい扱い方の理解ができ、実践できる。

評価方法: 観察、毎授業後のコメントペーパー

評価割合: 40%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標: 「知識・技能」とあわせて評価する

評価方法: 「知識・技能」とあわせて評価する

評価割合: 「知識・技能」とあわせて評価する

▼ 学修に主体的に取り組む態度

実技であることを踏まえ、積極的な授業参加が認められない場合には減点の対象とする。

評価割合: 30%

▼ 実践的ボランティア

直接的な評価対象としない。ただしボランティア活動等の実践により深められた知見等がレポートの記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合: 0%

▼ 公正性

スポーツマンシップやフェアプレーの精神に反する行為があった場合は、減点の対象とする。

評価割合: 30%

▼ その他

特になし

評価割合: 特になし

授業計画:

1. 授業概要の説明
2. コミュニケーションゲーム アイスクレーキングゲーム
3. フライングディスク(1)
4. フライングディスク(2)
5. フライングディスク(3)

6. フライングディスク(4)
7. インディアカ(1)
8. インディアカ(2)
9. インディアカ(3)
10. インディアカ(4)
11. ソフトバレーボール(1)
12. ソフトバレーボール(2)
13. ソフトバレーボール(3)
14. ソフトバレーボール(4)
15. 授業の振り返り

使用テキスト: 適宜資料を配布します

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: ・配布資料をもとに、授業で扱うスポーツのルールやエクササイズの方法について理解を深めてください。

・実技に積極的に参加できるように、日頃から体調を整えるようにしてください。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください

授業時間外の連絡手段: メールで連絡 (sakuma_aya@icc.ac.jp; ○を@に変えて送信してください) をするか、学務部に連絡してください。

留意事項: 運動に適した服装を準備すること
水分・タオルを各自準備すること

科目コード: 10109 **科目ナンバリング:** **主な使用言語:** 日本語

授業名(英文): 体育実技B ニュースポーツb (Physical Education B New sports b)

担当者: 向後 和典

基本情報

年次: 1

単位数: 1

授業形式: 実技

曜時: 金曜4限

履修可能学科・専攻: E Pe Pc C W F N M

関連資格: 教職 保育

AL要素: 03. 実験・実技・体験

授業の概要: 様々な運動・スポーツの継続的な実践を通して種目固有のスキルの習得や戦術の理解, 体力の維持・増進, コミュニケーションスキルの向上を図り, 生涯にわたって運動・スポーツに親しむことのできる人材の育成を目指します。

キーワード: スポーツ, ニュースポーツ, スポーツ技術・戦術, コミュニケーション, コミュニケーションスキル, 健康(主観的健康), Challenge by Choice, スポーツマンシップ・フェアプレイの精神

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標: スポーツ技術・戦術の上達過程を理解している。
ルールやマナーなどの知識を身につけている。
健康・体力づくりのための理論や手法について理解している。
他者とのコミュニケーションをとる方法を理解し、運動の中で実践できる。

評価方法: 授業レポート(学習シート)

評価割合: 40%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標: 「知識・技能」とあわせて評価する

評価方法: 「知識・技能」とあわせて評価する

評価割合: 「知識・技能」とあわせて評価する

▼ 学修に主体的に取り組む態度

実技であることを踏まえ、積極的な授業参加が認められない場合には減点の対象とする。

評価割合：30%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象としない。ただしボランティア活動等の実践により深められた知見等がレポートの記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合：0%

▼公正性

スポーツマンシップやフェアプレーの精神に反する行為があった場合は、減点の対象とする。

評価割合：30%

▼その他

特になし

評価割合：特になし

- 授業計画：
1. 授業概要の説明
 2. インディアカ・ソフトバレーボール(1)
 3. インディアカ・ソフトバレーボール(2)
 4. インディアカ・ソフトバレーボール(3)
 5. インディアカ・ソフトバレーボール(4)
 6. インディアカ・ソフトバレーボール(5)
 7. インディアカ・ソフトバレーボール(6)
 8. アルティメット・フロアボール(1)
 9. アルティメット・フロアボール(2)
 10. アルティメット・フロアボール(3)
 11. アルティメット・フロアボール(4)
 12. アルティメット・フロアボール(5)
 13. アルティメット・フロアボール(6)
 14. 選択種目(1)
 15. 選択種目(2)

ニュースポーツを題材に、各種目の基礎的スキル・戦術の理解を深めるとともに、より運動を楽しむためのルール変更、スキル・戦術向上に向けての工夫を実践します。
また上記スポーツ種目の実践を通じ、自身の体力水準を把握し、生涯スポーツに向けて自身に適したスポーツ実践の在り方の工夫を実践します。

使用テキスト： 適宜資料を配布します

予習・復習のポイントと 予習・復習のポイント(各回30分程度)

参考文献・資料等： 授業前(予習)

配布資料を参考に、その回のテーマの分からない用語を調べておきましょう。

見たこと、実践したことのない(少ない)エクササイズ・スポーツ種目については事前に動画サイトなどを利用してプレー動画を視聴しておくことで種目のイメージが湧きやすくなるかと思えます。

授業後(復習)

学習シートに沿って授業のふりかえりを行ないましょう。さらに関連事項について自主学修を通じ知見を深めてください。

障がいのある 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください
履修者への対応：

授業時間外の連絡手段： 学務部に連絡してください。

留意事項： 実技授業のため体調を整えてきてください。

運動、スポーツを行うことのできる状態で授業に臨んでください。(体調、服装、体育館シューズ、爪、装飾品など)

科目コード：10109

科目ナンバリング：

主な使用言語：日本語

授業名(英文)：体育実技B ネット型チームスポーツa(Physical Education B Net type team sports)

担当者：佐久間 彩

基本情報

年次：1

単位数：1

授業形式：実技

曜時：火曜3限

履修可能学科・専攻：E Pe Pc C W F N M

関連資格：教職 保育

AL要素：03. 実験・実技・体験

授業の概要： 様々な運動・スポーツの継続的な実践を通して種目固有のスキルの習得や戦術の理解，体力の維持・増進，コミュニケーションスキルの向上を図り，生涯にわたって運動・スポーツに親しむことのできる人材の育成を目指す。

キーワード： ネット型チームスポーツ インディアカ ソフトバレーボール バレーボール

学位授与方針との関係

▼知識・技能

- 到達目標：**
1. 各種目のルールや戦術を理解し，技術を向上させることができる。
 2. 様々な運動・スポーツに積極的に取り組み，それらの持つ価値を理解できる。
 3. チームの仲間と積極的にコミュニケーションを取ることができる。

評価方法： コメントペーパー，実技テスト，期末レポート **評価割合：** 40%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 「知識・技能」とあわせて評価する

評価方法： 「知識・技能」とあわせて評価する

評価割合： 「知識・技能」とあわせて評価する

▼学修に主体的に取り組む態度

実技であることを踏まえ、積極的な授業参加が認められない場合には減点の対象とする。

評価割合： 30%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象としない。ただしボランティア活動等の実践により深められた知見等がレポートの記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合： 0%

▼公正性

スポーツマンシップやフェアプレーの精神に反する行為があった場合は、減点の対象とする。

評価割合： 30%

▼その他

特になし

評価割合： 特になし

- 授業計画：**
1. 授業概要の説明
 2. コミュニケーションゲーム アイスプレーキングゲーム
 3. インディアカ(1)
 4. インディアカ(2)
 5. インディアカ(3)
 6. インディアカ(4)
 7. ソフトバレーボール(1)
 8. ソフトバレーボール(2)
 9. ソフトバレーボール(3)
 10. ソフトバレーボール(4)
 11. バレーボール(1)
 12. バレーボール(2)
 13. バレーボール(3)

- 14. バレーボール(4)
- 15. 授業の振り返り

使用テキスト： 適宜資料を配布します

予習・復習のポイントと参考文献・資料等：
・配布資料をもとに、授業で扱うスポーツのルールやエクササイズの方法について理解を深めてください。
・実技に積極的に参加できるように、日頃から体調を整えるようにしてください。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください

授業時間外の連絡手段： 学務部に連絡してください

留意事項： 運動に適した服装を準備すること

科目コード：10109 科目ナンバリング： 主な使用言語：日本語
授業名(英文)：体育実技B ネット型チームスポーツb(Physical Education B Net type team sports)
担当者：佐久間 彩

基本情報

年次：1 単位数：1 授業形式：実技
曜時：火曜4限 履修可能学科・専攻：E Pe Pc C W F N M
関連資格：教職 保育 AL要素：03. 実験・実技・体験

授業の概要： 様々な運動・スポーツの継続的な実践を通して種目固有のスキルの習得や戦術の理解，体力の維持・増進，コミュニケーションスキルの向上を図り，生涯にわたって運動・スポーツに親しむことのできる人材の育成を目指す。

キーワード： ネット型チームスポーツ インディアカ ソフトバレーボール バレーボール

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 1. 各種目のルールや戦術を理解し，技術を向上させることができる。
2. 様々な運動・スポーツに積極的に取り組み，それらの持つ価値を理解できる。
3. チームの仲間と積極的にコミュニケーションを取ることができる。

評価方法： コメントペーパー，実技テスト，期末レポート 評価割合：40%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 「知識・技能」とあわせて評価する

評価方法： 「知識・技能」とあわせて評価する 評価割合：「知識・技能」とあわせて評価する

▼学修に主体的に取り組む態度

実技であることを踏まえ、積極的な授業参加が認められない場合には減点の対象とする。

評価割合：30%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象としない。ただしボランティア活動等の実践により深められた知見等がレポートの記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合：0%

▼公正性

スポーツマンシップやフェアプレーの精神に反する行為があった場合は、減点の対象とする。

評価割合：30%

▼その他

特になし

評価割合：特になし

- 授業計画：
1. 授業概要の説明
 2. コミュニケーションゲーム アイスブレイキングゲーム
 3. インディアカ(1)
 4. インディアカ(2)
 5. インディアカ(3)
 6. インディアカ(4)
 7. ソフトバレーボール(1)
 8. ソフトバレーボール(2)
 9. ソフトバレーボール(3)
 10. ソフトバレーボール(4)
 11. バレーボール(1)
 12. バレーボール(2)
 13. バレーボール(3)
 14. バレーボール(4)
 15. 授業の振り返り

使用テキスト： 適宜資料を配布します

予習・復習のポイントと参考文献・資料等：
・配布資料をもとに、授業で扱うスポーツのルールやエクササイズの方法について理解を深めてください。
・実技に積極的に参加できるように、日頃から体調を整えるようにしてください。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください

授業時間外の連絡手段： 学務部に連絡してください

留意事項： 運動に適した服装を準備すること

科目コード：10109 科目ナンバリング： 主な使用言語：日本語

授業名(英文)： 体育実技B テニスa(Physical Education B Tennis a)

担当者： 高橋 遼

基本情報

年次：1

単位数：1

授業形式：実技

曜時：水曜2限

履修可能学科・専攻： E Pe Pc C W F N M

関連資格：教職 保育

AL要素：03.実験・実技・体験

授業の概要： 様々な運動・スポーツの継続的な実践を通して種目固有のスキルの習得や戦術の理解,体力の維持・増進,コミュニケーションスキルの向上を図り,生涯にわたって運動・スポーツに親しむことのできる人材の育成を目指す。

テニスの基礎技術を習得し, 基本的な知識・戦術を理解することを目指します。また, 生涯スポーツとして楽しんでプレーできるよう, ルールの理解やマナー等を身につけていきます。

キーワード： テニス、スポーツ、生涯スポーツ、ルール、マナー

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標： ・テニスの用語の理解

- ・テニスに必要とされる基本技術・動作を身につけることができる。
- ・ゲームの進め方、テニス上のマナーを身につけることができる。

評価方法： ・技能確認テスト

評価割合：40%

・期末レポート

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 「知識・技能」とあわせて評価する。

評価方法: 「知識・技能」とあわせて評価する

評価割合: 「知識・技能」とあわせて評価する

▼学修に主体的に取り組む態度

実技であることを踏まえ、積極的な授業参加が認められない場合には減点の対象とする。

評価割合: 30%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象としない。ただしボランティア活動等の実践により深められた知見等がレポートの記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合: 0%

▼公正性

スポーツマンシップやフェアプレーの精神に反する行為があった場合は、減点の対象とする。

評価割合: 30%

▼その他

特になし

評価割合: 特になし

- 授業計画: 【第1回】オリエンテーション
【第2回】準備運動, 整理運動の方法, グラウンドストローク, サービス
【第3回】ボレー
【第4回】ボレー&ボレー, ボレー対ストローク
【第5回】スマッシュ, ロビング
【第6回】試合の進め方1(シングルス)
【第7回】試合の進め方2(ダブルス)
【第8回】試合の進め方3(ダブルス・タイブレーク)
【第9回】ダブルスのフォーメーション(雁行陣・平行陣)
【第10回】ダブルス練習1
【第11回】ダブルス練習2
【第12回】技能確認テスト1(サービス), ゲーム
【第13回】技能確認テスト2(ストローク), ゲーム
【第14回】技能確認テスト3(ネットプレー), ゲーム
【第15回】チャンピオンゲーム

使用テキスト: なし

予習・復習のポイントと なし

参考文献・資料等:

障がいのある 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください。
履修者への対応:

授業時間外の連絡手段: 「学務部に連絡してください」

- 留意事項: 1. スポーツ用シューズ(テニス用シューズが望ましい)およびジャージ(ポケットがあるもの)を準備すること
2. 雨天時は屋内で活動するため、屋内用シューズも準備すること
3. 運動着以外の服装, カジュアルシューズ, スニーカーでの受講は認めない

科目コード: 10109

科目ナンバリング:

主な使用言語: 日本語

授業名(英文): 体育実技B テニスb(Physical Education B Tennis b)

担当者: 高橋 遼

基本情報

年次: 1

単位数: 1

授業形式: 実技

曜時：水曜3限

履修可能学科・専攻： E Pe Pc C W F N M

関連資格：教職 保育

AL要素：03.実験・実技・体験

授業の概要： 様々な運動・スポーツの継続的な実践を通して種目固有のスキルの習得や戦術の理解、体力の維持・増進、コミュニケーションスキルの向上を図り、生涯にわたって運動・スポーツに親しむことのできる人材の育成を目指す。

テニスの基礎技術を習得し、基本的な知識・戦術を理解することを目指します。また、生涯スポーツとして楽しんでプレーできるよう、ルールの理解やマナー等を身につけていきます。

キーワード： テニス、スポーツ、生涯スポーツ、ルール、マナー

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標： ・テニスの用語の理解

・テニスに必要とされる基本技術・動作を身につけることができる。

・ゲームの進め方、テニス上のマナーを身につけることができる。

評価方法： ・技能確認テスト

評価割合： 40%

・期末レポート

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標： 「知識・技能」とあわせて評価する。

評価方法： 「知識・技能」とあわせて評価する

評価割合： 「知識・技能」とあわせて評価する

▼ 学修に主体的に取り組む態度

実技であることを踏まえ、積極的な授業参加が認められない場合には減点の対象とする。

評価割合： 30%

▼ 実践的ボランティア

直接的な評価対象としない。ただしボランティア活動等の実践により深められた知見等がレポートの記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合： 0%

▼ 公正性

スポーツマンシップやフェアプレーの精神に反する行為があった場合は、減点の対象とする。

評価割合： 30%

▼ その他

特になし

評価割合： 特になし

授業計画：

- 【第1回】オリエンテーション
- 【第2回】準備運動、整理運動の方法、グラウンドストローク、サービス
- 【第3回】ボレー
- 【第4回】ボレー&ボレー、ボレー対ストローク
- 【第5回】スマッシュ、ロビング
- 【第6回】試合の進め方1(シングルス)
- 【第7回】試合の進め方2(ダブルス)
- 【第8回】試合の進め方3(ダブルス・タイブレーク)
- 【第9回】ダブルスのフォーメーション(雁行陣・平行陣)
- 【第10回】ダブルス練習1
- 【第11回】ダブルス練習2
- 【第12回】技能確認テスト1(サービス)、ゲーム
- 【第13回】技能確認テスト2(ストローク)、ゲーム
- 【第14回】技能確認テスト3(ネットプレー)、ゲーム
- 【第15回】チャンピオンゲーム

使用テキスト： なし

予習・復習のポイントと なし

参考文献・資料等：

障がいのある 履修者への対応： 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください。

授業時間外の連絡手段： 「学務部に連絡してください」

留意事項： 1. スポーツ用シューズ(テニス用シューズが望ましい)およびジャージ(ポケットがあるもの)を準備すること
2. 雨天時は屋内で活動するため、屋内用シューズも準備すること
3. 運動着以外の服装, カジュアルシューズ, スニーカーでの受講は認めない

科目コード：10109 科目ナンバリング： 主な使用言語：日本語

授業名(英文)： 体育実技B ボールゲームa(Physical Education B ball game a)

担当者： 福地 修也

基本情報

年次：1

単位数：1

授業形式：実技

曜時：月曜4限

履修可能学科・専攻： E Pe Pc C W F N M

関連資格：教職 保育

AL要素：03. 実験・実技・体験

授業の概要： 様々な運動・スポーツの継続的な実践を通して種目固有のスキルの習得や戦術の理解、体力の維持・増進, コミュニケーションスキルの向上を図り、生涯にわたって運動・スポーツに親しむことのできる人材の育成を目指す。

キーワード： スポーツルール、スポーツマンシップ、ボールスポーツ

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： スポーツ技術・戦術の上達過程を理解している。
ルールやマナーなどの知識を身につけている。
健康・体力づくりのための理論や手法について理解している。
他者とのコミュニケーションをとる方法を理解し、運動の中で実践できる。

評価方法： 授業レポートおよび期末レポート

評価割合：40%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 「知識・技能」とあわせて評価する。

評価方法： 「知識・技能」とあわせて評価する

評価割合：「知識・技能」とあわせて評価する

▼学修に主体的に取り組む態度

実技であることを踏まえ、積極的な授業参加が認められない場合には減点の対象とする。

評価割合：30%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象としない。ただしボランティア活動等の実践により深められた知見等がレポートの記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合：0%

▼公正性

スポーツマンシップやフェアプレーの精神に反する行為があった場合は、減点の対象とする。

評価割合：30%

▼その他

特になし。

評価割合：特になし。

- 授業計画：
1. 授業概要の説明
 2. バドミントン(1)
 3. バドミントン(2)
 4. バドミントン(3)
 5. バドミントン(4)
 6. バドミントン(5)
 7. バスケットボール(1)
 8. バスケットボール(2)
 9. バスケットボール(3)
 10. バスケットボール(4)
 11. バスケットボール(5)
 12. フットサル(1)
 13. フットサル(2)
 14. フットサル(3)
 15. フットサル(4)

使用テキスト： 適宜資料を配布します。

予習・復習のポイントと 各授業内で予習・復習のポイントを伝える。
参考文献・資料等：

障がいのある 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください。
履修者への対応：

授業時間外の連絡手段： 学務部に連絡してください。

留意事項： 運動に適した服装および屋内用の運動靴を準備すること。安全面に配慮すること。

科目コード：10109 科目ナンバリング： 主な使用言語：日本語

授業名(英文)： 体育実技B ボールゲームb(Physical Education B ball game b)

担当者： 福地 修也

基本情報

年次：1

単位数：1

授業形式：実技

曜時：月曜5限

履修可能学科・専攻： E Pe Pc C W F N M

関連資格：教職 保育

AL要素：03. 実験・実技・体験

授業の概要： 様々な運動・スポーツの継続的な実践を通して種目固有のスキルの習得や戦術の理解、体力の維持・増進、コミュニケーションスキルの向上を図り、生涯にわたって運動・スポーツに親しむことのできる人材の育成を目指す。

キーワード： スポーツルール、スポーツマンシップ、ボールスポーツ

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標： スポーツ技術・戦術の上達過程を理解している。
ルールやマナーなどの知識を身につけている。
健康・体力づくりのための理論や手法について理解している。
他者とのコミュニケーションをとる方法を理解し、運動の中で実践できる。

評価方法： 授業レポートおよび期末レポート

評価割合：40%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標： 「知識・技能」とあわせて評価する。

評価方法： 「知識・技能」とあわせて評価する

評価割合：「知識・技能」とあわせて評価する

▼学修に主体的に取り組む態度

実技であることを踏まえ、積極的な授業参加が認められない場合には減点の対象とする。

評価割合：30%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象としない。ただしボランティア活動等の実践により深められた知見等がレポートの記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合：0%

▼公正性

スポーツマンシップやフェアプレーの精神に反する行為があった場合は、減点の対象とする。

評価割合：30%

▼その他

特になし。

評価割合：特になし。

- 授業計画：
1. 授業概要の説明
 2. バドミントン(1)
 3. バドミントン(2)
 4. バドミントン(3)
 5. バドミントン(4)
 6. バドミントン(5)
 7. バスケットボール(1)
 8. バスケットボール(2)
 9. バスケットボール(3)
 10. バスケットボール(4)
 11. バスケットボール(5)
 12. フットサル(1)
 13. フットサル(2)
 14. フットサル(3)
 15. フットサル(4)

使用テキスト： 適宜資料を配布します。

予習・復習のポイントと 各授業内で予習・復習のポイントを伝える。

参考文献・資料等：

障がいのある 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください。

履修者への対応：

授業時間外の連絡手段： 学務部に連絡してください。

留意事項： 運動に適した服装および屋内用の運動靴を準備すること。安全面に配慮すること。

科目コード：10109

科目ナンバリング：

主な使用言語：日本語

授業名(英文)：体育実技B ボールゲームc(Physical Education B ball game c)

担当者：北條 幸

基本情報

年次：1

単位数：1

授業形式：実技

曜時：金曜3限

履修可能学科・専攻：E Pe Pc C W F N M

関連資格：教職 保育

AL要素：03. 実験・実技・体験

授業の概要： 様々な運動・スポーツの継続的な実践を通して種目固有のスキルの習得や戦術の理解，体力の維持・増進，コミュニケーションスキルの向上を図り，生涯にわたって運動・スポーツに親しむことのできる人材の育成を目指す。また、班内での役割分担や情報共有のしかたなど、自分で考えて行動するための実践活動を行う。

キーワード: バasketボール,バレーボール,フライングディスク

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標: 各スポーツ種目の基本的なルールと試合のやり方について学び、班としての技術の向上のために各自の役割に責任を持った活動を行う

評価方法: 授業毎の振り返りシート

評価割合: 40%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 「知識・技能」とあわせて評価する

評価方法: 「知識・技能」とあわせて評価する

評価割合: 「知識・技能」とあわせて評価する

▼学修に主体的に取り組む態度

実技であることを踏まえ、積極的な授業参加が認められない場合には減点の対象とする。

評価割合: 30%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象としない。ただしボランティア活動等の実践により深められた知見等がレポートの記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合: 0%

▼公正性

スポーツマンシップやフェアプレーの精神に反する行為があった場合は、減点の対象とする。

評価割合: 30%

▼その他

特になし

評価割合: 特になし

- 授業計画:**
1. 授業概要の説明
 2. 体力測定,班分け
 3. バasketボール①
 4. バasketボール②
 5. バasketボール③
 6. レクリエーションスポーツ
 7. バレーボール①
 8. バレーボール②
 9. バレーボール③
 10. レクリエーションスポーツ
 11. フライングディスク①
 12. フライングディスク②
 13. フライングディスク③
 14. レクリエーションスポーツ
 15. 体力測定,まとめ

使用テキスト: 適宜資料を配布します

予習・復習のポイントと 「早寝早起き朝ごはん」

参考文献・資料等: 各スポーツ種目の基本的なルールを班内で共通認識できるように準備してください。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください

授業時間外の連絡手段: 学務部に連絡してください。

留意事項: 運動に適した服装を準備すること

科目コード:10109

科目ナンバリング:

主な使用言語:日本語

授業名(英文): 体育実技B ボールゲームd(Physical Education B ball game d)

担当者: 北條 幸

基本情報

年次:1

単位数:1

授業形式:実技

曜時:金曜4限

履修可能学科・専攻: E Pe Pc C W F N M

関連資格:教職 保育

AL要素: 03. 実験・実技・体験

授業の概要: 様々な運動・スポーツの継続的な実践を通して種目固有のスキルの習得や戦術の理解, 体力の維持・増進, コミュニケーションスキルの向上を図り, 生涯にわたって運動・スポーツに親しむことのできる人材の育成を目指す。また、班内での役割分担や情報共有のしかたなど、自分で考えて行動するための実践活動を行う。

キーワード: バスケットボール,バレーボール,フライングディスク

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標: 各スポーツ種目の基本的なルールと試合のやり方について学び、班としての技術の向上のために各自の役割に責任を持った活動を行う

評価方法: 授業毎の振り返りシート

評価割合: 40%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 「知識・技能」とあわせて評価する

評価方法: 「知識・技能」とあわせて評価する

評価割合: 「知識・技能」とあわせて評価する

▼学修に主体的に取り組む態度

実技であることを踏まえ、積極的な授業参加が認められない場合には減点の対象とする。

評価割合: 30%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象としない。ただしボランティア活動等の実践により深められた知見等がレポートの記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合: 0%

▼公正性

スポーツマンシップやフェアプレーの精神に反する行為があった場合は、減点の対象とする。

評価割合: 30%

▼その他

特になし

評価割合: 特になし

授業計画:

1. 授業概要の説明
2. 体力測定,班分け
3. バスケットボール①
4. バスケットボール②
5. バスケットボール③
6. レクリエーションスポーツ
7. バレーボール①
8. バレーボール②
9. バレーボール③
10. レクリエーションスポーツ

11. フライングディスク①
12. フライングディスク②
13. フライングディスク③
14. レクリエーションスポーツ
15. 体力測定,まとめ

使用テキスト: 適宜資料を配布します

予習・復習のポイントと 「早寝早起き朝ごはん」

参考文献・資料等: 各スポーツ種目の基本的なルールを班内で共通認識できるように準備してください。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください

授業時間外の連絡手段: 学務部に連絡してください。

留意事項: 運動に適した服装を準備すること

科目コード: 10109

科目ナンバリング:

主な使用言語: 日本語

授業名(英文): 体育実技B ネット型個人スポーツb(Physical Education B individual sports b)

担当者: 向後 和典

基本情報

年次: 1

単位数: 1

授業形式: 実技

曜時: 金曜2限

履修可能学科・専攻: E Pe Pc C W F N M

関連資格: 教職 保育

AL要素: 03. 実験・実技・体験

授業の概要: 様々な運動・スポーツの継続的な実践を通して種目固有のスキルの習得や戦術の理解, 体力の維持・増進, コミュニケーションスキルの向上を図り, 生涯にわたって運動・スポーツに親しむことのできる人材の育成を目指します。

キーワード: スポーツ, ネット型スポーツ, スポーツ技術・戦術, コミュニケーション, コミュニケーションスキル, 健康(主観的健康), Challenge by Choice, スポーツマンシップ・フェアプレイの精神

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標: スポーツ技術・戦術の上達過程を理解している。
 ルールやマナーなどの知識を身につけている。
 健康・体力づくりのための理論や手法について理解している。
 他者とのコミュニケーションをとる方法を理解し、運動の中で実践できる。

評価方法: 授業レポート(学習シート)

評価割合: 40%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標: 「知識・技能」とあわせて評価する

評価方法: 「知識・技能」とあわせて評価する

評価割合: 「知識・技能」とあわせて評価する

▼ 学修に主体的に取り組む態度

実技であることを踏まえ、積極的な授業参加が認められない場合には減点の対象とする。

評価割合: 30%

▼ 実践的ボランティア

直接的な評価対象としない。ただしボランティア活動等の実践により深められた知見等がレポートの記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合: 0%

▼ 公正性

スポーツマンシップやフェアプレーの精神に反する行為があった場合は、減点の対象とする。

評価割合：30%

▼その他

特になし

評価割合：特になし

- 授業計画：
1. 授業概要の説明
 2. バドミントン(1)
 3. バドミントン(2)
 4. バドミントン(3)
 5. バドミントン(4)
 6. バドミントン(5)
 7. バドミントン(6)
 8. テニス・パンポン(1)
 9. テニス・パンポン(2)
 10. テニス・パンポン(3)
 11. テニス・パンポン(4)
 12. テニス・パンポン(5)
 13. テニス・パンポン(6)
 14. 選択種目(1)
 15. 選択種目(2)

ネット型個人スポーツを題材に、各種目の基礎的スキル・戦術の理解を深めるとともに、より運動を楽しむためのルール変更、スキル・戦術向上に向けての工夫を実践します。また上記スポーツ種目の実践を通じ、自身の体力水準を把握し、生涯スポーツに向けて自身に適したスポーツ実践の在り方の工夫を実践します。

使用テキスト： 適宜資料を配布します

予習・復習のポイントと 予習・復習のポイント(各回30分程度)

参考文献・資料等： 授業前(予習)

配布資料を参考に、その回のテーマの分からない用語を調べておきましょう。

見たこと、実践したことのない(少ない)エクササイズ・スポーツ種目については事前に動画サイトなどを利用してプレー動画を視聴しておくことで種目のイメージが湧きやすくなるかと思えます。

授業後(復習)

学習シートに沿って授業のふりかえりを行ないましょう。さらに関連事項について自主学修を通じ知見を深めてください。

障がいのある 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください
履修者への対応：

授業時間外の連絡手段： 学務部に連絡してください。

留意事項： 実技授業のため体調を整えてきてください。

運動、スポーツを行うことのできる状態で授業に臨んでください。(体調、服装、体育館シューズ、爪、装飾品など)

科目コード：10109

科目ナンバリング：

主な使用言語：日本語

授業名(英文)：体育実技B ネット型個人スポーツc(Physical Education B individual sports c)

担当者： 向後 和典

基本情報

年次：1

単位数：1

授業形式：実技

曜時：金曜3限

履修可能学科・専攻： E Pe Pc C W F N M

関連資格：教職 保育

AL要素：03. 実験・実技・体験

授業の概要: 様々な運動・スポーツの継続的な実践を通して種目固有のスキルの習得や戦術の理解, 体力の維持・増進, コミュニケーションスキルの向上を図り, 生涯にわたって運動・スポーツに親しむことのできる人材の育成を目指します。

キーワード: スポーツ, ネット型スポーツ, スポーツ技術・戦術, コミュニケーション, コミュニケーションスキル, 健康(主観的健康), Challenge by Choice, スポーツマンシップ・フェアプレイの精神

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標: スポーツ技術・戦術の上達過程を理解している。
ルールやマナーなどの知識を身につけている。
健康・体力づくりのための理論や手法について理解している。
他者とのコミュニケーションをとる方法を理解し、運動の中で実践できる。

評価方法: 授業レポート(学習シート) **評価割合:** 40%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標: 「知識・技能」とあわせて評価する

評価方法: 「知識・技能」とあわせて評価する **評価割合:** 「知識・技能」とあわせて評価する

▼ 学修に主体的に取り組む態度

実技であることを踏まえ、積極的な授業参加が認められない場合には減点の対象とする。

評価割合: 30%

▼ 実践的ボランティア

直接的な評価対象としない。ただしボランティア活動等の実践により深められた知見等がレポートの記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合: 0%

▼ 公正性

スポーツマンシップやフェアプレーの精神に反する行為があった場合は、減点の対象とする。

評価割合: 30%

▼ その他

特になし

評価割合: 特になし

授業計画:

1. 授業概要の説明
2. バドミントン(1)
3. バドミントン(2)
4. バドミントン(3)
5. バドミントン(4)
6. バドミントン(5)
7. バドミントン(6)
8. テニス・パンポン(1)
9. テニス・パンポン(2)
10. テニス・パンポン(3)
11. テニス・パンポン(4)
12. テニス・パンポン(5)
13. テニス・パンポン(6)
14. 選択種目(1)
15. 選択種目(2)

ネット型個人スポーツを題材に、各種目の基礎的スキル・戦術の理解を深めるとともに、より運動を楽しむためのルール変更、スキル・戦術向上に向けての工夫を実践します。
また上記スポーツ種目の実践を通じ、自身の体力水準を把握し、生涯スポーツに向けて自

身に適したスポーツ実践の在り方の工夫を実践します。

使用テキスト: 適宜資料を配布します

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 予習・復習のポイント(各回30分程度)
授業前(予習)
配布資料を参考に、その回のテーマの分からない用語を調べておきましょう。
見たこと、実践したことのない(少ない)エクササイズ・スポーツ種目については事前に動画サイトなどを利用してプレー動画を視聴しておくことで種目のイメージが湧きやすくなるかと思いません。
授業後(復習)
学習シートに沿って授業のふりかえりを行ないましょう。さらに関連事項について自主学修を通じ知見を深めてください。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください

授業時間外の連絡手段: 学務部に連絡してください。

留意事項: 実技授業のため体調を整えてきてください。
運動、スポーツを行うことのできる状態で授業に臨んでください。(体調、服装、体育館シューズ、爪、装飾品など)

科目コード: 10109 **科目ナンバリング:** **主な使用言語:** 日本語

授業名(英文): 体育実技B スノースポーツ(Physical Education B Snow sports)

担当者: 高橋 和将、向後 和典、田井 健太郎

基本情報

年次: 1

単位数: 1

授業形式: 実技

曜時: 集中講義

履修可能学科・専攻: E Pe Pc C W F N M

関連資格: 教職 保育

AL要素: 03 実験・実技・体験
16 振り返り用紙と応答

授業の概要: スノースポーツを楽しみ、かつ技能の向上を目的とした、集中授業です。
冬の自然の美しさ・厳しさを感じることも重要視しています。
また、宿泊を伴うので、集団生活を通して社会的規範を身に付けることも重要です。
この授業を通して、生涯にわたってスポーツに取り組む素地が作られることを期待しています。

キーワード: スノースポーツ, 生涯スポーツ, 自然環境

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

- 到達目標:**
1. 基本的な技術の習得過程を理解している
 2. スノースポーツの特徴を理解し、楽しむことができる
 3. スノースポーツを行う上でのルール・マナーを理解している

評価方法: 講習記録
レポート

評価割合: 40%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標: 「知識・技能」とあわせて評価する

評価方法: 「知識・技能」とあわせて評価する

評価割合: 「知識・技能」とあわせて評価する

▼ 学修に主体的に取り組む態度

実技であることを踏まえ、積極的な授業参加が認められない場合には減点の対象とする。

評価割合：30%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象としない。ただしボランティア活動等の実践により深められた知見等がレポートの記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合：0%

▼公正性

授業中の発言やレポートの記述等において、著しく公平性を欠く言動や不正行為があった場合、また、スキー場における行動規則や実習におけるルールやマナーを逸脱する行為があった場合は、減点や厳重注意の対象とする。

評価割合：30%

▼その他

特になし

評価割合：特になし

授業計画： 実習ガイダンス(12月中旬予定)
実習参加にあたっての心構え、用具の点検・準備

- 実習(2月中旬～下旬;3泊4日)
1. 1日目(1)技能レベル別班編成
 2. 1日目(2)基本姿勢・滑走原理の確認
 3. 1日目(3)1日目の振り返りと今後の目標設定
 4. 2日目(1)滑走技術の確認
 5. 2日目(2)スキップディングとカービング
 6. 2日目(3)ロングターン
 7. 2日目(4)ショートターン
 8. 2日目(5)2日目の振り返りと今後の目標設定
 9. 3日目(1)選択プログラム(1)スキー・斜面に応じた滑り
 10. 3日目(2)選択プログラム(2)スノーボード
 11. 3日目(3)選択プログラム(3)スノーシューハイク
 12. 3日目(4)選択プログラムのまとめ
 13. 3日目(5)3日目の振り返りと今後の目標設定
 14. 4日目(1)総合滑走
 15. 4日目(2)実習のまとめ

使用テキスト：「実習のしおり」を配布します

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 実習までの健康管理に十分留意し、万全の体調で実習に参加してください。

事前に用具を点検し、必要に応じてメンテナンスをしておいてください。
冬山の自然環境について、インターネットなどで情報を入手し、快適な実習とするために服装などの準備をしてください。

【参考資料】

SIAスキー&スノーボード公式メソッド、日本職業スキー教師協会
日本スキー教程、公益財団法人全日本スキー連盟
日本スキー教程 安全編、公益財団法人全日本スキー連盟

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください

授業時間外の連絡手段： 対面: オフィスアワーに対応します(高橋)。時間・場所はガイダンス時に連絡します。
オンライン: Teams上、またはメールにてお問い合わせに応じます。

留意事項： 実習費用として、宿泊費・交通費・リフト代・レンタル代(希望者のみ)が別途必要です。

集金方法については、ガイダンス時に連絡します。

科目コード：10110 科目ナンバリング：LA10A04K 主な使用言語：日本語、英語

授業名(英文)：人文科学の考え方 a(Introduction to Human Sciences a)

担当者：神山 和好、Le Pavoux, Mari、柳橋 晃

基本情報

年次：1

単位数：2

授業形式：講義

曜時：水曜3限

履修可能学科・専攻：E Pe Pc C W F N M

関連資格：

AL要素：講義・討論

授業の概要：

人文科学の各領域を探求し、その思考のスタイルに頭をなじませます。

【現代思想】(神山)

現代思想に関わるトピックを5つ選んで講義します。

【言語学】(レパヴー)

言語学のいくつかの下位分野で扱われているテーマの中でも、私たちの日常の中にも具体例が多数存在し、各自の問題として考察しやすいような研究をピックアップし、その入り口部分を紹介します。

【哲学】(柳橋)

哲学は、私たちの身の周りにある「当たり前」な事柄を、根本から、多角的に考え直す学問です。哲学的に考えることがどういうことか、理論的かつ実践的に学びます。

キーワード：

言語 思想 心理 歴史 宗教 哲学 教養 自然 旅 市民 正義 尊厳

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標：授業で学んだことが80%理解できること。

評価方法：各担当者の定期試験(筆記試験)の得点を合計し、最終評価とする。

評価割合：100%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標：特になし。

評価方法：上記に準じます。

評価割合：0%

▼学修に主体的に取り組む態度

特になし。

評価割合：0%

▼実践的ボランティア

特になし。

評価割合：0%

▼公正性

特になし。

評価割合：0%

▼その他

特になし。

評価割合：特になし。

授業計画：

- 01 わかりやすいエッセイをどのように書くかー論理的思考入門(神山)
- 02 君はピンク色のレンズのメガネをかけていないか(神山)
- 03 われわれは「現代」という神話世界に投げ込まれている(神山)
- 04 君は「マトリックス」を見たかー映画の中の東西思想(神山)
- 05 君たちはなぜ学ぶのか(神山)

注意 授業効果を考え、講義順序、トピックを一部変更ことがあります。変更の場合、授業ガイダンスを通して事前にお知らせします。(01-05 神山)

- 06 言語と認知の関係ー言語は思考や認知に影響を及ぼすか (レパヴァー)
- 07 ことばの響きと意味(レパヴァー)
- 08 生まれることばと消えることば(レパヴァー)
- 09 会話と配慮1(レパヴァー)
- 10 会話と配慮2(レパヴァー)

- 11 哲学のはじまり(柳橋)
- 12 自然について(柳橋)
- 13 教養について(柳橋)
- 14 哲学と旅(柳橋)
- 15 市民になるという実践(柳橋)

使用テキスト：

プリントを準備します。参考図書などは授業中に指示します。

予習・復習のポイントと 授業中に指示します。

参考文献・資料等：

障がいのある 履修者への対応： まずは教務部窓口にご相談しましょう。

授業時間外の連絡手段：

オフィスアワー、メール

留意事項：

資料を読む、疑問点を調べるなど、予習復習を怠らないようにしましょう。
パワーポイントを使った講義です。講義前日までに講義用パワーポイントスライド、レポート課題ファイルを配信します。それらをノートPC等にダウンロードし、適宜見ながら講義を聴いてください。授業前にスライドをざっと見ておくことを強くすすめます(01-05 神山)。

科目コード：10110

科目ナンバリング：LA10A04K

主な使用言語：日本語、英語

授業名(英文)：人文科学の考え方 b(Introduction to Human Sciences b)

担当者：Le Pavoux, Mari、神山 和好、柳橋 晃

基本情報

年次：1

単位数：2

授業形式：講義

曜時：水曜3限

履修可能学科・専攻：E Pe Pc C W F N M

関連資格：

AL要素：講義・討論

授業の概要:

人文科学の各領域を探究し、その思考のスタイルに頭をなじませます。

【哲学】(柳橋)

哲学は、私たちの身の周りにある「当たり前」な事柄を、根本から、多角的に考え直す学問です。哲学的に考えることがどういうことか、理論的かつ実践的に学びます。

【言語学】(レパヴァー)

言語学のいくつかの下位分野で扱われているテーマの中でも、私たちの日常の中にも具体例が多数存在し、各自の問題として考察しやすいような研究をピックアップし、その入り口部分を紹介します。言語は主に日本語と英語の例を使用します。

【現代思想】(神山)

現代思想に関わるトピックを5つ選んで講義します。

キーワード:

言語 思想 心理 歴史 宗教 哲学 教養 自然 旅 市民 正義 尊厳

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標: 授業で学んだことが80%理解できること。

評価方法: 各担当者の定期試験(筆記試験)の得点を合計し、最終評価とする。 **評価割合: 100%**

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標: 特になし

評価方法: 上記に準じます **評価割合: 0%**

▼ 学修に主体的に取り組む態度

特になし

評価割合: 0%

▼ 実践的ボランティア

特になし

評価割合: 0%

▼ 公正性

特になし

評価割合: 0%

▼ その他

特になし

評価割合: 特になし

授業計画:

- 01 言語と認知の関係—言語は思考や認知に影響を及ぼすか (レパヴァー)
- 02 ことばの響きと意味(レパヴァー)
- 03 生まれることばと消えることば(レパヴァー)
- 04 会話と配慮1(レパヴァー)
- 05 会話と配慮2(レパヴァー)

- 06 哲学のはじまり(柳橋)
- 07 自然について(柳橋)

- 08 教養について(柳橋)
- 09 哲学と旅(柳橋)
- 10 市民になるという実践(柳橋)

- 11 わかりやすいエッセイをどのように書くかー論理的思考入門(神山)
- 12 君はピンク色のレンズのメガネをかけていないか(神山)
- 13 われわれは「現代」という神話世界に投げ込まれている(神山)
- 14 君は「マトリックス」を見たかー映画の中の東西思想(神山)
- 15 君たちはなぜ学ぶのか(神山)

注意 授業効果を考え、講義順序、トピックを一部変更することがあります。変更の場合、授業ガイダンスを通して事前にお知らせします。(11-15 神山)

使用テキスト: プリントを準備します。参考図書などは授業中に指示します。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 授業中に指示します

障がいのある履修者への対応: まずは教務部窓口に相談しましょう。

授業時間外の連絡手段:

オフィスアワー、メール

留意事項:

資料を読む、疑問点を調べるなど、予習復習を怠らないようにしましょう。
パワーポイントを使った講義です。講義前日までに講義用パワーポイントスライド、レポート課題ファイルを配信します。それらをノートPC等にダウンロードし、適宜見ながら講義を聴いてください。授業前にスライドをざっと見ておくことを強くおすすめします(11-15 神山)。

科目コード:10110 科目ナンバリング:LA10A04K 主な使用言語:日本語、英語

授業名(英文): 人文科学の考え方 c(Introduction to Human Sciences c)

担当者: 柳橋 晃、Le Pavoux, Mari、神山 和好

基本情報

年次:1

単位数:2

授業形式:講義

曜時:水曜3限

履修可能学科・専攻: E Pe Pc C W F N M

関連資格:

AL要素: 講義・討論

授業の概要:

人文科学の各領域を探求し、その思考のスタイルに頭をなじませます。

【哲学】(柳橋)

哲学は、私たちの身の周りにある「当たり前」な事柄を、根本から、多角的に考え直す学問です。哲学的に考えることがどういうことか、理論的かつ実践的に学びます。

【言語学】(レパヴー)

言語学のいくつかの下位分野で扱われているテーマの中でも、私たちの日常の中にも具体例が多数存在し、各自の問題として考察しやすいような研究をピックアップし、その入り口部分を紹介します。言語は主に日本語と英語の例を使用します。

【現代思想】(神山)

現代思想に関わるトピックを5つ選んで講義します。

キーワード:

言語 思想 心理 歴史 宗教 哲学 教養 自然 旅 市民 正義 尊厳

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標: 授業で学んだことが80%理解できること。

評価方法: 各担当者の定期試験(筆記試験)の得点を合計し、最終評価とする。 **評価割合:** 100%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 特になし

評価方法: 上記に準じます **評価割合:** 0%

▼学修に主体的に取り組む態度

特になし

評価割合: 0%

▼実践的ボランティア

特になし

評価割合: 0%

▼公正性

特になし

評価割合: 0%

▼その他

特になし

評価割合: 特になし

授業計画:

- 01 哲学のはじまり(柳橋)
- 02 自然について(柳橋)
- 03 教養について(柳橋)
- 04 哲学と旅(柳橋)
- 05 市民になるという実践(柳橋)

- 06 わかりやすいエッセイをどのように書くかー論理的思考入門(神山)
- 07 君はピンク色のレンズのメガネをかけていないか(神山)
- 08 われわれは「現代」という神話世界に投げ込まれている(神山)
- 09 君は「マトリックス」を見たかー映画の中の東西思想(神山)
- 10 君たちはなぜ学ぶのか(神山)

注意 授業効果を考え、講義順序、トピックを一部変更ことがあります。変更の場合、授業ガイダンスを通して事前にお知らせします。(06-10 神山)

- 11 言語と認知の関係ー言語は思考や認知に影響を及ぼすか (レパヴァー)
- 12 ことばの響きと意味(レパヴァー)
- 13 生まれることばと消えることば(レパヴァー)
- 14 会話と配慮1(レパヴァー)
- 15 会話と配慮2(レパヴァー)

使用テキスト: プリントを準備します。参考図書などは授業中に指示します。

**予習・復習のポイントと
参考文献・資料等:** 授業中に指示します

障がいのある履修者への対応: まずは教務部窓口に相談しましょう。

授業時間外の連絡手段:

オフィスアワー、メール

留意事項:

資料を読む、疑問点を調べるなど、予習復習を怠らないようにしましょう。
講義前日までに講義用パワーポイントスライドを配信します。それをノートPC等にダウンロードし、適宜それを見ながら講義を聴いてください。講義前にスライドをざっと見ておくことを強くすすめます(06-10 神山)。

科目コード:10110 科目ナンバリング:LA10A04K 主な使用言語:日本語

授業名(英文): 人文科学の考え方 d(Introduction to Human Sciences d)

担当者: 宮崎 晶子、三橋 翔太、呉 恩恵

基本情報

年次:1

単位数:2

授業形式:講義

曜時:金曜3限

履修可能学科・専攻: E Pe Pc C W F N M

関連資格:

AL要素: 16. 振り返り用紙と応答
17. 発問と回答

授業の概要: 美術史・社会福祉学・心理学の3分野の担当者によるオムニバス形式とする。各分野の概要は以下の通り。

【美術史】人間が言語を使わずにどのようにメッセージを表現し、伝えようとしたのかを知る。宗教美術から近代美術まで作品の分析を通じて美術史の考え方に触れる。

【社会福祉学】人は誰もが幸せを願い求める。5回に渡って、社会福祉と「しあわせ」はどのような関係にあるかについて学ぶ。自分を取り巻く環境に視野を広げつつ、当たり前だと思ったことに問いかけ、幸せとは何かについて考えを深める。

【心理学】実験心理学・発達心理学・進化心理学・障害児心理学などの多角的な視点から人間の「こころ」について学習し、人間の科学的理解を目指す。

キーワード: 人文主義、心理学、障害、進化、実験、発達、ソーシャル、ウェルビーイング、

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標: 授業で解説を受けた人文科学の基本的な考え方や歴史について、概ね80%の事項を理解し、解答することができる。

評価方法: 学期末

評価割合: 50%

筆記試験

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標: ・人文科学の各研究分野における成り立ちや、現代社会における役割や位置づけについて理解することができる。

・人文科学は、「人間はどう生きるべきか」「人間とほかの動物の違いは何なのか」を考える際に重要であることを理解する。

評価方法: 学期末
筆記試験

評価割合: 50%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし自主的な学習によって自身の知見に追加された成果等が学期末試験の記述内容により認められる場合は、評価対象とすることがある。

評価割合: 0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。

評価割合: 0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。公正性を欠く言動などが認められた場合は指導の対象となることがある。

評価割合: 0%

▼その他

特になし

評価割合: 特になし

授業計画: 【第01回】オリエンテーションー本授業のねらいと進め方ー
【美術史】メッセージを描く(美術の歴史)(宮崎)
【第02回】【美術史】メッセージを読む(美術史の方法論)(宮崎)
【第03回】【美術史】聖なるものの伝え方(聖書・経典から)(宮崎)
【第04回】【美術史】聖なる場の作り方(地獄と極楽)(宮崎)
【第05回】【美術史】アートを消費する(近代美術)(宮崎)
【第06回】【社会福祉学】私の人生グラフ(呉)
【第07回】【社会福祉学】自己覚知(呉)
【第08回】【社会福祉学】リフレーミング(呉)
【第09回】【社会福祉学】「しあわせ」について(呉)
【第10回】【社会福祉学】社会福祉と「しあわせ」(呉)
【第11回】【心理学】ヒトの能力の測定ー実験心理学ー(三橋)
【第12回】【心理学】ヒトはどのように発達するかー発達心理学ー(三橋)
【第13回】【心理学】ヒトの特性獲得の背景ー進化心理学ー(三橋)
【第14回】【心理学】ヒトの障害とその意味ー障害児心理学ー(三橋)
【第15回】【心理学】まとめ(三橋)

使用テキスト: 授業で使用する資料は全て印刷・配布する。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 授業後、配布資料について復習するとともに、資料にない関連事項について自主学習を通じて知見を深めることが望ましい。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡して下さい。

授業時間外の連絡手段: 三橋が対応しますので、オフィスアワーに研究室に来てください。オフィスアワーについては初回授業でお知らせします。

留意事項: 特になし

科目コード: 10110 科目ナンバリング: LA10A04K 主な使用言語: 日本語

授業名(英文): 人文科学の考え方 e(Introduction to Human Sciences e)

担当者: 呉 恩恵、宮崎 晶子、三橋 翔太

基本情報

年次: 1

単位数: 2

授業形式: 講義

曜時: 金曜3限

履修可能学科・専攻: E Pe Pc C W F N M

関連資格：**AL要素：** 16. 振り返り用紙と応答
17. 発問と回答**授業の概要：** 社会福祉学・美術史・心理学の3分野の担当者によるオムニバス形式とする。各分野の概要は以下の通り。

【社会福祉学】人は誰もが幸せを願い求める。5回に渡って、社会福祉と「しあわせ」はどのような関係にあるかについて学ぶ。自分を取り巻く環境に視野を広げつつ、当たり前だと思ったことに問いかけ、幸せとは何かについて考えを深める。

【心理学】実験心理学・発達心理学・進化心理学・障害児心理学などの多角的な視点から人間の「こころ」について学習し、人間の科学的理解を目指す。

【美術史】人間が言語を使わずにどのようにメッセージを表現し、伝えようとしたのかを知る。宗教美術から近代美術まで作品の分析を通じて美術史の考え方に触れる。

キーワード： 人文主義、心理学、障害、進化、実験、発達、ソーシャル、ウェルビーイング、**学位授与方針との関係****▼ 知識・技能**

到達目標： 授業で解説を受けた人文科学の基本的な考え方や歴史について、概ね80%の事項を理解し、解答することができる。

評価方法： 学期末
筆記試験

評価割合：50%**▼ 思考力・判断力・表現力**

到達目標： ・人文科学の各研究分野における成り立ちや、現代社会における役割や位置づけについて理解することができる。
・人文科学は、「人間はどう生きるべきか」「人間とほかの動物の違いは何なのか」を考える際に重要であることを理解する。

評価方法： 学期末
筆記試験

評価割合：50%**▼ 学修に主体的に取り組む態度**

直接的な評価対象とはしない。ただし自主的な学習によって自身の知見に追加された成果等が学期末試験の記述内容により認められる場合は、評価対象とすることがある。

評価割合：0%

▼ 実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。

評価割合：0%

▼ 公正性

直接的な評価対象とはしない。公正性を欠く言動などが認められた場合は指導の対象となることがある。

評価割合：0%

▼ その他

特になし

評価割合：特になし

授業計画： 【第01回】オリエンテーションー本授業のねらいと進め方ー
【社会福祉学】私の人生グラフ(呉)
【第02回】【社会福祉学】自己覚知(呉)
【第03回】【社会福祉学】リフレーミング(呉)
【第04回】【社会福祉学】「しあわせ」について(呉)
【第05回】【社会福祉学】社会福祉と「しあわせ」(呉)

- 【第06回】【心理学】ヒトの能力の測定ー実験心理学ー(三橋)
- 【第07回】【心理学】ヒトはどのように発達するかー発達心理学ー(三橋)
- 【第08回】【心理学】ヒトの特性獲得の背景ー進化心理学ー(三橋)
- 【第09回】【心理学】ヒトの障害とその意味ー障害児心理学ー(三橋)
- 【第10回】【心理学】まとめ(三橋)
- 【第11回】【美術史】メッセージを描く(美術の歴史)(宮崎)
- 【第12回】【美術史】メッセージを読む(美術史の方法論)(宮崎)
- 【第13回】【美術史】聖なるものの伝え方(聖書・経典から)(宮崎)
- 【第14回】【美術史】聖なる場の作り方(地獄と極楽)(宮崎)
- 【第15回】【美術史】アートを消費する(近代美術)(宮崎)

使用テキスト: 授業で使用する資料は全て印刷・配布する。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 授業後、配布資料について復習するとともに、資料にない関連事項について自主学習を通じて知見を深めることが望ましい。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡して下さい。

授業時間外の連絡手段: 三橋が対応しますので、オフィスアワーに研究室に来てください。オフィスアワーについては初回授業でお知らせします。

留意事項: 特になし

科目コード:10110 科目ナンバリング:LA10A04K 主な使用言語:日本語

授業名(英文): 人文科学の考え方 f(Introduction to Human Sciences f)

担当者: 三橋 翔太、宮崎 晶子、呉 恩恵

基本情報

年次:1	単位数:2	授業形式:講義
曜時:金曜3限		履修可能学科・専攻: E Pe Pc C W F N M
関連資格:		AL要素: 16. 振り返り用紙と応答 17. 発問と回答

授業の概要: 心理学・美術史・社会福祉学の3分野の担当者によるオムニバス形式とする。各分野の概要は以下の通り。

【心理学】実験心理学・発達心理学・進化心理学・障害児心理学などの多角的な視点から人間の「こころ」について学習し、人間の科学的理解を目指す。

【美術史】人間が言語を使わずにどのようにメッセージを表現し、伝えようとしたのかを知る。宗教美術から近代美術まで作品の分析を通じて美術史の考え方に触れる。

【社会福祉学】人は誰もが幸せを願い求める。5回に渡って、社会福祉と「しあわせ」はどのような関係にあるかについて学ぶ。自分を取り巻く環境に視野を広げつつ、当たり前だと思ったことに問いかけ、幸せとは何かについて考えを深める。

キーワード: 人文主義、心理学、障害、進化、実験、発達、ソーシャル、ウェルビーイング、

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標: 授業で解説を受けた人文科学の基本的な考え方や歴史について、概ね80%の事項を理解し、解答することができる。

評価方法: 学期末
筆記試験 **評価割合:** 50%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: ・人文科学の各研究分野における成り立ちや、現代社会における役割や位置づけについて理解することができる。
・人文科学は、「人間はどう生きるべきか」「人間とほかの動物の違いは何なのか」を考える際に重要であることを理解する。

評価方法: 学期末
筆記試験

評価割合: 50%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし自主的な学習によって自身の知見に追加された成果等が学期末試験の記述内容により認められる場合は、評価対象とすることがある。

評価割合: 0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。

評価割合: 0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。公正性を欠く言動などが認められた場合は指導の対象となることがある。

評価割合: 0%

▼その他

特になし

評価割合: 特になし

授業計画: 【第01回】オリエンテーションー本授業のねらいと進め方ー

【心理学】ヒトの能力の測定ー実験心理学ー(三橋)

【第02回】【心理学】ヒトはどのように発達するかー発達心理学ー(三橋)

【第03回】【心理学】ヒトの特性獲得の背景ー進化心理学ー(三橋)

【第04回】【心理学】ヒトの障害とその意味ー障害児心理学ー(三橋)

【第05回】【心理学】まとめ(三橋)

【第06回】【美術史】メッセージを描く(美術の歴史)(宮崎)

【第07回】【美術史】メッセージを読む(美術史の方法論)(宮崎)

【第08回】【美術史】聖なるものの伝え方(聖書・経典から)(宮崎)

【第09回】【美術史】聖なる場の作り方(地獄と極楽)(宮崎)

【第10回】【美術史】アートを消費する(近代美術)(宮崎)

【第11回】【社会福祉学】私の人生グラフ(呉)

【第12回】【社会福祉学】自己覚知(呉)

【第13回】【社会福祉学】リフレーミング(呉)

【第14回】【社会福祉学】「しあわせ」について(呉)

【第15回】【社会福祉学】社会福祉と「しあわせ」(呉)

使用テキスト: 授業で使用する資料は全て印刷・配布する。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 授業後、配布資料について復習するとともに、資料にない関連事項について自主学習を通じて知見を深めることが望ましい。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡して下さい。

授業時間外の連絡手段: 三橋が対応しますので、オフィスアワーに研究室に来てください。オフィスアワーについては初回授業でお知らせします。

留意事項: 特になし

科目コード: 10110

科目ナンバリング: LA10A04K

主な使用言語: 日本語、英語

授業名(英文): 人文科学の考え方 g(Introduction to Human Sciences g)

担当者： 神山 和好、Le Pavoux, Mari、三橋 翔太

基本情報

年次：1

単位数：2

授業形式：講義

曜時：水曜3限

履修可能学科・専攻： E Pe Pc C W F N M

関連資格：

AL要素：講義・討論

授業の概要：

人文科学の各領域を探求し、その思考のスタイルに頭をなじませます。

【現代思想】(神山)

現代思想に関わるトピックを5つ選んで講義します。

【言語学】(レパヴー)

言語学のいくつかの下位分野で扱われているテーマの中でも、私たちの日常の中にも具体例が多数存在し、各自の問題として考察しやすいような研究をピックアップし、その入り口部分を紹介します。

【心理学】(三橋)

実験心理学・発達心理学・進化心理学・障害児心理学などの多角的な視点から人間の「こころ」について学習し、人間の科学的理解を目指す。

キーワード： 言語 論理 哲学 思想 宗教 歴史 心理学 障害 進化 実験 発達

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標： 授業で学んだことが80%理解できること。

評価方法： 各担当者の定期試験(筆記試験)の得点を合計し、最終評価とする。

評価割合：100%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標： 特になし。

評価方法： 上記に準じます。

評価割合：0%

▼ 学修に主体的に取り組む態度

特になし。

評価割合：0%

▼ 実践的ボランティア

特になし。

評価割合：0%

▼ 公正性

特になし。

評価割合：0%

▼ その他

特になし。

評価割合：特になし。

授業計画：

- 01 わかりやすいエッセイをどのように書くかー論理的思考入門(神山)
- 02 君はピンク色のレンズのメガネをかけていないか(神山)

- 03 われわれは「現代」という神話世界に投げ込まれている(神山)
- 04 君は「マトリックス」を見たかー映画の中の東西思想(神山)
- 05 君たちはなぜ学ぶのか(神山)

注意 授業効果を考え、講義順序、トピックを一部変更ことがあります。変更の場合、授業ガイダンスを通して事前にお知らせします。(01-05 神山)

- 06 言語と認知の関係ー言語は思考や認知に影響を及ぼすか (レパヴー)
- 07 ことばの響きと意味(レパヴー)
- 08 生まれることばと消えることば(レパヴー)
- 09 会話と配慮1(レパヴー)
- 10 会話と配慮2(レパヴー)

- 11 ヒトの能力の測定ー実験心理学ー(三橋)
- 12 ヒトはどのように発達するかー発達心理学ー(三橋)
- 13 ヒトの特性獲得の背景ー進化心理学ー(三橋)
- 14 ヒトの障害とその意味ー障害児心理学ー(三橋)
- 15 まとめ(三橋)

使用テキスト:

プリントを準備します。参考図書などは授業中に指示します。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 授業中に指示します。

障がいのある履修者への対応: まずは教務部窓口に相談しましょう。

授業時間外の連絡手段:

オフィスアワー、メール

留意事項:

資料を読む、疑問点を調べるなど、予習復習を怠らないようにしましょう。
パワーポイントを使った講義です。講義前日までに講義用パワーポイントスライド、レポート課題ファイルを配信します。それらをノートPC等にダウンロードし、適宜見ながら講義を聴いてください。授業前にスライドをざっと見ておくことを強くすすめます(01-05 神山)。

科目コード:10110 科目ナンバリング:LA10A04K 主な使用言語:日本語、英語

授業名(英文): 人文科学の考え方 h(Introduction to Human Sciences h)

担当者: Le Pavoux, Mari、神山 和好、三橋 翔太

基本情報

年次:1

単位数:2

授業形式:講義

曜時:水曜3限

履修可能学科・専攻: E Pe Pc C W F N M

関連資格:

AL要素: 講義・討論

授業の概要:

人文科学の各領域を探索し、その思考のスタイルに頭をなじませます。

【心理学】(三橋)

実験心理学・発達心理学・進化心理学・障害児心理学などの多角的な視点から人間の「こころ」について学習し、人間の科学的理解を目指す。

【言語学】(レパヴァー)

言語学のいくつかの下位分野で扱われているテーマの中でも、私たちの日常の中にも具体例が多数存在し、各自の問題として考察しやすいような研究をピックアップし、その入り口部分を紹介します。言語は主に日本語と英語の例を使用します。

【現代思想】(神山)

現代思想に関わるトピックを5つ選んで講義します。

キーワード: 言語 論理 哲学 思想 宗教 歴史 心理学 障害 進化 実験 発達

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標: 授業で学んだことが80%理解できること。

評価方法: 各担当者の定期試験(筆記試験)の得点を合計し、最終評価とする。 **評価割合:** 100%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標: 特になし

評価方法: 上記に準じます **評価割合:** 0%

▼ 学修に主体的に取り組む態度

特になし

評価割合: 0%

▼ 実践的ボランティア

特になし

評価割合: 0%

▼ 公正性

特になし

評価割合: 0%

▼ その他

特になし

評価割合: 特になし

授業計画:

- 01 言語と認知の関係—言語は思考や認知に影響を及ぼすか (レパヴァー)
- 02 ことばの響きと意味(レパヴァー)
- 03 生まれることばと消えることば(レパヴァー)
- 04 会話と配慮1(レパヴァー)
- 05 会話と配慮2(レパヴァー)

- 06 ヒトの能力の測定—実験心理学—(三橋)
- 07 ヒトはどのように発達するか—発達心理学—(三橋)
- 08 ヒトの特性獲得の背景—進化心理学—(三橋)
- 09 ヒトの障害とその意味—障害児心理学—(三橋)
- 10 まとめ(三橋)

- 11 わかりやすいエッセイをどのように書くか—論理的思考入門(神山)
- 12 君はピンク色のレンズのメガネをかけていないか(神山)
- 13 われわれは「現代」という神話世界に投げ込まれている(神山)
- 14 君は「マトリックス」を見たか—映画の中の東西思想(神山)
- 15 君たちはなぜ学ぶのか(神山)

注意 授業効果を考え、講義順序、トピックを一部変更ことがあります。変更の場合、授業ガイダンスを通して事前にお知らせします。(11-15 神山)

使用テキスト: プリントを準備します。参考図書などは授業中に指示します。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 授業中に指示します

障がいのある履修者への対応: まずは教務部窓口にご相談しましょう。

授業時間外の連絡手段:

オフィスアワー、メール

留意事項:

資料を読む、疑問点を調べるなど、予習復習を怠らないようにしましょう。
パワーポイントを使った講義です。講義前日までに講義用パワーポイントスライド、レポート課題ファイルを配信します。それらをノートPC等にダウンロードし、適宜見ながら講義を聴いてください。授業前にスライドをざっと見ておくことを強くすすめます(11-15 神山)。

科目コード: 10110 **科目ナンバリング:** LA10A04K **主な使用言語:** 日本語、英語

授業名(英文): 人文科学の考え方 i(Introduction to Human Sciences i)

担当者: 三橋 翔太、Le Pavoux, Mari、神山 和好

基本情報

年次: 1

単位数: 2

授業形式: 講義

曜時: 水曜3限

履修可能学科・専攻: E Pe Pc C W F N M

関連資格:

AL要素: 講義・討論

授業の概要:

人文科学の各領域を探求し、その思考のスタイルに頭をなじませます。

【心理学】(三橋)

実験心理学・発達心理学・進化心理学・障害児心理学などの多角的な視点から人間の「こころ」について学習し、人間の科学的理解を目指す。

【言語学】(レパヴァー)

言語学のいくつかの下位分野で扱われているテーマの中でも、私たちの日常の中にも具体例が多数存在し、各自の問題として考察しやすいような研究をピックアップし、その入り口部分を紹介します。言語は主に日本語と英語の例を使用します。

【現代思想】(神山)

現代思想に関わるトピックを5つ選んで講義します。

キーワード: 言語 論理 哲学 思想 宗教 歴史 心理学 障害 進化 実験 発達

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標: 授業で学んだことが80%理解できること。

評価方法: 各担当者の定期試験(筆記試験)の得点を合計し、最終評価とする。

評価割合: 100%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標：特になし

評価方法：上記に準じます

評価割合：0%

▼学修に主体的に取り組む態度

特になし

評価割合：0%

▼実践的ボランティア

特になし

評価割合：0%

▼公正性

特になし

評価割合：0%

▼その他

特になし

評価割合：特になし

授業計画：

- 01 ヒトの能力の測定－実験心理学－(三橋)
- 02 ヒトはどのように発達するか－発達心理学－(三橋)
- 03 ヒトの特性獲得の背景－進化心理学－(三橋)
- 04 ヒトの障害とその意味－障害児心理学－(三橋)
- 05 まとめ(三橋)

- 06 わかりやすいエッセイをどのように書くか－論理的思考入門(神山)
- 07 君はピンク色のレンズのメガネをかけていないか(神山)
- 08 われわれは「現代」という神話世界に投げ込まれている(神山)
- 09 君は「マトリックス」を見たか－映画の中の東西思想(神山)
- 10 君たちはなぜ学ぶのか(神山)

注意 授業効果を考え、講義順序、トピックを一部変更することがあります。変更の場合、授業ガイダンスを通して事前にお知らせします。(06-10 神山)

- 11 言語と認知の関係－言語は思考や認知に影響を及ぼすか (レパヴァー)
- 12 ことばの響きと意味(レパヴァー)
- 13 生まれることばと消えることば(レパヴァー)
- 14 会話と配慮1(レパヴァー)
- 15 会話と配慮2(レパヴァー)

使用テキスト： プリントを準備します。参考図書などは授業中に指示します。

予習・復習のポイントと 授業中に指示します

参考文献・資料等：

障がいのある まずは教務部窓口にご相談しましょう。

履修者への対応：

授業時間外の連絡手段：

オフィスアワー、メール

留意事項：

資料を読む、疑問点を調べるなど、予習復習を怠らないようにしましょう。

パワーポイントを使った講義です。講義前日までに講義用パワーポイントスライド、レポート課題ファイルを配信します。それらをノートPC等にダウンロードし、適宜見ながら講義を聴いてください。授業前にスラ

イドをざっと見ておくことを強くすすめます(06-10 神山)。

科目コード:10110 科目ナンバリング:LA10A04K 主な使用言語:日本語

授業名(英文):人文科学の考え方j(Introduction to Human Sciences j)

担当者:宮崎 晶子、三橋 翔太、柳橋 晃

基本情報

年次:1

単位数:2

授業形式:講義

曜時:金曜3限

履修可能学科・専攻: E Pe Pc C W F N M

関連資格:

AL要素: 16.振り返り用紙と応答
17.発問と回答

授業の概要: 美術史・心理学・哲学の3分野の担当者によるオムニバス形式とする。各分野の概要は以下の通り。

【美術史】人間が言語を使わずにどのようにメッセージを表現し、伝えようとしたのかを知る。宗教美術から近代美術まで作品の分析を通じて美術史の考え方に触れる。

【心理学】実験心理学・発達心理学・進化心理学・障害児心理学などの多角的な視点から人間の「こころ」について学習し、人間の科学的理解を目指す。

【哲学】哲学は、私たちの身の周りにある「当たり前」な事柄を、根本から、多角的に考え直す学問です。哲学的に考えることがどういうことか、理論的かつ実践的に学びます。

キーワード: 人文主義・実験・発達・進化・障害、哲学、教養、自然、旅、市民、正義、尊厳、地域社会、風土、歴史、災害、考古学、民主主義、イスラーム

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標: 授業で解説を受けた人文科学の基本的な考え方や歴史について、概ね80%の事項を理解し、解答することができる。

評価方法: 学期末
筆記試験

評価割合: 50%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: ・人文科学の各研究分野における成り立ちや、現代社会における役割や位置づけについて理解することができる。
・人文科学は「人間はどう生きるべきか」「人間とほかの動物の違いは何なのか」を考える際に重要であることを理解する。

評価方法: 学期末
筆記試験

評価割合: 50%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし自主的な学習によって自身の知見に追加された成果等が学期末試験の記述内容により認められる場合は、評価対象とすることがある。

評価割合: 0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。

評価割合: 0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。公正性を欠く言動などが認められた場合は指導の対象となることがある。

評価割合：0%

▼その他

特になし

評価割合：特になし

- 授業計画：【第01回】オリエンテーション-本授業のねらいと進め方
【美術史】メッセージを描く(美術の歴史)(宮崎)
【第02回】【美術史】メッセージを読む(美術史の方法論)(宮崎)
【第03回】【美術史】聖なるものの伝え方(聖書・経典から)(宮崎)
【第04回】【美術史】聖なる場の作り方(地獄と極楽)(宮崎)
【第05回】【美術史】アートを消費する(近代美術)(宮崎)
【第06回】【心理学】ヒトの能力の測定-実験科学-(三橋)
【第07回】【心理学】ヒトはどのように発達するか-発達心理学-(三橋)
【第08回】【心理学】ヒトの特性獲得の背景-進化心理学-(三橋)
【第09回】【心理学】ヒトの障害とその意味-障害科学-(三橋)
【第10回】【心理学】まとめ(三橋)
【第11回】【哲学】哲学のはじまり(柳橋)
【第12回】【哲学】自然について(柳橋)
【第13回】【哲学】教養について(柳橋)
【第14回】【哲学】哲学と旅(柳橋)
【第15回】【哲学】市民になるという実践(柳橋)

使用テキスト：授業で使用する資料は全て印刷・配布する。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等：授業後、配布資料について復習するとともに、資料にない関連事項について自主学習を通じて知見を深めることが望ましい。

障がいのある履修者への対応：可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください。

授業時間外の連絡手段：三橋が対応しますので、オフィスアワーに研究室に来てください。オフィスアワーについては初回授業でお知らせします。

留意事項：特になし

科目コード：10110 科目ナンバリング：LA10A04K 主な使用言語：日本語

授業名(英文)：人文科学の考え方 k(Introduction to Human Sciences k)

担当者：三橋 翔太、宮崎 晶子、柳橋 晃

基本情報

年次：1

単位数：2

授業形式：講義

曜時：金曜3限

履修可能学科・専攻：E Pe Pc C W F N M

関連資格：

AL要素：16.振り返り用紙と応答
17.発問と回答

授業の概要：心理学・哲学・美術史の3分野の担当者によるオムニバス形式とする。各分野の概要は以下の通り。

【心理学】実験心理学・発達心理学・進化心理学・障害児心理学などの多角的な視点から人間の「こころ」について学習し、人間の科学的理解を目指す

【哲学】哲学は、私たちの身の周りにある「当たり前」な事柄を、根本から、多角的に考え直す学問です。哲学的に考えることがどういうことか、理論的かつ実践的に学びます。

【美術史】人間が言語を使わずにどのようにメッセージを表現し、伝えようとしたのかを知る。

宗教美術から近代美術まで作品の分析を通じて美術史の考え方に触れる。

キーワード： 人文主義・実験・発達・進化・障害、哲学、教養、自然、旅、市民、正義、尊厳、地域社会、風土、歴史、災害、考古学、民主主義、イスラーム

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標： 授業で解説を受けた人文科学の基本的な考え方や歴史について、概ね80%の事項を理解し、解答することができる。

評価方法： 学期末
筆記試験

評価割合： 50%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標： ・人文科学の各研究分野における成り立ちや、現代社会における役割や位置づけについて理解することができる。
・人文科学は「人間はどう生きるべきか」「人間とほかの動物の違いは何なのか」を考える際に重要であることを理解する。

評価方法： 学期末
筆記試験

評価割合： 50%

▼ 学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし自主的な学習によって自身の知見に追加された成果等が学期末試験の記述内容により認められる場合は、評価対象とすることがある。

評価割合： 0%

▼ 実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。

評価割合： 0%

▼ 公正性

直接的な評価対象とはしない。公正性を欠く言動などが認められた場合は指導の対象となることがある。

評価割合： 0%

▼ その他

特になし

評価割合： 特になし

授業計画： 【第01回】オリエンテーション-本授業のねらいと進め方-
【心理学】ヒトの能力の測定-実験科学-(三橋)
【第02回】【心理学】ヒトはどのように発達するか-発達心理学-(三橋)
【第03回】【心理学】ヒトの特性獲得の背景-進化心理学-(三橋)
【第04回】【心理学】ヒトの障害とその意味-障害科学-(三橋)
【第05回】【心理学】まとめ(三橋)
【第06回】【哲学】哲学のはじまり(柳橋)
【第07回】【哲学】自然について(柳橋)
【第08回】【哲学】教養について(柳橋)
【第09回】【哲学】哲学と旅(柳橋)
【第10回】【哲学】市民になるという実践(柳橋)
【第11回】【美術史】メッセージを描く(美術の歴史)(宮崎)
【第12回】【美術史】メッセージを読む(美術史の方法論)(宮崎)
【第13回】【美術史】聖なるものの伝え方(聖書・経典から)(宮崎)
【第14回】【美術史】聖なる場の作り方(地獄と極楽)(宮崎)
【第15回】【美術史】アートを消費する(近代美術)(宮崎)

使用テキスト： 授業で使用する資料は全て印刷・配布する。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 授業後、配布資料について復習するとともに、資料にない関連事項について自主学習を通じて知見を深めることが望ましい。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください。

授業時間外の連絡手段： 三橋が対応しますので、オフィスアワーに研究室に来てください。オフィスアワーについては初回授業でお知らせします。

留意事項： 特になし

科目コード：10110 科目ナンバリング：LA10A04K 主な使用言語：日本語

授業名(英文)：人文科学の考え方 I(Introduction to Human Sciences I)

担当者：柳橋 晃、宮崎 晶子、三橋 翔太

基本情報

年次：1

単位数：2

授業形式：講義

曜時：金曜3限

履修可能学科・専攻：E Pe Pc C W F N M

関連資格：

AL要素：16.振り返り用紙と応答
17.発問と回答

授業の概要： 哲学・美術史・心理学の3分野の担当者によるオムニバス形式とする。各分野の概要は以下の通り。

【哲学】哲学は、私たちの身の周りにある「当たり前」な事柄を、根本から、多角的に考え直す学問です。哲学的に考えることがどういうことか、理論的かつ実践的に学びます。

【美術史】人間が言語を使わずにどのようにメッセージを表現し、伝えようとしたのかを知る。宗教美術から近代美術まで作品の分析を通じて美術史の考え方に触れる。

【心理学】実験心理学・発達心理学・進化心理学・障害児心理学などの多角的な視点から人間の「こころ」について学習し、人間の科学的理解を目指す。

キーワード： 人文主義・実験・発達・進化・障害、哲学、教養、自然、旅、市民、正義、尊厳、地域社会、風土、歴史、災害、考古学、民主主義、イスラーム

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 授業で解説を受けた人文科学の基本的な考え方や歴史について、概ね80%の事項を理解し、解答することができる。

評価方法： 学期末
筆記試験

評価割合： 50%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： ・人文科学の各研究分野における成り立ちや、現代社会における役割や位置づけについて理解することができる。
・人文科学は「人間はどう生きるべきか」「人間とほかの動物の違いは何なのか」を考える際に重要であることを理解する。

評価方法： 学期末
筆記試験

評価割合： 50%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし自主的な学習によって自身の知見に追加された成果等が学期末試

験の記述内容により認められる場合は、評価対象とすることがある。

評価割合：0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。公正性を欠く言動などが認められた場合は指導の対象となることがある。

評価割合：0%

▼その他

特になし

評価割合：特になし

授業計画：【第01回】オリエンテーション-本授業のねらいと進め方-

【哲学】哲学のはじまり(柳橋)

【第02回】【哲学】自然について(柳橋)

【第03回】【哲学】教養について(柳橋)

【第04回】【哲学】哲学と旅(柳橋)

【第05回】【哲学】市民になるという実践(柳橋)

【第06回】【美術史】メッセージを描く(美術の歴史)(宮崎)

【第07回】【美術史】メッセージを読む(美術史の方法論)(宮崎)

【第08回】【美術史】聖なるものの伝え方(聖書・経典から)(宮崎)

【第09回】【美術史】聖なる場の作り方(地獄と極楽)(宮崎)

【第10回】【美術史】アートを消費する(近代美術)(宮崎)

【第11回】【心理学】ヒトの能力の測定-実験科学-(三橋)

【第12回】【心理学】ヒトはどのように発達するか-発達心理学-(三橋)

【第13回】【心理学】ヒトの特性獲得の背景-進化心理学-(三橋)

【第14回】【心理学】ヒトの障害とその意味-障害科学-(三橋)

【第15回】【心理学】まとめ(三橋)

使用テキスト：授業で使用する資料は全て印刷・配布する。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等：授業後、配布資料について復習するとともに、資料にない関連事項について自主学習を通じて知見を深めることが望ましい。

障がいのある履修者への対応：可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください。

授業時間外の連絡手段：三橋が対応しますので、オフィスアワーに研究室に来てください。オフィスアワーについては初回授業でお知らせします。

留意事項：デバイスの持参を推奨します。

科目コード：10111

科目ナンバリング：

主な使用言語：日本語

授業名(英文)：哲学とは何か a(Introduction to Philosophy a)

担当者：銭谷 秋生

基本情報

年次：1

単位数：2

授業形式：講義

曜時：金曜6限

履修可能学科・専攻：E Pe Pc C W F N M

関連資格：教職

AL要素：17. 発問と回答

授業の概要：この講義では、哲学の世界で探求されている代表的な問いを取り上げ、それを腑分けしながら、哲学的に考える筋道を提示します。主として取り上げる問いは、例えば「知るとはどういうことか」や「時間はどこを流れているのか」あるいは「善や悪はどこにあるのか」といった、

我々の知識や経験の構造を問題にする問いです。問いそのものは古典的ですが、できるだけ現代の哲学者たちの思索を参照して考察を進めます。

キーワード： 真理と実在、知識論、懐疑論、時間論、善悪の存在論

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標： 授業で説明を受けた「哲学的に考える筋道」をよく理解し、解答することができる。

評価方法： 学期末の筆記試験による。

評価割合： 50%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標： 授業で取り上げたトピックスについて、自主学修によって得た知見を踏まえて考察し、論理的に自らの所見を表現できる。

評価方法： 同上

評価割合： 50%

▼ 学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし、自主学修によって得られた知見の拡大や深化が学期末試験の記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合： 0%

▼ 実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただしヴォランティア活動等の実践により深められた知見が学期末試験の記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合： 0%

▼ 公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし授業中の発言や筆記試験の記述等において、公正性を欠く言動や不正行為があった場合は、減点や嚴重注意の対象となる。

評価割合： 0%

▼ その他

特になし。

評価割合： 特になし。

授業計画： 第1回：イントロダクション。(哲学は何を問題とする学問なのか)
第2回：この現実是我が見ている夢ではないとどうやって言えるのか。
(懐疑論からの挑戦)
第3回：この現実は何ものかが見ている夢ではないとどうやって言えるのか。
(真理の実在論と反実在論)
第4回：何かを「知る」とはどういうことか(1)。(正当化された真なる信念と観念論)
第5回：何かを「知る」とはどういうことか(2)。(観念論論駁)
第6回：何かを「知る」とはどういうことか(3)。(ゲティア問題)
第7回：何かを「知る」とはどういうことか(4)。(知識の因果説とその検討)
第8回：時間はどこを流れているのか(1)。(時間は実在的か)
第9回：時間はどこを流れているのか(2)。(時間は心のなかにあるのか)
第10回：時間はどこを流れているのか(3)。(世界の言語的把握と時間の成立)
第11回：心をもつとはどういうことか(1)。(デカルトの心身二元論とその批判)
第12回：心をもつとはどういうことか(2)。(心脳同一説とその検討)
第13回：心をもつとはどういうことか(3)。(非法則的一元論)
第14回：善悪の存在論(1)。(道徳的反実在論)
第15回：善悪の存在論(2)。(道徳的実在論)
学期末試験

使用テキスト: 特定のテキストは使用しない。毎回プリントを配布し、それに沿って進める。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: ・毎時間、次の回の資料をあらかじめ配布するので、分からない用語などを調べる。
・資料に関連した事項について自主学修を通して知見を深めることが望ましい。参考文献として次の二点を推薦する。
『現代哲学』門脇俊介著、産業図書(2002)
『心の哲学入門』金杉武司著、勁草書房(2007)

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください。

授業時間外の連絡手段: 授業の前後の時間に対応します。曜日・時限等は初回にお知らせします。

留意事項: 特になし。

科目コード: 10111 **科目ナンバリング:** **主な使用言語:** 日本語

授業名(英文): 哲学とは何か b(Introduction to Philosophy b)

担当者: 銭谷 秋生

基本情報

年次: 1

単位数: 2

授業形式: 講義

曜時: 金曜6限

履修可能学科・専攻: E Pe Pc C W F N M

関連資格: 教職

AL要素: 17. 発問と回答

授業の概要: この講義では、哲学の世界で探求されている代表的な問いを取り上げ、それを腑分けしながら、哲学的に考える筋道を提示します。主として取り上げる問いは、例えば「知るとはどういうことか」や「時間はどこを流れているのか」あるいは「善や悪はどこにあるのか」といった、我々の知識や経験の構造を問題にする問いです。問いそのものは古典的ですが、できるだけ現代の哲学者たちの思索を参照して考察を進めます。

キーワード: 真理と実在、知識論、懐疑論、時間論、善悪の存在論

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標: 授業で説明を受けた「哲学的に考える筋道」をよく理解し、解答することができる。

評価方法: 学期末の筆記試験による。

評価割合: 50%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 授業で取り上げたトピックスについて、自主学修によって得た知見を踏まえて考察し、論理的に自らの所見を表現できる。

評価方法: 同上

評価割合: 50%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし、自主学修によって得られた知見の拡大や深化が学期末試験の記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合: 0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただしボランティア活動等の実践により深められた知見が学期末試験の記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合: 0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし授業中の発言や筆記試験の記述等において、公正性を欠く言動や不正行為があった場合は、減点や厳重注意の対象となる。

評価割合：0%

▼その他

特になし。

評価割合：特になし。

授業計画： 第1回：イントロダクション。(哲学は何を問題とする学問なのか)
第2回：この現実是我が見ている夢ではないとどうやって言えるのか。
(懐疑論からの挑戦)
第3回：この現実は何ものかが見ている夢ではないとどうやって言えるのか。
(真理の实在論と反实在論)
第4回：何かを「知る」とはどういうことか(1)。(正当化された真なる信念と観念論)
第5回：何かを「知る」とはどういうことか(2)。(観念論論駁)
第6回：何かを「知る」とはどういうことか(3)。(ゲティア問題)
第7回：何かを「知る」とはどういうことか(4)。(知識の因果説とその検討)
第8回：時間はどこを流れているのか(1)。(時間は実在的か)
第9回：時間はどこを流れているのか(2)。(時間は心のなかにあるのか)
第10回：時間はどこを流れているのか(3)。(世界の言語的把握と時間の成立)
第11回：心をもつとはどういうことか(1)。(デカルトの心身二元論とその批判)
第12回：心をもつとはどういうことか(2)。(心脳同一説とその検討)
第13回：心をもつとはどういうことか(3)。(非法則的一元論)
第14回：善悪の存在論(1)。(道徳的反实在論)
第15回：善悪の存在論(2)。(道徳的实在論)
学期末試験

使用テキスト： 特定のテキストは使用しない。毎回プリントを配布し、それに沿って進める。

予習・復習のポイントと
参考文献・資料等： ・毎時間、次の回の資料をあらかじめ配布するので、分からない用語などを調べる。
・資料に関連した事項について自主学修を通して知見を深めることが望ましい。参考文献として次の二点を推薦する。
『現代哲学』門脇俊介著、産業図書(2002)
『心の哲学入門』金杉武司著、勁草書房(2007)

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応しますので、先ずは学務部等に連絡してください。

授業時間外の連絡手段： 授業の前後の時間に対応します。曜日・時限等は初回にお知らせします。

留意事項： 特になし。

科目コード：10112 科目ナンバリング： 主な使用言語：日本語|

授業名(英文)：いのちを考える a(What is Life? a)

担当者：銭谷 秋生

基本情報

年次：1

単位数：2

授業形式：講義

曜時：金曜3限

履修可能学科・専攻： E Pe Pc C W F N M

関連資格：

AL要素：17.発問と回答

授業の概要： 生命工学や医療技術の進歩は、これまでの価値観が予想していないような倫理的問いを課してきます。体外受精技術を用いて代理出産をしてもいいかという問題、遺伝子編集技術

を用いて能力を増強した人間を作りだしていいのかという問題などがこれに当たります。この講義では、こうした現代において新たに登場してきた生命をめぐる倫理的諸問題を取り上げ、それらを考えるために押さえておくべき論点を整理したうえで、それらにどのように態度をとればいいのかを考察します。

キーワード： 人工妊娠中絶 代理出産 出生前診断 優生学 遺伝子編集 安楽死 死ぬ権利

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 授業で説明を受けた「生命の処遇をめぐる現代的問題」の内容をよく理解し、解答することができる。

評価方法： 学期末筆記試験による

評価割合： 50%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 授業で取り上げたトピックスについて、自主学修によって得た知見を踏まえて考察し、論理的に自らの所見を表現できる。

評価方法： 同上

評価割合： 50%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし、自主学修によって得られた知見の拡大や深化が学期末試験の記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合： 0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただしヴォランティア活動等の実践により深められた知見が学期末試験の記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合： 0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし授業中の発言や筆記試験の記述等において、公正性を欠く言動や不正行為があった場合は、減点や嚴重注意の対象となる。

評価割合： 0%

▼その他

特になし

評価割合： 特になし

授業計画：

- 第1回：生命の処遇をめぐる問題が登場してきた背景について
- 第2回：人工妊娠中絶と旧優生保護法をめぐって
- 第3回：人工妊娠中絶の是非をめぐって
- 第4回：新しい生殖補助技術の概要
- 第5回：代理出産について(その現状と問題)
- 第6回：代理出産について(倫理的考察)
- 第7回：出生前診断技術について
- 第8回：選択的中絶と新しい「優生学」について
- 第9回：遺伝子編集とエンハンスメント(肯定論)
- 第10回：遺伝子編集とエンハンスメント(否定論)
- 第11回：重度障害新生児の安楽死について(その1：パーソン論に基づく肯定論)
- 第12回：重度障害新生児の安楽死について(その2：パーソン論の検討)

第13回:安楽死と緩和医療について
第14回:積極的安楽死について(オランダ等の事例)
第15回:「死ぬ権利」について
期末試験

使用テキスト: 特定のテキストは使用しない。毎回プリントを配布し、それに沿って進める。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: ・毎時間、次の回の資料をあらかじめ配布するので、分からない用語などを調べる。
・資料に関連した事項について自主学修を通して知見を深めることが望ましい。参考文献として次の二点を推薦する。
『命は誰のものか』香川知晶著、ディスカヴァー携書(2015)
『脳死・クローン・遺伝子治療』加藤尚武著、PHP新書(1999)

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください。

授業時間外の連絡手段: 授業の前後の時間に対応します。曜日・時限等は初回にお知らせします。

留意事項: 特になし。

科目コード:10112 科目ナンバリング: 主な使用言語:日本語

授業名(英文):いのちを考える b(What is Life? b)

担当者: 銭谷 秋生

基本情報

年次:1

単位数:2

授業形式:講義

曜時:金曜3限

履修可能学科・専攻: E Pe Pc C W F N M

関連資格:

AL要素: 17.発問と回答

授業の概要: 生命工学や医療技術の進歩は、これまでの価値観が予想していないような倫理的問いを課してきます。体外受精技術を用いて代理出産をしてもいいかという問題、遺伝子編集技術を用いて能力を増強した人間を作りだしていいのかという問題などがこれに当たります。この講義では、こうした現代において新たに登場してきた生命をめぐる倫理的諸問題を取り上げ、それらを考えるために押さえておくべき論点を整理したうえで、それらにどのように態度をとればいいのかを考察します。

キーワード: 人工妊娠中絶 代理出産 出生前診断 優生学 遺伝子編集 安楽死 死ぬ権利

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標: 授業で説明を受けた「生命の処遇をめぐる現代的問題」の内容をよく理解し、解答することができる。

評価方法: 学期末筆記試験による

評価割合: 50%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標: 授業で取り上げたトピックスについて、自主学修によって得た知見を踏まえて考察し、論理的に自らの所見を表現できる。

評価方法: 同上

評価割合: 50%

▼ 学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし、自主学修によって得られた知見の拡大や深化が学期末試験の記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合：0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただしヴォランティア活動等の実践により深められた知見が学期末試験の記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし授業中の発言や筆記試験の記述等において、公正性を欠く言動や不正行為があった場合は、減点や嚴重注意の対象となる。

評価割合：0%

▼その他

特になし

評価割合：特になし

授業計画： 第1回：生命の処遇をめぐる問題が登場してきた背景について
第2回：人工妊娠中絶と旧優生保護法をめぐる
第3回：人工妊娠中絶の是非をめぐる
第4回：新しい生殖補助技術の概要
第5回：代理出産について（その現状と問題）
第6回：代理出産について（倫理的考察）
第7回：出生前診断技術について
第8回：選択的中絶と新しい「優生学」について
第9回：遺伝子編集とエンハンスメント（肯定論）
第10回：遺伝子編集とエンハンスメント（否定論）
第11回：重度障害新生児の安楽死について（その1：パーソン論に基づく肯定論）
第12回：重度障害新生児の安楽死について（その2：パーソン論の検討）
第13回：安楽死と緩和医療について
第14回：積極的安楽死について（オランダ等の事例）
第15回：「死ぬ権利」について
期末試験

使用テキスト： 特定のテキストは使用しない。毎回プリントを配布し、それに沿って進める。

予習・復習のポイントと
参考文献・資料等： ・毎時間、次の回の資料をあらかじめ配布するので、分からない用語などを調べる。
・資料に関連した事項について自主学修を通して知見を深めることが望ましい。参考文献として次の二点を推薦する。
『命は誰のものか』香川知晶著、ディスカヴァー携書(2015)
『脳死・クローン・遺伝子治療』加藤尚武著、PHP新書(1999)

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください。

授業時間外の連絡手段： 授業の前後の時間に対応します。曜日・時限等は初回にお知らせします。

留意事項： 特になし。

科目コード：10113

科目ナンバリング：

主な使用言語：日本語

授業名(英文): ライフステージの心理学 a(Life-stage Psychology a)

担当者: 林 雅子

基本情報

年次: 1

単位数: 2

授業形式: 講義

曜時: 火曜3限

履修可能学科・専攻: E Pe Pc C W F N M

関連資格:

AL要素: 15. レポート指導
16. 振り返り用紙と応答

授業の概要: 現在の先行きの見えない情勢の中で、不安を抱えている方は少なからずいるでしょう。この授業では、乳幼児期から老年期までの一生の歩みを生涯発達という観点から捉え、心理学的な知見に基づいて考えていきます。乳幼児期から老年期までの自己の発達や対人関係について心理学的な理論を学び、それぞれの時期における発達課題や社会的な問題への理解を深めます。各発達段階における心理社会的発達と環境(社会的影響や文化的要因)の関連を心理学的な理論的基盤をもって考えられるようになることが目的です。これらの講義を通して、受講者の皆さんがこれまで経験してきたことや今現在の自分を理解するだけでなく、将来的な展望への足掛かりを掴むことを目指します。

授業は講義形式で進みます。ただし、授業で取り上げられる各テーマについて積極的に考える機会を設けるために、授業内で小レポートの執筆課題が課されます。

※対面での講義が難しい場合、学務部からの指示に従ってオンライン授業(課題研究型)に切り替えます。その際はIC-UNIPAの掲示板に記載するため、確認をお願いします。

キーワード: 生涯発達心理学, アイデンティティ, 発達段階, 対人関係

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標: 授業で扱った生涯を通しての発達過程や心理的課題を概ね80%理解し、筆記試験にて解答することができる。

評価方法: レポート

評価割合: 30%

学期末筆記試験

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 授業を踏まえて、今日の社会的問題や課題について、心理学的観点から考え、論理的かつ簡潔に表現することができる。

評価方法: レポート

評価割合: 40%

学期末筆記試験

▼学修に主体的に取り組む態度

意欲的に授業に参加し、心理学的観点を身に付けようとしているのか、授業内にて行う小レポート課題の提出状況によって判断する。

学外実習や就職活動等でやむを得ず欠席した場合の対処については、初回授業にて説明する。

なお、授業中に秩序を乱すような行為をした場合は、減点または嚴重注意の対象とする。

評価割合: 30%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただし、学外実習や就職活動等で得られた知見によってレポートや筆記試験の内容の水準が上がったと認められた場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とする。

評価割合: 0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし、授業中の態度やレポート、筆記試験の記述で人権侵害・差別的発言等、著しく公正性を欠く言動があった場合、またはカンニング等の不正行為があった場合は、減点や厳

重注意の対象とする。

評価割合：0%

▼その他

とくになし

評価割合：とくになし

授業計画：【第1回】イントロダクション：生涯発達心理学とは何か
授業の進め方や内容、評価方法等について説明し、生涯発達心理学の概要について解説します。

【第2回】発達段階を捉える(1)認知の発達
人が物事をいかに認識し、考えるかという認知能力の発達を学びます。特にピアジェの理論を元に人の思考がどのように発達していくのかを段階ごとに学びます。

【第3回】発達段階を捉える(2)心理社会的発達
人が他者や社会との関わりを通してどのように発達していくのかを、エリクソンの心理社会的発達理論を元に学びます。特に人の生涯にわたる発達について考えていきます。

【第4回】胎児・乳児期の発達
胎児期や乳児期における感覚発達や反射について学びます。

【第5回】幼児期の発達
幼児期に重要な愛着の発達とその後の影響などについて学び、幼児との関わりについて考えます。

【第6回】児童期の発達
学習を通じた児童の道徳観や社会性の発達などについて学び、小学校における教育問題について考えます。

【第7回】青年期前期の発達
思春期に生じる心身の発達について学びます。また、発達に従い変化していく他者との関わりについて考えます。

【第8回】青年期後期の発達
アイデンティティの発達や職業選択などの理論について学び、学生自身の現在について考えていきます。

【第9回】成人期(成人前期)の発達
青年から成人への発達の变化について考えます。

【第10回】中年期(成人後期)の発達
中年期(成人後期)に生じる“危機”について学ぶ中で、自分自身の将来について考えていきます。

【第11回】老年期の発達
老年期における喪失と獲得について考えます。

【第12回】発達障害と共に生きる
発達障害を取り上げ、その特徴を理解することを目指します。いかに発達障害と共に生きていくかを考えます。

【第13回】対人関係の発達(1)
親子関係から始まり対人関係が発達段階ごとにいかに変化・発展していくかを考えます。

【第14回】対人関係の発達(2)

対人関係の中で生じる危機やトラブルについて学び、他者との関わりという観点から生涯発達を考えます。

【第15回】まとめ

これまでの講義を概観して生涯発達の各段階における課題や危機についてまとめます。

【最終試験】

試験内容や形式については授業内で発表を行います。

使用テキスト: なし 授業内で資料を配布します。

配布した資料は授業後にすべてIC-UNIPA上に掲載しますので、欠席した場合は各自で印刷してください。

予習・復習のポイントと 【授業中の取り組み】

参考文献・資料等: この授業では生涯における発達の変化について考えていきます。そのため、自分自身の過去、現在、未来についてイメージしながら授業を受けることで、心理学的な理論を身近に感じることができると思われます。

【授業外の取り組み】

授業の最後に次回のテーマを予告します。興味のある方は、テーマについて調べてみると次回の授業の理解が早くなると思います。授業後は、小レポートのフィードバックをしたり、配布資料の内容を見返したりして、講義内容の理解を深めていただくをお願いします。

また、人の発達に関するテーマは新聞、テレビ、小説、漫画などメディアを問わず描かれています。様々な物事に興味・関心を持って日常生活を送ることも、この授業の事前準備となります。1日30分ほどでも良いので、新聞やテレビのニュースを観る際に、発達や教育という視点から考えてみてほしいと思います。

【参考文献・資料等】

授業時に配布する資料に毎回掲載しますので、そちらをご確認ください。

障がいのある履修者への対応: 事前に学務部等へご連絡するようにお願いします。その上で、可能な限り対応いたします。

授業時間外の連絡手段: 初回授業にて連絡用のメールアドレスをお教えますので、そちらをご利用ください。または、学務部のほうへお問い合わせをお願いします。

留意事項: 受講者数が教室収容可能人数または100名を超える場合、初回授業にて抽選を行い人数調整をします。また、その際は公平を期すために初回授業以降の登録は認めません。後期に開講されるライフステージの心理学bはこの授業と同一の内容です。なるべく人数が収まるよう、日程が調整可能な学生は後期の方を履修してください。

科目コード: 10113 **科目ナンバリング:** **主な使用言語:** 日本語

授業名(英文): ライフステージの心理学 b(Life-stage Psychology b)

担当者: 林 雅子

基本情報

年次: 1

単位数: 2

授業形式: 講義

曜時: 火曜3限

履修可能学科・専攻: E Pe Pc C W F N M

関連資格:

AL要素: 15. レポート指導
16. 振り返り用紙と応答

授業の概要: 現在の先行きの見えない情勢の中で、不安を抱えている方が少なからずいるでしょう。この授業では、乳幼児期から老年期までの一生の歩みを生涯発達という観点から捉え、心理学的な知見に基づいて考えていきます。乳幼児期から老年期までの自己の発達や対人関係について心理学的な理論を学び、それぞれの時期における発達課題や社会的な問題への理解を深めます。各発達段階における心理社会的発達と環境(社会的影響や文化的要因)

の関連を心理学的な理論的基盤をもって考えられるようになることが目的です。これらの講義を通して、受講者の皆さんがこれまで経験してきたことや今現在の自分を理解するだけでなく、将来的な展望への足掛かりを掴むことを目指します。

授業は講義形式で進みます。ただし、授業で取り上げられる各テーマについて積極的に考える機会を設けるために、授業内で小レポートの執筆課題が課されます。

※前期科目「ライフステージの心理学a」と同一の内容になります。

※対面での講義が難しい場合、学務部からの指示に従ってオンライン授業(課題研究型)に切り替えます。その際はIC-UNIPAの掲示板に記載するため、確認をお願いします。

キーワード: 生涯発達心理学, アイデンティティ, 発達段階, 対人関係

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標: 授業で扱った生涯を通しての発達過程や心理的課題を概ね80%理解し、筆記試験にて解答することができる。

評価方法: レポート
学期末筆記試験

評価割合: 30%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標: 授業を踏まえて、今日の社会的問題や課題について、心理学的観点から考え、論理的かつ簡潔に表現することができる。

評価方法: レポート
学期末筆記試験

評価割合: 40%

▼ 学修に主体的に取り組む態度

意欲的に授業に参加し、心理学的観点を身に付けようとしているのか、授業内にて行う小レポート課題の提出状況によって判断する。

学外実習や就職活動等でやむを得ず欠席した場合の対処については、初回授業にて説明する。

なお、授業中に秩序を乱すような行為をした場合は、減点または厳重注意の対象とする。

評価割合: 30%

▼ 実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただし、学外実習や就職活動等で得られた知見によってレポートや筆記試験の内容の水準が上がったと認められた場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とする。

評価割合: 0%

▼ 公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし、授業中の態度やレポート、筆記試験の記述で人権侵害・差別的発言等、著しく公正性を欠く言動があった場合、またはカンニング等の不正行為があった場合は、減点や厳重注意の対象とする。

評価割合: 0%

▼ その他

とくになし

評価割合: とくになし

授業計画: 【第1回】イントロダクション:生涯発達心理学とは何か
授業の進め方や内容、評価方法等について説明し、生涯発達心理学の概要について解説します。

【第2回】発達段階を捉える(1)認知の発達

人が物事をいかに認識し、考えるかという認知能力の発達を学びます。特にピアジェの理論を元に人の思考がどのように発達していくのかを段階ごとに学びます。

【第3回】発達段階を捉える(2)心理社会的発達

人が他者や社会との関わりを通してどのように発達していくのかを、エリクソンの心理社会的発達理論を元に学びます。特に人の生涯にわたる発達について考えていきます。

【第4回】胎児・乳児期の発達

胎児期や乳児期における感覚発達や反射について学びます。

【第5回】幼児期の発達

幼児期に重要な愛着の発達とその後の影響などについて学び、幼児との関わりについて考えます。

【第6回】児童期の発達

学習を通じた児童の道徳観や社会性の発達などについて学び、小学校における教育問題について考えます。

【第7回】青年期前期の発達

思春期に生じる心身の発達について学びます。また、発達に従い変化していく他者との関わりについて考えます。

【第8回】青年期後期の発達

アイデンティティの発達や職業選択などの理論について学び、学生自身の現在について考えていきます。

【第9回】成人期(成人前期)の発達

青年から成人への発達の变化について考えます。

【第10回】中年期(成人後期)の発達

中年期(成人後期)に生じる“危機”について学ぶ中で、自分自身の将来について考えていきます。

【第11回】老年期の発達

老年期における喪失と獲得について考えます。

【第12回】発達障害と共に生きる

発達障害を取り上げ、その特徴を理解することを目指します。いかに発達障害と共に生きていくかを考えます。

【第13回】対人関係の発達(1)

親子関係から始まり対人関係が発達段階ごとにいかに変化・発展していくかを考えます。

【第14回】対人関係の発達(2)

対人関係の中で生じる危機やトラブルについて学び、他者との関わりという観点から生涯発達を考えます。

【第15回】まとめ

これまでの講義を概観して生涯発達の各段階における課題や危機についてまとめます。

【最終試験】

試験内容や形式については授業内で発表を行います。

使用テキスト: なし 授業内で資料を配布します。

配布した資料は授業後にすべてIC-UNIPA上に掲載しますので、欠席した場合は各自で印刷してください。

予習・復習のポイントと 【授業中の取り組み】

参考文献・資料等: この授業では生涯における発達の变化について考えていきます。そのため、自分自身の

過去、現在、未来についてイメージしながら授業を受けることで、心理学的な理論を身近に感じることができると思われます。

【授業外の取り組み】

授業の最後に次回のテーマを予告します。興味のある方は、テーマについて調べてみると次回の授業の理解が早くなると思います。授業後は、小レポートのフィードバックをしたり、配布資料の内容を見返したりして、講義内容の理解を深めていただくようお願いします。

また、人の発達に関するテーマは新聞、テレビ、小説、漫画などメディアを問わず描かれています。様々な物事に興味・関心を持って日常生活を送ることも、この授業の事前準備となります。1日30分ほどでも良いので、新聞やテレビのニュースを観る際に、発達や教育という視点から考えてみてほしいと思います。

【参考文献・資料等】

授業時に配布する資料に毎回掲載しますので、そちらをご確認ください。

障がいのある履修者への対応： 事前に学務部等へご連絡するようお願いします。その上で、可能な限り対応いたします。

授業時間外の連絡手段： 初回授業にて連絡用のメールアドレスをお教えしますので、そちらをご利用ください。または、学務部のほうへお問い合わせをお願いします。

留意事項： 受講者数が教室収容可能人数または100名を超える場合、初回授業にて抽選を行い人数調整をします。また、その際は公平を期すために初回授業以降の登録は認めません。抽選を行う場合はIC-UNIPAの掲示板にてお知らせしますので、ご確認ください。

科目コード：10114

科目ナンバリング：

主な使用言語：日本語

授業名(英文)：人生と儀礼(Life and Ceremonies)

担当者：榎陽介

基本情報

年次：1

単位数：2

授業形式：講義

曜時：水曜2限

履修可能学科・専攻：E Pe Pc C W F N M

関連資格：

AL要素：17.発問と回答

授業の概要： 私たちの文化は均一ではない。過去においても現在においても同様である。実は「日本」という大きなくくりでは漏れてしまうような多様性が存在し続けてきた。現在伝統的で日本的だと思われることの実際はどうなのだろうか？ この授業では人の一生を題材とし、関係する習俗とその多様性を再確認する。この授業を通じて多様で豊かな日本文化に触れてみたい。授業では、民俗学の方法を用い、人の誕生以前から死後までを考える。人の一生は儀礼によりいくつにも区切られている。一年という時間が正月や盆といった季節の行事により区切られているのと同様である。その意味を多くの事例を通して知ることにより、ともすれば均一な文化のように感じられている現代社会だが、その底に潜む差異に満ちた姿を学び、「伝統的」と画一的に考えられているかつての生活文化の多様性を知る。また、理解を助けるために、人の一生に関する映像も豊富に使う予定。

※対面で行う予定だが、感染状況なども考慮して遠隔(Teams)も併用することもある。

※レジメなどについては、原則として授業の前々日にUNIPAにアップする。

キーワード： 民俗学 人の一生 通過儀礼 日本人 習俗 伝統とはなにか 多様性 誕生 結婚 死

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標： 授業では順を追って人の一生についての習俗について学ぶ。具体的なイメージを得やすいよう

に、一生の各段階について、それぞれ映像を用いる。最後にまとめとして学んだ内容を再確認するので、きちんと受講していれば授業内容を習得できるようになっている

評価方法: 学年末の筆記試験

評価割合: 80

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 授業内容を理解し、自らの知識として獲得したことを、表現記述していること。

評価方法: 学年末の筆記試験

評価割合: 20

▼学修に主体的に取り組む態度

授業で扱う内容について、自ら知識を得ようと努力することが求められる。また、周辺の習俗にも注意を向けることにより、授業内容がよりよく理解されるだろう。

評価割合: 0

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象としない

評価割合: 0

▼公正性

直接的な評価対象としない

ただし、授業中の態度および試験における不正な行為については対象となる場合がある。

評価割合: 0

▼その他

とくにない

評価割合: とくにない

授業計画: 第1回 ガイダンス:この授業で学ぶこと
第2回 通過儀礼としての人の一生
第3回 「民俗学」というものの見方
第4回 誕生前後と誕生後1
第5回 誕生前後と誕生後2
第6回 子どもの世界1
第7回 子どもの世界2
第8回 一人前になる:成人儀礼1
第9回 一人前になる:成人儀礼2
第10回 婚姻の習俗1
第11回 婚姻の習俗2
第12回 死と葬送・死後の供養の儀礼1
第13回 死と葬送・死後の供養の儀礼2
第14回 通過儀礼と家屋、食、道具
第15回 まとめ
定期試験

使用テキスト: とくに用いない

必要に応じて資料などは配布する。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 民俗学に関する書籍・情報に目を通し、民俗学の世界に慣れておくこと。テレビなどの番組にも授業と関連するような話題はよく登場する。
参考資料として下記の書籍は有用である。
谷口・板橋編著『日本人の一生-通過儀礼の民俗学-』八千代出版 2014年

障がいのある履修者への対応: どのように対応できるか検討しますので、まずは学務部などに連絡してください

授業時間外の連絡手段： 学務などにご相談ください

留意事項： とくにない

科目コード：10115 科目ナンバリング： 主な使用言語：日本語

授業名(英文)： カウンセリングとメンタルヘルス(Counselling and Mental Health)

担当者： 水柿 義之

基本情報

年次：1

単位数：2

授業形式：講義

曜時：月曜3限

履修可能学科・専攻： E Pe Pc C W F N M

関連資格：

AL要素： 振り返り用紙と応答
発問と回答
実験・実技・体験
協同学修

授業の概要： 悩みがあつて親や友人、先生、先輩などに相談した時に、「話してよかった」と思う時もあるが「話さなければよかった」と思う時もありますよね。
カウンセリングを学ぶと、誰かに相談された時に、相手が「話してよかった」と感じるようになります。
本授業では、カウンセリングを知的だけではなく体験的に理解するためにグループワークやリスニングの演習を行います。

メンタルヘルスとは心の健康のことを言います。
ストレスを受けると心臓がドキドキしたり、呼吸が苦しくなったり、頭や肩が痛くなったり、眠れなくなったりしますよね。これは自律神経の影響です。
また、人間関係において、つい引きこもってしまう、誰かと一緒にいないと不安になる、いつも人を警戒している。これらはアタッチメント(愛着)の影響です。
本授業では、メンタルヘルスを保つために、自律神経やアタッチメントについて学び、それらを整えるエクササイズを行います。

学んだことを日常生活に活かせるように、エクササイズやグループワークをたくさん行います。

キーワード： カウンセリング、メンタルヘルス、ストレス、アタッチメント、自律神経、トラウマ、ポリヴェーガル理論

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標： カウンセリングとメンタルヘルスの知識を身につけている。

評価方法： 期末レポート

評価割合： 50%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標： 自身のメンタルヘルスについて思考し、論理的かつ簡潔に自らの所見を表現することができる。

評価方法： 期末レポート

評価割合： 50%

▼ 学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし自主的な学修によって自身の知見に追加された成果等がレポートの記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合： 0%

▼ 実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動や、レポート作成の際、引用元を示さずに他者の文章をそのままコピーするなどの不正行為があった場合は減点の対象となる。

評価割合：0%

▼その他

遅刻や早退、私語、内職、頻繁な退出などは減点の対象となる。事情がある場合は前もって伝えること。

評価割合：遅刻や早退、私語、内職、頻繁な退

- 授業計画：
- 第1回 ガイダンス
 - 第2回 ストレスマネジメントのエクササイズ(レポート)
 - 第3回 自律神経の基本
 - 第4回 自律神経を整えるエクササイズ(レポート)
 - 第5回 対人緊張から安心へ
 - 第6回 安心を感じるグループワーク(レポート)
 - 第7回 カウンセリングとは
 - 第8回 リスニングのグループワーク①(レポート)
 - 第9回 アタッチメントの理解
 - 第10回 大人のアタッチメント
 - 第11回 アタッチメントの修復①
 - 第12回 リソースのエクササイズ(レポート)
 - 第13回 リスニングのグループワーク②(レポート)
 - 第14回 アタッチメントの修復②
 - 第15回 まとめ(レポート)

使用テキスト： 授業で使用する資料はIC-UNIPAで配布します。各自ダウンロード・印刷してください。

予習・復習のポイントと 復習：授業の感想や質問を記入する。(10分)
参考文献・資料等： 予習：他の学生の感想や質問に目を通す。(15分)

参考図書
「今ここ」神経系エクササイズ 浅井咲子

障がいのある 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください。
履修者への対応：

授業時間外の連絡手段： 連絡はIC-Mail :アドレス mizugaki_yoshiyuki@icc.ac.jp

留意事項： ①デバイスの持参を推奨します。

②受講希望者多数の場合は履修者の選出を行います。
上位学年から優先的に選出します。その他の学年は抽選を行います。選出結果は、IC-UNIPAの「クラスプロフィール」の「授業資料」に掲載します。履修者選出の結果、履修が認められなかった学生は履修登録を取り消してください。

③エクササイズやグループワークを行います。
コミュニケーションや人間関係が苦手な人も歓迎します。緊張を緩和する方法を教えるのでコミュニケーションの練習になります。

④期末レポートについて
各授業時のレポートの集積が期末レポートになります。次時の授業時にコメントします。

科目コード：10116

科目ナンバリング：

主な使用言語：日本語

授業名(英文)：対人関係の心理学 a (Interpersonal Psychology a)

担当者：水柿 義之

基本情報

年次：1

単位数：2

授業形式：講義

曜時：月曜4限

履修可能学科・専攻：E Pe Pc C W F N M

関連資格：

AL要素：振り返り用紙と応答
発問と回答
実験・実技・体験
協同学修

授業の概要： 青年期は対人関係が難しい時期です。人といっても気を遣ってしまったり、本当の気持ちを隠すようになっていたりします。人といっても安心できなくなることもあります。本授業では青年期における対人関係の心理を学びます。

①昔話(三年寝太郎、一寸法師、瓜子姫、桃太郎など)の心理学的解釈をもとに、心が子どもから大人に成長する過程を考察します。

②エクササイズを通して、自分とつながる方法、怒りの感情との付き合い方、価値観を整理する方法、思い込みから抜け出す方法などを学びます。

③グループワークを通して、対人緊張の緩め方、初めて話す人と打ち解ける方法などを学びます。

キーワード： 対人関係、青年期、社会性の発達、自己実現、怒り、昔話、グループワーク、思い込み

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 授業で扱った内容の理論的・体験的学習を通して、対人関係の心理学の知識を身につけている。

評価方法： 期末レポート

評価割合： 50%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 授業における経験を踏まえて、自身の対人関係について思考し、論理的かつ簡潔に自らの所見を表現することができる。

評価方法： 期末レポート

評価割合： 50%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし自主的な学修によって自身の知見に追加された成果等がレポートの記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合： 0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。

評価割合： 0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動や、レポート作成の際、引用元を示さずに他者の文章をそのままコピーするなどの不正行為があった場合は減点の対象となる。

評価割合： 0%

▼その他

遅刻、早退、私語、内職、頻繁な退出などは減点の対象となる。事情がある場合は前もって伝えること。

評価割合： 遅刻、早退、私語、内職、頻繁な退

授業計画： 第1回 ガイダンス

- 第2回 乳幼児期の心理: 三年寝太郎
- 第3回 中身とつながるエクササイズ(レポート)
- 第4回 児童期の心理: 一寸法師
- 第5回 コミュニケーションのグループワーク(レポート)
- 第6回 青年期の心理: 瓜子姫
- 第7回 青年期の葛藤のエクササイズ(レポート)
- 第8回 怒りの仕組み
- 第9回 怒りと上手に付き合うエクササイズ(レポート)
- 第10回 心の魔法を解くエクササイズ(レポート)
- 第11回 カラを柔らかくするグループワーク(レポート)
- 第12回 おとなになるということ: 桃太郎①
- 第13回 おとなになるということ: 桃太郎②
- 第14回 おとなとして出会うグループワーク(レポート)
- 第15回 まとめ(レポート)

使用テキスト: 授業で使用する資料はIC-UNIPAに登録します。各自ダウンロードや印刷をしてください。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 復習: 授業の感想や質問を記入する。(10分)
予習: 他の学生の感想や質問に目を通す。(15分)

参考図書
見られる自分～マザコンと自立の臨床発達心理学 鈴木研二

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください。

授業時間外の連絡手段: mizugaki_yoshiyuki@icc.ac.jp

留意事項: ①デバイスの持参を推奨します。

②受講希望者多数の場合は履修者の選出を行います。
上位学年から優先的に選出します。その他の学年は抽選を行います。選出結果は、IC-UNIPAの「クラスプロファイル」の「授業資料」に掲載します。履修者選出の結果、履修が認められなかった学生は履修登録を取り消してください。

③エクササイズやグループワークを行います。
コミュニケーションや人間関係が苦手な人も歓迎します。緊張を緩和する方法を教えるのでコミュニケーションの練習になります。

④期末レポートについて
各授業時のレポートの集積が期末レポートになります。次時の授業時にコメントします。

科目コード: 10116 **科目ナンバリング:** **主な使用言語:** 日本語

授業名(英文): 対人関係の心理学 b (Interpersonal Psychology b)

担当者: 水柿 義之

基本情報

年次: 1	単位数: 2	授業形式: 講義
曜時: 月曜4限	履修可能学科・専攻: E Pe Pc C W F N M	
関連資格:	AL要素: 振り返り用紙と応答 発問と回答 実験・実技・体験 協同学修	

授業の概要: 青年期は対人関係が難しい時期です。人といっても気を遣ってしまったり、本当の気持ちを隠すようになってしまいます。人といっても安心できなくなることもあります。本授業では青年期における対人関係の心理を学びます。

①昔話(三年寝太郎、一寸法師、瓜子姫、桃太郎など)の心理学的解釈をもとに、心が子どもから大人に成長する過程を考察します。

②エクササイズを通して、自分とつながる方法、怒りの感情との付き合い方、価値観を整理する方法、思い込みから抜け出す方法などを学びます。

③グループワークを通して、対人緊張の緩め方、初めて話す人と打ち解ける方法などを学びます。

キーワード： 対人関係、青年期、社会性の発達、自己実現、怒り、昔話、グループワーク、思い込み

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 授業で扱った内容の理論的・体験的学習を通して、対人関係の心理学の知識を身につけている。

評価方法： 期末レポート

評価割合： 50%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 授業における経験を踏まえて、自身の対人関係について思考し、論理的かつ簡潔に自らの所見を表現することができる。

評価方法： 期末レポート

評価割合： 50%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし自主的な学修によって自身の知見に追加された成果等がレポートの記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合： 0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。

評価割合： 0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動や、レポート作成の際、引用元を示さずに他者の文章をそのままコピーするなどの不正行為があった場合は減点の対象となる。

評価割合： 0%

▼その他

遅刻、早退、私語、内職、頻繁な退出などは減点の対象となる。事情がある場合は前もって伝えること。

評価割合： 遅刻、早退、私語、内職、頻繁な退

授業計画：

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 乳幼児期の心理：三年寝太郎
- 第3回 中身とつながるエクササイズ(レポート)
- 第4回 児童期の心理：一寸法師
- 第5回 コミュニケーションのグループワーク(レポート)
- 第6回 青年期の心理：瓜子姫
- 第7回 青年期の葛藤のエクササイズ(レポート)
- 第8回 怒りの仕組み
- 第9回 怒りと上手に付き合うエクササイズ(レポート)
- 第10回 心の魔法を解くエクササイズ(レポート)
- 第11回 カラを柔らかくするグループワーク(レポート)
- 第12回 おとなになるということ：桃太郎①
- 第13回 おとなになるということ：桃太郎②

第14回 おとなとして出会うグループワーク(レポート)

第15回 まとめ(レポート)

使用テキスト: 授業で使用する資料はIC-UNIPAに登録します。各自ダウンロードや印刷をしてください。

予習・復習のポイントと 復習:授業の感想や質問を記入する。(10分)

参考文献・資料等: 予習:他の学生の感想や質問に目を通す。(15分)

参考図書

見られる自分〜マザコンと自立の臨床発達心理学 鈴木研二

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください。

授業時間外の連絡手段: mizugaki_yoshiyuki@icc.ac.jp

留意事項: ①デバイスの持参を推奨します。

②受講希望者多数の場合は履修者の選出を行います。
上位学年から優先的に選出します。その他の学年は抽選を行います。選出結果は、IC-UNIPAの「クラスプロフィール」の「授業資料」に掲載します。履修者選出の結果、履修が認められなかった学生は履修登録を取り消してください。

③エクササイズやグループワークを行います。
コミュニケーションや人間関係が苦手な人も歓迎します。緊張を緩和する方法を教えるのでコミュニケーションの練習になります。

④期末レポートについて
各授業時のレポートの集積が期末レポートになります。次時の授業時にコメントします。

科目コード: 10117

科目ナンバリング:

主な使用言語: 日本語

授業名(英文): 歴史に学ぶ(Learning from History)

担当者: 永井 博

基本情報

年次: 1

単位数: 2

授業形式: 講義

曜時: 月曜3限

履修可能学科・専攻: E Pe Pc C W F N M

関連資格:

AL要素: 振り返り用紙と応答

授業の概要: 過去にあったさまざまな自然災害への対応、戦争、事件などの原因・結果の分析、思想・文化のありかたなどを通して、今後のあるべき社会を考えるために、歴史から学ぶことはたくさんあります。また、その時代と現代との価値観の相違点、あるいは共通点を考えることは、現代社会における多様性理解とさまざまな課題についての解決のヒントを与えてくれるでしょう。

本授業では、以上の観点に留意して日本の近世(江戸時代)をテーマごとに考察していきますが、必要に応じ、高校教科書や歴史書の執筆経験、博物館での展示、アーカイブズでの史料整理などの実務経験をふまえた具体的な事例も紹介していきたいと思えます。

キーワード: 江戸 多様性 幕藩体制 価値観

学位授与方針との関係

▼ **知識・技能**

到達目標: 授業で解説した日本近世(江戸時代)の歴史・思想・文化について理解し、自分の言葉で説明することができる。

評価方法: 学期末試験

評価割合: 50%

▼ **思考力・判断力・表現力**

到達目標: 授業や自主学修を通じ得た知識をもとに、歴史的思考の方法を深め、論理的に自分の所見を表現することができる

評価方法: 学期末試験

評価割合: 30%

▼学修に主体的に取り組む態度

授業中の学習内容を板書等以外も記録したり、疑問点などを質問するなど、知識を積極的に取り込む姿勢については、評価の対象とする。

評価割合: 20%

▼実践的ボランティア

直接的な評価の対象としない。

評価割合: 0%

▼公正性

直接的な評価の対象としない。

評価割合: 0%

▼その他

特になし。

評価割合: 特になし。

授業計画: 第1回:オリエンテーションー本授業のねらいと進め方ー
第2回:「天下統一」とはどのようなことか?ー「近世」への道
第3回:「法」と「儀礼」による支配
第4回:参勤交代とは何か
第5回:インフラの整備ー水上と陸上ー
第6回:江戸時代の国際関係ー4か所の海外との接点
第7回:生命尊重への転換ー「生類憐みの令」と「物忌令」
第8回:思想と宗教、信仰
第9回:江戸の教育力ー藩校と私塾ー
第10回:江戸の旅ー公務から物見遊山まで
第11回:江戸文化を楽しむー文学・絵画・造形
第12回:武家・農民・町人の生活の諸相
第13回:自然災害・疫病とのたたかい
第14回:幕末の外交・防衛ー欧米列強の植民地獲得競争への警戒と対応
第15回:西欧化への道程ーまとめ
定期試験

使用テキスト: 講義で使用する資料は必要に応じ印刷、配布する。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 高等学校で日本史を履修している場合は、江戸時代に関する部分を読み返す。履修していない場合はテーマに関する事項についてインターネットで検索するなどして予習をしておく(60分)。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください。

授業時間外の連絡手段: メールでの連絡を受け付けます(アドレスは配布資料に記載)。

留意事項: 特になし。

科目コード:10118

科目ナンバリング:

主な使用言語:日本語

授業名(英文):日本社会の歴史 a(History of Japanese Society a)

担当者:藤野 真挙

基本情報

年次：1

単位数：2

授業形式：講義

曜時：金曜4限

履修可能学科・専攻：E Pe Pc C W F N M

関連資格：

AL要素：08、協同学修
10、資料調査課題
17、発問と回答

授業の概要： 日本の江戸期の社会について学びます。高校日本史の教科書にも登場する事項について、近年の歴史学研究的知見を交えながら解説していきます。基本的には教員による講義で授業を進行しますが、授業のテーマによっては(たとえば第8回・第9回)協同学修や資料調査課題を講義中に取り入れ、興味と理解を深めていってもらいます。

キーワード： 幕藩体制、鎖国、身分制、町人社会、農村社会

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 授業で解説を受けた基本的な概念・歴史的事実について、概ね80%の事項を暗記し、解答することができる。

評価方法： 学期末試験

評価割合： 50%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 授業で扱った内容について、自主学修によって得た知見や経験をふまえて考察し、論理的かつ簡潔に自らの所見を表現することができる。

評価方法： 学期末試験

評価割合： 50%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし自主的な学修によって自身の知見追加された成果等が学期末試験の記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

他の学生の学修に支障をきたすような迷惑な行為がみられた場合には、厳重注意の対象とする。

評価割合： 0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただし資料調査課題や協同学修等の実践により深められた知見等が学期末試験の記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合： 0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし人権侵害、差別、不正等の行為で著しく公正性を欠く場合は、減点や厳重注意の対象となるので注意すること。

評価割合： 0%

▼その他

特になし。

評価割合： 特になし。

授業計画： 第1回:ガイダンス
第2回:江戸期の政治体制①ー「幕府」「幕藩体制」とは何かー
第3回:江戸期の政治体制②ー「鎖国」とは何かー
第4回:江戸期の社会体制①ー「士農工商」とは何かー
第5回:江戸期の社会体制②ー被差別身分についてー
第6回:武家の生活と「イエ」の誕生
第7回:江戸時代人の名前について
第8回:江戸の町の食文化

- 第9回:江戸の町と生活
- 第10回:江戸時代の宗教について―仏教は信仰されていたのか―
- 第11回:江戸時代人の「旅」について
- 第12回:江戸時代にかかわるいくつかの誤解―「江戸しぐさ」について―
- 第13回:農村社会について①―村とは何か―
- 第14回:農村社会について②―農村の階層関係について―
- 第15回:まとめ

使用テキスト: 授業で使用する資料はすべて印刷・配付する。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 授業前にその回のテーマについて高校日本史の教科書を読み直すなど、用語を調べる(60分)
各授業回に用いた専門研究論文については、レジュメに掲示するので、それを参考資料として復習する(120分)。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください。

授業時間外の連絡手段: オフィスアワーに研究室で対応します。曜日・時限等については初回にお知らせします。

留意事項: 特になし。

科目コード: 10118 **科目ナンバリング:** **主な使用言語:** 日本語

授業名(英文): 日本社会の歴史 b(History of Japanese Society b)

担当者: 藤野 真拳

基本情報

年次: 1

単位数: 2

授業形式: 講義

曜時: 金曜4限

履修可能学科・専攻: E Pe Pc C W F N M

関連資格:

AL要素: 08、協同学修
10、資料調査課題
17、発問と回答

授業の概要: 日本近代史、特に明治時代の社会について学びます。日本近代は現代にも続く資本主義社会が形成されていった時期です。こうした社会の変化が日本に何をもたらしたのか、その功罪について学びます。基本的には教員による講義で授業を進行しますが、授業のテーマによっては協同学修や資料調査課題を講義中に取り入れ、興味と理解を深めていきます。

キーワード: 明治時代、格差社会、メディア、近代家族、「中央」―「地方」の誕生、国民国家

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標: 授業で解説を受けた教育の基本的な概念・歴史的事実について、概ね 80%の事項を暗記し、解答することができる。

評価方法: 学期末試験

評価割合: 50%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標: 授業で扱った内容について、自主学修によって得た知見や経験をふまえて考察し、論理的かつ簡潔に自らの所見を表現することができる。

評価方法: 学期末試験

評価割合: 50%

▼ 学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし自主的な学修によって自身の知見追加された成果等が 学期末試験の記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

る。

他の学生の学修に支障をきたすような迷惑な行為がみられた場合には、嚴重注意の対象とする。

評価割合：0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただし資料調査課題や協同学修等の実践により深められた知見等が学期末試験の記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし人権侵害、差別、不正等の行為で著しく公正性を欠く場合は、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。

評価割合：0%

▼その他

特になし。

評価割合：特になし。

授業計画： 第1回：ガイダンスー私たちの生きづらさー
第2回：ペリー来航と文明開化
第3回：身分制の解体①ー武士の転生ー
第4回：身分制の解体①ー「四民平等」と「部落差別」の誕生ー
第5回：身分制の解体②ー自由民権運動と地域社会ー
第6回：資本主義経済の形成①ー「貧民窟」と国民形成ー
第7回：資本主義経済の形成②ー立身出世の競争社会ー
第8回：明治の社会改造①ー「都市」の誕生ー
第9回：明治の社会改造②ー「地方」の誕生ー
第10回：近代家族の誕生ーイエと女性ー
第11回：明治の宗教①ー明治初期の宗教改革と神道ー
第12回：明治の宗教②ー「国家神道」とは何かー
第13回：ナショナリズムとマイノリティ①ーアイヌと沖縄人の迎えた近代ー
第14回：ナショナリズムとマイノリティ②ー帝国日本と植民地ー
第15回：まとめー明治社会の光と影ー
※学期末試験

使用テキスト： 授業で使用する資料はすべて印刷・配付する。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 授業前にその回のテーマについて高校日本史の教科書を読み直すなど、用語を調べる(60分)
各授業回に用いた専門研究論文については、レジュメに掲示するので、それを参考資料として復習する(120分)。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください。

授業時間外の連絡手段： オフィスアワーに研究室で対応します。曜日・時限等については初回にお知らせします。

留意事項： 特になし。

科目コード：10119

科目ナンバリング：

主な使用言語：日本語

授業名(英文)：ことばと人間(Language and Humanity)

担当者：三上 司

基本情報

年次：1

単位数：2

授業形式：講義

曜時：火曜3限

履修可能学科・専攻：E Pe Pc C W F N M

関連資格：

AL要素： 09,10,15,17

授業の概要： 言語を使用する能力は、人間を他の動物から区別する重要な特徴とされている。人間は言語のおかげでコミュニケーションが可能となり、高度な思考を働かせることが可能となり、文学作品なども味わうことができるのである。したがって、人間を深く理解するためには、言語の本質を理解することが極めて重要になってくる。本講義では、日本語の変化を材料にして、人間にとって言語とはどのようなものなのか、また言語の歴史的研究を通じて何が明らかとなるのかについて考えていく。

キーワード： 日本語、言語変化、社会変化、日本語史、日本史

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標： 言葉の変化には、社会変化が反映している面と、言語使用そのものに起因する面とがあることを識別することができる。

評価方法： 授業への参加とテスト

評価割合： 50%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標： 言語変化の研究により、現代の言語に対する理解が深まり、言語を正しく使用することができる。

評価方法： 授業への参加とテスト

評価割合： 50%

▼ 学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。

評価割合： 0%

▼ 実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。

評価割合： 0%

▼ 公正性

直接的な評価対象とはしない。

評価割合： 0%

▼ その他

特になし。

評価割合： 特になし。

授業計画：

1. はじめに
2. 上代日本語<1>(奈良時代)
3. 上代日本語<2>
4. 古代日本語<1>(平安時代)
5. 古代日本語<2>
6. 中世日本語<1>(鎌倉・室町)
7. 中世日本語<2>
8. 中世日本語<3>
9. 近代日本語<1>(江戸時代)
10. 近代日本語<2>
11. 近代日本語<3>
12. 現代日本語<1>(明治以降)
13. 現代日本語<2>
14. 現代日本語<3>
15. 方言・まとめ

使用テキスト： 印刷物を配布します。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 参考書等は授業の中で適宜紹介します。

障がいのある 可能な限り対応します。
履修者への対応:

授業時間外の連絡手段: 最初の事業で提示します。

留意事項: 特になし。

科目コード:10120 科目ナンバリング:LA10C17K 主な使用言語:日本語

授業名(英文): 文学を楽しむ a(Literature Appreciation a)

担当者: 和泉 涼一

基本情報

年次:1

単位数:2

授業形式:講義

曜時:月曜4限

履修可能学科・専攻: E Pe Pc C W F N M

関連資格:

AL要素: 講義と討論

授業の概要: 【特例期間中の授業形態】課題研究型

およそ人間であるかぎりには人生に悩むのが当たり前です。まして若い人たちは、ニキビや自殺の事など、およそあらゆることが悩みのタネとなるものです。このクラスでは、それらのありとあらゆる人生の諸問題をめぐって、世界と日本の文学作品をみなさんに紹介し、考えを深めていくことを目的とします。なかでも、ドストエフスキー、シェイクスピア、カフカ、カミュ、カズオ・イシグロ、ハクスリー、ビートルズ、ボブ・ディラン、漱石、宮沢賢治、太宰、谷崎、遠藤周作、吉本ばなな、安部公房、田辺聖子など、人間と世界を理解するうえで若いときにどうしても読んでおいたほうがよいクラシックな作品を紹介する予定です。

- 1) 日本と世界の著名な物語作品の内容をテキストと映像をつづいて理解します(「それはどんな話でどんなふうに語られているのか?」)。
- 2) それらが描かれた時代背景や作者についての知識を深めます(「いつの時代のどんな人が書いたのか?」)。
- 3) そこに描かれていることがらを、自分自身の問題として捉えうる感性を身につけます(「もし自分だったらどうだろう?」)。
- 4) これらの物語を鑑賞することで、生きることの喜びや苦しみ、そして人を愛することの切なさが少しでも理解できるようになること(「その気持ち、わかるなあ」)。
- 5) 毎回、作品の抜粋を観賞します。そして、それらの作品を創造した作者とその時代背景、その作品が及ぼした影響などを解説します。時間が許す範囲で、それらの作品の映画化も扱います。
- 6) 授業で紹介されたそれらの作品を、じっさいに読んでみるのがつよく推奨されます。
- 7) とりあげる作家・作品については、教室における学生のリクエストを重視します。こういう作品に触れてみたいという希望があれば随時、そして遠慮なく申し出てください。みんなの賛成があれば、予定のテーマや作品を変更することもあります。また作品をとりあげる順序は、全体の構成上変更することがあります。
- 8) 時間のゆるすかぎり個々の学生の意見を紹介します。その意見をもとにしてさらに議論が深まることを期待します。

キーワード: 人間 人生 悩み 自殺 恋愛 物語 テキスト 映像 切なさ 性

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標: 授業で学んだことが80%理解できること。

評価方法: 「まとめとチェック」(最終授業)で簡単な確認をおこないます。その点数によります。出席点はありませんが、授業での活躍や課題の提出状況等は考慮します。

評価割合: 100%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標: 上記に含まれます。

評価方法: 上記に準じます。

評価割合: 0%

▼学修に主体的に取り組む態度

特になし。

評価割合: 0%

▼実践的ボランティア

特になし。

評価割合: 0%

▼公正性

特になし。

評価割合: 0%

▼その他

特になし。

評価割合: 特になし。

授業計画: 以下、2回目から14回目の作品の順序は入れ替わる場合があります。

- 01 オリエンテーション
- 02 「金貸しの婆？殺してしまえ」～ドストエフスキー『罪と罰』
- 03 「金貸しの婆？殺してしまえ」～ドストエフスキー『罪と罰』2
- 04 「金貸しの婆？殺してしまえ」～ドストエフスキー『罪と罰』3
- 05 「思春期の愛と性 車椅子の女の子と大学生」～田辺聖子『ジョゼと虎と魚たち』
- 06 「思春期の愛と性 好きな場所は冷蔵庫のとなり」～吉本ばなな『キッチン』
- 07 「圧倒する女の愛」～与謝野晶子『みだれ髪』
- 08 「しょうがない、覚悟を決めましょう 親友の妻を奪う」～夏目漱石『それから』
- 09 「しょうがない、覚悟を決めましょう 親友の妻を奪う」～夏目漱石『それから』2
- 10 「生きるべきか死ぬべきか」～シェイクスピア『ハムレット』
- 11 「生きるべきか死ぬべきか」～シェイクスピア『ハムレット』2
- 12 「生きるべきか死ぬべきか」～シェイクスピア『ハムレット』3
- 13 「銀河鉄道はどこへ行く」～宮沢賢治『銀河鉄道の夜』
- 14 「銀河鉄道はどこへ行く」～宮沢賢治『銀河鉄道の夜』2
- 15 まとめとチェック

(上記作品は一例です。みなさんのリクエストなどにより変更の可能性あります。)

使用テキスト: プリントを準備します。

予習・復習のポイント 授業中にその都度指示します。

参考文献・資料等: 基本的に教員側で準備しますが、あまり高額ではない書籍(文庫本など)を指定することがあります。

障がいのある履修者への対応: まずは教務部窓口に相談しましょう。

授業時間外の連絡手段: オフィスアワー

留意事項: (ほぼ)毎回、かんたんな課題を出します。任意ですがなるべく提出しましょう。きちんと書いてあれば高く評価します。

授業内容の性質上、暴力的な、あるいは性的な描写が出てくる場合があります。そういう場合は事前に注意を喚起しますが、それを不快に思う人は受講しないでください。

受講者が多すぎるときは初回に抽選となります。その場合、初回欠席者は追加登録できないので注意してください。

科目コード: 10120

科目ナンバリング: LA10C17K

主な使用言語: 日本語

授業名(英文): 文学を楽しむ b(Literature Appreciation b)

担当者: 和泉 涼一

基本情報

年次: 1

単位数: 2

授業形式: 講義

曜時: 月曜4限

履修可能学科・専攻: E Pe Pc C W F N M

関連資格:

AL要素: 講義と討論

授業の概要: 【授業形態ガイドライン・レベルⅢ、レベルⅡ課題研究型】

およそ人間であるかぎりには人生に悩むのが当たり前です。まして若い人たちは、ニキビや自殺の事など、およそあらゆることが悩みのタネとなるものです。このクラスでは、それらのありとあらゆる人生の諸問題をめぐって、世界と日本の文学作品をみなさんに紹介し、考えを深めていくことを目的とします。なかでも、ドストエフスキー、シェイクスピア、カフカ、カミュ、カズオ・イシグロ、ハクスリー、フィッツジェラルド、ビートルズ、ボブ・ディラン、漱石、宮沢賢治、太宰、谷崎、遠藤周作、吉本ばなな、安部公房、田辺聖子など、人間と世界を理解するうえで若いときにどうしても読んでおいたほうがよいクラシックな作品を紹介する予定です。

- 1) 日本と世界の著名な物語作品の内容をテキストと映像をつづいて理解します(「それはどんな話でどんなふうに語られているのか?」)。
- 2) それらが描かれた時代背景や作者についての知識を深めます(「いつの時代のどんな人が書いたのか?」)。
- 3) そこに描かれていることがらを、自分自身の問題として捉えうる感性を身につけます(「もし自分だったらどうだろう?」)。
- 4) これらの物語を鑑賞することで、生きることの喜びや苦しみ、そして人を愛することの切なさが少しでも理解できるようになること(「その気持ち、わかるなあ」)。
- 5) 毎回、作品の抜粋を観賞します。そして、それらの作品を創造した作者とその時代背景、その作品が及ぼした影響などを解説します。時間が許す範囲で、それらの作品の映画化も扱います。
- 6) 授業で紹介されたそれらの作品を、じっさいに読んでみるものがつよく推奨されます。
- 7) とりあげる作家・作品については、教室における学生のリクエストを重視します。こういう作品に触れてみたいという希望があれば随時、そして遠慮なく申し出てください。みんなの賛成があれば、予定のテーマや作品を変更することもあります。また作品をとりあげる順序は、全体の構成上変更することがあります。
- 8) 時間のゆるすかぎり個々の学生の意見を紹介します。その意見をもとにしてさらに議論が深まることを期待します。

キーワード: 宗教 キリスト教 人間 人生 悩み 自殺 恋愛 物語 テキスト 映像 切なさ 性

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標: 授業で学んだことが80%理解できること。

評価方法: 「まとめとチェック」(最終授業)で簡単な確認をおこないます。その点数によります。出席点はありませんが、授業での活躍や課題の提出状況は考慮します。

評価割合: 100%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標: 上記に含まれます。

評価方法: 上記に準じます。

評価割合: 0%

▼ 学修に主体的に取り組む態度

特になし。

評価割合：0%

▼実践的ボランティア

特になし。

評価割合：0%

▼公正性

特になし。

評価割合：0%

▼その他

特になし。

評価割合：特になし。

授業計画： 以下、2回目から14回目の作品の順序は入れ替わる場合があります。

- 01 オリエンテーション
 - 02 「虫になっても無視しないで」～カフカ『変身』
 - 03 「虫になっても無視しないで」～カフカ『変身』2
 - 04 「神を捨てる」～遠藤周作『沈黙』
 - 05 「神を捨てる」～遠藤周作『沈黙』2
 - 06 「神を捨てる」～遠藤周作『沈黙』3
 - 07 「大切なものは目にみえないんだ」～サン＝テグジュペリ『星の王子さま』
 - 08 「大切なものは目にみえないんだ」～サン＝テグジュペリ『星の王子さま』2
 - 09 「男の純愛、女の打算」～フィッツジェラルド『グレート・ギャツビー』
 - 10 「男の純愛、女の打算」～フィッツジェラルド『グレート・ギャツビー』2
 - 11 「盲目の女師匠と弟子 禁断の愛」～谷崎潤一郎『春琴抄』
 - 12 「盲目の女師匠と弟子 禁断の愛」～谷崎潤一郎『春琴抄』2
 - 13 「緑色の目をした悪魔」～シェイクスピア『オセロ』
 - 14 「緑色の目をした悪魔」～シェイクスピア『オセロ』2
 - 15 まとめとチェック
- (上記作品は一例です。みなさんのリクエストなどにより変更の可能性があります)。

使用テキスト： プリントを準備します。

予習・復習のポイントと 授業中にその都度指示します。

参考文献・資料等： 基本的に教員側で準備しますが、あまり高額ではない書籍(文庫本など)を指定することがあります。

障がいのある 履修者への対応： まずは教務部窓口にご相談しましょう。

授業時間外の連絡手段： オフィスアワー

留意事項： (ほぼ)毎回、かんたんな課題を出します。任意ですがなるべく提出しましょう。きちんと書いてあれば高く評価します。
授業内容の性質上、暴力的な、あるいは性的な描写が出てくる場合があります。そういう場合は事前に注意を喚起しますが、それを不快に思う人は受講しないでください。
受講者が多すぎるときは初回に抽選をします。その場合、初回欠席者は追加登録できないので注意してください。

科目コード：10121

科目ナンバリング：LA10C18K

主な使用言語：日本語

授業名(英文)：美と芸術の歴史 a(History of Beauty and Art a)

担当者：二瓶 恵

基本情報

年次：1

単位数：2

授業形式：講義

曜時：月曜5限

履修可能学科・専攻：E Pe Pc C W F N M

関連資格：

AL要素：08.協同学習

授業の概要: 19世紀後半にフランスで誕生し花開いた「印象派」。今なお世界中の人々を魅了し続ける印象派の画家たちを、個々に知るとともにその背景や代表作品についても学び知識を深めていきます。

キーワード: 印象派、西洋美術、19世紀のヨーロッパ、パリの美術館

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標: 印象派以前のアカデミズムの流れをみながら、ルノワール、モネといった新しい時代を代表する画家11人を取り上げていきます。ひとりひとりの人生や性格を知ると共に、代表作品についても学び知識を深めていきます。

評価方法: 学期末試験

評価割合: 50%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 画家の生涯や代表作品についての知識を深めるために、印象派が誕生した19世紀後半のヨーロッパの時代的背景などもみていきます。

評価方法: 授業参加度、ミニテスト

評価割合: 30%

▼学修に主体的に取り組む態度

毎回ひとりずつ印象派の画家を取り上げ、関連する本や映画なども紹介していきます。授業時間は限られた少ない時間ですので、ぜひ授業外でも知識を増やして好きな画家や作品に出逢って欲しいなと思います。

評価割合: 10%

▼実践的ボランティア

印象派をはじめとするすばらしい美術展が、日本でも数多く開催されています。随時紹介していきますので、ぜひ自分の目で本物を鑑賞してもらえればと思います。

評価割合: 10%

▼公正性

授業中に行われるミニテストや学期末の試験において、不正があった場合は評価はゼロまたは失格とします。

評価割合: 0%

▼その他

遅刻/早退/退出は3回で1回の欠席扱いになります(オンライン授業におけるパソコン機器やWi-Fiの不具合等によるものはある程度考慮します)。

評価割合: 遅刻/早退/退出は3回で1回の欠席

授業計画:

- 【第01回】 授業に関するオリエンテーション
- 【第02回】 印象派(impressionnisme)とは
- 【第03回】 マネー近代絵画の父(《草上の昼食》《オランピア》)
- 【第04回】 モネー光と花と水のきらめき(《睡蓮》《アルジャントウイユのひなげし》)
- 【第05回】 ルノワールー少女と女性を描き続けて(《陽光の中の裸婦》《ムーラン・ドゥ・ラ・ギャレット》)
- 【第06回】 シスレーー空の画家(《ポール＝マルリの洪水》)
- 【第07回】 ピサロー穏やかな風景画(《赤い屋根》)
- 【第08回】 ベルト・モリゾーやさしい女性の眼差し(《ゆりかご》)
- 【第09回】 ドガー踊り子を描く(《エトワール》)
- 【第10回】 ゴッホー孤独に苦しんだ画家(《夜のカフェテラス》《黄色い家》)
- 【第11回】 ゴーギャンー南の島にて(《パラウ・アビ》)

- 【第12回】 セザンヌ—静物を描く(《セント・ヴィクトワール山》)
 - 【第13回】 スーラ—点描の画家(《グランド・ジャット島の日曜日の午後》)
 - 【第14回】 パリの美術館(ルーヴル、オルセー)
 - 【第15回】 パリの美術館(オランジュリー、マルモッタン)
- 定期試験

使用テキスト: 『イラストで読む—印象派の画家たち』、杉全美帆子、河出書房新社、1600円

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 『絵とき 印象派』、池上英洋(監修)、エムディエヌコーポレーション
『印象派絵画の見かた』、島田紀夫(監修)、東京美術
『知識ゼロからの印象派絵画入門』、大橋巨泉、幻冬舎
お勧めの分かりやすい解説書です。購入は自由です。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応します(学務部または教員へ声を掛けてください)

授業時間外の連絡手段: 連絡可能なメールアドレスを初回の授業でお知らせします

留意事項: 履修希望者が多い場合(50名程度を超える場合)、次期に移動してもらう(または抽選を行う)場合があります。いずれの場合も、初回に出席している学生さんのみが対象となります。

科目コード: 10121 **科目ナンバリング:** LA10C18K **主な使用言語:** 日本語

授業名(英文): 美と芸術の歴史 b(History of Beauty and Art b)

担当者: 二瓶 恵

基本情報

年次: 1	単位数: 2	授業形式: 講義
曜時: 月曜5限		履修可能学科・専攻: E Pe Pc C W F N M
関連資格:		AL要素: 08.協同学習 17.発問と回答

授業の概要: 【授業形態ガイドライン・レベルIII、レベルII】→遠隔授業(zoomによる同時双方型)、場合によっては課題研究型

19世紀後半にフランスで誕生し花開いた「印象派」。今なお世界中の人々を魅了し続ける印象派の画家たちを、個々に知るとともにその背景や代表作品についても学び知識を深めていきます。

キーワード: 印象派、西洋美術、19世紀のヨーロッパ、パリの美術館

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標: 印象派以前のアカデミズムの流れをみながら、ルノワール、モネといった新しい時代を代表する画家11人を取り上げていきます。ひとりひとりの人生や性格を知ると共に、代表作品についても学び知識を深めていきます。

評価方法: 学期末試験 **評価割合:** 50%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標: 画家の生涯や代表作品についての知識を深めるために、印象派が誕生した19世紀後半のヨーロッパの時代的背景などもみていきます。

評価方法: 授業参加度、ミニテスト **評価割合:** 30%

▼ 学修に主体的に取り組む態度

毎回ひとりずつ印象派の画家を取り上げ、関連する本や映画なども紹介していきます。授業時間は限られ

た少ない時間ですので、ぜひ授業外でも知識を増やして好きな画家や作品に出逢って欲しいなと思います。

評価割合：10%

▼実践的ボランティア

印象派をはじめとするすばらしい美術展が、日本でも数多く開催されています。随時紹介していきますので、ぜひ自分の目で本物を鑑賞してもらえればと思います。

評価割合：10%

▼公正性

授業中に行われるミニテストや学期末の試験において、不正があった場合は評価はゼロまたは失格とします。

評価割合：0%

▼その他

遅刻/早退/退出は3回で1回の欠席扱いになります(オンライン授業におけるパソコン機器やWi-Fiの不具合等によるものはある程度考慮します)。

評価割合：遅刻/早退/退出は3回で1回の欠席

- 授業計画： 【第01回】 授業に関するオリエンテーション
【第02回】 印象派(impressionnisme)とは
【第03回】 マネー近代絵画の父(《草上の昼食》《オランピア》)
【第04回】 モネー光と花と水のきらめき(《睡蓮》《アルジャントウイユのひなげし》)
【第05回】 ルノワール—少女と女性を描き続けて(《陽光の中の裸婦》《ムーラン・ドゥ・ラ・ギャレット》)
【第06回】 シスレー—空の画家(《ポール＝マルリの洪水》)
【第07回】 ピサロ—穏やかな風景画(《赤い屋根》)
【第08回】 ベルト・モリゾ—やさしい女性の眼差し(《ゆりかご》)
【第09回】 ドガ—踊り子を描く(《エトワール》)
【第10回】 ゴッホ—孤独に苦しんだ画家(《夜のカフェテラス》《黄色い家》)
【第11回】 ゴーギャン—南の島にて(《パラウ・アビ》)
【第12回】 セザンヌ—静物を描く(《セント・ヴィクトワール山》)
【第13回】 スーラ—点描の画家(《グラント・ジャット島の日曜日の午後》)
【第14回】 パリの美術館(ルーヴル、オルセー)
【第15回】 パリの美術館(オランジュリー、マルモッタン)
定期試験

使用テキスト：『イラストで読む—印象派の画家たち』、杉全美帆子、河出書房新社、1600円

予習・復習のポイントと『絵とき 印象派』、池上英洋(監修)、エムディエヌコーポレーション
参考文献・資料等：『印象派絵画の見かた』、島田紀夫(監修)、東京美術
『知識ゼロからの印象派絵画入門』、大橋巨泉、幻冬舎
お勧めの分かりやすい解説書です。購入は自由です。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応します(学務部または教員へ声を掛けてください)

授業時間外の連絡手段： 連絡可能なメールアドレスを初回の授業でお知らせします

留意事項： 履修希望者が多い場合(50名程度を超える場合)、次期に移動してもら(または抽選を行う)場合があります。いずれの場合も、初回に出席している学生さんのみが対象となります。

科目コード：10122

科目ナンバリング：LA10C19K

主な使用言語：日本語

授業名(英文)：ビジュアルアーツと現代 a(Contemporary Visual Arts a)

担当者：和泉 涼一

基本情報

年次：1

単位数：2

授業形式：講義

曜時：水曜5限

履修可能学科・専攻：E Pe Pc C W F N M

関連資格：

AL要素：講義と討論

授業の概要：【特例期間中の授業形態】課題研究型

- 1) 現代の社会はさまざまな問題を抱えこんでいます。そこに生きるわれわれもまた、文明の恩恵を享受(きょうじゅ)するそのいっぽうで、貧困、差別、暴力、性、戦争、格差、病、死の受容など、容易には克服できない問題に苦しんでいます。
- 2) このクラスでは、それらのさまざまな問題を映像、とりわけ劇映画がどのようにあつかってきたのかを検討します。そして、それらの作品の鑑賞をつうじて今後の社会に生きていく若い人たちが、それらの問題を深く、かつ広い視野で考える手助けとなることを目的としています。そこで描かれる諸問題を、われわれ自身の存在と生活につながる切実な問題として捉えうる柔軟で思いやりのある感性を養いたいと考えます。これがもっとも重要な目標です。
- 3) 映像の資料としては、映画やドキュメンタリーなどをとりあげます。映画の好きな人、あるいは好きになりたい人の受講を歓迎します。
- 4) この Semester ではとりわけ「性暴力」や「女性差別」など、マイノリティへの差別と迫害を描いた作品をとりあげます。
- 5) 学生は、授業で触れた作品について自分なりの考えをまとめ、そしてそれを人にわかる言葉で発信することが求められます。
- 6) とりあげる作品については、学生のリクエストを重視します。場合によって予定のテーマが変更されることもあります。
- 7) 時間のゆるすかぎり個々の学生の意見を紹介します。その意見をもとにしてさらに議論が深まることを期待します。

キーワード：映画 女性差別 人種差別 貧困 格差 憎悪 孤独 性的マイノリティ 民族絶滅 病気 死刑 暴力 家族 家庭 LGBTQ 障害 安楽死

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標：授業で学んだことが80%理解できること。

評価方法：「まとめとチェック」(最終授業)で簡単な確認をおこないます。その点数によります。出席点はありませんが、授業での活躍や課題の提出状況等は考慮します。

評価割合：100%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標：上記に含まれます。

評価方法：上記に準じます。

評価割合：0%

▼ 学修に主体的に取り組む態度

特になし。

評価割合：0%

▼ 実践的ボランティア

特になし。

評価割合：0%

▼ 公正性

特になし。

評価割合：0%

▼ その他

特になし。

評価割合：特になし。

授業計画： 02から14までの順序は変更される場合があります。また予定されたテーマも学生のリクエスト等により変更の可能性があります。

- 01 みなさんにとって映画とは？～オリエンテーション
- 02 がんばれ母さん！シングルマザーの戦い～豊かな国の貧困女性
- 03 がんばれ母さん！シングルマザーの戦い～豊かな国の貧困女性2
- 04 俺の言うことを聞け！～権力と性暴力
- 05 俺の言うことを聞け！～権力と性暴力2
- 06 俺の言うことを聞け！～権力と性暴力3
- 07 LGBTQ
- 08 LGBTQ2
- 09 LGBTQ3
- 10 セクハラ～「男社会で生きる」
- 11 セクハラ～「男社会で生きる」2
- 12 セクハラ～「男社会で生きる」3
- 13 高齢社会と安楽死
- 14 高齢社会と安楽死2
- 15 まとめとチェック

使用テキスト： プリントを準備します。

予習・復習のポイントと 授業中にその都度指示します。
参考文献・資料等：

障がいのある まずは教務部窓口にご相談しましょう。
履修者への対応：

授業時間外の連絡手段： オフィスアワー

留意事項： (ほぼ)毎回、ごくかんたんな課題を出します。提出は任意ですが、きちんと書いてあれば高く評価します。
授業の性質上、暴力的あるいは／および性的な描写があります。事前に注意しますが、それらのものが許容できない人は受講しないでください。
とりあげるテーマや作品については学生のリクエストにより変更可能です。リクエストを歓迎します。
受講者が多すぎる場合は初回に抽選します。この場合、初回欠席者の追加登録はできません。

科目コード：10122 **科目ナンバリング：**LA10C19K **主な使用言語：**日本語

授業名(英文)：ビジュアルアーツと現代 b(Contemporary Visual Arts b)

担当者：和泉 涼一

基本情報

年次：1

単位数：2

授業形式：講義

曜時：水曜5限

履修可能学科・専攻：E Pe Pc C W F N M

関連資格：

AL要素：講義と討論

授業の概要：【授業形態ガイドライン・レベルⅢ、レベルⅡ課題研究型】

- 1) 現代の社会はさまざまな問題を抱えこんでいます。そこに生きるわれわれもまた、文明の恩恵を享受(きょうじゅ)するそのいっぽうで、貧困、差別、暴力、性、戦争、格差、病、死の受容など、容易には克服できない問題に苦しんでいます。
- 2) このクラスでは、それらのさまざまな問題を映像、とりわけ劇映画がどのようにあつかってきたのかを検討します。そして、それらの作品の鑑賞をつうじて今後の社会に生きていく若い人たちが、それらの問題を深く、かつ広い視野で考える手助けとなることを目的としています。そこで描かれる諸問題を、われわれ自身の存在と生活につながる切実な問題として捉えうる柔軟で思いやりのある感性を養いたいと考えます。これがもっとも重要な目標です。
- 3) 映像の資料としては、映画とドキュメンタリーなどをとりあげます。映画の好きな人、あるいは好きになりたい人の受講を歓迎します。
- 4) この Semester ではとりわけ「人種差別」、「戦争とホロコースト」、「家族」、「移民」などを描

いた作品をとりあげます。

5) 学生は、授業で触れた作品について自分なりの考えをまとめ、そしてそれを人にわかる言葉で発信することが求められます。

6) とりあげる作品については、学生のリクエストを重視します。場合によって予定のテーマが変更されることもあります。

7) 時間のゆるすかぎり個々の学生の意見を紹介します。その意見をもとにしてさらに議論が深まることを期待します。

キーワード: 映画 宗教 キリスト教 死刑 大量虐殺 民族絶滅 ユダヤ人 軍隊 オキナワ 格差社会 移民 LGBT 家庭 家族 障害 安楽死

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標: 授業で学んだことが80%理解できること。

評価方法: 「まとめとチェック」(最終授業)で簡単な確認をおこないます。その点数によります。出席点はありませんが、授業中の活躍や課題の提出状況等は考慮します。 **評価割合:** 100%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標: 上記に含まれます。

評価方法: 上記に準じます。 **評価割合:** 0%

▼ 学修に主体的に取り組む態度

特になし。

評価割合: 0%

▼ 実践的ボランティア

特になし。

評価割合: 0%

▼ 公正性

特になし。

評価割合: 0%

▼ その他

特になし。

評価割合: 特になし。

授業計画: 02から14までの順序は変更される場合があります。また予定されたテーマも学生のリクエスト等により変更の可能性があります。

01 みなさんにとって映画とは? ~オリエンテーション

02 戦争と人間

03 戦争と人間2

04 戦争と人間3

05 ユダヤ人絶滅の映画

06 ユダヤ人絶滅の映画2

07 ユダヤ人絶滅の映画3

08 格差社会を描く

09 格差社会を描く2

10 移民~文化が衝突するとき

11 移民~文化が衝突するとき2

12 移民~文化が衝突するとき3

13 家族の絆と崩壊

14 家族の絆と崩壊2

15 まとめとチェック

使用テキスト： プリントを準備します。

予習・復習のポイントと 授業中にその都度指示します。
参考文献・資料等：

障がいのある 履修者への対応： まずは教務部窓口にご相談しましょう。

授業時間外の連絡手段： オフィスアワー

留意事項： (ほぼ)毎回、ごくかんたんな課題を出します。提出は任意ですが、きちんと書いてあれば高く評価します。
授業の性質上、暴力的あるいは／および性的な描写があります。事前に注意しますが、それらのものが許容できない人は受講しないでください。
とりあげるテーマや作品は学生のリクエストにより変更可能です。どんどんリクエストを出してください。
受講者が多すぎる場合は初回に抽選します。この場合、初回欠席者の追加登録はできません。

科目コード：10123 科目ナンバリング：LA10C20K 主な使用言語：日本語

授業名(英文)：本を読む(人文) a(Reading Appreciation (Human Science) a)

担当者：六川 裕子

基本情報

年次：1

単位数：2

授業形式：講義

曜時：火曜4限

履修可能学科・専攻：E Pe Pc C W F N M

関連資格：

AL要素：07. 発表

授業の概要：『星の王子さま』で知られる、フランスの作家サン＝テグジュペリの長編小説『夜間飛行』の全編を、15回の授業で読み通します。海外の作品の翻訳を精読しながら、内容への理解とともに背景となる文化や時代についての理解も深めることを目指します。毎回指定した箇所を事前に読んで、要約を書いて提出してもらいます。さらに、指定したテーマについて調べて発表してもらい、その内容とも合わせて作品について考察していきます。

キーワード：サン＝テグジュペリ、小説、20世紀、フランス文学、飛行機

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標：小説の文章の内容を理解し、その内容を適切な形で簡潔な文章にまとめることができると共に、書籍から必要な情報を探し出し、的確に伝えることができる。

評価方法：要約の提出

評価割合：40%

学期末筆記試験

▼思考力・判断力・表現力

到達目標：与えられたテーマについて調べた内容を論理的な文章で明確にまとめ、それを分かりやすく発表で伝えることができる。

また、書籍の内容を正確に理解し、そこから必要な情報を得て、論理的な言葉で伝えることができる。

評価方法：テーマについての発表

評価割合：50%

学期末筆記試験

▼学修に主体的に取り組む態度

授業への参加状況や提出物の提出状況によって評価する。

評価割合：10%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただしこの精神が授業中の活動などへの取り組みで発揮される場合は、上記の項目「学修に主体的に取り組む態度」の評価対象とすることがある。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし、授業中に他の履修者の迷惑になるような行動を取ったり、提出物で人のものを写すなどの不正行為が見られたりする場合は、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。

評価割合：0%

▼その他

特になし。

評価割合：特になし。

授業計画： 第1回 オリエンテーション、発表の担当割り当て
第2回 本について、サン＝テグジュペリという作家について
第3回 1章、発表『星の王子さま』について
第4回 2～3章、発表「飛行機の歴史について」
第5回 4～5章、発表「アルゼンチンという国について」
第6回 6章、発表「アルゼンチンの地理について」
第7回 7～8章、発表「飛行機の種類について」
第8回 9章、発表「当時のフランスについて」
第9回 10～11章、発表「郵便制度の歴史について」
第10回 12章、発表「ジャイロスコープについて」
第11回 13章、発表「無線電信や通信技術について」
第12回 14章、発表「同時代のフランス文学について」
第13回 15～16章、発表「飛行機を扱った文学作品について」
第14回 17～19章、発表「飛行機と気象について」
第15回 20～23章、発表「当時の世界情勢について」
定期試験

使用テキスト： サン＝テグジュペリ、『夜間飛行』、二木麻里訳、光文社、2010年。
(学期末試験でも使用しますので、必ず購入してください)

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 次の授業で取り上げる箇所を事前に読み、その内容を要約する課題を毎回課しますので、必ず指定の箇所を読んでください。要約の内容を、少なくとも1回は発表の形で授業で読み上げてもらいます。
テーマごとの発表については、初回の授業後に割り当てを決めますので、テーマについて調べた内容をまとめて、授業中に1回発表してもらいます。インターネットだけでなく、できれば書籍も参照して、複数の資料を使ってまとめるようにしてください。詳しいことは授業で説明します。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください。

授業時間外の連絡手段： 授業の前後の時間に教室で対応します。授業のない日の緊急の連絡に限り、学務部で連絡先を問い合わせてください。

留意事項： 後期開講の「本を読む(人文)b」とは同じ内容ですので、重複して履修することはできません。また、履修希望者が多い場合は抽選になること、初回に発表の割り当てを決定することから、必ず1回目の授業に出席する必要があります。課題の提出物は、添削をして返却します。

科目コード：10123

科目ナンバリング：LA10G20K

主な使用言語：日本語

授業名(英文)：本を読む(人文) b(Reading Appreciation (Human Science) b)

担当者：六川 裕子

基本情報

年次：1

単位数：2

授業形式：講義

曜時：火曜4限

履修可能学科・専攻：E Pe Pc C W F N M

関連資格：

AL要素：07. 発表

授業の概要：『星の王子さま』で知られる、フランスの作家サン=テグジュペリの長編小説『夜間飛行』の全編を、15回の授業で読み通します。海外の作品の翻訳を精読しながら、内容への理解とともに背景となる文化や時代についての理解も深めることを目指します。毎回指定した箇所を事前に読んで、要約を書いて提出してもらいます。さらに、指定したテーマについて調べて発表をしてもらい、その内容とも合わせて作品について考察していきます。

キーワード： サン=テグジュペリ、小説、20世紀、フランス文学、飛行機

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標： 小説の文章の内容を理解し、その内容を適切な形で簡潔な文章にまとめることができると共に、書籍から必要な情報を探し出し、的確に伝えることができる。

評価方法： 要約の提出
学期末筆記試験 **評価割合：**40%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標： 与えられたテーマについて調べた内容を論理的な文章で明確にまとめ、それを分かりやすく発表で伝えることができる。
また、書籍の内容を正確に理解し、そこから必要な情報を得て、論理的な言葉で伝えることができる。

評価方法： テーマについての発表
学期末筆記試験 **評価割合：**50%

▼ 学修に主体的に取り組む態度

授業への参加状況や提出物の提出状況によって評価する。

評価割合：10%

▼ 実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただしこの精神が授業中の活動などへの取り組みで発揮される場合は、上記の項目「学修に主体的に取り組む態度」の評価対象とすることがある。

評価割合：0%

▼ 公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし、授業中に他の履修者の迷惑になるような行動を取ったり、提出物で人のものを写すなどの不正行為が見られたりする場合は、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。

評価割合：0%

▼ その他

特になし。

評価割合：特になし。

授業計画：

- 第1回 オリエンテーション、発表の担当割り当て
- 第2回 本について、サン=テグジュペリという作家について
- 第3回 1章、発表『星の王子さま』について
- 第4回 2～3章、発表「飛行機の歴史について」
- 第5回 4～5章、発表「アルゼンチンという国について」
- 第6回 6章、発表「アルゼンチンの地理について」
- 第7回 7～8章、発表「飛行機の種類について」
- 第8回 9章、発表「当時のフランスについて」
- 第9回 10～11章、発表「郵便制度の歴史について」
- 第10回 12章、発表「ジャイロスコープについて」
- 第11回 13章、発表「無線電信や通信技術について」
- 第12回 14章、発表「同時代のフランス文学について」

第13回 15～16章、発表「飛行機を扱った文学作品について」
第14回 17～19章、発表「飛行機と気象について」
第15回 20～23章、発表「当時の世界情勢について」
定期試験

使用テキスト： サン＝テグジュペリ、『夜間飛行』、二木麻里訳、光文社、2010年。
(学期末試験でも使用しますので、必ず購入してください)

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 次の授業で取り上げる箇所を事前に読み、その内容を要約する課題を毎回課しますので、必ず指定の箇所を読んできてください。要約の内容を、少なくとも1回は発表の形で授業で読み上げてもらいます。
テーマごとの発表については、初回の授業後に割り当てを決めますので、テーマについて調べた内容をまとめて、授業中に1回発表してもらいます。インターネットだけでなく、できれば書籍も参照して、複数の資料を使ってまとめるようにしてください。詳しいことは授業で説明します。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください。

授業時間外の連絡手段： 授業の前後の時間に教室で対応します。授業のない日の緊急の連絡に限り、学務部で連絡先を問い合わせてください。

留意事項： 前期開講の「本を読む(人文)a」とは同じ内容ですので、重複して履修することはできません。また、履修希望者が多い場合は抽選になること、初回に発表の割り当てを決定することから、必ず1回目の授業に出席する必要があります。課題の提出物は、添削をして返却します。

科目コード：10124 **科目ナンバリング：** **主な使用言語：日本語**

授業名(英文)：社会科学の考え方 a(Introduction to Social Science a)

担当者：草間 吉夫、栗原 正樹、吉井 英二、飯沼 芳樹

基本情報

年次：1

単位数：2

授業形式：講義

曜時：月曜2限

履修可能学科・専攻：E Pe Pc C W F N M

関連資格：

AL要素：11.討論

授業の概要： 授業概略 この授業は法律、政治、経済、経営の4分野から構成され、各クラスは3分野の担当者によるオムニバス形式とする。各々の研究分野の成り立ち、基本的な課題設定、最近のホットなテーマ、現代社会における役割について概略を示すとともに、合同授業によるシンポジウムの交流を含める。

キーワード： 科学的精神、社会科学、経済学、経営学、法律、政治、地方自治

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 授業で学んだ知識について、主要な項目を理解し、用語を使いこなすことができる。

評価方法： 全3回行われるミニテスト及び学期末試験 **評価割合：90%**

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 授業で学んだこと、問いかけられた内容について、単なる思い込みでも、他者の意見に流されるのではなく、自分で主体的に考え、自らの所見を表現することができる。

評価方法： 学期末試験 **評価割合：10%**

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象ではないが、上記の思考力・判断力・表現力の評価対象となる場合がある。

評価割合：0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただしボランティア活動等の実践により深められた知見等が授業時間内の発言、ミニテスト、レポート、学期末試験の記述内容その他により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし人権侵害、差別、不正等の行為で著しく公正性を欠く場合は、減点や厳重注意の対象となるので注意すること。

評価割合：0%

▼その他

特になし

評価割合：特になし

授業計画： 第1回 教養と科学 1 合同
第2回 教養と科学 2 合同
第3回 政治分野 1 草間
第4回 政治分野 2 草間
第5回 政治分野 3 草間
第6回 政治分野 4 草間
第7回 経済分野 1 飯沼
第8回 経済分野 2 飯沼
第9回 経済分野 3 飯沼
第10回 経済分野 4 飯沼
第11回 法律分野 1 吉井
第12回 法律分野 2 吉井
第13回 法律分野 3 吉井
第14回 法律分野 4 吉井
第15回 まとめ 合同
定期試験

使用テキスト： 印刷して配布、またはUNIPAからダウンロードで提供する。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 授業前に、その回のテーマについて自分なりに調べ、授業がより深い学びとなるように心がける。
授業後、授業の内容について自分なりに検討し、他者と討論を行い、理解を深めることが望ましい。

障がいのある履修者への対応： 学務部に相談すること。

授業時間外の連絡手段： 研究室に在室中は随時対応。その他授業中に指示します。

留意事項： 課題については提出物を確認後にコメントします(課題の性質によりコメント方法は異なる)。

科目コード：10124

科目ナンバリング：

主な使用言語：日本語

授業名(英文)：社会科学の考え方 b(Introduction to Social Science b)

担当者：栗原 正樹、草間 吉夫、飯沼 芳樹

基本情報

年次：1

単位数：2

授業形式：講義

曜時：月曜2限

履修可能学科・専攻：E Pe Pc C W F N M

関連資格：

AL要素：11.討論

授業の概要： 授業概略 この授業は法律、政治、経済、経営の4分野から構成され、各クラスは3分野の担当者によるオムニバス形式とする。各々の研究分野の成り立ち、基本的な課題設定、最近の

ホットなテーマ、現代社会における役割について概略を示すとともに、合同授業によるシンポジウムの交流を含める。

キーワード： 科学的精神、社会科学、経済学、経営学、法律、政治、地方自治

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標： 授業で学んだ知識について、主要な項目を理解し、用語を使いこなすことができる。

評価方法： 全3回行われるミニテスト及び学期末試験 **評価割合：** 90%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標： 授業で学んだこと、問いかけられた内容について、単なる思い込みでも、他者の意見に流されるのではなく、自分で主体的に考え、自らの所見を表現することができる。

評価方法： 学期末試験 **評価割合：** 10%

▼ 学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象ではないが、上記の思考力・判断力・表現力の評価対象となる場合がある。

評価割合： 0%

▼ 実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただしボランティア活動等の実践により深められた知見等が授業時間内の発言、ミニテスト、レポート、学期末試験の記述内容その他により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合： 0%

▼ 公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし人権侵害、差別、不正等の行為で著しく公正性を欠く場合は、減点や厳重注意の対象となるので注意すること。

評価割合： 0%

▼ その他

特になし

評価割合： 特になし

授業計画：

第1回	教養と科学 1	合同
第2回	教養と科学 2	合同
第3回	経営分野 1	栗原
第4回	経営分野 2	栗原
第5回	経営分野 3	栗原
第6回	経営分野 4	栗原
第7回	政治分野 1	草間
第8回	政治分野 2	草間
第9回	政治分野 3	草間
第10回	政治分野 4	草間
第11回	経済分野 1	飯沼
第12回	経済分野 2	飯沼
第13回	経済分野 3	飯沼
第14回	経済分野 4	飯沼
第15回	まとめ	合同

定期試験

使用テキスト： 印刷して配布、またはUNIPAからダウンロードで提供する。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 授業前に、その回のテーマについて自分なりに調べ、授業がより深い学びとなるように心がける。
授業後、授業の内容について自分なりに検討し、他者と討論を行い、理解を深めることが望ましい。

障がいのある履修者への対応： 学務部に相談すること。

授業時間外の連絡手段： 研究室に在室中は随時対応。その他授業中に指示します。

留意事項： 課題については提出物を確認後にコメントします(課題の性質によりコメント方法は異なる)。

科目コード：10124 科目ナンバリング： 主な使用言語：日本語

授業名(英文)：社会科学の考え方 c(Introduction to Social Science c)

担当者：吉井 英二、栗原 正樹、草間 吉夫

基本情報

年次：1

単位数：2

授業形式：講義

曜時：月曜2限

履修可能学科・専攻：E Pe Pc C W F N M

関連資格：

AL要素：11.討論

授業の概要： 授業概略 この授業は法律、政治、経済、経営の4分野から構成され、各クラスは3分野の担当者によるオムニバス形式とする。各々の研究分野の成り立ち、基本的な課題設定、最近のホットなテーマ、現代社会における役割について概略を示すとともに、合同授業によるシンポジウムの交流を含める。

キーワード： 科学的精神、社会科学、経済学、経営学、法律、政治、地方自治

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 授業で学んだ知識について、主要な項目を理解し、用語を使いこなすことができる。

評価方法： 全3回行われるミニテスト及び学期末試験 **評価割合：** 90%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 授業で学んだこと、問いかけられた内容について、単なる思い込みでも、他者の意見に流されるのではなく、自分で主体的に考え、自らの所見を表現することができる。

評価方法： 学期末試験 **評価割合：** 10%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象ではないが、上記の思考力・判断力・表現力の評価対象となる場合がある。

評価割合： 0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただしボランティア活動等の実践により深められた知見等が授業時間内の発言、ミニテスト、レポート、学期末試験の記述内容その他により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合： 0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし人権侵害、差別、不正等の行為で著しく公正性を欠く場合は、減点や厳重注意の対象となるので注意すること。

評価割合： 0%

▼その他

特になし

評価割合： 特になし

授業計画： 第1回 教養と科学 1 合同
第2回 教養と科学 2 合同
第3回 法律分野 1 吉井

- 第4回 法律分野 2 吉井
- 第5回 法律分野 3 吉井
- 第6回 法律分野 4 吉井
- 第7回 経営分野 1 栗原
- 第8回 経営分野 2 栗原
- 第9回 経営分野 3 栗原
- 第10回 経営分野 4 栗原
- 第11回 政治分野 1 草間
- 第12回 政治分野 2 草間
- 第13回 政治分野 3 草間
- 第14回 政治分野 4 草間
- 第15回 まとめ 合同
定期試験

使用テキスト: 印刷して配布、またはUNIPAからダウンロードで提供する。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 授業前に、その回のテーマについて自分なりに調べ、授業がより深い学びとなるように心がける。
授業後、授業の内容について自分なりに検討し、他者と討論を行い、理解を深めることが望ましい。

障がいのある履修者への対応: 学務部に相談すること。

授業時間外の連絡手段: 研究室に在室中は随時対応。その他授業中に指示します。

留意事項: 課題については提出物を確認後にコメントします(課題の性質によりコメント方法は異なる)。

科目コード: 10124 **科目ナンバリング:** **主な使用言語:** 日本語

授業名(英文): 社会科学の考え方 d(Introduction to Social Science d)

担当者: 飯沼 芳樹、栗原 正樹、吉井 英二

基本情報

年次: 1 **単位数:** 2 **授業形式:** 講義
曜時: 月曜2限 **履修可能学科・専攻:** E Pe Pc C W F N M
関連資格: **AL要素:** 11.討論

授業の概要: 授業概略 この授業は法律、政治、経済、経営の4分野から構成され、各クラスは3分野の担当者によるオムニバス形式とする。各々の研究分野の成り立ち、基本的な課題設定、最近のホットなテーマ、現代社会における役割について概略を示すとともに、合同授業によるシンポジウムの交流を含める。

キーワード: 科学的精神、社会科学、経済学、経営学、法律、政治、地方自治

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標: 授業で学んだ知識について、主要な項目を理解し、用語を使いこなすことができる。

評価方法: 全3回行われるミニテスト及び学期末試験 **評価割合:** 90%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標: 授業で学んだこと、問いかけられた内容について、単なる思い込みでも、他者の意見に流されるのではなく、自分で主体的に考え、自らの所見を表現することができる。

評価方法: 学期末試験 **評価割合:** 10%

▼ 学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象ではないが、上記の思考力・判断力・表現力の評価対象となる場合がある。

評価割合：0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただしボランティア活動等の実践により深められた知見等が授業時間内の発言、ミニテスト、レポート、学期末試験の記述内容その他により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし人権侵害、差別、不正等の行為で著しく公正性を欠く場合は、減点や厳重注意の対象となるので注意すること。

評価割合：0%

▼その他

特になし

評価割合：特になし

授業計画： 第1回 教養と科学 1 合同
第2回 教養と科学 2 合同
第3回 経済分野 1 飯沼
第4回 経済分野 2 飯沼
第5回 経済分野 3 飯沼
第6回 経済分野 4 飯沼
第7回 法律分野 1 吉井
第8回 法律分野 2 吉井
第9回 法律分野 3 吉井
第10回 法律分野 4 吉井
第11回 経営分野 1 栗原
第12回 経営分野 2 栗原
第13回 経営分野 3 栗原
第14回 経営分野 4 栗原
第15回 まとめ 合同
定期試験

使用テキスト：印刷して配布、またはUNIPAからダウンロードで提供する。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 授業前に、その回のテーマについて自分なりに調べ、授業がより深い学びとなるように心がける。
授業後、授業の内容について自分なりに検討し、他者と討論を行い、理解を深めることが望ましい。

障がいのある履修者への対応： 学務部に相談すること。

授業時間外の連絡手段： 研究室に在室中は随時対応。その他授業中に指示します。

留意事項： 課題については提出物を確認後にコメントします(課題の性質によりコメント方法は異なる)。

科目コード：10124

科目ナンバリング：

主な使用言語：日本語

授業名(英文)：社会科学の考え方 e(Introduction to Social Science e)

担当者：林 寛一、栗原 正樹、吉井 英二、飯沼 芳樹

基本情報

年次：1

単位数：2

授業形式：講義

曜時：月曜3限

履修可能学科・専攻：E Pe Pc C W F N M

関連資格：

AL要素：11.討論

授業の概要： 授業概略 この授業は法律、政治、経済、経営の4分野から構成され、各クラスは3分野の担

当者によるオムニバス形式とする。各々の研究分野の成り立ち、基本的な課題設定、最近のホットなテーマ、現代社会における役割について概略を示すとともに、合同授業によるシンポジウムの交流を含める。

キーワード： 科学的精神、社会科学、経済学、経営学、法律、政治、地方自治

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標： 授業で学んだ知識について、主要な項目を理解し、用語を使いこなすことができる。

評価方法： 全3回行われるミニテスト及び学期末試験 **評価割合：** 90%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標： 授業で学んだこと、問いかけられた内容について、単なる思い込みでも、他者の意見に流されるのではなく、自分で主体的に考え、自らの所見を表現することができる。

評価方法： 学期末試験 **評価割合：** 10%

▼ 学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象ではないが、上記の思考力・判断力・表現力の評価対象となる場合がある。

評価割合： 0%

▼ 実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただしボランティア活動等の実践により深められた知見等が授業時間内の発言、ミニテスト、レポート、学期末試験の記述内容その他により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合： 0%

▼ 公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし人権侵害、差別、不正等の行為で著しく公正性を欠く場合は、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。

評価割合： 0%

▼ その他

特になし

評価割合： 特になし

授業計画：

第1回	教養と科学 1	合同
第2回	教養と科学 2	合同
第3回	政治分野 1	林
第4回	政治分野 2	林
第5回	政治分野 3	林
第6回	政治分野 4	林
第7回	経済分野 1	飯沼
第8回	経済分野 2	飯沼
第9回	経済分野 3	飯沼
第10回	経済分野 4	飯沼
第11回	法律分野 1	吉井
第12回	法律分野 2	吉井
第13回	法律分野 3	吉井
第14回	法律分野 4	吉井
第15回	まとめ	合同

定期試験

使用テキスト： 印刷して配布、またはUNIPAからダウンロードで提供する。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 授業前に、その回のテーマについて自分なりに調べ、授業がより深い学びとなるように心がける。
授業後、授業の内容について自分なりに検討し、他者と討論を行い、理解を深めることが望

ましい。

障がいのある履修者への対応: 学務部に相談すること。

授業時間外の連絡手段: 研究室に在室中は随時対応。その他授業中に指示します。

留意事項: 課題については提出物を確認後にコメントします(課題の性質によりコメント方法は異なる)。

科目コード:10124 科目ナンバリング: 主な使用言語:日本語

授業名(英文):社会科学の考え方 f(Introduction to Social Science f)

担当者:栗原 正樹、林 寛一、飯沼 芳樹

基本情報

年次:1

単位数:2

授業形式:講義

曜時:月曜3限

履修可能学科・専攻: E Pe Pc C W F N M

関連資格:

AL要素: 11.討論

授業の概要: 授業概略 この授業は法律、政治、経済、経営の4分野から構成され、各クラスは3分野の担当者によるオムニバス形式とする。各々の研究分野の成り立ち、基本的な課題設定、最近のホットなテーマ、現代社会における役割について概略を示すとともに、合同授業によるシンポジウムの交流を含める。

キーワード: 科学的精神、社会科学、経済学、経営学、法律、政治、地方自治

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標: 授業で学んだ知識について、主要な項目を理解し、用語を使いこなすことができる。

評価方法: 全3回行われるミニテスト及び学期末試験 **評価割合:** 90%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 授業で学んだこと、問いかけられた内容について、単なる思い込みでも、他者の意見に流されるのではなく、自分で主体的に考え、自らの所見を表現することができる。

評価方法: 学期末試験 **評価割合:** 10%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象ではないが、上記の思考力・判断力・表現力の評価対象となる場合がある。

評価割合: 0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただしボランティア活動等の実践により深められた知見等が授業時間内の発言、ミニテスト、レポート、学期末試験の記述内容その他により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合: 0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし人権侵害、差別、不正等の行為で著しく公正性を欠く場合は、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。

評価割合: 0%

▼その他

特になし

評価割合: 特になし

授業計画: 第1回 教養と科学 1 合同
第2回 教養と科学 2 合同

- 第3回 経営分野 1 栗原
 - 第4回 経営分野 2 栗原
 - 第5回 経営分野 3 栗原
 - 第6回 経営分野 4 栗原
 - 第7回 政治分野 1 林
 - 第8回 政治分野 2 林
 - 第9回 政治分野 3 林
 - 第10回 政治分野 4 林
 - 第11回 経済分野 1 飯沼
 - 第12回 経済分野 2 飯沼
 - 第13回 経済分野 3 飯沼
 - 第14回 経済分野 4 飯沼
 - 第15回 まとめ 合同
- 定期試験

使用テキスト: 印刷して配布、またはUNIPAからダウンロードで提供する。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 授業前に、その回のテーマについて自分なりに調べ、授業がより深い学びとなるように心がける。
授業後、授業の内容について自分なりに検討し、他者と討論を行い、理解を深めることが望ましい。

障がいのある履修者への対応: 学務部に相談すること。

授業時間外の連絡手段: 研究室に在室中は随時対応。その他授業中に指示します。

留意事項: 課題については提出物を確認後にコメントします(課題の性質によりコメント方法は異なる)。

科目コード: 10124 **科目ナンバリング:** **主な使用言語:** 日本語

授業名(英文): 社会科学の考え方 g(Introduction to Social Science g)

担当者: 吉井 英二、栗原 正樹、林 寛一

基本情報

年次: 1

単位数: 2

授業形式: 講義

曜時: 月曜3限

履修可能学科・専攻: E Pe Pc C W F N M

関連資格:

AL要素: 11.討論

授業の概要: 授業概略 この授業は法律、政治、経済、経営の4分野から構成され、各クラスは3分野の担当者によるオムニバス形式とする。各々の研究分野の成り立ち、基本的な課題設定、最近のホットなテーマ、現代社会における役割について概略を示すとともに、合同授業によるシンポジウムの交流を含める。

キーワード: 科学的精神、社会科学、経済学、経営学、法律、政治、地方自治

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標: 授業で学んだ知識について、主要な項目を理解し、用語を使いこなすことができる。

評価方法: 全3回行われるミニテスト及び学期末試験 **評価割合:** 90%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 授業で学んだこと、問いかけられた内容について、単なる思い込みでも、他者の意見に流されるのではなく、自分で主体的に考え、自らの所見を表現することができる。

評価方法: 学期末試験 **評価割合:** 10%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象ではないが、上記の思考力・判断力・表現力の評価対象となる場合がある。

評価割合：0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただしボランティア活動等の実践により深められた知見等が授業時間内の発言、ミニテスト、レポート、学期末試験の記述内容その他により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし人権侵害、差別、不正等の行為で著しく公正性を欠く場合は、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。

評価割合：0%

▼その他

特になし

評価割合：特になし

授業計画： 第1回 教養と科学 1 合同
第2回 教養と科学 2 合同
第3回 法律分野 1 吉井
第4回 法律分野 2 吉井
第5回 法律分野 3 吉井
第6回 法律分野 4 吉井
第7回 経営分野 1 栗原
第8回 経営分野 2 栗原
第9回 経営分野 3 栗原
第10回 経営分野 4 栗原
第11回 政治分野 1 林
第12回 政治分野 2 林
第13回 政治分野 3 林
第14回 政治分野 4 林
第15回 まとめ 合同
定期試験

使用テキスト： 印刷して配布、またはUNIPAからダウンロードで提供する。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 授業前に、その回のテーマについて自分なりに調べ、授業がより深い学びとなるように心がける。
授業後、授業の内容について自分なりに検討し、他者と討論を行い、理解を深めることが望ましい。

障がいのある履修者への対応： 学務部に相談すること。

授業時間外の連絡手段： 研究室に在室中は随時対応。その他授業中に指示します。

留意事項： 課題については提出物を確認後にコメントします(課題の性質によりコメント方法は異なる)。

科目コード：10124 **科目ナンバリング：** **主な使用言語：日本語**

授業名(英文)：社会科学の考え方 h(Introduction to Social Science h)

担当者：飯沼 芳樹、栗原 正樹、吉井 英二

基本情報

年次：1

単位数：2

授業形式：講義

曜時：月曜3限

履修可能学科・専攻：E Pe Pc C W F N M

関連資格：

AL要素：11.討論

授業の概要： 授業概略 この授業は法律、政治、経済、経営の4分野から構成され、各クラスは3分野の担当者によるオムニバス形式とする。各々の研究分野の成り立ち、基本的な課題設定、最近のホットなテーマ、現代社会における役割について概略を示すとともに、合同授業によるシンポジウムの交流を含める。

キーワード： 科学的精神、社会科学、経済学、経営学、法律、政治、地方自治

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標： 授業で学んだ知識について、主要な項目を理解し、用語を使いこなすことができる。

評価方法： 全3回行われるミニテスト及び学期末試験 **評価割合：** 90%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標： 授業で学んだこと、問いかけられた内容について、単なる思い込みでも、他者の意見に流されるのではなく、自分で主体的に考え、自らの所見を表現することができる。

評価方法： 学期末試験 **評価割合：** 10%

▼ 学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象ではないが、上記の思考力・判断力・表現力の評価対象となる場合がある。

評価割合： 0%

▼ 実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただしボランティア活動等の実践により深められた知見等が授業時間内の発言、ミニテスト、レポート、学期末試験の記述内容その他により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合： 0%

▼ 公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし人権侵害、差別、不正等の行為で著しく公正性を欠く場合は、減点や厳重注意の対象となるので注意すること。

評価割合： 0%

▼ その他

特になし

評価割合： 特になし

授業計画：

第1回	教養と科学 1	合同
第2回	教養と科学 2	合同
第3回	経済分野 1	飯沼
第4回	経済分野 2	飯沼
第5回	経済分野 3	飯沼
第6回	経済分野 4	飯沼
第7回	法律分野 1	吉井
第8回	法律分野 2	吉井
第9回	法律分野 3	吉井
第10回	法律分野 4	吉井
第11回	経営分野 1	栗原
第12回	経営分野 2	栗原
第13回	経営分野 3	栗原
第14回	経営分野 4	栗原
第15回	まとめ	合同

定期試験

使用テキスト： 印刷して配布、またはUNIPAからダウンロードで提供する。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 授業前に、その回のテーマについて自分なりに調べ、授業がより深い学びとなるように心がける。

授業後、授業の内容について自分なりに検討し、他者と討論を行い、理解を深めることが望ましい。

障がいのある履修者への対応: 学務部に相談すること。

授業時間外の連絡手段: 研究室に在室中は随時対応。その他授業中に指示します。

留意事項: 課題については提出物を確認後にコメントします(課題の性質によりコメント方法は異なる)。

科目コード:10124 科目ナンバリング: 主な使用言語:日本語

授業名(英文):社会科学の考え方 i(Introduction to Social Science i)

担当者:草間 吉夫、栗原 正樹、吉井 英二、飯沼 芳樹

基本情報

年次:1

単位数:2

授業形式:講義

曜時:月曜2限

履修可能学科・専攻: E Pe Pc C W F N M

関連資格:

AL要素: 11.討論

授業の概要: 授業概略 この授業は法律、政治、経済、経営の4分野から構成され、各クラスは3分野の担当者によるオムニバス形式とする。各々の研究分野の成り立ち、基本的な課題設定、最近のホットなテーマ、現代社会における役割について概略を示すとともに、合同授業によるシンポジウムの交流を含める。

キーワード: 科学的精神、社会科学、経済学、経営学、法律、政治、地方自治

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標: 授業で学んだ知識について、主要な項目を理解し、用語を使いこなすことができる。

評価方法: 全3回行われるミニテスト及び学期末試験 **評価割合:** 90%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 授業で学んだこと、問いかけられた内容について、単なる思い込みでも、他者の意見に流されるのではなく、自分で主体的に考え、自らの所見を表現することができる。

評価方法: 学期末試験 **評価割合:** 10%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象ではないが、上記の思考力・判断力・表現力の評価対象となる場合がある。

評価割合: 0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただしボランティア活動等の実践により深められた知見等が授業時間内の発言、ミニテスト、レポート、学期末試験の記述内容その他により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合: 0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし人権侵害、差別、不正等の行為で著しく公正性を欠く場合は、減点や厳重注意の対象となるので注意すること。

評価割合: 0%

▼その他

特になし

評価割合: 特になし

授業計画: 第1回 教養と科学 1 合同

- 第2回 教養と科学 2 合同
 - 第3回 政治分野 1 草間
 - 第4回 政治分野 2 草間
 - 第5回 政治分野 3 草間
 - 第6回 政治分野 4 草間
 - 第7回 経済分野 1 飯沼
 - 第8回 経済分野 2 飯沼
 - 第9回 経済分野 3 飯沼
 - 第10回 経済分野 4 飯沼
 - 第11回 法律分野 1 吉井
 - 第12回 法律分野 2 吉井
 - 第13回 法律分野 3 吉井
 - 第14回 法律分野 4 吉井
 - 第15回 まとめ 合同
- 定期試験

使用テキスト: 印刷して配布、またはUNIPAからダウンロードで提供する。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 授業前に、その回のテーマについて自分なりに調べ、授業がより深い学びとなるように心がける。
授業後、授業の内容について自分なりに検討し、他者と討論を行い、理解を深めることが望ましい。

障がいのある履修者への対応: 学務部に相談すること。

授業時間外の連絡手段: 研究室に在室中は随時対応。その他授業中に指示します。

留意事項: 課題については提出物を確認後にコメントします(課題の性質によりコメント方法は異なる)。

科目コード: 10124 **科目ナンバリング:** **主な使用言語:** 日本語

授業名(英文): 社会科学の考え方 j(Introduction to Social Science j)

担当者: 栗原 正樹、草間 吉夫、飯沼 芳樹

基本情報

年次: 1 **単位数:** 2 **授業形式:** 講義
曜時: 月曜2限 **履修可能学科・専攻:** E Pe Pc C W F N M
関連資格: **AL要素:** 11.討論

授業の概要: 授業概略 この授業は法律、政治、経済、経営の4分野から構成され、各クラスは3分野の担当者によるオムニバス形式とする。各々の研究分野の成り立ち、基本的な課題設定、最近のホットなテーマ、現代社会における役割について概略を示すとともに、合同授業によるシンポジウムの交流を含める。

キーワード: 科学的精神、社会科学、経済学、経営学、法律、政治、地方自治

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標: 授業で学んだ知識について、主要な項目を理解し、用語を使いこなすことができる。

評価方法: 全3回行われるミニテスト及び学期末試験 **評価割合:** 90%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標: 授業で学んだこと、問いかけられた内容について、単なる思い込みでも、他者の意見に流されるのではなく、自分で主体的に考え、自らの所見を表現することができる。

評価方法: 学期末試験 **評価割合:** 10%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象ではないが、上記の思考力・判断力・表現力の評価対象となる場合がある。

評価割合：0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただしボランティア活動等の実践により深められた知見等が授業時間内の発言、ミニテスト、レポート、学期末試験の記述内容その他により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし人権侵害、差別、不正等の行為で著しく公正性を欠く場合は、減点や厳重注意の対象となるので注意すること。

評価割合：0%

▼その他

特になし

評価割合：特になし

授業計画： 第1回 教養と科学 1 合同
第2回 教養と科学 2 合同
第3回 経営分野 1 栗原
第4回 経営分野 2 栗原
第5回 経営分野 3 栗原
第6回 経営分野 4 栗原
第7回 政治分野 1 草間
第8回 政治分野 2 草間
第9回 政治分野 3 草間
第10回 政治分野 4 草間
第11回 経済分野 1 飯沼
第12回 経済分野 2 飯沼
第13回 経済分野 3 飯沼
第14回 経済分野 4 飯沼
第15回 まとめ 合同
定期試験

使用テキスト： 印刷して配布、またはUNIPAからダウンロードで提供する。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 授業前に、その回のテーマについて自分なりに調べ、授業がより深い学びとなるように心がける。
授業後、授業の内容について自分なりに検討し、他者と討論を行い、理解を深めることが望ましい。

障がいのある履修者への対応： 学務部に相談すること。

授業時間外の連絡手段： 研究室に在室中は随時対応。その他授業中に指示します。

留意事項： 課題については提出物を確認後にコメントします(課題の性質によりコメント方法は異なる)。

科目コード：10124

科目ナンバリング：

主な使用言語：日本語

授業名(英文)：社会科学の考え方 k(Introduction to Social Science k)

担当者：吉井 英二、栗原 正樹、草間 吉夫

基本情報

年次：1

単位数：2

授業形式：講義

曜時：月曜2限

履修可能学科・専攻：E Pe Pc C W F N M

関連資格：

AL要素： 11.討論

授業の概要： 授業概略 この授業は法律、政治、経済、経営の4分野から構成され、各クラスは3分野の担当者によるオムニバス形式とする。各々の研究分野の成り立ち、基本的な課題設定、最近のホットなテーマ、現代社会における役割について概略を示すとともに、合同授業によるシンポジウムの交流を含める。

キーワード： 科学的精神、社会科学、経済学、経営学、法律、政治、地方自治

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 授業で学んだ知識について、主要な項目を理解し、用語を使いこなすことができる。

評価方法： 全3回行われるミニテスト及び学期末試験 **評価割合：** 90%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 授業で学んだこと、問いかけられた内容について、単なる思い込みでも、他者の意見に流されるのではなく、自分で主体的に考え、自らの所見を表現することができる。

評価方法： 学期末試験 **評価割合：** 10%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象ではないが、上記の思考力・判断力・表現力の評価対象となる場合がある。

評価割合： 0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただしボランティア活動等の実践により深められた知見等が授業時間内の発言、ミニテスト、レポート、学期末試験の記述内容その他により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合： 0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし人権侵害、差別、不正等の行為で著しく公正性を欠く場合は、減点や 厳重注意の対象となるので注意すること。

評価割合： 0%

▼その他

特になし

評価割合： 特になし

授業計画：

第1回	教養と科学 1	合同
第2回	教養と科学 2	合同
第3回	法律分野 1	吉井
第4回	法律分野 2	吉井
第5回	法律分野 3	吉井
第6回	法律分野 4	吉井
第7回	経営分野 1	栗原
第8回	経営分野 2	栗原
第9回	経営分野 3	栗原
第10回	経営分野 4	栗原
第11回	政治分野 1	草間
第12回	政治分野 2	草間
第13回	政治分野 3	草間
第14回	政治分野 4	草間
第15回	まとめ	合同

定期試験

使用テキスト： 印刷して配布、またはUNIPAからダウンロードで提供する。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 授業前に、その回のテーマについて自分なりに調べ、授業がより深い学びとなるように心がける。
授業後、授業の内容について自分なりに検討し、他者と討論を行い、理解を深めることが望ましい。

障がいのある履修者への対応： 学務部に相談すること。

授業時間外の連絡手段： 研究室に在室中は随時対応。その他授業中に指示します。

留意事項： 課題については提出物を確認後にコメントします(課題の性質によりコメント方法は異なる)。

科目コード：10124 **科目ナンバリング：** **主な使用言語：日本語**

授業名(英文)：社会科学の考え方 I(Introduction to Social Science I)

担当者：飯沼 芳樹、栗原 正樹、吉井 英二

基本情報

年次：1 **単位数：2** **授業形式：講義**

曜時：月曜2限 **履修可能学科・専攻：E Pe Pc C W F N M**

関連資格： **AL要素：11.討論**

授業の概要： 授業概略 この授業は法律、政治、経済、経営の4分野から構成され、各クラスは3分野の担当者によるオムニバス形式とする。各々の研究分野の成り立ち、基本的な課題設定、最近のホットなテーマ、現代社会における役割について概略を示すとともに、合同授業によるシンポジウムの交流を含める。

キーワード： 科学的精神、社会科学、経済学、経営学、法律、政治、地方自治

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標： 授業で学んだ知識について、主要な項目を理解し、用語を使いこなすことができる。

評価方法： 全3回行われるミニテスト及び学期末試験 **評価割合：90%**

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標： 授業で学んだこと、問いかけられた内容について、単なる思い込みでも、他者の意見に流されるのではなく、自分で主体的に考え、自らの所見を表現することができる。

評価方法： 学期末試験 **評価割合：10%**

▼ 学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象ではないが、上記の思考力・判断力・表現力の評価対象となる場合がある。

評価割合：0%

▼ 実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただしボランティア活動等の実践により深められた知見等が授業時間内の発言、ミニテスト、レポート、学期末試験の記述内容その他により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合：0%

▼ 公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし人権侵害、差別、不正等の行為で著しく公正性を欠く場合は、減点や厳重注意の対象となるので注意すること。

評価割合：0%

▼ その他

特になし

評価割合：特になし

授業計画： 第1回 教養と科学 1 合同
第2回 教養と科学 2 合同
第3回 経済分野 1 飯沼
第4回 経済分野 2 飯沼
第5回 経済分野 3 飯沼
第6回 経済分野 4 飯沼
第7回 法律分野 1 吉井
第8回 法律分野 2 吉井
第9回 法律分野 3 吉井
第10回 法律分野 4 吉井
第11回 経営分野 1 栗原
第12回 経営分野 2 栗原
第13回 経営分野 3 栗原
第14回 経営分野 4 栗原
第15回 まとめ 合同
定期試験

使用テキスト： 印刷して配布、またはUNIPAからダウンロードで提供する。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 授業前に、その回のテーマについて自分なりに調べ、授業がより深い学びとなるように心がける。
授業後、授業の内容について自分なりに検討し、他者と討論を行い、理解を深めることが望ましい。

障がいのある履修者への対応： 学務部に相談すること。

授業時間外の連絡手段： 研究室に在室中は随時対応。その他授業中に指示します。

留意事項： 課題については提出物を確認後にコメントします(課題の性質によりコメント方法は異なる)。

科目コード：10124 **科目ナンバリング：** **主な使用言語：日本語**

授業名(英文)：社会科学の考え方 m(Introduction to Social Science m)

担当者：林 寛一、栗原 正樹、吉井 英二、飯沼 芳樹

基本情報

年次：1

単位数：2

授業形式：講義

曜時：月曜3限

履修可能学科・専攻：E Pe Pc C W F N M

関連資格：

AL要素：11.討論

授業の概要： 授業概略 この授業は法律、政治、経済、経営の4分野から構成され、各クラスは3分野の担当者によるオムニバス形式とする。各々の研究分野の成り立ち、基本的な課題設定、最近のホットなテーマ、現代社会における役割について概略を示すとともに、合同授業によるシンポジウムの交流を含める。

キーワード： 科学的精神、社会科学、経済学、経営学、法律、政治、地方自治

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 授業で学んだ知識について、主要な項目を理解し、用語を使いこなすことができる。

評価方法： 全3回行われるミニテスト及び学期末試験 **評価割合：90%**

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 授業で学んだこと、問いかけられた内容について、単なる思い込みでも、他者の意見に流されるのではなく、自分で主体的に考え、自らの所見を表現することができる。

評価方法: 学期末試験

評価割合: 10%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象ではないが、上記の思考力・判断力・表現力の評価対象となる場合がある。

評価割合: 0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただしボランティア活動等の実践により深められた知見等が授業時間内の発言、ミニテスト、レポート、学期末試験の記述内容その他により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合: 0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし人権侵害、差別、不正等の行為で著しく公正性を欠く場合は、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。

評価割合: 0%

▼その他

特になし

評価割合: 特になし

授業計画: 第1回 教養と科学 1 合同
第2回 教養と科学 2 合同
第3回 政治分野 1 林
第4回 政治分野 2 林
第5回 政治分野 3 林
第6回 政治分野 4 林
第7回 経済分野 1 飯沼
第8回 経済分野 2 飯沼
第9回 経済分野 3 飯沼
第10回 経済分野 4 飯沼
第11回 法律分野 1 吉井
第12回 法律分野 2 吉井
第13回 法律分野 3 吉井
第14回 法律分野 4 吉井
第15回 まとめ 合同
定期試験

使用テキスト: 印刷して配布、またはUNIPAからダウンロードで提供する。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 授業前に、その回のテーマについて自分なりに調べ、授業がより深い学びとなるように心がける。
授業後、授業の内容について自分なりに検討し、他者と討論を行い、理解を深めることが望ましい。

障がいのある履修者への対応: 学務部に相談すること。

授業時間外の連絡手段: 研究室に在室中は随時対応。その他授業中に指示します。

留意事項: 課題については提出物を確認後にコメントします(課題の性質によりコメント方法は異なる)。

科目コード: 10124

科目ナンバリング:

主な使用言語: 日本語

授業名(英文): 社会科学の考え方 n(Introduction to Social Science n)

担当者: 栗原 正樹、林 寛一、飯沼 芳樹

基本情報

年次: 1

単位数: 2

授業形式: 講義

曜時：月曜3限

履修可能学科・専攻： E Pe Pc C W F N M

関連資格：

AL要素： 11.討論

授業の概要： 授業概略 この授業は法律、政治、経済、経営の4分野から構成され、各クラスは3分野の担当者によるオムニバス形式とする。各々の研究分野の成り立ち、基本的な課題設定、最近のホットなテーマ、現代社会における役割について概略を示すとともに、合同授業によるシンポジウムの交流を含める。

キーワード： 科学的精神、社会科学、経済学、経営学、法律、政治、地方自治

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 授業で学んだ知識について、主要な項目を理解し、用語を使いこなすことができる。

評価方法： 全3回行われるミニテスト及び学期末試験 **評価割合：90%**

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 授業で学んだこと、問いかけられた内容について、単なる思い込みでも、他者の意見に流されるのではなく、自分で主体的に考え、自らの所見を表現することができる。

評価方法： 学期末試験 **評価割合：10%**

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象ではないが、上記の思考力・判断力・表現力の評価対象となる場合がある。

評価割合：0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただしボランティア活動等の実践により深められた知見等が授業時間内の発言、ミニテスト、レポート、学期末試験の記述内容その他により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし人権侵害、差別、不正等の行為で著しく公正性を欠く場合は、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。

評価割合：0%

▼その他

特になし

評価割合：特になし

授業計画：

第1回	教養と科学 1	合同
第2回	教養と科学 2	合同
第3回	経営分野 1	栗原
第4回	経営分野 2	栗原
第5回	経営分野 3	栗原
第6回	経営分野 4	栗原
第7回	政治分野 1	林
第8回	政治分野 2	林
第9回	政治分野 3	林
第10回	政治分野 4	林
第11回	経済分野 1	飯沼
第12回	経済分野 2	飯沼
第13回	経済分野 3	飯沼
第14回	経済分野 4	飯沼
第15回	まとめ	合同

定期試験

使用テキスト： 印刷して配布、またはUNIPAからダウンロードで提供する。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 授業前に、その回のテーマについて自分なりに調べ、授業がより深い学びとなるように心がける。
授業後、授業の内容について自分なりに検討し、他者と討論を行い、理解を深めることが望ましい。

障がいのある履修者への対応： 学務部に相談すること。

授業時間外の連絡手段： 研究室に在室中は随時対応。その他授業中に指示します。

留意事項： 課題については提出物を確認後にコメントします(課題の性質によりコメント方法は異なる)。

科目コード：10124 **科目ナンバリング：** **主な使用言語：日本語**

授業名(英文)：社会科学の考え方 o(Introduction to Social Science o)

担当者：吉井 英二、栗原 正樹、林 寛一

基本情報

年次：1 **単位数：2** **授業形式：講義**

曜時：月曜3限 **履修可能学科・専攻：E Pe Pc C W F N M**

関連資格： **AL要素：11.討論**

授業の概要： 授業概略 この授業は法律、政治、経済、経営の4分野から構成され、各クラスは3分野の担当者によるオムニバス形式とする。各々の研究分野の成り立ち、基本的な課題設定、最近のホットなテーマ、現代社会における役割について概略を示すとともに、合同授業によるシンポジウムの交流を含める。

キーワード： 科学的精神、社会科学、経済学、経営学、法律、政治、地方自治

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 授業で学んだ知識について、主要な項目を理解し、用語を使いこなすことができる。

評価方法： 全3回行われるミニテスト及び学期末試験 **評価割合：90%**

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 授業で学んだこと、問いかけられた内容について、単なる思い込みでも、他者の意見に流されるのではなく、自分で主体的に考え、自らの所見を表現することができる。

評価方法： 学期末試験 **評価割合：10%**

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象ではないが、上記の思考力・判断力・表現力の評価対象となる場合がある。

評価割合：0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただしボランティア活動等の実践により深められた知見等が授業時間内の発言、ミニテスト、レポート、学期末試験の記述内容その他により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし人権侵害、差別、不正等の行為で著しく公正性を欠く場合は、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。

評価割合：0%

▼その他

特になし

評価割合：特になし

授業計画： 第1回 教養と科学 1 合同
第2回 教養と科学 2 合同
第3回 法律分野 1 吉井
第4回 法律分野 2 吉井
第5回 法律分野 3 吉井
第6回 法律分野 4 吉井
第7回 経営分野 1 栗原
第8回 経営分野 2 栗原
第9回 経営分野 3 栗原
第10回 経営分野 4 栗原
第11回 政治分野 1 林
第12回 政治分野 2 林
第13回 政治分野 3 林
第14回 政治分野 4 林
第15回 まとめ 合同
定期試験

使用テキスト： 印刷して配布、またはUNIPAからダウンロードで提供する。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 授業前に、その回のテーマについて自分なりに調べ、授業がより深い学びとなるように心がける。
授業後、授業の内容について自分なりに検討し、他者と討論を行い、理解を深めることが望ましい。

障がいのある履修者への対応： 学務部に相談すること。

授業時間外の連絡手段： 研究室に在室中は随時対応。その他授業中に指示します。

留意事項： 課題については提出物を確認後にコメントします(課題の性質によりコメント方法は異なる)。

科目コード：10124 科目ナンバリング： 主な使用言語：日本語

授業名(英文)：社会科学の考え方 p(Introduction to Social Science p)

担当者：飯沼 芳樹、栗原 正樹、吉井 英二

基本情報

年次：1

単位数：2

授業形式：講義

曜時：月曜3限

履修可能学科・専攻：E Pe Pc C W F N M

関連資格：

AL要素：11.討論

授業の概要： 授業概略 この授業は法律、政治、経済、経営の4分野から構成され、各クラスは3分野の担当者によるオムニバス形式とする。各々の研究分野の成り立ち、基本的な課題設定、最近のホットなテーマ、現代社会における役割について概略を示すとともに、合同授業によるシンポジウムの交流を含める。

キーワード： 科学的精神、社会科学、経済学、経営学、法律、政治、地方自治

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 授業で学んだ知識について、主要な項目を理解し、用語を使いこなすことが出来る。

評価方法： 全3回行われるミニテスト及び学期末試験 評価割合：90%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 授業で学んだこと、問いかけられた内容について、単なる思い込みでも、他者の意見に流され

るのでもなく、自分で主体的に考え、自らの所見を表現することができる。

評価方法: 学期末試験

評価割合: 10%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象ではないが、上記の思考力・判断力・表現力の評価対象となる場合がある。

評価割合: 0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただしボランティア活動等の実践により深められた知見等が授業時間内の発言、ミニテスト、レポート、学期末試験の記述内容その他により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合: 0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし人権侵害、差別、不正等の行為で著しく公正性を欠く場合は、減点や 厳重注意の対象となるので注意すること。

評価割合: 0%

▼その他

特になし

評価割合: 特になし

授業計画: 第1回 教養と科学 1 合同
第2回 教養と科学 2 合同
第3回 経済分野 1 飯沼
第4回 経済分野 2 飯沼
第5回 経済分野 3 飯沼
第6回 経済分野 4 飯沼
第7回 法律分野 1 吉井
第8回 法律分野 2 吉井
第9回 法律分野 3 吉井
第10回 法律分野 4 吉井
第11回 経営分野 1 栗原
第12回 経営分野 2 栗原
第13回 経営分野 3 栗原
第14回 経営分野 4 栗原
第15回 まとめ 合同
定期試験

使用テキスト: 印刷して配布、またはUNIPAからダウンロードで提供する。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 授業前に、その回のテーマについて自分なりに調べ、授業がより深い学びとなるように心がける。
授業後、授業の内容について自分なりに検討し、他者と討論を行い、理解を深めることが望ましい。

障がいのある履修者への対応: 学務部に相談すること。

授業時間外の連絡手段: 研究室に在室中は随時対応。その他授業中に指示します。

留意事項: 課題については提出物を確認後にコメントします(課題の性質によりコメント方法は異なる)。

科目コード: 10125

科目ナンバリング:

主な使用言語: 日本語

授業名(英文): 法律と暮らし(Law and its Effect on Livelihood)

担当者: 滝本 政衛

基本情報

年次：1

単位数：2

授業形式：講義

曜時：金曜2限

履修可能学科・専攻：E Pe Pc C W F N M

関連資格：

AL要素：16、振り返り用紙と応答

授業の概要： 法体系や法解釈といった専門的な法律論ではなく、大学生の目線に立って、普段の生活に密着した法的知識や社会制度への理解を深めることができる。また、主権者教育の一環として選挙と政治の実際についても取り上げる。

キーワード： 学生生活と近い将来にかかわる法律、主権者教育

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 法律への入門編として、身近な生活にかかわる法律の基礎知識を習得できる。

評価方法： レポートと出席状況、授業姿勢をもとに判定します。 **評価割合：40%**

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 学習内容を考察し簡単なレポートとして表現することにより、思考力、表現力の上達に寄与できる。

評価方法： 同上 **評価割合：40%**

▼学修に主体的に取り組む態度

授業態度を点数化するのは難しいが、例えば「よく寝ている」「いつもスマホをいじってる」など目視した中で、評価の対象としたい。

私語など他の学生への迷惑行為は厳重注意の対象とする。

評価割合：20%

▼実践的ボランティア

特に問わない。

評価割合：0%

▼公正性

欠席者への代返・代筆など公正性を欠く行為が認められた場合は評価の対象になる。

評価割合：随時

▼その他

- ・試験はやりません。
- ・期末レポートと授業3回に一回程度の割合で提出してもらいミニレポートを基本に採点します。
- ・出席状況も成績評価の大きな要素になります。
- ・評価割合はあくまで目安です。「随時」とした項目も加味します。

**評価割合：・試験はやりません。
・期末レポ**

授業計画： 第1回：オリエンテーション
第2回：憲法と法律
第3回：成人年齢を考える
第4回：18歳成人と犯罪
第5回：少年法を考える
第6回：成人年齢引き下げと消費者トラブル
第7回：就活と法律
第8回：アルバイトとアパート
第9回：民主主義を考える
第10回：選挙の基礎知識

- 第 11回: 税金の仕組み
 - 第 12回: 社会保障と年金
 - 第 13回: 交通違反
 - 第 14回: 結婚と法律
 - 第 15回: 子どもの権利
- ※社会動向等に合わせ、変動の可能性があります。

使用テキスト: 教材、資料は、ユニパで資料提供するか、印刷して配布します。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 原則として毎回、次回のテーマを予告するので、テーマに対する意見や疑問などを整理して授業に臨んでほしい。復習としては、毎回の授業内容を知識として習得するため、配布資料や授業内容を振り返り、生活に役立ててほしい。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応しますので、学務部に連絡してください。ただし、一般学生と著しく異なる対応は控えたいと思います。

授業時間外の連絡手段: 連絡先は公開しませんので、学務部を通してください。

留意事項: 有効な授業運営のため、受講者数を40人に制限します。40人を超える受講予定者があった場合、第1回授業日のオリエンテーション時に抽選を実施します。コロナ対応でオンライン授業になった場合は登録先着順とします。したがって、登録者順位が30番目以降の方は申し訳ありませんが、原則として受講できませんので登録削除をお願いします。第2回授業日以降の新規登録者は受け付けないこととなります。ご不便をお掛けしますが、ご理解をお願い致します。法律の専門家ではないため、いわゆる高度な法律論を期待する学生には不向きです。

科目コード: 10126 **科目ナンバリング:** **主な使用言語:** 日本語

授業名(英文): 現代社会と政治学(Contemporary Society and Political Science)

担当者: 林 寛一

基本情報

年次: 1

単位数: 2

授業形式: 講義

曜時: 月曜2限

履修可能学科・専攻: E Pe Pc C W F N M

関連資格:

AL要素: 16. 振り返り用紙と応答

授業の概要: 前期科目「政治学」が、いわゆる政治学の基礎的な教養講座であるのに対して、この授業では、現代社会の諸問題や課題に対して、政治学がそれらをどのように捉えているのか、そして政策的にどのように対応しようとしているのかについての基本的な見方・考え方を修得します。「政治学」が、政治学一般の基礎的な用語の理解に重点が置かれているのに対し、この授業では、現代社会の政治現象に特化して、その現象を分析するための基本的な概念と理論を学びます。

キーワード: 国家と主権、民主主義と権威主義、政党と選挙、執政府と議会、科学と政策、集権と分権、戦争と平和、政治と経済、個人と国際社会

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標: 授業で学んだ基本的な知識・技能について、概ね80%の事項を理解し、解答することができる。

評価方法: 学期末筆記試験又は課題・レポート

評価割合: 60%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標: 授業で扱った内容について、自主学修等によって得た知識や経験を踏まえて考察し、かつ論理的又は簡潔に自らの所見を表現できる。

評価方法: 学期末筆記試験又は課題・レポート

評価割合: 40%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし、自主的な学習によって自身の知見に追加された成果等が学期末筆記試験の記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることもある。

評価割合: 0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただし、ボランティア活動等の実践により深められた知見等が学期末筆記試験の記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることもある。

評価割合: 0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし、授業中の発言や学期末筆記試験の記述において人権侵害・差別的な発言など著しく公正性に欠ける言動等があった場合は、減点や厳重処分の対象となるので注意する。

評価割合: 0%

▼その他

特になし

評価割合: 特になし

授業計画: 第1回 現代社会と政治学;オリエンテーション
第2回 政治の捉え方
第3回 国家という枠組み
第4回 政治体制
第5回 選挙と選挙制度
第6回 投票行動
第7回 政党と政党システム
第8回 政権とアカウンタビリティ
第9回 執政・立法・司法
第10回 政策過程と官僚制・利益団体
第11回 連邦制と地方制度
第12回 安全保障と平和
第13回 国際政治経済学
第14回 国際社会と集団・個人
第15回 まとめ
定期試験

使用テキスト: 砂原庸介・稗田健志・多胡淳『政治学の第一歩(新版)』有斐閣 StudieA、2020年。

予習・復習のポイントと 授業前は、その回のテーマのわからない用語を調べておくこと(60分)。

参考文献・資料等: 授業後は、その回の授業について復習するとともに、関連事項についても自主学修を通じて知見を深めることが望ましい(60分)。

参考文献および参考資料については、必要に応じて、その回の授業で伝える。

障がいのある 可能な限り対応しますが、まずは学務部等に連絡してください。
履修者への対応:

授業時間外の連絡手段: 初回の授業等でお知らせします。

留意事項: 特になし。

科目コード: 10127

科目ナンバリング:

主な使用言語: 日本語

授業名(英文): グローバリゼーションとは何か(What is Globalization?)

担当者: 林 寛一

基本情報

年次：1

単位数：2

授業形式：講義

曜時：木曜3限

履修可能学科・専攻：E Pe Pc C W F N M

関連資格：

AL要素：16. 振り返り用紙と応答

授業の概要： グローバリゼーションの定義は難しいのですが、ここでは、ヒト・モノ・カネ・企業・情報など、国境を越える移動が活発となり、地球規模での一体化が進んでいること、つまり、地球上の各地点での相互連結性が強化される広範な社会的プロセスである、と理解しておいてください。政治的、経済的、文化的な境界、あるいは国境の存在感が以前よりも希薄に感じたり、逆にそうした動きに反発してナショナリズムのイデオロギーや運動が噴出するのに不安を感じたりもしています。この授業では、経済、政治、文化、エコロジー、イデオロギーといった多次元の社会のダイナミズムから、グローバリズムについて広く学びます。

キーワード： グローバリゼーション、資本主義、市場経済、自由主義、ナショナリズム、格差、民主主義、エコロジー、情報

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標： 授業で学んだ基本的な知識・技能について、概ね80%の事項を理解し、解答することができる。

評価方法： 学期末筆記試験又は課題・レポート

評価割合：60%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標： 授業で扱った内容について、自主学修等によって得た知識や経験を踏まえて考察し、かつ論理的又は簡潔に自らの所見を表現できる。

評価方法： 学期末筆記試験又は課題・レポート

評価割合：40%

▼ 学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし、自主的な学習によって自身の知見に追加された成果等が学期末筆記試験の記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることもある。

評価割合：0%

▼ 実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただし、ボランティア活動等の実践により深められた知見等が学期末筆記試験の記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることもある。

評価割合：0%

▼ 公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし、授業中の発言や学期末筆記試験の記述において人権侵害・差別的な発言など著しく公正性に欠ける言動等があった場合は、減点や厳重処分の対象となるので注意する。

評価割合：0%

▼ その他

特になし

評価割合：特になし

授業計画：

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 グローバリゼーションとは何か？
- 第3回 グローバリゼーションと歴史(1)
- 第4回 グローバリゼーションと歴史(2)
- 第5回 グローバリゼーションと経済(1)
- 第6回 グローバリゼーションと経済(2)
- 第7回 グローバリゼーションと政治(1)

- 第8回 グローバリゼーションと政治(2)
- 第9回 グローバリゼーションと文化(1)
- 第10回 グローバリゼーションと文化(2)
- 第11回 グローバリゼーションとエコロジー(1)
- 第12回 グローバリゼーションとエコロジー(2)
- 第13回 グローバリゼーションとイデオロギー
- 第14回 グローバリゼーションと未来
- 第15回 まとめ
- 定期試験

使用テキスト: マンフレッド・B・スティガー、櫻井公人・櫻井純理・高島正晴訳『新版グローバリゼーション』岩波書店、2010年。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 授業前は、その回のテーマのわからない用語を調べておくこと(60分)。授業後は、その回の授業について復習するとともに、関連事項についても自主学修を通じて知見を深めることが望ましい(60分)。参考文献および参考資料については、必要に応じて、その回の授業で伝える。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応しますが、まずは学務部等に連絡してください。

授業時間外の連絡手段: 初回の授業等でお知らせします。

留意事項: 特になし

科目コード: 10128 **科目ナンバリング:** **主な使用言語:** 日本語

授業名(英文): 現代社会と経済学(Contemporary Society and Economics)

担当者: 古井 仁

基本情報

年次: 1

単位数: 2

授業形式: 講義

曜時: 月曜1限

履修可能学科・専攻: E Pe Pc C W F N M

関連資格:

AL要素: 16. 振り返り用紙と応答
17. 発問と回答

授業の概要: 現代の社会は、グローバル化や技術革新の影響により多様化・複雑化・不透明化し、また、環境・資源の制約を受けて持続可能な開発を意識して行動を変えていく必要性が一層高まっています。経済的に成熟しつつある現代日本は、少子高齢化が進むなか、総人口が減少に転じたことで諸問題が深刻化しています。本授業では、経済学の視点から現代日本社会が抱える諸問題に関する論点整理を行い、私たちがどう対処すべきかを考えられる思考力を養うことを目指します。

キーワード: 少子高齢化、非正規雇用、国際分業、地域再生、社会関係資本、イノベーション、カーボンニュートラル

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標: 授業で解説を受けた概念・理論・分析手法について、概ね80%の事項を理解し、解答することができる。

評価方法: 筆記試験

評価割合: 60%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標: 授業で扱った内容について、自主学修で得た知見や経験をふまえて考察し、論理的かつ簡潔に自らの所見を表現することができる。

評価方法: 理解度確認小テスト(1回)、レポート

評価割合: 40%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし、自主的な学修によって自身の知見に追加された成果等がレポートの記述内容により認められる場合には、上記の「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合：0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただし、ボランティア活動等の実践により深められた知見等がレポートの記述内容により認められる場合には、上記の「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし、授業中の発言や小テスト・レポートの記述等において人権侵害・差別的発言など著しく公平性を欠く言動やカンニング等の不正行為があった場合には、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。

評価割合：0%

▼その他

特になし。

評価割合：特になし。

- 授業計画：**
- 第01回 ガイダンス(授業の全体像、受講上の留意点の説明)
 - 第02回 日本経済の歩み I (復興期からバブル景気まで)
 - 第03回 日本経済の歩み II (1990年代以降の低成長期)
 - 第04回 グローバル時代における日本経済
 - 第05回 日本経済の課題を考える
 - 第06回 政府の役割と課題を考える
 - 第07回 産業・企業の課題を考える
 - 第08回 中間まとめ
 - 第09回 雇用対策 I (非正規雇用対策)
 - 第10回 雇用対策 II (働き方改革)
 - 第11回 人口減少対策(移住・定住、など)
 - 第13回 地域社会の活性化 I (中小企業、六次産業化)
 - 第14回 地域社会の活性化 II (コミュニティ再生)
 - 第12回 環境・資源(地球温暖化、食料問題、など)
 - 第15回 全体的まとめ

使用テキスト： 開講時、案内します。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： テーマに関する参考文献は、授業の中で随時紹介します。

問題意識を持って毎回の授業に臨んでほしい。そのために日頃からニュースや新聞の経済・国際面に目を通すように心がけてください。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください。

授業時間外の連絡手段： オフィスアワーに研究室で対応します。曜日・時限等については初回にお知らせします。

留意事項： 小テスト、レポートについては、提出物を確認後、模範解答(解答例)を、IC-UNIPAに掲示します。

科目コード：10129

科目ナンバリング：

主な使用言語：日本語

授業名(英文)：資本主義の現在(Present-day Capitalism)

担当者：古井 仁

基本情報

年次：1

単位数：2

授業形式：講義

曜時：水曜1限

履修可能学科・専攻：E Pe Pc C W F N M

関連資格：

AL要素： 16. 振り返り用紙と応答
17. 発問と回答

授業の概要： 本授業では、経済・社会思想家を取り上げながら資本主義の考え方、資本主義(市場経済)の長所と短所を紹介します。また、今日の資本主義社会における諸問題を考えてみたい。

キーワード： 自由主義、私有財産、市場経済、新自由主義

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 授業で解説を受けた概念・理論・分析手法について、概ね80%の事項を理解し、解答することができる。

評価方法： 筆記試験

評価割合： 60%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 授業で扱った内容について、自主学修で得た知見や経験をふまえて考察し、論理的かつ簡潔に自らの所見を表現することができる。

評価方法： 理解度確認小テスト(1回)、レポート

評価割合： 40%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし、自主的な学修によって自身の知見に追加された成果等がレポートの記述内容により認められる場合には、上記の「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合： 0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただし、ボランティア活動等の実践により深められた知見等がレポートの記述内容により認められる場合には、上記の「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合： 0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし、授業中の発言や小テスト・レポートの記述等において人権侵害・差別的発言など著しく公平性を欠く言動やカンニング等の不正行為があった場合には、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。

評価割合： 0%

▼その他

特になし。

評価割合： 特になし。

授業計画：

- 第01回 ガイダンス
- 第02回 資本主義とは何か①:アダム・スミスほか
- 第03回 資本主義とは何か②:ケインズほか
- 第04回 分業
- 第05回 市場経済
- 第06回 市場経済の限界
- 第07回 混合経済
- 第08回 中間まとめ
- 第09回 経済成長
- 第10回 新自由主義:ハイエクほか
- 第11回 規制緩和
- 第12回 経済格差
- 第13回 グローバル経済
- 第14回 資本主義の今後の課題
- 第15回 全体的まとめ

使用テキスト： 開講時、案内します。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： テーマに関する参考文献は、授業の中で随時紹介します。

問題意識を持って毎回の授業に臨んでほしい。そのために日頃からニュースや新聞の経済・国際面に目を通すように心がけてください。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください。

授業時間外の連絡手段： オフィスアワーに研究室で対応します。曜日・時限等については初回にお知らせします。

留意事項： 小テスト、レポートについては、提出物を確認後、模範解答(解答例)を、IC-UNIPAに掲示します。

科目コード：10130 **科目ナンバリング：** **主な使用言語：日本語**

授業名(英文)：国際経済と暮らし(International Economics and its Effect on Livelihood)

担当者：古井 仁

基本情報

年次：1

単位数：2

授業形式：講義

曜時：水曜1限

履修可能学科・専攻：E Pe Pc C W F N M

関連資格：

**AL要素：16. 振り返り用紙と応答
17. 発問と回答**

授業の概要： 資源に乏しい日本は、外国との貿易を通じて繁栄してきました。日常生活においても、輸入された財・サービスを消費しない日はないほど、たくさんの国とつながっています。今日の国際経済は、グローバル化や地域主義、資源・環境制約を受けて変容しつつあります。本授業では、最初に国際経済の現状把握と貿易制度等の解説を行い、次に構造変化と諸問題を取り上げ、日本経済への影響を解説します。それにより、私たちの暮らしと国際経済の関係性をより深く考えるきっかけにできればと考えています。

キーワード： 国際貿易、地域経済統合、国際協力

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 授業で解説を受けた概念・理論・分析手法について、概ね80%の事項を理解し、解答することができる。

評価方法： 筆記試験

評価割合：60%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 授業で扱った内容について、自主学修で得た知見や経験をふまえて考察し、論理的かつ簡潔に自らの所見を表現することができる。

評価方法： 理解度確認小テスト、レポート

評価割合：40%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし、自主的な学修によって自身の知見に追加された成果等がレポートの記述内容により認められる場合には、上記の「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合：0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただし、ボランティア活動等の実践により深められた知見等がレポートの記述内容により認められる場合には、上記の「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし、授業中の発言や小テスト・レポートの記述等において人権侵害・差別的発言など著しく公平性を欠く言動やカンニング等の不正行為があった場合には、減点や嚴重注意の

対象となるので注意すること。

評価割合：0%

▼その他

特になし。

評価割合：特になし。

- 授業計画：
- 第01回 ガイダンス
 - 第02回 世界経済(国際経済)の輪郭
 - 第03回 国際貿易Ⅰ：貿易の利益
 - 第04回 国際貿易Ⅱ：世界貿易体制、貿易政策
 - 第05回 国際金融
 - 第06回 国際資本移動
 - 第07回 地域経済統合
 - 第08回 中間まとめ
 - 第09回 資源貿易
 - 第10回 南北問題
 - 第11回 国際労働問題
 - 第12回 地球環境問題
 - 第13回 フェアトレード
 - 第14回 国際協力
 - 第15回 全体的まとめ

使用テキスト： 宮崎勇・田谷禎三『世界経済図説 第四版』岩波新書。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： テーマに関する参考文献は、授業の中で随時紹介します。

問題意識を持って毎回の授業に臨んでほしい。そのために日頃からニュースや新聞の経済・国際面に目を通すように心がけてください。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください。

授業時間外の連絡手段： オフィスアワーに研究室で対応します。曜日・時限等については初回にお知らせします。

留意事項： 小テスト、レポートについては、提出物を確認後、模範解答(解答例)を、IC-UNIPAに掲示します。

科目コード：10131 科目ナンバリング： 主な使用言語：日本語
授業名(英文)：人権から見た教育と労働(Education and Employment from a Human Rights Perspective)
担当者： 古屋 等

基本情報

年次：1

単位数：2

授業形式：講義

曜時：木曜3限

履修可能学科・専攻： E Pe Pc C W F N M

関連資格：

AL要素：16. 振り返り用紙と応答

授業の概要： 人権とは各人の自由の保障を通じて個人の人格を伸張することに本質があります。そこでは、人間相互の平等が前提とされていますが、現実には経済的・社会的な格差が存在しています。性別や国籍、障害の有無などによる区別が典型といえるでしょう。そのため、すべての人が等しく教育と労働の機会が保障されるように、さまざまな法律や命令などが整備されています。この授業では、これらの法律や命令などを憲法の人権の観点から考察することを通じて、教育と労働をめぐる生じている現代的な課題について考察することを目的としています。

キーワード： 人権、自由権、社会権、教育の機会均等、勤労の権利・義務、労働基本権

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 人権尊重の本質に関する理解に基づいて、自由権と社会権の相互関係を説明することができる。日本国憲法の教育権や労働基本権が、法律によりどのように保障されているかを具体的な事例と関連づけて考察することができる。

評価方法： 小テスト、期末テスト

評価割合： 50%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 教育および労働の機会均等を憲法の平等主義の観点から考察でき、これらをめぐる現代的課題を教育や労働をめぐる法制度を通じて検討することができる。

評価方法： 小テスト、期末テスト

評価割合： 40%

▼学修に主体的に取り組む態度

教育や労働をめぐる社会で生じるさまざまな問題に関心をもち、その原因を法的に分析し、解決策を自ら検討しようとする態度を身に付ける。

評価割合： 5%

▼実践的ボランティア

該当なし

評価割合： 0%

▼公正性

教育をめぐる子どもや親の自由と国家的な一定水準の確保、契約締結をめぐる労働者の保護と企業による営業の自由を対立関係として捉えることができる。

評価割合： 5%

▼その他

特になし

評価割合： 特になし

- 授業計画：**
- 1 ガイダンスー授業説明と法の学び方ー
 - 2 法とは何かー法と権利の相互関係ー
 - 3 人権の誕生とその類型ー自由権と社会権ー
 - 4 人権と国際的保障ー個人主義と普遍性ー
 - 5 明治憲法における教育と労働
 - 6 日本国憲法による教育と労働
 - 7 教育の機会均等(第26条第1項)
 - 8 教育をめぐる法制度
 - 9 教育権をめぐる親(教師)と国家
 - 10 教育をめぐる自治と行政
 - 11 勤労の権利および義務(第27条)
 - 12 勤労条件に関する諸基準(第27条第2項)ーその1ー
 - 13 勤労条件に関する諸基準(第27条第2項)ーその2ー
 - 14 労働基本権の保障(第28条)ー労働組合法・労働関係調整法ー
 - 15 労働をめぐるさまざまな問題
 - 16 定期試験

使用テキスト： 必要に応じて参考資料を印刷して配布します。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 授業資料のほか、板書に代わるレジュメを配布します。重要なポイントやキーワードは、レジュメに記入したりマークしてもらいながら説明しますので、配布物をきちんとつづっておいてください。それらをもとに小テストを実施し、小テストやレジュメのマーク部分をもとにして期末試験を実施しますので、間違ったところや理解が十分にできなかったところは、繰り返し復習をしておいてください。

障がいのある履修者への対応： 対応可

授業時間外の連絡手段： 第1回目のガイダンスで説明する電子メールにて連絡

留意事項： 座席の指定はありませんが、板書や配布の便宜のため、できるだけ前方に座ってください。私語は禁止していますので、質問以外の場合は、授業に集中してください。

科目コード：10132 科目ナンバリング： 主な使用言語：日本語

授業名(英文)：働くということ(The Meaning of Work)

担当者：川又 啓蔵

基本情報

年次：1

単位数：2

授業形式：講義

曜時：金曜5限

履修可能学科・専攻： E Pe Pc C W F N M

関連資格：

AL要素：10. 資料調査課題

授業の概要：【授業形態ガイドライン レベルⅢ・Ⅱ】同時双方向型

社会・経済環境の変化・動向(これまでの経緯と将来の予測・見通し)を踏まえ、様々なリスクへの戦略的対応という観点でとらえ、働くことの多様性や意義について、多面的・多角的に学修します。

なお、講師自身の実務経験(記者やラジオパーソナリティー等の放送実務、東日本大震災復興関連事業者[ソフト事業]、地域づくり研究者[地域資源・地域づくり・防災減災(感染症対応を含む)など]、企業経営者)を生かして、幅広い分野・業種・業態について論じます。

キーワード： キャリア形成、就職、社会環境、経済環境、労働環境、地域、業種、会社、勤労

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標： 社会・経済環境の変化・動向(これまでの経緯と将来の予測・見通し)を踏まえ、働くことの多様性や意義について、多面的・多角的に学修し、考えることができる。

評価方法： 学期末課題

評価割合： 100%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標： なお、学期末課題においては、論文等作成の基本的なルール、論理構成や、正しい日本語が使われているかなども評価の対象となります。

評価方法： 学期末課題

評価割合： 0%

▼ 学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしません。

ただし、履修者自身が、自ら収集した情報や授業を通して得られた知見(知識や考え方等)を通して、論理的に自らの所見を表現すること等の成果が、学期末課題等によって認められる場合には、評価の対象とすることがあります。

評価割合： 0%

▼ 実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしません。

ただし、履修者自身が、授業を通して得られた知見(知識や考え方等)を通して、自身の地域貢献活動、社会参加・協働活動等について考察し、論理的に自らの所見を表現すること等の成果が、学期末課題等によって認められる場合には、評価の対象とすることがあります。

評価割合： 0%

▼ 公正性

直接的な評価対象とはしません。

ただし、履修者自身が、授業を通して得られた知見(知識や考え方等)を通して、災害について、客観かつ公平性に即した考察や、論理的に自らの所見を表現すること等の成果が、学期末課題等によって認められる場合には、評価の対象とすることがあります。

また、不適切な引用(いわゆる「コピペ」)等については、厳しく対応します(試験における不正行為への対応に準じます)。

評価割合:0%

▼その他

授業への参加(出席)は、最低限の条件であり、履修登録者全員が適切に出席していることを前提とするため、原則として、出席確認は実施しません。

学期末課題等の評価をもとに、成績評定を行います。

※ここ数年、コロナ対応、DXを活用した非接触の推進など、出席を取るか否かを含め試行錯誤を続けています。そのため、出席を評価として活用するかについては、状況に応じ、「履修登録している学生との協議等を経て」変更する場合があります。

評価割合: 授業への参加(出席)は、最低限

授業計画: ★前半★

これまでの社会・経済の変遷(歴史)を踏まえ、これからどのように環境が変わっていく可能性があるのか総論的に考えます。

【第1回】オリエンテーション・イントロダクションなど

【第2回】社会・経済環境の変遷-1

【第3回】社会・経済環境の変遷-2

【第4回】将来への予測・推測と見通し-1(特に「自然環境」)

※特に気候変化、感染症など自然科学に関するリスク。

【第5回】将来への予測・推測と見通し-2(特に「地政学的側面」)

※世界のパワーバランスと安全保障に関するリスク。

【第6回】将来への予測・推測と見通し-3(特に「テクノロジー」)

※技術革新には、正負両側面があり、「リスク要因」になることも少なくない。

【第7回】将来への予測・推測と見通し-4(特に「経済・社会環境」)

※第4～6回の内容を踏まえた経済・社会リスク。

★後半★

前半を踏まえ、今後、将来について、どのように対応していくべきかを考えます。

【第8回】業界・職種・地域別の栄枯盛衰

※前半の内容を踏まえて考察します。

【第9回】変化していく環境に対する基本的な構え方

※前半各回と前回の内容を踏まえて論じます。

【第10回】働き方・働く目的について-1

※雇用者・起業家・経営者といった形態を踏まえ論じます。

【第11回】働き方・働く目的について-2

※仕事の掛け持ち・多角的身分(社会的・公益的役割[政治家等]への従事を含め)などの形態を踏まえ論じます。

【第12回】戦略的姿勢とキャリア形成

※「計画から戦略」を重視する考え方で考察します。

【第13回】突発的リスクへの対処

※大災害・武力紛争・コロナ禍のような事態を含めた突発的リスクへの対応について考察します。

【第14回】変化する報酬・資産形成に関する考え方

※能力評価重視、経済変動による資産価値増減、少子高齢化・長寿社会、貯蓄から投資へなど、これまでの方針転換を踏まえ考察します。

【第15回】まとめ

※時事事象により、授業計画内容を変更する場合があります。

使用テキスト: 必要に応じて、授業中、インターネットで情報を検索してください。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: インターネット等を通して、社会・経済情勢について幅広い情報収集等、自主学修を行うことが望まれます。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応します。なお、授業は、視覚的掲示ではなく話的講義が中心です。

授業時間外の連絡手段: メール (kawamata_keizou@icc.ac.jp) または、学務部経由を希望します。

留意事項: 前記授業内容にも記しましたが、時事事象により、授業計画内容を変更する場合があります。また、履修登録者の各部署学科構成等と授業内容の最適化を図るために、授業計画内容を変更する場合があります。

科目コード: 10133 **科目ナンバリング:** **主な使用言語: 日本語**

授業名(英文): 共に生きる(Human Coexistence)

担当者: 池田 幸也

基本情報

年次: 1

単位数: 2

授業形式: 講義

曜時: 水曜2限

履修可能学科・専攻: E Pe Pc C W F N M

関連資格:

AL要素: 08:協同学修

11:討論

17:発問と回答

授業の概要: 【オンライン授業となった場合はteamsを使った同時双方向型とする】

「共に生きる」という社会の実現が叫ばれて久しい。身近な地域社会における生活課題から人類の生存に関わる地球的規模の課題に至るまで「共に生きる社会」を阻む課題は多岐にわたる。この講座では、現代社会における多様な社会課題を取上げ、未来を生きるわたしたち自身が創る社会のための参加と協働の意義と方法を考察する。

また、講義を通して各自が関心を寄せるテーマを見出し、その課題へのアクションを誘うことをめざす。このために必要な情報提供は毎時間行う。

キーワード: 現代社会 ボランティア コミュニティ 福祉 教育 国際 差別 偏見 格差
平和 環境 文化 NPO NGO 参加 協働 市民社会

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標: 講義で取り上げたテーマについての知識の獲得と理解の深化と、共に生きる社会をめざす市民の役割と意義を説明できる。

評価方法: 試験

評価割合: 80%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標: 講義で取り上げたテーマを基礎に、現代社会における地球規模から地域社会における課題の改善に取り組む方法、組織のマネジメント、参加と協働の実践に向けた思考力を身に付ける。

評価方法: 毎時間のリアクションシート

評価割合: 20%

及び

試験

▼ 学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし、各回の講義のテーマへの関心・意欲・態度をふりかえりシートの記述などから把握する。

評価割合: 0%

▼ 実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただし、講義で取り上げたテーマへの関心を寄せる活動を見出した場合は、実践的な取り組みに挑むことを推奨する。

評価割合: 0%

▼公正性

直接的な評価の対象とはしない。講義の根底を貫く人類にとっての価値である人権の理解を前提に各テーマの学修を深める。

評価割合：0%

▼その他

特になし。

評価割合：特になし。

授業計画： 【第01回】人類と現代社会の課題
【第02回】近代社会の誕生とボランティア
【第03回】ボランティアリズムと人権
【第04回】アメリカの人種問題と公民権運動
【第05回】家族とボランティア活動
【第06回】障がい者とボランティア活動
【第07回】障がい者観を問い直すボランティア活動
【第08回】ホームレスの自立支援とボランティア活動
【第09回】途上国支援とボランティア活動
【第10回】人権擁護とボランティア活動
【第11回】好きなことを生かすボランティア活動
【第12回】多文化共生とボランティア活動
【第13回】福祉・医療施設とボランティア活動
【第14回】学校・社会教育施設とボランティア活動
【第15回】まちづくりとボランティア活動 まとめ
試験

使用テキスト： 池田幸也『ボランティア論』～市民社会の創造～ 発行：大学図書出版 2018
ISBN978-4-907166-81-6

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 教科書をベースに毎回の講義テーマについて取上げるので、講義の前には教科書の該当箇所を熟読して予習する。
講義の後には、疑問や課題を整理し、調べ学習を通して復習に努める。
参考文献や資料は毎回の講義で必要に応じて提示する。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応するので、あらかじめ学務課等にご相談ください。

授業時間外の連絡手段： 初回の講義でお知らせします。

留意事項： *テキストに基づき講義を展開するので、あらかじめ購入し、毎時間持参すること。
*「共に生きる社会」をめざすわたしたちの参加をテーマに初回から最終回まで全体を貫くストーリーがあるので、できる限り欠席しないようにすること。

科目コード：10134 科目ナンバリング：LA10C36K 主な使用言語：日本語

授業名(英文)：ジェンダーの現在 (Contemporary Gender Studies)

担当者：中島 美那子

基本情報

年次：1

単位数：2

授業形式：講義

曜時：月曜4限

履修可能学科・専攻：E Pe Pc C W F N M

関連資格：

AL要素：16.振り返り用紙と応答
17.発問と回答

授業の概要： 社会・文化的な性のありようをジェンダーといいます。本授業では、ジェンダーに関する基礎知識を学びます。ジェンダーの概念を客観的に捉えつつ、受講者が自らの見方・考え方を確立していくことができるように、できるだけ身近な事象を取り上げます。担当教員は臨床心理の実務経験を持つことから、そこから得た学びも共有したいと思います。

キーワード: ジェンダー、LGBTQ+、男らしさ・女らしさ、DV

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標: ジェンダー、LGBTQ+、DV等に関するさまざまな理論や現在の動向について知見を深め、概ね80%の内容を解答することができる。

評価方法: 学期末筆記試験

評価割合: 50%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標: 日頃、自明のこととして捉えてきたことが、いかにジェンダーの影響を受けているかについて考えを深め、これらのことを自らの今後の課題としてとらえ、その解決策を示すことができる。

評価方法: 学期末筆記試験

評価割合: 40%

▼ 学修に主体的に取り組む態度

授業終了時に取り組む「振り返りシート」において、明確な主体的学修や気づきの記述がある。

評価割合: 10%

▼ 実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただし、ボランティア活動等で深まったと思われる知見等が学期末筆記試験の内容に認められたときには、上記「思考力・判断力・表現力」の評価対象とする。

評価割合: 0%

▼ 公正性

直接的な評価対象とはしない。しかし、振り返りシートや学期末筆記試験での人権侵害や差別的発言等は減点の対象とする。本授業では性的少数者や男女の公平性について論じることが多くあるため、注意すること。

評価割合: 0%

▼ その他

特になし。

評価割合: 特になし。

授業計画:

- 【第1回】 sex, gender, sexuality (1) 性は女と男の2つか
- 【第2回】 sex, gender, sexuality (2) 多様な性の世界
- 【第3回】 sex, gender, sexuality (3) LGBTQ+
- 【第4回】 「女らしさ」「男らしさ」を考える
- 【第5回】 教育とジェンダー
- 【第6回】 昭和時代とジェンダー (1) 戦前、戦中そして戦後
- 【第7回】 昭和時代とジェンダー (2) 女性の置かれた立場
- 【第8回】 昭和時代とジェンダー (3) 昭和時代から私たちは何を学ぶか
- 【第9回】 キャリア形成とジェンダー
- 【第10回】 恋愛・結婚とジェンダー
- 【第11回】 子育てとジェンダー
- 【第12回】 介護とジェンダー
- 【第13回】 男性学入門
- 【第14回】 DV・デートDVの現状と課題
- 【第15回】 まとめ

定期試験

使用テキスト: 中島美那子・塩原慶子『地域に生きる女たち』(溪水社,2022年)

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 事前学修として、自分の生活の中にあるジェンダーについて意識してみることをお勧めします。

事後学修としては、授業で得た知識や気づきを確実なものとするための振り返りを行ってください。
参考文献・資料に関しては、授業の中で適宜紹介します。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応しますので、まずは授業担当者に相談してください。事前の相談も受け付けます。

授業時間外の連絡手段： オフィスアワーに研究室で対応します。

留意事項： 毎年、受講希望者が100名を超えるので、もし超えた場合には上位学年を優先して人数の調整を行うこととします。

科目コード：10135 科目ナンバリング： 主な使用言語：日本語

授業名(英文)：家族を考える(What is Family?)

担当者：江尻 桂子

基本情報

年次：1

単位数：2

授業形式：講義

曜時：木曜2限

履修可能学科・専攻：E Pe Pc C W F N M

関連資格：

AL要素：07. 発表

08. 共同学習

11. 討論

16. 振り返り用紙と応答

17. 発問と回答

授業の概要： 様々な資料や統計データを読み解きながら、現代の家族の問題(例 夫婦の問題、子育ての問題、高齢者介護の問題など)について、考えていきます。また、各々の問題に対処していくために、私たち自身は何ができるのか、社会は何をするべきかを、考察していきます。

【留意事項1】この授業は、発表や課題提出の機会が多く(=レポート提出や小テスト、個人による発表やグループディスカッション、定期試験(知識を問う質問と授業で扱ったテーマに関する論述)など、発表や提出物の機会が多い授業です。必修授業ではないため、これらの負担があることを十分ご理解の上、履修してください。

【留意事項2】教室サイズおよび感染予防の観点により、人数超過の場合は抽選といたします。

【留意事項3】座席指定とし、毎回出席をとります。

キーワード： 家族 家庭 子ども 育児 子育て 夫婦 夫婦関係 結婚 男女 生きがい 乳幼児 児童障害児者 高齢者 介護 家族心理学 高齢者心理学 家庭支援 家庭福祉 社会福祉 児童福祉

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 授業で解説した内容について、概ね80%の内容を暗記し解答することができる。

評価方法： 学期末筆記試験

評価割合： 70%

小テスト(各单元ごと)

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 授業で解説した内容について深く理解するとともに、そこで投げかけた問題に対して深く考察することができる。また、自分自身が授業内容を通して考えたこと(意見や感想、考察・疑問点など)を簡潔かつ論理的に述べたり文章として表現したりすることができる。

評価方法：

評価割合： 30%

授業への参加・討論への参加・コメントシー

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価の対象とはしない。ただし、教科書で指定された部分や予習として配付した資料をあらかじめ読んで理解してくること、分からない専門用語などは調べておくことを求める。また、自分自身で授業内容に関して資料を調べるなどして理解を深めておくことを求める。

評価割合：0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただし、ボランティア活動等の実践により深められた知見等がレポートの記述等において認められる場合には、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし、授業中の発言やレポートの記述等において人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動があった場合場合は、減点や嚴重注意の対象となる。さらには、剽窃や盗用（引用元を示さずに他者の文章をそのままコピーするなどした場合も含む）を行った場合は、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。

評価割合：0%

▼その他

授業中の私語、授業とは関係のない機器の操作、他の受講生に迷惑をかける行為やマナー違反と考えられる行為は、嚴重注意や減点の対象となります。

評価割合：授業中の私語、授業とは関係のな

- 授業計画：**
- 第1回 この授業の到達目標
 - 第2回 家族のはじまり(1)：子育てに関わる問題(理論)
 - 第3回 家族のはじまり(2)：子育てに関わる問題(事例)
 - 第4回 夫婦の問題(1)結婚・子育て期
 - 第5回 夫婦の問題(2)中高年・老年期
 - 第6回 親子の問題(1)子どもとどう関わるか
 - 第7回 親子の問題(2)現代の子どもたちと命の認識
 - 第8回 家族を考えるグループワーク
 - 第9回 介護と家族(1)：現状と課題
 - 第10回 介護と家族(2)：事例検討：認知症者と暮らす
 - 第11回 医療と家族(1)：心理学的観点から考える尊厳と医療
 - 第12回 医療と家族(2)：地域医療が支える患者と家族
 - 第13回 家族を考えるグループワーク
 - 第14回 授業の総まとめ
 - 第15回 授業の総復習
- 学期末試験(筆記試験)

使用テキスト： 授業に関連する資料は、配布します。

- 予習・復習のポイントと参考文献・資料等：**
- 1) 小テストやコメントシートの提出、個人での発表、グループ・ディスカッション、筆記試験対策など、受講生が予習や復習に費やす時間の多い授業となります。予習や復習の内容については、授業中で、適宜お伝えします。
 - 2) 出席については、毎回提出していただくコメントシートで確認します。
 - 3) 日頃から新聞や書籍を通して「家族」の問題や話題に触れるようにしておいてください。
 - 4) 授業で配布した資料を基に、小テストや、学期末試験(筆記試験)を実施する予定です。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応しますので、学務部等に連絡して下さい。

授業時間外の連絡手段： オフィスアワーに研究室で対応します。曜日・時限についてはIC UNIPAで確認してください。

留意事項： 1)この授業では座席を指定します。

2) グループワークや、小テスト、個人発表、毎回提出するコメントシート、ディスカッション、筆記試験対策など、受講生が予習や復習に費やす時間の多い授業となります。これらをあらかじめ了承のうえ、受講して下さい。

3) 受講者超過の場合、抽選を行います。

4) 担当教員の専門領域や研究活動については次のサイトをご覧ください。
{<https://www.icc.ac.jp/ejiri/index.html>}

科目コード : 10136 科目ナンバリング : 主な使用言語 : 日本語

授業名(英文) : お金と税金のはなし (About Money and Taxes)

担当者 : 栗原 正樹

基本情報

年次 : 1

単位数 : 2

授業形式 : 講義

曜時 : 火曜2限

履修可能学科・専攻 : E Pe Pc C W F N M

関連資格 :

AL要素 : 11. 討論

授業の概要 : この授業では、会計を「①いまどどのように行われているのか」「②なぜそのように行われているのか」「③今後もそれで良いのか」という3つの視点から捉え、考えていく。現実の世界において会計がどのようなルールに従って行われているのか、まずはそれを知ることが大切であるが、そのルールが今後も同じままであるとは限らない。現在の会計を取り巻く環境は激動の時代であり、会計も日々変化している。このような時代にあっては、ルールを暗記するような方法では対応できない。今あるルールをじっくりと見つめ、なぜこのようなルールになったのか、これからどう変わっていくのかを考え、自らの理性で変化を先取りする力が重要である。この授業では、基礎知識の習得はもとより、担当教員の実務経験を踏まえ、変化を先取りする力を身に付けるとともに、実践的に有用な能力を養成するための指導を行う。そのため、授業中は学生に徹底的に考えることを求め、必要に応じて発言を求めている。

キーワード : 財務会計、国際会計、IFRS

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標 : 授業で学んだ知識について、主要な項目を理解し、用語を使いこなすことができる。

評価方法 : 学期末試験

評価割合 : 80%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標 : 授業で学んだこと、問いかけられた内容について、単なる思い込みでも、他者の意見に流されるのではなく、自分で主体的に考え、自らの所見を表現することができる。

評価方法 : 学期末試験

評価割合 : 10%

▼ 学修に主体的に取り組む態度

授業内での発言や発表等に基づき評価する。

評価割合 : 10%

▼ 実践的ボランティア

特になし

評価割合 : 0%

▼ 公正性

特になし

評価割合 : 0%

▼ その他

特になし

評価割合 : 特になし

授業計画： [第01回] 前期の復習と整理①
[第02回] 前期の復習と整理②
[第03回] 前期の復習と整理③
[第04回] 固定資産①
[第05回] 固定資産②
[第06回] 固定資産③
[第07回] 負債総論
[第08回] 引当金①
[第09回] 引当金②
[第10回] 財務諸表①
[第11回] 財務諸表②
[第12回] 財務会計の概念フレームワーク①
[第13回] 財務会計の概念フレームワーク②
[第14回] まとめ①
[第15回] まとめ②
定期試験

使用テキスト：『財務会計論: 財務会計基礎理論』栗原正樹、デザインエッグ社、2,376円

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 授業前に、その回のテーマについて自分なりに調べ、授業がより深い学びとなるように心がける。
授業後、授業の内容について自分なりに検討し、他者と討論を行い、理解を深めることが望ましい。

障がいのある履修者への対応： 学務部に相談すること。

授業時間外の連絡手段： 研究室に在室中は随時対応。その他授業中に指示します。

留意事項： 授業中に提出を受けた課題については、次の授業でコメントします。

科目コード：10137 **科目ナンバリング：** **主な使用言語：**日本語

授業名(英文)：ICTと暮らし(ICT and its Effect on Livelihood)

担当者：長谷川 博康

基本情報

年次：1

単位数：2

授業形式：講義

曜時：木曜4限

履修可能学科・専攻：E Pe Pc C W F N M

関連資格：

AL要素：10 資料調査課題

授業の概要： 私たちの生活は、IT(情報技術)や情報通信の発展のおかげで飛躍的に便利になりました。しかし、その反面、ITによるリスクもあります。そのため、情報セキュリティの理解とITによる社会の理解を深めるための講義をします。また、社会では、ビッグデータや人工知能(AI)について、よく語られています。それら、社会で活用されている大規模データAIについても授業内で取り上げます。
これら、情報化社会の中での問題やリスク、知識や技術について全般的に取り上げ、リスクや知識について学びます。

キーワード： 情報リスク、情報セキュリティ、情報技術(IT)、情報通信技術(ICT)、アナログ、デジタル、モノのインターネット化(IOT)、ビッグデータ、人工知能(AI)

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標： 社会における情報技術や進歩、そのリスクやそのセキュリティについて理解する。
また、大規模データの活用や人工知能についても理解する。

評価方法： 小テスト

評価割合： 60%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 授業で扱った内容を理解することにより、ITリスク、情報セキュリティ問題を考察し、論理的に表現することができる。

評価方法: 学期末筆記試験(資料持込み可)

評価割合: 30%

▼学修に主体的に取り組む態度

理解を確認したり深めるために、授業中に発問する。良い回答があった場合には評価する。

評価割合: 10%

▼実践的ボランティア

授業内での他の受講者へのサポートや理解を深めるための質問、協力は評価として加点する。

評価割合: 0%

▼公正性

直接的な評価対象としない。

評価割合: 0%

▼その他

特に無し

評価割合: 特に無し

授業計画: 第01回: 講義の説明と内容
第02回: 情報セキュリティ読本: 情報セキュリティの基礎
第03回: 情報セキュリティ読本: セキュリティ対策
第04回: 第2回、第3回のまとめ
第05回: ITリスクの考え方: ITリスク
第06回: ITリスクの考え方: ITリスクの問題とアプローチ
第07回: 第5回、第6回のまとめ
第08回: ビッグデータと人工知能
第09回: ビッグデータと人工知能
第10回: ビッグデータと人工知能
第11回: 第8回から第10回のまとめ
第12回: ビッグデータが拓く医療AI
第13回: ビッグデータが拓く医療AI
第14回: 第12回、第13回のまとめ
第15回: 全体のまとめとテストについて

使用テキスト: 『情報セキュリティ読本 六訂版』(実教出版)
『ITリスクの考え方』(岩波新書) 佐々木良一著
『ビッグデータと人工知能』(中公新書) 西垣通著
『ビッグデータが拓く医療AI』(丸善ライブラリー) 佐藤真一 他

予習・復習のポイントと 基本的に、上記のテキストを元にします。

参考文献・資料等: また、補足としてパワーポイントの資料を配ります。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応するので、まずは学務部等に連絡してください。

授業時間外の連絡手段: オフィスアワーに研究室で対応します。
メールでも対応しますので、連絡先は学務部に確認して下さい。

留意事項: 特になし

科目コード: 10138

科目ナンバリング: LA10C40K

主な使用言語: 日本語

授業名(英文): メディアとつきあう(Media Literacy)

担当者: 大内 庸次、滝本 政衛

基本情報

年次：1

単位数：2

授業形式：講義

曜時：木曜2限

履修可能学科・専攻：E Pe Pc C W F N M

関連資格：

AL要素：18その他

授業の概要： ネット環境は劇的な変容をし、これからも更に多様で多岐にわたる変化は続く。その中でメディアも大きな影響を受けざるを得ない。従来からのメディアの捉え方、考え方では対応できない局面に遭遇することも多い。これからのメディアはどうなるのか。受け手はどう対処するのか。増え続け、氾濫している情報。果たしてこれらは真実なのか。テレビ、ラジオ、新聞、雑誌、PC、スマホなどからの情報の偏りを察知して見たり聞いたり読んだりして受け取る力を身につける。鵜呑みにするのではなく、自分なりに分析し正しい判断が出来るようにする。
なお、授業担当者は長年メディアに携わってきた。その実務経験を活かし、授業を進めて行く。

キーワード： メディア、リテラシー、視聴率、編集、

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標： 既存のメディアに加え、スマートフォンなどの技術革新により情報があふれている。こうした中、何が真実なのかを探ることにより、その情報の正しい判断、仕訳が出来る。

評価方法： ニュースの読み方、番組の聴き方。期末レポート **評価割合：70%**

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標： 情報(ニュース)が真実かフェイクか…。情報の送り手が意図的、思い込み、あるいは結果的に精度を欠いた情報を流しているかもしれないという目を養うことが出来る。

評価方法： 質疑応答 **評価割合：30%**
期末レポート

▼ 学修に主体的に取り組む態度

直接的に評価対象としない。ただし、授業中のやり取りや態度、レポートなどに寄り「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合：0%

▼ 実践的ボランティア

直接的に評価対象としない。ただし、ボランティア活動で得られたものがレポートなどで認められた場合は「思考力・判断力・表現力」の評価対象となりうる。

評価割合：0%

▼ 公正性

直接的に評価対象としない。ただし、授業中のやり取りや態度、レポートなどで人権侵害、差別用語、差別行為が見受けられた場合は、減点や厳重注意の対象になるので注意すること。

評価割合：0%

▼ その他

特になし

評価割合：特になし

授業計画： 第1回：スターティング 授業概略、内容、計画、(大内)
第2回：放送メディアとその周辺(大内)
第3回：ラジオ番組を聴いて学ぶ①(大内)
第4回：メディアの使命①(滝本)
第5回：メディアの使命②(滝本)

- 第6回:ラジオ番組を聴いて学ぶ②(大内)
- 第7回:メディアの現状(滝本)
- 第8回:新聞というメディア(滝本)
- 第9回:編集を実践する(大内)
- 第10回:メディアと政治(滝本)
- 第11回:放送で起きた問題①(大内)
- 第12回:メディアと社会(滝本)
- 第13回:放送で起きた問題②(大内)
- 第14回:メディアの将来(滝本)
- 第15回:ラジオ番組を聴いて楽しむ(大内)

使用テキスト: 必要な教材・資料は印刷して配布する

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 日常的、に接しているメディアからの情報をチェックし、その背景と本質を探ってみる

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応します。

授業時間外の連絡手段: 学務部対応とします。

留意事項: 特になし

科目コード: 10139 **科目ナンバリング:** LA10C41K **主な使用言語:** 日本語

授業名(英文): 時事問題研究 (Research on Current Issues)

担当者: 滝本 政衛

基本情報

年次: 1

単位数: 2

授業形式: 講義

曜時: 金曜3限

履修可能学科・専攻: E Pe Pc C W F N M

関連資格:

AL要素: 16振り返り用紙と応答

授業の概要: 時事問題とは政治、経済、国際、社会一般における事象を取り上げた問題であり、新聞、テレビ、ネットメディアなどさまざまなニュース媒体を通して日々、多くの国民の目に晒されている社会事象である。本講義では、国や地域、世界で日々起きている時事問題をテーマとして取り上げることによって、その問題がなぜ起きたのか、という背景と本質を探り、問題を読み解く目を養うことに主眼を置く。講師側の一方的な講義形式のみでなく、受講生参加型の双方向性授業を目指す。したがって世の中で起きている日々のニュースに関心を持つことが求められる。

時事問題への認識は、いまや就活には欠かせないテーマになっているため、就活に役立つ授業にすることも大きな目標として掲げている。具体的には意見発表等を通じ、就活時の面接や集団討論などの実践に繋がる経験・技術を習得してもらう。

講師は地元新聞社で長く地域報道に携わった経験があるため、実戦経験を生かした授業を進める。

キーワード: なぜ?がすべての出発点

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標: 日々の起きている出来事の本質を読み解く作業を通して、知識と技能を身に付けることができる。

評価方法: 意見発表とミニレポートを基本に出席状況 **評価割合:** 40%
や授業姿勢を加味する

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 上記の作業と意見交換を通して、物事の本質に迫る思考力、判断力、表現力を養うことができる。

評価方法: 同上

評価割合: 40%

▼学修に主体的に取り組む態度

授業態度を点数化するのは難しいが、例えば「よく寝ている」「スマホばかり見ている」など目視した中で、評価の対象としたい。

私語など他の学生への迷惑行為は、嚴重注意の対象とする。

評価割合: 20%

▼実践的ボランティア

問わない

評価割合: 0%

▼公正性

欠席者への代返・代筆など公正性を欠く行為が認められた場合は評価の対象になる。

評価割合: 0%

▼その他

- ・試験はやりません。
- ・時事問題に対する意見発表と期末レポート、ミニレポートを基本に採点します。
- ・出席状況は当然評価の対象になります。
- ・ユニパクラスプロフィールを随時チェックしてください。連絡事項等を掲載します。

評価割合: ・試験はやりません。
・時事問

授業計画: 講師が毎回、最近のニュースをテーマとして取り上げ、新聞記事等の資料を用意して解説加える。また、双方向性対応として、受講生には15回のうち最低1回、関心を持った時事問題を発表する機会をもってもら。それをきっかけに、意見発表の輪を広げていく。時に応じて簡単なミニレポート等も提出してもら。 ※状況に応じて変動の可能性あり。

使用テキスト: 教材、資料は、ユニパで資料提供するか、印刷して配布します。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 毎日のニュースをチェックする。記録に残る新聞のチェックが最適。未購読の場合は、図書館の閲覧コーナーを利用すると便利。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応します。一般受講生より優遇することはありません。

授業時間外の連絡手段: 学務部で対応します。

留意事項: 1, 有効な授業運営のため、受講者数を40人に制限します。40人を超える受講予定者があった場合、第1回授業日のオリエンテーション時に抽選を実施します。コロナ対応でオンライン授業になった場合は登録先着順とします。したがって、登録者順位が40番目以降の方は申し訳ありませんが、原則として受講できませんので登録削除をお願いします。第2回授業日以降の新規登録者は受け付けませんことになり。ご不便をお掛けしますが、ご理解をお願い致します。

2, 社会の動きに関心を持つことが大切です。時事問題は就職試験などでの出題頻度が高くなっています。面接やグループディスカッションのテーマになることも多いようです。そういう機会にも生かせるよう、授業を通じて発表経験なども積んでもらいたいと思っています。

科目コード:10140

科目ナンバリング:

主な使用言語:日本語

授業名(英文): 地域を学ぶ a(Community Studies a)

担当者: 池内 耕作

基本情報

年次：1

単位数：2

授業形式：講義

曜時：水曜3限

履修可能学科・専攻：E Pe Pc C W F N M

関連資格：

AL要素：06.遠隔交流、07.発表、08.共同学修、11.討論、17.発問と回答

授業の概要： この授業は、茨城大学、常磐大学、県立医療大学、茨城工業高等専門学校および本校の5校が、各校の学生に提供する地域志向科目として共同開設するものです。授業では、地域の人々(行政、企業、NPO等の代表者や大学教員)の話を録画で聴講したのち、与えられた課題についてグループで討論・発表するなどのアクティブ・ラーニング(能動的学修)を進めます。

キーワード： 地方創生、地域づくり、茨城学

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 茨城の自然・地理・歴史・文化・産業などの学修を通じて多角的な理解を深め、その理解に基づいて自身の居住地の地域遺産に関わる知を説明することができる。

評価方法： 学期末試験(課題レポート)

評価割合： 50%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 地域が抱える課題や未来について教員や他の学生、地域の人々と一緒に考え、自分なりの地域活性化ビジョンを説明することができる。

評価方法： 学期末試験(課題レポート)

評価割合： 50%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし自主的な学修や活動によって自身の知見に追加された成果等が報告会での発表や小課題において確認できる場合は、上記の項目「知識・技能」または「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合： 0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただしボランティア活動等によって自身の知見に追加された成果等が報告会での発表や小課題において確認できる場合は、上記の項目「知識・技能」または「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合： 0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし授業中の発言や課題レポートの記述等において人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動や不正行為があった場合は、減点や厳重注意の対象となるので注意すること。

評価割合： 0%

▼その他

特になし。

評価割合： 特になし。

授業計画： 【以下は例年の標準的な内容であり参考情報です。本年度については第1回の授業時にお知らせします】

第01回 オリエンテーション

第02回 水戸黄門の功罪

第03回 環境とものづくり

第04回 日立市

第05回 地域の自然資源を活用した地域振興と世界への情報発信

第06回 茨城町・常陸太田市

- 第07回 地元企業の役割
- 第08回 日本の地域を考える
- 第09回 産地の形成の展開と地域振興
- 第10回 茨城県
- 第11回 データでみる茨城農業:茨城の農業をいかした地域振興
- 第12回 阿見町・大洗町
- 第13回 水戸市
- 第14回 市民社会と地域連携
- 第15回 全体のまとめ～地域で学ぶ・地域と学ぶ

使用テキスト: 必要な資料はすべて印刷・配付します。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 次々の予習や今時の復習内容について、毎回の授業テーマに沿って適宜指導します。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応しますので、まずは学務部に相談して下さい。

授業時間外の連絡手段: オフィスアワーに研究室で対応します。

留意事項: 特になし。

科目コード: 10140 **科目ナンバリング:** **主な使用言語:** 日本語

授業名(英文): 地域を学ぶ b (Community Studies b)

担当者: 藤野 真拳

基本情報

年次: 1	単位数: 2	授業形式: 講義
曜時: 金曜2限	履修可能学科・専攻: E Pe Pc C W F N M	
関連資格:	AL要素: 07、発表 08、協同学修 10、資料調査課題 17、発問と回答	

授業の概要: この授業は、茨城大学、常盤大学、県立医療大学、茨城工業高等専門学校および本校の5校が、各校の学生に提供する地域志向科目として共同開設するものです。詳細は第1回のガイダンスで説明しますが、本授業では茨城の地誌や歴史を協同学修・発表形式で学んでいきます。おそらく多くの受講生が茨城を地元に行っていると考えられますので、茨城地域が過去にどのような歴史をたどり、未来にどのような課題を残しているのかを主体的に考えていってもらえればと考えています。

キーワード: 地域の過去を学ぶ、地域づくり、地方創生、茨城学

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標: 授業で協働学習を通して学んだ茨城についての基本的な知識事項について、概ね 80%の事項を暗記し、解答することができる。

評価方法: 発表・期末レポート **評価割合:** 50%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標: 授業で扱った内容について、自主学修によって得た知見や経験をふまえて考察し、論理的かつ簡潔に自らの所見を表現することができる。

評価方法: 発表・期末レポート **評価割合:** 50%

▼ 学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし自主的な学修によって自身の知見追加された成果等が発表や期末

レポートの記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

他の学生の学修に支障をきたすような迷惑な行為がみられた場合には、厳重注意の対象とする。

評価割合：0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただし資料調査課題や協同学修等の実践により深められた知見等が期末レポートの記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし人権侵害、差別、不正等の行為で著しく公正性を欠く場合は、減点や厳重注意の対象となるので注意すること。

評価割合：0%

▼その他

特になし。

評価割合：特になし。

授業計画：【以下は例年の標準的な内容であり参考情報です。本年度については第1回で授業計画にかかわる議題を提示し、それを第2回で議論し、以後の進行を考えていきます。】

第1回：ガイダンスー議題の提示ー

第2回：茨城を学ぶための課題作成ー協働学習のためのグループ作成ー

第3回ー第9回：グループ活動（協働学習と発表）

第10回：茨城の近代史を学ぶ①ー幕末の水戸藩ー

第11回：茨城の近代史を学ぶ②ー水戸藩の解体と近代化ー

第12回：茨城の近代史を学ぶ③ー近代の産業構造と茨城の産業ー

第13回：茨城の近代史を学ぶ④ー社会の現代化と茨城の社会ー

第14回：茨城の現代を学ぶ①ー人口動態と環境の変化ー

第15回：茨城の現代を学ぶ②ー市民社会と地域連携ー

使用テキスト： 授業で使用する資料はすべて印刷・配付する。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 予習や復習内容について、毎回の授業テーマに沿って適宜指導します。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください。

授業時間外の連絡手段： オフィスアワーに研究室で対応します。曜日・時限等については初回にお知らせします。

留意事項： 特になし。

科目コード：10141

科目ナンバリング：

主な使用言語：日本語

授業名（英文）：コミュニティで学ぶ a (Learning in the Community a)

担当者：池内 耕作

基本情報

年次：1

単位数：2

授業形式：実習

曜時：前期(木曜4限)、後期(木曜4限)

履修可能学科・専攻：E Pe Pc C W F N M

関連資格：

AL要素：01.実地訓練、03.実験・実技・体験、06.遠隔交流、07.発表、08.共同学修、09.実地調査、10.資料調査課題、17.発問と回

授業の概要： この授業は通年で2単位の実習科目です。

前期のはじめに事前指導を実施し、それ以降は皆さん自身の計画に基づいて、ボランティア活動(18時間以上)とインターンシップ(18時間以上)の双方(合計36時間以上)を実施して

いただきます。

その成果は12月後半以降に実施する報告会で各自発表し、その後に詳細なレポートを提出していただきます。

キーワード： 地方創生、地域づくり、ボランティア、インターンシップ

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 地元の様々なコミュニティ(企業や行政機関、公共施設やNPO等における人々の組織・文化圏)において学び続けるために必要となる基本的な知識・技能(マナーを含む)を身につける。

評価方法： 報告会における発表、および最終レポート
課題 **評価割合：** 40%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： コミュニティにおける実際の活動を通じて、これからの時代に相応しい生きた教養(特に「市民」としての思考力・判断力・表現力)を身につけ、体現することができる。

評価方法： 報告会における発表、および最終レポート
課題 **評価割合：** 40%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし自主的な学修や活動によって自身の知見に追加された成果等が報告会での発表や小課題において確認できる場合は、上記の項目「知識・技能」または「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合： 0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただしボランティア活動等によって自身の知見に追加された成果等が報告会での発表や小課題において確認できる場合は、上記の項目「知識・技能」または「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合： 0%

▼公正性

成果報告会において、研究倫理が担保された資料を提示し、これに基づいて公正な発表を行うことができる。

評価割合： 20%

▼その他

特になし。

評価割合： 特になし。

授業計画：【一般理念】

第01回 オリエンテーション(趣旨説明・自己紹介等)

第02回 コミュニティ論(キリスト教的・歴史的・社会的文脈)

【ボランティア事前指導】

第03回 コミュニティにおける自発的奉仕と学び(ボランティア・ラーニング)

第04回 ボランティア活動の事例紹介

第05回 ボランティア活動の心得と取り組み方(募集案内)

【インターンシップ事前指導】

第06回 コミュニティにおける労働と学び(インターンシップ)

第07回 IC就活事情(先輩達の就活と市況)

第08回 就活とインターンシップ

【学外活動】

第09回～第17回相当(9回分18時間相当) 各自ボランティア活動実施

第18回～第26回相当(9回分18時間相当) 各自インターンシップ実施

【事後指導】

- 第27回 発表「ボランティア活動報告会1」
- 第28回 発表「ボランティア活動報告会2」
- 第29回 発表「インターンシップ報告会1」
- 第30回 発表「インターンシップ報告会2」および総括・講評

使用テキスト： 必要な資料はすべて印刷・配付します。

予習・復習のポイントと 参考文 献・資 料 等： 随時、授業において指導します。

障 がい の ある 履 修 者 へ の 対 応： 可能な限り対応しますので、まずは学務部に相談して下さい。

授 業 時 間 外 の 連 絡 手 段： オフィスアワーに研究室で対応します。

留 意 事 項： 特になし。

科 目 コー ド：10142 **科 目 ナンバ リング：** **主 な 使 用 言 語：**日本語

授 業 名 (英 文)： 本 を 読 む (社 会) (Reading Appreciation (Society))

担 当 者： 滝 本 政 衛

基本情報

年 次：1

単 位 数：2

授 業 形 式：講 義

曜 時：木 曜 3限

履 修 可 能 学 科・専 攻： E Pe Pc C W F N M

関 連 資 格：

A L 要 素： 16、振り返り用紙と応答

授 業 の 概 要： 「地方自治のしくみがわかる本」(村林守著・岩波ジュニア新書)をメインの教材として、政治・行政系著書の読み解き方を養うとともに、生活と直結する行政の基本的知識を身に付ける。著者は三重県庁に勤務経験のある経験豊富な公務員OB。同著は幅広い行政経験をもとに、住民の暮らしと直結した地方自治をわかりやすく解説しており、社会系著書の入門書として最適です。将来、就職先として公務員を目指す方には、地方行政と政治を知るうえで大いに参考になるはず。一方的な講義形式にならない双方向性の授業を目指すため、受講生にも授業の中で一度は本を読んでもらう機会を設けます。教材として新聞記事等も活用し、楽しみながら活字に親しめる授業を目指します。可能ならば、実地訓練として議会などの見学会も行いたいと考えています。

また、今年4年に一度の統一地方選挙の年に当たります。地方自治の行方を左右する重要な選挙なので、本と併せて随時取り上げ、多角的に解説を加えたいと思います。

キ ー ワー ド： 本 を 読 む 解 く。地 方 自 治 っ て 何 ？ 政 治 っ て 何 ？

学位授与方針との関係

▼ 知 識 ・ 技 能

到 達 目 標： 若い世代の活字・政治離れが叫ばれる中、政治・行政の入門書的な著書を読み解くことにより、社会系著書に親しみ、読解力と思考力を養うことができる。同時に、政治・行政に関する基礎的知識を身に付けることにより、政治・行政への関心と理解を高め、政治参加のきっかけをつくることができる。

評 価 方 法： 数回に1回、授業後に提出するミニレポートを基本に出席状況、授業態度などを加味する。 **評 価 割 合：** 40%

▼ 思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力

到 達 目 標： 学習内容を簡単なレポートとして表現することにより、思考力、表現力の上達に寄与できる。

評 価 方 法： 同上 **評 価 割 合：** 40%

▼ 学 修 に 主 体 的 に 取 り 組 む 態 度

授業態度を点数化するのは難しいが、例えば「よく寝ている」「スマホばかり見ている」など目視した中で、評価の対象としたい。

私語など他の学生への迷惑行為は、嚴重注意の対象とする。

評価割合：20%

▼実践的ボランティア

特に問わない。

評価割合：0%

▼公正性

欠席者への代返・代筆など公正性を欠く行為が認められた場合は評価の対象になる。

評価割合：随時

▼その他

- ・試験はやりません。
- ・期末レポートと授業3回に一回程度の割合で提出してもらった簡単なミニレポートを基本に採点します。
- ・出席状況も成績評価の大きな要素になります。
- ・評価割合はあくまで目安です。「随時」とした項目も加味します。

**評価割合：・試験はやりません。
・期末レポ**

- 授業計画：**
- 第1回：オリエンテーション
 - 第2回：政治って何？自分とのかかわり
 - 第3回：行政って何？政治との関連性
 - 第4回：私たちの暮らしと行政サービス
 - 第5回：どうして地方自治があるのだろうか
 - 第6回：住民が地方自治の主権者
 - 第7回：自治体の組織は二元代表制
 - 第8回：住民の政治参加
 - 第9回：政策と予算
 - 第10回：自治体の台所事情
 - 第11回：国と自治体の関係
 - 第12回：地方自治の過去と未来
 - 第13回：まとめ・民主主義活性化のために

2回分は選挙の動きに合わせたテーマを予定しています。そのため授業計画は変動の可能性があります。

就活時の面接やグループディスカッションなどにも生かせるよう、本を読む機会を通じて発表経験なども積んでもらいたいと思っています。

使用テキスト： 村林 守著「地方自治のしくみがわかる本」(岩波ジュニア新書)。
教科書替わりですので必ず購入してください。ネット通販などでも購入できます。値段は900円台です。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 原則として、次回の学習項目を予告するので、指定したページを一読し、テーマに対する意見や疑問などを整理して授業に臨んでほしい。復習としては、毎回の授業内容を知識として習得するため、授業内容を振り返り、自らの考え方を身に付けてほしい。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応しますので、学務部に連絡してください。ただし、一般学生と著しく異なる対応は控えたいと思います。

授業時間外の連絡手段： 連絡先は公開しませんので、学務部を通してください。

留意事項： 1、有効な授業運営のため、受講者数を40人に制限します。40人を超える受講予定者があった場合、第1回授業日のオリエンテーション時に抽選を実施します。コロナ対応でオンライン授業になった場合

は登録先着順とします。したがって、登録者順位が40番目以降の方は申し訳ありませんが、原則として受講できませんので登録削除をお願いします。第2回授業日以降の新規登録者は受け付けませんこととなります。
ご不便をお掛けしますが、ご理解をお願い致します。

2, 日本は国民一人一人が主権者です。政治・行政を動かす政治家は主権者である国民に選ばれた国民の代表にすぎません。政治・行政は国民生活に直結し、暮らしの良し悪しは政治によって左右されるといっても過言ではありません。国民が政治に関心を持ち、政治に参加しなければ、政治は政治家の思うがままに動かされてしまいます。それは国にとって、国民の生活にとって大変危険な流れです。国民が積極的に政治参加することが行政を良くし、国民の暮らしを豊かにすることにつながります。学生である皆さんは近い将来社会人となり、国と地域を動かす原動力になります。皆さんが国と地域の将来、自分たちの暮らしを担う立場になるのです。この授業では、その構図を学び、皆さんが主権者としての自覚をもってもらう手助けをしたいと考えてます。

科目コード : 10143 科目ナンバリング : 主な使用言語 : 日本語

授業名(英文) : 自然科学の考え方 a (Introduction to Natural Science a)

担当者 : 飯田 利明、富永 研司、山口 郁博

基本情報

年次 : 1

単位数 : 2

授業形式 : 講義

曜時 : 水曜3限

履修可能学科・専攻 : E Pe Pc C W F N M

関連資格 :

AL要素 : 03、
08、
10、
11、
16、

授業の概要 : 自然科学各分野の担当者によるオムニバス形式の授業。
3人の担当者が5回づつ授業をする。
各々の研究分野の成り立ち、基本的な課題設定、最近のホットなテーマ、現代社会における役割について概略を示す。
人類は獲得した膨大な知能を何に使うべきなのか考察する。

キーワード : 天体、宇宙、人工知能、遺伝子、命、地球、気候変動、エネルギー

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標 : 授業で学修したことを基に、自分自身の興味関心を明確にし、更に深めることができる。

評価方法 : 定期試験、
小テスト、
レポート、
提出物

評価割合 : 総合評価

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標 : 授業や自学自修で明らかになったことをまとめるとともに、自分自身の考えを様々な方法で伝えることができる。

評価方法 : 上記参照

評価割合 : 総合評価

▼ 学修に主体的に取り組む態度

自分自身にとっての関わりを探し出し、興味の対象を広げていこうとする。

評価割合 : 総合評価

▼ 実践的ボランティア

自分自身で考えて、積極的にかかわろうとする。

評価割合：総合評価

▼公正性

事実に基づいて判断し、適正な行動ができる。

評価割合：総合評価

▼その他

なし

評価割合：なし

授業計画：

1. 自然科学は驚きと好奇心から
2. データをとる、地球温暖化の例から
3. 実際に土の中の生き物を観察する
4. データをまとめる、エネルギーの例
5. 表現する、レポートの書き方
(以上、飯田担当)

1. 人類の進化と文明の誕生
2. 自然科学の進展
3. 近代科学の爆発的発展
4. 電力の役割と課題
5. トリレンマ問題と対策
(以上、富永担当)

1. 相対論の不思議
2. 量子論の不思議
3. チョコレートの自然科学
4. 音楽の自然科学
5. 対話と討論
(以上、山口担当)

使用テキスト： なし

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 大学設置基準の規定により、合計30時間の授業に加えて、合計60時間の自学自修を必要とする。
内容は、授業の進行に合わせて指示する。

障がいのある履修者への対応： 担当者と直接、相談してください。

授業時間外の連絡手段： 学務部に問い合わせてください。

留意事項： なし

科目コード：10143 **科目ナンバリング：** **主な使用言語：日本語**

授業名(英文)：自然科学の考え方 b(Introduction to Natural Science b)

担当者：富永 研司、飯田 利明、山口 郁博

基本情報

年次：1

単位数：2

授業形式：講義

曜時：水曜3限

履修可能学科・専攻：E Pe Pc C W F N M

関連資格：

AL要素： 03、
08、
10、
11、
16、

授業の概要： 自然科学各分野の担当者によるオムニバス形式の授業。
3人の担当者が5回ずつ授業をする。
各々の研究分野の成り立ち、基本的な課題設定、最近のホットなテーマ、現代社会における役割について概略を示す。
人類は獲得した膨大な知能を何に使うべきなのか考察する。

キーワード： 天体、宇宙、人工知能、遺伝子、命、地球、気候変動、エネルギー

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標： 授業で学修したことを基に、自分自身の興味関心を明確にし、更に深めることができる。

評価方法： 定期試験、
小テスト、
レポート、
提出物

評価割合： 総合評価

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標： 授業や自学自修で明らかになったことをまとめるとともに、自分自身の考えを様々な方法で伝えることができる。

評価方法： 上記参照

評価割合： 総合評価

▼ 学修に主体的に取り組む態度

自分自身にとっての関わりを探し出し、興味の対象を広げていこうとする。

評価割合： 総合評価

▼ 実践的ボランティア

自分自身で考えて、積極的にかかわろうとする。

評価割合： 総合評価

▼ 公正性

事実に基づいて判断し、適正な行動ができる。

評価割合： 総合評価

▼ その他

なし

評価割合： なし

授業計画：

1. 人類の進化と文明の誕生
2. 自然科学の進展
3. 近代科学の爆発的発展
4. 電力の役割と課題
5. トリレンマ問題と対策
(以上、富永担当)

1. 相対論の不思議
2. 量子論の不思議
3. チョコレートの自然科学
4. 音楽の自然科学
5. 対話と討論
(以上、山口担当)

1. 自然科学は驚きと好奇心から
2. データをとる、地球温暖化の例から
3. 実際に土の中の生き物を観察する

4. データをまとめる、エネルギーの例
5. 表現する、レポートの書き方
(以上、飯田担当)

使用テキスト： なし

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 大学設置基準の規定により、合計30時間の授業に加えて、合計60時間の自学自修を必要とする。
内容は、授業の進行に合わせて指示する。

障がいのある履修者への対応： 担当者と直接、相談してください。

授業時間外の連絡手段： 学務部に問い合わせてください。

留意事項： なし

科目コード：10143 科目ナンバリング： 主な使用言語：日本語

授業名(英文)：自然科学の考え方 c(Introduction to Natural Science c)

担当者：山口 郁博、飯田 利明、富永 研司

基本情報

年次：1

単位数：2

授業形式：講義

曜時：水曜3限

履修可能学科・専攻： E Pe Pc C W F N M

関連資格：

AL要素：03、
08、
10、
11、
16、

授業の概要： 自然科学各分野の担当者によるオムニバス形式の授業。
3人の担当者が5回ずつ授業をする。
各々の研究分野の成り立ち、基本的な課題設定、最近のホットなテーマ、現代社会における役割について概略を示す。
人類は獲得した膨大な知能を何に使うべきなのかを考察する。

キーワード： 天体、宇宙、人工知能、遺伝子、命、地球、気候変動、エネルギー

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 授業で学修したことを基に、自分自身の興味関心を明確にし、更に深めることができる。

評価方法： 定期試験、
小テスト、
レポート、
提出物

評価割合： 総合評価

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 授業や自学自修で明らかになったことをまとめるとともに、自分自身の考えを様々な方法で伝えることができる。

評価方法： 上記参照

評価割合： 総合評価

▼学修に主体的に取り組む態度

自分自身にとっての関わりを探し出し、興味の対象を広げていこうとする。

評価割合： 総合評価

▼実践的ボランティア

自分自身で考えて、積極的にかかわろうとする。

評価割合：総合評価

▼公正性

事実に基づいて判断し、適正な行動ができる。

評価割合：総合評価

▼その他

なし

評価割合：なし

授業計画： 1. 相対論の不思議
2. 量子論の不思議
3. チョコレートの自然科学
4. 音楽の自然科学
5. 対話と討論
(以上、山口担当)

1. 自然科学は驚きと好奇心から
2. データをとる、地球温暖化の例から
3. 実際に土の中の生き物を観察する
4. データをまとめる、エネルギーの例
5. 表現する、レポートの書き方
(以上、飯田担当)

1. 人類の進化と文明の誕生
2. 自然科学の進展
3. 近代科学の爆発的発展
4. 電力の役割と課題
5. トリレンマ問題と対策
(以上、富永担当)

使用テキスト：なし

予習・復習のポイントと
参考文献・資料等： 大学設置基準の規定により、合計30時間の授業に加えて、合計60時間の自学自修を必要とする。
内容は、授業の進行に合わせて指示する。

障がいのある
履修者への対応： 担当者と直接、相談してください。

授業時間外の連絡手段： 学務部に問い合わせてください。

留意事項：なし

科目コード：10143 科目ナンバリング： 主な使用言語：日本語

授業名(英文)：自然科学の考え方 d(Introduction to Natural Science d)

担当者：飯田 利明、富永 研司、山口 郁博

基本情報

年次：1

単位数：2

授業形式：講義

曜時：水曜4限

履修可能学科・専攻： E Pe Pc C W F N M

関連資格：

AL要素：03、
08、
10、

11、

16、

授業の概要： 自然科学各分野の担当者によるオムニバス形式の授業。
3人の担当者が5回ずつ授業をする。
各々の研究分野の成り立ち、基本的な課題設定、最近のホットなテーマ、現代社会における役割について概略を示す。
人類は獲得した膨大な知能を何に使うべきなのか考察する。

キーワード： 天体、宇宙、人工知能、遺伝子、命、地球、気候変動、エネルギー

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標： 授業で学修したことを基に、自分自身の興味関心を明確にし、更に深めることができる。

評価方法： 定期試験、
小テスト、
レポート、
提出物

評価割合： 総合評価

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標： 授業や自学自修で明らかになったことをまとめるとともに、自分自身の考えを様々な方法で伝えることができる。

評価方法： 上記参照

評価割合： 総合評価

▼ 学修に主体的に取り組む態度

自分自身にとっての関わりを探し出し、興味の対象を広げていこうとする。

評価割合： 総合評価

▼ 実践的ボランティア

自分自身で考えて、積極的にかかわろうとする。

評価割合： 総合評価

▼ 公正性

事実に基づいて判断し、適正な行動ができる。

評価割合： 総合評価

▼ その他

なし

評価割合： なし

授業計画：

1. 自然科学は驚きと好奇心から
2. データをとる、地球温暖化の例から
3. 実際に土の中の生き物を観察する
4. データをまとめる、エネルギーの例
5. 表現する、レポートの書き方
(以上、飯田担当)

1. 人類の進化と文明の誕生
2. 自然科学の進展
3. 近代科学の爆発的発展
4. 電力の役割と課題
5. トリレンマ問題と対策
(以上、富永担当)

1. 相対論の不思議

2. 量子論の不思議
 3. チョコレートの自然科学
 4. 音楽の自然科学
 5. 対話と討論
- (以上、山口担当)

使用テキスト: なし

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 大学設置基準の規定により、合計30時間の授業に加えて、合計60時間の自学自修を必要とする。
内容は、授業の進行に合わせて指示する。

障がいのある履修者への対応: 担当者と直接、相談してください。

授業時間外の連絡手段: 学務部に問い合わせてください。

留意事項: なし

科目コード: 10143 **科目ナンバリング:** **主な使用言語:** 日本語

授業名(英文): 自然科学の考え方 e(Introduction to Natural Science e)

担当者: 富永 研司、飯田 利明、山口 郁博

基本情報

年次: 1

単位数: 2

授業形式: 講義

曜時: 水曜4限

履修可能学科・専攻: E Pe Pc C W F N M

関連資格:

AL要素: 03、
08、
10、
11、
16、

授業の概要: 自然科学各分野の担当者によるオムニバス形式の授業。
3人の担当者が5回ずつ授業をする。
各々の研究分野の成り立ち、基本的な課題設定、最近のホットなテーマ、現代社会における役割について概略を示す。
人類は獲得した膨大な知能を何に使うべきなのか考察する。

キーワード: 天体、宇宙、人工知能、遺伝子、命、地球、気候変動、エネルギー

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標: 授業で学修したことを基に、自分自身の興味関心を明確にし、更に深めることができる。

評価方法: 定期試験、
小テスト、
レポート、
提出物

評価割合: 総合評価

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標: 授業や自学自修で明らかになったことをまとめるとともに、自分自身の考えを様々な方法で伝えることができる。

評価方法: 上記参照

評価割合: 総合評価

▼ 学修に主体的に取り組む態度

自分自身にとっての関わりを探し出し、興味の対象を広げていこうとする。

評価割合：総合評価

▼実践的ボランティア

自分自身で考えて、積極的にかかわろうとする。

評価割合：総合評価

▼公正性

事実に基づいて判断し、適正な行動ができる。

評価割合：総合評価

▼その他

なし

評価割合：なし

授業計画： 1. 人類の進化と文明の誕生
2. 自然科学の進展
3. 近代科学の爆発的発展
4. 電力の役割と課題
5. トリレンマ問題と対策
(以上、富永担当)

1. 相対論の不思議
2. 量子論の不思議
3. チョコレートの自然科学
4. 音楽の自然科学
5. 対話と討論
(以上、山口担当)

1. 自然科学は驚きと好奇心から
2. データをとる、地球温暖化の例から
3. 実際に土の中の生き物を観察する
4. データをまとめる、エネルギーの例
5. 表現する、レポートの書き方
(以上、飯田担当)

使用テキスト：なし

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 大学設置基準の規定により、合計30時間の授業に加えて、合計60時間の自学自修を必要とする。
内容は、授業の進行に合わせて指示する。

障がいのある履修者への対応： 担当者と直接、相談してください。

授業時間外の連絡手段： 学務部に問い合わせてください。

留意事項：なし

科目コード：10143 科目ナンバリング： 主な使用言語：日本語

授業名(英文)：自然科学の考え方 f(Introduction to Natural Science f)

担当者：山口 郁博、飯田 利明、富永 研司

基本情報

年次：1

単位数：2

授業形式：講義

曜時：水曜4限

履修可能学科・専攻： E Pe Pc C W F N M

関連資格：

AL要素：03、
08、

10、
11、
16、

授業の概要： 自然科学各分野の担当者によるオムニバス形式の授業。
3人の担当者が5回づつ授業をする。
各々の研究分野の成り立ち、基本的な課題設定、最近のホットなテーマ、現代社会における役割について概略を示す。
人類は獲得した膨大な知能を何に使うべきなのか考察する。

キーワード： 天体、宇宙、人工知能、遺伝子、命、地球、気候変動、エネルギー

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 授業で学修したことを基に、自分自身の興味関心を明確にし、更に深めることができる。

評価方法： 定期試験、
小テスト、
レポート、
提出物

評価割合： 総合評価

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 授業や自学自修で明らかになったことをまとめるとともに、自分自身の考えを様々な方法で伝えることができる。

評価方法： 上記参照

評価割合： 総合評価

▼学修に主体的に取り組む態度

自分自身にとっての関わりを探し出し、興味の対象を広げていこうとする。

評価割合： 総合評価

▼実践的ボランティア

自分自身で考えて、積極的にかかわろうとする。

評価割合： 総合評価

▼公正性

事実に基づいて判断し、適正な行動ができる。

評価割合： 総合評価

▼その他

なし

評価割合： なし

授業計画：

1. 相対論の不思議
2. 量子論の不思議
3. チョコレートの自然科学
4. 音楽の自然科学
5. 対話と討論

(以上、山口担当)

1. 自然科学は驚きと好奇心から
2. データをとる、地球温暖化の例から
3. 実際に土の中の生き物を観察する
4. データをまとめる、エネルギーの例
5. 表現する、レポートの書き方

(以上、飯田担当)

1. 人類の進化と文明の誕生
 2. 自然科学の進展
 3. 近代科学の爆発的発展
 4. 電力の役割と課題
 5. トリレンマ問題と対策
- (以上、富永担当)

使用テキスト: なし

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 大学設置基準の規定により、合計30時間の授業に加えて、合計60時間の自学自修を必要とする。
内容は、授業の進行に合わせて指示する。

障がいのある履修者への対応: 担当者と直接、相談してください。

授業時間外の連絡手段: 学務部に問い合わせてください。

留意事項: なし

科目コード: 10143 **科目ナンバリング:** **主な使用言語:** 日本語

授業名(英文): 自然科学の考え方 g(Introduction to Natural Science g)

担当者: 山口 郁博、飯田 利明、目黒 周作

基本情報

年次: 1

単位数: 2

授業形式: 講義

曜時: 水曜3限

履修可能学科・専攻: E Pe Pc C W F N M

関連資格:

AL要素: 03、
08、
10、
11、
16、

授業の概要: 自然科学各分野の担当者によるオムニバス形式の授業。
3人の担当者が5回ずつ授業をする。
各々の研究分野の成り立ち、基本的な課題設定、最近のホットなテーマ、現代社会における役割について概略を示す。
人類は獲得した膨大な知能を何に使うべきなのかを考察する。

キーワード: 天体、宇宙、人工知能、遺伝子、命、地球、気候変動、エネルギー

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標: 授業で学修したことを基に、自分自身の興味関心を明確にし、更に深めることができる。

評価方法: 定期試験、
小テスト、
レポート、
提出物

評価割合: 総合評価

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標: 授業や自学自修で明らかになったことをまとめるとともに、自分自身の考えを様々な方法で伝えることができる。

評価方法: 上記参照

評価割合: 総合評価

▼ 学修に主体的に取り組む態度

自分自身にとっての関わりを探し出し、興味の対象を広げていこうとする。

評価割合：総合評価

▼実践的ボランティア

自分自身で考えて、積極的にかかわろうとする。

評価割合：総合評価

▼公正性

事実に基づいて判断し、適正な行動ができる。

評価割合：総合評価

▼その他

なし

評価割合：なし

授業計画： 1. 相対論の不思議
2. 量子論の不思議
3. チョコレートの自然科学
4. 音楽の自然科学
5. 対話と討論
(以上、山口担当)

1. 自然科学は驚きと好奇心から
2. データをとる、地球温暖化の例から
3. 実際に土の中の生き物を観察する
4. データをまとめる、エネルギーの例
5. 表現する、レポートの書き方
(以上、飯田担当)

1. 自然科学とは？
2. データの見方と解釈
3. 研究倫理から考える自然科学
4. 科学の発展と功罪
5. 自然科学との付き合い方
(以上、目黒担当)

使用テキスト：なし

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 大学設置基準の規定により、合計30時間の授業に加えて、合計60時間の自学自修を必要とする。
内容は、授業の進行に合わせて指示する。

障がいのある履修者への対応： 担当者と直接、相談してください。

授業時間外の連絡手段： 学務部に問い合わせてください。

留意事項：なし

科目コード：10143 科目ナンバリング： 主な使用言語：日本語

授業名(英文)：自然科学の考え方 h(Introduction to Natural Science h)

担当者：飯田 利明、富永 研司、山口 郁博

基本情報

年次：1

単位数：2

授業形式：講義

曜時：水曜3限

履修可能学科・専攻： E Pe Pc C W F N M

関連資格：

AL要素：03、
08、

10、
11、
16、

授業の概要： 自然科学各分野の担当者によるオムニバス形式の授業。
3人の担当者が5回づつ授業をする。
各々の研究分野の成り立ち、基本的な課題設定、最近のホットなテーマ、現代社会における役割について概略を示す。
人類は獲得した膨大な知能を何に使うべきなのか考察する。

キーワード： 天体、宇宙、人工知能、遺伝子、命、地球、気候変動、エネルギー

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 授業で学修したことを基に、自分自身の興味関心を明確にし、更に深めることができる。

評価方法： 定期試験、
小テスト、
レポート、
提出物

評価割合： 総合評価

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 授業や自学自修で明らかになったことをまとめるとともに、自分自身の考えを様々な方法で伝えることができる。

評価方法： 上記参照

評価割合： 総合評価

▼学修に主体的に取り組む態度

自分自身にとっての関わりを探し出し、興味の対象を広げていこうとする。

評価割合： 総合評価

▼実践的ボランティア

自分自身で考えて、積極的にかかわろうとする。

評価割合： 総合評価

▼公正性

事実に基づいて判断し、適正な行動ができる。

評価割合： 総合評価

▼その他

なし

評価割合： なし

授業計画：

1. 自然科学は驚きと好奇心から
2. データをとる、地球温暖化の例から
3. 実際に土の中の生き物を観察する
4. データをまとめる、エネルギーの例
5. 表現する、レポートの書き方
(以上、飯田担当)

1. 相対論の不思議
2. 量子論の不思議
3. チョコレートの自然科学
4. 音楽の自然科学
5. 対話と討論
(以上、山口担当)

1. 人類の進化と文明の誕生
 2. 自然科学の進展
 3. 近代科学の爆発的発展
 4. 電力の役割と課題
 5. トリレンマ問題と対策
- (以上、富永担当)

使用テキスト: なし

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 大学設置基準の規定により、合計30時間の授業に加えて、合計60時間の自学自修を必要とする。
内容は、授業の進行に合わせて指示する。

障がいのある履修者への対応: 担当者と直接、相談してください。

授業時間外の連絡手段: 学務部に問い合わせてください。

留意事項: なし

科目コード: 10143 科目ナンバリング: 主な使用言語: 日本語

授業名(英文): 自然科学の考え方 i(Introduction to Natural Science i)

担当者: 目黒 周作、富永 研司、山口 郁博

基本情報

年次: 1

単位数: 2

授業形式: 講義

曜時: 水曜3限

履修可能学科・専攻: E Pe Pc C W F N M

関連資格:

AL要素: 03、
08、
10、
11、
16、

授業の概要: 自然科学各分野の担当者によるオムニバス形式の授業。
3人の担当者が5回ずつ授業をする。
各々の研究分野の成り立ち、基本的な課題設定、最近のホットなテーマ、現代社会における役割について概略を示す。
人類は獲得した膨大な知能を何に使うべきなのかを考察する。

キーワード: 天体、宇宙、人工知能、遺伝子、命、地球、気候変動、エネルギー

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標: 授業で学修したことを基に、自分自身の興味関心を明確にし、更に深めることができる。

評価方法: 定期試験、
小テスト、
レポート、
提出物

評価割合: 総合評価

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 授業や自学自修で明らかになったことをまとめるとともに、自分自身の考えを様々な方法で伝えることができる。

評価方法: 上記参照

評価割合: 総合評価

▼学修に主体的に取り組む態度

自分自身にとっての関わりを探し出し、興味の対象を広げていこうとする。

評価割合：総合評価

▼実践的ボランティア

自分自身で考えて、積極的にかかわろうとする。

評価割合：総合評価

▼公正性

事実に基づいて判断し、適正な行動ができる。

評価割合：総合評価

▼その他

なし

評価割合：なし

授業計画： 1. 自然科学とは？
2. データの見方と解釈
3. フィールドワークから実験まで
4. 科学の発展と功罪
5. 自然科学との付き合い方
(以上、目黒担当)

1. 人類の進化と文明の誕生
2. 自然科学の進展
3. 近代科学の爆発的発展
4. 電力の役割と課題
5. トリレンマ問題と対策
(以上、富永担当)

1. 相対論の不思議
2. 量子論の不思議
3. チョコレートの自然科学
4. 音楽の自然科学
5. 対話と討論
(以上、山口担当)

使用テキスト：なし

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 大学設置基準の規定により、合計30時間の授業に加えて、合計60時間の自学自修を必要とする。
内容は、授業の進行に合わせて指示する。

障がいのある履修者への対応： 担当者と直接、相談してください。

授業時間外の連絡手段： 学務部に問い合わせてください。

留意事項：なし

科目コード：10143

科目ナンバリング：

主な使用言語：日本語

授業名(英文)：自然科学の考え方 j(Introduction to Natural Science j)

担当者：富永 研司、飯田 利明、目黒 周作

基本情報

年次：1

単位数：2

授業形式：講義

曜時：水曜3限

履修可能学科・専攻： E Pe Pc C W F N M

関連資格：

AL要素：03、
08、
10、
11、
16、

授業の概要： 自然科学各分野の担当者によるオムニバス形式の授業。
3人の担当者が5回ずつ授業をする。
各々の研究分野の成り立ち、基本的な課題設定、最近のホットなテーマ、現代社会における役割について概略を示す。
人類は獲得した膨大な知能を何に使うべきなのかを考察する。

キーワード： 天体、宇宙、人工知能、遺伝子、命、地球、気候変動、エネルギー

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 授業で学修したことを基に、自分自身の興味関心を明確にし、更に深めることができる。

評価方法： 定期試験、
小テスト、
レポート、
提出物

評価割合： 総合評価

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 授業や自学自修で明らかになったことをまとめるとともに、自分自身の考えを様々な方法で伝えることができる。

評価方法： 上記参照

評価割合： 総合評価

▼学修に主体的に取り組む態度

自分自身にとっての関わりを探し出し、興味の対象を広げていこうとする。

評価割合： 総合評価

▼実践的ボランティア

自分自身で考えて、積極的にかかわろうとする。

評価割合： 総合評価

▼公正性

事実に基づいて判断し、適正な行動ができる。

評価割合： 総合評価

▼その他

なし

評価割合： なし

授業計画：

1. 人類の進化と文明の誕生
2. 自然科学の進展
3. 近代科学の爆発的発展
4. 電力の役割と課題
5. トリレンマ問題と対策
(以上、富永担当)

1. 自然科学は驚きと好奇心から
2. データをとる、地球温暖化の例から
3. 実際に土の中の生き物を観察する
4. データをまとめる、エネルギーの例

5. 表現する、レポートの書き方
(以上、飯田担当)

1. 自然科学とは？
2. データの見方と解釈
3. 研究倫理から考える自然科学
4. 科学の発展と功罪
5. 自然科学との付き合い方
(以上、目黒担当)

使用テキスト： なし

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 大学設置基準の規定により、合計30時間の授業に加えて、合計60時間の自学自修を必要とする。
内容は、授業の進行に合わせて指示する。

障がいのある履修者への対応： 担当者と直接、相談してください。

授業時間外の連絡手段： 学務部に問い合わせてください。

留意事項： なし

科目コード：10143 科目ナンバリング： 主な使用言語：日本語

授業名(英文)： 自然科学の考え方 k(Introduction to Natural Science k)

担当者： 山口 郁博、飯田 利明、目黒 周作

基本情報

年次：1

単位数：2

授業形式：講義

曜時：水曜4限

履修可能学科・専攻： E Pe Pc C W F N M

関連資格：

AL要素： 03、
08、
10、
11、
16、

授業の概要： 自然科学各分野の担当者によるオムニバス形式の授業。
3人の担当者が5回ずつ授業をする。
各々の研究分野の成り立ち、基本的な課題設定、最近のホットなテーマ、現代社会における役割について概略を示す。
人類は獲得した膨大な知能を何に使うべきなのか考察する。

キーワード： 天体、宇宙、人工知能、遺伝子、命、地球、気候変動、エネルギー

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標： 授業で学修したことを基に、自分自身の興味関心を明確にし、更に深めることができる。

評価方法： 定期試験、
小テスト、
レポート、
提出物

評価割合：総合評価

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標： 授業や自学自修で明らかになったことをまとめるとともに、自分自身の考えを様々な方法で伝えることができる。

評価方法： 上記参照

評価割合：総合評価

▼学修に主体的に取り組む態度

自分自身にとっての関わりを探し出し、興味の対象を広げていこうとする。

評価割合：総合評価

▼実践的ボランティア

自分自身で考えて、積極的にかかわろうとする。

評価割合：総合評価

▼公正性

事実に基づいて判断し、適正な行動ができる。

評価割合：総合評価

▼その他

なし

評価割合：なし

授業計画：

1. 相対論の不思議
2. 量子論の不思議
3. チョコレートの自然科学
4. 音楽の自然科学
5. 対話と討論

(以上、山口担当)

1. 自然科学は驚きと好奇心から
2. データをとる、地球温暖化の例から
3. 実際に土の中の生き物を観察する
4. データをまとめる、エネルギーの例
5. 表現する、レポートの書き方

(以上、飯田担当)

1. 自然科学とは？
2. データの見方と解釈
3. 研究倫理から考える自然科学
4. 科学の発展と功罪
5. 自然科学との付き合い方

(以上、目黒担当)

使用テキスト： なし

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 大学設置基準の規定により、合計30時間の授業に加えて、合計60時間の自学自修を必要とする。
内容は、授業の進行に合わせて指示する。

障がいのある履修者への対応： 担当者と直接、相談してください。

授業時間外の連絡手段： 学務部に問い合わせてください。

留意事項： なし

科目コード：10143 **科目ナンバリング：** **主な使用言語：**日本語

授業名(英文)：自然科学の考え方 I(Introduction to Natural Science I)

担当者：飯田 利明、富永 研司、山口 郁博

基本情報

年次：1

単位数：2

授業形式：講義

曜時：水曜4限

履修可能学科・専攻： E Pe Pc C W F N M

関連資格：

AL要素：03、
08、
10、
11、
16、

授業の概要： 自然科学各分野の担当者によるオムニバス形式の授業。
3人の担当者が5回づつ授業をする。
各々の研究分野の成り立ち、基本的な課題設定、最近のホットなテーマ、現代社会における役割について概略を示す。
人類は獲得した膨大な知能を何に使うべきなのかを考察する。

キーワード： 天体、宇宙、人工知能、遺伝子、命、地球、気候変動、エネルギー

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 授業で学修したことを基に、自分自身の興味関心を明確にし、更に深めることができる。

評価方法： 定期試験、
小テスト、
レポート、
提出物

評価割合： 総合評価

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 授業や自学自修で明らかになったことをまとめるとともに、自分自身の考えを様々な方法で伝えることができる。

評価方法： 上記参照

評価割合： 総合評価

▼学修に主体的に取り組む態度

自分自身にとっての関わりを探し出し、興味の対象を広げていこうとする。

評価割合： 総合評価

▼実践的ボランティア

自分自身で考えて、積極的にかかわろうとする。

評価割合： 総合評価

▼公正性

事実に基づいて判断し、適正な行動ができる。

評価割合： 総合評価

▼その他

なし

評価割合： なし

授業計画：

1. 自然科学は驚きと好奇心から
2. データをとる、地球温暖化の例から
3. 実際に土の中の生き物を観察する
4. データをまとめる、エネルギーの例
5. 表現する、レポートの書き方
(以上、飯田担当)

1. 相対論の不思議
2. 量子論の不思議
3. チョコレートの自然科学
4. 音楽の自然科学

5. 対話と討論
(以上、山口担当)

1. 人類の進化と文明の誕生
2. 自然科学の進展
3. 近代科学の爆発的発展
4. 電力の役割と課題
5. トリレンマ問題と対策
(以上、富永担当)

使用テキスト: なし

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 大学設置基準の規定により、合計30時間の授業に加えて、合計60時間の自学自修を必要とする。
内容は、授業の進行に合わせて指示する。

障がいのある履修者への対応: 担当者と直接、相談してください。

授業時間外の連絡手段: 学務部に問い合わせてください。

留意事項: なし

科目コード:10143 科目ナンバリング: 主な使用言語:日本語

授業名(英文): 自然科学の考え方 m(Introduction to Natural Science m)

担当者: 目黒 周作、富永 研司、山口 郁博

基本情報

年次:1

単位数:2

授業形式:講義

曜時:水曜4限

履修可能学科・専攻: E Pe Pc C W F N M

関連資格:

AL要素: 03、
08、
10、
11、
16、

授業の概要:

自然科学各分野の担当者によるオムニバス形式の授業。
3人の担当者が5回づつ授業をする。
各々の研究分野の成り立ち、基本的な課題設定、最近のホットなテーマ、現代社会における役割について概略を示す。
人類は獲得した膨大な知能を何に使うべきなのか考察する。

キーワード: 天体、宇宙、人工知能、遺伝子、命、地球、気候変動、エネルギー

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標: 授業で学修したことを基に、自分自身の興味関心を明確にし、更に深めることができる。

評価方法: 定期試験、
小テスト、
レポート、
提出物

評価割合: 総合評価

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 授業や自学自修で明らかになったことをまとめるとともに、自分自身の考えを様々な方法で伝えることができる。

評価方法: 上記参照

評価割合: 総合評価

▼学修に主体的に取り組む態度

自分自身にとっての関わりを探し出し、興味の対象を広げていこうとする。

評価割合: 総合評価

▼実践的ボランティア

自分自身で考えて、積極的にかかわろうとする。

評価割合: 総合評価

▼公正性

事実に基づいて判断し、適正な行動ができる。

評価割合: 総合評価

▼その他

なし

評価割合: なし

授業計画: 1. 自然科学とは?
2. データの見方と解釈
3. フィールドワークから実験まで
4. 科学の発展と功罪
5. 自然科学との付き合い方
(以上、目黒担当)

1. 人類の進化と文明の誕生
2. 自然科学の進展
3. 近代科学の爆発的発展
4. 電力の役割と課題
5. トリレンマ問題と対策
(以上、富永担当)

1. 相対論の不思議
2. 量子論の不思議
3. チョコレートの自然科学
4. 音楽の自然科学
5. 対話と討論
(以上、山口担当)

使用テキスト: なし

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 大学設置基準の規定により、合計30時間の授業に加えて、合計60時間の自学自修を必要とする。
内容は、授業の進行に合わせて指示する。

障がいのある履修者への対応: 担当者と直接、相談してください。

授業時間外の連絡手段: 学務部に問い合わせてください。

留意事項: なし

科目コード: 10143

科目ナンバリング:

主な使用言語: 日本語

授業名(英文): 自然科学の考え方 n(Introduction to Natural Science n)

担当者：富永 研司、飯田 利明、目黒 周作

基本情報

年次：1

単位数：2

授業形式：講義

曜時：水曜4限

履修可能学科・専攻：E Pe Pc C W F N M

関連資格：

AL要素：03、
08、
10、
11、
16、

授業の概要： 自然科学各分野の担当者によるオムニバス形式の授業。
3人の担当者が5回づつ授業をする。
各々の研究分野の成り立ち、基本的な課題設定、最近のホットなテーマ、現代社会における役割について概略を示す。
人類は獲得した膨大な知能を何に使うべきなのかを考察する。

キーワード： 天体、宇宙、人工知能、遺伝子、命、地球、気候変動、エネルギー

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 授業で学修したことを基に、自分自身の興味関心を明確にし、更に深めることができる。

評価方法： 定期試験、
小テスト、
レポート、
提出物

評価割合： 総合評価

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 授業や自学自修で明らかになったことをまとめるとともに、自分自身の考えを様々な方法で伝えることができる。

評価方法： 上記参照

評価割合： 総合評価

▼学修に主体的に取り組む態度

自分自身にとっての関わりを探し出し、興味の対象を広げていこうとする。

評価割合： 総合評価

▼実践的ボランティア

自分自身で考えて、積極的にかかわろうとする。

評価割合： 総合評価

▼公正性

事実に基づいて判断し、適正な行動ができる。

評価割合： 総合評価

▼その他

なし

評価割合： なし

授業計画：

1. 人類の進化と文明の誕生
2. 自然科学の進展
3. 近代科学の爆発的発展
4. 電力の役割と課題
5. トリレンマ問題と対策
(以上、富永担当)

1. 自然科学は驚きと好奇心から
2. データをとる、地球温暖化の例から
3. 実際に土の中の生き物を観察する
4. データをまとめる、エネルギーの例
5. 表現する、レポートの書き方
(以上、飯田担当)

1. 自然科学とは？
2. データの見方と解釈
3. 研究倫理から考える自然科学
4. 科学の発展と功罪
5. 自然科学との付き合い方
(以上、目黒担当)

使用テキスト： なし

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 大学設置基準の規定により、合計30時間の授業に加えて、合計60時間の自学自修を必要とする。
内容は、授業の進行に合わせて指示する。

障がいのある履修者への対応： 担当者と直接、相談してください。

授業時間外の連絡手段： 学務部に問い合わせてください。

留意事項： なし

科目コード：10144 科目ナンバリング： 主な使用言語：日本語

授業名(英文)：生命科学の基礎知識 a(Understanding Basic Life Science a)

担当者：山口 郁博

基本情報

年次：1 単位数：2 授業形式：講義
曜時：水曜5限 履修可能学科・専攻：E Pe Pc C W F N M
関連資格： AL要素：10 資料調査課題

授業の概要： 身近な自分自身の身体を切り口にして生命科学の基礎を学ぶ。フルカラーの図版や写真をつかって、視覚的な理解・記憶の定着を図る。ヒトに関することとして、栄養や呼吸・排泄など内臓と関係すること、聴覚・視覚など神経系と関係すること、さらには記憶・思考・社会性など、脳活動に関係することなどを学ぶ。生命体全体の一員として自分自身の生き方をあらためて考える一助にしたい。

キーワード： 誕生 死 子孫 遺伝 刺激 運動 環境 適応

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標： 直接的な評価対象とはしない。ただし、授業で説明された内容を知識としてきちんと習得することは、下記項目「思考力・判断力・表現力」を身に着ける上で必要不可欠であり、それを通じて本項目は間接的に評価される

評価方法： なし 評価割合：0%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標： 授業で得た基礎知識を自身の経験、将来の希望、専攻分野等を踏まえた視点で整理し、自らの所見を表現することができる

評価方法： 課題提出 評価割合：100%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし、自主的な学修によって自身の知見に追加された成果が課題提出により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。他の学生の学修に支障をきたすような迷惑な行為がみられた場合には、嚴重注意の対象とする。

評価割合：0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただし、ボランティア活動等の実践により深められた知見等が課題提出により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし人権侵害、差別、不正等の行為で著しく公正性を欠く場合は、減点や嚴重注意の対象とする。

評価割合：0%

▼その他

特になし

評価割合：特になし

授業計画：	第1回	いのちのひろがり
	第2回	生命の基礎的なしくみ
	第3回	生命の設計図「ゲノム」
	第4回	ヒトの誕生と成長
	第5回	ヒトの寿命と死
	第6回	生命を理解するための科学技術
	第7回	刺激を感じるしくみ
	第8回	情報を伝えるしくみ・動くしくみ
	第9回	神経系の構造
	第10回	生きるたのしみ 栄養素の代謝
	第11回	生きるたのしみ 循環と維持
	第12回	子孫を増やすしくみ
	第13回	外的環境に適応するしくみ
	第14回	外敵から身を守るしくみ
	第15回	社会性を生み出す脳

使用テキスト： 指定しない。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 特に予習を前提とはしないが問題意識を持って授業に臨むことが重要である。復習に適した参考文献や資料を授業中に示す。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応しますので、連絡をお願いします。

授業時間外の連絡手段： 電子メール アドレスは初回に伝えます。

留意事項： 特になし

科目コード：10144

科目ナンバリング：

主な使用言語：日本語

授業名(英文)：生命科学の基礎知識 b(Understanding Basic Life Science b)

担当者：山口 郁博

基本情報

年次：1

単位数：2

授業形式：講義

曜時：水曜5限

履修可能学科・専攻：E Pe Pc C W F N M

関連資格：

AL要素：10 資料調査課題

授業の概要: 【授業形態ガイドライン・レベルⅢ、レベルⅡ】遠隔授業 同時双方向型

身近な自分自身の身体を切り口にして生命科学の基礎を学ぶ。フルカラーの図版や写真をつかって、視覚的な理解・記憶の定着を図る。ヒトに関することとして、栄養や呼吸・排泄など内臓と関係すること、聴覚・視覚など神経系と関係すること、さらには記憶・思考・社会性など、脳活動に関係することなどを学ぶ。生命体全体の一員として自分自身の生き方をあらためて考える一助にしたい。

キーワード: 誕生 死 子孫 遺伝 刺激 運動 環境 適応

学位授与方針との関係

▼ **知識・技能**

到達目標: 直接的な評価対象とはしない。ただし、授業で説明された内容を知識としてきちんと習得することは、下記項目「思考力・判断力・表現力」を身に着ける上で必要不可欠であり、それを通じて本項目は間接的に評価される

評価方法: なし

評価割合: 0%

▼ **思考力・判断力・表現力**

到達目標: 授業で得た基礎知識を自身の経験、将来の希望、専攻分野等を踏まえた視点で整理し、自らの所見を表現することができる

評価方法: 課題提出

評価割合: 100%

▼ **学修に主体的に取り組む態度**

直接的な評価対象とはしない。ただし、自主的な学修によって自身の知見に追加された成果が課題提出により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。他の学生の学修に支障をきたすような迷惑な行為がみられた場合には、嚴重注意の対象とする。

評価割合: 0%

▼ **実践的ボランティア**

直接的な評価対象とはしない。ただし、ボランティア活動等の実践により深められた知見等が課題提出により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合: 0%

▼ **公正性**

直接的な評価対象とはしない。ただし人権侵害、差別、不正等の行為で著しく公正性を欠く場合は、減点や嚴重注意の対象とする。

評価割合: 0%

▼ **その他**

特になし

評価割合: 特になし

授業計画:

第1回	いのちのひろがり
第2回	生命の基礎的なしくみ
第3回	生命の設計図「ゲノム」
第4回	ヒトの誕生と成長
第5回	ヒトの寿命と死
第6回	生命を理解するための科学技術
第7回	刺激を感じるしくみ
第8回	情報を伝えるしくみ・動くしくみ
第9回	神経系の構造
第10回	生きるたのしみ 栄養素の代謝
第11回	生きるたのしみ 循環と維持
第12回	子孫を増やすしくみ
第13回	外的環境に適応するしくみ
第14回	外敵から身を守るしくみ
第15回	社会性を生み出す脳

使用テキスト： 特になし。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 特に予習を前提とはしないが問題意識を持って授業に臨むことが重要である。復習に適した参考文献や資料を授業中に示す。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応しますので、連絡をお願いします。

授業時間外の連絡手段： 電子メール アドレスは初回に伝えます。

留意事項： 特になし

科目コード：10145 科目ナンバリング： 主な使用言語：日本語

授業名(英文)：生命倫理(Bioethics)

担当者：柳橋 晃

基本情報

年次：1

単位数：2

授業形式：講義

曜時：金曜1限

履修可能学科・専攻： E Pe Pc C W F N M

関連資格：

AL要素：08. 協同学修

11. 討論

16. 振り返り用紙と応答

17. 発問と回答

授業の概要： 本講義は、現代の様々な場面で直面するであろう生命倫理が問題となる出来事に関する基礎的な知識を概説するものです。また、概説した出来事に関して、具体的な事例を取り上げながら受講生同士で議論を行い、洞察を深めます。これらの活動を通して、実際に生命倫理的問題に直面した際に、その洞察を活用できる態度を醸成することを目的とします。

キーワード： 自己決定、パターナリズム、インフォームドコンセント、守秘義務、尊厳死、安楽死、脳死、臓器移植、公衆衛生、人工妊娠中絶、生殖技術、遺伝子操作、エンハンスメント、研究倫理、ニュルンベルク綱領、ヘルシンキ宣言、タスキギー研究、ベルモントレポート、動物実験、専門職倫理

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標： 生命倫理に関する基礎的知識を理解し、身につけることができる。

評価方法： ・中間試験

評価割合：50%

・定期試験

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標： 具体的な事例を通して、自身の考えを問い直すとともに、多様な視点から考えることができる。

評価方法： ・中間試験

評価割合：50%

・定期試験

▼ 学修に主体的に取り組む態度

直接の評価対象とはしない。

評価割合：0%

▼ 実践的ボランティア

直接の評価対象とはしない。

評価割合：0%

▼公正性

直接の評価対象とはしない。

評価割合：0%

▼その他

特になし

評価割合：特になし

授業計画：

- 第1週 倫理とは、生命倫理とは
- 第2週 自己決定とパターンリズム
- 第3週 インフォームドコンセント、守秘義務
- 第4週 安楽死と尊厳死
- 第5週 脳死と臓器移植
- 第6週 公衆衛生
- 第7週 中間のまとめ
- 第8週 人工妊娠中絶と生殖技術
- 第9週 人工妊娠中絶と生殖技術に関する諸問題
- 第10週 遺伝子操作とエンハンスメント
- 第11週 遺伝子操作とエンハンスメントに関する諸問題
- 第12週 研究倫理：ニュルンベルグ綱領、ヘルシンキ宣言
- 第13週 研究倫理：タスキギー研究、ベルモントレポート
- 第14週 研究倫理：動物実験に関する倫理
- 第15週 専門職倫理

使用テキスト： 適宜配布するスライドのハンドアウトを用いて授業を進めます。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 予習については、適宜に紹介する生命倫理に関する文献に目を通しておくことが望ましい。復習については、授業内で配布する資料を用いて、重要語句の内容をまとめておくこと。

参考文献としては、以下の5点を挙げておきます。

- ・トム・L. ビーチャム、ジェイムズ・F. チルドレス『生命医学倫理』麗澤大学出版会、2009年。
- ・Ezekiel J. Emanuel, et al. eds. The Oxford Textbook of Clinical Research Ethics., Oxford University Press, 2008.
- ・市野川容孝編『生命倫理とは何か』平凡社、2002年。
- ・松井健志監修『相談事例から考える研究倫理コンサルテーション』医歯薬出版、2022年。
- ・田代志門『みんなの研究倫理入門：臨床研究になぜこんな面倒な手続きが必要なのか』医学書院2020年。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡して下さい。

授業時間外の連絡手段： オフィスアワーに研究室で対応します。曜日・時限等については授業内でお知らせします。

留意事項： デバイスの持参を推奨します。

科目コード：10146

科目ナンバリング：

主な使用言語：日本語

授業名(英文)：健康とは何か(What is Health?)

担当者：小野 加奈子、叶多 博美、小池 美香、若林 千津子、長津 貴子、鈴木 陽子

基本情報

年次：1

単位数：2

授業形式：講義

曜時：木曜5限

履修可能学科・専攻：E Pe Pc C W F N M

関連資格：**AL要素：** 03. 実践・実技・体験
07. 発表
11. 討論
16. 振り返り用紙と応答
17. 発問と回答

授業の概要：「健康とは何か」について、健康に関する概念や指標、発達段階から捉えるだけでなく、食事・睡眠・排泄・運動などの基本的な生活習慣と健康との関連について学修する。更に、飲酒と喫煙の健康への影響や心の健康についても理解を深め、わが国の健康づくり対策について学修する。また、さまざまな情報があふれるなかで性についてや救命の知識や技術など幅広い視点で健康について捉え、自らの生活を振り返り、多角的・総合的に自己の健康管理について考える。

キーワード： 健康、健康指標、生活習慣、疾病予防、健康増進

学位授与方針との関係**▼ 知識・技能**

到達目標： 1. 健康の概念・健康指標および我が国の健康づくり対策について説明できる。
2. 生活と健康との関連や講義のテーマにあげたトピックスから健康に関する知識や技術について説明できる。

評価方法： 試験

評価割合： 90%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標： 1. 自らの健康について振り返る。
2. 自己の生活を振り返り、健康状態を考察し、論理的かつ簡潔に自らの健康管理方法について表現することができる。

評価方法： レポート

評価割合： 10%

▼ 学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし自主的な学修によって自身の知見に追加された成果等が学期末試験の記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合： 0%

▼ 実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただしボランティア活動等の実践により深められた知見等が学期末試験の記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合： 0%

▼ 公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし授業中の発言や筆記試験の記述等において人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動があった場合は、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。

評価割合： 0%

▼ その他

家族や友人の健康についての関心を寄せ、周囲の人々と共に疾病予防や健康の保持・増進についての

方策を考えられるとよい。

評価割合：家族や友人の健康についての関心

授業計画：

- 第1回:健康の概念と健康指標(叶多)
 - 第2回:飲酒と健康(小野)
 - 第3回:喫煙と健康(若林)
 - 第4回:ライフサイクルと健康(鈴木)
 - 第5回:性と健康(小野)
 - 第6回:食生活と健康(小池)
 - 第7回:排泄と健康(小池)
 - 第8回:睡眠と健康(小池)
 - 第9回:運動と健康(鈴木)
 - 第10回:ストレスと健康(若林)
 - 第11回:心と健康(長津)
 - 第12回:救命の知識と技術(長津)
 - 第13回:我が国の健康づくり対策(叶多)
 - 第14回:生活の振り返りと健康管理(小野)
 - 第15回:まとめ(小野)
- ※ 順番は変更の可能性あり

使用テキスト： 授業で使用する資料はすべて印刷・配布する。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 配付資料について復習するとともに、資料にない関連事項について自主学修を通じ知見を深めることが望ましい。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡して下さい。

授業時間外の連絡手段： オフィスアワーに研究室で対応します。曜日・時限等については初回にお知らせします。

留意事項： 現時点で自らの健康状態をどう捉えているか、その理由をレポートにまとめ、初回授業で発言できるように準備しておく。自分の生活を振り返りながら、授業にのぞむこと。
※ teamsのチームコードが提示された時は必ずチームに参加して下さい。

科目コード：10147

科目ナンバリング：

主な使用言語：日本語

授業名(英文)：食といのち(Food and Life)

担当者：助川 宏子

基本情報

年次：1

単位数：2

授業形式：講義

曜時：水曜2限

履修可能学科・専攻：E Pe Pc C W F N M

関連資格：

AL要素：07.発表

10.資料調査課題

17.発問と回答

授業の概要： 生物は外界から物質やエネルギーを摂り入れ生命活動を営んでいます。人間の生命と健康の源も適切な食物摂取と規則正しい食生活にあります。我々が日常口にして500種類にのぼる食品は、「栄養」(1次機能)、「嗜好」(2次機能)、「生体調節」(3次機能)の3つの役割を持っています。個々の食品の持つこれらの特徴を知り、健康な体と心を維持するための食生活習慣を身につける自分に合った方法を授業を通して見つけていきます。
また本講義では、食品群ごとに生産量や消費量などの現状を把握し、食に関する現状の

問題点やサステナブルな社会を実現するための食の在り方について一緒に考えてみましょう。

さらに、各自興味のある食品について食文化または科学的視点から調査を行い、発表することで楽しみながら食への理解を深めます。

キーワード： 食品、栄養、美味しさ、食品の機能性、食生活、健康、いのち

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標： 食と健康やいのちとの関係を理解し、授業で解説を受けた食品の栄養素や機能性成分についての知識を習得するとともに正しい食生活習慣を身につける。

評価方法： レポート
2回

評価割合： 50%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標： 食に関するテーマに関して、科学的または文化的な視点から調査を行い、発表を行う。(1人5分程度)

評価方法： 1回

評価割合： 20%

▼ 学修に主体的に取り組む態度

組む態度

資料調査および自主学修によって得られた知見や経験を踏まえて考察し、論理的かつ簡潔に自らの所見を表現することができている。

毎回授業時レポート提出 A4サイズ

評価割合： 30%

▼ 実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。

評価割合： 0%

▼ 公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし授業中の発言、態度、提出課題および発表において人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動があった場合は、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。

評価割合： 0%

▼ その他

特になし。

評価割合： 特になし。

授業計画： 第1回:授業概要、食生活の現状チェック、自分が考える健康的な食生活とは
第2回:食品の栄養(1次機能)、嗜好(2次機能)、機能性(3次機能)とは
第3回:食品の種類と分類
レポート提出「食生活の問題点と改善方法」について A42枚程度
第4回:第一の栄養～水分について～
第5回:第二の栄養～ミネラルについて～
第6回:第三の栄養～炭水化物について～
第7回:第四の栄養～タンパク質について～
第8回:第五の栄養～脂質について～
第9回:食品の相互作用～味・栄養～
第10回:食品の安全性～有機栽培・遺伝子組み換え・成分変化～
レポート提出「興味を持った食に関するレポート〇〇について～」(A4 3枚程度)
(科学的視点または文化的視点から)
第11回:発表およびディスカッション
第12回:発表およびディスカッション

第13回:発表およびディスカッション

第14回:発表およびディスカッション

第15回:発表およびディスカッション

現代の食物や食生活の問題点をまとめ解決策を探る

使用テキスト: 授業で使用する資料は、授業時UNIPAに掲示

予習・復習のポイントと 予習必要なし。

参考文献・資料等: 授業後、掲示資料について復習するとともに資料にはない関連事項に関して、主体的に取り組み知見を深めることが望ましい。

参考資料「食品の科学総論」川上美智子著 理工図書

日本食品標準成分表2020年版(八訂)

日本人の食事摂取基準 2020年版

関連インターネットサイト

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください。

授業時間外の連絡手段: まずはUNIPAにてご連絡ください。

留意事項: 特になし。

科目コード: 10148

科目ナンバリング:

主な使用言語: 日本語

授業名(英文): 地球環境と人間(Environment and Humanity)

担当者: 飯田 利明

基本情報

年次: 1

単位数: 2

授業形式: 講義

曜時: 月曜3限

履修可能学科・専攻: E Pe Pc C W F N M

関連資格:

AL要素: 教室でのオンライン授業に慣れる

授業の概要: 今の時代を「環境の21世紀」と呼んだり、日常生活でも「エコ」という言葉が、驚くほど気軽に使われている。でもわたしたちは本当に何がわかっているのか? 環境のこと、日本と世界で起きていること、その経緯や影響など、あまりにも複雑多様で刻々と変化してわかりにくい。

一方、わたしたち人類を含めた生き物の生活は、現実の場所=目の前の環境で営まれているを忘れるとはできない。いわゆる「環境問題」は、どこかの遠い世界で起きている出来事ではなく、わたしたち一人一人が主役で、身近な地域の中でこそ、未来と世界につながる解決策を考えていく必要がある。

授業では、現在の人類と環境の深刻な関係の現状について、出来るだけ具体的に示して考えたい。そしてわたしたち人類の活動を理解し、この星=地球の環境とわたしたちの今後の関係を見直すほんのわずかな一助とさせていただきたい。

キーワード: 環境破壊、環境汚染、人口爆発、大量消費、大量廃棄、生物多様性、森林破壊、環境コスト

学位授与方針との関係

▼ **知識・技能**

到達目標: 現代の複雑な環境問題を、基礎的知識だけでなく、自分なりに考えるための知識を得る方法を知る。

評価方法: 期末のレポート

評価割合: 40%

▼ **思考力・判断力・表現力**

到達目標: 環境問題を、自分なりに積極的に考えて、自分の考えと行動として、関われるようになる。

評価方法: 期末のレポート

評価割合: 30%

▼学修に主体的に取り組む態度

いわゆる環境問題は、他人ごとではない。

今後、それにどう関わっていくのかを念頭に、授業を受けて、自ら情報を集め、考えていただきたい。

評価割合：30%

▼実践的ボランティア

具体的な評価対象とはしない。

ただし授業に関連する内容のボランティア活動等に参加しているのならば、その経緯、成果をレポートにまとめることは大歓迎します。現場に立っていることを、高く評価の対象としたい。

評価割合：0%

▼公正性

自他に対する公正性の確保は当然のことであり、通常の評価対象とはしない。

評価割合：0%

▼その他

特に無し

評価割合：特に無し

- 授業計画：**
- [第01回] はじめに / わたしたちが生きるこの星「地球」
 - [第02回] 人口爆発と環境の過剰利用
 - [第03回] 経済成長と大量生産社会の影 / 環境汚染について考える
 - [第04回] 地域的な環境汚染「公害」から、地球規模での環境汚染へ
 - [第05回] オゾン層破壊、有機塩素系化学物質汚染、原発事故
 - [第06回] 気候変動 / 地球温暖化の現実
 - [第07回] わたしたちの暮らしを支える生物の多様性の意味
 - [第08回] 生き物たちの大量絶滅の進行について
 - [第09回] 人が依存してきた森林の利用と現状
 - [第10回] 有限の水資源と世界的な現状
 - [第11回] 川がたなぐ森と海 / 日本での水辺の再生への取り組み
 - [第12回] 環境コストをどう扱うか / 「生態系サービス」について考える
 - [第13回] 廃棄物とリサイクルをどう考えるか
 - [第14回] 熱帯雨林の破壊と「開発」と先進国への輸出
 - [第15回] まとめ / 合わせてレポートの取りまとめについての相談、指導
 - [第16回] 対面授業ならば、教室でレポート提出、ICUNIPAでの提出も両立させます

使用テキスト： 参考資料を、紙とICUNIPAで配布します。
必要な本やWebURLは、授業時に紹介します。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 配布された資料に眼を通し、わからないことは自ら進んで調べ、さらに質問することによって、深く理解することが可能です。それは、わたしが授業で話すことは、全体のほんの一部にしか過ぎないからです。

障がいのある履修者への対応： 多様性の一つと考えますので、積極的に対応させていただきます。

授業時間外の連絡手段： ICメール ida_toshiaki@icc.ac.jp へどうぞ

留意事項： 「教室でのZoomオンライン授業」という3年前には考えなかった形を予定しています。教室とWeb経由では、まったく対等な両立です。IDとPWは後程ICUNIPA掲示します。コロナの状況と各人の事情に応じて、臨機応変に判断対応してください。

科目コード：10149 科目ナンバリング：LA10C50K 主な使用言語：日本語

授業名(英文)：資源エネルギーと人間(Energy Resources and Humanity)

担当者：大塚 雅哉

基本情報

年次：1

単位数：2

授業形式：講義

曜時：月曜2限

履修可能学科・専攻： E Pe Pc C W F N M

関連資格：

AL要素： 07.発表

11.討議

授業の概要： 気候変動や安全保障に関わるエネルギー問題への取り組みが益々重要になってきています。授業では、人間社会とエネルギーに関するこれまでの歴史を振り返り、現在のエネルギー問題を把握するとともに、主要なエネルギー源である火力、原子力、再生可能エネルギーなどの技術的特徴と課題を解説していきます。その上で、トータルなエネルギーシステムとして求められるエネルギーミックスの在り方について検討を深めます。さらに、エネルギーや環境に関する世の中の最近の動向やデータを読み解き、今後の社会を支える基盤となるエネルギー問題にどう取り組むか、各自の考えをまとめていきます。なお、エネルギー研究の実務経験を生かし、関連した事例を紹介しながら理解を深めていきます。

キーワード： エネルギー、気候変動、火力、原子力、原子力安全、再生可能エネルギー、トータルエネルギーシステム、人間社会

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標： エネルギー利用技術のこれまでの歴史と現状を理解するとともに、これを踏まえて、今日的課題を検討、考察し、まとめることができる。

評価方法： レポート提出、発表、討議

評価割合： 40%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標： これからの日本のエネルギーミックスはどうあるべきか、個人として今後のエネルギー問題にどう取り組むかなど、関連する多くの情報を集めて自らの考えを整理してまとめることができる。

評価方法： レポート提出、発表、討議

評価割合： 40%

▼ 学修に主体的に取り組む態度

授業への出席状況、授業中の発言発表討議内容、提出物の内容などをもとに評価する。

評価割合： 20%

▼ 実践的ボランティア

特に評価対象としない。

評価割合： 0%

▼ 公正性

直接的な評価対象とはしない。 但し、レポート提出に際して他人の文章を写すなどの不正が見られた場合には減点対象とする。

評価割合： 0%

▼ その他

特になし

評価割合： 特になし

授業計画： 第1回：導入(エネルギーとは、現代的課題)
第2回：エネルギー利用技術の歴史(概観)
第3回：エネルギー科学技術の基礎(エネルギーと仕事、エネルギーの変換と有効利用)
第4回：火力(原理、発電システム、効率向上、環境負荷低減)
第5回：原子力(原理、発電システム、核燃料サイクル、放射性廃棄物)
第6回：原子力安全(福島第一原発事故に関連した原子力の安全、リスク)
第7回：放射線(被ばく、健康管理、防護)
第8回：原子力の将来技術(革新炉開発の世界動向、放射線利用)
第9回：再生可能エネルギー・水素(風力・太陽光・水素など、利用拡大に向けた課題)
第10回：トータルエネルギーシステム(電力システムの安定制御、スマートシステム、課題)

- 第11回：グローバルな動向(地球気候変動問題への対応、世界エネルギー予測)
 第12回：日本の将来エネルギーと社会(エネルギー基本計画)
 第13回：需要主導型エネルギー転換(エネルギー需要サイドの課題)
 第14回：発表、討議(これからのエネルギー問題への取り組みなど)
 第15回：人文社会的課題、総括
 (多少の変更あり)

使用テキスト： 授業で使用する資料については全て電子ファイルで配布します。

予習・復習のポイントと 【参考文献】

参考文献・資料等：

- (1) 松島潤(編著)：エネルギー資源の世界史、一色出版、4400円
- (2) 日本原子力学会編：原子力がひらく世紀、1980円
- (3) IEA:World Energy Outlook、Web入手可(毎年10月頃最新版発行)
- (4) 資源エネルギー庁：第6次エネルギー基本計画、Web入手可

【予習・復習について】

授業後に、適宜、短いレポートを提出してもらいます。良く復習し、自ら問題提起してより深く調べ、考察し、理解を深めてまとめておくと良いでしょう。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応しますので、学務部等に連絡してください。

授業時間外の連絡手段： 初回にお知らせします。また、学務部窓口にも伝えておきます。

留意事項： ・授業前日までに資料(pdf)をIC-UNIPAの「授業資料」にアップロードします。授業中にプロジェクト投影もしますが、電子端末を持参して各自参照できるようにしておくとう良いでしょう。
 ・レポートについてはIC-UNIPAの「課題管理」機能を利用して提出物を確認します。

科目コード：10150

科目ナンバリング：LA10C51K

主な使用言語：日本語

授業名(英文)：災害と人間 a(Disasters and Humanity a)

担当者：川又 啓蔵

基本情報

年次：1

単位数：2

授業形式：講義

曜時：金曜4限

履修可能学科・専攻：E Pe Pc C W F N M

関連資格：

AL要素：10. 資料調査課題

授業の概要：【授業形態ガイドライン レベルⅢ・Ⅱ】同時双方向型

災害・防災・減災について、一般論だけでなく、災害の実例(災害対応を求められる地球規模の新興感染症等を含む)、環境(地球・自然環境、科学技術の進歩、経済環境等)の変化や社会事象を通して多角的、かつ、リスクマネジメントの観点・考え方をを用いて学修します。

なお、講師自身の実務経験(記者やラジオパーソナリティー等の放送実務、東日本大震災復興関連事業者[ソフト事業]、地域づくり研究者[地域資源・地域づくり・防災など]、企業経営者)を生かして、次のようなテーマも授業に含みます。

1. 東日本大震災と福島第一原発事故

講師自身の経験(避難、生活再建、自ら経営する会社の事業再建、原発事故の被災地復興事業や研究等の携わっていること等)を通して授業内容を展開します。

2. 災害と情報

科学・情報技術の進歩が、災害報道や防災減災等にどのような影響・変化を及ぼしたかについて積極的に論じます。

3. 環境変化や災害が社会・経済・地域(農業などの地域資源等)に及ぼす影響

環境変化や災害が社会・経済・地域(農業などの地域資源等)に及ぼす影響について、身近な実例(茨城県内の事象等)を通して論じます。

また、地球規模の新興感染症(新型コロナウイルス感染拡大とその影響)についても、災害

という観点から論じます。

キーワード： 災害、防災、減災、東日本大震災、地球環境、経済、社会、農業、資源、情報、報道、放送、地域資源、地域、生きる力、新型コロナウイルス感染症、感染症

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標： 災害・防災・減災についての基本的な知識や考え方について、東日本大震災、気候変動との関連が指摘されている近年の災害、災害対応を求められる地球規模の新興感染症などをはじめとする実例を通して学び、災害とその復旧復興、災害と自身の関わり等について、多角的かつ主体的に考えることができる。

評価方法： 学期末課題

評価割合： 100%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標： なお、学期末課題においては、論文等作成の基本的なルール、論理構成や、正しい日本語が使われているかなども評価の対象となります。

評価方法： 学期末課題

評価割合： 0%

▼ 学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしません。

ただし、履修者自身が、授業を通して得られた知見(知識や考え方等)を通して、自身の災害体験・経験について考察し、論理的に自らの所見を表現すること等の成果が、学期末課題等によって認められる場合には、評価の対象とすることがあります。

評価割合： 0%

▼ 実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしません。

ただし、履修者自身が、授業を通して得られた知見(知識や考え方等)を通して、自身の地域貢献活動、社会参加・協働活動等について考察し、論理的に自らの所見を表現すること等の成果が、学期末課題等によって認められる場合には、評価の対象とすることがあります。

評価割合： 0%

▼ 公正性

直接的な評価対象とはしません。

ただし、履修者自身が、授業を通して得られた知見(知識や考え方等)を通して、災害について、客観かつ公平性に即した考察や、論理的に自らの所見を表現すること等の成果が、学期末課題等によって認められる場合には、評価の対象とすることがあります。

また、不適切な引用(いわゆる「コピペ」)等については、厳しく対応します(試験における不正行為への対応に準じます)。

評価割合： 0%

▼ その他

授業への参加(出席)は、最低限の条件であり、履修登録者全員が適切に出席していることを前提とするため、原則として、出席確認は実施しません。

学期末課題等の評価をもとに、成績評定を行います。

※ここ数年、コロナ対応、DXを活用した非接触の推進など、出席を取るか否かを含め試行錯誤を続けています。そのため、出席を評価として活用するかについては、状況に応じ、「履修登録している学生との協議等を経て」変更する場合があります。

評価割合： 授業への参加(出席)は、最低限

授業計画： 【第1回】オリエンテーション・イントロダクションなど
【第2回】災害についての概論(災害とは、歴史・法制度など)
【第3回】東日本大震災-1(概論、全体像など)
【第4回】東日本大震災-2(福島第一原発事故)
【第5回】東日本大震災-3(復旧・復興[震災全体])

- 【第6回】東日本大震災-4(復旧・復興[原発事故関連])
- 【第7回】これまでの振り返りとまとめ
- 【第8回】近年の災害(総論・災害の傾向など)
- 【第9回】災害級の大規模感染症-1(新型コロナ感染症)
- 【第10回】災害級の大規模感染症-2(家畜感染症)
- 【第11回】拡大する二次災害と相当因果関係的被害
※いわゆる「人造災害」(人災とは要区別)を含む。
- 【第12回】環境変化や災害が社会・経済・地域に及ぼす影響
- 【第13回】災害と情報
- 【第14回】リスクマネジメントと戦略的な災害への備えと対応
- 【第15回】まとめ

※災害の発生や時事事象により、授業計画内容を変更する場合があります。

使用テキスト: 必要に応じて、授業中、インターネットで情報を検索してください。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: インターネット等を通して、災害についての情報収集等、自主学修を行うことが望まれます。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応します。なお、授業は、視覚的掲示ではなく話的講義が中心です。

授業時間外の連絡手段: メール(kawamata_keizou@icc.ac.jp)または、学務部経由を希望します。

留意事項: 前記授業内容にも記しましたが、災害の発生や時事事象により、授業計画内容を変更する場合があります。
また、履修登録者の各部学科構成等と授業内容の最適化を図るために、授業計画内容を変更する場合があります。

科目コード:10150 科目ナンバリング:LA10C51K 主な使用言語:日本語

授業名(英文): 災害と人間 b(Disasters and Humanity b)

担当者: 川又 啓蔵

基本情報

年次:1

単位数:2

授業形式:講義

曜時:金曜4限

履修可能学科・専攻: E Pe Pc C W F N M

関連資格:

AL要素: 10. 資料調査課題

授業の概要: 【授業形態ガイドライン レベルⅢ・Ⅱ】同時双方向型

災害・防災・減災について、一般論だけでなく、災害の実例(災害対応を求められる地球規模の新興感染症等を含む)、環境(地球・自然環境、科学技術の進歩、経済環境等)の変化や社会事象を通して多角的、かつ、リスクマネジメントの観点・考え方をを用いて学修します。

なお、講師自身の実務経験(記者やラジオパーソナリティー等の放送実務、東日本大震災復興関連事業者[ソフト事業]、地域づくり研究者[地域資源・地域づくり・防災など]、企業経営者)を生かして、次のようなテーマも授業に含みます。

1. 東日本大震災と福島第一原発事故

講師自身の経験(避難、生活再建、自ら経営する会社の事業再建、原発事故の被災地復興事業や研究等の携わっていること等)を通して授業内容を展開します。

2. 災害と情報

科学・情報技術の進歩が、災害報道や防災減災等にどのような影響・変化を及ぼしたかについて積極的に論じます。

3. 環境変化や災害が社会・経済・地域(農業などの地域資源等)に及ぼす影響

環境変化や災害が社会・経済・地域(農業などの地域資源等)に及ぼす影響について、身近な実例(茨城県内の事象等)を通して論じます。

また、地球規模の新興感染症(新型コロナウイルス感染拡大とその影響)についても、災害

という観点から論じます。

キーワード： 災害、防災、減災、東日本大震災、地球環境、経済、社会、農業、資源、情報、報道、放送、地域資源、地域、生きる力、新型コロナウイルス感染症、感染症

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標： 災害・防災・減災についての基本的な知識や考え方について、東日本大震災、気候変動との関連が指摘されている近年の災害、災害対応を求められる地球規模の新興感染症などをはじめとする実例を通して学び、災害とその復旧復興、災害と自身の関わり等について、多角的かつ主体的に考えることができる。

評価方法： 学期末課題

評価割合： 100%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標： なお、学期末課題においては、論文等作成の基本的なルール、論理構成や、正しい日本語が使われているかなども評価の対象となります。

評価方法： 学期末課題

評価割合： 0%

▼ 学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしません。

ただし、履修者自身が、授業を通して得られた知見(知識や考え方等)を通して、自身の災害体験・経験について考察し、論理的に自らの所見を表現すること等の成果が、学期末課題等によって認められる場合には、評価の対象とすることがあります。

評価割合： 0%

▼ 実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしません。

ただし、履修者自身が、授業を通して得られた知見(知識や考え方等)を通して、自身の地域貢献活動、社会参加・協働活動等について考察し、論理的に自らの所見を表現すること等の成果が、学期末課題等によって認められる場合には、評価の対象とすることがあります。

評価割合： 0%

▼ 公正性

直接的な評価対象とはしません。

ただし、履修者自身が、授業を通して得られた知見(知識や考え方等)を通して、災害について、客観かつ公平性に即した考察や、論理的に自らの所見を表現すること等の成果が、学期末課題等によって認められる場合には、評価の対象とすることがあります。

また、不適切な引用(いわゆる「コピペ」)等については、厳しく対応します(試験における不正行為への対応に準じます)。

評価割合： 0%

▼ その他

授業への参加(出席)は、最低限の条件であり、履修登録者全員が適切に出席していることを前提とするため、原則として、出席確認は実施しません。

学期末課題等の評価をもとに、成績評定を行います。

※ここ数年、コロナ対応、DXを活用した非接触の推進など、出席を取るか否かを含め試行錯誤を続けています。そのため、出席を評価として活用するかについては、状況に応じ、「履修登録している学生との協議等を経て」変更する場合があります。

評価割合： 授業への参加(出席)は、最低限

授業計画： 【第1回】オリエンテーション・イントロダクションなど
【第2回】災害についての概論(災害とは、歴史・法制度など)
【第3回】東日本大震災-1(概論、全体像など)
【第4回】東日本大震災-2(福島第一原発事故)
【第5回】東日本大震災-3(復旧・復興[震災全体])

- 【第6回】東日本大震災-4(復旧・復興[原発事故関連])
- 【第7回】これまでの振り返りとまとめ
- 【第8回】近年の災害(総論・災害の傾向など)
- 【第9回】災害級の大規模感染症-1(新型コロナ感染症)
- 【第10回】災害級の大規模感染症-2(家畜感染症)
- 【第11回】拡大する二次災害と相当因果関係的被害
※いわゆる「人造災害」(人災とは要区別)を含む。
- 【第12回】環境変化や災害が社会・経済・地域に及ぼす影響
- 【第13回】災害と情報
- 【第14回】リスクマネジメントと戦略的な災害への備えと対応
- 【第15回】まとめ

※災害の発生や時事事象により、授業計画内容を変更する場合があります。

使用テキスト: 必要に応じて、授業中、インターネットで情報を検索してください。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: インターネット等を通して、災害についての情報収集等、自主学修を行うことが望まれます。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応します。なお、授業は、視覚的掲示ではなく話的講義が中心です。

授業時間外の連絡手段: メール(kawamata_keizou@icc.ac.jp)または、学務部経由を希望します。

留意事項: 前記授業内容にも記しましたが、災害の発生や時事事象により、授業計画内容を変更する場合があります。
また、履修登録者の各部学科構成等と授業内容の最適化を図るために、授業計画内容を変更する場合があります。

科目コード: 10151 **科目ナンバリング:** **主な使用言語:** 日本語

授業名(英文): 科学技術の現在(Current Studies in Science and Technology)

担当者: 梅田 享英、谷 尚樹

基本情報

年次: 1 **単位数:** 2 **授業形式:** 講義

曜時: 月曜2限 **履修可能学科・専攻:** E Pe Pc C W F N M

関連資格: **AL要素:** 17.発問と応答

授業の概要: 【授業形態ガイドライン・レベルⅢ、レベルⅡ】遠隔授業(同時双方向型)
最先端科学をニュースや研究報告などを紹介しながら解説し、科学リテラシーの向上を目的とする。

キーワード: 科学リテラシー、気候変動、資源エネルギー、農業・食料、遺伝子、再生医療、感染症対策、ロボット、サイバーセキュリティ、仮想通貨、電波・光、人工知能、ナノテクノロジー、宇宙開発

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標: 授業で取り上げた重要キーワードを暗記し80%解答できる。

評価方法: 講義ごとの小テスト。 **評価割合:** 70~90%
学期末筆記試験。

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 科学技術に対して自分の知識、専門性を活かして現象が理解でき、生活に活かせる。さらに、科学の意義を認識し、その社会的な有効性と限界について考察する。

評価方法: 学期末筆記試験。 **評価割合:** 10~30%

▼学修に主体的に取り組む態度

自主的学習により成果が認められた場合は、上記「思考力、判断力、表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合：0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。

評価割合：0%

▼公正性

以下の対象者は減点対象とする。

1. 遅刻者 2回で欠席1回とする。
2. 早退者 2回で欠席1回とする。
3. 授業中の私語
4. 人権侵害、差別的発言をした者

評価割合：0%

▼その他

特になし

評価割合：特になし

授業計画：

- | | |
|----------------------|--------|
| 1 科学技術と社会 | (谷 尚樹) |
| 2 気候変動対策 | (谷 尚樹) |
| 3 資源エネルギー対策 | (谷 尚樹) |
| 4 農業 食料 | (谷 尚樹) |
| 5 医療1 遺伝子 予防医学 | (谷 尚樹) |
| 6 医療2 ヒトiPS細胞 再生医療 | (谷 尚樹) |
| 7 医療3 感染症対策 | (谷 尚樹) |
| 8 医療4 ロボット 介護 | (梅田享英) |
| 9 セキュリティ1 サイバーセキュリティ | (梅田享英) |
| 10 セキュリティ2 仮想通貨 テロ対策 | (梅田享英) |
| 11 セキュリティ3 電波・光 通信 | (梅田享英) |
| 12 人工知能(AI) | (梅田享英) |
| 13 ナノテクノロジー1 | (梅田享英) |
| 14 ナノテクノロジー2 | (梅田享英) |
| 15 宇宙開発 | (梅田享英) |
- 定期試験

使用テキスト： なし

予習・復習のポイントと 授業計画にある各回のテーマについて関心を持っておくこと。

参考文献・資料等： 科学に関するニュースを意識しておくこと。

障がいのある 可能な限り対応する。
履修者への対応：

授業時間外の連絡手段： 学務部等に連絡。

留意事項： 履修人員60人。

超過した場合は上級生優先、場合によっては抽選を行います。

抽選は初回授業で実施します。

初回授業に来ていない場合は原則履修を認めません。

ただし、初回授業に公欠事由のあるものは事前に連絡してください。

科目コード：10152

科目ナンバリング：

主な使用言語：日本語

授業名(英文)： はじめての統計学(Introduction to Statistics)

担当者：有澤 正樹

基本情報

年次：1

単位数：2

授業形式：講義

曜時：月曜5限

履修可能学科・専攻：E Pe Pc C W F N M

関連資格：

AL要素：18.その他

授業の概要： 統計学とは、アンケートや観測によって採取された大量のデータの中に存在する法則性を扱う科学的分析方法であり、自然科学、社会科学、人文科学等の分野で広く利用されている。例えば教育の分野においては、大勢の学生、生徒、児童に関するデータ(試験の点数かも知れないし、身長や体重などの健康に関するデータ、児童の心理を調べるための調査データかも知れない)を客観的(科学的)に扱っていく上で、統計学は必要不可欠である。また経営の分野においては、データの分析に多変量解析(複数のデータを統計的に分析し、その関係性を明らかにする方法)がよく用いられるが、多変量解析を理解するためには、統計学の基礎を十分に理解していなければならない。さらに介護福祉や栄養管理の現場においても、日々の変化や成果を客観的に評価し、報告することは大切な仕事のひとつであり、客観的な評価のために統計処理は必要不可欠といえるだろう。このように、どのような領域においても、データを客観的・科学的に分析・評価するためには、統計学が必要不可欠といえるのである。そこでここでは、どのような領域においても共通する統計学の基礎について、演習(教科書の例題と同様の簡単な課題)を取り入れながら解説する。

キーワード： 統計学、分布の特性値(平均、分散、標準偏差...)、確率、分布(二項分布、正規分布、 t 分布、 χ^2 分布)、母数の推定、仮説検定

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 統計学の分析概念を理解し、基本的な統計処理を行うことができる。

評価方法： 課題、定期試験

評価割合： 86%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 「知識・技能」と合わせて評価する。

評価方法： 課題、定期試験

評価割合： 0%

▼学修に主体的に取り組む態度

章末毎に実施する簡単な課題に積極的に取り組み、遅滞なく課題を提出する。(課題がすべて提出されていれば、最低でも14点が成績に加算される。)

評価割合： 14%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。

評価割合： 0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしないが、課題作成において不正行為があった場合は、減点や失格の対象となるので注意すること。

評価割合： 0%

▼その他

特になし

評価割合： 特になし

授業計画： 【第01回】統計学はどのような学問か

【第02回】標本分布の特性値 1(標本抽出、度数分布表、ヒストグラム)、課題 1

- 【第03回】標本分布の特性値 2(平均、分散、標準偏差など)、課題 2
 - 【第04回】確率と確率分布(二項分布、ポアソン分布)
 - 【第05回】復習および課題 3
 - 【第06回】一様分布と正規分布
 - 【第07回】復習および課題 4
 - 【第08回】標本平均の分布と母平均の推定
 - 【第09回】復習および課題 5
 - 【第10回】 t 分布と母平均の推定
 - 【第11回】復習および課題 6
 - 【第12回】 χ^2 分布と母標準偏差の推定
 - 【第13回】復習および課題 7
 - 【第14回】仮説検定
 - 【第15回】復習および課題 8
- 定期試験

使用テキスト: 鳥居泰彦『はじめての統計学』日本経済新聞社、1994年

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 章末に実施する課題が復習のポイントとなっているので、採点返却時の解説と、返却後研究室前に常時掲示する模範解答により理解を深めること。
 なお、上記の「課題、定期試験の評価割合86%+学修の主体的に取り組む態度14%」の内訳は(1)課題50%+定期試験50%による総合評価と(2)定期試験100%のみによる評価を行い、評価の高い方を最終評価とするので、定期試験に不安を覚える方は課題をしっかりと抑えておくことが、また、課題が思わしくなかった方は定期試験で挽回することが重要である。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください。

授業時間外の連絡手段: Teams の当該科目チーム内(投稿)、またはメール(maa@icc.ac.jp)、もしくはオフィスアワーに研究室で対応します。曜日・時限等については UNIPA で確認してください。

留意事項: 出席は Teams 内の出席確認フォーム(Forms)から入力していただくため、Teams にアクセス可能なデバイス(スマートフォン等)を携帯すること。また、課題は Teams 上で PDF 形式で掲出され、課題 PDF への直接書き込み(タブレット+スタイラスペン)、または PDF を印刷して直接鉛筆等で記入の後、スマホ等で撮影して作成した画像または PDF を Teams 課題に添付・提出となる(難しい作業ではない)。基本的に課題は授業時間外での作業が中心となるため、スマホ以外のタブレットや PC 等のデバイスは必携ではない。
 数学が不得意な者は、四則演算、分数など、受講までに各自で簡単な復習を行っておくこと。平方根(ルート)計算ができる電卓を持参すること。ただし、定期テストではスマホの電卓アプリは利用できない(スマホ持ち込み禁止)ので、物理的な電卓を用意すること。
数学が苦手であっても理解できるように、できるだけ丁寧にわかりやすく解説する。
 なお、定期試験は教科書・ノート・課題プリント・電卓の持ち込みが可能である。

科目コード: 10153 **科目ナンバリング:** **主な使用言語:** 日本語

授業名(英文): 宇宙のはなし a (About the Universe a)

担当者: 神谷 宏治、池田 博、夏目 恭平

基本情報

年次: 1

単位数: 2

授業形式: 講義

曜時: 月曜2限

履修可能学科・専攻: E Pe Pc C W F N M

関連資格:

AL要素: 17.発問と応答

授業の概要: 【授業形態ガイドライン・レベルⅢ、レベルⅡ】遠隔授業(同時双方向型)

宇宙について人類が研究してきた歴史的な流れを習得する。
 ニュース等で報じられる地球環境やエネルギー問題を理解する。
 南極や北極における人類の活動や低温・超伝導という最新の科学現象について理解を深める。

キーワード: 天文学、宇宙開発、地球温暖化、エネルギー、南極北極、超伝導重力計

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標: 授業で取り上げた重要キーワードを暗記し80%解答できる。

評価方法: 講義ごとの小テスト。
学期末筆記試験。

評価割合: 80~90%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標: 宇宙、環境、エネルギー問題に対して自分の専門性を活かした提案ができる。

評価方法: 学期末筆記試験。

評価割合: 10~20%

▼ 学修に主体的に取り組む態度

自主的学習により成果が認められた場合は、上記「思考力、判断力、表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合: 0%

▼ 実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。

評価割合: 0%

▼ 公正性

以下の対象者は減点対象とする。

1. 遅刻者 2回で1回欠席とする。
2. 早退者 2回で1回欠席とする。
3. 授業中の私語
4. 人権侵害、差別的発言をした者

評価割合: 0%

▼ その他

特になし

評価割合: 特になし

授業計画:

- 第1回 人類と宇宙の歴史(神谷)
- 第2回 人類の宇宙進出までの道のり(神谷)
- 第3回 太陽系の探査とボイジャー計画(神谷)
- 第4回 銀河系、星雲、地球外生命(神谷)
- 第5回 宇宙の誕生、インフレーション、ビックバン(神谷)
- 第6回 宇宙開発の現在(夏目)
- 第7回 これからの宇宙開発(夏目)
- 第8回 地球温暖化とは-世界の取り組み-(夏目)
- 第9回 夢の核融合エネルギー(夏目)
- 第10回 再生可能エネルギーとその課題(夏目)
- 第11回 低温ふしぎ現象(池田)
- 第12回 南極観測(池田)
- 第13回 北極観測(池田)
- 第14回 超伝導現象(池田)
- 第15回 超伝導重力計(池田)

定期試験(池田)

使用テキスト: なし

予習・復習のポイント 授業計画にある各回のテーマについて関心を持っておくこと。

参考文献・資料等: 宇宙、エネルギー問題、地球環境に関するニュースを意識しておくこと。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応する。

授業時間外の連絡手段: 学務部等に連絡。

留意事項： 履修人員100人。
超過した場合は上級生優先、場合によっては抽選を行う。
抽選は初回授業で実施。
初回授業に来ていない場合は履修を認めない。
初回授業に公欠事由のあるものは事前に連絡必要。

科目コード：10153 **科目ナンバリング：** **主な使用言語：日本語**

授業名(英文)：宇宙のはなし b(About the Universe b)

担当者：野澤 恵

基本情報

年次：1

単位数：2

授業形式：講義

曜時：金曜5限

履修可能学科・専攻： E Pe Pc C W F N M

関連資格：

AL要素： 17.発問と応答

授業の概要： 宮澤賢治「銀河鉄道の夜」と谷口義明「天文学者が解説する 宮澤賢治『銀河鉄道の夜』と宇宙の旅」をテキストに用いて、童話に隠された最新の天文学について読み解いていきます。これにより、宇宙の新しい姿やなぜ人間が宇宙に興味を持つのかなどを想像できると思います。読み解く順序は、順序は全体の構成上、変更することがあります。また、内容の解釈は一つでないので、皆さんの意見を紹介することを行います。これらを下敷きに、みなさんとの議論が深まり、「銀河鉄道の夜」をより深く味わうことがようではありませんか。宮澤賢治「銀河鉄道の夜」は、インターネット図書館の青空文庫で自由に読むことができます。事前に読んでおきましょう。また、派生した映画など影響がある作品も紹介します。

キーワード： 銀河鉄道の夜、宇宙、天文、最新天文学、天体現象

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 授業で取り上げたこと、学んだことを80%理解できる

評価方法： 毎回のテキストの解説と解釈などのまとめ **評価割合：50%**
チェック

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 「銀河鉄道の夜」に対して自分なりの理解したことを解説する

評価方法： 学期末レポート **評価割合：40%**

▼学修に主体的に取り組む態度

授業への参加状況や提出物の提出状況によって評価する。

評価割合：10%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし、授業中の発言や小テスト・レポートの記述等において人権侵害・差別的発言など著しく公平性を欠く言動やカンニング等の不正行為があった場合には、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。

評価割合：0%

▼その他

特になし

評価割合：特になし

授業計画： 第1回 ガイダンス
以下は、第2章『銀河鉄道の夜』を読む、から
第2回 P.71から [2]午後の授業 その1
第3回 P.71から [2]午後の授業 その2
第4回 P.108から [3]家 [4]ケンタウル祭の夜 [5]天気輪の柱
第5回 P.135 [6]銀河ステーション その1
第6回 P.135 [6]銀河ステーション その2
第7回 P.135 [6]銀河ステーション その3
第8回 P.135 [6]銀河ステーション その4
第9回 P.135 [6]銀河ステーション その5
第10回 P.215 [7]北十字とプリオシン海岸
第11回 P.229 [8]鳥を捕る人
第12回 P.238 [9]ジョバンニの切符 その1
第13回 P.238 [9]ジョバンニの切符 その2
第14回 P.238 [9]ジョバンニの切符 その3
第15回 最終回 第1章
(みなさんの反応により順番等などは変更の可能性があります)

使用テキスト： 宮澤賢治「銀河鉄道の夜」、谷口義明「天文学者が解説する 宮澤賢治『銀河鉄道の夜』と宇宙の旅」

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 事前に連絡するテキストの一部の予習を行い、まとめ等を作成してください
また、行った講義の復習などもお願いします

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応しますし、教務、学務に相談してください

授業時間外の連絡手段： 教務、学務部等に連絡してください

留意事項： 教室に応じた定員としますので、受講者が多すぎるときは初回に抽選となります。その場合、初回欠席者は追加登録できないので注意してください。

科目コード：10154

科目ナンバリング：

主な使用言語：日本語

授業名(英文)：本を読む(自然)(Reading Appreciation (Nature))

担当者：助川 宏子

基本情報

年次：1

単位数：2

授業形式：講義

曜時：水曜2限

履修可能学科・専攻：E Pe Pc C W F N M

関連資格：

AL要素：受講生の個人的な興味を大切にするとともに、適切な読書指導により更なる探究心に繋げたい。授業毎に、簡単なレポートを提出させる。

授業の概要： 自然系の学科の学生はもちろん、人文、社会系学科の学生も念頭に置いた教養講座(自然科学)です。自然科学の領域で、素人でも読め、しかも面白い(これが大切)本を読んでもいいと思う人のための授業です。素人のわがままで、数式や化学式は苦手だが、「宇宙の境涯(はて)はあるのか?」とか「ピラミッドは何のために作られたのか?」とか、「人と犬の対話はどこまで可能か?」といったような高度(素朴?)な疑問に答えてくれたら嬉しい、そう思っている人は少なくないでしょう。そうした人のために、専門家が素人向けに書いてくれる「科学読み物」というジャンルがありますので、これを紹介することにします。
また、書籍中の内容についての理解につながるよう、自然科学の基礎的な内容の解説も行います。
この授業は演習の形式をとりますので、受講する場合、誰にも最低2回は報告発表の機会をもってもらいます。自分の興味にしたがって読みたい本を選び、その本について報告してください。報告を聞く側はその報告についてメモをとり、質問をし、授業中に簡単なレポートに

して、教員に提出してもらいます。

キーワード: 自然 科学 科学読み物 宇宙 生物 人体 読書の楽しみ

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標: 自然科学の専門書ではなく、「科学読み物」のレベルで、面白い本、知的好奇心を刺激してくれる本を探し、読み、世界の広さ、知ることの楽しさを味わってもらおう。そんな授業を目指します。また、基本的な自然科学のお話も交えて講義も行います。

評価方法: 学生の報告を重視します。読んだ本の面白みをどれだけ仲間に伝えられるか、が大切な点です。報告を聞く側はその報告についてメモを取り、質問をし、簡単なレポートにまとめて提出してもらいます。 **評価割合: 60%**

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標: 科学読み物のジャンルで名著とされる本を紹介しますので、実際に読んでみて得た実感を報告するもよし、これまで読んで影響を受けた自分にとって価値ある本を紹介するもよし、学生一人一人の主体性を大事にします。自分の実体験と自然科学をむずびつけた発表でも結構です。

評価方法: 上掲のとおり。 **評価割合: 20%**

▼ 学修に主体的に取り組む態度

演習なので、報告の際は当然として、報告を聞く機会にも積極的に参加することが大切です。受講生全員が授業毎に報告者の報告をメモし、質問をし、授業終了時にレポートとして提出してもらいます。とにかく、仲間の報告を集中して受けとめ、できれば知的好奇心を触発される経験をしてほしい。

評価割合: 20%

▼ 実践的ボランティア

特になし。

評価割合: 0%

▼ 公正性

特になし。

評価割合: 0%

▼ その他

特になし。

評価割合: 特になし。

授業計画: 第1回 顔合わせと演習の進め方について説明 興味のある書籍について紹介してください。

第2回 テキストその1.「これだけは読んでおきたい科学の10冊」紹介

第3回 報告の順番を決め、報告する書籍の確認と報告の方法についての説明。

第4回～14回 指定された報告者の報告と質疑応答

第15回 まとめ

なお、例年、受講生の数にバラつきがあります。報告の時間は短くて15分、長くて30分ぐらいを想定して下さい。

使用テキスト: 岩波ジュニア新書「これだけは読んでおきたい10冊の本」池内 了 著
現在、絶版の可能性がありますので、アマゾンで中古本を探すとよいでしょう。入手できない場合、教師が対応します。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 初級 岩波ジュニア新書(自然系)のリストから選ぶ。
中級 インターネットで「科学読み物」と検索してください。
上級 古典の名著リストを演習初日に配付します。

障がいのある履修者への対応： 学務部の担当者と連絡をとりながら対応します。

授業時間外の連絡手段： 授業のある日のみ出講しています。連絡は、IC-mailを基本とし、それでも連絡がつかない場合は、学務部の担当者に相談して下さい。

留意事項： 特になりません。

科目コード：10155 **科目ナンバリング：** **主な使用言語：日本語**

授業名(英文)：体育実技I 1(Physical Education I 1)

担当者：佐久間 彩

基本情報

年次：1

単位数：1

授業形式：実技

曜時：火曜2限

履修可能学科・専攻：E Pe Pc C W F N M

関連資格：教職 保育

AL要素：03. 実験・実技・体験

授業の概要： 多面的なスポーツとの関わり方に触れることで、心身の健康の維持・促進に対する運動の必要性を、知識の習得と実践を通して理解する。

様々なコンディショニング・運動・スポーツの理解と実践を通して自身の身体に目を向け、生涯にわたって体力を維持すること、スポーツの持つ文化的価値を理解することを目的とします。

また、コミュニケーションスキルを習得を狙い、チームスポーツを取り上げます。

キーワード： コンディショニング, スポーツ, コミュニケーション, トレーニング, 健康, 運動, ストレッチング

学位授与方針との関係

▼知識・技能

- 到達目標：**
1. 各種目のルールを理解し、技術を向上させることができる。
 2. 様々な運動・スポーツに積極的に取り組み、それらの持つ価値を理解できる。
 3. チームの仲間と積極的にコミュニケーションを取ることができる。

評価方法： コメントペーパー, 期末レポート

評価割合：40%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 「知識・技能」とあわせて評価する

評価方法： 「知識・技能」とあわせて評価する

評価割合： 「知識・技能」とあわせて評価する

▼学修に主体的に取り組む態度

実技であることを踏まえ、積極的な授業参加が認められない場合には減点の対象とする。

評価割合：30%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象としない。ただしボランティア活動等の実践により深められた知見等がレポートの記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合：0%

▼公正性

スポーツマンシップやフェアプレーの精神に反する行為があった場合は、減点の対象とする。

評価割合：30%

▼その他

特になし

評価割合：特になし

- 授業計画：**
1. 授業概要の説明
 2. 体力測定
 3. コミュニケーションゲーム アイスブレーキングゲーム
 4. 身体のコンドショニング：ストレッチポールEx(1) + 自重Tr(1) / スポーツ：ポートボール(1)
 5. 身体のコンドショニング：ストレッチポールEx(2) + 自重Tr(2) / スポーツ：ポートボール(2)
 6. 身体のコンドショニング：ストレッチポールEx(3) + 自重Tr(3) / スポーツ：ポートボール(3)
 7. 身体のコンドショニング：バランスボールEx(1) + 自重Tr(4) / スポーツ：ポートボール(4)
 8. 身体のコンドショニング：バランスボールEx(2) + 自重Tr(5) / スポーツ：ポートボール(5)
 9. 身体のコンドショニング：バランスボールEx(1) + 自重Tr(6) / スポーツ：ポートボール(6)
 10. 身体のコンドショニング：各自の目的・目標に応じたEx(1) / スポーツ：ソフトバレーボール(1)
 11. 身体のコンドショニング：各自の目的・目標に応じたEx(2) / スポーツ：ソフトバレーボール(2)
 12. 身体のコンドショニング：各自の目的・目標に応じたEx(3) / スポーツ：ソフトバレーボール(3)
 13. 身体のコンドショニング：各自の目的・目標に応じたEx(4) / スポーツ：ソフトバレーボール(4)
 14. 身体のコンドショニング：各自の目的・目標に応じたEx(5) / スポーツ：ソフトバレーボール(5)
 15. 身体のコンドショニング：各自の目的・目標に応じたEx(6) / スポーツ：ソフトバレーボール(6)

使用テキスト： 適宜資料を配布します

予習・復習のポイントと参考文献・資料等：

- ・授業計画を参照しながら、授業で扱うスポーツのルールやエクササイズの方法について理解を深めてください。
- ・これまで行ったことのないスポーツがある場合は、ゲームの様子を事前に動画で確認しておくようにしてください。
- ・実技に積極的に参加できるように、日頃から体調を整えるようにしてください。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください

授業時間外の連絡手段： 学務部に連絡してください

留意事項： 運動に適した服装・シューズを準備すること

科目コード：10155

科目ナンバリング：

主な使用言語：日本語

授業名(英文)：体育実技I 2(Physical Education I 2)

担当者：佐久間 彩

基本情報

年次：1

単位数：1

授業形式：実技

曜時：火曜3限

履修可能学科・専攻：E Pe Pc C W F N M

関連資格：教職 保育

AL要素：03. 実験・実技・体験

授業の概要： 多面的なスポーツとの関わり方に触れることで、心身の健康の維持・促進に対する運動の必

要性を、知識の習得と実践を通して理解する。

様々なコンディショニング・運動・スポーツの理解と実践を通して自身の身体に目を向け、生涯にわたって体力を維持すること、スポーツの持つ文化的価値を理解することを目的とします。

また、コミュニケーションスキルを習得を狙い、チームスポーツを取り上げます。

キーワード： コンディショニング, スポーツ, コミュニケーション, トレーニング, 健康, 運動, ストレッチング

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

- 到達目標：**
1. 各種目のルールを理解し、技術を向上させることができる。
 2. 様々な運動・スポーツに積極的に取り組み、それらの持つ価値を理解できる。
 3. チームの仲間と積極的にコミュニケーションを取ることができる。

評価方法： コメントペーパー, 期末レポート

評価割合： 40%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標： 「知識・技能」とあわせて評価する

評価方法： 「知識・技能」とあわせて評価する

評価割合： 「知識・技能」とあわせて評価する

▼ 学修に主体的に取り組む態度

実技であることを踏まえ、積極的な授業参加が認められない場合には減点の対象とする。

評価割合： 30%

▼ 実践的ボランティア

直接的な評価対象としない。ただしボランティア活動等の実践により深められた知見等がレポートの記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合： 0%

▼ 公正性

スポーツマンシップやフェアプレーの精神に反する行為があった場合は、減点の対象とする。

評価割合： 30%

▼ その他

特になし

評価割合： 特になし

- 授業計画：**
1. 授業概要の説明
 2. 体力測定
 3. コミュニケーションゲーム アイスプレーキングゲーム
 4. 身体のコンディショニング: ストレッチポールEx(1) + 自重Tr(1) / スポーツ: ポートボール(1)
 5. 身体のコンディショニング: ストレッチポールEx(2) + 自重Tr(2) / スポーツ: ポートボール(2)
 6. 身体のコンディショニング: ストレッチポールEx(3) + 自重Tr(3) / スポーツ: ポートボール(3)
 7. 身体のコンディショニング: バランスボールEx(1) + 自重Tr(4) / スポーツ: ポートボール(4)
 8. 身体のコンディショニング: バランスボールEx(2) + 自重Tr(5) / スポーツ: ポートボール(5)
 9. 身体のコンディショニング: バランスボールEx(3) + 自重Tr(6) / スポーツ: ポートボール(6)
 10. 身体のコンディショニング: 各自の目的・目標に応じたEx(1) / スポーツ: ソフトバレーボール(1)
 11. 身体のコンディショニング: 各自の目的・目標に応じたEx(2) / スポーツ: ソフトバレー

- ボール(2)
 12. 身体のコンドィショニング:各自の目的・目標に応じたEx(3)／スポーツ:ソフトバレーボール(3)
 13. 身体のコンドィショニング:各自の目的・目標に応じたEx(4)／スポーツ:ソフトバレーボール(4)
 14. 身体のコンドィショニング:各自の目的・目標に応じたEx(5)／スポーツ:ソフトバレーボール(5)
 15. 身体のコンドィショニング:各自の目的・目標に応じたEx(6)／スポーツ:ソフトバレーボール(6)

使用テキスト: 適宜資料を配布します

予習・復習のポイントと参考文献・資料等:

- ・授業計画を参照しながら、授業で扱うスポーツのルールやエクササイズの方法について理解を深めてください。
- ・これまで行ったことのないスポーツがある場合は、ゲームの様子を事前に動画で確認しておくようにしてください。
- ・実技に積極的に参加できるように、日頃から体調を整えるようにしてください。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください

授業時間外の連絡手段: 学務部に連絡してください

留意事項: 運動に適した服装を準備すること

科目コード: 10155 **科目ナンバリング:** **主な使用言語:** 日本語

授業名(英文): 体育実技I 3(Physical Education I 3)

担当者: 佐久間 彩

基本情報

年次: 1

単位数: 1

授業形式: 実技

曜時: 火曜4限

履修可能学科・専攻: E Pe Pc C W F N M

関連資格: 教職 保育

AL要素: 03. 実験・実技・体験

授業の概要: 多面的なスポーツとの関わり方に触れることで、心身の健康の維持・促進に対する運動の必要性を、知識の習得と実践を通して理解する。
 様々なコンディショニング・運動・スポーツの理解と実践を通して自身の身体に目を向け、生涯にわたって体力を維持すること、スポーツの持つ文化的価値を理解することを目的とします。
 また、コミュニケーションスキルを習得を狙い、チームスポーツを取り上げます。

キーワード: コンディショニング, スポーツ, コミュニケーション, トレーニング, 健康, 運動, ストレッチング

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標:

1. 各種目のルールを理解し、技術を向上させることができる。
2. 様々な運動・スポーツに積極的に取り組み、それらの持つ価値を理解できる。
3. チームの仲間と積極的にコミュニケーションを取ることができる。

評価方法: コメントペーパー, 期末レポート

評価割合: 40%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 「知識・技能」とあわせて評価する

評価方法: 「知識・技能」とあわせて評価する

評価割合: 「知識・技能」とあわせて評価する

▼学修に主体的に取り組む態度

実技であることを踏まえ、積極的な授業参加が認められない場合には減点の対象とする。

評価割合：30%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象としない。ただしボランティア活動等の実践により深められた知見等がレポートの記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合：0%

▼公正性

スポーツマンシップやフェアプレーの精神に反する行為があった場合は、減点の対象とする。

評価割合：30%

▼その他

特になし

評価割合：特になし

- 授業計画：
1. 授業概要の説明
 2. 体力測定
 3. コミュニケーションゲーム アイスブレイキングゲーム
 4. 身体のコンドショニング:ストレッチポールEx(1) + 自重Tr(1) / スポーツ:ポートボール(1)
 5. 身体のコンドショニング:ストレッチポールEx(2) + 自重Tr(2) / スポーツ:ポートボール(2)
 6. 身体のコンドショニング:ストレッチポールEx(3) + 自重Tr(3) / スポーツ:ポートボール(3)
 7. 身体のコンドショニング:バランスボールEx(1) + 自重Tr(4) / スポーツ:ポートボール(4)
 8. 身体のコンドショニング:バランスボールEx(2) + 自重Tr(5) / スポーツ:ポートボール(5)
 9. 身体のコンドショニング:バランスボールEx(1) + 自重Tr(6) / スポーツ:ポートボール(6)
 10. 身体のコンドショニング:各自の目的・目標に応じたEx(1) / スポーツ:ソフトバレーボール(1)
 11. 身体のコンドショニング:各自の目的・目標に応じたEx(2) / スポーツ:ソフトバレーボール(2)
 12. 身体のコンドショニング:各自の目的・目標に応じたEx(3) / スポーツ:ソフトバレーボール(3)
 13. 身体のコンドショニング:各自の目的・目標に応じたEx(4) / スポーツ:ソフトバレーボール(4)
 14. 身体のコンドショニング:各自の目的・目標に応じたEx(5) / スポーツ:ソフトバレーボール(5)
 15. 身体のコンドショニング:各自の目的・目標に応じたEx(6) / スポーツ:ソフトバレーボール(6)

使用テキスト： 適宜資料を配布します

予習・復習のポイントと参考文献・資料等：
・授業計画を参照しながら、授業で扱うスポーツのルールやエクササイズの方法について理解を深めてください。
・これまで行ったことのないスポーツがある場合は、ゲームの様子を事前に動画で確認しておくようにしてください。
・実技に積極的に参加できるように、日頃から体調を整えるようにしてください。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください

授業時間外の連絡手段： 学務部に連絡してください

留意事項：運動に適した服装を準備すること

科目コード：10155 科目ナンバリング： 主な使用言語：日本語

授業名(英文)：体育実技I 4(Physical Education I 4)

担当者：高橋 遼

基本情報

年次：1

単位数：1

授業形式：実技

曜時：水曜2限

履修可能学科・専攻：E Pe Pc C W F N M

関連資格：教職 保育

AL要素：03. 実験・実技・体験

授業の概要： 多面的なスポーツとの関わり方に触れることで、心身の健康の維持・促進に対する運動の必要性を、知識の習得と実践を通して理解する。

主に球技スポーツを実施する。スポーツの型に合わせて、ルールを理解し、作戦を立てる楽しさを知ってもらう。

【ネット型】限られたコートの中で攻守を組み立て、得点を競い合う。

【ベースボール型】攻守を定期的に交代して一定の回数の中で得点を競い合う。

【ゴール型】コート内で攻守が入り交じり、手や足を使ってボールを操作し、得点を競い合う。

キーワード： コンディショニング, スポーツ, コミュニケーション, 学校体育

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標： スポーツの型に合わせて、ルールを理解し、作戦を立てたり、協力して取り組むことができる。

評価方法： 課題レポート, 学修カード

評価割合： 40%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標： 「知識・技能」とあわせて評価する

評価方法： 「知識・技能」とあわせて評価する

評価割合： 「知識・技能」とあわせて評価する

▼ 学修に主体的に取り組む態度

実技であることを踏まえ、積極的な授業参加が認められない場合には減点の対象とする。

評価割合： 30%

▼ 実践的ボランティア

直接的な評価対象としない。ただしボランティア活動等の実践により深められた知見等がレポートの記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合： 0%

▼ 公正性

スポーツマンシップやフェアプレーの精神に反する行為があった場合は、減点の対象とする。

評価割合： 30%

▼ その他

特になし

評価割合： 特になし

授業計画：

1. 授業概要の説明
2. 体力測定
3. アイスプレーキングゲーム
4. 【ゴール型】バスケットボール
5. 【ゴール型】バスケットボール
6. 【ゴール型】ラインサッカー
7. 【ゴール型】ラインサッカー

- 8.【ベースボール型】キックベース
- 9.【ベースボール型】キックベース
- 10.【ベースボール型】キックベース
- 11.【ベースボール型】キックベース
- 12.【ネット型】バドミントン
- 13.【ネット型】バドミントン
- 14.【ネット型】テニス
- 15.【ネット型】テニス

使用テキスト: 適宜資料を配布します

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 授業で使用する資料は適宜配布します。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください

授業時間外の連絡手段: 学務部に連絡してください。

留意事項: 運動に適した服装を準備すること

科目コード: 10155 **科目ナンバリング:** **主な使用言語:** 日本語

授業名(英文): 体育実技I 5(Physical Education I 5)

担当者: 木村 元子

基本情報

年次: 1

単位数: 1

授業形式: 実技

曜時: 水曜2限

履修可能学科・専攻: E Pe Pc C W F N M

関連資格: 教職 保育

AL要素: 03. 実験・実技・体験

授業の概要: 多面的なスポーツとの関わり方に触れることで、心身の健康の維持・促進に対する運動の必要性を、知識の習得と実践を通して理解する。

キーワード: コンディショニング, スポーツ, コミュニケーション, ストレッチ, 呼吸法, ヨガ, 骨盤調整, 体幹トレーニング

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標: 自分の心と体の健康状態に関心を持ち、日頃から把握・理解することができるようになる。

心身の健康の維持・促進に有意義な基本的な理論や手法についての知識と技能を身に付けることができる。

評価方法: 各回の授業学修シート

評価割合: 40%

期末課題

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標: 自分の健康状態を向上させるために、自分に合ったコンディショニング手法を選択して構築す

ることができる。

身体のコンディショニング法や軽い身体活動を自分の生活の中にいかに取り入れることができるかを考え、実際に取り組むことができる。

評価方法:「知識・技能」とあわせて評価する

評価割合:「知識・技能」とあわせて評価する

▼学修に主体的に取り組む態度

実技であることを踏まえ、積極的な授業参加が認められない場合には減点の対象とする。

評価割合:30%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象としない。ただしボランティア活動等の実践により深められた知見等がレポートの記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合:0%

▼公正性

スポーツマンシップやフェアプレーの精神に反する行為があった場合は、減点の対象とする。

評価割合:30%

▼その他

特になし

評価割合:特になし

- 授業計画:**
1. 授業概要の説明
 2. 体力測定
 3. 動きを伴うアイスブレイキング(コミュニケーションゲームなど)
 4. 身体のコディショニング(呼吸筋ほぐし, 呼吸法, ストレッチポール①)
軽スポーツ(ソフトfrisbee)
 5. 身体のコディショニング(足裏マッサージ, ふくらはぎマッサージ, ストレッチポール?)
軽スポーツ(アルティメットゲーム)
 6. 身体のコディショニング(柔軟体操, ストレッチ)
軽スポーツ(ソフトバレーボール①)
 7. 身体のコディショニング(骨盤体操)
軽スポーツ(ソフトバレーボール?)
 8. 身体のコディショニング(体幹トレーニング)
軽スポーツ(Gボール)
 9. 身体のコディショニング(自重を用いたエクササイズ①)
軽スポーツ(バスケットボール)
 10. 身体のコディショニング(自重を用いたエクササイズ?)
軽スポーツ(グラウンドホッケー)
 11. 身体のコディショニング(ヨガ①)
軽スポーツ(バドミントン①)
 12. 身体のコディショニング(ヨガ?)
軽スポーツ(バドミントン?)
 13. 身体のコディショニング(ヨガ③)
軽スポーツ(卓球①)
 14. 身体のコディショニング(ヨガ④)
軽スポーツ(卓球?)
 15. 身体のコディショニング(まとめ)
軽スポーツ(選択種目)

使用テキスト: 適宜資料を配布します

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 予習・復習のポイント(各回30分程度)

自分自身の健康状態に関心を持って、生活習慣を振り返る機会を持つ。

授業で学修したコンディショニング手法を復習し、自宅で行う。

自分でも、興味と関心のあるコンディショニング手法に関する情報を収集する。

授業で用いる資料等は配布します。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください

授業時間外の連絡手段: 学務部に連絡してください。

留意事項: 運動に適した服装・室内履きを着用して参加すること。
汗ふきタオル、水分を準備すること。
自分や他の人を傷付けないためにも、アクセサリ類ははずして参加すること。

科目コード:10155 科目ナンバリング: 主な使用言語:日本語

授業名(英文): 体育実技I 6(Physical Education I 6)

担当者: 高橋 遼

基本情報

年次:1

単位数:1

授業形式:実技

曜時:水曜3限

履修可能学科・専攻: E Pe Pc C W F N M

関連資格:教職 保育

AL要素: 03. 実験・実技・体験

授業の概要: 多面的なスポーツとの関わり方に触れることで、心身の健康の維持・促進に対する運動の必要性を、知識の習得と実践を通して理解する。

主に球技スポーツを実施する。スポーツの型に合わせて、ルールを理解し、作戦を立てる楽しさを知ってもらう。

【ネット型】限られたコートの中で攻守を組み立て、得点を競い合う。

【ベースボール型】攻守を規則的に交代して一定の回数の中で得点を競い合う。

【ゴール型】コート内で攻守が入り交じり、手や足を使ってボールを操作し、得点を競い合う。

キーワード: コンディショニング, スポーツ, コミュニケーション, 学校体育

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標: スポーツの型に合わせて、ルールを理解し、作戦を立てたり、協力して取り組むことができる。

評価方法: 課題レポート,学修カード

評価割合: 40%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 「知識・技能」とあわせて評価する

評価方法: 「知識・技能」とあわせて評価する

評価割合: 「知識・技能」とあわせて評価する

▼学修に主体的に取り組む態度

実技であることを踏まえ、積極的な授業参加が認められない場合には減点の対象とする。

評価割合: 30%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象としない。ただしボランティア活動等の実践により深められた知見等がレポートの記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合: 0%

▼公正性

スポーツマンシップやフェアプレーの精神に反する行為があった場合は、減点の対象とする。

評価割合: 30%

▼その他

特になし

評価割合：特になし

- 授業計画：
1. 授業概要の説明
 2. 体力測定
 3. アイスプレーキングゲーム
 4. 【ゴール型】バスケットボール
 5. 【ゴール型】バスケットボール
 6. 【ゴール型】ラインサッカー
 7. 【ゴール型】ラインサッカー
 8. 【ベースボール型】キックベース
 9. 【ベースボール型】キックベース
 10. 【ベースボール型】キックベース
 11. 【ベースボール型】キックベース
 12. 【ネット型】バドミントン
 13. 【ネット型】バドミントン
 14. 【ネット型】テニス
 15. 【ネット型】テニス

使用テキスト： 適宜資料を配布します

予習・復習のポイントと 授業で使用する資料は適宜配布します。
参考文献・資料等：

障がいのある 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください
履修者への対応：

授業時間外の連絡手段： 学務部に連絡してください。

留意事項： 運動に適した服装を準備すること

科目コード：10155

科目ナンバリング：

主な使用言語：日本語

授業名(英文)： 体育実技I 7(Physical Education I 7)

担当者： 木村 元子

基本情報

年次：1

単位数：1

授業形式：実技

曜時：水曜3限

履修可能学科・専攻： E Pe Pc C W F N M

関連資格：教職 保育

AL要素：03. 実験・実技・体験

授業の概要： 多面的なスポーツとの関わり方に触れることで、心身の健康の維持・促進に対する運動の必要性を、知識の習得と実践を通して理解する。

キーワード： コンディショニング, スポーツ, コミュニケーション, ストレッチ, 呼吸法, ヨガ, 骨盤調整, 体幹トレーニング

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標： 自分の心と体の健康状態に関心を持ち、日頃から把握・理解することができるようになる。

心身の健康の維持・促進に有意義な基本的な理論や手法についての知識と技能を身に付けることができる。

評価方法： 各回の授業学修シート

評価割合：40%

期末課題

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 自分の健康状態を向上させるために、自分に合ったコンディショニング手法を選択して構築することができる。

身体のコディショニング法や軽い身体活動を自分の生活の中にいかに取り入れることができるかを考え、実際に取り組むことができる。

評価方法：「知識・技能」とあわせて評価する

評価割合：「知識・技能」とあわせて評価する

▼学修に主体的に取り組む態度

実技であることを踏まえ、積極的な授業参加が認められない場合には減点の対象とする。

評価割合：30%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象としない。ただしボランティア活動等の実践により深められた知見等がレポートの記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合：0%

▼公正性

スポーツマンシップやフェアプレーの精神に反する行為があった場合は、減点の対象とする。

評価割合：30%

▼その他

特になし

評価割合：特になし

- 授業計画：
1. 授業概要の説明
 2. 体力測定
 3. 動きを伴うアイスブレイキング(コミュニケーションゲームなど)
 4. 身体のコディショニング(呼吸筋ほぐし, 呼吸法, ストレッチポール①)
軽スポーツ(ソフトfrisbee)
 5. 身体のコディショニング(足裏マッサージ, ふくらはぎマッサージ, ストレッチポール?)
軽スポーツ(アルティメットゲーム)
 6. 身体のコディショニング(柔軟体操, ストレッチ)
軽スポーツ(ソフトバレーボール①)
 7. 身体のコディショニング(骨盤体操)
軽スポーツ(ソフトバレーボール?)
 8. 身体のコディショニング(体幹トレーニング)
軽スポーツ(Gボール)
 9. 身体のコディショニング(自重を用いたエクササイズ①)
軽スポーツ(バスケットボール)
 10. 身体のコディショニング(自重を用いたエクササイズ?)
軽スポーツ(グラウンドホッケー)
 11. 身体のコディショニング(ヨガ①)
軽スポーツ(バドミントン①)
 12. 身体のコディショニング(ヨガ?)
軽スポーツ(バドミントン?)
 13. 身体のコディショニング(ヨガ③)
軽スポーツ(卓球①)
 14. 身体のコディショニング(ヨガ④)
軽スポーツ(卓球?)

15.身体のコンドショニング(まとめ)
軽スポーツ(選択種目)

使用テキスト: 適宜資料を配布します

予習・復習のポイントと
参考文献・資料等: 予習・復習のポイント(各回30分程度)

自分自身の健康状態に関心を持って、生活習慣を振り返る機会を持つ。
授業で学修したコンディショニング手法を復習し、自宅で行う。
自分でも、興味と関心のあるコンディショニング手法に関する情報を収集する。

授業で用いる資料等は配布します。

障がいのある
履修者への対応: 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください

授業時間外の連絡手段: 学務部に連絡してください。

留意事項: 運動に適した服装・室内履きを着用して参加すること。
汗ふきタオル、水分を準備すること。
自分や他の人を傷付けないためにも、アクセサリー類ははずして参加すること。

科目コード: 10155 科目ナンバリング: 主な使用言語: 日本語

授業名(英文): 体育実技I 8(Physical Education I 8)

担当者: 天野 秀哉

基本情報

年次: 1

単位数: 1

授業形式: 実技

曜時: 金曜2限

履修可能学科・専攻: E Pe Pc C W F N M

関連資格: 教職 保育

AL要素: 03. 実験・実技・体験

授業の概要: 多面的なスポーツとの関わり方に触れることで、心身の健康の維持・促進に対する運動の必要性を、知識の習得と実践を通して理解する。

キーワード: コンディショニング, スポーツ, コミュニケーション, Gボール, 自重エクササイズ, フライングディスク, インディアカ

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標: ・自分の健康状態や体力の水準を理解しそれを改善する手立てを構築できる
・様々な運動・スポーツに積極的に取り組み、それらの持つ価値を認識できる

評価方法: 授業内レポート

評価割合: 40%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 「知識・技能」とあわせて評価する

評価方法: 「知識・技能」とあわせて評価する

評価割合: 「知識・技能」とあわせて評価する

▼学修に主体的に取り組む態度

実技であることを踏まえ、積極的な授業参加が認められない場合には減点の対象とする。

評価割合: 30%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象としない。ただしボランティア活動等の実践により深められた知見等がレポートの記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合: 0%

▼公正性

スポーツマンシップやフェアプレーの精神に反する行為があった場合は、減点の対象とする。

評価割合：30%

▼その他

特になし

評価割合：特になし

- 授業計画：
1. 授業概要の説明
 2. 体力測定
 3. コミュニケーション ゲーム <アイスブレイキング>
 4. 身体のコンドショニングとスポーツ
コンディショニング：Gボールエクササイズ(1)
スポーツ：フライングディスク・ドッジビー(1)
 5. 身体のコンドショニングとスポーツ
コンディショニング：Gボールエクササイズ(2)
スポーツ：フライングディスク・ドッジビー(2)
 6. 身体のコンドショニングとスポーツ
コンディショニング：Gボールエクササイズ(3)
スポーツ：フライングディスク・ドッジビー(3)
 7. 身体のコンドショニングとスポーツ
コンディショニング：Gボールエクササイズ(4)
スポーツ：フライングディスク・アルティメット(1)
 8. 身体のコンドショニングとスポーツ
コンディショニング：Gボールエクササイズ(5)
スポーツ：フライングディスク・アルティメット(2)
 9. 身体のコンドショニングとスポーツ
コンディショニング：Gボールエクササイズ(6)
スポーツ：フライングディスク・アルティメット(3)
 10. 身体のコンドショニングとスポーツ
コンディショニング：自重を用いたエクササイズ(1) スポーツ：インディアカ(1)
 11. 身体のコンドショニングとスポーツ
コンディショニング：自重を用いたエクササイズ(2) スポーツ：インディアカ(2)
 12. 身体のコンドショニングとスポーツ
コンディショニング：自重を用いたエクササイズ(3) スポーツ：インディアカ(3)
 13. 身体のコンドショニングとスポーツ
コンディショニング：自重を用いたエクササイズ(4) スポーツ：インディアカ(4)
 14. 身体のコンドショニングとスポーツ
コンディショニング：自重を用いたエクササイズ(5) スポーツ：ソフトバレーボール(1)
 15. 身体のコンドショニングとスポーツ
コンディショニング：自重を用いたエクササイズ(6) スポーツ：ソフトバレーボール(2)

使用テキスト： 適宜資料を配布します

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 授業前には、身体のコンドショニングにて行う運動内容や、スポーツで取り扱う種目のルールや必要な用具について調べる。
授業後、実践した内容を記述することで、身体のコンドショニングについてや、スポーツでの運動技能、戦術などの考え方を深めることが望ましい。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください

授業時間外の連絡手段： 学務部に連絡してください。

留意事項： 運動に適した服装を準備すること

科目コード：10155

科目ナンバリング：

主な使用言語：日本語

授業名(英文): 体育実技I 9(Physical Education I 9)

担当者: 福地 修也

基本情報

年次: 1

単位数: 1

授業形式: 実技

曜時: 月曜4限

履修可能学科・専攻: E Pe Pc C W F N M

関連資格: 教職 保育

AL要素: 03. 実験・実技・体験

授業の概要: 多面的なスポーツとの関わり方に触れることで、心身の健康の維持・促進に対する運動の必要性を、知識の習得と実践を通して理解する。
いろいろな運動・スポーツの実践を通して、生涯にわたって体力を維持することと、スポーツの持つ文化的価値を理解することを目的としています。また、コミュニケーションスキルを身に付けていくことを狙って、チームスポーツを教材として取り上げます。

キーワード: コンディショニング, スポーツ, コミュニケーション, エクササイズ, ゴール型ゲーム

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

- 到達目標:** 1. 自己の体力の現状を認識し、体力を維持・向上させることができる
2. 様々なスポーツに積極的に取り組み、スポーツの持つ価値を認識できる

評価方法: コメントペーパー
期末レポート

評価割合: 40%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標: 「知識・技能」とあわせて評価する

評価方法: 「知識・技能」とあわせて評価する

評価割合: 「知識・技能」とあわせて評価する

▼ 学修に主体的に取り組む態度

実技であることを踏まえ、積極的な授業参加が認められない場合には減点の対象とする。

評価割合: 30%

▼ 実践的ボランティア

直接的な評価対象としない。だしボランティア活動等の実践により深められた知見等がレポートの記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合: 0%

▼ 公正性

スポーツマンシップやフェアプレーの精神に反する行為があった場合は、減点の対象とする。

評価割合: 30%

▼ その他

特になし

評価割合: 特になし

- 授業計画:**
1. 授業概要の説明
 2. 体力測定(Pre)
 3. コミュニケーションゲーム
 4. 身体のコンドショニング: ストレッチポールEx(1)+自重Tr(1)
／ スポーツ: フライングディスク(1)
 5. 身体のコンドショニング: ストレッチポールEx(2)+自重Tr(2)
／ スポーツ: フライングディスク(2)
 6. 身体のコンドショニング: ストレッチポールEx(3)+自重Tr(3)
／ スポーツ: フライングディスク(3)
 7. 身体のコンドショニング: バランスボールEx(1)+自重Tr(4)

- ／ スポーツ:フライングディスク(4)
- 8. 身体のコンドショニング:バランスボールEx(2)+自重Tr(5)
- ／ スポーツ:フライングディスク(5)
- 9. 身体のコンドショニング:バランスボールEx(3)+自重Tr(6)
- ／ スポーツ:フライングディスク(6)
- 10. 身体のコンドショニング:各自の目的・目標に応じたEx(1)
- ／ スポーツ:フロアボール(1)
- 11. 身体のコンドショニング:各自の目的・目標に応じたEx(2)
- ／ スポーツ:フロアボール(2)
- 12. 身体のコンドショニング:各自の目的・目標に応じたEx(3)
- ／ スポーツ:フロアボール(3)
- 13. 身体のコンドショニング:各自の目的・目標に応じたEx(4)
- ／ スポーツ:フロアボール(4)
- 14. 身体のコンドショニング:各自の目的・目標に応じたEx(5)
- ／ スポーツ:フロアボール(5)
- 15. 体力測定
- ／ まとめ

使用テキスト: 適宜資料を配布します

予習・復習のポイントと 予習・復習のポイント(各回30分程度)

参考文献・資料等:

【予習】授業計画を参照しながら、インターネットなどであらかじめ種目の内容などについての情報を得ること。できれば実際のゲーム場面を動画で確認しておくことが望ましい。特に、これまでに行ったことのない種目については、ゲームのイメージを持つことが授業にスムーズに入るために重要です。

【復習】技能面のポイント、チーム目標の達成度、取り組みの内容について整理し、次時の個人目標を設定しておくこと。また、授業内容をもとに、日々の生活の中で体力を維持・向上させる工夫をしてください。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください。

授業時間外の連絡手段: 学務部に連絡してください。

留意事項: 実技授業のため体調を整えてきてください。

運動、スポーツを行うことのできる状態で授業に臨んでください(体調、服装、体育館シューズ、爪、装飾品など)。

科目コード:10155

科目ナンバリング:

主な使用言語:日本語

授業名(英文): 体育実技I 10(Physical Education I 10)

担当者: 福地 修也

基本情報

年次:1

単位数:1

授業形式:実技

曜時:月曜5限

履修可能学科・専攻: E Pe Pc C W F N M

関連資格: 教職 保育

AL要素: 03. 実験・実技・体験

授業の概要: 多面的なスポーツとの関わり方に触れることで、心身の健康の維持・促進に対する運動の必要性を、知識の習得と実践を通して理解する。

いろいろな運動・スポーツの実践を通して、生涯にわたって体力を維持することと、スポーツの持つ文化的価値を理解することを目的としています。また、コミュニケーションスキルを身に付けていくことを狙って、チームスポーツを教材として取り上げます。

キーワード: コンドショニング, スポーツ, コミュニケーション, エクササイズ, ゴール型ゲーム

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標: 1. 自己の体力の現状を認識し、体力を維持・向上させることができる

2. 様々なスポーツに積極的に取り組み、スポーツの持つ価値を認識できる

評価方法: コメントペーパー
期末レポート

評価割合: 40%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 「知識・技能」とあわせて評価する

評価方法: 「知識・技能」とあわせて評価する

評価割合: 「知識・技能」とあわせて評価する

▼学修に主体的に取り組む態度

実技であることを踏まえ、積極的な授業参加が認められない場合には減点の対象とする。

評価割合: 30%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象としない。だしボランティア活動等の実践により深められた知見等がレポートの記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合: 0%

▼公正性

スポーツマンシップやフェアプレーの精神に反する行為があった場合は、減点の対象とする。

評価割合: 30%

▼その他

特になし

評価割合: 特になし

- 授業計画:**
1. 授業概要の説明
 2. 体力測定(Pre)
 3. コミュニケーションゲーム
 4. 身体のコンドショニング: ストレッチポールEx(1)+自重Tr(1)
／ スポーツ: フライングディスク(1)
 5. 身体のコンドショニング: ストレッチポールEx(2)+自重Tr(2)
／ スポーツ: フライングディスク(2)
 6. 身体のコンドショニング: ストレッチポールEx(3)+自重Tr(3)
／ スポーツ: フライングディスク(3)
 7. 身体のコンドショニング: バランスボールEx(1)+自重Tr(4)
／ スポーツ: フライングディスク(4)
 8. 身体のコンドショニング: バランスボールEx(2)+自重Tr(5)
／ スポーツ: フライングディスク(5)
 9. 身体のコンドショニング: バランスボールEx(3)+自重Tr(6)
／ スポーツ: フライングディスク(6)
 10. 身体のコンドショニング: 各自の目的・目標に応じたEx(1)
／ スポーツ: フロアボール(1)
 11. 身体のコンドショニング: 各自の目的・目標に応じたEx(2)
／ スポーツ: フロアボール(2)
 12. 身体のコンドショニング: 各自の目的・目標に応じたEx(3)
／ スポーツ: フロアボール(3)
 13. 身体のコンドショニング: 各自の目的・目標に応じたEx(4)
／ スポーツ: フロアボール(4)
 14. 身体のコンドショニング: 各自の目的・目標に応じたEx(5)
／ スポーツ: フロアボール(5)
 15. 体力測定
／ まとめ

使用テキスト: 適宜資料を配布します

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 予習・復習のポイント(各回30分程度)
【予習】授業計画を参照しながら、インターネットなどであらかじめ種目の内容などについての情報を得ること。できれば実際のゲーム場面を動画で確認しておくことが望ましい。特に、これまでに行ったことのない種目については、ゲームのイメージを持っておくことが授業にスムーズに入るために重要です。
【復習】技能面のポイント、チーム目標の達成度、取り組みの内容について整理し、次時の個人目標を設定しておくこと。また、授業内容をもとに、日々の生活の中で体力を維持・向上させる工夫をしてください。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください。

授業時間外の連絡手段： 学務部に連絡してください。

留意事項： 実技授業のため体調を整えてきてください。
運動、スポーツを行うことのできる状態で授業に臨んでください(体調、服装、体育館シューズ、爪、装飾品など)。

科目コード：10155 科目ナンバリング： 主な使用言語：日本語

授業名(英文)：体育実技I 11(Physical Education I 11)

担当者：天野 秀哉

基本情報

年次：1

単位数：1

授業形式：実技

曜時：金曜3限

履修可能学科・専攻：E Pe Pc C W F N M

関連資格：教職 保育

AL要素：03. 実験・実技・体験

授業の概要： 多面的なスポーツとの関わり方に触れることで、心身の健康の維持・促進に対する運動の必要性を、知識の習得と実践を通して理解する。

キーワード： コンディショニング、スポーツ、コミュニケーション、Gボール、自重エクササイズ、フライングディスク、インディアカ

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： ・自分の健康状態や体力の水準を理解しそれを改善する手立てを構築できる
・様々な運動・スポーツに積極的に取り組み、それらの持つ価値を認識できる

評価方法： 授業内レポート

評価割合： 40%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 「知識・技能」とあわせて評価する

評価方法： 「知識・技能」とあわせて評価する

評価割合： 「知識・技能」とあわせて評価する

▼学修に主体的に取り組む態度

実技であることを踏まえ、積極的な授業参加が認められない場合には減点の対象とする。

評価割合： 30%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象としない。ただしボランティア活動等の実践により深められた知見等がレポートの記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合： 0%

▼公正性

スポーツマンシップやフェアプレーの精神に反する行為があった場合は、減点の対象とする。

評価割合： 30%

▼その他

特になし

評価割合：特になし

- 授業計画：**
1. 授業概要の説明
 2. 体力測定
 3. コミュニケーション ゲーム <アイスブレイキング>
 4. 身体のコンドショニングとスポーツ
コンディショニング：Gボールエクササイズ(1)
スポーツ：フライングディスク・ドッジビー(1)
 5. 身体のコンドショニングとスポーツ
コンディショニング：Gボールエクササイズ(2)
スポーツ：フライングディスク・ドッジビー(2)
 6. 身体のコンドショニングとスポーツ
コンディショニング：Gボールエクササイズ(3)
スポーツ：フライングディスク・ドッジビー(3)
 7. 身体のコンドショニングとスポーツ
コンディショニング：Gボールエクササイズ(4)
スポーツ：フライングディスク・アルティメット(1)
 8. 身体のコンドショニングとスポーツ
コンディショニング：Gボールエクササイズ(5)
スポーツ：フライングディスク・アルティメット(2)
 9. 身体のコンドショニングとスポーツ
コンディショニング：Gボールエクササイズ(6)
スポーツ：フライングディスク・アルティメット(3)
 10. 身体のコンドショニングとスポーツ
コンディショニング：自重を用いたエクササイズ(1) スポーツ：インディアカ(1)
 11. 身体のコンドショニングとスポーツ
コンディショニング：自重を用いたエクササイズ(2) スポーツ：インディアカ(2)
 12. 身体のコンドショニングとスポーツ
コンディショニング：自重を用いたエクササイズ(3) スポーツ：インディアカ(3)
 13. 身体のコンドショニングとスポーツ
コンディショニング：自重を用いたエクササイズ(4) スポーツ：インディアカ(4)
 14. 身体のコンドショニングとスポーツ
コンディショニング：自重を用いたエクササイズ(5) スポーツ：ソフトバレーボール(1)
 15. 身体のコンドショニングとスポーツ
コンディショニング：自重を用いたエクササイズ(6) スポーツ：ソフトバレーボール(2)

使用テキスト： 適宜資料を配布します

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 授業前には、身体のコンドショニングにて行う運動内容や、スポーツで取り扱う種目のルールや必要な用具について調べる。
授業後、実践した内容を記述することで、身体のコンドショニングについてや、スポーツでの運動技能、戦術などの考え方を深めることが望ましい。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください

授業時間外の連絡手段： 学務部に連絡してください。

留意事項： 運動に適した服装を準備すること

科目コード：10155

科目ナンバリング：

主な使用言語：日本語

授業名(英文)：体育実技I 12(Physical Education I 12)

担当者：向後 和典

基本情報

年次：1

単位数：1

授業形式：実技

曜時：金曜2限

履修可能学科・専攻：E Pe Pc C W F N M

関連資格：教職 保育

AL要素：03. 実験・実技・体験

授業の概要： 多面的なスポーツとの関わり方に触れることで、心身の健康の維持・促進に対する運動の必要性を、知識の習得と実践を通して理解する。

キーワード： コンディショニング、スポーツ、スポーツ技術・戦術、コミュニケーション、コミュニケーションスキル、健康(主観的健康)、ChallengebyChoice、スポーツマンシップ・フェアプレイの精神

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標： 自分の健康状態や体力の水準を理解し、それを改善する手立てを構築できる。
様々な運動・スポーツに積極的に取り組み、それらの持つ価値を認識できる。

評価方法： 授業レポート(学習シート)

評価割合： 40%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標： 「知識・技能」とあわせて評価する

評価方法： 「知識・技能」とあわせて評価する

評価割合： 「知識・技能」とあわせて評価する

▼ 学修に主体的に取り組む態度

実技であることを踏まえ、積極的な授業参加が認められない場合には減点の対象とする。

評価割合： 30%

▼ 実践的ボランティア

直接的な評価対象としない。ただしボランティア活動等の実践により深められた知見等がレポートの記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合： 0%

▼ 公正性

スポーツマンシップやフェアプレーの精神に反する行為があった場合は、減点の対象とする。

評価割合： 30%

▼ その他

特になし

評価割合： 特になし

- 授業計画：**
1. 授業概要の説明
 2. 体力測定
 3. コミュニケーションゲーム
 4. 身体のコンドショニングとスポーツ
コンディショニング：Gボールエクササイズ(1) スポーツ：バドミントン(1)
 5. 身体のコンドショニングとスポーツ
コンディショニング：Gボールエクササイズ(2) スポーツ：バドミントン(2)
 6. 身体のコンドショニングとスポーツ
コンディショニング：Gボールエクササイズ(3) スポーツ：バドミントン(3)
 7. 身体のコンドショニングとスポーツ
コンディショニング：Gボールエクササイズ(4) スポーツ：バドミントン(4)
 8. 身体のコンドショニングとスポーツ
コンディショニング：Gボールエクササイズ(5) スポーツ：ソフトバレーボール(1)
 9. 身体のコンドショニングとスポーツ
コンディショニング：Gボールエクササイズ(6) スポーツ：ソフトバレーボール(2)
 10. 身体のコンドショニングとスポーツ
コンディショニング：ポールエクササイズ(1) スポーツ：ソフトバレーボール(3)
 11. 身体のコンドショニングとスポーツ

- コンディショニング:ポールエクササイズ(2) スポーツ:ソフトバレーボール(4)
12. 身体のコディショニングとスポーツ
コンディショニング:ポールエクササイズ(3) スポーツ:アルティメット(1)
13. 身体のコディショニングとスポーツ
コンディショニング:ポールエクササイズ(4) スポーツ:アルティメット(2)
14. 身体のコディショニングとスポーツ
コンディショニング:ポールエクササイズ(5) スポーツ:アルティメット(3)
15. 身体のコディショニングとスポーツ
コンディショニング:ポールエクササイズ(6) スポーツ:アルティメット(4)

使用テキスト: 適宜資料を配布します

予習・復習のポイントと 予習・復習のポイント(各回30分程度)

参考文献・資料等:

授業前(予習)

配布資料を参考に、その回のテーマの分からない用語を調べておきましょう。

見たこと、実践したことのない(少ない)エクササイズ・スポーツ種目については事前に動画サイトなどを利用してプレー動画を視聴しておくことで種目のイメージが湧きやすくなるかと思えます。

授業後(復習)

学習シートに沿って授業のふりかえりを行ないましょう。さらに関連事項について自主学修を通じ知見を深めてください。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください

授業時間外の連絡手段: 学務部に連絡してください。

留意事項: 実技授業のため体調を整えてきてください。

運動、スポーツを行うことのできる状態で授業に臨んでください。(体調、服装、体育館シューズ、爪、装飾品など)

科目コード:10155

科目ナンバリング:

主な使用言語:日本語

授業名(英文): 体育実技I 13(Physical Education I 13)

担当者: 北條 幸

基本情報

年次:1

単位数:1

授業形式:実技

曜時:木曜1限

履修可能学科・専攻: E Pe Pc C W F N M

関連資格:教職 保育

AL要素: 03. 実験・実技・体験

授業の概要: 多面的なスポーツとの関わり方に触れることで、心身の健康の維持・促進に対する運動の必要性を、知識の習得と実践を通して理解する。

キーワード: コンディショニング, スポーツ, コミュニケーション

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標: 体と心の働きについて学び、これからの健康的な生活への実践に取り組む。

評価方法: 授業毎の振り返りシート

評価割合: 40%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 「知識・技能」とあわせて評価する

評価方法: 「知識・技能」とあわせて評価する

評価割合: 「知識・技能」とあわせて評価する

▼学修に主体的に取り組む態度

実技であることを踏まえ、積極的な授業参加が認められない場合には減点の対象とする。

評価割合：30%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象としない。ただしボランティア活動等の実践により深められた知見等がレポートの記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合：0%

▼公正性

スポーツマンシップやフェアプレーの精神に反する行為があった場合は、減点の対象とする。

評価割合：30%

▼その他

特になし

評価割合：特になし

- 授業計画：
1. 授業概要の説明
 2. 体力測定
 3. コミュニケーションゲーム(身体模倣),班分け
 4. コンディショニング(呼吸法)+フライングディスク①
 5. コンディショニング(ストレッチ)+フライングディスク②
 6. コンディショニング(アクティブストレッチ)+フライングディスク③
 7. コンディショニング(ストレッチポール)+バスケットボール①
 8. コンディショニング(コーディネーション)+バスケットボール②
 9. コンディショニング(コーディネーション)+バスケットボール③
 10. コンディショニング(バランスボール) +バスケットボール④
 11. コンディショニング(バランスボール)+バドミントン①
 12. レジスタンストレーニング+バドミントン②
 13. レジスタンストレーニング+バドミントン③
 14. レジスタンストレーニング +バドミントン④
 15. まとめ

使用テキスト： 適宜資料を配布します

予習・復習のポイントと 「早寝早起き朝ごはん」

参考文献・資料等： 班別練習の計画

障がいのある 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください
履修者への対応：

授業時間外の連絡手段： 学務部に連絡してください。

留意事項： 運動に適した服装を準備すること

科目コード：10155

科目ナンバリング：

主な使用言語：日本語

授業名(英文)： 体育実技I 14(Physical Education I 14)

担当者： 向後 和典

基本情報

年次：1

単位数：1

授業形式：実技

曜時：金曜3限

履修可能学科・専攻： E Pe Pc C W F N M

関連資格：教職 保育

AL要素：03. 実験・実技・体験

授業の概要： 多面的なスポーツとの関わり方に触れることで、心身の健康の維持・促進に対する運動の必要性を、知識の習得と実践を通して理解する。

キーワード： コンディショニング, スポーツ, スポーツ技術・戦術, コミュニケーション, コミュニケーションスキル, 健康(主観的健康), ChallengebyChoice, スポーツマンシップ・フェアプレーの精神

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標: 自分の健康状態や体力の水準を理解し、それを改善する手立てを構築できる。
様々な運動・スポーツに積極的に取り組み、それらの持つ価値を認識できる。

評価方法: 授業レポート(学習シート)

評価割合: 40%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標: 「知識・技能」とあわせて評価する

評価方法: 「知識・技能」とあわせて評価する

評価割合: 「知識・技能」とあわせて評価する

▼ 学修に主体的に取り組む態度

実技であることを踏まえ、積極的な授業参加が認められない場合には減点の対象とする。

評価割合: 30%

▼ 実践的ボランティア

直接的な評価対象としない。ただしボランティア活動等の実践により深められた知見等がレポートの記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合: 0%

▼ 公正性

スポーツマンシップやフェアプレーの精神に反する行為があった場合は、減点の対象とする。

評価割合: 30%

▼ その他

特になし

評価割合: 特になし

- 授業計画:**
1. 授業概要の説明
 2. 体力測定
 3. コミュニケーションゲーム
 4. 身体のコンドショニングとスポーツ
 コンディショニング:Gボールエクササイズ(1) スポーツ:バドミントン(1)
 5. 身体のコンドショニングとスポーツ
 コンディショニング:Gボールエクササイズ(2) スポーツ:バドミントン(2)
 6. 身体のコンドショニングとスポーツ
 コンディショニング:Gボールエクササイズ(3) スポーツ:バドミントン(3)
 7. 身体のコンドショニングとスポーツ
 コンディショニング:Gボールエクササイズ(4) スポーツ:バドミントン(4)
 8. 身体のコンドショニングとスポーツ
 コンディショニング:Gボールエクササイズ(5) スポーツ:ソフトバレーボール(1)
 9. 身体のコンドショニングとスポーツ
 コンディショニング:Gボールエクササイズ(6) スポーツ:ソフトバレーボール(2)
 10. 身体のコンドショニングとスポーツ
 コンディショニング:ポールエクササイズ(1) スポーツ:ソフトバレーボール(3)
 11. 身体のコンドショニングとスポーツ
 コンディショニング:ポールエクササイズ(2) スポーツ:ソフトバレーボール(4)
 12. 身体のコンドショニングとスポーツ
 コンディショニング:ポールエクササイズ(3) スポーツ:アルティメット(1)
 13. 身体のコンドショニングとスポーツ
 コンディショニング:ポールエクササイズ(4) スポーツ:アルティメット(2)
 14. 身体のコンドショニングとスポーツ
 コンディショニング:ポールエクササイズ(5) スポーツ:アルティメット(3)
 15. 身体のコンドショニングとスポーツ
 コンディショニング:ポールエクササイズ(6) スポーツ:アルティメット(4)

使用テキスト： 適宜資料を配布します

予習・復習のポイントと 予習・復習のポイント(各回30分程度)

参考文献・資料等： 授業前(予習)

配布資料を参考に、その回のテーマの分からない用語を調べておきましょう。

見たこと、実践したことのない(少ない)エクササイズ・スポーツ種目については事前に動画サイトなどを利用してプレー動画を視聴しておくことで種目のイメージが湧きやすくなるかと思います。

授業後(復習)

学習シートに沿って授業のふりかえりを行ないましょう。さらに関連事項について自主学修を通じ知見を深めてください。

障がいのある 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください
履修者への対応：

授業時間外の連絡手段： 学務部に連絡してください。

留意事項： 実技授業のため体調を整えてきてください。

運動、スポーツを行うことのできる状態で授業に臨んでください。(体調、服装、体育館シューズ、爪、装飾品など)

科目コード：10155

科目ナンバリング：

主な使用言語：日本語

授業名(英文)：体育実技I 15(Physical Education I 15)

担当者：北條 幸

基本情報

年次：1

単位数：1

授業形式：実技

曜時：木曜2限

履修可能学科・専攻：E Pe Pc C W F N M

関連資格：教職 保育

AL要素：03. 実験・実技・体験

授業の概要： 多面的なスポーツとの関わり方に触れることで、心身の健康の維持・促進に対する運動の必要性を、知識の習得と実践を通して理解する。

キーワード：コンディショニング、スポーツ、コミュニケーション

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標：体と心の働きについて学び、これからの健康的な生活への実践に取り組む。

評価方法：授業毎の振り返りシート

評価割合：40%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標：「知識・技能」とあわせて評価する

評価方法：「知識・技能」とあわせて評価する

評価割合：「知識・技能」とあわせて評価する

▼学修に主体的に取り組む態度

実技であることを踏まえ、積極的な授業参加が認められない場合には減点の対象とする。

評価割合：30%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象としない。ただしボランティア活動等の実践により深められた知見等がレポートの記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合：0%

▼公正性

スポーツマンシップやフェアプレーの精神に反する行為があった場合は、減点の対象とする。

評価割合：30%

▼その他

特になし

評価割合：特になし

- 授業計画：
1. 授業概要の説明
 2. 体力測定
 3. コミュニケーションゲーム(身体模倣),班分け
 4. コンディショニング(呼吸法)+フライングディスク①
 5. コンディショニング(ストレッチ)+フライングディスク②
 6. コンディショニング(アクティブストレッチ)+フライングディスク③
 7. コンディショニング(ストレッチポール)+バスケットボール①
 8. コンディショニング(コーディネーション)+バスケットボール②
 9. コンディショニング(コーディネーション)+バスケットボール③
 10. コンディショニング(バランスボール) +バスケットボール④
 11. コンディショニング(バランスボール)+バドミントン①
 12. レジスタンストレーニング+バドミントン②
 13. レジスタンストレーニング+バドミントン③
 14. レジスタンストレーニング +バドミントン④
 15. まとめ

使用テキスト： 適宜資料を配布します

予習・復習のポイントと 「早寝早起き朝ごはん」

参考文献・資料等： 班別練習の計画

障がいのある 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください
履修者への対応：

授業時間外の連絡手段： 学務部に連絡してください。

留意事項： 運動に適した服装を準備すること

科目コード：10155 科目ナンバリング： 主な使用言語：日本語

授業名(英文)： 体育実技I 16(Physical Education I 16)

担当者： 向後 和典

基本情報

年次：1

単位数：1

授業形式：実技

曜時：金曜4限

履修可能学科・専攻： E Pe Pc C W F N M

関連資格：教職 保育

AL要素：03. 実験・実技・体験

授業の概要： 多面的なスポーツとの関わり方に触れることで、心身の健康の維持・促進に対する運動の必要性を、知識の習得と実践を通して理解する。

キーワード： コンディショニング, スポーツ, スポーツ技術・戦術, コミュニケーション, コミュニケーションスキル, 健康(主観的健康), ChallengebyChoice, スポーツマンシップ・フェアプレイの精神

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 自分の健康状態や体力の水準を理解し、それを改善する手立てを構築できる。
様々な運動・スポーツに積極的に取り組み、それらの持つ価値を認識できる。

評価方法： 授業レポート(学習シート)

評価割合：40%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 「知識・技能」とあわせて評価する

評価方法:「知識・技能」とあわせて評価する

評価割合:「知識・技能」とあわせて評価する

▼学修に主体的に取り組む態度

実技であることを踏まえ、積極的な授業参加が認められない場合には減点の対象とする。

評価割合:30%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象としない。ただしボランティア活動等の実践により深められた知見等がレポートの記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合:0%

▼公正性

スポーツマンシップやフェアプレーの精神に反する行為があった場合は、減点の対象とする。

評価割合:30%

▼その他

特になし

評価割合:特になし

- 授業計画:**
1. 授業概要の説明
 2. 体力測定
 3. コミュニケーションゲーム
 4. 身体のコンドショニングとスポーツ
 コンディショニング:Gボールエクササイズ(1) スポーツ:バドミントン(1)
 5. 身体のコンドショニングとスポーツ
 コンディショニング:Gボールエクササイズ(2) スポーツ:バドミントン(2)
 6. 身体のコンドショニングとスポーツ
 コンディショニング:Gボールエクササイズ(3) スポーツ:バドミントン(3)
 7. 身体のコンドショニングとスポーツ
 コンディショニング:Gボールエクササイズ(4) スポーツ:バドミントン(4)
 8. 身体のコンドショニングとスポーツ
 コンディショニング:Gボールエクササイズ(5) スポーツ:ソフトバレーボール(1)
 9. 身体のコンドショニングとスポーツ
 コンディショニング:Gボールエクササイズ(6) スポーツ:ソフトバレーボール(2)
 10. 身体のコンドショニングとスポーツ
 コンディショニング:ポールエクササイズ(1) スポーツ:ソフトバレーボール(3)
 11. 身体のコンドショニングとスポーツ
 コンディショニング:ポールエクササイズ(2) スポーツ:ソフトバレーボール(4)
 12. 身体のコンドショニングとスポーツ
 コンディショニング:ポールエクササイズ(3) スポーツ:アルティメット(1)
 13. 身体のコンドショニングとスポーツ
 コンディショニング:ポールエクササイズ(4) スポーツ:アルティメット(2)
 14. 身体のコンドショニングとスポーツ
 コンディショニング:ポールエクササイズ(5) スポーツ:アルティメット(3)
 15. 身体のコンドショニングとスポーツ
 コンディショニング:ポールエクササイズ(6) スポーツ:アルティメット(4)

使用テキスト: 適宜資料を配布します

予習・復習のポイントと 予習・復習のポイント(各回30分程度)

参考文献・資料等: 授業前(予習)

配布資料を参考に、その回のテーマの分からない用語を調べておきましょう。

見たこと、実践したことのない(少ない)エクササイズ・スポーツ種目については事前に動画サイトなどを利用してプレー動画を視聴しておくことで種目のイメージが湧きやすくなるかと思えます。

授業後(復習)

学習シートに沿って授業のふりかえりを行ないましょう。さらに関連事項について自主学修を通じ知見を深めてください。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください

授業時間外の連絡手段: 学務部に連絡してください。

留意事項: 実技授業のため体調を整えてきてください。
運動、スポーツを行うことのできる状態で授業に臨んでください。(体調、服装、体育館シューズ、爪、装飾品など)

科目コード:10155 科目ナンバリング: 主な使用言語:日本語

授業名(英文): 体育実技I 17(Physical Education I 17)

担当者: 北條 幸

基本情報

年次:1

単位数:1

授業形式:実技

曜時:木曜3限

履修可能学科・専攻: E Pe Pc C W F N M

関連資格:教職 保育

AL要素: 03. 実験・実技・体験

授業の概要: 多面的なスポーツとの関わり方に触れることで、心身の健康の維持・促進に対する運動の必要性を、知識の習得と実践を通して理解する。

キーワード: コンディショニング, スポーツ, コミュニケーション

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標: 体と心の働きについて学び、これからの健康的な生活への実践に取り組む。

評価方法: 授業毎の振り返りシート

評価割合: 40%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 「知識・技能」とあわせて評価する

評価方法: 「知識・技能」とあわせて評価する

評価割合: 「知識・技能」とあわせて評価する

▼学修に主体的に取り組む態度

実技であることを踏まえ、積極的な授業参加が認められない場合には減点の対象とする。

評価割合: 30%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象としない。ただしボランティア活動等の実践により深められた知見等がレポートの記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合: 0%

▼公正性

スポーツマンシップやフェアプレーの精神に反する行為があった場合は、減点の対象とする。

評価割合: 30%

▼その他

特になし

評価割合: 特になし

授業計画:

1. 授業概要の説明
2. 体力測定
3. コミュニケーションゲーム(身体模倣),班分け
4. コンディショニング(呼吸法)+フライングディスク①
5. コンディショニング(ストレッチ)+フライングディスク②
6. コンディショニング(アクティブストレッチ)+フライングディスク③

7. コンディショニング(ストレッチポール)+バスケットボール①
8. コンディショニング(コーディネーション)+バスケットボール②
9. コンディショニング(コーディネーション)+バスケットボール③
10. コンディショニング(バランスボール) +バスケットボール④
11. コンディショニング(バランスボール)+バドミントン①
12. レジスタンストレーニング+バドミントン②
13. レジスタンストレーニング+バドミントン③
14. レジスタンストレーニング +バドミントン④
15. まとめ

使用テキスト: 適宜資料を配布します

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 「早寝早起き朝ごはん」
班別練習の計画

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください

授業時間外の連絡手段: 学務部に連絡してください。

留意事項: 運動に適した服装を準備すること

科目コード: 10155 **科目ナンバリング:** **主な使用言語:** 日本語

授業名(英文): 体育実技I 18(Physical Education I 18)

担当者: 高橋 和将

基本情報

年次: 1 **単位数:** 1 **授業形式:** 実技
曜時: 水曜5限 **履修可能学科・専攻:** E Pe Pc C W F N M
関連資格: 教職 保育 **AL要素:** 03. 実験・実技・体験

授業の概要: 多面的なスポーツとの関わり方に触れることで、心身の健康の維持・促進に対する運動の必要性を、知識の習得と実践を通して理解する。
 いろいろな運動・スポーツの実践を通して、生涯にわたって体力を維持することと、スポーツの持つ文化的価値を理解することを目的としています。また、コミュニケーションスキルを身に付けていくことを狙って、チームスポーツを教材として取り上げます。

キーワード: コンディショニング, スポーツ, コミュニケーション, エクササイズ, ゴール型ゲーム

学位授与方針との関係

▼知識・技能

- 到達目標:** 1. 自己の体力の現状を認識し、体力を維持・向上させることができる
 2. 様々なスポーツに積極的に取り組み、スポーツの持つ価値を認識できる

評価方法: コメントペーパー **評価割合:** 40%
 期末レポート

▼思考力・判断力・表現力

- 到達目標:** 「知識・技能」とあわせて評価する
評価方法: 「知識・技能」とあわせて評価する **評価割合:** 「知識・技能」とあわせて評価する

▼学修に主体的に取り組む態度

実技であることを踏まえ、積極的な授業参加が認められない場合には減点の対象とする。
評価割合: 30%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象としない。ただしボランティア活動等の実践により深められた知見等がレポートの記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合：0%

▼公正性

スポーツマンシップやフェアプレーの精神に反する行為があった場合は、減点の対象とする。

評価割合：30%

▼その他

特になし

評価割合：特になし

- 授業計画：**
1. 授業概要の説明
 2. 体力測定
 3. コミュニケーションゲーム
 4. 身体のコンドショニング:ストレッチポールEx(1)+自重Tr(1)
／ スポーツ:フライングディスク(1)
 5. 身体のコンドショニング:ストレッチポールEx(2)+自重Tr(2)
／ スポーツ:フライングディスク(2)
 6. 身体のコンドショニング:ストレッチポールEx(3)+自重Tr(3)
／ スポーツ:フライングディスク(3)
 7. 身体のコンドショニング:バランスボールEx(1)+自重Tr(4)
／ スポーツ:フライングディスク(4)
 8. 身体のコンドショニング:バランスボールEx(2)+自重Tr(5)
／ スポーツ:フライングディスク(5)
 9. 身体のコンドショニング:バランスボールEx(3)+自重Tr(6)
／ スポーツ:フライングディスク(6)
 10. 身体のコンドショニング:各自の目的・目標に応じたEx(1)
／ スポーツ:フロアボール(1)
 11. 身体のコンドショニング:各自の目的・目標に応じたEx(2)
／ スポーツ:フロアボール(2)
 12. 身体のコンドショニング:各自の目的・目標に応じたEx(3)
／ スポーツ:フロアボール(3)
 13. 身体のコンドショニング:各自の目的・目標に応じたEx(4)
／ スポーツ:フロアボール(4)
 14. 身体のコンドショニング:各自の目的・目標に応じたEx(5)
／ スポーツ:フロアボール(5)
 15. 身体のコンドショニング:各自の目的・目標に応じたEx(6)
／ スポーツ:フロアボール(6)

使用テキスト： 適宜資料を配布します

予習・復習のポイントと 予習・復習のポイント(各回30分程度)

参考文献・資料等： 【予習】授業計画を参照しながら、インターネットなどであらかじめ種目の内容などについての情報を得ること。できれば実際のゲーム場面を動画で確認しておくことが望ましい。特に、これまでに行ったことのない種目については、ゲームのイメージを持っておくことが授業にスムーズに入るために重要です。

【復習】技能面のポイント、チーム目標の達成度、取り組みの内容について整理し、次時の個人目標を設定しておくこと。また、授業内容をもとに、日々の生活の中で体力を維持・向上させる工夫をしてください。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください

授業時間外の連絡手段： 対面:オフィスアワーに対応します。
オンライン:Teams上、またはメールにてお問い合わせに応じます。

留意事項： 運動に適した服装を準備すること

科目コード:10155

科目ナンバリング:

主な使用言語:日本語

授業名(英文): 体育実技I 19(Physical Education I 19)

担当者: 木村 元子

基本情報

年次:1

単位数:1

授業形式:実技

曜時:水曜3限

履修可能学科・専攻: E Pe Pc C W F N M

関連資格:教職 保育

AL要素:03. 実験・実技・体験

授業の概要: 多面的なスポーツとの関わり方に触れることで、心身の健康の維持・促進に対する運動の必要性を、知識の習得と実践を通して理解する。

キーワード: コンディショニング, スポーツ, コミュニケーション, ストレッチ, 呼吸法, ヨガ, 骨盤調整, 体幹トレーニング

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標: 自分の心と体の健康状態に関心を持ち、日頃から把握・理解することができるようになる。

心身の健康の維持・促進に有意義な基本的な理論や手法についての知識と技能を身に付けることができる。

評価方法: 各回の授業学修シート

評価割合: 40%

期末課題

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 自分の健康状態を向上させるために、自分に合ったコンディショニング手法を選択して構築することができる。

身体のコンディショニング法や軽い身体活動を自分の生活の中にかかに取り入れることができるかを考え、実際に取り組むことができる。

評価方法: 「知識・技能」とあわせて評価する

評価割合: 「知識・技能」とあわせて評価する

▼学修に主体的に取り組む態度

実技であることを踏まえ、積極的な授業参加が認められない場合には減点の対象とする。

評価割合: 30%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象としない。ただしボランティア活動等の実践により深められた知見等がレポートの記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合: 0%

▼公正性

スポーツマンシップやフェアプレーの精神に反する行為があった場合は、減点の対象とする。

評価割合: 30%

▼その他

特になし

評価割合：特になし

- 授業計画：
1. 授業概要の説明
 2. 体力測定
 3. 動きを伴うアイスブレイキング(コミュニケーションゲームなど)
 4. 身体のコンドショニング(呼吸筋ほぐし, 呼吸法, ストレッチポール①)
軽スポーツ(ソフトfrisbee)
 5. 身体のコンドショニング(足裏マッサージ, ふくらはぎマッサージ, ストレッチポール?)
軽スポーツ(アルティメットゲーム)
 6. 身体のコンドショニング(柔軟体操, ストレッチ)
軽スポーツ(ソフトバレーボール①)
 7. 身体のコンドショニング(骨盤体操)
軽スポーツ(ソフトバレーボール?)
 8. 身体のコンドショニング(体幹トレーニング)
軽スポーツ(Gボール)
 9. 身体のコンドショニング(自重を用いたエクササイズ①)
軽スポーツ(バスケットボール)
 10. 身体のコンドショニング(自重を用いたエクササイズ?)
軽スポーツ(グラウンドホッケー)
 11. 身体のコンドショニング(ヨガ①)
軽スポーツ(バドミントン①)
 12. 身体のコンドショニング(ヨガ?)
軽スポーツ(バドミントン?)
 13. 身体のコンドショニング(ヨガ③)
軽スポーツ(卓球①)
 14. 身体のコンドショニング(ヨガ④)
軽スポーツ(卓球?)
 15. 身体のコンドショニング(まとめ)
軽スポーツ(選択種目)

使用テキスト： 適宜資料を配布します

予習・復習のポイントと 予習・復習のポイント(各回30分程度)
参考文献・資料等：

自分自身の健康状態に関心を持って、生活習慣を振り返る機会を持つ。
授業で学修したコンディショニング手法を復習し、自宅で行う。
自分でも、興味と関心のあるコンディショニング手法に関する情報を収集する。

授業で用いる資料等は配布します。

障がいのある 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください
履修者への対応：

授業時間外の連絡手段： 学務部に連絡してください。

留意事項： 運動に適した服装・室内履きを着用して参加すること。
汗ふきタオル、水分を準備すること。
自分や他の人を傷付けないためにも、アクセサリー類ははずして参加すること。

科目コード：10155

科目ナンバリング：

主な使用言語：日本語

授業名(英文)：体育実技I 20(Physical Education I 20)

担当者：天野 秀哉

基本情報

年次：1

単位数：1

授業形式：実技

曜時：金曜2限

履修可能学科・専攻：E Pe Pc C W F N M

関連資格：教職 保育

AL要素：03. 実験・実技・体験

授業の概要：多面的なスポーツとの関わり方に触れることで、心身の健康の維持・促進に対する運動の必要性を、知識の習得と実践を通して理解する。

キーワード：コンディショニング、スポーツ、コミュニケーション、Gボール、自重エクササイズ、フライングディスク、インディアカ

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標：・自分の健康状態や体力の水準を理解しそれを改善する手立てを構築できる
・様々な運動・スポーツに積極的に取り組み、それらの持つ価値を認識できる

評価方法：授業内レポート

評価割合：40%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標：「知識・技能」とあわせて評価する

評価方法：「知識・技能」とあわせて評価する

評価割合：「知識・技能」とあわせて評価する

▼学修に主体的に取り組む態度

実技であることを踏まえ、積極的な授業参加が認められない場合には減点の対象とする。

評価割合：30%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象としない。ただしボランティア活動等の実践により深められた知見等がレポートの記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合：0%

▼公正性

スポーツマンシップやフェアプレーの精神に反する行為があった場合は、減点の対象とする。

評価割合：30%

▼その他

特になし

評価割合：特になし

- 授業計画：**
1. 授業概要の説明
 2. 体力測定
 3. コミュニケーション ゲーム <アイスブレイキング>
 4. 身体のコディショニングとスポーツ
コンディショニング:Gボールエクササイズ(1)
スポーツ:フライングディスク・ドッジビー(1)
 5. 身体のコディショニングとスポーツ
コンディショニング:Gボールエクササイズ(2)
スポーツ:フライングディスク・ドッジビー(2)
 6. 身体のコディショニングとスポーツ
コンディショニング:Gボールエクササイズ(3)
スポーツ:フライングディスク・ドッジビー(3)
 7. 身体のコディショニングとスポーツ
コンディショニング:Gボールエクササイズ(4)
スポーツ:フライングディスク・アルティメット(1)
 8. 身体のコディショニングとスポーツ
コンディショニング:Gボールエクササイズ(5)
スポーツ:フライングディスク・アルティメット(2)
 9. 身体のコディショニングとスポーツ
コンディショニング:Gボールエクササイズ(6)
スポーツ:フライングディスク・アルティメット(3)

10. 身体のコンドショニングとスポーツ
コンディショニング: 自重を用いたエクササイズ(1) スポーツ: インディアカ(1)
11. 身体のコンドショニングとスポーツ
コンディショニング: 自重を用いたエクササイズ(2) スポーツ: インディアカ(2)
12. 身体のコンドショニングとスポーツ
コンディショニング: 自重を用いたエクササイズ(3) スポーツ: インディアカ(3)
13. 身体のコンドショニングとスポーツ
コンディショニング: 自重を用いたエクササイズ(4) スポーツ: インディアカ(4)
14. 身体のコンドショニングとスポーツ
コンディショニング: 自重を用いたエクササイズ(5) スポーツ: ソフトバレーボール(1)
15. 身体のコンドショニングとスポーツ
コンディショニング: 自重を用いたエクササイズ(6) スポーツ: ソフトバレーボール(2)

使用テキスト: 適宜資料を配布します

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 授業前には、身体のコンドショニングにて行う運動内容や、スポーツで取り扱う種目のルールや必要な用具について調べる。
授業後、実践した内容を記述することで、身体のコンドショニングについてや、スポーツでの運動技能、戦術などの考え方を深めることが望ましい。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください

授業時間外の連絡手段: 学務部に連絡してください。

留意事項: 運動に適した服装を準備すること

科目コード: 10155a **科目ナンバリング:** **主な使用言語:** 日本語

授業名(英文): 体育実技I 水泳a (Physical Education I Swimming a)

担当者: 高橋 和将、斉藤 まゆみ、椿本 昇三、川合 真与

基本情報

年次: 1	単位数: 1	授業形式: 実技
曜時: 前期(集中講義)、後期(集中講義)	履修可能学科・専攻: Pe	
関連資格: 教職	AL要素: 03 実験・実技・体験 08 協同学習	

授業の概要: 水泳の段階的指導法を学習するとともに、自己の泳能力を伸ばし、正しい泳法を身に付けたり、より長く泳ぎ続けるための呼吸法・ターンを身に付けたりすることを目的とした授業です。

キーワード: エレメンタリーストローク、呼吸法

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標: ・4泳法(バタフライ・平泳ぎ・背泳ぎ・クロール)を正しい泳法で泳ぐことができる。
・より長く泳ぎ続けるための技術を身に付けている。

評価方法: 実技 **評価割合:** 60%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標: ・水泳の段階的指導法を理解し、その内容を文字化できる。
・安全に水泳授業を展開する方法を理解し、実習内において安全判断ができる。

評価方法: 授業ノート **評価割合:** 30%
レポート

▼ 学修に主体的に取り組む態度

実技であることを踏まえ、積極的な授業参加が認められない場合には減点の対象とする。

評価割合：10%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象としない。ただしボランティア活動等の実践により深められた知見等がレポートの記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象としない。ただし、授業中の発言やノートの記述などにおいて、また、実習におけるルール・マナーを逸脱する行為があった場合は、「学修に主体的に取り組む態度」の減点対象とする。

評価割合：0%

▼その他

特になし

評価割合：特になし

授業計画： 実習オリエンテーション(7月)

夏季集中(9月;5日間 かみね市民プール・屋外プール)

1. 水泳授業における安全確認・安全確保
2. 水慣れのためのプログラム
3. 技能レベルの確認とグループ編成
4. エレメンタリーストローク(バタフライ)
5. エレメンタリーストローク(背泳ぎ)
6. エレメンタリーストローク(平泳ぎ)
7. エレメンタリーストローク(クロール)
8. グループ別練習
9. ターンを用いた持続泳
10. 10分泳の測定(1)

グループ別練習(10月～1月で計4回)

冬季集中(2月;3日間 かみね市民プール・屋内プール)

11. 水の抵抗と効率的な泳ぎ方
12. 50m泳の測定
13. ストロークコレクションの確認
14. 10分泳の測定(2)
15. まとめ

使用テキスト： 授業で使用する資料は、すべてTeamsで配布します

予習・復習のポイントと
参考文献・資料等： インターネットなどを用いて動画でも泳法を確認すること。
ノートに記載してある「泳法の確認項目」を参考に、グループ別練習で相互に泳法を確認すること。

【参考資料】

学校体育実技指導資料 第4集「水泳指導の手引(三訂版)」文部科学省

障がいのある
履修者への対応： 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください

授業時間外の連絡手段： オフィスアワーに対応します(高橋)

留意事項： 指定水着、もしくはそれに準じた水着で参加してください。
キャップは指定のものを購入してください。

日本赤十字社や消防署で開催される救急蘇生法講習の受講を推奨します

アレルギーなどのため、実技への参加が難しい場合は、履修登録時に相談してください

科目コード:10160

科目ナンバリング:

主な使用言語:日本語

授業名(英文): 体育実技IIA ネット型個人スポーツa(Physical Education II A individual sports a)

担当者: 佐久間 彩

基本情報

年次:1

単位数:1

授業形式:実技

曜時:火曜5限

履修可能学科・専攻: E Pe Pc C W F N M

関連資格:教職 保育

AL要素: 03. 実験・実技・体験

授業の概要: 様々な運動・スポーツの継続的な実践を通して種目固有のスキルの習得や戦術の理解, 体力の維持・増進を図り, 生涯にわたって運動・スポーツに親しむことのできる人材の育成を目指す。

キーワード: ネット型 個人スポーツ テニス バドミントン 卓球

学位授与方針との関係

▼知識・技能

- 到達目標:**
1. 各種目のルールを理解し, 技術を向上させることができる。
 2. 様々な運動・スポーツに積極的に取り組み, それらの持つ価値を理解できる。

評価方法: コメントペーパー, 期末レポート

評価割合: 40%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 「知識・技能」とあわせて評価する

評価方法: 「知識・技能」とあわせて評価する

評価割合: 「知識・技能」とあわせて評価する

▼学修に主体的に取り組む態度

実技であることを踏まえ, 積極的な授業参加が認められない場合には減点の対象とする。

評価割合: 30%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象としない。ただしボランティア活動等の実践により深められた知見等がレポートの記述内容により認められる場合は, 上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合: 0%

▼公正性

スポーツマンシップやフェアプレーの精神に反する行為があった場合は, 減点の対象とする。

評価割合: 30%

▼その他

特になし

評価割合: 特になし

- 授業計画:**
1. 授業概要の説明
 2. コミュニケーションゲーム アイスブレイキングゲーム
 3. ミニテニス(1)
 4. ミニテニス(2)
 5. ミニテニス(3)
 6. ミニテニス(4)
 7. 卓球(1)
 8. 卓球(2)
 9. 卓球(3)
 10. バドミントン(1)
 11. バドミントン(2)

12. バドミントン(3)
13. バドミントン(4)
14. バドミントン(5)
15. バドミントン(6)

使用テキスト: 適宜資料を配布します

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: ・授業で扱うスポーツのルールやエクササイズの方法について理解を深めてください。
・実技に積極的に参加できるように、日頃から体調を整えるようにしてください。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください

授業時間外の連絡手段: 学務部に連絡してください

留意事項: 運動に適した服装・シューズを準備すること

科目コード: 10160 **科目ナンバリング:** **主な使用言語:** 日本語
授業名(英文): 体育実技IIA エクササイズ(ヨガ・ピラティス) (Physical Education II A Exercise YogaPil
担当者: 木村 元子

基本情報

年次: 1

単位数: 1

授業形式: 実技

曜時: 水曜2限

履修可能学科・専攻: E Pe Pc C W F N M

関連資格: 教職 保育

AL要素: 03. 実験・実技・体験

授業の概要: 様々な運動・スポーツの継続的な実践を通して種目固有のスキルの習得や戦術の理解、体力の維持・増進を図り、生涯にわたって運動・スポーツに親しむことのできる人材の育成を目指す。

キーワード: コンディショニング, スポーツ, コミュニケーション, ストレッチ, 呼吸法, ヨガ, ピラティス, 骨盤調整, 体幹トレーニング

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標: 自分の心と体の健康状態に関心を持ち、日頃から把握・理解することができるようになる。

心身の健康の維持・促進に有意義な基本的な理論や手法についての知識と技能を身に付けることができる。

評価方法: 各回の授業学修シート

評価割合: 40%

期末課題

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標: 自分の健康状態を向上させるために、自分に合ったコンディショニング手法を選択して構築することができる。

身体のコンディショニング法や軽い身体活動を自分の生活の中に取り入れることができるかを考え、実際に取り組むことができる。

評価方法:「知識・技能」とあわせて評価する

評価割合:「知識・技能」とあわせて評価する

▼学修に主体的に取り組む態度

実技であることを踏まえ、積極的な授業参加が認められない場合には減点の対象とする。

評価割合:30%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象としない。ただしボランティア活動等の実践により深められた知見等がレポートの記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合:0%

▼公正性

スポーツマンシップやフェアプレーの精神に反する行為があった場合は、減点の対象とする。

評価割合:30%

▼その他

特になし

評価割合:特になし

- 授業計画:**
1. 授業概要の説明
 2. 動きを伴うアイスブレイキング(コミュニケーションゲームなど)
 3. 身体のコンドショニング(呼吸筋ほぐし, 呼吸法, ストレッチポール①)
軽スポーツ(ソフトfrisbee)
 4. 身体のコンドショニング(足裏マッサージ, ふくらはぎマッサージ)
軽スポーツ(アルティメットゲーム)
 5. 身体のコンドショニング(柔軟体操, ストレッチ)
軽スポーツ(ソフトバレーボール①)
 6. 身体のコンドショニング(骨盤体操)
 7. 身体のコンドショニング(ピラティス)
 8. 身体のコンドショニング(体幹トレーニング)
 9. 身体のコンドショニング(自重を用いたエクササイズ①)
軽スポーツ(バスケットボール)
 10. 身体のコンドショニング(自重を用いたエクササイズ②)
軽スポーツ(グラウンドホッケー)
 11. 身体のコンドショニング(ヨガ①)
軽スポーツ(バドミントン①)
 12. 身体のコンドショニング(ヨガ②)
軽スポーツ(バドミントン②)
 13. 身体のコンドショニング(ヨガ③)
 14. 身体のコンドショニング(ヨガ④)
 15. 身体のコンドショニング(まとめ)
軽スポーツ(選択種目)

使用テキスト: 適宜資料を配布します

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 予習・復習のポイント(各回30分程度)

自分自身の健康状態に関心を持って、生活習慣を振り返る機会を持つ。
授業で学修したコンディショニング手法を復習し、自宅で行う。
自分でも、興味と関心のあるコンディショニング手法に関する情報を収集する。

授業で用いる資料等は配布します。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください

授業時間外の連絡手段: 学務部に連絡してください。

留意事項： 運動に適した服装・室内履きを着用して参加すること。
汗ふきタオル、水分を準備すること。
自分や他の人を傷付けないためにも、アクセサリー類ははずして参加すること。

科目コード：10160 科目ナンバリング： 主な使用言語：日本語

授業名(英文)：体育実技IIA ニュースポーツa(Physical Education II A New sports a)

担当者：佐久間 彩

基本情報

年次：1

単位数：1

授業形式：実技

曜時：火曜2限

履修可能学科・専攻：E Pe Pc C W F N M

関連資格：教職 保育

AL要素：03. 実験・実技・体験

授業の概要： 様々な運動・スポーツの継続的な実践を通して種目固有のスキルの習得や戦術の理解，体力の維持・増進，コミュニケーションスキルの向上を図り，生涯にわたって運動・スポーツに親しむことのできる人材の育成を目指す。

キーワード： ニュースポーツ フライングディスク インディアカ ソフトバレーボール

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 実技を行う上でのルールやスポーツマンシップの理解、それぞれの種目での道具の正しい扱い方の理解ができ、実践できる。

評価方法： 観察、毎授業後のコメントペーパー

評価割合： 40%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 「知識・技能」とあわせて評価する

評価方法： 「知識・技能」とあわせて評価する

評価割合： 「知識・技能」とあわせて評価する

▼学修に主体的に取り組む態度

実技であることを踏まえ、積極的な授業参加が認められない場合には減点の対象とする。

評価割合： 30%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象としない。ただしボランティア活動等の実践により深められた知見等がレポートの記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合： 0%

▼公正性

スポーツマンシップやフェアプレーの精神に反する行為があった場合は、減点の対象とする。

評価割合： 30%

▼その他

特になし

評価割合： 特になし

授業計画：

1. 授業概要の説明
2. コミュニケーションゲーム アイスブレイキングゲーム
3. フライングディスク(1)
4. フライングディスク(2)
5. フライングディスク(3)
6. フライングディスク(4)
7. インディアカ(1)

8. インディアカ(2)
9. インディアカ(3)
10. インディアカ(4)
11. ソフトバレーボール(1)
12. ソフトバレーボール(2)
13. ソフトバレーボール(3)
14. ソフトバレーボール(4)
15. 授業の振り返り

使用テキスト: 適宜資料を配布します

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: ・配布資料をもとに、授業で扱うスポーツのルールやエクササイズの方法について理解を深めてください。
・実技に積極的に参加できるように、日頃から体調を整えるようにしてください。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください

授業時間外の連絡手段: メールで連絡(sakuma_aya@icc.ac.jp; ○を@に変えて送信してください)をするか、学務部に連絡してください。

留意事項: 運動に適した服装を準備すること
水分・タオルを各自準備すること

科目コード: 10160 **科目ナンバリング:** **主な使用言語:** 日本語

授業名(英文): 体育実技IIA ニュースポーツb(Physical Education II A New sports b)

担当者: 向後 和典

基本情報

年次: 1

単位数: 1

授業形式: 実技

曜時: 金曜4限

履修可能学科・専攻: E Pe Pc C W F N M

関連資格: 教職 保育

AL要素: 03. 実験・実技・体験

授業の概要: 様々な運動・スポーツの継続的な実践を通して種目固有のスキルの習得や戦術の理解, 体力の維持・増進, コミュニケーションスキルの向上を図り, 生涯にわたって運動・スポーツに親しむことのできる人材の育成を目指します。

キーワード: スポーツ, ニュースポーツ, スポーツ技術・戦術, コミュニケーション, コミュニケーションスキル, 健康(主観的健康), Challenge by Choice, スポーツマンシップ・フェアプレイの精神

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標: スポーツ技術・戦術の上達過程を理解している。
ルールやマナーなどの知識を身につけている。
健康・体力づくりのための理論や手法について理解している。
他者とのコミュニケーションをとる方法を理解し、運動の中で実践できる。

評価方法: 授業レポート(学習シート)

評価割合: 40%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標: 「知識・技能」とあわせて評価する

評価方法: 「知識・技能」とあわせて評価する

評価割合: 「知識・技能」とあわせて評価する

▼ 学修に主体的に取り組む態度

実技であることを踏まえ、積極的な授業参加が認められない場合には減点の対象とする。

評価割合: 30%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象としない。ただしボランティア活動等の実践により深められた知見等がレポートの記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合：0%

▼公正性

スポーツマンシップやフェアプレーの精神に反する行為があった場合は、減点の対象とする。

評価割合：30%

▼その他

特になし

評価割合：特になし

- 授業計画：
1. 授業概要の説明
 2. インディアカ・ソフトバレーボール(1)
 3. インディアカ・ソフトバレーボール(2)
 4. インディアカ・ソフトバレーボール(3)
 5. インディアカ・ソフトバレーボール(4)
 6. インディアカ・ソフトバレーボール(5)
 7. インディアカ・ソフトバレーボール(6)
 8. アルティメット・フロアボール(1)
 9. アルティメット・フロアボール(2)
 10. アルティメット・フロアボール(3)
 11. アルティメット・フロアボール(4)
 12. アルティメット・フロアボール(5)
 13. アルティメット・フロアボール(6)
 14. 選択種目(1)
 15. 選択種目(2)

ニュースポーツを題材に、各種目の基礎的技能・戦術の理解を深めるとともに、より運動を楽しむためのルール変更、技能・戦術向上に向けての工夫を実践します。
また上記スポーツ種目の実践を通じ、自身の体力水準を把握し、生涯スポーツに向けて自身に適したスポーツ実践の在り方の工夫を実践します。

使用テキスト： 適宜資料を配布します

予習・復習のポイントと 予習・復習のポイント(各回30分程度)

参考文献・資料等： 授業前(予習)

配布資料を参考に、その回のテーマの分からない用語を調べておきましょう。

見たこと、実践したことのない(少ない)エクササイズ・スポーツ種目については事前に動画サイトなどを利用してプレー動画を視聴しておくことで種目のイメージが湧きやすくなるかと思えます。

授業後(復習)

学習シートに沿って授業のふりかえりを行ないましょう。さらに関連事項について自主学修を通じ知見を深めてください。

障がいのある 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください
履修者への対応：

授業時間外の連絡手段： 学務部に連絡してください。

留意事項： 実技授業のため体調を整えてきてください。

運動、スポーツを行うことのできる状態で授業に臨んでください。(体調、服装、体育館シューズ、爪、装飾品など)

科目コード：10160

科目ナンバリング：

主な使用言語：日本語

授業名(英文)：体育実技IIA ネット型チームスポーツa(Physical Education II A Net type team sports)

担当者：佐久間 彩

基本情報

年次：1

単位数：1

授業形式：実技

曜時：火曜3限

履修可能学科・専攻：E Pe Pc C W F N M

関連資格：教職 保育

AL要素：03. 実験・実技・体験

授業の概要： 様々な運動・スポーツの継続的な実践を通して種目固有のスキルの習得や戦術の理解、体力の維持・増進、コミュニケーションスキルの向上を図り、生涯にわたって運動・スポーツに親しむことのできる人材の育成を目指す。

キーワード： ネット型チームスポーツ インディアカ ソフトバレーボール バレーボール

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 1. 各種目のルールや戦術を理解し、技術を向上させることができる。
2. 様々な運動・スポーツに積極的に取り組み、それらの持つ価値を理解できる。
3. チームの仲間と積極的にコミュニケーションを取ることができる。

評価方法： コメントペーパー、実技テスト、期末レポート **評価割合：40%**

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 「知識・技能」とあわせて評価する

評価方法： 「知識・技能」とあわせて評価する

評価割合： 「知識・技能」とあわせて評価する

▼学修に主体的に取り組む態度

実技であることを踏まえ、積極的な授業参加が認められない場合には減点の対象とする。

評価割合：30%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象としない。ただしボランティア活動等の実践により深められた知見等がレポートの記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合：0%

▼公正性

スポーツマンシップやフェアプレーの精神に反する行為があった場合は、減点の対象とする。

評価割合：30%

▼その他

特になし

評価割合：特になし

授業計画：

1. 授業概要の説明
2. コミュニケーションゲーム アイスプレーキングゲーム
3. インディアカ(1)
4. インディアカ(2)
5. インディアカ(3)
6. インディアカ(4)
7. ソフトバレーボール(1)
8. ソフトバレーボール(2)
9. ソフトバレーボール(3)
10. ソフトバレーボール(4)
11. バレーボール(1)
12. バレーボール(2)
13. バレーボール(3)
14. バレーボール(4)
15. 授業の振り返り

使用テキスト： 適宜資料を配布します

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： ・配布資料をもとに、授業で扱うスポーツのルールやエクササイズの方法について理解を深めてください。
・実技に積極的に参加できるように、日頃から体調を整えるようにしてください。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください

授業時間外の連絡手段： 学務部に連絡してください

留意事項： 運動に適した服装を準備すること

科目コード：10160 科目ナンバリング： 主な使用言語：日本語
授業名(英文)： 体育実技IIA ネット型チームスポーツb (Physical Education II A Net type team sports)
担当者： 佐久間 彩

基本情報

年次：1 単位数：1 授業形式：実技
曜時：火曜4限 履修可能学科・専攻： E Pe Pc C W F N M
関連資格：教職 保育 AL要素：03. 実験・実技・体験

授業の概要： 様々な運動・スポーツの継続的な実践を通して種目固有のスキルの習得や戦術の理解，体力の維持・増進，コミュニケーションスキルの向上を図り，生涯にわたって運動・スポーツに親しむことのできる人材の育成を目指す。

キーワード： ネット型チームスポーツ インディアカ ソフトバレーボール バレーボール

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 1. 各種目のルールや戦術を理解し，技術を向上させることができる。
2. 様々な運動・スポーツに積極的に取り組み，それらの持つ価値を理解できる。
3. チームの仲間と積極的にコミュニケーションを取ることができる。

評価方法： コメントペーパー，実技テスト，期末レポート 評価割合：40%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 「知識・技能」とあわせて評価する

評価方法： 「知識・技能」とあわせて評価する 評価割合：「知識・技能」とあわせて評価する

▼学修に主体的に取り組む態度

実技であることを踏まえ、積極的な授業参加が認められない場合には減点の対象とする。

評価割合：30%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象としない。ただしボランティア活動等の実践により深められた知見等がレポートの記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合：0%

▼公正性

スポーツマンシップやフェアプレーの精神に反する行為があった場合は、減点の対象とする。

評価割合：30%

▼その他

特になし

評価割合：特になし

- 授業計画：**
1. 授業概要の説明
 2. コミュニケーションゲーム アイスブレーキングゲーム
 3. インディアカ(1)
 4. インディアカ(2)
 5. インディアカ(3)
 6. インディアカ(4)
 7. ソフトバレーボール(1)
 8. ソフトバレーボール(2)
 9. ソフトバレーボール(3)
 10. ソフトバレーボール(4)
 11. バレーボール(1)
 12. バレーボール(2)
 13. バレーボール(3)
 14. バレーボール(4)
 15. 授業の振り返り

使用テキスト： 適宜資料を配布します

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： ・配布資料をもとに、授業で扱うスポーツのルールやエクササイズの方法について理解を深めてください。
・実技に積極的に参加できるように、日頃から体調を整えるようにしてください。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください

授業時間外の連絡手段： 学務部に連絡してください

留意事項： 運動に適した服装を準備すること

科目コード：10160 **科目ナンバリング：** **主な使用言語：**日本語

授業名(英文)：体育実技IIA テニスa(Physical Education II A Tennis a)

担当者：高橋 遼

基本情報

年次：1

単位数：1

授業形式：実技

曜時：水曜2限

履修可能学科・専攻：E Pe Pc C W F N M

関連資格：教職 保育

AL要素：03.実験・実技・体験

授業の概要： 様々な運動・スポーツの継続的な実践を通して種目固有のスキルの習得や戦術の理解,体力の維持・増進,コミュニケーションスキルの向上を図り,生涯にわたって運動・スポーツに親しむことのできる人材の育成を目指す。

テニスの基礎技術を習得し, 基本的な知識・戦術を理解することを目指します。また, 生涯スポーツとして楽しんでプレーできるよう, ルールの理解やマナー等を身につけていきます。

キーワード： テニス、スポーツ、生涯スポーツ、ルール、マナー

学位授与方針との関係

▼知識・技能

- 到達目標：**
- ・テニスの用語の理解
 - ・テニスに必要とされる基本技術・動作を身につけることができる。
 - ・ゲームの進め方、テニス上のマナーを身につけることができる。

評価方法： ・技能確認テスト
・期末レポート

評価割合：40%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標：「知識・技能」とあわせて評価する。

評価方法:「知識・技能」とあわせて評価する

評価割合:「知識・技能」とあわせて評価する

▼学修に主体的に取り組む態度

実技であることを踏まえ、積極的な授業参加が認められない場合には減点の対象とする。

評価割合:30%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象としない。ただしボランティア活動等の実践により深められた知見等がレポートの記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合:0%

▼公正性

スポーツマンシップやフェアプレーの精神に反する行為があった場合は、減点の対象とする。

評価割合:30%

▼その他

特になし

評価割合:特になし

- 授業計画: 【第1回】オリエンテーション
【第2回】準備運動, 整理運動の方法, グラウンドストローク, サービス
【第3回】ボレー
【第4回】ボレー&ボレー, ボレー対ストローク
【第5回】スマッシュ, ロビング
【第6回】試合の進め方1(シングルス)
【第7回】試合の進め方2(ダブルス)
【第8回】試合の進め方3(ダブルス・タイブレーク)
【第9回】ダブルスのフォーメーション(雁行陣・平行陣)
【第10回】ダブルス練習1
【第11回】ダブルス練習2
【第12回】技能確認テスト1(サービス), ゲーム
【第13回】技能確認テスト2(ストローク), ゲーム
【第14回】技能確認テスト3(ネットプレー), ゲーム
【第15回】チャンピオンゲーム

使用テキスト: なし

予習・復習のポイントと なし

参考文献・資料等:

障がいのある 履修者への対応: 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください。

授業時間外の連絡手段: 「学務部に連絡してください」

- 留意事項: 1. スポーツ用シューズ(テニス用シューズが望ましい)およびジャージ(ポケットがあるもの)を準備すること
2. 雨天時は屋内で活動するため、屋内用シューズも準備すること
3. 運動着以外の服装, カジュアルシューズ, スニーカーでの受講は認めない

科目コード:10160

科目ナンバリング:

主な使用言語:日本語

授業名(英文): 体育実技IIA テニスb(Physical Education II A Tennis b)

担当者: 高橋 遼

基本情報

年次:1

単位数:1

授業形式:実技

曜時:水曜3限

履修可能学科・専攻: E Pe Pc C W F N M

関連資格:教職 保育

AL要素: 03.実験・実技・体験

授業の概要: 様々な運動・スポーツの継続的な実践を通して種目固有のスキルの習得や戦術の理解, 体力の維持・増進, コミュニケーションスキルの向上を図り, 生涯にわたって運動・スポーツに親しむことのできる人材の育成を目指す。
テニスの基礎技術を習得し, 基本的な知識・戦術を理解することを目指します。また, 生涯スポーツとして楽しんでプレーできるよう, ルールの理解やマナー等を身につけていきます。

キーワード: テニス、スポーツ、生涯スポーツ、ルール、マナー

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標: ・テニスの用語の理解
・テニスに必要とされる基本技術・動作を身につけることができる。
・ゲームの進め方、テニス上のマナーを身につけることができる。

評価方法: ・技能確認テスト **評価割合: 40%**
・期末レポート

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標: 「知識・技能」とあわせて評価する。

評価方法: 「知識・技能」とあわせて評価する **評価割合: 「知識・技能」とあわせて評価する**

▼ 学修に主体的に取り組む態度

実技であることを踏まえ、積極的な授業参加が認められない場合には減点の対象とする。

評価割合: 30%

▼ 実践的ボランティア

直接的な評価対象としない。ただしボランティア活動等の実践により深められた知見等がレポートの記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合: 0%

▼ 公正性

スポーツマンシップやフェアプレーの精神に反する行為があった場合は、減点の対象とする。

評価割合: 30%

▼ その他

特になし

評価割合: 特になし

授業計画: 【第1回】オリエンテーション
【第2回】準備運動, 整理運動の方法, グラウンドストローク, サービス
【第3回】ボレー
【第4回】ボレー&ボレー, ボレー対ストローク
【第5回】スマッシュ, ロビング
【第6回】試合の進め方1(シングルス)
【第7回】試合の進め方2(ダブルス)
【第8回】試合の進め方3(ダブルス・タイブレーク)
【第9回】ダブルスのフォーメーション(雁行陣・平行陣)
【第10回】ダブルス練習1
【第11回】ダブルス練習2
【第12回】技能確認テスト1(サービス), ゲーム
【第13回】技能確認テスト2(ストローク), ゲーム
【第14回】技能確認テスト3(ネットプレー), ゲーム
【第15回】チャンピオンゲーム

使用テキスト: なし

**予習・復習のポイントと
参考文献・資料等:** なし

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください。

授業時間外の連絡手段: 「学務部に連絡してください」

留意事項: 1. スポーツ用シューズ(テニス用シューズが望ましい)およびジャージ(ポケットがあるもの)を準備すること
2. 雨天時は屋内で活動するため、屋内用シューズも準備すること
3. 運動着以外の服装、カジュアルシューズ、スニーカーでの受講は認めない

科目コード: 10160 **科目ナンバリング:** **主な使用言語:** 日本語

授業名(英文): 体育実技IIA ボールゲームa(Physical Education II A ball game a)

担当者: 福地 修也

基本情報

年次: 1 **単位数:** 1 **授業形式:** 実技
曜時: 月曜4限 **履修可能学科・専攻:** E Pe Pc C W F N M
関連資格: 教職 保育 **AL要素:** 03. 実験・実技・体験

授業の概要: さまざまな運動・スポーツの継続的な実践を通して種目固有のスキルの習得や戦術の理解、体力の維持・増進、コミュニケーションスキルの向上を図り、生涯にわたって運動・スポーツに親しむことのできる人材の育成を目指す。

キーワード: スポーツルール、スポーツマンシップ、ボールスポーツ、コミュニケーション

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標: スポーツ技術・戦術の上達過程を理解している。
ルールやマナーなどの知識を身につけている。
健康・体力づくりのための理論や手法について理解している。
他者とのコミュニケーションをとる方法を理解し、運動の中で実践できる。

評価方法: 授業レポートおよび期末レポート **評価割合:** 40%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標: 「知識・技能」とあわせて評価する。

評価方法: 「知識・技能」とあわせて評価する **評価割合:** 「知識・技能」とあわせて評価する

▼ 学修に主体的に取り組む態度

実技であることを踏まえ、積極的な授業参加が認められない場合には減点の対象とする。

評価割合: 30%

▼ 実践的ボランティア

直接的な評価対象としない。ただしボランティア活動等の実践により深められた知見等がレポートの記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合: 0%

▼ 公正性

スポーツマンシップやフェアプレーの精神に反する行為があった場合は、減点の対象とする。

評価割合: 30%

▼ その他

特になし。

評価割合: 特になし。

授業計画: 1. 授業概要の説明
2. アイスブレイク

3. バドミントン(ネット型①)
4. バドミントン(ネット型②)
5. バレーボール(ネット型③)
6. バレーボール(ネット型④)
7. キックベース(ベースボール型①)
8. キックベース(ベースボール型②)
9. ベースボール5(ベースボール型③)
10. ベースボール5(ベースボール型④)
11. バスケットボール(ゴール型①)
12. バスケットボール(ゴール型②)
13. ユニバーサルホッケー(ゴール型③)
14. ユニバーサルホッケー(ゴール型④)
15. まとめ

- ・ネット型・ベースボール型・ゴール型のさまざまなボールスポーツを取り扱う。
- ・自身の体力水準を把握し、改善できるように努力する。
- ・授業だけでなく生涯スポーツとして楽しめるように、各スポーツの基礎的スキルや戦術を身につける。
- ・ルールを工夫することで、基礎的スキルや戦術を段階的に身につける。

使用テキスト： 適宜資料を配布します。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 各授業内で予習・復習のポイントを伝える。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください。

授業時間外の連絡手段： 学務部に連絡してください。

留意事項： 運動に適した服装および屋内用の運動靴を準備すること。安全面に配慮すること。

科目コード：10160 **科目ナンバリング：** **主な使用言語：**日本語

授業名(英文)： 体育実技IIA ボールゲームb(Physical Education II A ball game b)

担当者： 福地 修也

基本情報

年次：1

単位数：1

授業形式：実技

曜時：月曜5限

履修可能学科・専攻： E Pe Pc C W F N M

関連資格：教職 保育

AL要素：03. 実験・実技・体験

授業の概要： さまざまな運動・スポーツの継続的な実践を通して種目固有のスキルの習得や戦術の理解、体力の維持・増進、コミュニケーションスキルの向上を図り、生涯にわたって運動・スポーツに親しむことのできる人材の育成を目指す。

キーワード： スポーツルール、スポーツマンシップ、ボールスポーツ、コミュニケーション

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標： スポーツ技術・戦術の上達過程を理解している。
 ルールやマナーなどの知識を身につけている。
 健康・体力づくりのための理論や手法について理解している。
 他者とのコミュニケーションをとる方法を理解し、運動の中で実践できる。

評価方法： 授業レポートおよび期末レポート

評価割合：40%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標： 「知識・技能」とあわせて評価する。

評価方法:「知識・技能」とあわせて評価する

評価割合:「知識・技能」とあわせて評価する

▼学修に主体的に取り組む態度

実技であることを踏まえ、積極的な授業参加が認められない場合には減点の対象とする。

評価割合:30%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象としない。ただしボランティア活動等の実践により深められた知見等がレポートの記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合:0%

▼公正性

スポーツマンシップやフェアプレーの精神に反する行為があった場合は、減点の対象とする。

評価割合:30%

▼その他

特になし。

評価割合:特になし。

- 授業計画:
1. 授業概要の説明
 2. アイスブレイク
 3. バドミントン(ネット型①)
 4. バドミントン(ネット型②)
 5. バレーボール(ネット型③)
 6. バレーボール(ネット型④)
 7. キックベース(ベースボール型①)
 8. キックベース(ベースボール型②)
 9. ベースボール5(ベースボール型③)
 10. ベースボール5(ベースボール型④)
 11. バasketボール(ゴール型①)
 12. バasketボール(ゴール型②)
 13. ユニバーサルホッケー(ゴール型③)
 14. ユニバーサルホッケー(ゴール型④)
 15. まとめ

- ・ネット型・ベースボール型・ゴール型のさまざまなボールスポーツを取り扱う。
- ・自身の体力水準を把握し、改善できるように努力する。
- ・授業だけでなく生涯スポーツとして楽しめるように、各スポーツの基礎的技能や戦術を身につける。
- ・ルールを工夫することで、基礎的技能や戦術を段階的に身につける。

使用テキスト: 適宜資料を配布します。

予習・復習のポイントと 各授業内で予習・復習のポイントを伝える。

参考文献・資料等:

障がいのある 履修者への対応: 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください。

授業時間外の連絡手段: 学務部に連絡してください。

留意事項: 運動に適した服装および屋内用の運動靴を準備すること。安全面に配慮すること。

科目コード:10160

科目ナンバリング:

主な使用言語:日本語

授業名(英文): 体育実技IIA ボールゲームc(Physical Education II A ball game c)

担当者: 北條 幸

基本情報

年次:1

単位数:1

授業形式:実技

曜時：金曜3限

履修可能学科・専攻： E Pe Pc C W F N M

関連資格：教職 保育

AL要素：03. 実験・実技・体験

授業の概要： 様々な運動・スポーツの継続的な実践を通して種目固有のスキルの習得や戦術の理解，体力の維持・増進，コミュニケーションスキルの向上を図り，生涯にわたって運動・スポーツに親しむことのできる人材の育成を目指す。また，班内での役割分担や情報共有のしかたなど，自分で考えて行動するための実践活動を行う。

キーワード： バasketボール,バレーボール,フライングディスク

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 各スポーツ種目の基本的なルールと試合のやり方について学び、班としての技術の向上のために各自の役割に責任を持った活動を行う

評価方法： 授業毎の振り返りシート

評価割合： 40%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 「知識・技能」とあわせて評価する

評価方法： 「知識・技能」とあわせて評価する

評価割合： 「知識・技能」とあわせて評価する

▼学修に主体的に取り組む態度

実技であることを踏まえ、積極的な授業参加が認められない場合には減点の対象とする。

評価割合： 30%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象としない。ただしボランティア活動等の実践により深められた知見等がレポートの記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合： 0%

▼公正性

スポーツマンシップやフェアプレーの精神に反する行為があった場合は、減点の対象とする。

評価割合： 30%

▼その他

特になし

評価割合： 特になし

授業計画：

1. 授業概要の説明
2. 体力測定,班分け
3. バasketボール①
4. バasketボール②
5. バasketボール③
6. レクリエーションスポーツ
7. バレーボール①
8. バレーボール②
9. バレーボール③
10. レクリエーションスポーツ
11. フライングディスク①
12. フライングディスク②
13. フライングディスク③
14. レクリエーションスポーツ
15. 体力測定,まとめ

使用テキスト： 適宜資料を配布します

予習・復習のポイントと「早寝早起き朝ごはん」
参考文献・資料等：各スポーツ種目の基本的なルールを班内で共通認識できるように準備してください。

障がいのある履修者への対応：可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください

授業時間外の連絡手段：学務部に連絡してください。

留意事項：運動に適した服装を準備すること

科目コード：10160 科目ナンバリング： 主な使用言語：日本語

授業名(英文)：体育実技IIA ボールゲームd(Physical Education II A ball game d)

担当者：北條 幸

基本情報

年次：1

単位数：1

授業形式：実技

曜時：金曜4限

履修可能学科・専攻：E Pe Pc C W F N M

関連資格：教職 保育

AL要素：03. 実験・実技・体験

授業の概要：様々な運動・スポーツの継続的な実践を通して種目固有のスキルの習得や戦術の理解、体力の維持・増進、コミュニケーションスキルの向上を図り、生涯にわたって運動・スポーツに親しむことのできる人材の育成を目指す。また、班内での役割分担や情報共有のしかたなど、自分で考えて行動するための実践活動を行う。

キーワード：バスケットボール,バレーボール,フライングディスク

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標：各スポーツ種目の基本的なルールと試合のやり方について学び、班としての技術の向上のために各自の役割に責任を持った活動を行う

評価方法：授業毎の振り返りシート

評価割合：40%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標：「知識・技能」とあわせて評価する

評価方法：「知識・技能」とあわせて評価する

評価割合：「知識・技能」とあわせて評価する

▼学修に主体的に取り組む態度

実技であることを踏まえ、積極的な授業参加が認められない場合には減点の対象とする。

評価割合：30%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象としない。ただしボランティア活動等の実践により深められた知見等がレポートの記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合：0%

▼公正性

スポーツマンシップやフェアプレーの精神に反する行為があった場合は、減点の対象とする。

評価割合：30%

▼その他

特になし

評価割合：特になし

授業計画：1. 授業概要の説明

2. 体力測定,班分け
3. バスケットボール①
4. バスケットボール②
5. バスケットボール③
6. レクリエーションスポーツ
7. バレーボール①
8. バレーボール②
9. バレーボール③
10. レクリエーションスポーツ
11. フライングディスク①
12. フライングディスク②
13. フライングディスク③
14. レクリエーションスポーツ
15. 体力測定,まとめ

使用テキスト: 適宜資料を配布します

予習・復習のポイントと 「早寝早起き朝ごはん」

参考文献・資料等: 各スポーツ種目の基本的なルールを班内で共通認識できるように準備してください。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください

授業時間外の連絡手段: 学務部に連絡してください。

留意事項: 運動に適した服装を準備すること

科目コード: 10160

科目ナンバリング:

主な使用言語: 日本語

授業名(英文): 体育実技IIA ネット型個人スポーツb(Physical Education II A individual sports b)

担当者: 向後 和典

基本情報

年次: 1

単位数: 1

授業形式: 実技

曜時: 金曜2限

履修可能学科・専攻: E Pe Pc C W F N M

関連資格: 教職 保育

AL要素: 03. 実験・実技・体験

授業の概要: 様々な運動・スポーツの継続的な実践を通して種目固有のスキルの習得や戦術の理解、体力の維持・増進、コミュニケーションスキルの向上を図り、生涯にわたって運動・スポーツに親しむことのできる人材の育成を目指します。

キーワード: スポーツ, ネット型スポーツ, スポーツ技術・戦術, コミュニケーション, コミュニケーションスキル, 健康(主観的健康), Challenge by Choice, スポーツマンシップ・フェアプレイの精神

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標: スポーツ技術・戦術の上達過程を理解している。
 ルールやマナーなどの知識を身につけている。
 健康・体力づくりのための理論や手法について理解している。
 他者とのコミュニケーションをとる方法を理解し、運動の中で実践できる。

評価方法: 授業レポート(学習シート)

評価割合: 40%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標: 「知識・技能」とあわせて評価する

評価方法: 「知識・技能」とあわせて評価する

評価割合: 「知識・技能」とあわせて評価する

▼学修に主体的に取り組む態度

実技であることを踏まえ、積極的な授業参加が認められない場合には減点の対象とする。

評価割合：30%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象としない。ただしボランティア活動等の実践により深められた知見等がレポートの記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合：0%

▼公正性

スポーツマンシップやフェアプレーの精神に反する行為があった場合は、減点の対象とする。

評価割合：30%

▼その他

特になし

評価割合：特になし

- 授業計画：
1. 授業概要の説明
 2. バドミントン(1)
 3. バドミントン(2)
 4. バドミントン(3)
 5. バドミントン(4)
 6. バドミントン(5)
 7. バドミントン(6)
 8. テニス・パンポン(1)
 9. テニス・パンポン(2)
 10. テニス・パンポン(3)
 11. テニス・パンポン(4)
 12. テニス・パンポン(5)
 13. テニス・パンポン(6)
 14. 選択種目(1)
 15. 選択種目(2)

ネット型個人スポーツを題材に、各種目の基礎的スキル・戦術の理解を深めるとともに、より運動を楽しむためのルール変更、スキル・戦術向上に向けての工夫を実践します。

また上記スポーツ種目の実践を通じ、自身の体力水準を把握し、生涯スポーツに向けて自身に適したスポーツ実践の在り方の工夫を実践します。

使用テキスト： 適宜資料を配布します

予習・復習のポイントと 予習・復習のポイント(各回30分程度)

参考文献・資料等： 授業前(予習)

配布資料を参考に、その回のテーマの分からない用語を調べておきましょう。

見たこと、実践したことのない(少ない)エクササイズ・スポーツ種目については事前に動画サイトなどを利用してプレー動画を視聴しておくことで種目のイメージが湧きやすくなるかと思えます。

授業後(復習)

学習シートに沿って授業のふりかえりを行ないましょう。さらに関連事項について自主学修を通じ知見を深めてください。

障がいのある 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください
履修者への対応：

授業時間外の連絡手段： 学務部に連絡してください。

留意事項： 実技授業のため体調を整えてきてください。

運動、スポーツを行うことのできる状態で授業に臨んでください。(体調、服装、体育館シューズ、爪、装飾品など)

科目コード:10160

科目ナンバリング:

主な使用言語:日本語

授業名(英文): 体育実技IIA ネット型個人スポーツc(Physical Education II A individual sports c)

担当者: 向後 和典

基本情報

年次:1

単位数:1

授業形式:実技

曜時:金曜3限

履修可能学科・専攻: E Pe Pc C W F N M

関連資格:教職 保育

AL要素: 03. 実験・実技・体験

授業の概要: 様々な運動・スポーツの継続的な実践を通して種目固有のスキルの習得や戦術の理解, 体力の維持・増進, コミュニケーションスキルの向上を図り, 生涯にわたって運動・スポーツに親しむことのできる人材の育成を目指します。

キーワード: スポーツ, ネット型スポーツ, スポーツ技術・戦術, コミュニケーション, コミュニケーションスキル, 健康(主観的健康), Challenge by Choice, スポーツマンシップ・フェアプレイの精神

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標: スポーツ技術・戦術の上達過程を理解している。
ルールやマナーなどの知識を身につけている。
健康・体力づくりのための理論や手法について理解している。
他者とのコミュニケーションをとる方法を理解し、運動の中で実践できる。

評価方法: 授業レポート(学習シート)

評価割合: 40%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 「知識・技能」とあわせて評価する

評価方法: 「知識・技能」とあわせて評価する

評価割合: 「知識・技能」とあわせて評価する

▼学修に主体的に取り組む態度

実技であることを踏まえ、積極的な授業参加が認められない場合には減点の対象とする。

評価割合: 30%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象としない。ただしボランティア活動等の実践により深められた知見等がレポートの記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合: 0%

▼公正性

スポーツマンシップやフェアプレーの精神に反する行為があった場合は、減点の対象とする。

評価割合: 30%

▼その他

特になし

評価割合: 特になし

授業計画:

1. 授業概要の説明
2. バドミントン(1)
3. バドミントン(2)
4. バドミントン(3)
5. バドミントン(4)
6. バドミントン(5)
7. バドミントン(6)
8. テニス・パンポン(1)
9. テニス・パンポン(2)
10. テニス・パンポン(3)

11. テニス・パンポン(4)
12. テニス・パンポン(5)
13. テニス・パンポン(6)
14. 選択種目(1)
15. 選択種目(2)

ネット型個人スポーツを題材に、各種目の基礎的技術・戦術の理解を深めるとともに、より運動を楽しむためのルール変更、技術・戦術向上に向けての工夫を実践します。
また上記スポーツ種目の実践を通じ、自身の体力水準を把握し、生涯スポーツに向けて自身に適したスポーツ実践の在り方の工夫を実践します。

使用テキスト： 適宜資料を配布します

予習・復習のポイントと 予習・復習のポイント(各回30分程度)

参考文献・資料等： 授業前(予習)

配布資料を参考に、その回のテーマの分からない用語を調べておきましょう。

見たこと、実践したことのない(少ない)エクササイズ・スポーツ種目については事前に動画サイトなどを利用してプレー動画を視聴しておくことで種目のイメージが湧きやすくなるかと思えます。

授業後(復習)

学習シートに沿って授業のふりかえりを行ないましょう。さらに関連事項について自主学修を通じ知見を深めてください。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください

授業時間外の連絡手段： 学務部に連絡してください。

留意事項： 実技授業のため体調を整えてきてください。

運動、スポーツを行うことのできる状態で授業に臨んでください。(体調、服装、体育館シューズ、爪、装飾品など)

科目コード：10161

科目ナンバリング：

主な使用言語：日本語

授業名(英文)：体育実技IIB スノースポーツ(Physical Education II B Snow sports)

担当者：高橋 和将、向後 和典、田井 健太郎

基本情報

年次：1

単位数：1

授業形式：実技

曜時：集中講義

履修可能学科・専攻：E Pe Pc C W F N M

関連資格：教職 保育

AL要素：03 実験・実技・体験

16 振り返り用紙と応答

授業の概要：(体育実技IIBの概要)

運動・スポーツの集中的な実践を通して、種目固有のスキルの習得や戦術の理解、体力の維持・増進、コミュニケーションスキルの向上を図り、生涯にわたって運動・スポーツに親しむことのできる人材の育成を目指す。

(この授業の概要)

スノースポーツを楽しみ、かつ技能の向上を目的とした、集中授業です。

冬の自然の美しさ・厳しさを感じることも重要視しています。

また、宿泊を伴うので、集団生活を通して社会的規範を身に付けることも重要です。

この授業を通して、生涯にわたってスポーツに取り組む素地が作られることを期待しています。

キーワード： スノースポーツ, 生涯スポーツ, 自然環境

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

- 到達目標:** 1. 基本的な技術の習得過程を理解している
2. スノースポーツの特徴を理解し、楽しむことができる
3. スノースポーツを行う上でのルール・マナーを理解している

評価方法: 講習記録
レポート **評価割合:** 40%

▼ 思考力・判断力・表現力

- 到達目標:** 「知識・技能」とあわせて評価する
- 評価方法:** 「知識・技能」とあわせて評価する **評価割合:** 「知識・技能」とあわせて評価する

▼ 学修に主体的に取り組む態度

実技であることを踏まえ、積極的な授業参加が認められない場合には減点の対象とする。

評価割合: 30%

▼ 実践的ボランティア

直接的な評価対象としない。ただしボランティア活動等の実践により深められた知見等がレポートの記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合: 0%

▼ 公正性

授業中の発言やレポートの記述等において、著しく公平性を欠く言動や不正行為があった場合、また、スキー場における行動規則や実習におけるルールやマナーを逸脱する行為があった場合は、減点や厳重注意の対象とする。

評価割合: 30%

▼ その他

特になし

評価割合: 特になし

授業計画: 実習ガイダンス(12月中旬予定)
実習参加にあたっての心構え, 用具の点検・準備

- 実習(2月中旬～下旬;3泊4日)
1. 1日目(1) 技能レベル別班編成
 2. 1日目(2) 基本姿勢・滑走原理の確認
 3. 1日目(3) 1日目の振り返りと今後の目標設定
 4. 2日目(1) 滑走技術の確認
 5. 2日目(2) スキップディングとカービング
 6. 2日目(3) ロングターン
 7. 2日目(4) ショートターン
 8. 2日目(5) 2日目の振り返りと今後の目標設定
 9. 3日目(1) 選択プログラム(1) スキー・斜面に応じた滑り
 10. 3日目(2) 選択プログラム(2) スノーボード
 11. 3日目(3) 選択プログラム(3) スノーシューハイク
 12. 3日目(4) 選択プログラムのまとめ
 13. 3日目(5) 3日目の振り返りと今後の目標設定
 14. 4日目(1) 総合滑走
 15. 4日目(2) 実習のまとめ

使用テキスト: 「実習のしおり」を配布します

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 実習までの健康管理に十分留意し, 万全の体調で実習に参加してください。

事前に用具を点検し、必要に応じてメンテナンスをしておいてください。
冬山の自然環境について、インターネットなどで情報を入手し、快適な実習とするために服装などの準備をしてください。

【参考資料】

SIAスキー&スノーボード公式メソッド, 日本職業スキー教師協会
日本スキー教程, 公益財団法人全日本スキー連盟
日本スキー教程 安全編, 公益財団法人全日本スキー連盟

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください

授業時間外の連絡手段: 対面: オフィスアワーに対応します(高橋). 時間・場所はガイダンス時に連絡します.
オンライン: Teams上, またはメールにてお問い合わせに応じます.

留意事項: 実習費用として、宿泊費・交通費・リフト代・レンタル代(希望者のみ)が別途必要です.
集金方法については、ガイダンス時に連絡します.
